



高崎健康福祉大学

Takasaki University of Health and Welfare

2024

令和 6 年度

シラバス

保健医療学部 看護学科



本学の授業とSDGsとの関連

シラバス内で授業内容と「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」との関連を示しています。関連する目標は番号で示されておりますので、履修の参考にしてください。



17の持続可能な開発目標

目標 1.	あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる
目標 2.	飢餓を終わらせ、食糧安全保障および栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する
目標 3.	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する
目標 4.	すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し生涯学習の機会を促進する
目標 5.	ジェンダー平等を達成し、すべての女性および女児の能力強化を行う
目標 6.	すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する
目標 7.	すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する
目標 8.	包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する
目標 9.	強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る
目標 10.	各国内および各国間の不平等を是正する
目標 11.	包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市および人間居住を実現する
目標 12.	持続可能な生産消費形態を確保する
目標 13.	気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる
目標 14.	持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する
目標 15.	陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、並びに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する
目標 16.	持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する
目標 17.	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

～シラバス内の表記について～

例として、授業内容が「目標 1」、「目標 3」、「目標 10」、「目標 16」と関連がある場合は下記のように表記します。特に関連のある目標を示しています。空欄であるからといって、いずれの目標にも全く関連しない、ということではありません。

SDGsとの関連	1	3	10	16

目次

健大で学ぶ Well-being(教養基礎)	1
基礎教養ゼミ(教養基礎)	4
日本語表現法(教養基礎)	6
日本国憲法(教養基礎)	8
法学(教養基礎)	10
経済学(教養基礎)	12
社会学(教養基礎)	15
生涯健康論(教養基礎)	17
生涯学習概論(教養基礎)	20
生命と環境の科学(教養基礎)	22
国際関係論(教養基礎)	25
体育理論(基礎教養)	28
体育実技(教養基礎)	30
キャリア形成論(教養基礎)	33
哲学(人間理解)	36
倫理学(人間理解科目)	38
心理学(人間理解)	40
文学と人間(人間理解)	42
芸術論(人間理解)	44
ボランティア・市民活動論(人間理解)	46
人権論(人間理解)	48
人間関係論(人間理解)	50
ジェンダー論(人間理解)	52
共生の倫理(人間理解)	54
チーム医療アプローチ論(人間理解)	56
国際保健医療論(共通教養科目)	58
Introduction to Healthcare Sciences(人間理解)	61
囲碁の世界(人間理解)	64
英語 IA(リテラシー)	66
英語 IB(リテラシー)	68
英語 IC(リテラシー)	70
英語 IIA(リテラシー)	72
英語 IIB(リテラシー)	74
英語 IIC(リテラシー)	76
英語 IIIB(リテラシー)	78
英語 IIIA(リテラシー)	80
英語 IIIC(リテラシー)	82
英語 IVA(リテラシー)	84
英語 IVB(リテラシー)	86
英語 IVC(リテラシー)	88
Integrated English I(リテラシー)	90
Integrated English II(リテラシー)	92
ドイツ語(リテラシー)	94
フランス語(リテラシー)	96
ポルトガル語(リテラシー)	98
中国語(リテラシー)	101
ハンガール語(リテラシー)	103
情報リテラシー I(基礎教養科目)	105
情報リテラシー II(リテラシー)	107
情報リテラシー III(リテラシー)	108
情報リテラシー IV(リテラシー)	111
情報リテラシー V(リテラシー)	113
情報リテラシー VI(リテラシー)	115
論理学(専門教養)	117
人間発達論(専門教養科目)	119
人間行動学(専門教養科目)	121
化学(専門教養科目)	123
統計学(専門教養科目)	126
生物学(専門教養)	128
生活科学概論(専門教養科目)	130
看護における ICT 活用(専門教養科目)	132
生化学(看護基盤科目群・人間)	134
解剖生理学 I(看護基盤科目群・人間)	136
解剖生理学 II(看護基盤科目群・人間)	140
栄養学 I(看護基盤科目群・人間)	143
栄養学 II(看護基盤科目群・人間)	145
臨床心理学(看護基盤科目群・人間)	147
看護人間発達学(看護基盤科目群・人間)	149
医療安全論(看護基盤科目群・環境)	151
疫学(看護基盤科目群・環境)	153
社会調査特論(看護基盤科目群・環境)	155
公衆衛生学(看護基盤科目群・環境)	157
医療情報システム論(看護基盤科目群・環境)	163
薬理学(看護基盤科目群・健康)	165
微生物学(看護基盤科目群・健康)	167
病理学(看護基盤科目群・健康)	170
リハビリテーション概論(看護基盤科目群・健康)	172
臨床医学 I(内科学・外科学)(専門基礎科目・健康)	174
臨床医学 II(内科学・外科学)(専門基礎科目・健康)	178
臨床医学 III(老年医学)(専門基礎科目・健康)	181
臨床医学 IV(小児医学)(看護基盤科目群・健康)	184
臨床医学 V(女性医学)(看護基盤科目群・健康)	186
臨床医学 VI(精神医学)(看護基盤科目群・健康)	188
心の健康(看護基盤科目群・健康)	190
リラクセーション概論(看護基盤科目群・健康)	192

看護学概論（看護専門科目群・専門分野Ⅰ・基礎看護学）	247
.....	194
コミュニケーション演習（看護専門科目群・専門分野Ⅰ・基礎看護学）	197
フィジカルアセスメント（看護専門科目群・専門分野Ⅰ・基礎看護学）	199
看護技術論（看護専門科目群・専門分野Ⅰ・基礎看護学）	201
.....	203
日常生活援助技術（看護専門科目群・専門分野Ⅰ・基礎看護学）	206
治療・症状緩和技術（看護専門科目群・専門分野Ⅰ・基礎看護学）	210
基礎看護技術総合演習（看護専門科目群・専門分野Ⅰ・基礎看護学）	212
看護学方法論（看護専門科目群・専門分野Ⅰ・基礎看護学）	215
.....	217
基礎看護学実習Ⅰ（看護専門科目群・専門分野Ⅰ・基礎看護学）	219
.....	221
基礎看護学実習Ⅱ（看護専門科目群・専門分野Ⅰ・基礎看護学）	223
.....	226
基礎看護学実習Ⅲ（看護専門科目群・専門分野Ⅰ・基礎看護学）	229
.....	232
成人看護学概論（看護専門科目群・専門分野Ⅱ・成人看護学）	235
.....	237
成人看護学方法論Ⅰ（専門科目群・専門分野Ⅱ・成人看護学）	239
.....	241
成人看護学方法論Ⅱ（看護専門科目群・専門分野Ⅱ・成人看護学）	243
.....	245
成人看護学演習 A（看護専門科目群・専門分野Ⅱ・成人看護学）	247
.....	249
成人看護学演習 B（看護専門科目群・専門分野Ⅱ・成人看護学）	251
.....	254
セルフケア論（看護専門科目群・専門分野Ⅱ・成人看護学）	257
.....	260
成人・老年看護学実習Ⅰ（看護専門科目群・専門分野Ⅱ・成人看護学）	262
.....	264
成人・老年看護学実習Ⅱ（看護専門科目群・専門分野Ⅱ・成人看護学）	267
.....	270
成人・老年看護学実習Ⅲ（看護専門科目群・専門分野Ⅱ・成人看護学）	272
.....	274
老年看護学概論（看護専門科目群・専門分野Ⅱ・老年看護学）	276
.....	279
老年看護学方法論（看護専門科目群・専門分野Ⅱ・老年看護学）	281
.....	283
老年看護学演習（看護専門科目群・専門分野Ⅱ・老年看護学）	285
.....	288
リプロダクティブヘルス看護学概論（看護専門科目群・専門分野Ⅱ・母性看護学）	291
.....	293
リプロダクティブヘルス看護学方法論（看護専門科目群・専門分野Ⅱ・母性看護学）	295
.....	297
リプロダクティブヘルス看護学演習（看護専門科目群・専門分野Ⅱ・母性看護学）	299
.....	299

公衆衛生看護学方法論(看護専門科目群・専門分野Ⅱ・地域看護学)	301
地域包括支援実習(看護専門科目群・専門分野Ⅱ・地域看護学)	304
学校保健Ⅰ(看護専門科目群・統合分野)	306
ヘルスカウンセリング(看護専門科目群・統合分野)	308
看護学特論(リプロダクティブヘルス看護学)(看護専門科目群・統合分野)	310
看護学特論(看護管理)(看護専門科目群・統合分野)	312
看護学特論(基礎看護学)(看護専門科目群・統合分野) ..	314
看護学特論(国際看護学)(看護専門科目群・統合分野) ..	316
看護学特論(成人看護学)(看護専門科目群・統合分野) ..	318
看護学特論(精神看護学)(看護専門科目群・統合分野) ..	320
看護学特論(公衆衛生看護学)(看護専門科目群・統合分野)	322
看護学特論(老年看護学)(看護専門科目群・統合分野) ..	324
健康教育論(看護専門科目群・統合分野)	326
災害看護学(看護専門科目群・統合分野)	328
国際看護学(看護専門科目群・統合分野)	330
看護研究概論(看護専門科目群・統合分野)	332
看護倫理学Ⅰ(看護専門科目群・統合分野)	335
看護倫理学Ⅱ(看護専門科目群・統合分野)	337
エンド・オブ・ライフ・ケア実習(看護専門科目群・統合分野)	339
家族看護論(看護専門科目群・統合分野)	340
看護マネジメント(看護専門科目群・統合分野)	342
国際看護学演習(看護専門科目群・統合分野)	346
産業保健論(看護専門科目群・統合分野)	348
チーム医療アプローチ演習(看護専門科目群・統合分野) ..	350
看護キャリア形成論(看護専門科目群・統合分野)	352
健康危機管理論(看護専門科目群・統合分野)	354
統合実習(看護専門科目群・統合分野)	356
研究ゼミナール(看護専門科目群・統合分野)	358
保健統計学(保健師課程科目)	360
保健医療福祉行政論演習(保健師課程)	362
公衆衛生看護活動論Ⅰ(保健師課程科目)	364
公衆衛生看護活動論Ⅱ(保健師課程科目)	367
公衆衛生看護学実習Ⅰ(保健師課程科目)	369
公衆衛生看護学実習Ⅱ(保健師課程科目)	371
学校保健Ⅱ(養護教諭課程)	373
養護概説(養護教諭課程)	375
健康相談Ⅰ(養護に関する科目)	378
健康相談Ⅱ(養護に関する科目)	380
教職論(教職科目)	382
教育基礎論(教職科目)	384

教育心理学(教職科目)	386
教育制度論(教職科目)	389
特別な教育的ニーズの理解とその支援(教職科目)	391
道徳教育・特別活動論(教職科目)	393
総合的な学習の時間論(教職科目)	395
教育課程論(教職科目)	397
教育方法論(教職科目)	399
生徒指導論(教職科目)	401
教育相談(教職科目)	403
養護実習(教職科目)	406
教職実践演習(教職科目)	409

科目名	健大で学ぶ Well-being(教養基礎)				科目ナンバリング	LAB000				
英文名	Steps to Well-being at KENDAI.				講義形態	講義				
担当教員	【情報】: 東福寺幾夫、【福祉】: 出雲春明、内田幸子、【栄養】: 下川哲昭、【薬】: 松岡功、須藤豊、高橋恵美利、田中祐司、【看護】: 吉田久美子、倉林しのぶ、【理学】: 中川和昌、【子ども】: 栗原幸正、【農】: 大政謙次、吉積毅、廣瀬竜郎、松岡寛樹、齋藤文信、清水庸									
科目に関連した実務経験	【子ども】栗原: 公立学校教諭・教頭・校長。教育委員会指導主事。群馬県人権教育・啓発推進懇談会会長。									
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格	なし									
学位授与方針との対応	7	人間理解と倫理観			0	国際理解				
	0	論理的思考力・問題解決力			1	生涯学習力				
	2	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
									○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①講義の目標 高崎健康福祉大学(健大)を知り、健大への理解と自身の所属学科以外の他学科の理解をもとに、多様な職種に対する理解や自校理解の礎を作る。 健大の精神「自利利他」は、「人の喜びを自分の喜びとする心」であり、学生生活から将来に至るまで様々な局面での行動・成長基盤となりうるものである。健大精神のあり方を考えるきっかけとなる講義を行い、成長につなげる。SDGs(Sustainable Development Goals)は、持続可能な未来を形成するために意識すべき目標である。SDGsを知り、また具体的な関わり方の例などから考えることで、様々な局面で貢献する為の素養を身につける。 以上を通じて、Well-being 社会に貢献する人材へ成長するための基盤構築を本講義の目標とする。 ②講義の実施方法 全講義オンデマンド式とする。 1.講義の開講について 講義は第1回から9回までの講義で構成される。原則として毎週水曜日 15 時に1講義分の動画が公開されるので、各自で受講時間を確保して学習を進める。公開から1週間以内に C-learning の教材倉庫中のリンクからアクセスし、講義動画視聴を行い、その後、C-learning から小テストを実施すること。 なお、動画へのアクセスは、高崎健康福祉大学グーグルアカウントにログオンした状態でのアクセスが必要となる。第1回の講義前、各学科ガイダンス等の中で受講方法に関する説明があるのでその指示に従い、各自で受講準備を行う事。 2.講義の出席について 原則、各学科が1回を担当し学科の理解、学科における自利利他・SDGs との関わりについて例を含めながら講義を行う。講義動画へのアクセスと小テスト実施をもって出席とする。 3. 講義後の入力提出について 講義視聴後に自身が感じた自利利他や SDGs への考え、講義の感想など思った事を C-learning のアンケートから入力すること。アンケートは自由記述とするが講義改善の指標とするので、積極的な参加を期待する。									
到達目標	1. 健大の学部・学科について知り、理解を深める。 2. 健大精神「自利利他」を知り、理解を深める。 3. SDGs を知り、理解を深める。■									
使用教材	各講義回で利用する資料・教材がある場合には C-learning を通じて電子ファイルで配布を行う。									
参考文献	なし									

評価方法		第1回の受講(4%)と各講義回の講義動画閲覧と小テスト:2～9回(各12%)の合計100%で評価する。			
課題・評価に対するフィードバック方法		小テストは点数のみ公開する。不正解の問題があった場合には講義を再視聴し、公開期間内に小テストをやり直したのち、自身の考えを醸成させること。小テストは再解答を3回まで認めるので、各自で適宜復習を行い、考えを発展させてほしい。			
オフィスアワー (研究室)		質問はC-learning連絡機能やメールで受け付ける。対面による質問を希望する場合はメールで事前に相談すること。 情報:東福寺(1号館605研究室) 福祉:出雲(1号館511研究室) 栄養:下川(1号館311研究室) 薬:松岡(7号館312研究室) 看護:吉田久(5号館410研究室) 理学:中川(3号館204研究室) 子ども:栗原(8号館学部長室) 農:清水(10号館504研究室)		メールアドレス (#→@)	情報:東福寺(tofukuji#takasaki-u.ac.jp) 福祉:出雲(izumo-s#takasaki-u.ac.jp) 栄養:下川(shimokawa-n#takasaki-u.ac.jp) 薬:松岡(isao#takasaki-u.ac.jp) 看護:吉田久(yoshikumi#takasaki-u.ac.jp) 理学:中川(nakagawa-ka#takasaki-u.ac.jp) 子ども:栗原(kurihara-y#takasaki-u.ac.jp) 農:清水(shimizu-y#takasaki-u.ac.jp)
1	講義内容	本学の歴史、大学としての自利利他、SDGsの考え(高崎健康福祉大学 学園長、学長)。			
	該当到達目標	予習	自利利他の意味、SDGsについて調べておく。 自身の端末で高崎健康福祉大学のアカウントにログインできるようにしておく(各学科ガイダンス等で受講法の説明があるので、各自で第1回講義前までにオンライン受講準備を整え、ガイダンス動画を閲覧しておくこと)。		1 時間
	1-3	復習	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。		1 時間
2	講義内容	医療情報学科(東福寺):1.健康・医療と情報技術、2.医療DXと人材養成、3.本学の禁煙化			
	該当到達目標	予習	C-learningへのログイン方法を確認しておく。 オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。		1 時間
	1-3	復習	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。		1 時間
3	講義内容	社会福祉学科(出雲、内田):誰も置き去りにしない社会			
	該当到達目標	予習	「誰も置き去りにしない社会」や「地域社会における支え合いの意義」について、調べておく。		1 時間
	1-3	復習	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。 講義で取り扱ったケースについて調べ、周囲と話しあってみる。		1 時間
4	講義内容	健康栄養学科(下川):母性行動の生理学的基盤			
	該当到達目標	予習	C-learningへのログイン方法を確認しておく。 オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。		1 時間
	1-3	復習	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。		1 時間
5	講義内容	薬学部(松岡、須藤、高橋、田中):Well-beingとクスリ			
	該当到達目標	予習	薬剤師の業務について調べておく。C-learningへのログイン方法を確認しておく。オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。		1 時間
	1-3	復習	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。		1 時間
6	講義内容	看護学科(吉田、倉林)			
	該当到達目標	予習	C-learningへのログイン方法を確認しておく。 オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。		1 時間
	1-3	復習	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。		1 時間
7	講義内容	理学療法学科(中川)			
	該当到達目標	予習	C-learningへのログイン方法を確認しておく。 オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。		1 時間
	1-3	復習	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。		1 時間
8	講義内容	子ども教育学科(栗原):学校教育とLGBT■			
	該当到達目標	予習	LGBTに関する新聞等の報道記事に目を通し、社会の動向を掴んでおく。		1 時間
	1-3	復習	講義動画での学びを基に、自身が今後どのような行動をすべきかについて、身近な友人・知人との話し合いを通して明確にする。		1 時間
9	講義内容	農学部(大政、吉積、廣瀬、松岡、齋藤、清水)			

	該当到達目標	予習	C-learning へのログイン方法を確認しておく。 オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	1 時間
	1-3	復習	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1 時間
	合計時間(予習・復習)			18 時間
備考	1.授業の時間について 記載した予習復習時間で、講義内容の不明点が残る場合には各自で補完すること。 2.動画へのアクセスについて 各回講義動画の閲覧には、「高崎健康福祉大学のグーグルアカウント」にログオンした状態の端末でアクセスする事が必要です。講義動画にアクセスできない場合、アカウント設定やアクセス方法などを確認するようにして下さい。 3.質問などについて 各講義回で生じた内容に関する質問は講義回担当者へ、受講法に関する事は自学科担当教員に質問する事。 連絡を C-learning 経由で行う際には、「連絡・相談機能」を活用し、所属学科と学籍番号、氏名を記載の上、誰に対するどのような質問かを明記する事。返信がない場合には E-mail で再度連絡を行う事。 4.成績評価について 講義回数は全9回で終了だが、成績付与は学期末に行われる。 本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム『多職種連携コース』の対象科目である。 なお、令和4年度以前の入学者が本講義を受講する場合は、単位認定時評価は「認定(N)」となり、GPA 算出、卒業必要単位の対象外となる。また、履修登録時の CAP のカウントには含めない。 ■:実務経験に基づく内容を示す			

科目名	基礎教養ゼミ(教養基礎)							科目ナンバリング	LAB001・A	
英文名	Freshman Seminar (FYE)							講義形態	講義	
担当教員	小池洋子 渡邊秀臣									
科目に関連した実務経験	病院の看護部長、県の看護行政職として勤務(経験)									
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	必修 2 単位							
履修が必須となる資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針との対応	5	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	2	論理的思考力・問題解決力				2	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	34							16		
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○			○	○	○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	看護専門職および社会人としての基礎知識・技術・態度を養うために、大学生活を有意義に送る上で必要な、学習方法や大学生活の心得・方法を身につける。また、自己のキャリアデザインを考える機会とする。課題に対しての事前学習、討論、発表、レポート作成など主体的に学習する姿勢を身に付ける。									
到達目標	1. 大学教育を受けるための学修方法が身につく。 2. 大学生活の心得、方法が身につく。 3. 情報収集方法を理解し、正しい情報を用いて自分の考えを整理できる。 4. 看護職としての基本的態度・姿勢について理解し、自身のキャリアデザインについて考察できる。									
使用教材	「看護学生のためのよくわかる大学での学び方第2版」前原澄子他監修・金芳堂・2018年・2400円 必要時資料を配布する									
参考文献	授業の中で紹介する。									
評価方法	講義ごとの課題への取り組み状況を40%、最終課題レポート評価60%とし、総合60%以上で合格とする。(対面授業・オンライン授業とも共通)									
課題に対するフィードバック	授業後にアンケートを行い、次の授業初めに振り返りを行う。提出レポートに適宜コメントして返す。(対面授業・オンライン授業とも共通)									
オフィスアワー (研究室)	火曜日3・4限 (5号館 412 研究室)				メールアドレス (#→@)		koike-y#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	大学での学び方、大学教育とは								
	該当到達目標	予習	履修ガイド、学生生活ハンドブックを読んでくる。							1.5 時間
	1	復習	自身の履修登録の仕方、学習方法を考える。 社会の中の大学生として、自身の生活について考える。							1.5 時間
2	講義内容	学習に必要なパソコン操作								
	該当到達目標	予習	ガイダンスで配布した資料を読んでくる。							1.5 時間
	1,2	復習	C-Learning、ポートフォリオの課題を行う。							1.5 時間
3	講義内容	スチューデントスキル①: 対人関係スキル (人間関係づくり)								
	該当到達目標	予習	テキスト P108～139 を読んでくる。							1.5 時間
	1,2	復習	体験した感想をまとめる							1.5 時間
4	講義内容	スタディスキル①: 文章の読み方・書き方								
	該当到達目標	予習	テキスト P36～47 を読んでくる。							1.5 時間
	2	復習	課題に取り組む。							1.5 時間
5	講義内容	スタディスキル②: 情報リテラシー、図書館の使い方、文献検索								

	該当到達目標	予習	テキスト P20～35 および学生生活ハンドブック「ソーシャルメディア利用に関する留意事項」を読んでくる。	1 時間
	1,3	復習	医中誌 Web により文献検索を行う。	2 時間
6	講義内容	スタディスキル③:レポートの書き方、基本的ルール		
	該当到達目標	予習	テキスト P 59～72 を読んでおく。	1.5 時間
	1,3	復習	レポートの作成方法を復習しておく。	1.5 時間
7	講義内容	医療人としての心構え		
	該当到達目標	予習	話題となっている「医療に関する情報」を調べておく。	1 時間
	1,3	復習	日本の現状で看護師として求められることについて考えをまとめる。	2 時間
8	講義内容	スタディスキル②:看護職に求められる倫理的感受性 ■		
	該当到達目標	予習	テキスト P159～168 を読んでおく。	1.5 時間
	3,4	復習	倫理的感受性を高めるための大学生活の過ごし方を考える。	1.5 時間
9	講義内容	スタディスキル③:ストレスマネジメントと健康管理		
	該当到達目標	予習	健康について文献を踏まえ自己の生活を振り返る。	1.5 時間
	1, 3,4	復習	大学生活を送る上でのストレスマネジメント、健康管理についての考えをまとめる。	1.5 時間
10	講義内容	スタディスキル④:ディスカッションのスキル; 看護学生としての健康管理		
	該当到達目標	予習	ディスカッションのための情報を収集しておく。	1.5 時間
	1, 3,4	復習	グループ討論での自分の言動・役割について振り返りをする。	1.5 時間
11	講義内容	スタディスキル⑤:ディスカッションスキル; 看護学生としての健康管理		
	該当到達目標	予習	前回討論を踏まえて、自分の考えを整理する。	1.5 時間
	1, 3,4	復習	発表の準備をする。	1.5 時間
12	講義内容	スタディスキル⑥:プレゼンテーションスキル:グループ発表		
	該当到達目標	予習	発表の準備をしておく。	2 時間
	3,4	復習	グループワークと発表を通して学んだことを整理する。	1 時間
13	講義内容	看護職の活躍の実際(病院・行政・その他)		
	該当到達目標	予習	看護職が活躍している職場を調べる。	1.5 時間
	3,4	復習	看護職が働く職場を整理し、自分の 4 年後をイメージする。	1.5 時間
14	講義内容	キャリアデザイン		
	該当到達目標	予習	テキスト P170～196 を読んでくる。	1.5 時間
	2,3,4	復習	今までの自分を振り返る。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ 看護職を目指す大学生としての学習目標		
	該当到達目標	予習	4 年間の学習目標を考え。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	看護職を目指す大学生としての自分の課題と目標を整理する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	1. 単位修得に必要な時間を満たしていない場合 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 2. 履修条件 1) この科目は、大学での学び方を学習するため、入学初年度に履修する。 3. ルール 1) 自分で調べる課題やグループワークを行う際は、主体的に参加する。 2) 出席確認は対面授業・オンライン授業どちらも C-Learning の出席登録により行う。 3) 毎回、授業後課題を C-Learning により期限内に提出する。内容は最終評価に影響する。 4. オンライン授業時の変更点 1) 講義に関しては教材倉庫にある動画を視聴し課題を提出する。 2) グループワークは ZOOM 機能を用いて行う。 3) 授業時間内は ZOOM 機能を使い積極的に質問する。授業時間以外では C-Learning の相談機能を使い質問に応じる。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	日本語表現法(教養基礎)						科目 ナンバリング	LAB002		
英文名	Japanese Expression Method						講義形態	講義		
担当教員	古澤 良文									
科目に関連した 実務経験	記者として上毛新聞社に勤務。記事全般、コラムを執筆、読者欄の投稿を添削。									
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数		選択 2 単位						
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	4	人間理解と倫理観			1	国際理解				
	3	論理的思考力・問題解決力			1	生涯学習力				
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連										
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	日本人の極端な日本語能力低下が問題視される中で、「書き言葉」の表現力を向上させるために、まず自分の考えをまとめ、書くに至るプロセスを理解する。次に日本語の基礎知識の把握と、生じやすい表現上のミスを具体的に認識し、自分の考えをいかに文章化するかを修得する。同時に他者の考えを、発言や文面から把握するとともに、その内容に対する自分の意見を構築、交換、指摘する機会を設け、学士力向上を図る。 現代人がよく間違える慣用句や文章表現について、毎回実例を示しながら説明する。また、高校までに学ぶ機会が少なかったと思われる四字熟語・ことわざなどを、講義時間の一部を使って説明する。小論文を「書く→添削→返却」を 3 回程度実施する。									
到達目標	1. 自分の「考え」をまとめ、意思表示できる。 2. 日本語の基礎知識を表現・文法・語彙の三側面から確認し、理解できる。 3. 日本語表現の基本的ミスを確認し、理解できる。■ 4. 文章の組み立て方を理解し、習得できる。 5. 日本語表現的に正確な文章が書けるようにする。■									
使用教材	担当教員作成のプリント。									
参考文献										
評価方法	筆記試験(80%)・授業参加度(20%)によって総合的に評価する。評価方法の基準は講義時に通達する。									
課題・評価に対する フィードバック方法	提出した文章の欠点・修正点を謙虚に捉え、新たな文章作成の場に生かし、文章力向上に挑戦する。									
オフィスアワー (研究室)	授業の前後 1～2 時間。				メールアドレス (#→@)	連絡手段は授業時に説明する。				
1	講義内容	原稿用紙の書き方(実際に執筆する)■								
	該当到達目標	予習	400 字詰め原稿用紙の使い方						1.5	時間
	1	復習	カッコや句読点の書き方 その日の出来事を原稿用紙に書いてみる						1.5	時間
2	講義内容	日常生活の心掛け 小テスト(漢字の特殊読み)								
	該当到達目標	予習	社会の変動に関心を持つ						1.5	時間
	1,4	復習	活字を読む習慣を身に付けるにはどうすべきか考える						1.5	時間
3	講義内容	三段論法と逆三角形 小テスト(書けそうで書けない漢字)■								
	該当到達目標	予習	新聞記事を段落ごとに考えながら読む(新聞は図書館にある)						1.5	時間
	2,4	復習	新聞記事を「逆三角形」を意識しながら熟読する						1.5	時間
4	講義内容	文章をうまく見せる 3 カ条 小テスト(同音異義語)■								
	該当到達目標	予習	1 回目に書いた文章を見直す						1.5	時間
	2,4	復習	1 回目に書いた文章を書き直してみる						1.5	時間

5	講義内容	主語と述語 小テスト(四字熟語ことわざ①)■		
	該当到達目標	予習	テキストをチェックしておく	1.5 時間
	2,3	復習	テキストの悪文例を正しく直す	1.5 時間
6	講義内容	小論文執筆(複数のテーマから1つを選んで書く)		
	該当到達目標	予習	4回目のプリントチェック	1.5 時間
	1,2,3	復習	書き足りなかったことがないか	1.5 時間
7	講義内容	修飾語 俳句 小テスト(間違い探し①)■		
	該当到達目標	予習	文章はリズムが大切 俳句を作ってみる	1.5 時間
	2,4	復習	プリントの悪文例を見直す	1.5 時間
8	講義内容	話し言葉と書き言葉 小テスト(四字熟語ことわざ②)■		
	該当到達目標	予習	「ら」抜き言葉の長所短所	1.5 時間
	2,3	復習	話し言葉を書き言葉にしてみる	1.5 時間
9	講義内容	手紙を書く		
	該当到達目標	予習	誰宛に書くか、何を書くか準備する	1.5 時間
	1,4	復習	授業で書いたほかにも書いてみる	1.5 時間
10	講義内容	センテンスは短く 小テスト(同義語反対語)■		
	該当到達目標	予習	新聞のコラムを読む	1.5 時間
	3,4	復習	悪文例を直す	1.5 時間
11	講義内容	小論文執筆(同じ形容詞や動詞を何度も使わないように)■		
	該当到達目標	予習	4回目、7回目のプリント見直し	1.5 時間
	1,2,3	復習	別のテーマで書いてみる	1.5 時間
12	講義内容	敬語 小テスト(四字熟語ことわざ③)		
	該当到達目標	予習	敬語の種類を調べる	1.5 時間
	3,4	復習	プリントの問題を解く	1.5 時間
13	講義内容	推敲 小テスト(間違い探し②)■		
	該当到達目標	予習	書籍、新聞を声に出して読む	1.5 時間
	2,4,5	復習	自分の文章を直してみる	1.5 時間
14	講義内容	小論文執筆(小論文のテーマに沿ってタイトルを自分で書く)■		
	該当到達目標	予習	社会問題を考える	1.5 時間
	1,2,3	復習	別のテーマで書いてみる	1.5 時間
15	講義内容	覚えておきたい短詩と台詞		
	該当到達目標	予習	知っている俳句短歌を思い出してみる	1.5 時間
	3,4,5	復習	声に出して読んでおく	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す			

科目名	日本国憲法（教養基礎）						科目ナンバリング	LAB003		
英文名	Japanese Constitution						講義形態	講義		
担当教員	新田 浩司									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	選択 ・ 2 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	4	人間理解と倫理観				1	国際理解			
	3	論理的思考力・問題解決力				2	生涯学習力			
	0	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	4 9 16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
									○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	法規範は、強制力を持つ社会規範であり、憲法は最も重要な法規範である。憲法は国家の根本法ないしは最高法規であり、国家の組織や構造並びに国民の人権を保障する。講義では、この憲法について学ぶ。 【授業期間全体を通じた授業の進め方】 授業はパワーポイントのスライドをもとに説明を行いながら進める。最後に理解度確認のための小テストを行う。									
到達目標	1.国家がどのように成立しているか、憲法の各条規は、社会において具体的に生きているのか、等について理解を深める。 2.一般国民も、裁判員制度が始まり、憲法を初め様々な法律に触れる機会が増えているので、憲法や各種の法律の理解を深めることを目標とする。									
使用教材	新田浩司編著『法学憲法基礎』八千代出版									
参考文献										
評価方法	定期試験 80%、講義に対する感想文（リアクションペーパー） 20%で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	小テスト実施した場合、評価の上返却する。									
オフィスアワー（研究室）	木曜 5 限				メールアドレス（#→@）		連絡手段は初回授業時に提示します。			
1	講義内容	ガイダンス								
	該当到達目標	予習	教科書を事前に読んでおくこと。						1.5 時間	
	1,2	復習	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを完成させる。						1.5 時間	
2	講義内容	憲法の基礎知識（1）								
	該当到達目標	予習	教科書を事前に読んでおくこと。						1.5 時間	
	1,2	復習	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを完成させる。						1.5 時間	
3	講義内容	憲法の基礎知識（2）								
	該当到達目標	予習	教科書を事前に読んでおくこと。						1.5 時間	
	1,2	復習	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを完成させる。						1.5 時間	
4	講義内容	憲法の基礎知識（3）								
	該当到達目標	予習	教科書を事前に読んでおくこと。						1.5 時間	
	1,2	復習	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを完成させる。						1.5 時間	
5	講義内容	日本国憲法の制定過程								
	該当到達目標	予習	教科書を事前に読んでおくこと。						1.5 時間	
	1,2	復習	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを完成させる。						1.5 時間	

6	講義内容	日本国憲法の基本原理		
	該当到達目標	予習	教科書を事前に読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5 時間
7	講義内容	国家の安全保障		
	該当到達目標	予習	教科書を事前に読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5 時間
8	講義内容	精神的自由権（1）		
	該当到達目標	予習	教科書を事前に読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5 時間
9	講義内容	精神的自由権（2）		
	該当到達目標	予習	教科書を事前に読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5 時間
10	講義内容	経済的自由権		
	該当到達目標	予習	教科書を事前に読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5 時間
11	講義内容	社会権（1）		
	該当到達目標	予習	教科書を事前に読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5 時間
12	講義内容	社会権（2）		
	該当到達目標	予習	教科書を事前に読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5 時間
13	講義内容	参政権、国務請求権		
	該当到達目標	予習	教科書を事前に読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5 時間
14	講義内容	統治機構（1）		
	該当到達目標	予習	教科書を事前に読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5 時間
15	講義内容	統治機構（2）		
	該当到達目標	予習	教科書を事前に読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを完成させる。全講義のまとめ。	1.5 時間
合計時間（予習・復習）				45 時間
備考	授業中の私語は厳禁。出席票の代筆厳禁。 予習・復習について、試験前後の学習にて補完すること。 オンライン講義を行う場合、講義はビデオ録画を C-Learning 内の「教材倉庫」にて公開する。また出席は「出席管理」にて行う。フィードバックについては、同様に、「アンケート」にて講義の感想を提出する。評価は、アンケート及び期末試験のレポートで総合的に行う。			

科目名	法学（教養基礎）						科目ナンバリング	LAB004		
英文名	Law						講義形態	講義		
担当教員	新田 浩司									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期		選必・単位数	選択 ・ 2 単位						
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	4	人間理解と倫理観			1	国際理解				
	3	論理的思考力・問題解決力			2	生涯学習力				
	0	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	①	④		⑨			⑯			
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○		
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	社会のルールである法は、我々が生活する上で不可欠であり、我々が社会人として身につけるべき能力である法的思考（リーガル・マインド）を身に着けることが目標です。 【授業期間全体を通じた授業の進め方】 授業はパワーポイントのスライドをもとに説明を行いながら進める。最後に理解度確認のための小テストを行う。									
到達目標	1.社会における法規範の意義について理解する。 2.法的思考を身につけることにより、社会における様々な問題を法的に分析できるようになる。									
使用教材	新田浩司編著『法学憲法基礎』八千代出版									
参考文献										
評価方法	定期試験 80%、講義に対する感想文（リアクションペーパー） 20%で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	小テスト実施した場合、評価の上返却する。									
オフィスアワー （研究室）	木曜 4 限				メールアドレス （#→@）		連絡手段は初回授業時に提示します。			
1	講義内容	ガイダンス								
	該当到達目標	予習	教科書を事前に読んでおくこと。						1.5 時間	
	1,2	復習	配布資料と教科書を参照しながら講義ノートを完成させる。						1.5 時間	
2	講義内容	第 1 章 法と法学								
	該当到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。						1.5 時間	
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを完成させる。						1.5 時間	
3	講義内容	第 2 章 法と国家								
	該当到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。						1.5 時間	
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを完成させる。						1.5 時間	
4	講義内容	第 3 章 法と他の社会規範との関係								
	該当到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。						1.5 時間	
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを完成させる。						1.5 時間	
5	講義内容	第 4 章 法の目的								
	該当到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。						1.5 時間	
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを完成させる。						1.5 時間	
6	講義内容	第 5 章 法の構造								
	該当到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。						1.5 時間	

	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5 時間
7	講義内容	第 6 章 法の淵源		
	該当到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5 時間
8	講義内容	第 7 章 法の分類		
	該当到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5 時間
9	講義内容	第 8 章 法の解釈		
	該当到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5 時間
10	講義内容	第 9 章 法の適用—法が適用される事実、法を適用する機関		
	該当到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5 時間
11	講義内容	第 10 章 法の効力		
	該当到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5 時間
12	講義内容	第 11 章 権利と義務		
	該当到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5 時間
13	講義内容	まとめ(1)		
	該当到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5 時間
14	講義内容	まとめ(2)		
	該当到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ(3)		
	該当到達目標	予習	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	授業中の私語は厳禁。出席票の代筆厳禁 予習・復習については、試験前後の学習にて補完すること。 オンライン講義を行う場合、講義はビデオ録画を C-Learning 内の「教材倉庫」にて公開する。また出席は「出席管理」にて行う。フィードバックについては、同様に、「アンケート」にて講義の感想を提出する。評価は、アンケート及び期末試験のレポートで総合的に行う。			

科目名	経済学(教養基礎)						科目ナンバリング	LAB005		
英文名	Economics						講義形態	講義		
担当教員	町田 修三									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期		選必・単位数	選択 2 単位						
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	4	人間理解と倫理観			1	国際理解				
	2	論理的思考力・問題解決力			2	生涯学習力				
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	3481217									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○					○	○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	授業内での問いかけ、QUIZ、質疑応答(ミニツツペーパー上の質問を含む)などを用いた双方向性授業。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	経済に関する知識は一般社会や国際社会において極めて重要であるものの、多くの学生は十分な知識を持っていない。選挙権が与えられても経済知識なしで投票に行くのは危険である。この講義では身近なトピックを通して基礎的経済の知識を習得し、国内外の社会のメカニズムや流れを理解できるようになることを目的とする。レベルとしては、新聞やテレビのニュースがしっかりと理解できるようになることを想定している。また、医療分野を専攻する学生にとっては、医療の経済面からの考察も講義に取り入れるので参考にして理解を深めてほしい。 授業開始時に学生から出された質問・疑問に答えながら、前回の復習をする。授業中はクイズをはじめとした問いかけを多く出し、可能な限りアクティブラーニングの導入を試みる。									
到達目標	1. 日本の経済の現状を説明できる 2. 需要と供給、市場メカニズムについて理解を深め、概説できる 3. 景気や GDP について理解を深め、概説できる 4. 国の予算や税金制度について説明できる 5. お金の流れや物価変動について説明できる 6. 経済政策について理解を深め、他者に説明できる 7. 為替レートの変動と貿易の実態について概説できる 8. 新聞やテレビのニュースが理解でき、他者に解説できる									
使用教材	必修テキストはない。講義では毎回資料、データを配布する。									
参考文献	推薦テキストは多数あるので、講義の中で必要に応じて紹介する。									
評価方法	学期末試験 80%、毎回の授業の最後に提出するコメントカード、その他の提出物(クイズ、小レポートなど)20%									
課題・評価に対するフィードバック方法	コメントカードに記載された質問事項、疑問点等に関しては、次回の講義で回答する。クイズについても次回の講義で解説する。小レポートにはコメントを付して返却する。									
オフィスアワー (研究室)	月曜日 4 限目、金曜日 2 限目 研究室:1 号館 6 階 603				メールアドレス (#→@)	machida#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	イントロダクション(一部 AL[アクティブラーニング]実施)								
	該当到達目標	予習	シラバスを熟読し、講義の概要や目標を理解しておく						1	時間
	8	復習	ニュースに触れる習慣(新聞、テレビ、ネット)を開始する						1	時間

2	講義内容	日本経済の流れ(世界との比較のなかで)			
	該当到達目標 1,8	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間	
		復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間	
3	講義内容	経済政策の 2 大潮流—マーケット or ケインズ(一部 AL 実施)			
	該当到達目標 1,8	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間	
		復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間	
4	講義内容	需要と供給(需要曲線の意味)			
	該当到達目標 2,8	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間	
		復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間	
5	講義内容	市場メカニズムと価格(どうして水よりもダイヤモンドのほうが高いんだろう?)			
	該当到達目標 2,8	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間	
		復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間	
6	講義内容	価格の変動(どうして缶コーヒーやペットボトルのお茶は、どれも同じ値段なんだろう?)			
	該当到達目標 2,8	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間	
		復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間	
7	講義内容	国民所得Ⅰ(国の経済力はどう測るんだろう? GDP って何?)			
	該当到達目標 1,3,8	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間	
		復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間	
8	講義内容	国民所得Ⅱ(あなたが 1 万円使うと GDP はいくら増える?)(一部 AL 実施)			
	該当到達目標 1,3,8	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間	
		復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間	
9	講義内容	財政(日本の借金は大丈夫? 消費税は何%に?)			
	該当到達目標 1,4,8	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間	
		復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間	
10	講義内容	景気と失業(不景気で学生の就職はどうなる?)(一部 AL 実施)			
	該当到達目標 1,3,8	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間	
		復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間	
11	講義内容	金融(日本銀行は何をすること?)(一部 AL 実施)			
	該当到達目標 1,5,8	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間	
		復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間	
12	講義内容	経済政策のしくみ(アベノミクスは何をした?)			
	該当到達目標 1,6,8	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間	
		復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間	
13	講義内容	為替レート of のメカニズム(円高、円安ってどうして起こるの?)			
	該当到達目標 1,7,8	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間	
		復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間	
14	講義内容	世界と日本(日本の貿易は黒字? 赤字?)(一部 AL 実施)			
	該当到達目標 1,7,8	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間	
		復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間	
15	講義内容	まとめと確認のためのテスト			
	該当到達目標 1,2,3,4,5,6 7,8	予習	これまで学習した事項について目を通し、理解を深めておく	3 時間	
		復習	期末試験の出題意図、講義の理解度の再確認と今後の学習の方向性を考える	1.5 時間	
合計時間(予習・復習)					39 時間

備考	AL(アクティブラーニング)は、クローズドクエスチョン、オープンクエスチョン、ペアワーク、グループワークなど。 記載した予習・復習時間に加え、自主的な学修(推薦テキストの講読、新聞・雑誌の経済記事講読等)により、必要な学修時間を各自で補完すること。

科目名	社会学(教養基礎)						科目ナンバリング	LAB006		
英文名	Sociology						講義形態	講義		
担当教員	安達 正嗣									
科目に関連した実務経験	兵庫県庁の家庭問題研究所において3年間、研究員ならびに主任研究員として兵庫県の各市町村で家族・高齢者・福祉調査を実施し調査資料を作成することによって、各課への政策提言をおこなった。									
学年・開講期	1年 前期	選必・単位数	選択 2単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	3	人間理解と倫理観				1	国際理解			
	3	論理的思考力・問題解決力				3	生涯学習力			
		チームの一員としての協調・協働				0				
SDGsとの関連	① ② ③ ④ ⑤ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑯ ⑰									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	社会学的なものの見方とは、どういうものなのか、社会学的にものを考えるときに使用する専門的概念・用語には、どのようなものがあるのかなどといった社会学の基本の理解を目指す。使用教材を中心にしながら、日常の具体的な事例から解説することによって、基本的な社会学の考え方を身につける。									
到達目標	1. 大学生として社会学の基本的な考え方を身につけることができる。 2. 社会学を通じて、豊かな人間性と倫理観を身につけることができる。 3. 日常の人間関係を理解することによって、コミュニケーション能力を身につける。 4. 社会の仕組みを理解して、現代社会における自分自身の立ち位置を知ることができる。 5. 現代社会の社会問題を認識して、その解決を探る能力を身につけることができる。■									
使用教材	篠原清夫・栗田真樹編著『大学生のための社会学入門』晃洋書房。									
参考文献	講義中に、適宜指示する。									
評価方法	平常点(毎回提出してもらいうリアクションペーパー(設問形式)については、第1回目の講義で説明します)50%、学期末試験 50%です。									
課題・評価に対するフィードバック方法	各受講生の提出したリアクションペーパー(設問形式)に書かれた質問、意見、要望などに対して、つぎの講義の前に答える。									
オフィスアワー (研究室)	火曜日 5限・6限				メールアドレス (#→@)	adachi-m#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション、第1章社会学とは何か(1~12頁)について解説する。								
	該当到達目標	予習	第1章を読んでおくこと。					1.5	時間	
	1,2,3,4	復習	第1章を再読して、その内容を理解しておくこと。					1.5	時間	
2	講義内容	第2章社会を観察する方法(13~24頁)を解説する。								
	該当到達目標	予習	第2章を読んでおくこと。					1.5	時間	
	1,2,3	復習	第2章を再読して、その内容を理解しておくこと。					1.5	時間	
3	講義内容	第3章社会で生きる「私」(25~35頁)を解説する。								
	該当到達目標	予習	第3章を読んでおくこと。					1.5	時間	
	1,2,3	復習	第3章を再読して、その内容を理解しておくこと。					1.5	時間	
4	講義内容	第4章変容する家族のかたち(36~47頁)を解説する。実務で得た調査結果を提示する。■								
	該当到達目標	予習	第4章を読んでおくこと。					1.5	時間	
	1,2,3	復習	第4章を再読して、その内容を理解しておくこと。					1.5	時間	
5	講義内容	第5章性の多様なあり方を考える(48~59頁)を解説する。								
	該当到達目標	予習	第5章を読んでおくこと。					1.5	時間	
	1,2,3	復習	第5章を再読して、その内容を理解しておくこと。					1.5	時間	

6	講義内容	第 6 章「現実を生きる」ための社会学—労働・産業・消費—(60～72 頁)を解説する。		
	該当到達目標	予習	第 6 章を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	第 6 章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5 時間
7	講義内容	第 7 章日本で進展する環境・災害社会学(73～86 頁)を解説する。		
	該当到達目標	予習	第 7 章を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	第 7 章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5 時間
8	講義内容	第 8 章社会学から医療を見つめる(87～97 頁)を解説する。		
	該当到達目標	予習	第 8 章を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	第 8 章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5 時間
9	講義内容	第 9 章社会学は教育とどう向き合うのか(98～109 頁)を解説する。		
	該当到達目標	予習	第 9 章を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	第 9 章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5 時間
10	講義内容	第 10 章逸脱行動と社会問題(110～121 頁)を解説する。		
	該当到達目標	予習	第 10 章を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	第 10 章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5 時間
11	講義内容	第 11 章「格差」の社会学(122～134 頁)を解説する。		
	該当到達目標	予習	第 11 章を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	第 11 章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5 時間
12	講義内容	第 12 章生活空間としての地域社会(135～149 頁)を解説する。		
	該当到達目標	予習	第 12 章を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	第 12 章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5 時間
13	講義内容	第 13 章グローバル社会とエスニシティ(150～162 頁)を解説する。		
	該当到達目標	予習	第 13 章を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	第 13 章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5 時間
14	講義内容	第 14 章宗教から社会を捉える(163～176 頁)を解説する。		
	該当到達目標	予習	第 14 章を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	第 14 章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5 時間
15	講義内容	第 15 章社会の中のメディア／メディアが動かす社会(177～189 頁)を解説する。		
	該当到達目標	予習	第 15 章を読んでおくこと。	3 時間
	1,2,3,4,5	復習	第 15 章を再読して、その内容を理解しておくこと。	3 時間
合計時間(予習・復習)				48 時間
備考	各受講生が、毎回の講義内容を自分自身の身近な具体的な状況のなかで理解することによって、社会学の考え方を深めることができるので、そうした観点から意欲的に講義に臨んでほしい。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	生涯健康論(教養基礎)							科目ナンバリング	LAB007	
英文名	Lifelong Health Theory							講義形態	講義	
担当教員	渡邊 秀臣、五十嵐 康、蒲 章則									
科目に関連した実務経験	非常勤医師(整形外科医)として病院に勤務									
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	4	人間理解と倫理観				2	国際理解			
	1	論理的思考力・問題解決力				3	生涯学習力			
		チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	①	③	⑩				⑯			
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○							
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	生涯を幸せで豊かに過ごすための基本は健康である。日本人は世界有数の長寿を誇っているが、自立して生活を送る健康寿命は、平均寿命より約 10 年も短い。①本講義では、健康寿命の延伸に向けて生涯にわたる健康維持・管理について理解し、人々の健康寿命延伸に健康支援チームの一員として参加できる基礎知識を身に着けることを目的としている。②実施方法は、講義により知識の習得を図り、理解を確認するために時々学生に意見を求め、あるいは指名してディスカッションを行う。									
到達目標	1. 健康の定義と集団の健康評価指標について理解できる。■ 2. 個体の健康を維持するため生体の調節機構について理解できる。■ 3. 環境・生活習慣の変容と疾病発症の関連について理解できる。■ 4. 健康寿命延伸にむけた取り組みについて理解できる。■									
使用教材	テキストは使用せず、配布資料及び視聴覚資料を使用する。									
参考文献	参考書として、厚生統計協会刊の「国民衛生の動向 2020/2021」を利用する。									
評価方法	授業参加内容:40 点、課題に対するレポート内容:60 点 :総合 60 点以上を合格とする。(対面講義でもオンライン講義でも同様)									
課題・評価に対するフィードバック方法	レポートに対し必要なコメントをする。(対面講義でもオンライン講義でも同様)									
オフィスアワー (研究室)	(金)13:00~14:30 研究室 4 号館 2 階学部長室				メールアドレス (#→@)	watanabe-h#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	健康の定義と健康評価指標(渡邊) WHO の提唱した健康の定義を知る。集団の健康評価の指標として最もよく使われるのが平均寿命であるが、寿命には、〈平均寿命〉、〈平均余命〉、〈健康寿命〉、〈最長寿命〉などの呼び方があり、現在の日本で重要なのは、健康寿命であることを理解する。■								
	該当到達目標 1	予習	「国民衛生の動向」より健康評価諸指標の年代推移を把握する。						1.5 時間	
		復習	健康の定義と健康評価指標の理解を深める。						1.5 時間	
2	講義内容	健康を維持するための食物と物質代謝(五十嵐) 食物(栄養素)は健康に欠かすことのできないエネルギー源である。その物質代謝(同化・異化作用)に関わる体の構造とその働きを理解しながら健康維持について学習する。								
	該当到達目標 2	予習	人体構造・生理学の参考書で該当部分を学習する。						1.5 時間	
		復習	食物のエネルギー代謝と健康について理解する。						1.5 時間	
3	講義内容	恒常性維持機構の役割と相互作用(五十嵐) 生体には様々な生理機能をバランスよく正常に機能・維持するための調節機構、すなわち「恒常性維持機構(ホメオスタシス)」が備わっている。このシステムは主に神経系、内分泌系及び免疫系で構成され								

		る。また、食物の消化・吸収を担う腸管では細菌の侵入を防ぐ恒常性機構が働いている。これらの様々な維持機構の働きと相互作用について学習する		
	該当到達目標	予習	人体構造・生理学の参考書で該当部分を学習する。	1.5 時間
	2	復習	生体の恒常性機構と健康維持の関係を理解する。	1.5 時間
4	講義内容	運動と健康(渡邊) 運動には、健康維持のための恒常性維持システムを正常に働かせるための運動と筋力を鍛えるための運動がある。ここでは、恒常性維持のための運動とその役割及び自立生活を支え、健康寿命を延ばすための筋力を鍛える運動について理解する。■		
	該当到達目標	予習	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
	2,3,4	復習	健康維持における運動の生理学的意義と健康寿命延伸に向けた運動について理解する。	1.5 時間
5	講義内容	喫煙による健康障害(渡邊) たばこが、発がん性だけでなく、血液循環障害や一酸化炭素中毒などの<喫煙と健康障害>のメカニズムについて理解する。<受動喫煙の影響>についても考える。■		
	該当到達目標	予習	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
	2,3,4	復習	喫煙とその健康障害及び健康障害の機序を理解する。	1.5 時間
6	講義内容	生活習慣病の起因となる肥満(五十嵐) 肥満は原因により原発性肥満(エネルギー摂取過多など)と二次性肥満(性腺機能低下など)に分けられるが、いずれも高血圧、糖代謝異常、脂質代謝異常などの代謝障害の基盤となり、虚血性心疾患や脳血管障害などの動脈硬化性疾患を発症する危険因子となる。それらの起因となる肥満の発症と予防について学習する。		
	該当到達目標	予習	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
	2,3,4	復習	肥満とメタボリックシンドロームの病態と対策を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	生活習慣病の危険因子としての糖尿病(五十嵐) 2型糖尿病(インスリン抵抗性糖尿病)は、冠状動脈や脳動脈の動脈硬化、さらには腎障害、視力障害及び神経障害の3大合併症の誘発のみならず、健康寿命短縮の危険因子でもある。危険因子としての糖尿病とその予防法について学習する。		
	該当到達目標	予習	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
	2,3,4	復習	糖尿病の病態と対策を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	生活習慣病(脳血管障害)と認知症(五十嵐) 血管性認知症はアルツハイマー病に次いで2番目に多い認知症である。脳は全身の20%近い血液を必要とする臓器であることから、その発症は循環器障害などの生活習慣病と密接に関係する。ここでは血管性認知症と他の認知症の病態を比較しながら、その予防と治療の現状について学習する。		
	該当到達目標	予習	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
	1,3,4	復習	認知症の病態と原因、予防、治療などの現状について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	ロコモティブシンドローム(渡邊) 脳卒中と運動器障害は介護の主要原因となっている。骨粗鬆症・サルコペニア・運動器不安定を特徴とするロコモティブシンドローム対策が健康寿命の延伸に重要である。ロコモティブシンドロームの早期診断と予防の重要性について理解する。		
	該当到達目標	予習	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
	3,4	復習	加齢に伴う運動器障害を理解し、早期診断と予防の重要性について理解する	1.5 時間
10	講義内容	生活習慣病(がん)と生活習慣(渡邊) 日本人の死亡原因の1位はがん、2位は心疾患、3位は脳卒中であり、いずれも生活習慣に起因する。ここでは、がんという疾患を理解し、がんを発症する生活習慣<(がん発症危険因子)>を知る。また、<がん予防のための生活習慣>及び早期発見・早期治療のための<がん検診>の重要性について理解する。■		
	該当到達目標	予習	「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
	3,4	復習	生活習慣と発がんとの関係を理解し、がん対策基本計画などその対策について学習する。	1.5 時間
11	講義内容	WHOの歴史と活動内容(蒲) 第2次世界大戦後に設立された国際専門機関として、戦後から現代にいたるまでの活動変遷を検証す		

		る。WHO の取り組みを理解し、現在ある WHO の問題点、改善点を考察する。健康であることがいかにその国の活力(国力)に寄与するかを理解する。		
	該当到達目標 1,4	予習	WHO ウェブサイトで該当部分を学習する	1.5 時間
		復習	国際機関での世界の保健戦略を学習する	1.5 時間
12	講義内容	WHO の戦略(蒲) アルマータ宣言で採択された「すべての人に健康を」スローガンのもとに、各国が公衆衛生の原点に立ち返り、保健行政戦略を作成、さらに現代進められている持続可能開発目標(SDGs)に向けたユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)にいたることを検証する。		
	該当到達目標 1,4	予習	WHO ウェブサイトで該当部分を学習する	1.5 時間
		復習	国際機関での世界の保健戦略を学習する	1.5 時間
13	講義内容	途上国の保健行政(蒲) 途上国の人種、風土、歴史的背景、宗教等を考察し、独自の保健行政戦略を実施しているが、その成果や反省点を検証し、日本における地域医療の課題を含めて、今後の対策を考察する		
	該当到達目標 1,3,4	予習	WHO ウェブサイトで該当部分を学習する	1.5 時間
		復習	国際機関で発展途上国への保健戦略を学習する	1.5 時間
14	講義内容	日本の保健行政と世界の保健行政(蒲) 膨大な医療・介護予算をどのように有効に使うか、保健医療行政の立場から検証考察をする。各国の取り組みを比較検証し、今後の行政の取り組みを考える。		
	該当到達目標 1,3,4	予習	厚生労働省のウェブサイトで該当部分を学習する。	1.5 時間
		復習	日本における厚生労働省の保健戦略と動向を理解する。	1.5 時間
15	講義内容	地域における健康支援チーム構成員とその役割(チーム医療)(渡邊) これまでは、健康管理は個人が自分自身の責任で行うとされてきたが、地域における集団での支えあいに重点を置くとされた。地域における健康支援には、本人、家族を中心に、医療専門職者、診療情報管理士、管理栄養士、福祉専門職者、その他多数の職種者からなる<健康支援チームによるチーム医療>が必要である。どのような職種がどのような役割を果たしてチームを構成して健康を支えようとしているのかを理解する。■		
	該当到達目標 4	予習	「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
		復習	地域包括ケアシステムを理解し、地域における健康づくりチームの構成員としての各人の役割を理解する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。 レポートの提出をもって出席とする。			

科目名	生涯学習概論(教養基礎)					科目 ナンバリング	LAB008			
英文名	Introduction to Lifelong Learning					講義形態	講義			
担当教員	平林 茂、三村 国宏									
科目に関連した 実務経験	(平林)公立小学校・中学校の教員、校長(経験)。群馬県教育委員会教育事務所指導主事・管理主監・ 所長。教育事務所では生涯学習教育の推進業務、社会教育主事及び地域・学校ボランティア対象の生 涯学習推進に関わる研修会講師(経験)。 (三村)公立中学校の教員、高等学校、中等教育学校の校長(経験)。伊勢崎市教育委員会(指導主事、 指導係長、教育プラン推進担当課長、学校教育課長)にてコミュニティ・スクール推進(経験)。大学・企業 との教育連携協定推進等(経験)。									
学年・開講期	1年 後期	選必・単位数	選択 2 単位							
関連資格										
学位授与方針 との対応	3	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	3	論理的思考力・問題解決力				4	生涯学習力			
	0	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	4 5 8 11									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○						○
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法	小テスト等についてコメントを行い、授業中に振り返り質疑応答の時間を設ける。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	人が学習する場は学校だけではなく、図書館・公民館等の社会教育施設やさまざまな団体での学 習機会などがある。本授業では生涯学習を実践していく上で必要な基礎的知識や多様な生涯学習 施設、学校の現状を学び、理解を深めていく。 授業の進め方:各テーマの説明に加え、話し合い活動や調査活動などを通して課題に取り組み、 その成果の発表などの学習活動を行います。今後、変化の激しい現代社会において重要になる「生 涯学習」について学ぶことは、社会の一員としての自己の生き方を考える上で意義が大きいと思 います。									
到達目標	1 生涯学習の理念や学校や社会教育施設などで行われる学習について理解する。■ 2 生涯学習に関わる様々な現代的課題の内容を把握しその解決に向けた考察をする。■ 3 社会を構成する一員として自らの生き方を積極的に考える。									
使用教材	『よくわかる生涯学習 改訂版』(香川正弘・鈴木眞理・永井健夫編、ミネルヴァ書房、2021 年 2,500 円(税別))									
参考文献	講義中に適宜、紹介する。									
評価方法	テストに 50%、小テストの評価 30%、日常点(授業への参加。授業態度。課題への取り組み、貢献 度等)に 20%を配分して総合評価をする。									
課題・評価に対す る フィードバック方法	授業中の貢献度や発表については、その都度評価する。 試験前後に出題の意図等を説明する。									
オフィスアワー (研究室)	月曜・1限、水曜・1限、 教職支援センター				メールアドレス (#→@)	平林 s-hirabayasi#takasaki-u.ac.jp 三村 k-mimura#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション、生涯学習の定義、制度(平林、三村)								
	該当到達目標 1,3	予習	シラバスを読み、講義の概要及び、「生涯学習とは何か」を理解する。						1.5	時間
		復習	テキストをまとめ、生涯学習の定義や制度について理解する。						1.5	時間
2	講義内容	生涯学習と人間形成■(三村)								
	該当到達目標 3	予習	生涯学習にわたる人間形成についてテキストなどで調べる。						1.5	時間
		復習	テキストや配布資料をまとめ、生涯学習について理解する。						1.5	時間
3	講義内容	生涯学習を支える思想(三村)								
	該当到達目標 1,3	予習	「生涯学習を支える思想」について、テキストや関連する図書などで調べる。						1.5	時間
		復習	生涯学習における「生きがい・健康づくり」についてまとめ、内容を理解する。						1.5	時間
4	講義内容	生涯学習の現代的課題①■(三村)								

	該当到達目標 2,3	予習	「健康・高齢者等」について、テキストや関連する図書などで調べる。	1.5	時間
		復習	テキストや資料をまとめ、内容を理解する。	1.5	時間
5	該当到達目標 2,3	講義内容	現代的課題②■(三村)		
		予習	「高度情報化と人権等」について、テキストや関連する図書などで調べる。	1.5	時間
	2,3	復習	テキストや資料を読んで、内容を理解する。	1.5	時間
		講義内容	現代的課題③■(三村)		
6	該当到達目標 2,3	予習	「国際交流と人権尊重」について、テキストや関連する図書などで調べる。	1.5	時間
		復習	テキストや資料をまとめ、内容を理解する。	1.5	時間
	2,3	講義内容	現代的課題④■(三村)		
		予習	「まちづくり等」についてテキストや関連する図書などで調べる。	1.5	時間
7	2,3	復習	テキストや資料をまとめ、内容を理解する。	1.5	時間
		講義内容	生涯学習の多様な学習方法■(三村)		
8	該当到達目標 1,2	予習	学習方法の類型等について関連する図書などで調べる。	1.5	時間
		復習	学習方法及び、持続可能な社会づくりへの取組について理解する。	1.5	時間
	1,2	講義内容	行政による生涯学習の振興(前編)(平林)		
		予習	国の行政による生涯学習支援策についてテキストなどで調べる。	1.5	時間
9	1,2	復習	テキストや協議内容をまとめ、内容を理解する。	1.5	時間
		講義内容	行政による生涯学習の振興(後編)■(平林)		
10	該当到達目標 1,2	予習	都道府県レベルの生涯学習支援策についてテキストや図書などで調べる。	1.5	時間
		復習	テキストや発表内容をまとめ、内容を理解する。	1.5	時間
	1,2	講義内容	民間団体・機関による生涯学習支援(前編)■(平林)		
		予習	それぞれの団体の活動内容について、テキストや図書などで調べる。	1.5	時間
11	1,2	復習	テキストや協議・発表内容をまとめ、内容を理解する。	1.5	時間
		講義内容	民間団体・機関による生涯学習支援(後編)■(平林)		
12	該当到達目標 1,2	予習	NPO、カルチャーセンターやスポーツ施設について、図書などで調べる。	1.5	時間
		復習	テキストや資料をまとめ、内容を理解する。	1.5	時間
	1,2	講義内容	施設に基づいた生涯学習活動(前編)(平林)		
		予習	社会教育施設についてテキストや関連する図書などで調べる。	1.5	時間
13	1,2	復習	テキストや発表内容をまとめ、内容を理解する。	1.5	時間
		講義内容	施設に基づいた生涯学習活動(後編)■(平林)		
14	該当到達目標 1,3	予習	博物館や青少年・女性教育施設についてテキストや図書などで調べる。	1.5	時間
		復習	テキストや発表内容をまとめ、内容を理解する。	1.5	時間
	1,2,3	講義内容	生涯学習社会において、どう生きるか(職業能力開発の生涯学習)(平林)		
		予習	講義内容に関連する項目について、図書などで調べておく。	1.5	時間
15	1,2,3	復習	図書や資料を読んで、内容を理解する。	1.5	時間
		合計時間(予習・復習)			
備考	毎回小テストや資料の提示を c-learning で行いますので、パソコン等を持参してください。 ■:実務経験に基づく内容を示す。				

科目名	生命と環境の科学(教養基礎)					科目ナンバリング	LAB009			
英文名	Science of Environment and Life					講義形態	講義			
担当教員	奥 浩之									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期		選必・単位数	選択 2 単位						
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	3	人間理解と倫理観			1	国際理解				
	1	論理的思考力・問題解決力			4	生涯学習力				
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	③⑥⑦⑨⑬									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	毎回、生命科学と環境科学の一つのトピックスについて、現状と問題・将来の課題など、高校までに学んだ知識をもとに、わかりやすく順を追って説明してゆく。具体的な事項を取り上げることで、漠然とした生命と環境についてのイメージを一新してもらうことを目的としている。生命分子の構造学習を行うことがあるので、各自で利用できるパソコンのあることが望ましい。(パソコンは持参する必要はなく、自宅で使用できればよい。)									
到達目標	1. 地球環境について元素、物質循環、気候変動の観点から説明できる。 2. 生命を構成する分子(核酸、タンパク質)について、分子構造、反応機構、応用の観点から説明できる。 3. 私たちの生活に関連して、食品、バイオマス、プラスチックごみ、医薬品や医療機器、のトピックスについて説明できる。 4. グローバルな視点から、新しい感染症、ワクチン開発、などのトピックスについて説明できる。 5. 様々な文献や資料を参照し、レポート形式または要約・箇条書きの形式でまとめられるようになる。									
使用教材	使用しない(講義にて用いるスライドを配布予定)									
参考文献										
評価方法	レポート課題 50%、授業参加度 50%									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出されたレポート課題に対しては、コメントを付けて返却または講義時間内に課題の解説を行うことで受講学生へフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	質問等は、授業開始前もしくは終了後に応じる。				メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する。				
1	講義内容	生命と環境ー自己紹介と研究について								
	該当到達目標 1,5	予習	(1)免疫系と免疫グロブリンについて調べてみよう。 (2)DNA 配列を測定する方法について調べてみよう。						1 時間	
		復習	(1)抗体医薬品について (2)免疫グロブリンの分子構造と役割について(特に IgG を構成する重鎖と軽鎖はどのような結合で結びついているか? 着目してみよう。) (3)次世代シーケンサーについて						1.5 時間	
2	講義内容	生命と環境ー地球における元素の循環								
	該当到達目標 1,5	予習	元素周期表(http://stw.mext.go.jp/series.html)を読んでみよう。						1 時間	
		復習	(1)人体を構成する元素の存在比 (2)主要元素・微量・超微量元素の具体的な元素名 (3)様々な元素の生体または医薬品における役割						1.5 時間	

3	講義内容	生命と環境－温室効果ガスによる地球温暖化		
	該当到達目標 1,5	予習	(1)ヒトの活動による、水需要の増大、化石燃料の大量燃焼、窒素肥料の大量使用と地球環境への影響について調べてみよう。	1 時間
		復習	(1)大気・土壌における物質循環 (2)水循環、窒素循環、炭素循環、硫黄循環、リン循環の特徴 (3)人類の活動による物質循環への影響	1.5 時間
4	講義内容	生命と環境－温室効果ガスによる地球温暖化		
	該当到達目標 1,5	予習	(1)温室効果ガスとは？温室効果は何故起こるか？調べてみよう。	1 時間
		復習	(1)地球上での物質循環は気候変動と密接に関連する (大気を暖める要因と冷やす要因) (物質循環の詳細な研究による、地球環境変化の予測) (2)IPCC 第 5 次報告書(2014 年)における RCP シナリオ (気候モデルによって予測された 21 世紀末の世界の気温) (世界全体の CO ₂ 累積排出量と気温上昇量は比例する) (3)国連気候変動枠組条約 (日本における温室効果ガス削減目標)	1.5 時間
5	講義内容	生命と生体分子・・・DNA 二重らせんと X 線構造解析		
	該当到達目標 2,5	予習	ワトソンとクリックによる DNA 二重らせんモデル (1)当時用いられた分子モデル(ロンドン・サイエンスミュージアム) http://www.sciencemuseum.org.uk/broughttolife/objects/display?id=6145 (2)1953 年の論文 http://www.nature.com/nature/dna50/watsoncrick.pdf (3)DNA 構造について(英文なので、最初は図を見るのがよい) 特に Figure 5 を見て、3 種類の二重らせん構造があることに注目しよう http://www.nature.com/scitable/topicpage/discovery-of-dna-structure-and-function-watson-397	1 時間
		復習	(1)DNA の分子構造は X 線回折法によって求められる (2)ブラッグの回折条件式 (3)DNA 繊維写真の X 型パターン	1.5 時間
6	講義内容	生命と生体分子・・・タンパク質の構造と機能		
	該当到達目標 2,5	予習	(1)タンパク質を構成する 20 種類のアミノ酸とは？ (2)アミノ酸の“光学活性”とは？	1 時間
		復習	(1)アミノ酸 20 種類の分子構造 (2)X 線回折測定によるタンパク質の 3 次元構造解析 (3)NMR 測定によるタンパク質の 3 次元構造解析	1.5 時間
7	講義内容	生命と生体分子・・・さまざまなタンパク質		
	該当到達目標 2,5	予習	(1)膜タンパク質とは？ (2)リボソームにおけるタンパク質合成 (3)アイスクリームの成分について。特に、低脂肪アイスクリームはなぜ低脂肪なのか？調べてみよう。	1 時間
		復習	(1)70S リボソームと tRNA の分子構造(PDB ID: 4v4j) (PDB ID: 2tra) (2)カルモデュリンの分子構造変化(PDB ID: 3cln) (PDB entry 2bbm)	1.5 時間
8	講義内容	生命と生体分子・・・ヘム蛋白(Mb、Hb、Cyt c、CYP450)		
	該当到達目標	予習	(1)ヘムタンパク質とは？ (2)ミオグロビンとヘモグロビンの違いは？	1 時間

			(3)CYP3A4 とは？	
	2,5	復習	(1)ミオグロビン (PDB ID, 1A6M) (2)チトクローム c (PDB ID, 2B4Z) (3)チトクローム P450 (PDB ID, 1W0E) (4)医薬品の代謝における CYP3A4 の影響について	時間 1.5
9	講義内容	ヒトの活動と環境・・・さまざまな医薬品		
	該当到達目標 2,5	予習	(1)コレステロールと高コレステロール血症 (2)認知症とコリン仮説について (3)ポリ乳酸とは？	1 時間
		復習	(1)スタチン (2)タクロリムス (3)ドネペジル (4)レボフロキサシン	1.5 時間
10	講義内容	ヒトの活動と環境・・・バイオマスとバイオリファイナリー		
	該当到達目標 3,5	予習	(1)バイオマスとは？ (2)バイオエタノールとは？ (3)プラスチックゴミ問題とは？	1 時間
		復習	(1)バイオリファイナリーとは？ (2)バイオガソリンの成分は？ (3)バイオマスプラスチックの具体的な事例は？	1.5 時間
11	講義内容	ヒトの活動と環境・・・食品の安全確保(加工食品の成分)		
	該当到達目標 3,5	予習	(1)アクリルアミドの分子構造、用途、注意点	1 時間
		復習	(1)行政(農水省)では加工食品の安全確保についてどのような活動をおこなわれているか？	1.5 時間
12	講義内容	ヒトの活動と環境: 食べると甘い香りが発散するお菓子について		
	該当到達目標 3,5	予習	(1)ワインやコーヒーの香りを分析する装置について調べてみよう(ヘッドスペース装置の付いたガスクロトグラフィー/質量分析計) (2)ヒトにおける薬物代謝のしくみ	1 時間
		復習	(1)ヒトの体の匂いに関与する成分はどのようにして分析されたか？ (2)お菓子を食べてから、体表面から香気成分が発散するまでの経路は？ (ヒトにおける薬物代謝から説明してみよう。)	1.5 時間
13	講義内容	生命と環境・・・さまざまな感染症(AIDS, 結核, マラリアなど)		
	該当到達目標 4,5	予習	(1)感染症とは？	1 時間
		復習	(1)さまざまな感染症について (2)薬剤耐性について	1.5 時間
14	講義内容	生命と環境・・・インフルエンザワクチンの成分		
	該当到達目標 4,5	予習	(1)ワクチンによる予防免疫のしくみ	1 時間
		復習	(1)様々なインフルエンザの治療薬について (2)様々なインフルエンザワクチンについて	1.5 時間
15	講義内容	生命と環境・・・グローバル化によって必要となる新しいワクチン		
	該当到達目標 4,5	予習	(1)蚊によって媒介される感染症とは？ (2)グローバル化におけるヒトの移動や経済活動の活発化について	1 時間
		復習	(1)グローバル化と感染症の拡大はどのように関係するか？ (2)新しいワクチンの開発例について	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				37.5 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完してください。			

科目名	国際関係論(教養基礎)						科目ナンバリング	LAB010			
英文名	International Relations						講義形態	講義			
担当教員	片桐 庸夫										
科目に関連した実務経験											
学年・開講期	2 年 前期		選必・単位数		選択 2 単位						
履修を必須とす資格	特になし。世界の動き、平和、戦争、日本の進路などについて関心のある学生の履修が望ましい。										
学位授与方針との対応	3	豊かな人間性と幅広い教養				1	コミュニケーションスキル				
	2	健康・医療および情報に関する知識・技能				3	生涯学習力				
	1	問題解決力									
SDGs との関連	①	②	⑤	⑥	⑩	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他	
										○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法	毎回当日の講義内容に関する 10-15 分程度のレポートを課し、学んだ内容についての確認を求める。翌週に問題提起、結論、段落の付け方、使用すべき漢字、レポートの書き方、内容の評価、問題点を指導する。授業中に質問をすることによって学生との対話の機会を設け、参加意識を高める。										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 新聞、テレビ、インターネット等のニュースを見て、世界の動きや日本の外交について理解出来るようになること。 ② 配布プリントを中心に、講義を行います。現代世界を象徴するドキュメントを収録した DVD を数回用います。また、授業の最後に毎回レポートを実施する。指導方法は上記の通り。毎回課すレポートの評価を基に成績評価を行うので、前期試験は行わない。										
到達目標	1. 現代世界の理解 2. 第 2 次世界大戦後の世界の基本構造の理解 3. 国家間の対立要因の理解 4. 国家間の相互理解の理解 5. 自由主義イデオロギーと社会主義イデオロギーの理解 6. 現代の戦争の特徴についての理解 7. 国家の安全保障の理解 8. 核の下での平和の理解 9. 国際秩序概念の理解 10. 国際秩序の喪失と国際テロ、難民、民族や宗教の違いに基づく紛争発生要因の理解 11. 戦後日本の原型についての理解 12. 戦後日本外交の歩み、「戦後」克服の意味の理解 13. 日本の課題である国際貢献問題の理解										
使用教材	配布するプリントを教材として用いる。										
参考文献	細谷雄一『国際秩序』中公新書。高坂正堯『国際政治』中公新書										
評価方法	講義の最後に毎回行うレポート評価試験(60%)、講義参加・貢献度(40%)等により総合評価を行う。										
課題・評価に対するフィードバック方法	原則としてレポートを課した翌週の講義の際に論文やレポートの書き方、文体、文の構成、意味の曖昧な表現、誤字脱字等について指導する。										
オフィスアワー (研究室)	・前期木曜日の昼休み ・非常勤講師控室 随時来てください。講義の後に直接訊ねることも可。				メールアドレス (#→@)		連絡手段は初回授業時に提示する。				
1	講義内容	講義概要(講義の展開、出席の取り方、レポートの書き方、成績評価等)についての説明を行う。									
	該当到達目標	予習	シラバスを読んでおくこと。							0 時間	
		復習	講義概要の確認を行いこと。							1 時間	
2	講義内容	世界の混迷した状況、中国の現状打破勢力としての台頭、米中の覇権争い等について理解する。									
	該当到達目標	予習	1 週間分の新聞の 1,2 面の記事に目を通しておくこと。							2 時間	

	1,3,7,8,10	復習	ノートテイキングした部分の加筆、整理、それに新聞記事の内容を付加すること。	2 時間
3	講義内容	「冷戦の特異性」の意味と大規模な戦争の後に起こりやすい戦勝同盟国間の対立を理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントのウィーン会議の部分をよく読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,9	復習	細谷雄一『国際秩序』中公新書の p.115-120,282 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
4	講義内容	戦勝同盟国間の対立の典型的例であるウィーン会議について理解する。		
	該当到達目標	予習	ウィーン会議参加国の価値観の共有についてプリントを利用して予習すること。	1.5 時間
	2,4,7	復習	『国際秩序』の p.121-124 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
5	講義内容	国際コミュニケーションにとって重要な価値観の共有の意味について理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントの価値観の共有の項を読んでおくこと。	1.5 時間
	3,4,5	復習	『国際秩序』の p.128-130 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
6	講義内容	ウィーン会議とは正反対に共通の価値観の欠如していた米ソ間の体制間対立について理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントの体制間対立の項を読んでおくこと。	1.5 時間
	2,3,4,5,8	復習	『国際秩序』の p.237-241 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
7	講義内容	米ソ間のイデオロギー対立について理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントのイデオロギー対立の項を読んでおくこと。	1.5 時間
	3,5,7	復習	『国際秩序』の p.237-241 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
8	講義内容	米ソ両国間の安全保障観の相違と戦争の性格の変化(DVD 画像による)について理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントの安全保障観の相違と戦争の性格の変化の項を読んでおくこと。	2 時間
	6,7,8	復習	DVD 画像を観ながらノートテイキングしたメモを参考にノートにまとめること。	2 時間
9	講義内容	冷戦の定義、それに基づく冷戦の起源と終焉について理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントの冷戦の定義とそれに基づく冷戦の起源と終焉についての項を読んでおくこと。	1.5 時間
	2,6,7,8	復習	永井陽之介『冷戦の起源』中央公論社の p.6-10 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
10	講義内容	世界を滅ぼすことも可能な究極の兵器である核の下の平和について理解する。		
	該当到達目標	予習	究極の兵器がもたらした核の下の平和についての項を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,6,7,8	復習	『国際秩序』の p.253-255 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
11	講義内容	冷戦の逆説である戦後の長い平和について理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントのガディスの逆説論についての項を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,7,8,9	復習	『国際秩序』の p.256-260 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
12	講義内容	冷戦の終焉と終焉後の世界の不安定化の理由・要因について理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントの国際秩序維持勢力の喪失と国際秩序の喪失の項を読んでおくこと。	1.5 時間
	2,7,9	復習	『国際秩序』の p.281-285 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
13	講義内容	冷戦後初の戦争「湾岸戦争」の意義、テロ・民族対立・宗教対立、難民の大量発生理由、冷戦と呼ばれた戦後の米ソ対立と今日の米中対立との違いについて理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントの湾岸戦争、国際秩序なき時代についての項を読んでおくこと。	1.5 時間
	6,7,10	復習	『文明の衝突と 21 世紀の日本』集英社新書の P.21-36 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
14	講義内容	終戦、米国の対日占領政策、天皇制存置、SF 講和、憲法第 9 条、日米安保について理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントの終戦から SF 講和に至る項を読んでおくこと。	1.5 時間
	7,11,12	復習	小此木・赤木共編『冷戦期の国際政治』慶應義塾大学出版会の p.288-306 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
15	講義内容	「戦後」の克服の意味、今日の日本が直面する外交の課題について理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントの「戦後」の克服、国際貢献問題の項を読んでおく。	1.5 時間
	1,10,13	復習	講義中に配布する新聞の切り抜き記事を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間

合計時間(予習・復習)		45 時間
備考	「復習」に挙げられている本は、参考文献も兼ねている。随時利用すること。予習・復習の結果、不明な点、理解しにくい、または出来ない点などあれば、遠慮なく質問すること。	

科目名	体育理論(基礎教養)							科目 ナンバリング	LAB011	
英文名	Theory of Physical Educatin							講義形態	講義	
担当教員	入澤 孝一									
科目に関連した 実務経験	① 中学校・高等学校保健体育教員 県教委指導主事としての実務経験 ② 日本スケート連盟上級コーチ及び医科学スタッフとしての指導研究経験 ③ JOCコーチ、オリンピックヘッドコーチとして指導経験									
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	選択 1 単位							
履修を必須とする 資格	養護教諭一種免許 選択必修科目									
学位授与方針 との対応	6	人間理解と倫理観					0	国際理解		
	3	論理的思考力・問題解決力					1	生涯学習力		
	0	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	③ ④ ⑤									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○						
「その他」のアクテ ィブラーニング実施 方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	スポーツ科学及びトレーニングの基礎理論について学び、医療従事者として社会に貢献する人材を育成する。									
到達目標	1 トレーニングの基礎理論について理解する。 2 スポーツが健康維持増進に果たす役割について理解する。									
使用教材	自作資料により授業を実施する。									
参考文献	健康運動実践指導者養成用テキスト									
評価方法	1 授業の要点についてのレポート提出によって評価する。 2 授業時の小テストにより評価する。 レポート70% 小テスト30%とする。									
課題に対する フィードバック	課題レポートは、コメントをつけ返却する。 始業時に前授業の小テストにより、前時の知識の定着を図る。									
オフィスアワー (研究室)	毎週 水曜日 202 研究室				メールアドレス (#→@)		irisawa#takasaki-uac.jp			
1	講義内容	データで見る日本の健康と課題								
	該当到達目標	予習	次授業の課題を事前配布 授業開始時に課題の発表等						2	時間
	2	復習	授業終了時のレポート作成						1	時間
2	講義内容	生活習慣病と運動								
	該当到達目標	予習	次授業の課題を事前配布 授業開始時に課題の発表等						2	時間
	2	復習	授業終了時のレポート作成						1	時間
3	講義内容	骨格と筋肉 正しい姿勢を保持するためにトレーニング■								
	該当到達目標	予習	次授業の課題を事前配布 授業開始時に課題の発表等						2	時間
	1	復習	授業終了時のレポート作成						1	時間
4	講義内容	筋肉とトレーニング効果及びアップ・ダウンの方法■								
	該当到達目標	予習	次授業の課題を事前配布 授業開始時に課題の発表等						2	時間
	1	復習	授業終了時のレポート作成						1	時間
5	講義内容	トレーニングの原則と中高校生の競技力向上■								
	該当到達目標	予習	次授業の課題を事前配布 授業開始時に課題の発表等						2	時間
	1	復習	授業終了時のレポート作成						1	時間
6	講義内容	ジュニア期・高齢者の基本的な生活習慣とスポーツ栄養■								
	該当到達目標	予習	次授業の課題を事前配布 授業開始時に課題の発表等						2	時間
	1	復習	授業終了時のレポート作成						1	時間
7	講義内容	ジュニア期のスポーツ障害の予防■								

	該当到達目標	予習	次授業の課題を事前配布 授業開始時に課題の発表等	2 時間
	1、2	復習	授業終了時のレポート作成	1 時間
8	講義内容	トップアスリート育成を目指した競技力向上対策■		
	該当到達目標	予習	次授業の課題を事前配布 授業開始時に課題の発表等	2 時間
	1、2	復習	授業終了時のレポート作成	1 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	○ 対面授業で実施し、授業資料は事前に C-Learning にアップする。 ○ レポート提出により、評価と出欠確認を行う。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	体育実技(教養基礎)						科目 ナンバリング	LAB012		
英文名	Physical Education						講義形態	実習		
担当教員	入澤孝一 河野さゆり									
科目に関連した 実務経験	中学校・高等学校の保健体育教諭としての実務及び県教委指導主事としての実務を実務 日本スケート連盟上級コーチとして医科学研究、及びオリンピックヘッドコーチ等の実務経験 高校非常勤講師、エアロビックダンスインストラクター(現在)									
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	選択 1 単位							
履修が必須となる 資格	養護教諭一種免許 選択必修科目									
学位授与方針 との対応	6	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	3	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	0	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	③ ⑯									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○		○				
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	医療従事者として基礎的なスポーツ科学、トレーニング理論及び体力測定について身に付ける。特に新 体力テストの測定方法と測定結果に基づいたトレーニングを実施する。中・高齢者が健康に活動するた めのスポーツや動きづくりの実技・方法について習得する。									
到達目標	1.新体力テストの測定方法と評価について理解する 2.身体組成と有酸素トレーニングの理論と実施方法について理解する 3. バドミントンや各種レクリエーションゲームの基礎的な動きづくりについて習熟する 4.初動負荷マシンの使用に習熟し、中・高齢者を対象とした初動負荷トレーニングを実施する									
使用教材	自作パワーポイント資料のプリント配布 及び著書を利用する									
参考文献										
評価方法	授業終了時に出したレポート課題の提出による評価 40% 授業参加度、授業態度 40% 最終授業でレポート試験 20%									
課題に対する フィードバック	レポート課題について評価し、コメントをつけて返却する。 正確な動きが自ら出来て、指導できるように練習する。									
オフィスアワー (研究室)	質問等は授業開始前もしくは終了後 に応じる。				メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示す る。				
1	講義内容	ガイダンス及び新体力テストの概要について(目的と方法)								
	該当到達目標	予習	シラバスについて目を通してくる						1.5 時間	
	1	復習	授業内容、評価方法、新体力テストについて確認する						1.5 時間	
2	講義内容	新体力テストを実施する■								
	該当到達目標	予習	新体力テストの実施方法を練習してくる						1.5 時間	
	1	復習	新体力テストが正しくできたかを確認する						1.5 時間	
3	講義内容	新体力テストの実施結果に基づき評価する■								

	該当到達目標	予習	自分の測定結果について評価してまとめてくる	1.5 時間
	1	復習	自己の測定結果、全体の結果の分析について確認する	1.5 時間
4	講義内容	身体組成(インピーダンス)測定を実施し評価について学習する■		
	該当到達目標	予習	身体組成について事前に調べる	1.5 時間
	1	復習	自己の測定データについて確認する	1.5 時間
5	講義内容	有酸素運動の理論を学び、実践を通じて理解を含める■		
	該当到達目標	予習	有酸素運動について調べる	1.5 時間
	2	復習	有酸素運動について確認する	1.5 時間
6	講義内容	有酸素運動の理論を学び、実践を通じて理解を含める■		
	該当到達目標	予習	予め測定に向け、日常生活で有酸素的な運動を心がけておく	1.5 時間
	2	復習	測定データを確認する	1.5 時間
7	講義内容	球技(バドミントン)・レクリエーションゲームの実践と方法を習得する■		
	該当到達目標	予習	有酸素運動について調べる	1.5 時間
	2	復習	有酸素運動について確認する	1.5 時間
8	講義内容	球技(バドミントン)・レクリエーションゲームの実践と方法を習得する■		
	該当到達目標	予習	予め日常生活で無酸素的な運動を心がけておく	1.5 時間
	2	復習	測定データを確認する	1.5 時間
9	講義内容	球技(バドミントン)・レクリエーションゲームの指導を実践する■		
	該当到達目標	予習	レジスタンストレーニングについて調べる	1.5 時間
	3	復習	レジスタンストレーニングの理論と留意点について確認する	1.5 時間
10	講義内容	初動負荷マシンの使用方法の習得①■		
	該当到達目標	予習	初動負荷マシンについて調べる	1.5 時間
	3	復習	初動負荷マシンの使い方を確認する	1.5 時間
11	講義内容	初動負荷マシンの使用方法の習得②■		
	該当到達目標	予習	初動負荷マシンの使い方の練習をしてくる	1.5 時間
	3	復習	初動負荷マシンの使い方を確認する	1.5 時間
12	講義内容	中・高齢者を対象とした初動負荷マシンのトレーニング①■		
	該当到達目標	予習	中・高齢者の運動の留意点について調べる	1.5 時間
	3	復習	初動負荷マシンの使い方を確認する	1.5 時間
13	講義内容	中・高齢者を対象とした初動負荷マシンのトレーニング②■		
	該当到達目標	予習	初動負荷マシンの使い方の練習をしてくる	1.5 時間
	3	復習	初動負荷マシンの使い方を確認する	1.5 時間
14	講義内容	中・高齢者を対象とした初動負荷マシンのトレーニング③■		
	該当到達目標	予習	初動負荷マシンの使い方の練習をしてくる	1.5 時間
	3	復習	初動負荷マシンの使い方を確認する	1.5 時間
15	講義内容	試験 課題レポート■		
	該当到達目標	予習	授業で実施した各種トレーニングの方法について復習してくる	1.5 時間
	1,2,3, 4	復習	トレーニングの基礎理論や方法が理解できたかを確認する	1.5 時間
合計時間 (予習・復習)				45 時間
備考	1 映像配信によるオンライン授業として実施する。 2 授業前に十分なアップとダウンを実施する事 3 各自がパソコンの前で実技を実施する形式となる。 4 映像は事前配信するので、オンデマンドによって自習できるように配慮する。 5 レポート提出によって出席を確認する。			

	6 実技内容のレポート課題は、実技を実施・体験したときの感覚や自己評価を中心とした課題とする。 ■:実務経験に基づく内容を示す。

科目名	キャリア形成論(教養基礎)							科目ナンバリング	LAB013	
英文名	Career Development							講義形態	講義	
担当教員	小泉 英明									
科目に関連した実務経験	社員研修・人材育成・能力開発・キャリア開発のコンサルタント、トレーナーとして各企業・自治体で指導									
学年・開講期	1 年 前期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	4	人間理解と倫理観				1	国際理解			
	2	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	2	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	4 8									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○	○	○	○		○				○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	小テスト・レポートに対してコメントを付し返却、授業中に振り返りや質疑応答の時間を設ける。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	AI(人工知能)をはじめとする各種テクノロジーの進化や地球規模的な気候変動など、社会は今、大きな激動期を迎えています。そのような中で、私たちを取り巻く経済・雇用環境も目まぐるしく変わり、生活や仕事の内容までもが大きく変わりつつあります。 本講座ではそのような社会の動きを見据え、私たちが近い将来に求められる『能力』について理解を深めるとともに、キャリア形成の基盤づくりを行います。 授業では社会で求められている高次元のコミュニケーション能力や思考力、さらには問題解決能力などの『社会人基礎力』を身につけるとともに、ケーススタディ等によって社会適応力を習得します。また本学卒業後、社会人として適切なスタートを切ることができるよう、“自身”の強化プラン策定と目標管理ができる自律的人材の養成を目指します。 【授業期間全体を通じた授業の進め方】 教員作成のレジュメを使い、要点をまとめていきます。授業では、ニュースで取り上げられる時事について考察しながら、卒業後における社会の中でどのように取り組んでいくべきか実体験を織り交ぜた説明を行います。また必要な箇所についてはグループディスカッションを行うとともに、理解度を深めるための課題を課します。									
到達目標	1. 社会の出来事を理解し、社会に通用する就業観、勤労観を学ぶ。■ 2. 自己の成長に向けて、自己を正しく理解するとともに、自己効力感を養う。■ 3. 社会人基礎力を理解し、社会適応力を身につける。■ 4. コミュニケーションの基本を身につけ、高次元のコミュニケーション力を身につける。■ 5. 論理を組み合わせる手法を学び、論理的思考力を高める。■ 6. アイデアの出し方を学び、創造的思考力を高める。■ 7. 気づく力を身につけ、問題発見能力を高める。■ 8. 問題解決のスキルと手法を学び、問題解決能力を高める。■ 9. 自己変革のために必要な自身の問題点を探る。■ 10. 自律型人材に向けての目標管理ができる。■ 11. 社会における人間関係を学び、社会適応力を高める。■									
使用教材	C-learning を利用し、各学生に教員作成の教材データを授業前に配信します。									
参考文献	授業内で提示します。									
評価方法	ファイナルレポート 60%、毎授業後の提出課題 30%、授業参加度・授業態度 10% それぞれの評価基準については初回授業で説明します。総合評価 60%以上を合格とします。									
課題・評価に対するフィードバック方法	授業後の課題レポートについては、随時コメントをつけてフィードバックします。 ファイナルレポートに関するフィードバックは、出題テーマの意図などを含め掲示等で行います。									
オフィスアワー (研究室)	木曜日(12~17 時)				メールアドレス (#→@)		連絡手段は初回授業時に提示します。			
1	講義内容		ガイダンス／キャリア形成のために必要なこと■							

	該到達目標	予習	事前配信教材をはじめ、新聞、テレビ、ネットなどのニュースから、社会の出来事を理解して臨む。	1.5	時間
	1	復習	キャリア形成に必要なコアコンピタンスを理解する。	1.5	時間
2	講義内容	先行きの予測が困難な時代／社会が求める人材■			
	該到達目標	予習	事前に配信する第 2 回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5	時間
	1,3	復習	キャリア形成に必要な「社会人基礎力」について理解を深める。	1.5	時間
3	講義内容	自己の理解■			
	該到達目標	予習	事前に配信する第 3 回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5	時間
	2	復習	自己理解を深め、自己効力感と自身のパーソナリティを理解する。	1.5	時間
4	講義内容	コミュニケーション力■			
	該到達目標	予習	事前に配信する第 4 回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5	時間
	3,4	復習	チェックシートによって自身のコミュニケーション力を客観的につかむ。	1.5	時間
5	講義内容	実践コミュニケーション力■			
	該到達目標	予習	事前に配信する第 5 回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5	時間
	3,4	復習	コミュニケーションの重要ポイントを理解し、自身の弱点と強化ポイントをつかむ。	1.5	時間
6	講義内容	気づく力(問題発見能力)■			
	該到達目標	予習	事前に配信する第 6 回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5	時間
	3,7	復習	事例研究に取り組む。※問題解決に繋がることを理解する。	1.5	時間
7	講義内容	考える力Ⅰ(ロジカルシンキング・クリティカルシンキング)■			
	該到達目標	予習	事前に配信する第 7 回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5	時間
	3,5	復習	事例研究によって論理的思考を理解する。	1.5	時間
8	講義内容	考える力Ⅱ(クリエイティブシンキング)■			
	該到達目標	予習	事前に配信する第 8 回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5	時間
	3,6,7,8	復習	事例研究によって創造的思考の重要性を理解する。アイデア発想の演習を行う。	1.5	時間
9	講義内容	創造力を伸ばす■			
	該到達目標	予習	事前に配信する第 9 回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5	時間
	3,6,7,8,9	復習	事例研究によって創造力の阻害要因を理解し、力を伸ばすポイントをつかむ。	1.5	時間
10	講義内容	問題解決能力Ⅰ(問題点を探る・WHY ツリー)■			
	該到達目標	予習	事前に配信する第 10 回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5	時間
	3,7,8,9	復習	自身が抱える問題の「問題点」を WHY ツリーで探る。	1.5	時間
11	講義内容	働く意味／「仕事力」と「就業力」■			
	該到達目標	予習	事前に配信する第 11 回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5	時間
	1,3	復習	自身の「仕事観」「就業観」を見つめ、自身の将来について深く考える。	1.5	時間
12	講義内容	問題解決能力Ⅱ(問題解決の手法・HOW ツリー／課題発見・目標設定)■			
	該到達目標	予習	事前に配信する第 12 回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5	時間

	3,8,9,10	復習	自身の課題を HOW ツリーで探り、今後の目標・計画を設定する。	1.5	時間
13	講義内容	社会における人間関係 ■			
	該当到達目標	予習	事前に配信する第 13 回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5	時間
	3,11	復習	人との接し方と、よりよい人間関係を築く方法を理解する。	1.5	時間
14	講義内容	自己の確立(バリュープロポジションとキャリア自律) ■			
	該当到達目標	予習	事前に配信する第 14 回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5	時間
	3,10	復習	将来のキャリア形成に向けて、キャリア自律の重要性を理解する。	1.5	時間
15	講義内容	ストレスマネジメント ■			
	該当到達目標	予習	事前に配信する第 15 回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5	時間
	3,11	復習	ストレス対処法と対人耐性力を理解し、社会進出後のストレスに対する耐性力を高める。	1.5	時間
合計時間(予習・復習)					45 時間
備考	C-learning にて配信する教材をもとに予習し、授業に臨んでください。教材はファイリングし、いつでも内容を振り返ることができるようにしてください。また、毎受講後、提示された課題についてレポートを提出してください。授業は積み上げ方式で進めていきますから、わからないことがないように授業後は必ず復習してください。新聞、テレビ、ネットなどのニュースには常に興味を持ち、社会の出来事を理解し授業に臨んでください。 〔看護師・保健師・養護教諭として求められる基本的な資質〕 ① 看護師・保健師・養護教諭として、人の役に立つという心構え ② 患者・生活者本位の視点 ③ コミュニケーション能力 ④ チーム医療への参画 ⑤ 自己研鑽 ■:実務経験に基づく内容を示す。 ※教員作成のレジュメ(上記使用教材)を使い、要点をまとめていきます。授業では、ニュースで取り上げられる時事について考察しながら、卒業後における社会の中でどのように取り組んでいくべきか、実体験を織り交ぜた説明を行います。必要な箇所においてはグループディスカッションを行うとともに、理解度を深めるための課題を課します。 ※オンラインで授業を行う場合(※オンデマンド) ① 教材のデータを授業日の 3 日前までに配信します。 ② 事前に配信された教材の内容を良く理解して講義に臨んでください。 ③ 毎受講後、提示された課題についてレポートを提出してください。(提出期限を厳守してください) ④ 提出されたレポートについては、随時コメントをつけてフィードバックします。 ⑤ 授業への出席は、レポートの提出をもって「出席」とします。 ⑥ 期末試験はレポート(ファイナルレポート)にて行い、第 15 回の授業後に提出の予定です。 ⑦ 評価方法は以下の通りです。 ファイナルレポート 60% 毎授業後の提出課題レポート 30% 授業参加度 10%				

科目名	哲学(人間理解)							科目ナンバリング	LAH001	
英文名	Philosophy							講義形態	講義	
担当教員	大石 桂子									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	6	人間理解と倫理観				1	国際理解			
	1	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	① ② ③ ④ ⑤ ⑧ ⑩ ⑯									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○					○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	「他者とどう関わっていけばよいか」「絶対に正しいことはあるのか」、「病気や“弱さ”にどう向き合うか」。普段は漠然と理解しているように感じることに、改めて疑問を持ち考えるのが哲学である。本講義では身近な題材をもとに医療・福祉・健康分野に関わる者として考えておきたいトピックを取り上げる。哲学者たちの議論や、統計からみえる社会情勢などを手引きとして、論理的に考えていくための基礎力を身につける。 配布プリントを中心に講義を行い、定期的に課題を提示し、学生同士が意見交換する場を設ける。									
到達目標	1. 人と人、人と社会の関係、平等性、自由と責任などについて、多様な視点から説明できる。 2. 共生の意義や、弱者の排除が社会にもたらす影響を説明できる。 3. 各テーマについて、自分の意見をもつことができる。 4. 課題やグループワークを通して、自分の考えを他者に伝わりやすく表現できる。 5. 自分と異なる他者の考えを受け止め、そこから新たな発見ができる。									
使用教材	講義中にプリントを配布する。									
参考文献										
評価方法	定期試験(60%)、講義中に作成する課題(40%)に、参加態度を加えて総合的に評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出された課題の内容にコメントを付けて、授業中に紹介する。									
オフィスアワー (研究室)	水曜日の 2 時限、金曜日の 2 時限。 (1 号館 6 階 601)				メールアドレス (#→@)		oishi#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容をよく読み、講義の目標や取り扱う内容を理解する。						1 時間	
	1	復習	「哲学」の目標、学ぶ意義について理解する。						1.5 時間	
2	講義内容	自分と他者(1)「人に認められたい」のは本能?——ヘーゲル								
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。						1 時間	
	1,3	復習	ヘーゲルのいう「承認への欲求」を理解する。						1.5 時間	
3	講義内容	自分と他者(2)「本当の自分」とは何か——キルケゴール								
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。						1 時間	
	1,3	復習	キルケゴールの「大衆と実存」の違いを理解する。						1.5 時間	
4	講義内容	自分と他者(3)人と人との関係性——ブーバー、サルトル								

	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	1,3	復習	第 2 回から第 4 回までの内容を整理する。	1.5 時間
5	講義内容	ディスカッション——これからの自分に大切なこと		
	該当到達目標	予習	第 2 回から第 4 回までの内容について、自分の考えをまとめる。	1 時間
	1,3,4,5	復習	自分にとって大切なことを改めて熟考し、課題を仕上げる。	1.5 時間
6	講義内容	平等と共生(1)誰もが信じられる正しさはあるか——ロールズ		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	2,3	復習	「機会の平等」と「結果の平等」を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	平等と共生(2)環境は人の心にどう影響するのか		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	2,3,4	復習	「無知のヴェール」について理解する。平等について課題を仕上げる。	2 時間
8	講義内容	自由・正しい自己決定のために——カント		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	1,3	復習	「自律」の意義について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	心と身体(1)「私」を形づくるのは心か身体か——ニーチェ		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	2,3	復習	身体がものの見方や価値観に影響する例を考える。	1.5 時間
10	講義内容	心と身体(2)人間の中心は脳なのか		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	2,3	復習	脳死の問題について理解する。	1.5 時間
11	講義内容	エンハンスメント(1)変化する「病」の定義		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	2,3	復習	エンハンスメントや「医療化」について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	エンハンスメント(2)「弱さ」を否定する社会——ハーバーマス、サンデル		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	2,3	復習	弱さを排除した場合の社会的影響について理解する。	1.5 時間
13	講義内容	ディスカッション——医療技術と自己決定		
	該当到達目標	予習	個人の欲求でどこまで医療技術を利用してよいか、自分の考えをまとめる。	1 時間
	2,3,4,5	復習	エンハンスメントについての自分の考えをまとめる。	1.5 時間
14	講義内容	責任(1)責任の範囲はどこまで？——アリストテレスほか		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	1,3	復習	責任が問われる基準について理解する。	1.5 時間
15	講義内容	責任(2)「何もしなかった」ことに責任はあるのか——ヤスパース		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	1,3,4	復習	講義中にあげた事例について、自分の考えを課題にまとめる。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				38 時間
備考	本講義では知識の修得だけでなく、みずから考えることを重視するので、課題など積極的に取り組むこと。 予習・復習については試験前の学習で補完すること。 *オンライン授業になった場合は、C-Leaning 上で講義資料(PDF ファイル等)を閲覧し、課題を提出する形式とする。			

科目名	倫理学(人間理解科目)						科目ナンバリング	LAH002		
英文名	Ethics						講義形態	講義		
担当教員	大石 桂子									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期		選必・単位数		選択・2 単位					
関連資格										
学位授与方針との対応	6	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	3	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	0	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	③ ⑧ ⑯									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼン テーショ ン	演習、実験実 習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○					○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①講義の目標： 近年、価値の多様化や先端医療技術の発展によって、人間が「生む・生まれる」「生きる」「死を迎える」というそれぞれの段階に、様々な葛藤がある。本講義では、「善さとは何か」「善く生きるためには、どうすればよいのか」「医療技術は私たちの生き方／死のあり方をどう変えていくのか」といったトピックを取り上げる。そうした対立が生じる背景、問題を理解するとともに、みずから判断する力を養う。 ②講義の実施方法： 配布プリントを中心に講義を行う。定期的に課題を提示し、学生同士が意見を共有する場を設ける。									
到達目標	1. 自己決定の重要性と課題について理解し、説明できる。 2. 善悪の判断基準(目的論と義務論など)について理解し、説明できる。 3. 尊厳死、脳死臓器移植など、現代医療の問題を多角的に理解し、説明できる。 4. 個人と社会の関係性を考察し、よりよいあり方について考えを深めることができる。 5. 各テーマに関してみずから考え、その考えを適切に表現、伝えることができる。									
使用教材	講義中にプリントを配布する。									
参考文献	講義中に指示する。									
評価方法	定期試験(60%)、予習課題・ミニレポート(40%)に、講義への参加態度等を加えて総合的に評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	レポート課題については、コメントを添えて講義中に紹介する。									
オフィスアワー (研究室)	水曜日の 2 時限、金曜日の 2 時限。 (1 号館 6 階 601)				メールアドレス (#→@)		oishi#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス								
	該当到達目標	予習	シラバスに目を通し、講義目標や内容を確認する。						1 時間	
		復習	講義内容、評価方法などについて理解する。						1 時間	
2	講義内容	なぜ自己決定が重視されるのか——「自由」の社会的・思想的背景								
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。						1 時間	
		1	復習	自己決定権が重視される思想基盤、医療事情を理解し、考察する。						1 時間
3	講義内容	善悪の基準(1): 幸福のための道徳——目的論								
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。						1 時間	
		2	復習	功利主義の思想と問題点を理解する。						1 時間
4	講義内容	善悪の基準(2): 公正のための道徳——義務論								
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。						1 時間	
		2	復習	カントの義務論の思想と問題点を理解する。						1 時間

5	講義内容	なぜ人命は尊重されるのか——パーソン論とカント		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	2,5	復習	人命尊重の二つの根拠の相違点を理解し、課題を完成させる。	1 時間
6	講義内容	グループワーク: 自分の価値観をみつめる		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	1,5	復習	グループワークを振り返って課題を完成させる。	1.5 時間
7	講義内容	医療における自己決定と代理決定		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	1	復習	医療倫理の四原則について理解する。	1 時間
8	講義内容	尊厳死とACP		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,4,5	復習	尊厳死のあり方について、課題を完成させる。	1 時間
9	講義内容	海外の安楽死		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,4,5	復習	安楽死問題の現状と課題を理解する。	1 時間
10	講義内容	道徳性の発達理論とケアの倫理		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	2,4	復習	正義・公正の倫理とケアの倫理の視点の違いを理解する。	1.5 時間
11	講義内容	人が道徳的な行動をとるのに何が必要か		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	1,4,	復習	良心、共感のあり方について理解する。	1 時間
12	講義内容	脳死臓器移植		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,4	復習	脳死の定義と臓器移植法、脳死への多様な見解を理解し、考察する。	1 時間
13	講義内容	価値の相対化と価値の共有		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	2,4	復習	人間に共通する価値観があるかについて考察する。	1.5 時間
14	講義内容	グループワーク:「生きがい」について		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	5	復習	グループワークを振り返って課題を完成させる。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	第1回～第14回のノートを読み返す。	1 時間
	1,2,3,4,5	復習	各テーマについての自分の考えを再確認する。	2 時間
合計時間(予習・復習)				33 時間
備考	本講義では知識の修得だけでなく、みずから考えることを重視するので、課題など積極的に取り組んで下さい。 予習・復習については試験前の学習で補完すること。 オンライン授業となった場合は、C-Learning で講義資料を閲覧し、課題を提出する形になります。			

科目名	心理学(人間理解)						科目ナンバリング	LAH003		
英文名	Psychology						講義形態	講義		
担当教員	内田祥子									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	必修 ・ 2 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	3	人間理解と倫理観				1	国際理解			
	2	論理的思考力・問題解決力				3	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	③16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
									○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	人間の心理的諸機能に関する理論・研究について学び、自己理解・患者理解に必要な基礎的知識の習得を目指す。 授業は教員の作成した資料に基づき、講義形式でおこなう。また復習課題のなかで疑問点などを確認する。									
到達目標	1. 心理学理論による人の理解とその技法の基礎について説明できる。 2. 人間の行動の基礎過程について説明できる。 3. 人間の発達と心理との関係について説明できる。 4. 社会的環境が人の心理に対して及ぼす影響について説明できる。 5. 心理的支援の方法と実際について説明できる。									
使用教材	授業内で必要に応じて提示する									
参考文献	授業内で必要に応じて提示する									
評価方法	宿題 30%、学期末テスト 70%。宿題の得点が一定水準に達しなければ、学期末テスト・レポートの得点に関わらず、単位を付与しない。									
課題・評価に対するフィードバック方法	小テスト(予習・復習課題)の解説を次の授業で毎回おこなう。									
オフィスアワー (研究室)	月曜日 3 限(8 号館 410 研究室)				メールアドレス (#→@)	uchida-s#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション「心理学を学ぶ意義」								
	該当到達目標	予習	シラバスに目を通す						1.5	時間
	1	復習	小テスト形式の復習課題						1.5	時間
2	講義内容	心理学とは								
	該当到達目標	予習	心理学を学ぶ意義について考える						1.5	時間
	1	復習	小テスト形式の復習課題						1.5	時間
3	講義内容	環境を認知する心の働き(1)知覚								
	該当到達目標	予習	小テスト形式の予習課題						1.5	時間
	2	復習	小テスト形式の復習課題						1.5	時間
4	講義内容	環境を認知する心の働き(2)学習								
	該当到達目標	予習	小テスト形式の予習課題						1.5	時間
	2	復習	小テスト形式の復習課題						1.5	時間
5	講義内容	環境を認知する心の働き(記憶)								

	該当到達目標	予習	小テスト形式の予習課題	1.5 時間
	2	復習	小テスト形式の復習課題	1.5 時間
6	講義内容	環境を認知する心の働き(4)言語・思考		
	該当到達目標	予習	小テスト形式の予習課題	1.5 時間
	2	復習	小テスト形式の復習課題	1.5 時間
7	講義内容	環境を認知する心の働き(5)情動・動機づけ		
	該当到達目標	予習	小テスト形式の予習課題	1.5 時間
	2	復習	小テスト形式の復習課題	1.5 時間
8	講義内容	社会の中の人間(1)人格		
	該当到達目標	予習	小テスト形式の予習課題	1.5 時間
	4	復習	小テスト形式の復習課題	1.5 時間
9	講義内容	社会の中の人間(2)自己		
	該当到達目標	予習	小テスト形式の予習課題	1.5 時間
	4	復習	小テスト形式の復習課題	1.5 時間
10	講義内容	社会の中の人間(3)社会心理		
	該当到達目標	予習	小テスト形式の予習課題	1.5 時間
	4	復習	小テスト形式の復習課題	1.5 時間
11	講義内容	生涯発達のしくみ、アイデンティティの生涯発達		
	該当到達目標	予習	小テスト形式の予習課題	1.5 時間
	3	復習	小テスト形式の復習課題	1.5 時間
12	講義内容	脳科学と心理学		
	該当到達目標	予習	小テスト形式の予習課題	1.5 時間
	3	復習	小テスト形式の復習課題	1.5 時間
13	講義内容	発達臨床・心理臨床(1)発達臨床		
	該当到達目標	予習	小テスト形式の予習課題	1.5 時間
	5	復習	小テスト形式の復習課題	1.5 時間
14	講義内容	発達臨床・心理臨床(2)心理臨床		
	該当到達目標	予習	小テスト形式の予習課題	1.5 時間
	5	復習	小テスト形式の復習課題	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	小テスト形式の予習課題	1.5 時間
	3	復習	小テスト形式の復習課題	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考				

科目名	文学と人間(人間理解)						科目ナンバリング	LAH004		
英文名	Literature and Humanity						講義形態	講義		
担当教員	菅野 陽太郎									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期		選必・単位数	選択 2 単位						
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	4	人間理解と倫理観			1	国際理解				
	1	論理的思考力・問題解決力			4	生涯学習力				
		チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連4	④									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①近現代の文学作品を読み、文学が人間の営みや文化の形成にどのように関わっているかを考え、文学を今後の生活に役立てていけるようになるための素地を養うことを目標とする。 ②各回の授業では、予習した教材についての解説や話題提供を行った後、ディスカッションやアンケート等による意見の交流を行う。									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○						○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
到達目標	1. 文学を楽しみ、今後の生活に役立てていくことができる。 2. 授業で取り上げる文学作品の内容や特徴等を理解することができる。									
使用教材	『伊豆の踊子』川端康成, 新潮社, 1950, 473 円									
参考文献	『〈転生〉する川端康成 I 引用・オマージュの諸相』, 仁平政人・原善, 文学通信, 2022, 2700 円									
評価方法	各回の課題(30%)、レポート(70%)									
課題・評価に対するフィードバック方法	レポートは評価とコメントを付して返却する。									
オフィスアワー (研究室)	水曜 2 限、金曜 2 限(8 号館 508 研究室)				メールアドレス (#→@)	kanno-y#@takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	ガイダンス、「物語」とその効用								
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、これまでに読んだ文学作品について振り返る。						1 時間	
	1	復習	授業内容を振り返り、課題に取り組む。						2 時間	
2	講義内容	文学のジャンルと要素								
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。						2 時間	
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。						1 時間	
3	講義内容	作品構造の理解①(あまんきみこ『山ねこ、おことわり』など)								
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。						2 時間	
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。						1 時間	
4	講義内容	作品構造の理解②(星新一『ある占い』など)								
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。						2 時間	
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。						1 時間	
5	講義内容	比喩表現の理解と効用(村上春樹『パン屋再襲撃』など)								
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。						2 時間	
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。						1 時間	
6	講義内容	アフォリズムの魅力(村上春樹『中国行きのスロウ・ボート』など)								
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。						2 時間	
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。						1 時間	

7	講義内容	比べるという思考①(二つの文学作品)		
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。	2 時間
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1 時間
8	講義内容	比べるという思考②(J-POP と文学作品)		
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。	2 時間
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1 時間
9	講義内容	引用・オマージュ①(川端康成『バッタと鈴虫』)		
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。	2 時間
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1 時間
10	講義内容	引用・オマージュ②(川端康成『バッタと鈴虫』)		
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。	2 時間
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1 時間
11	講義内容	アダプテーション①(川端康成『伊豆の踊子』)		
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。	2 時間
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1 時間
12	講義内容	引用・オマージュ③(川端康成『伊豆の踊子』)		
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。	2 時間
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1 時間
13	講義内容	アダプテーション②(川端康成『伊豆の踊子』)		
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。	2 時間
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1 時間
14	講義内容	アダプテーション③(芥川龍之介『羅生門』など)		
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。	2 時間
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1 時間
15	講義内容	他学問との関わり		
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。	2 時間
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	授業時に C-learning を使用した意見の交流を行うので、ノート PC やタブレット、スマートフォン等の情報端末を用意すること。			

科目名	芸術論(人間理解)							科目ナンバリング	LAH005	
英文名	Art Theory							講義形態	講義	
担当教員	石原 綱成、志尾 睦子									
科目に関連した実務経験	志尾:映画上映・宣伝・企画・製作、イベントプロデュース									
学年・開講期	1 年 前期		選必・単位数		選択 2 単位					
関連資格										
学位授与方針との対応	4	人間理解と倫理観				1	国際理解			
	2	論理的思考力・問題解決力				3	生涯学習力			
		チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	17									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○					○		
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	この講義は芸術を通して、人間の営為の総体として芸術を学ぶ。それによって、豊かな人間性と教養を身につける。また、あらゆるジャンルの芸術(絵画、映像等)を深く理解する。 講義は前半が石原による芸術史、後半は志尾による映画芸術論となる(オムニバス形式)となる。									
到達目標	1. 視覚芸術の歴史を理解できる 2. 芸術を人間の営為の総体として理解できる。 3. 映像芸術を通して、映画の文化史的意義を理解できる。■ 4. 様々な文化を理解することで、グローバルな教養が身につく■									
使用教材	講義スライドの資料を配布する。									
参考文献	担当教員が逐次紹介する。									
評価方法	試験を実施する。(石原 50 点、志尾 50 点、計 100 点)									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出された感想シートやレポートについて逐一コメントなどを提示する。									
オフィスアワー (研究室)	石原:月曜 3 限、金曜 2 限、 志尾:火曜日 2 限				メールアドレス (#→@)		石原: ishihara@takasaki-u.ac.jp 志尾: m-shio@takasaki-cc.jp			
1	講義内容	ガイダンス(石原・志尾)								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を理解し授業の目標を理解する						1.5	時間
	2	復習	授業内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法を確認する						1.5	時間
2	講義内容	芸術とは何かー芸術のイメージの調査ー								
	該当到達目標	予習	芸術における各自のイメージを箇条書きできるようにしておく						1.5	時間
	1,2,4	復習	配布したプリントをもとに芸術のジャンルを理解する						1.5	時間
3	講義内容	芸術史概説								
	該当到達目標	予習	芸術史の流れを体系的に理解しておく						1.5	時間
	1,2,4	復習	配布した資料を基に芸術史の歴史を理解する						1.5	時間
4	講義内容	宗教芸術とは何か								
	該当到達目標	予習	世界の主要な宗教の特色を理解する						1.5	時間
	1,2,4	復習	配布した資料を基に基督教の教義を理解する						1.5	時間
5	講義内容	基督教美術とシンボル								
	該当到達目標	予習	シンボルの本質について理解する						1.5	時間
	1,2,4	復習	基督教のシンボルの法則性を理解する						1.5	時間
6	講義内容	ルネサンス美術ー古典古代の芸術ー								
	該当到達目標	予習	配布したプリントをもとに遠近法とは何かを理解する						1.5	時間
	1,2,4	復習	遠近法と人間の「主体」への意識を考える						1.5	時間

7	講義内容	ルネサンス美術—図像解釈学と美術—				
	該当到達目標 1,2,4	予習	配布したプリントをもとにプラトンとアリストテレスの相違を理解する	1.5	時間	
		復習	アイデア論の違いが視覚芸術にいかに関現れるかを理解する	1.5	時間	
8	講義内容	中間テスト				
	該当到達目標 1,2,4	予習	今まで学んだ内容を理解しておく	1.5	時間	
		復習	試験内容を自分なりに再考する	1.5	時間	
9	講義内容	メディア芸術とは何か 映画芸術の入り口に立つ■				
	該当到達目標 2,3,4	予習	メディア と称されるもののイメージを箇条書きできるようにしておく	1.5	時間	
		復習	配布した資料をもとに映画の成り立ちを理解する	1.5	時間	
10	講義内容	映画の誕生と変遷を辿る■				
	該当到達目標 2,3,4	予習	映画の仕組みを理解する	1.5	時間	
		復習	配布した資料をもとに映画史を体系的に理解する	1.5	時間	
11	講義内容	映画の表現方法について学ぶ■				
	該当到達目標 2,3,4	予習	様々な映像ジャンルを箇条書きできるようにしておく	1.5	時間	
		復習	配布した資料をもとに表現方法の多様性を理解する	1.5	時間	
12	講義内容	映画の構造を知る■				
	該当到達目標 2,3,4	予習	映画を組み立てているものの役割を理解する	1.5	時間	
		復習	映画が総合芸術であるという本質を理解する	1.5	時間	
13	講義内容	演習 1: 見えるもの 見えないもの 映画が伝えることを意識する■				
	該当到達目標 2,3,4	予習	映画を観てみる	1.5	時間	
		復習	感想を自分なりの言葉にしてみる	1.5	時間	
14	講義内容	演習 2: 演出とは何か■				
	該当到達目標 2,3,4	予習	課題のシナリオを読み、イメージを組み立ててみる	1.5	時間	
		復習	映像表現の可能性と奥深さを楽しむ	1.5	時間	
15	講義内容	総論: 映画は時代を映す鏡である 映画で世界を知る■				
	該当到達目標 2,3,4	予習	興味のある国について調べる	1.5	時間	
		復習	映画が語る文化、時代性を考える	1.5	時間	
合計時間(予習・復習)					45	時間
備考	■: 実務経験に基づく内容を示す。					

科目名	ボランティア・市民活動論(人間理解)					科目ナンバリング	LAH006			
英文名	Civil and Voluntary Activities					講義形態	講義			
担当教員	金井 敏									
科目に関連した実務経験	前職でボランティア・市民活動支援センターの運営支援に従事。また、様々なボランティア活動実践者と交流がある。 現在、大学ボランティア・市民活動支援センター(VSC)でセンター長として VSC を運営している。									
学年・開講期	1 年	前期	選必・単位数	選択 2 単位						
履修を必須とする資格	社会福祉学科「初級障がい者スポーツ指導員」指定科目									
学位授与方針との対応	6	人間理解と倫理観			0	国際理解				
	1	論理的思考力・問題解決力			1	生涯学習力				
	2	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	①	③	④	⑤	⑧	⑩	⑪	⑯ ⑰		
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○			○		○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	ボランティア・市民活動は、手助けを求めている個人や団体に対して自主的に貢献する活動である。身近な地域や福祉、環境、情報、国際協力まで幅広く取り組み、今日の社会に不可欠な存在である。この講義では、具体的なボランティア・市民活動の考え方や実践方法を学び、学生が自ら実践する力を養成する。 毎回の授業は、ボランティアに関する映像視聴、テーマに基づく講義、ゲストスピーカー講義(7 回予定)、ディスカッション、振り返り、次週の予定、という流れで進める。									
到達目標	1.ボランティア・市民活動の対象者のニーズを学び、ボランティア・市民活動の意義を説明できる。■ 2.ボランティア・市民活動の多様な実践例を学ぶことにより、活動の実際の展開を説明できる。■ 3.ボランティア・市民活動支援センターを活用して、自身の関心に即した活動に参加する。■ 4.参加したボランティア・市民活動の実践を振り返り、成果や課題、次のチャレンジについて考察できる。■									
使用教材	各講義に即したオリジナル・レジュメや関係資料は授業にて配布する。テキストは使用しない。									
参考文献	その他、講義に必要な教材・資料は適宜プリントして配付する。									
評価方法	成績評価 ①毎回の授業後に作成するリアクションペーパーによる評価(80%)。 ②ボランティア活動に参加して作成する実践レポートによる評価(20%)。評価方法は、ボランティア実践の回数や時間ではなく、ボランティア活動に参加することによる学びを評価する。 ③追再試は実施しない。 その他の評価 ①授業開講数の 2/3 以上を出席することにより、成績の評価対象とします。 ②忌引きや実習、就職活動などによる欠席は、届け出(要添付書類)を提出すれば出席扱いとする。なお、15 分以上の遅刻は欠席とみなす。 ③ボランティア実践の時間(1 回当たり 4 時間×4 回=16 時間相当)も本時の講義時間に含める。									
課題・評価に対するフィードバック方法	質問や相談については Clearning で適時回答するほか、必要に応じて授業時に学生全体にフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	質問は授業の前後、または C-learning やメールでも受け付ける。				メールアドレス (#→@)	kanai#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	ボランティア・市民活動～新しい世界への誘い■ ボランティア・市民活動支援センター(VSC)の活用方法、授業の進め方を確認する。								
	該当到達目標 1、3	予習	シラバスの内容をよく読んで、現時点でのボランティアの理解を把握する。						1.5	時間
		復習	講義内容、学位授与方針、成績評価方法、VSC 利用方法などを確認する。						1.5	時間
2	講義内容	ボランティアの力を活かす仕組み～ボランティアセンターの役割■								
	該当到達目標 1、2、3、4	予習	自分の地元市町村のボランティアセンターの組織や活動内容を調べる。						1.5	時間
		復習	ボランティアセンターの活用方法を理解する。						1.5	時間
3	講義内容	子どもの明日と子育てをサポートするボランティア活動■(ゲストスピーカーあり)								

	該当到達目標	1、2、3、4	予習	児童を対象としたボランティア活動を調べる。	1.5	時間	
			復習	児童を対象としたボランティアの意義や活動上の注意事項などを理解する。	1.5	時間	
4	講義内容	人々はどうのようにボランティアに取り組んできたか ～欧米と日本の歴史					
	該当到達目標	1、2、3、4	予習	世界の国々でボランティア活動がどのように取り組まれているか調べる。	1.5	時間	
			復習	欧米と日本のボランティア活動の歴史の違いや長所を理解する。	1.5	時間	
5	講義内容	障害者スポーツ・レクリエーションをサポートするボランティア活動■（ゲストスピーカーあり）					
	該当到達目標	1、2、3、4	予習	障害者を対象としたスポーツやレクリエーションについて調べる。	1.5	時間	
			復習	障害者との接し方や支援の内容や方法を理解する。	1.5	時間	
6	講義内容	被災地に届け、災害支援ボランティア活動■					
	該当到達目標	1、2、3、4	予習	我が国における災害ボランティア活動について調べる。	1.5	時間	
			復習	被災地におけるボランティア活動の内容や活動上の注意事項などを理解する。	1.5	時間	
7	講義内容	ユニバーサルデザイン・バリアフリーとボランティア活動■（ゲストスピーカーあり）					
	該当到達目標	1、2、3、4	予習	バリアフリーに関わるボランティア活動を調べる。	1.5	時間	
			復習	バリアフリーをすすめるボランティア活動のあり方を理解する。	1.5	時間	
8	講義内容	身近な動物とボランティアの良い関係（ゲストスピーカーあり）					
	該当到達目標	1、2、3、4	予習	動物を対象としたボランティア活動について調べる。	1.5	時間	
			復習	動物に対するボランティア活動の実際や人間との共生について理解する。	1.5	時間	
9	講義内容	地域ささえあいのボランティア ～ふれあい・いきいきサロン～■					
	該当到達目標	1、2、3、4	予習	地域で取り組まれているふれあい・いきいきサロンについて調べる。	1.5	時間	
			復習	高齢者の介護予防や健康、子育て家庭を住民で支える活動について理解する。	1.5	時間	
10	講義内容	心と命をつなぐボランティア活動 ～いのちの電話の実践から考える■（ゲストスピーカーあり）					
	該当到達目標	1、2、3、4	予習	心の悩みや自殺予防に取り組むボランティア活動を調べる。	1.5	時間	
			復習	いのちの電話の役割と学生でもできる活動について考察する。	1.5	時間	
11	講義内容	ボランティアとNPO ～学生でも創れるNPO 法人■					
	該当到達目標	1、2、3、4	予習	NPO 法人とは何かについて調べる。	1.5	時間	
			復習	NPO 法人の活動内容や設立の要件、ボランティアとの違いなどを理解する。	1.5	時間	
12	講義内容	国際貢献・多文化共生とボランティア活動■（ゲストスピーカーあり）					
	該当到達目標	1、2、3、4	予習	海外で活躍するボランティア活動について調べる。	1.5	時間	
			復習	国際貢献や多文化共生のボランティア活動のあり方を理解する。	1.5	時間	
13	講義内容	行政に協力するボランティア ～民生委員・児童委員の活躍～■					
	該当到達目標	1、2、3、4	予習	行政に協力するボランティアについて調べる。	1.5	時間	
			復習	民生委員・児童委員の活動を理解し、自分の地域の民生委員を確認する。	1.5	時間	
14	講義内容	分かちあう寄付の文化で花咲く貢献社会～赤い羽根共同募金■（ゲストスピーカーあり）					
	該当到達目標	1、2、3、4	予習	赤い羽根共同募金の概要や寄付の実際について調べる。	1.5	時間	
			復習	赤い羽根共同募金のあり方や寄付の文化とは何かを理解する。	1.5	時間	
15	講義内容	まとめ～新しい支え合いと20年後の自分の生き方■					
	該当到達目標	1、3、4	予習	さまざまなボランティア活動を通じて理解した人々の生活のしづらさや今後の課題について考える。	1.5	時間	
			復習	ボランティア活動の講義と実際の実践活動を踏まえて、ボランティア活動のあり方や自身の将来の役割について考察する。	1.5	時間	
					合計時間（予習・復習）	45 時間	
備考	●ボランティア実践は、もちろん強制ではないので、自分の興味や関心のある分野や活動に参加する契機として設定している。大学生として様々な活動にチャレンジすること。授業の理解を深めるために現場で活躍するゲストスピーカーから実践を紹介してもらう（7回予定）。 ●ボランティア・市民活動支援センター（VSC、9号館1階）を活用すること。活動を始める前には必ず、ボランティア活動保険に加入すること。そのほかボランティアの相談に何でも応じる。 VSC 直通 TEL:027-352-1108、VSC メールアドレス:vsc@takasaki-u.ac.jp ●シラバス中の■は実務経験に基づく授業内容を表す。						

科目名	人権論(人間理解)					科目ナンバリング	LAH007			
英文名	Theory of Human Right					講義形態	講義			
担当教員	金井 洋行									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	2	人間理解と倫理観			1	国際理解				
	4	論理的思考力・問題解決力			2	生涯学習力				
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	3 4 5 8 10 16 17									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
										○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	テーマについての課題の意見レポート→教員の意見に対するレスポンス→受講生の省察									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	人権の観念について、他の観念－人道、倫理、文化規範、宗教的信念、条理原則等－との比較を通して分析し、人間の本性(human nature)との関係を理解する。日本国憲法に規定する「国民の権利」の内容を知り、その効力にどのような制約や限界があるかについて認識する。身近な生活体験から感得した権利侵害や不条理の発生について、人権の観点から考察する姿勢を身につける。 講義内容はできうるかぎり予定通り進行させるが、期間内に国内的にあるいは国際的に大きな人権をめぐる事象があった場合には、その話題を飛び入りの割りに割り込ませることがある。									
到達目標	1. 人権について特にヨーロッパの歴史的発展を背景に人道等の他の価値観との比較で観念できる。 2. 人権の様々な観念から憲法の人権規定の適用関係を認識できる。 3. 個々の人権の性格を、内面的と外面的、精神的と経済的、消極的と積極的、等の区分で理解できる。 4. 人権の擁護がどのような考え方と仕組みによって行われるのかについて、憲法規定を通して認識できる。 5. 人権に関する主要な争点について裁判所、特に最高裁判所の考え方を整理できる。									
使用教材	テーマ別レジュメ、基礎知識資料(テキストに代替するプリント) * テーマによって DVD の視聴あり									
参考文献										
評価方法	・平常の授業に対する姿勢・課題提出(35%)、中間小テスト(15%)、期末の定期試験(50%) ・課題は概ね 4 回のレポート、中間小テストは概ね 3 回の知識テスト、定期試験は基本的知識と思考力のテスト									
課題・評価に対するフィードバック方法	重要テーマについてのレポートに対してコメントを配布する(テーマについては適宜指示)									
オフィスアワー (研究室)	出講日の放課後等において、質問及び学習相談を受ける。				メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する。				
1	講義内容	人権の観念と内容								
	該当到達目標	予習	日本国憲法における基本的人権の項目の資料等による再チェック						2 時間	
	1	復習	予備知識アンケート						0.5 時間	
2	講義内容	人権の享有主体と人権規定の適用関係								
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み						1 時間	
	1,2	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集						1.5 時間	

3	講義内容	人権の制約と限界		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	1,2,4	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
4	講義内容	個人主義の観念と幸福追求権の意義		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	1,2,4	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
5	講義内容	法の下での平等－平等権と平等原則－		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	1,2,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
6	講義内容	人間の内心の価値と保護		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	1,3,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
7	講義内容	自由と自由主義		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	1,3,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
8	講義内容	表現の自由とその抑制		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	3,4,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
9	講義内容	経済活動の自由と財産権		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	3,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
10	講義内容	人身の自由と刑事手続の保障		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	3,4,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
11	講義内容	政治活動の自由と参政権		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	3,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
12	講義内容	生存権の意義と福祉国家の諸権利		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	3,4,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
13	講義内容	教育を受ける権利と学習権		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	3,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
14	講義内容	世界の現況と人権(AIと人権、戦争と人権等)		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	3,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
15	講義内容	人権の国際化		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	1,4	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				37.5 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 当日に即答できない質問や要望については C－ラーニング・連絡メールをもって応答することを原則とする。 日常の身の回りに起こる権利侵害や条理違反に目を向け、人権擁護の観点から自分なりに考えておくことを期待する。			

科目名	人間関係論(人間理解)						科目 ナンバリング	LAH008		
英文名	Theory of Human Relations						講義形態	講義		
担当教員	富田 純喜									
科目に関連した 実務経験										
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数	選択 2 単位						
関連資格										
学位授与方針 との対応	6	人間理解と倫理観				国際理解				
	3	論理的思考力・問題解決力				生涯学習力				
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連										
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
		○							○	
「その他」のアクティブ ラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	人間関係論という言葉は、大別すると二通りの意味がある。一つは、ホーソン実験を基盤として体系化された、主に経営学で用いられる理論のことである。もう一つは、人間の行為や生活上の諸現象を、人と人との関係において研究しようとする社会科学における研究アプローチのことである。本講義では本学の特性を考慮し、後者の観点から、生活上の人と人との関係を理解することを目的とする。ただし、本講義を受講することで、すぐに良好な人間関係を築けるようになるわけではない。人と人との関係とはいかなるものか、人との関係において喜びや苦しみが生まれるのはなぜか、といった根本的な問いを探ることが中心的な課題となる。 授業は主に講義形式で進めるが、事前課題や授業内のワークを随時取り入れる。なお、授業内で扱える内容は限られているため、紹介する参考文献などを使って理解を深めること。									
到達目標	1.人間関係論の基礎的内容を理解している。 2.社会状況・生活形態と人間関係との関連を説明できる。 3.身の回りの人間関係を多角的な視点から説明できる。 4.現代社会で生じている人間関係に関する諸問題への対応について考察できる。									
使用教材	菅野仁(2008)『友だち幻想—人と人の〈つながり〉を考える—(ちくまプリマー新書)』筑摩書房。									
参考文献	授業内で適宜紹介する。									
評価方法	レポート(50%)、試験(30%)、課題・参画度(20%)									
課題・評価に対する フィードバック方法	試験前後に出題の意図等を説明する。									
オフィスアワー (研究室)	水曜 5 限、木曜 5 限(8 号館 406)				メールアドレス (#→@)	tomita-t#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	ガイダンス								
	該当到達目標	予習	各回の授業内容を確認し、人間関係について考えてみる。						1.0	時間
	1	復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。						1.0	時間
2	講義内容	ホーソン実験と人間関係論								
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。						1.5	時間
	1	復習	人間関係論の成り立ちについて理解する。						1.5	時間
3	講義内容	「友人重視指向」の日本の高校生(はじめに)								
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページを読み、言葉の意味等を調べておく。						1.5	時間
	1	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。						1.5	時間
4	講義内容	人は一人では生きられない?(第一章)								
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページを読み、言葉の意味等を調べておく。						1.5	時間
	2,3,4	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。						1.5	時間
5	講義内容	幸せも苦しみも他者がもたらす(第二章)①前半								
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページ(p.27-37)を読み、言葉の意味等を調べておく。						1.5	時間

	2,3,4	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5 時間
6	講義内容	幸せも苦しみの他者がもたらす(第二章)②後半		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページ(p.37-46)を読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5 時間
7	講義内容	共同性の幻想——なぜ「友だち」のことで悩みは尽きないのか(第三章)①前半		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページ(p.47-58)を読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5 時間
8	講義内容	共同性の幻想——なぜ「友だち」のことで悩みは尽きないのか(第三章)②後半		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページ(p.58-79)を読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5 時間
9	講義内容	「ルール関係」と「フィーリング共有関係」(第四章)		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページを読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5 時間
10	講義内容	熱心さゆえの教育幻想(第五章)		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページを読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5 時間
11	講義内容	家族との関係と、大人になること(第六章)①前半		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページ(p.106-113)を読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5 時間
12	講義内容	家族との関係と、大人になること(第六章)②後半		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページ(p.113-120)を読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5 時間
13	講義内容	「傷つきやすい私」と友だち幻想(第七章)		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページを読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5 時間
14	講義内容	言葉によって自分を作り変える(第八章)		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページを読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ(これまでの授業の復習をとおして理解を深める)		
	該当到達目標	予習	第1～14回の内容を復習し、疑問点などを整理する。	2.0 時間
	4	復習	現代社会における人間関係について自身の考えをまとめる。	2.0 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	オンライン授業の場合は、オンデマンド型で実施する。資料の配布や課題の提出には C-learning を用いる。			

科目名	ジェンダー論(人間理解)						科目ナンバリング	LAH009		
英文名	Gender Theory						講義形態	講義		
担当教員	山田 秀頌									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	10	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	0	論理的思考力・問題解決力				0	生涯学習力			
	0	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	5 10									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
										○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	教員が各回に提示するトピックや課題について、各自で・周りの人と議論しながら考えをまとめる時間を設ける。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	ジェンダーをめぐるさまざまな問題についての正しい知識と考え方を身につけることは、自分が生きていく上ではもちろんのこと、多様化する社会においてプロフェッショナルとして働いていく上でも重要なこととなっている。この授業では、主に女性やセクシュアル・マイノリティに対する不利益がどのような社会的なしくみの下で生み出されているのか、そうしたしくみに対してどのような批判がなされてきたのかを学ぶことで、性にかかわる社会問題について多面的に考えるための方法を獲得する。 教科書および配布資料の内容をふまえながら、各回のテーマについて主要な問題や概念について解説する。教員が各回に提示するトピックや課題について、各自で・周りの人と議論しながら考えをまとめる時間を設ける。									
到達目標	1. 性にかかわる社会問題について幅広く思考するための知識を身につける。 2. 多様な性を生きる人々とともに性にかかわる社会問題を解決するための視点を身につける。									
使用教材	教科書：『フェミニズムってなんですか？』清水晶子著、文春新書、2022 年。他に文献資料を適宜配布する。									
参考文献										
評価方法	3本のレポートで評価する。(配点は 30%, 30%, 40%の配分) 総合評価 60%以上で合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	レポートごとに問題出題意図を解説する。									
オフィスアワー (研究室)	質問等は、授業中もしくは終了後に応じる。				メールアドレス (#→@)		連絡手段は初回授業時に提示する。			
1	講義内容	講義全体の説明								
	該当到達目標	予習	性にかかわる身近な問題について考える。						1.5 時間	
		復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価法などを確認する。						1.5 時間	
2	講義内容	フェミニズムの歴史								
	該当到達目標	予習	教科書の「はじめに」、第1章、第2章を読む。						1.5 時間	
	1,2	復習	フェミニズムの4つの波について理解する。						1.5 時間	
3	講義内容	公的領域と私的領域								
	該当到達目標	予習	教科書第3章、第7章を読む。						1.5 時間	
	1,2	復習	公的領域と私的領域の違いを理解する。						1.5 時間	
4	講義内容	資本主義と個人								
	該当到達目標	予習	教科書第4章を読む。						1.5 時間	

	1,2	復習	商業主義的な自由の問題を理解する。	1.5 時間
5	講義内容	インターセクショナルリティ		
	該当到達目標	予習	教科書第5章、第6章を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	さまざまな差別の重なりについて再確認する。	1.5 時間
6	講義内容	リプロダクティブ・ヘルス／ライツ		
	該当到達目標	予習	教科書第10章、第14章を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	リプロダクティブ・ヘルス／ライツという概念について再確認する。	1.5 時間
7	講義内容	セクシュアル・ハラスメントと性暴力		
	該当到達目標	予習	教科書第8章、第12章を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	権力関係の問題として理解する。	1.5 時間
8	講義内容	結婚と家族		
	該当到達目標	予習	教科書第11章、第13章を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	伝統的家族観と制度の問題について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	ケアの倫理		
	該当到達目標	予習	教科書第9章、第16章を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	どのようにケアが重要なのかについて考える。	1.5 時間
10	講義内容	セックス／ジェンダー／セクシュアリティの概念		
	該当到達目標	予習	教科書第15章を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	ジェンダー論の基本概念について再確認する。	1.5 時間
11	講義内容	ホモソーシャルとミソジニー		
	該当到達目標	予習	指定する文献資料を読んでおく。	1.5 時間
	1,2	復習	身近な問題に引き付けて考える。	1.5 時間
12	講義内容	LGBTをめぐる問題		
	該当到達目標	予習	指定する文献資料を読んでおく。	1.5 時間
	1,2	復習	社会問題としての理解を深める。	1.5 時間
13	講義内容	トランスジェンダーをめぐる問題		
	該当到達目標	予習	教科書「対談Ⅱ」「対談Ⅲ」を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	インターセクショナルリティの視点から理解する。	1.5 時間
14	講義内容	トランスジェンダーと医療		
	該当到達目標	予習	指定する文献資料を読んでおく。	1.5 時間
	1,2	復習	トランスジェンダーに対するケアのあり方について理解を深める。	1.5 時間
15	講義内容	全体のまとめ		
	該当到達目標	予習	教科書「対談Ⅰ」「おわりに」を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	社会を変える方法について考える。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	教科書と事前配布する資料を読み込み、授業での理解を深めるよう努力すること。			

科目名	共生の倫理(人間理解)						科目ナンバリング	LAH010		
英文名	Ethics of Symbiosis						講義形態	講義		
担当教員	大石 桂子									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	5	人間理解と倫理観				1	国際理解			
	1	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	2	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	① ② ③ ④ ⑤ ⑦ ⑧ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑯ ⑰									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
									○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	現代では多様な価値観・文化をもつ人々が、性別や年齢、職業や病気・障がいの有無などを超えて「共生」することが求められている。誰もがもちやすい偏見や排除をのりこえ、共生を実現するためどのような取り組みができるか。多くの事例から基礎的な理論と方法の知識を習得し、今後の生活に生かす基盤を培うことを目標にする。 授業ではパワーポイントを用いる。定期的に資料分析、考察する機会を設ける。									
到達目標	1. 現代社会での共生の意義について理解し、説明できる。 2. 共生の歴史について理解し、説明できる。 3. 共生を支える社会学、倫理学、心理学また教育的・臨床的なアプローチを理解し、説明できる。 4. 共生の具体的なあり方や事例について理解し、説明できる。 5. 各テーマについて自分の考えをもつことができる。									
使用教材	講義中にプリントを配布する。									
参考文献	講義中に指示する。									
評価方法	定期試験(60%)、講義中に作成する課題(40%)に、参加態度を加えて総合的に評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出課題の内容にコメントを添えて、講義中に紹介する。									
オフィスアワー (研究室)	月曜日の 3 時限、金曜日の 2 時限。 (1 号館 6 階 601)				メールアドレス (#→@)		oishi#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容に目を通し、到達目標などを確認する。							1 時間
	1	復習	講義の目的や学ぶ意義を理解する。							1.5 時間
2	講義内容	ノーマライゼーションから当事者主権へ								
	該当到達目標	予習	ノーマライゼーションの定義を調べる。							1 時間
	1,2	復習	障害者の権利をめぐる歴史を理解する。							1.5 時間
3	講義内容	障害者権利条約と意思決定支援								
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。							1 時間
	1,3,5	復習	各国での意思決定支援の制度・取り組みを理解し、課題を作成する。							1.5 時間
4	講義内容	ユニバーサルデザイン								

	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	1,3,5	復習	ユニバーサルデザインの意義を理解し、身近な実例を考える。	1.5 時間
5	講義内容	優生思想		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	2,5	復習	20 世紀初頭～現在の優生思想について、問題点を理解する。	1.5 時間
6	講義内容	援助行為の動機とは		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,4,5	復習	人がなぜ他者を援助できるのか、様々な理論を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	偏見といかに向き合うか		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,4,5	復習	偏見が生じるメカニズムを理解し、その解消に向けた取り組みについて考える。	1.5 時間
8	講義内容	認知症介護・ケアへの取り組み①社会制度の側面から		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	1,3	復習	認知症介護をめぐる現代の課題を理解する。	1.5 時間
9	講義内容	認知症介護・ケアへの取り組み②身体拘束を減らすために		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,4,5	復習	拘束を減らす手法、コミュニケーション改善の取り組みを理解し、考察する	1.5 時間
10	講義内容	いじめ問題にどう取り組むか①いじめが発生するメカニズム		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,5	復習	国内でのいじめの状況、発生メカニズムを理解する。	1.5 時間
11	講義内容	いじめ問題にどう取り組むか②いじめへの対応策		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,4,5	復習	国内外でのいじめ予防・対応の実践例を理解し、有効な手段を考察する。	1.5 時間
12	講義内容	環境問題と世代間倫理①ヨナスの世代間倫理		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,4,5	復習	現在世代が未来世代への責任をどのようにもつか、理解できる。	1.5 時間
13	講義内容	環境問題と世代間倫理②環境問題をめぐる論争		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	1,2,3,5	復習	環境問題についての議論を理解し、みずからの考えをもつ。	1.5 時間
14	講義内容	社会のレジリエンスを高める		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,4,5	復習	災害復興支援、暴力犯罪の低減などの事例をもとに、有効な手段を考察する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ・共生社会へ向けて		
	該当到達目標	予習	これまでのノート・資料に目を通す。	1 時間
	1,2,3,4,5	復習	共生の意義、方法について理解し、自分の考えをまとめる。	2 時間
合計時間(予習・復習)				38 時間
備考	予習・復習については試験前の学習で補完すること。 *オンライン授業となった場合は、C-Leaning 上で講義資料(PDF ファイル等)を閲覧し、課題を提出する形式とする。			

科目名	チーム医療アプローチ論(人間理解)						科目 ナンバリング	LAH011		
英文名	Team Approach to Health Care						講義形態	講義		
担当教員	大川喜代美、加藤大輔、竹内真理、梅原里実、渡邊秀臣、篠原智行、小竹利夫、高橋雄太									
科目に関連した 実務経験	大川(情報):診療報管理士として診療情報管理業務および医事課に勤務(経験) 加藤(福祉):医療ソーシャルワーカーとしてケアミックス病院に勤務(経験) 竹内(栄養):管理栄養士として国立病院機構に勤務(経験)。健大附属クリニック管理栄養士兼務 梅原(看護):看護師として病院に勤務、病棟・外来・地域医療連携室の管理業務(経験) 渡邊(理学):整形外科医として医療機関に勤務(非常勤) 篠原(理学):急性期、回復期病院に勤務経験あり。現在は生活期病院に非常勤勤務 小竹(子ども):障害児母子通所支援施設に勤務(経験) 高橋(薬学):薬剤師として大学病院に勤務(経験)、調剤薬局に非常勤勤務									
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	選択 1 単位							
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	3	人間理解と倫理観				1	国際理解			
	2	論理的思考力・問題解決力				2	生涯学習力			
	2	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	① ② ③ ④ ⑪ ⑯									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
		○							○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	福祉・医療系の専門職育成を担う大学として、チーム医療を推進する上で各学科の学生が各専門職の役割・活動を理解する。 各講義ではテーマについて概要を説明する。授業はパワーポイントにより要点を提示する。									
到達目標	1. チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性について理解できる。■ 2. 各専門職の役割と活動について理解できる。■ 3. チーム医療における専門職の連携を促進するための課題について考察できる。■									
使用教材	講義のスライドのファイルおよび資料を C-learning に公開する。									
参考文献										
評価方法	授業参加への積極性 40%、レポート 60%									
課題・評価に対する フィードバック方法	・多学科の学生が参加していることから C-learning の協働板機能を用いてパソコン上での双方向の通信手段によって行い、学生の考えや意見を導入しながら講義を展開する。 ・課題レポートや小テストの成果から感じた点や補足すべき点について文章化し、C-learning を用いて受講生にフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	大川(情報) 木曜 3 限(1 号館 609 研究室) 加藤(福祉) 木曜 2 限(1 号館 5 階研究室) 竹内(栄養) 金曜 3 限(1 号館 308 研究室) 梅原(看護) 金曜 1~2 限(4 号館 506 研究室) 渡邊(理学) 金曜 3 限(4 号館 2 階学部長室) 篠原(理学) 水曜 3 限(3 号館 206 研究室) 小竹(子ども) 水曜 3 時限(8 号館 403 研究室) 高橋(薬学) 水曜 2 限(7 号館 323 研究室)				メールアドレス (#→@)		大川(情報) okawa-ki#takasaki-u.ac.jp 加藤(福祉) kato-d#takasaki-u.ac.jp 竹内(栄養) mtakeuchi#takasaki-u.ac.jp 梅原(看護) umehara#takasaki-u.ac.jp 篠原(理学) shinohara-t#takasaki-u.ac.jp 小竹(子ども) kotake#takasaki-u.ac.jp 高橋(薬学) takahashi-yu#takasaki-u.ac.jp ※メールでの質問可の教員のみ掲載			

1	講義内容	チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性について■			
	該当到達目標 1	予習	チーム医療とはどのようなものなのか、学習する。	1.5 時間	
		復習	21 世紀の医療では、なぜ多職種協働のチーム医療が必須であるか理解する。	1.5 時間	
2	講義内容	チーム医療における看護師の役割と活動■			
	該当到達目標 1,2,3	予習	看護師の役割や業務について調べる	1.5 時間	
		復習	看護師の役割・活動、チーム医療における看護職の役割について講義内容から復習しておく。	1.5 時間	
3	講義内容	チーム医療における理学療法士の役割と活動■			
	該当到達目標 1,2,3	予習	理学療法士の一般的な役割について調べる	1.5 時間	
		復習	チームにおけるリハビリテーションの位置づけを復習し、チーム医療に求められる個人の資質について考察する。	1.5 時間	
4	講義内容	チーム医療における薬剤師の役割と活動■			
	該当到達目標 1,2,3	予習	チーム医療(病院・薬局)における薬剤師の役割と活動についてインターネット等の電子媒体を用いて調査する。	1.5 時間	
		復習	医薬品が患者や社会に与える影響(メリットとデメリット)を考え、その上でチーム医療を行うことの有益性についてレポートにまとめる。	1.5 時間	
5	講義内容	チーム医療における管理栄養士の役割と活動■			
	該当到達目標 1,2,3	予習	今までに学習した 1～4 のメディカルの役割と活動について復習し、一般的な管理栄養士の役割と活動について各自で調査する。	1.5 時間	
		復習	管理栄養士と他のメディカルとの関わりについて理解し、それぞれの立場においてチーム医療で求められる役割・活動と、多職種連携について考察する	1.5 時間	
6	講義内容	チーム医療における社会福祉士の役割と活動■			
	該当到達目標 1,2,3	予習	①高齢化社会の現状を調べる ②地域における医療・介護・福祉の連携、地域包括ケアシステムの進展を調べる。 ③医療ソーシャルワーカーについて調べる。	1.5 時間	
		復習	地域での自立生活に必要となる、チーム医療における社会福祉士の役割を考察する。	1.5 時間	
7	講義内容	チーム医療における特別支援学校教諭の役割と活動■			
	該当到達目標 1,2,3	予習	乳幼児期・学齢期に罹患しやすい病気の概要や主要な障害について予習をすること。	1.5 時間	
		復習	保育士・幼稚園教諭・小学校教諭・特別支援学校教諭と各種医療職との連携のあり方について復習をすること。	1.5 時間	
8	講義内容	チーム医療における診療情報士の役割と活動■			
	該当到達目標 1,2,3	予習	診療情報管理士と病院事務職について調べてみる。	1.5 時間	
		復習	診療情報管理士と病院事務職について得た知識を整理する。	1.5 時間	
合計時間(予習・復習)					24 時間
備考	【キーワード】専門職、チーム医療、チームアプローチ、多職種連携 「チーム医療アプローチ演習」(3 または 4 年次開講)履修には、原則として本科目の単位修得が必要となる。 本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム『他職種連携コース』の対象科目である。 ■:実務経験に基づく内容を示す。				

科目名	国際保健医療論(共通教養科目)						科目ナンバリング	LAH012		
英文名	Theory of International Health						講義形態	講義		
担当教員	李孟蓉、町田修三									
科目に関連した実務経験	開発途上国の健康支援(経験) 元 JICA 専門家をゲストスピーカーとして招く(第 11 回) 元青年海外協力隊をゲストスピーカーとして招く(第 12 回)									
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位							
履修が必須となる資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針との対応	4	人間理解と倫理観				3	国際理解			
	1	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	① ② ③ ④ ⑬ ⑭									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○	○		○		○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①世界における健康格差の実態を知り、医療従事者として世界平和・全人類の繁栄と福祉を願いつつ、新たな国連の目標である SDGs を軸に、グローバルヘルスの基本理念と戦略を学び、国際保健医療の活動の場を地球的視野で認識できる。また、地球規模の健康課題やその影響要因、国際保健医療の関連分野の活動の理念と実際を学びながら、国際協力に必要な知識や方法を習得し、グローバル化の時代に活躍する医療職を目指すことができる。また本講義では、学生の国際化促進とグローバル人材の養成を目的に、学生が実際に海外に赴き実体験として諸外国の医療事情を見聞することにより、単位を取得することができる。 ②授業方法は講義内容の要点について説明し、質問などに対して具体的に説明する。到達目標に向け学習が効果的に積み重ねられるよう学習内容を体系的に提示し進めいく。また、学生が自律的に学習を進められるようグループワークを取り入れ、発表させる。									
到達目標	1. 国際保健医療学、国際保健医療協力の概念と変遷を理解できる。 2. 保健医療分野での国際協力の必要性和意義を理解できる。 3. 諸外国の医療教育や医療の実態、医療制度、福祉を理解し、日本との違いを説明できる。 4. 国際保健医療協力の実際や実践手法を理解できる。■ 5. 異文化を理解し、異文化適応のプロセスを理解できる。■ 6. 日本の医療教育や医療事情について、英語で解説ができる(海外研修参加者)									
使用教材	配布資料、各自自分のリサーチ目的に沿った文献、教材を探すこと									
参考文献	①「国際保健医療学」第 3 版 国際保健医療学会編 杏林書院 ②「世界で一番いのちの短い国 シェラレオネの国境なき医師団」 山本敏晴 小学館 ③「国際協力—その新しい潮流」 下村恭人 有斐閣 ④世界の厚生労働 2019 有限会社正陽文庫/ 厚生労働省. 2020 年海外情勢報告 https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kaigai/21/ ⑤「国民衛生の動向 2020/2021」 厚生労働統計協会 ⑥「SDGs を学ぶ 国際開発・国際協力入門 法律文化社」(電子ブック) ⑦「世界の貧国 1 日 1 ドルで暮らす人びと」 ジェレミーシーブルック 青土社 適宜参考書を紹介する									
評価方法	【学内授業の場合】 ・定期試験を受験するために必要な出席回数を満たしたことを条件に、授業、発表・討論の参加度 30 点(30%) (個人/グループワーク、プレゼンテーション)、期末レポート 70 点(70%) の配分で合計 60 点以上を合格とする。									

		海外研修参加者は、事前・事後研修および発表のパフォーマンス(30%)、研修レポート(30%)、研修中のパフォーマンス(40%) 【オンライン授業の場合】 ・定期試験を受験するために必要な出席回数を満たしたことを条件に、レポート 10 点(10%)、授業・参加度 20 点(20%) (個人/グループワーク、プレゼンテーション)、期末レポート 70 点(70%)の配分で合計 60 点以上を合格とする。			
課題に対するフィードバック		授業後にアンケートを行い、次回の授業初めに振り返りを行う。 発表や討論については、その都度コメントやアドバイスをする。レポーについては、コメントを付して返却する。(対面授業・オンライン授業とも共通)			
オフィスアワー (研究室)		木曜日・金曜日の3限目、 研究室:3号館2階 208 月曜日4限目、金曜日2限目 研究室: 1号館6階 603	メールアドレス (#→@)	ri#takasaki-u.ac.jp machida#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	講義オリエンテーション、国際保健、国際保健医療学の定義、国際保健医療協力の概念(一部 AL 実施)			
	該当到達目標	予習	シラバスを熟読し、講義の概要や目標を理解しておく。国際保健医療協力に関する新聞・雑誌などの記事を読んでくこと。		1.5 時間
	1,2	復習	配布資料を目を通し、国際保健協力の定義、世界や国内の国際協力の概念についてまとめ、理解を深めること。また、自分の興味のある国の医療事情リサーチを開始する。		1.5 時間
2	講義内容	グローバルヘルスと開発理念の変遷(プライマリーヘルスケア～SDGs)(一部 AL 実施)			
	該当到達目標	予習	参考文献①「国際保健医療学」第3版の第I部1～4、10～11まで目を通しておくこと。		1.5 時間
	1,2	復習	配布資料に目を通し、世界の歴史の中でのプライマリーヘルスケアとヘルスプロモーション、MDGsの基本理念と変遷について理解を深め、SDGsの目標と活動について興味関心をまとめること。		1.5 時間
3	講義内容	国際保健医療関連の国際機関、NGOの取り組みと日本の国際協力(一部 AL 実施)			
	該当到達目標	予習	参考文献②「世界で一番いのちの短い国 シェラレオネの国境なき医師団」、③国際協力—その新しい潮流に目を通しておくこと。		1.5 時間
	1,2	復習	配布資料に目を通し、国際保健医療協力の仕組み、国際保健医療関連の国際機関やNGO団体、ODAの活動についてまとめ、理解を深めること。		1.5 時間
4	講義内容	日本の医療教育、医療制度、医療制度(一部 AL 実施)			
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく		1.5 時間
	3	復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ		1.5 時間
5	講義内容	諸外国(イギリス)における医療教育・医療制度(一部 AL 実施)			
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく		1.5 時間
	3	復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ		1.5 時間
6	講義内容	諸外国(ヨーロッパ①)における医療教育・医療制度(一部 AL 実施)			
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく		1.5 時間
	3	復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ		1.5 時間
7	講義内容	諸外国(ヨーロッパ②)における医療教育・医療制度(一部 AL 実施)			
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく		1.5 時間
	3	復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ		1.5 時間
8	講義内容	諸外国(アメリカ)における医療教育・医療制度(一部 AL 実施)			
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく		1.5 時間
	3	復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ		1.5 時間
9	講義内容	諸外国(発展途上国、インドネシア)における健康の格差①(保健指標、母子保健)(一部 AL 実施)			
	該当到達目標	予習	参考文献④世界の厚生労働 2019 p. 102-136、⑤「国民衛生の動向 2019/2020」を参考し、日本における衛生の主要指標、保健と医療の動向(人口動態、生命表、母子保健など)について目を通しておくこと。		1.5 時間
	2,3,4	復習	配布資料に目を通し、世界で生じている健康格差の実態とその原因についてまとめ、理解を深めること。		1.5 時間

10	講義内容	諸外国(発展途上国、タイ・ベトナム)における健康の格差②(感染症と非感染性疾患)(一部 AL 実施)		
	該当到達目標	予習	参考文献⑥SDGsを学ぶ 国際開発・国際協力入門 法律文化社(電子ブック)第2章 保健・健康 SDG3 に目を通しておくこと。	1.5 時間
	2,3,4	復習	開発途上国の保健医療課題とその原因についてまとめて、理解を深めること。	1.5 時間
11	講義内容	国際保健医療協力と異文化理解 ■(一部 AL 実施) 元 JICA 専門家を招き、異文化の中での国際協力活動について事例をもとに解説を加えて講義する		
	該当到達目標	予習	世界で行われてる国際保健医療協力を調べておくこと。	1.5 時間
	2,3,4,5	復習	配布資料に目を通し、国際協力として行われている支援について、目的、実際の活動内容、異文化適応について考察したことをまとめ、理解を深めること。	1.5 時間
12	講義内容	「持続可能な開発目標の達成に向けて」を考えるワークショップ■(一部 AL 実施) SDGsの目標にて世界の課題、日本ができること、自分にできることを考えるワークショップという形で取り入れて、各グループが円滑にディスカッションを進めるように指導をしながら行う		
	該当到達目標	予習	第2回目の授業内容を再度確認しておくこと。	1.5 時間
	2,3,4	復習	ワークショップに参加し、世界の不平等や格差に気づき、国の豊かさについて考えを深めること。 興味ある国の医療事情やSDGsの発表準備。自分たちが取り組めることについて考えておくこと。	1.5 時間
13	講義内容	諸外国の医療事情、グローバルヘルス 個人ワーク/グループワーク①(一部 AL 実施)		
	該当到達目標	予習	興味ある国の医療事情や興味関心のある SDG の目標について調べておくこと。	1.5 時間
	2,3,4,5,6	復習	興味ある国の医療事情の発表準備、興味関心のある SDG の目標やターゲットについてまとめて、発表の準備をすること。	1.5 時間
14	講義内容	諸外国の医療事情、グローバルヘルス 個人ワーク/グループワーク②(一部 AL 実施)		
	該当到達目標	予習	興味ある国の医療事情の発表準備、興味関心のある SDG における諸外国、国際機関や世界での NGO、企業等の活動・取り組みを調べておくこと。	1.5 時間
	2,3,4,5,6	復習	調べてまとめた興味関心のある SDG について、第 12 回講義と関連付けて自分たちが取り組めることをまとめて、発表の準備をすること。	1.5 時間
15	講義内容	学生プレゼンテーションとまとめ		
	該当到達目標	予習	第 13 回～第 14 回の個人ワーク/グループワークの発表資料と発表の準備。	1.5 時間
	2,3,4,5,6	復習	学生プレゼンテーションの復習とコメント記入。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	AL(アクティブラーニング)は、ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、クローズドクエスチョン、オープンクエスチョンなど。 1. 単位修得に必要な時間を満たしていない場合 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 2. ルール 1) 能動的に、積極的に学ぶ姿勢で授業に臨むこと。 2) 他学生の学習の妨げとなるような行為を慎むこと。 3. 出席登録の方法 出席の登録は、C-learning の下記1)～2)のいずれかの方法で行う。方法は授業、「ニュース」で確認すること。 1) 「レポート」の課題をする。 2) 「アンケート」を提出する。 4. グループワークとレポートの詳細については授業を進めながら提示する。 5. オンライン講義を実施する場合には、講義内容のワークショップを変更することがある。 ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	Introduction to Healthcare Sciences (人間理解)						科目 ナンバリング	LAH013		
英文名	Introduction to Healthcare Sciences						講義形態	講義		
担当教員	町田 修三、小澤 瀬司、東福寺 幾夫、松尾 仁司、クリストファー・ターン、應本 真、今井 純、大石 時子、富田 洋介									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	5	人間理解と倫理観				国際理解				
	1	論理的思考力・問題解決力			2	生涯学習力				
	2	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	③ ④									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○					○	○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	QUIZ、問いかけ、授業内カンバセーション等による双方向性授業									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	学生の国際化推進とグローバル人材の育成を目的に設置された講義科目であり、授業は原則英語で行う。日本では医療分野の国際化はまだ遅れているが、世界的には急速に拡大しつつある。本講義では、国際的な医療人養成のため、世界共通語である英語を用いて、医療に関する基礎的な事項を易しく解説していく。複数の教員がオムニバス形式で担当するが、学生の理解度を確認しながら平易な英語で解説するので、受講に際して特に高度な英語力は要求しない。英語による授業を学生がしっかりと理解し、医療コミュニケーション能力を高めることで、医療教育の国際化を先取りするような講義へと発展させることを目指す。 数人の教員がオムニバス形式で英語にて、学生の理解度を確認しながら講義を展開する。英語を使用する授業であるので、予習用に授業で用いる教材・資料・データ等をあらかじめ配布する。授業にはこれらの資料を十分に下調べしたうえで臨むことが特に重要である。									
到達目標	1. 医療に関する基礎的な内容に関して、英語での説明を理解できる 2. 理解した内容について、第三者に説明できる 3. 医療に関するトピックに関して、英語での基礎的なプレゼンテーションやディスカッションができる 4. 医療に関するトピックについて、外国の学生と話をすることができる									
使用教材	各教員が作成した資料やデータを用いて講義する									
参考文献										
評価方法	担当各教員による評価を総合して決定する。各教員は、毎回の授業参加度(20%程度)や講義終了時に課す提出物または小レポート(80%程度)により、それぞれの持ち点に応じて学生を評価する									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出物や小レポートには、コメントを付して返却する									
オフィスアワー (研究室)	月曜日 4 限目、金曜日 2 限目 研究室: 1 号館 6 階 603				メールアドレス (#→@)	machida#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	Introduction of the course (町田)								
	該当到達目標	予習	シラバスを熟読し、講義の概要や目標を理解しておく						1	時間
	1	復習	講義内容の復習、特に専門用語(英語)を覚える						1	時間
2	講義内容	Medical globalization and Japan's healthcare system (町田)								

	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語(英語)を予習しておく き，授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
3	講義内容	Healthcare system of foreign countries (町田)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語(英語)を予習しておく き，授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
4	講義内容	Introduction of nursing education in Japan and other countries (大石)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語(英語)を予習しておく き，授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
5	講義内容	Introduction to telemedicine (東福寺)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語(英語)を予習しておく き，授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
6	講義内容	Using Medline Plus to obtain medical information in English I (小澤)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語(英語)を予習しておく き，授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
7	講義内容	Using Medline Plus to obtain medical information in English II (小澤)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語(英語)を予習しておく き，授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
8	講義内容	Immunity and diseases I (今井)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語(英語)を予習しておく き，授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
9	講義内容	Immunity and diseases II (今井)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語(英語)を予習しておく き，授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
10	講義内容	Medical information system (松尾)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語(英語)を予習しておく き，授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
11	講義内容	Introduction to sensory science (應本)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語(英語)を予習しておく き，授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
12	講義内容	The integration of Biomechanics and Neuroscience to optimize rehabilitation I (富田)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語(英語)を予習しておく き，授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
13	講義内容	The integration of Biomechanics and Neuroscience to optimize rehabilitation II (富田)		

	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語(英語)を予習しておく き，授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
14	講義内容	Mental health and social skills (ターン)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語(英語)を予習しておく き，授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
15	講義内容	Summary and concluding remarks (ターン)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語(英語)を予習しておく き，授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				44 時間
備考	講義内容は学生の興味を持ってそうな分野から、基礎的なものを選んでいる。学生の積極的な授業参加が求められる。記載した予習・復習時間に加え、自主的な学修により医療の国際化に関する理解を深め、単位修得に必要な時間を各自確保すること。			

科目名	囲碁の世界(人間理解)							科目ナンバリング	LAH014	
英文名	Introduction to Igo							講義形態	講義	
担当教員	三谷 哲也									
科目に関連した実務経験	2002 年に公益財団法人日本棋院に入段。囲碁教室や他大学の囲碁授業の講師（現在）									
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	4	人間理解と倫理観					国際理解			
	3	論理的思考力・問題解決力				2	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○		○			○	○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	インターネット・携帯電話アプリケーションでの対局を指示する場合あり									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 講義の目標 近年、囲碁は脳を活性化し考える力を養うということで注目されている。囲碁を学ぶことで「考える力」と「集中力」を磨き、「先を読む力」を身につける。 また、日本の伝統文化である囲碁を体得することで、言葉と世代を超えたコミュニケーション力を身につけ、国際交流のコミュニケーション力を高める。 ② 実施方法 ・ 講義形式で打ち方の解説をした後、受講生同士で対局を行う。 ・ 囲碁の心得や法則「ナナメにご用心」等、言葉で表したものを積極的に使い上達を図る。 ・ 決め打ち碁(模範的な碁を並べ、途中から打つ)で布石の考え方を身につけ、初心者でもすぐに終局まで打てるようにする。									
到達目標	1. 囲碁を全く知らない状態から囲碁の世界を知り、19 路盤で最後まで打てるようになる。■ 2. 「囲碁の心得、法則」の形を言葉で覚え、積極的に使い囲碁の考え方を身につける。■									
使用教材	光文社新書「東大教養囲碁講座」（備考欄を要確認）									
参考文献	日本棋院「実践囲碁総合演習」									
評価方法	毎回の授業貢献度、コメントシート、技術の習熟度を総合的に判断する(60%) 試験(20%)×2 回 ※対局結果は成績評価に含まない									
課題・評価に対するフィードバック方法	試験後に解説を行う。									
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談は授業の前後に応じる。状況により次回の授業での対応となる場合がある。				メールアドレス (#→@)		連絡手段は初回授業時に提示する。			
1	講義内容	囲碁の歴史と基本ルール■								
	該当到達目標	予習	教科書 第 1 章 1～3 に目を通し講義の目的を理解する。						1.5 時間	
	1,2	復習	囲碁の基本的なルールを理解する。						1.5 時間	
2	講義内容	ルールの復習(1)■								
	該当到達目標	予習	教科書 第 2 章 1-1～1-3 に目を通し基本ルールを確認する。						1.5 時間	
	1,2	復習	囲碁の 5 つの基本ルールを理解する。						1.5 時間	
3	講義内容	ルールの復習(2)■								
	該当到達目標	予習	教科書 第 2 章 1-4～1-5 に目を通し基本ルールを確認する。						1.5 時間	
	1,2	復習	打てない場所、打てる場所を理解する。インターネットやスマートフォンで対局する。						1.5 時間	
4	講義内容	ルールの復習及び初歩技術(1)■								

	該当到達目標	予習	教科書 P97 に目を通し、囲碁の打ち方のポイントを確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	基本的な3つの心得を理解する。	1.5 時間
5	講義内容	ルールの復習及び初歩技術(2) ■		
	該当到達目標	予習	教科書 第3章2に目を通し、石の取り方を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	取れている石、シチョウを理解する。	1.5 時間
6	講義内容	問題演習 ■		
	該当到達目標	予習	教科書 第2章1～2に目を通し基本的な考え方を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	地の数え方、石のつながりを理解する。	1.5 時間
7	講義内容	技術の解説(1) ■		
	該当到達目標	予習	教科書 P188～199 に目を通し終盤の考え方を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	19路盤の終盤の考え方を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	技術の解説(2) ■		
	該当到達目標	予習	教科書 P173～188 に目を通し中盤の考え方を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	19路盤の中盤の考え方を理解する。	1.5 時間
9	講義内容	技術の解説(3) ■		
	該当到達目標	予習	教科書 P158～172 に目を通し序盤の考え方を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	19路盤の序盤の考え方を理解する。	1.5 時間
10	講義内容	9子局の解説・連碁(対局) ■		
	該当到達目標	予習	教科書 第5章1に目を通し9子局の打ち方を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	9子局の打ち方を理解する。	1.5 時間
11	講義内容	技術の解説(4) ■		
	該当到達目標	予習	教科書 P207～220 に目を通し決め打ち碁のポイントを理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	隅の死活を理解する。	1.5 時間
12	講義内容	技術の解説(5)とペア碁 ■		
	該当到達目標	予習	教科書 第4章に目を通し、19路盤の考え方を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	19路盤の中盤の打ち方を理解する。	1.5 時間
13	講義内容	問題演習 ■		
	該当到達目標	予習	教科書 第2章4に目を通し、石の追い方を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	石の取り方、死活、終局の仕方を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	技術の解説(6) ■		
	該当到達目標	予習	教科書 P259～267 に目を通し、総合的な石の取り方を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	19路盤の序盤～中盤の打ち方を理解する。	1.5 時間
15	講義内容	イベント対局とまとめ ■		
	該当到達目標	予習	教科書 第4章～5章に目を通し、これまで習ってきたことを確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	インターネットやスマートフォンで対局する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	●履修条件 ・ 本講義は、囲碁を知らない状態から19路盤で最後まで打てるようになることが目標です。 ・ 囲碁の未経験者や囲碁のルールを知らない者を強く求めます。 ●その他、授業に関する事項 ・ 第5回目の授業までは基本的なルールを学び復習します。欠席や遅刻などしないこと。 ・ 使用教材(教科書)は、授業形態(オンラインや録画配信)への変更により使用しない場合があります。 ・ 授業では毎回対局を行います。道具の準備や片づけも授業の一環であるため、積極的に関わること。 ・ PCや携帯端末で囲碁の対局ソフト(アプリ)を指示、使用する場合があります。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		英語 IA(リテラシー)						科目ナンバリング		LAL001	
英文名		English IA						講義形態		講義	
担当教員		クリス・ターン									
科目に関連した実務経験											
学年・開講期		1 年 前期		選必・単位数		必修 1 単位					
履修を必須とする資格		アイテムを選択してください。									
学位授与方針との対応		4	人間理解と倫理観				4	国際理解			
		1	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
		0	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連											
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		英語をコミュニケーションの道具としてとらえ、英語によるコミュニケーション能力基礎の確立を目指す。この目的のために、まずジェスチャーや one word English、one phrase English から始めて、便利かつ最低限必要な英語表現を繰り返し練習する。複雑な文法や語法を無視してこうした練習を繰り返すことで、気楽に感じたことをそのまま口に出すくせをつけさせたい。授業は主に教員が自ら用意した教材を用いて行うが、ゲーム、ペアワーク、写真、ビデオ、音楽等を多く利用して、学生が積極的に授業に参加できるような雰囲気をつくっていきたい。発表の機会が増えると思う。学生の習熟度に応じ、講義のレベルを調整していく。									
到達目標		1. 英語によるコミュニケーション能力の基礎を確立する。 2. 英語による口語表現に親しむ。 3. 英語によるプレゼンテーションを行う。									
使用教材		特に定めない。									
参考文献											
評価方法		期末試験 50% 平常点 50%(授業への参加度、発言、発表課題など)の総合評価とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法		課題はコメントの上返却する。									
オフィスアワー (研究室)		火曜日 3 限、金曜日 3 限 (1 号館 3 階 315 研究室)				メールアドレス (#→@)		tarn#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	イントロダクション: 講義の解説・自己紹介									
	該当到達目標	予習	シラバスを読んで学習内容を確認しておく							0.5	時間
	1, 2, 3	復習	口語表現の復習							0.5	時間
2	講義内容	自己紹介してみよう									
	該当到達目標	予習	スピーチの準備・練習							0.5	時間
	1, 2, 3	復習	新出表現の復習・発音の確認							0.5	時間
3	講義内容	サバイバル・イングリッシュ ① Where do I get the bus?									
	該当到達目標	予習	スピーチの準備・練習							0.5	時間
	1, 2, 3	復習	新出表現の復習・発音の確認							0.5	時間
4	講義内容	サバイバル・イングリッシュ ② Could you repeat that?									
	該当到達目標	予習	スピーチの準備・練習							0.5	時間
	1, 2, 3	復習	新出表現の復習・発音の確認							0.5	時間
5	講義内容	便利な one phrase English ① How is your family?									
	該当到達目標	予習	スピーチの準備・練習							0.5	時間
	1, 2, 3	復習	新出表現の復習・発音の確認							0.5	時間

6	講義内容	便利な one phrase English ② Where do you live?		
	該当到達目標	予習	スピーチの準備・練習	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	新出表現の復習・発音の確認	0.5 時間
7	講義内容	英語の話し方・意思の伝え方		
	該当到達目標	予習	スピーチの準備・練習	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	新出表現の復習・発音の確認	0.5 時間
8	講義内容	英語と日本語の違い		
	該当到達目標	予習	スピーチの準備・練習	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	新出表現の復習・発音の確認	0.5 時間
9	講義内容	外国について知ろう		
	該当到達目標	予習	外国について調べてくる	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	新出表現の復習・発音の確認	0.5 時間
10	講義内容	外国や日本について知ろう		
	該当到達目標	予習	外国と日本の比較点をまとめる	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	新出表現の復習・発音の確認	0.5 時間
11	講義内容	外国や日本について話そう		
	該当到達目標	予習	スピーチの準備	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	新出表現の復習・発音の確認	0.5 時間
12	講義内容	英語だけで 1 時間過ごしてみよう(Q&A)		
	該当到達目標	予習	質問内容を考えてくる	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	新出表現の復習・発音の確認	0.5 時間
13	講義内容	英語だけで 1 時間過ごしてみよう(何かを説明する)		
	該当到達目標	予習	プレゼンテーションの準備	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	新出表現の復習・発音の確認	0.5 時間
14	講義内容	大学生活についてのスモール・トーク		
	該当到達目標	予習	プレゼンテーションの準備	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	新出表現の復習・発音の確認	0.5 時間
15	講義内容	英語でプレゼンテーションにチャレンジしてみよう		
	該当到達目標	予習	プレゼンテーションの準備	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	新出表現の復習・発音の確認	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	予習・復習:必要に応じて、各自で適宜補完する。			

科目名		英語 IB(リテラシー)					科目ナンバリング		LAL001		
英文名		English IB					講義形態		講義		
担当教員		出雲 春明									
科目に関連した実務経験											
学年・開講期		1 年 前期		選必・単位数		必修 1 単位					
履修を必須とする資格		アイテムを選択してください。									
学位授与方針との対応		4	人間理解と倫理観				4	国際理解			
		1	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
		0	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連											
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○								
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		①幅広い現代的トピックをあつかったテキストにふれ、大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。また、一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得するとともに、リスニング・ライティング等の総合的な英語運用能力を高める。 ②授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。これらの教材は C-learning「教材倉庫」にアップし、「ドリル」「小テスト」機能などを最大限活用する。感染状況次第でオンデマンド授業に移行することがある。									
到達目標		1. 大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。 2. 一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得する。 3. リスニング・ライティング・コミュニケーション等の総合的な英語運用能力を高める。									
使用教材		黒澤麻美・和治元義博・James A. Goddard『医学・薬学の世界 The World of Medicine』、朝日出版社、2018 年。¥1,836。									
参考文献											
評価方法		授業への参加態度(資料の閲覧、授業での発言、ドリルの実施状況など)・・・30% 授業中の課題(小テストなど)・確認テスト・・・70%									
課題に対するフィードバック		課題や試験はコメント・添削の上返却する。									
オフィスアワー (研究室)		1 号館 511 研究室 面談希望の場合は C-learning「連絡・相談」あるいは左記アドレスまで。				メールアドレス (#→@)		izumo-s#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス									
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	シラバスを読み、予習、復習、評価方法について確認する。						0.5	時間	
		復習	講義におけるテキストの使用法について理解する。						0.5	時間	
2	講義内容	Unit 1 Medical Professional Communication Skills ①									
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	テキスト pp. 1-2.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。						0.5	時間	
		復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。						0.5	時間	
3	講義内容	Unit 1 Medical Professional Communication Skills ②									
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	テキスト pp. 3-4.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。						0.5	時間	
		復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。						0.5	時間	
4	講義内容	Unit 1 Medical Professional Communication Skills ③									
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	テキスト pp. 5-6.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。						0.5	時間	
		復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。						0.5	時間	
5	講義内容	Unit 4 Death and Dying ①									
	該当到達目標	予習	テキスト pp. 19-20.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。						0.5	時間	

	1, 2, 3	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	0.5 時間
6	講義内容	Unit 4 Death and Dying ②		
	該当到達目標	予習	テキスト pp. 21-22.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	0.5 時間
7	講義内容	Unit 4 Death and Dying ③		
	該当到達目標	予習	テキスト pp. 23-24.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	0.5 時間
8	講義内容	Unit9 CAM, or Complementary and Alternative Medicine (Not Camera!) ①		
	該当到達目標	予習	テキスト pp. 49-50.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	0.5 時間
9	講義内容	Unit9 CAM, or Complementary and Alternative Medicine (Not Camera!) ②		
	該当到達目標	予習	テキスト pp. 51-52.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	0.5 時間
10	講義内容	Unit9 CAM, or Complementary and Alternative Medicine (Not Camera!) ③		
	該当到達目標	予習	テキスト pp. 53-54.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	0.5 時間
11	講義内容	Unit14 Cancer Treatment (1): Up to Now ①		
	該当到達目標	予習	テキスト pp. 79-80.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	0.5 時間
12	講義内容	Unit14 Cancer Treatment (1): Up to Now ②		
	該当到達目標	予習	テキスト pp. 81-82.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	0.5 時間
13	講義内容	Unit14 Cancer Treatment (1): Up to Now ③		
	該当到達目標	予習	テキスト pp. 83-84.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	0.5 時間
14	講義内容	Unit15 Cancer Treatment (2): Up and Coming ①		
	該当到達目標	予習	テキスト pp. 85-86.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	0.5 時間
15	講義内容	Unit15 Cancer Treatment (2): Up and Coming ②		
	該当到達目標	予習	テキスト pp. 87-88.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	C-learning「ニュース」を用いて、連絡や情報共有を行うので、通知があった場合は確認すること。 辞書必携。最低限の予習として不明な単語の意味や発音を調べておくこと。その際、C-learning「教材倉庫」に補足資料をアップするので活用すること。			

科目名	英語 IC(リテラシー)							科目ナンバリング	LAL001	
英文名	English IC							講義形態	講義	
担当教員	山田 HAY 美由紀									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期		選必・単位数		必修 1 単位					
履修を必須とする資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針との対応	4	人間理解と倫理観				4	国際理解			
	1	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	0	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○	○	○		○				○	○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	英語会話で必要なアクティブラーニングに使える単語や文を指導する。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	この講義では、看護の現場において必要とされるコミュニケーション能力を英語をツールとして習得する。各自が自分の考えを持って英語で意見交換できる課題、コミュニケーションを必要とするグループ活動課題等を通し、日常英語の語彙、リスニング能力、英語表現力を身につける。また、専門用語に使用される英語についての理解、発音、使用例などに触れる。時事問題について時勢に沿ったテーマを取り上げる時間も設ける。講義は学生の既習内容を考慮した上、英語で行う。質問、疑問、意見等はその都度か講義後に発言すること。質問や意見は、積極的な参加態度、自己表現として奨励する。グループ課題終了後、自己評価・講義に対する評価用紙に記入することもできる。									
到達目標	1. 英語を使って自己の考えを口頭表現することができる。 2. 英語を使って自己の考えを口頭表現することができる。 3. 協力して課題を解決していくことにより、互いの能力を認め合い、個人を尊重する姿勢を身につける。									
使用教材	課題により印刷教材を配布する。									
参考文献										
評価方法	講義は実技中心のため、時間内のコミュニケーション状況(30%)、課題発表(50%)、講義への参加(20%)を評価する。個人課題は、講義の始めに毎回評価する。ペア、グループ課題は講義内での実践中、各人の英語によるコミュニケーションの様子を評価する。コミュニケーションのためのキープフレーズを毎時紹介するので、記録して課題実践中に使うことが期待される。講義内外でのコミュニケーション(参加度)も評価の対象となる。自己評価用紙の記入は行うが、筆記試験による評価は行わない。講義に参加することが評価の対象になるので、欠席は 3 日を超えないよう留意すること。超える場合は要相談。									
課題に対するフィードバック	課題は、個人課題、ペア課題、グループ課題 1、グループ課題 2 の 4 種類。 講義内で個人、グループ、全体への口頭評価、課題発表後に口頭でフィードバックする。 また、グループ内で学生同士のフィードバックもある。									
オフィスアワー (研究室)	授業の際に指示する				メールアドレス (#→@)		連絡方法については初回で提示する			
1	講義内容	講義内容、出欠、評価の概要について理解する。個人活動。								
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	英語に触れる機会を増やすための個人課題を出すので、受講期間中続けること。						0.5 時間	
		復習	Review						0.5 時間	
2	講義内容	個人課題について発表し教員評価を受ける。簡単なグループ活動と発表。ペア活動の紹介と実践。								
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	個人課題を続ける。						0.5 時間	
		復習	Review						0.5 時間	
3	講義内容	個人課題について発表し教員評価を受ける。ペア活動。グループ課題 1 の紹介。								

	該当到達目標 1, 2, 3	予習	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5 時間
		復習	Review	0.5 時間
4	講義内容	個人課題についてペアで発表し合う。グループ課題 1 について理解する。専門用語・時事問題等		
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	個人課題を修正しながら続けること。	0.5 時間
		復習	Review	0.5 時間
5	講義内容	個人課題についてペアで発表し合う。グループ課題 1 の実践。専門用語・時事問題等		
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	個人課題を修正しながら続ける。	0.5 時間
		復習	Review	0.5 時間
6	講義内容	個人課題についてグループ内で評価し発表する。グループ課題 1 の実践。専門用語・時事問題等		
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5 時間
		復習	Review	0.5 時間
7	講義内容	個人課題についてグループ内で評価し発表する。グループ課題 1 の実践。		
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5 時間
		復習	グループ課題 1 の発表に向けて個人練習すること。	0.5 時間
8	講義内容	個人課題についてグループ内で評価し発表する。グループ課題 1 のリハーサル。		
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5 時間
		復習	グループ課題 1 の発表に向けて個人練習すること。	0.5 時間
9	講義内容	個人課題についてグループ内で評価し発表する。グループ課題1の発表。		
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5 時間
		復習	Review	0.5 時間
10	講義内容	発表について教員から口頭評価。自己評価・講義に対する評価（印刷物配布）。グループ課題 2 の説明		
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5 時間
		復習	Review	0.5 時間
11	講義内容	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題 2 の内容構成。英語押韻について		
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	個人課題を続ける。グループ課題の内容について必要事項を調べておく。	0.5 時間
		復習	Review	0.5 時間
12	講義内容	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題 2 の内容構成。英語押韻について		
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	個人課題を続ける。グループ課題の内容について必要事項を調べておく。	0.5 時間
		復習	Review	0.5 時間
13	講義内容	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題 2 の練習。英語押韻について		
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	個人課題を続ける。グループ課題2の練習をしておく。	0.5 時間
		復習	Review	0.5 時間
14	講義内容	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題 2 のリハーサル。		
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	個人課題を続ける。グループ課題2の練習をしておく。	0.5 時間
		復習	グループ課題 2 の練習をしておく。	0.5 時間
15	講義内容	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題の発表。口頭で評価。自己評価・講義に対する評価の記入（印刷物配布）。		
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	発表準備	0.5 時間
		復習	Review	0.5 時間
合計時間（予習・復習）				15 時間
備考	・講義内で電子辞書またはスマートフォンによる辞書検索を行うので持参すること。講義以外の使用については学生として品位のある態度で取り扱うこと。 ・コミュニケーションのためのフレーズを毎回紹介するので、記録して講義中に使用すること。記録用媒体はノート、スマートフォンなど個人で選択する。			

科目名	英語 IIA(リテラシー)						科目ナンバリング	LAL002		
英文名	English IIA						講義形態	講義		
担当教員	出雲 春明									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数		必修 1 単位					
履修を必須とする資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針との対応	4	人間理解と倫理観				4	国際理解			
	1	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	0	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○								
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①幅広い現代的トピックをあつかったテキストにふれ、大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。また、一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得するとともに、リスニング・ライティング等の総合的な英語運用能力を高める。 ②授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。これらの教材は C-learning「教材倉庫」にアップし、「ドリル」「小テスト」機能などを最大限活用する。感染状況次第でオンデマンド授業に移行することがある。									
到達目標	1. 大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。 2. 一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得する。 3. リスニング・ライティング・コミュニケーション等の総合的な英語運用能力を高める。									
使用教材	黒澤麻美・和治元義博・James A. Goddard『医学・薬学の世界 The World of Medicine』、朝日出版社、2018 年。¥1,836。									
参考文献										
評価方法	授業への参加態度(資料の閲覧、授業での発言、ドリルの実施状況など)・・・30% 授業中の課題(小テストなど)・確認テスト・・・70%									
課題に対するフィードバック	課題や試験はコメント・添削の上返却する。									
オフィスアワー (研究室)	1 号館 511 研究室 面談希望の場合は C-learning「連絡・相談」あるいは左記アドレスまで。				メールアドレス (#→@)		izumo-s#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス								
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、予習、復習、評価方法について確認する。						0.5	時間
	1, 2, 3	復習	講義におけるテキストの使用法について理解する。						0.5	時間
2	講義内容	Unit 1 Medical Professional Communication Skills ①								
	該当到達目標	予習	テキスト pp. 1-2.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。						0.5	時間
	1, 2, 3	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。						0.5	時間
3	講義内容	Unit 1 Medical Professional Communication Skills ②								
	該当到達目標	予習	テキスト pp. 3-4.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。						0.5	時間
	1, 2, 3	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。						0.5	時間
4	講義内容	Unit 1 Medical Professional Communication Skills ③								
	該当到達目標	予習	テキスト pp. 5-6.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。						0.5	時間
	1, 2, 3	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。						0.5	時間
5	講義内容	Unit 4 Death and Dying ①								
	該当到達目標	予習	テキスト pp. 19-20.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。						0.5	時間

	1, 2, 3	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	0.5 時間
6	講義内容	Unit 4 Death and Dying ②		
	該当到達目標	予習	テキスト pp. 21-22.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	0.5 時間
7	講義内容	Unit 4 Death and Dying ③		
	該当到達目標	予習	テキスト pp. 23-24.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	0.5 時間
8	講義内容	Unit9 CAM, or Complementary and Alternative Medicine (Not Camera!) ①		
	該当到達目標	予習	テキスト pp. 49-50.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	0.5 時間
9	講義内容	Unit9 CAM, or Complementary and Alternative Medicine (Not Camera!) ②		
	該当到達目標	予習	テキスト pp. 51-52.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	0.5 時間
10	講義内容	Unit9 CAM, or Complementary and Alternative Medicine (Not Camera!) ③		
	該当到達目標	予習	テキスト pp. 53-54.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	0.5 時間
11	講義内容	Unit14 Cancer Treatment (1): Up to Now ①		
	該当到達目標	予習	テキスト pp. 79-80.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	0.5 時間
12	講義内容	Unit14 Cancer Treatment (1): Up to Now ②		
	該当到達目標	予習	テキスト pp. 81-82.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	0.5 時間
13	講義内容	Unit14 Cancer Treatment (1): Up to Now ③		
	該当到達目標	予習	テキスト pp. 83-84.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	0.5 時間
14	講義内容	Unit15 Cancer Treatment (2): Up and Coming ①		
	該当到達目標	予習	テキスト pp. 85-86.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	0.5 時間
15	講義内容	Unit15 Cancer Treatment (2): Up and Coming ②		
	該当到達目標	予習	テキスト pp. 87-88.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	C-learning「ニュース」を用いて、連絡や情報共有を行うので、通知があった場合は確認すること。 辞書必携。最低限の予習として不明な単語の意味や発音を調べておくこと。その際、C-learning「教材倉庫」に補足資料をアップするので活用すること。			

科目名	英語 IIB(リテラシー)							科目ナンバリング	LAL002	
英文名	English IIB							講義形態	講義	
担当教員	ステイシー・クローズ									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数		必修 1 単位					
履修を必須とする資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針との対応	4	人間理解と倫理観				4	国際理解			
	1	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	0	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○	○					○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	Peer to peer review of projects									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	The goal of this course is to provide a foundation for using English in practical situations. This course will emphasize the application of English speaking and writing skills to communicate personal and academic information. Students will use a variety formats (for example, videos, posters and speeches) to bring their ideas to life.									
到達目標	1. Communicate an authentic message in spoken or written form 2. Research and understand ideas of global or personal interest in English 3. Develop lifelong habits for studying, enjoying and using English									
使用教材	Provided by instructor									
参考文献										
評価方法	平常点 40%(単語試験、提出物など)、発表 30%, 定期試験 30%を総合的に評価する。 Quizzes or homework due every week based on previous lesson.									
課題に対するフィードバック	課題はコメントをつけて返却する。									
オフィスアワー (研究室)	月曜日の 2 限、質問はメールでも受け付ける(9 号館 307 研究室)				メールアドレス (#→@)		stacy-c#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	Introduction of the course								
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity						0.5	時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases						0.5	時間
2	講義内容	Introducing yourself to others								
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity						0.5	時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases						0.5	時間
3	講義内容	Narrative story techniques and practice								
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity						0.5	時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases						0.5	時間
4	講義内容	Telling a narrative story								
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity						0.5	時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases						0.5	時間
5	講義内容	Presenting narrative stories								
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity						0.5	時間
	2, 3	復習	Review the new words and phrases						0.5	時間
6	講義内容	Peer review of narrative stories								
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity						0.5	時間

	1, 3	復習	Review the new words and phrases	0.5 時間
7	講義内容	Practicing grammar and vocabulary for demonstations		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	0.5 時間
	1, 3	復習	Review the new words and phrases	0.5 時間
8	講義内容	Practice for demonstration speeches		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	0.5 時間
9	講義内容	Techniques and practice for presenting a demonstration		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	0.5 時間
10	講義内容	Demonstration speeches		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	0.5 時間
11	講義内容	Peer review of demonstration speeches		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	0.5 時間
12	講義内容	Differences in popular culture		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	0.5 時間
13	講義内容	Pop culture and life long learning of English		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	0.5 時間
	2, 3	復習	Review the new words and phrases	0.5 時間
14	講義内容	Presenting a summary of popular culture topic		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	0.5 時間
15	講義内容	Peer review of popular culture topics		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考				

科目名	英語 IIC(リテラシー)						科目ナンバリング	LAL002			
英文名	English IIC						講義形態	講義			
担当教員	柳澤 順一										
科目に関連した実務経験											
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数		必修 1 単位						
履修を必須とする資格	アイテムを選択してください。										
学位授与方針との対応	4	人間理解と倫理観				4	国際理解				
	1	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力				
	0	チームの一員としての協調・協働									
SDGs との関連											
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習・実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他	
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
講義概要 (テーマ・内容)	幅広い現代的トピックをあつかったテキストにふれ、大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。また、一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得するとともに、リスニング・ライティング等の総合的な英語運用能力を高める。授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	1. 大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。 2. 一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得する。 3. リスニング・ライティング・コミュニケーション等の総合的な英語運用能力を高める。										
使用教材	New English Upgrade (Student Book 2), Steven Gershon & Chris Mares, Macmillan Language House (2008)										
参考文献											
評価方法	期末試験 50% 平常点 50%(参加度、発表課題、授業での発言など)の総合評価とする。										
課題に対するフィードバック	レポートは評価またはショートコメントを付した後返却する(学期末課題については返却しないことがある)。期末試験は採点後、得点を通知する(非常勤のため事務局経由での通知)。										
オフィスアワー (研究室)	授業の際に指示する				メールアドレス (#→@)		jyanagisawa555#gmail.com				
1	講義内容	Introduction (1), Introductory DVD-Watching									
	該当到達目標	予習	特になし(語彙調べ)							0.5	時間
	1, 2, 3	復習	基礎語彙力テストの復習、プリント練習問題の解法							0.5	時間
2	講義内容	Introduction (2), 英検 CAT の利用法									
	該当到達目標	予習	特になし							0.5	時間
	1, 2, 3	復習	プリント練習問題のパラグラフ作成							0.5	時間
3	講義内容	Unit 1 Meeting people									
	該当到達目標	予習	Listen in & Build up オーラル・プラクティス							0.5	時間
	1, 2, 3	復習	Express yourself 別バージョン作成							0.5	時間
4	講義内容	Unit 2 Family and friends									
	該当到達目標	予習	Listen in & Build up オーラル・プラクティス							0.5	時間
	1, 2, 3	復習	Express yourself 別バージョン作成							0.5	時間
5	講義内容	Unit 3 Lifestyles									
	該当到達目標	予習	Listen in & Build up オーラル・プラクティス							0.5	時間
	1, 2, 3	復習	Express yourself 別バージョン作成							0.5	時間
6	講義内容	Unit 4 Work, work, work!									

	該当到達目標	予習	Listen in & Build up オーラル・プラクティス	0.5	時間
	1, 2, 3	復習	Express yourself 別バージョン作成	0.5	時間
7	講義内容	Unit 5 Having fun			
	該当到達目標	予習	Listen in & Build up オーラル・プラクティス	0.5	時間
	1, 2, 3	復習	Express yourself 別バージョン作成	0.5	時間
8	講義内容	Unit 6 Review; Additional DVD-Watching (1)			
	該当到達目標	予習	Review unit ディクテーション問題解法	0.5	時間
	1, 2, 3	復習	練習問題プリントの解法	0.5	時間
9	講義内容	Unit 7 Spend, spend, spend!			
	該当到達目標	予習	Listen in & Build up オーラル・プラクティス	0.5	時間
	1, 2, 3	復習	Express yourself 別バージョン作成	0.5	時間
10	講義内容	Unit 8 Looking back			
	該当到達目標	予習	Listen in & Build up オーラル・プラクティス	0.5	時間
	1, 2, 3	復習	Express yourself 別バージョン作成	0.5	時間
11	講義内容	Unit 9 Life's experiences			
	該当到達目標	予習	Listen in & Build up オーラル・プラクティス	0.5	時間
	1, 2, 3	復習	Express yourself 別バージョン作成	0.5	時間
12	講義内容	Unit 10 Around town			
	該当到達目標	予習	Listen in & Build up オーラル・プラクティス	0.5	時間
	1, 2, 3	復習	Express yourself 別バージョン作成	0.5	時間
13	講義内容	Unit 11 Looking ahead			
	該当到達目標	予習	Listen in & Build up オーラル・プラクティス	0.5	時間
	1, 2, 3	復習	Express yourself 別バージョン作成	0.5	時間
14	講義内容	Unit 12 Review			
	該当到達目標	予習	Review unit ディクテーション問題解法	0.5	時間
	1, 2, 3	復習	練習問題プリントの解法	0.5	時間
15	講義内容	Extra Unit—Advanced Listening Comprehension Practice			
	該当到達目標	予習	ディクテーション問題解法、語彙調べ	0.5	時間
	1, 2, 3	復習	スラッシュ・リーディング演習の完了	0.5	時間
合計時間(予習・復習)				15	時間
備考	PC 教室での講義の場合、テキストファイル保存用の USB メモリを必ず持参すること。				

科目名	英語 IIIB(リテラシー)							科目ナンバリング	LAL003	
英文名	English IIIB							講義形態	講義	
担当教員	Matthew Potter									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 前期		選必・単位数		必修 1 単位					
履修が必須となる資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針との対応	4	人間理解と倫理観				4	国際理解			
	1	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	0	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○						
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	このコースは中級以下の学習者を対象とした、スピーキングに重点を置いた一般英語コースです。日常生活や生活習慣、学校生活や学習習慣、趣味や自由時間など様々なテーマを扱います。									
到達目標	1. 基本的な英会話に自信を持つこと 2. 英語のリスニングとスピーキングのスキルを向上させる 3. 学習した英語を強化 4. 英語で学習する方法を学。 5. 自立して英語を学ぶためのスキル、自信、モチベーションを身につける。									
使用教材	Notebook, Pens and Pencils, textbook, dictionary, smartphone Textbook: Conversations in Class, 4 th Edition, Book 1, ISBN 978-4-905343-42-4									
参考文献										
評価方法	In-Class Activities: 10%, Speaking Tests: 40%, Vocabulary Quizzes: 50%									
課題に対するフィードバック	Teacher Assessment, Peer Feedback									
オフィスアワー (研究室)	Please contact me via email for questions outside of class hours.				メールアドレス (#→@)		matthewedwardpotter#gmail.com			
1	講義内容	Welcome and Introduction, Course outline, Textbook Orientation								
	該当到達目標	予習	Purchase Textbook						0 時間	
	1,2,3,4,5	復習	Orientation Review						0.5 時間	
2	講義内容	Unit 1- Origins. <i>Where are you from/do you live?</i>								
	該当到達目標	予習	Unit 1- Origins Preview. Create and learn your 10 item Vocabulary List						0.5 時間	
	1,2,3,4,5	復習	Unit 1- Origins Review.						0.5 時間	
3	講義内容	Unit 2- Your Lifestyle. <i>Do you live near here? Do you cook for yourself?</i>								
	該当到達目標	予習	Unit 2- Your lifestyle Preview. Create and learn your 10-item word list						0.5 時間	
	1,2,3,4,5	復習	Unit 2- Your lifestyle Review.						0.5 時間	
4	講義内容	Unit 3- Routines. <i>How long does it take you to get to campus?</i>								
	該当到達目標	予習	Unit 3- Routines Preview. Create and learn your 10 item Vocabulary List						0.5 時間	
	1,2,3,4,5	復習	Unit 3- Routines Review.						0.5 時間	
5	講義内容	Unit 4- Habits. <i>Do you ever fall asleep on the train?</i>								
	該当到達目標	予習	Unit 4- Habits Preview. Create and learn your 10 item Vocabulary List.						0.5 時間	
	1,2,3,4,5	復習	Unit 4- Habits Review. Prepare test dialog with partner.						1 時間	

6	講義内容	Unit 5– Your Studies. <i>What are you majoring in?</i>			
	該当到達目標	予習	Unit 5– Your Studies Preview. Create and learn your 10–item word list	0.5 時間	
	1,2,3,4,5	復習	Unit 5– Your studies. Review. Prepare and rehearse test dialog with partner.	1 時間	
7	講義内容	Speaking Test			
	該当到達目標	予習	Prepare and rehearse test dialog with partner.	1 時間	
	1,2,3,4,5	復習	Reflect on Test Performance	0.5 時間	
8	講義内容	Unit 6– Clubs. <i>Are you in any clubs?</i>			
	該当到達目標	予習	Unit 6– Clubs Preview. Create and learn your 10 item Vocabulary List.	0.5 時間	
	1,2,3,4,5	復習	Unit 6– Clubs Review.	0.5 時間	
9	講義内容	Unit 7– Part Time Jobs. <i>Do you have a part time job?</i>			
	該当到達目標	予習	Unit 7– Part Time Jobs Preview. Create and learn your 10–item word list	0.5 時間	
	1,2,3,4,5	復習	Unit 7– Part Time Jobs Review.	0.5 時間	
10	講義内容	Unit 8– Future Jobs. <i>What field would you like to work in?</i>			
	該当到達目標	予習	Unit 8– Future Jobs Preview. Create and learn your 10–item word list.	0.5 時間	
	1,2,3,4,5	復習	Unit 8– Future Jobs Review.	0.5 時間	
11	講義内容	Unit 9– Money. <i>What do you spend your money on?</i>			
	該当到達目標	予習	Unit–9 Money Preview. Create and learn your 10 item Vocabulary List.	0.5 時間	
	1,2,3,4,5	復習	Unit 9 Money Review.	0.5 時間	
12	講義内容	Unit 10– Going Out. <i>What’s your favorite store to buy clothes?</i>			
	該当到達目標	予習	Unit 10– Going Out Preview. Create and learn your 10–item word List.	0.5 時間	
	1,2,3,4,5	復習	Unit 10 –Going Out Review. Prepare test dialog with partner.	1 時間	
13	講義内容	Unit 11– Hobbies. <i>Do you play any sports/instruments?</i>			
	該当到達目標	予習	Unit 11– Hobbies Preview. Create and learn your 10 item Vocabulary List.	0.5 時間	
	1,2,3,4,5	復習	Unit 11– Hobbies Review. Prepare and rehearse your test dialog	1 時間	
14	講義内容	Speaking Test			
	該当到達目標	予習	Prepare and rehearse test dialog with partner.	1 時間	
	1,2,3,4,5	復習	Reflect on Test Performance	0.5 時間	
15	講義内容	Communicative Game, Catch-up for Tests and Quizzes			
	該当到達目標	予習	Check if you have missed any quizzes or tests and prepare.	0.5 時間	
	1,2,3,4,5	復習		0 時間	
合計時間(予習・復習)				17 時間	
備考	Syllabus may be subject to minor changes. The instructor will advise as necessary.				

科目名	英語 IIIA(リテラシー)						科目ナンバリング	LAL003		
英文名	English IIIA						講義形態	講義		
担当教員	柳澤順一									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針との対応	4	人間理解と倫理観				4	国際理解			
	1	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	0	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	この講義では、看護・医療の現場において必要とされる英語に焦点を絞ったテキストを用いる。医療・看護に関する英語表現力、語彙力、リスニング能力を身につけるとともに、基礎的な医療現場での会話表現を習得することが、この講義の目的である。必要に応じて DVD 視聴によるディクテーション・タスクを組み込み、ネイティブライクな英語表現を学ぶことがある。									
到達目標	1. 看護・医療に関する英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。 2. 看護・医療に関する英文読解のためのリーディング・スキルを獲得する。 3. リスニング・ライティング・コミュニケーション等の総合的な英語運用能力を高める。									
使用教材	First Aid! English for Nursing, Akihiko Higuchi & John Tremaco, Kinseido (2013)									
参考文献										
評価方法	期末試験 50% 平常点 50%(参加度、発表課題、授業での発言など)の総合評価とする。									
課題に対するフィードバック	レポートは評価またはショートコメントを付した後返却する(学期末課題については返却しないことがある)。期末試験は採点后、得点を通知する(非常勤のため事務局経由での通知)。									
オフィスアワー (研究室)	授業の際に指示する				メールアドレス (#→@)		jyanagisawa555#gmail.com			
1	講義内容	Course introduction including vocabulary quiz								
	該当到達目標	予習	特になし(語彙調べ)						0.5	時間
	1, 2, 3	復習	基礎語彙力テストの復習、プリント問題の解法						0.5	時間
2	講義内容	Unit 1. First Visit to Hospital; DVD-Watching 1 (1) Introduction								
	該当到達目標	予習	Listen & Talk, Reading Part とともに精読						0.5	時間
	1, 2, 3	復習	Useful Expressions 暗唱, Reading Part Exercises 解法						0.5	時間
3	講義内容	Unit 2. How to Fill in a Registration Form; DVD-Watching 1 (2)								
	該当到達目標	予習	Listen & Talk, Reading Part とともに精読						0.5	時間
	1, 2, 3	復習	Useful Expressions 暗唱, Reading Part Exercises 解法						0.5	時間
4	講義内容	Unit 3. Let's Ask about Mr. Brown's Daily Activities; DVD-Watching 1 (3)								
	該当到達目標	予習	Listen & Talk, Reading Part とともに精読						0.5	時間
	1, 2, 3	復習	Useful Expressions 暗唱, Reading Part Exercises 解法						0.5	時間
5	講義内容	Unit 4. Mr. Brown's Symptoms; DVD-Watching 1 (4)								
	該当到達目標	予習	Listen & Talk, Reading Part とともに精読						0.5	時間
	1, 2, 3	復習	Useful Expressions 暗唱, Reading Part Exercises 解法						0.5	時間
6	講義内容	Unit 5. Medical Checkup 1; DVD-Watching 1 (5)								
	該当到達目標	予習	Listen & Talk, Reading Part とともに精読						0.5	時間

	1, 2, 3	復習	Useful Expressions 暗唱, Reading Part Exercises 解法	0.5	時間
7	講義内容	Unit 6. Medical Checkup 2; DVD-Watching 1 (6)			
	該当到達目標	予習	Listen & Talk, Reading Part とともに精読	0.5	時間
	1, 2, 3	復習	Useful Expressions 暗唱, Reading Part Exercises 解法	0.5	時間
8	講義内容	語彙調べ			
	該当到達目標	予習	Pre-reading exercises	0.5	時間
	1, 2, 3	復習	スラッシュ・リーディング練習、Exercises 解法	0.5	時間
9	講義内容	語彙調べ			
	該当到達目標	予習	当該パラグラフの精読	0.5	時間
	1, 2, 3	復習	スラッシュ・リーディング練習、Exercises 解法	0.5	時間
10	講義内容	Unit 7. Mr. Brown's Diagnosis; DVD-Watching 2 (1)			
	該当到達目標	予習	Listen & Talk, Reading Part とともに精読	0.5	時間
	1, 2, 3	復習	Useful Expressions 暗唱, Reading Part Exercises 解法	0.5	時間
11	講義内容	Unit 8. Mr. Anderson's Symptoms; DVD-Watching 2 (2)			
	該当到達目標	予習	Listen & Talk, Reading Part とともに精読	0.5	時間
	1, 2, 3	復習	Useful Expressions 暗唱, Reading Part Exercises 解法	0.5	時間
12	講義内容	Unit 9. Let's Ask More about Mr. Anderson's Symptoms; DVD-Watching 2 (3)			
	該当到達目標	予習	Listen & Talk, Reading Part とともに精読	0.5	時間
	1, 2, 3	復習	Useful Expressions 暗唱, Reading Part Exercises 解法	0.5	時間
13	講義内容	Unit 10. Explaining Blood Test Results; DVD-Watching 2 (4)			
	該当到達目標	予習	Listen & Talk, Reading Part とともに精読	0.5	時間
	1, 2, 3	復習	Useful Expressions 暗唱, Reading Part Exercises 解法	0.5	時間
14	講義内容	Unit. 11 How to Take Medicine; DVD-Watching 2 (5)			
	該当到達目標	予習	Listen & Talk, Reading Part とともに精読	0.5	時間
	1, 2, 3	復習	Useful Expressions 暗唱, Reading Part Exercises 解法	0.5	時間
15	講義内容	Unit 12. Mrs. Johnson Feels Dizzy; DVD-Watching 2 (6) & Review			
	該当到達目標	予習	Listen & Talk, Reading Part とともに精読	0.5	時間
	1, 2, 3	復習	Useful Expressions 暗唱, Reading Part Exercises 解法	0.5	時間
合計時間(予習・復習)				15	時間
備考	PC 教室での講義の場合、テキストファイル保存用の USB メモリを必ず持参すること。左記以外の教室の場合、C-learning 上の指定ファイル(音声・テキスト)をダウンロードの上、携帯・タブレット端末等に入れて教室まで持参すること。				

科目名	英語 III C (リテラシー)						科目ナンバリング	LAL003		
英文名	English III C						講義形態	講義		
担当教員	織原 義明									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 前期		選必・単位数		必修 1 単位					
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	4	人間理解と倫理観				4	国際理解			
	1	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	0	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	看護・医療に関する英文テキストを用いて、リーディング、リスニング、ライティング等の総合的な英語運用能力を高めるための講義を行う。授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声教材を用いた活動を取り入れる。									
到達目標	1. 痛みや症状、薬などに関する基本的な英語の語彙力を身につける。 2. リーディング、リスニング、ライティング等の総合的な英語運用能力を高める。 3. 英語学習を通して専門用語の学び方を身につける。									
使用教材	CHECK-UP! Basic English for Nursing 樋口晶彦 / John Tremarco 著, 金星堂, ¥1,900 (税込 ¥2,090)									
参考文献										
評価方法	授業への参加度と平常点(小テスト)40%、期末試験 60%から総合的に評価する。									
課題に対するフィードバック	小テスト、期末試験は採点後に返却もしくは模範解答を提示する。									
オフィスアワー (研究室)	授業開始前または終了後に応じる。				メールアドレス (#→@)		初回授業時に提示する。			
1	講義内容	ガイダンス、Unit 1 - May I Help You?								
	該当到達目標	予習	Key Words, Reading, Writing Challenge, Further Study をやっておく。					0.5	時間	
	1, 2, 3	復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。					0.5	時間	
2	講義内容	Unit 2 - Where Do You Live?								
	該当到達目標	予習	Key Words, Reading, Writing Challenge, Further Study をやっておく。					0.5	時間	
	1, 2, 3	復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。					0.5	時間	
3	講義内容	Unit 3 - Do You Have an Insurance Card?								
	該当到達目標	予習	Key Words, Reading, Writing Challenge, Further Study をやっておく。					0.5	時間	
	1, 2, 3	復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。					0.5	時間	
4	講義内容	Unit 4 - What Department Do You Want to Visit?								
	該当到達目標	予習	Key Words, Reading, Writing Challenge, Further Study をやっておく。					0.5	時間	
	1, 2, 3	復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。					0.5	時間	
5	講義内容	Unit 5 - What Are Your Symptoms?								
	該当到達目標	予習	Key Words, Reading, Writing Challenge, Further Study をやっておく。					0.5	時間	
	1, 2, 3	復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。					0.5	時間	
6	講義内容	Unit 6 - Take One Tablet Three Times a Day								
	該当到達目標	予習	Key Words, Reading, Writing Challenge, Further Study をやっておく。					0.5	時間	
	1, 2, 3	復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。					0.5	時間	
7	講義内容	Unit 7 - You're Suffering from Hay Fever								

	該当到達目標 1, 2, 3	予習	Key Words, Reading, Writing Challenge, Further Study をやっておく。	0.5 時間
		復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。	0.5 時間
8	講義内容	Unit 8 - What Kind of Pain Is It?		
	該当到達目標	予習	Key Words, Reading, Writing Challenge, Further Study をやっておく。	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。	0.5 時間
9	講義内容	Unit 9 - Let's Check Your Daily Activities		
	該当到達目標	予習	Key Words, Reading, Writing Challenge, Further Study をやっておく。	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。	0.5 時間
10	講義内容	Unit 10 - Let's Check Your Pulse and Blood Pressure		
	該当到達目標	予習	Key Words, Reading, Writing Challenge, Further Study をやっておく。	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。	0.5 時間
11	講義内容	Unit 11 - It's Going to Be a Long Day!		
	該当到達目標	予習	Key Words, Reading, Writing Challenge, Further Study をやっておく。	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。	0.5 時間
12	講義内容	Unit 12 - You Have High Blood Sugar Levels		
	該当到達目標	予習	Key Words, Reading, Writing Challenge, Further Study をやっておく。	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。	0.5 時間
13	講義内容	Unit 13 - You Need to Control Your Diet		
	該当到達目標	予習	Key Words, Reading, Writing Challenge, Further Study をやっておく。	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。	0.5 時間
14	講義内容	Unit 14 - You Need to Be Hospitalized		
	該当到達目標	予習	Key Words, Reading, Writing Challenge, Further Study をやっておく。	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。	0.5 時間
15	講義内容	Unit 15 - Keep on Walking for Exercise		
	該当到達目標	予習	Key Words, Reading, Writing Challenge, Further Study をやっておく。	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	音声教材は C-learning にアップします。			

科目名	英語 IVA(リテラシー)						科目ナンバリング	LAL004		
英文名	English IVA						講義形態	講義		
担当教員	織原 義明									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 後期		選必・単位数		必修 1 単位					
履修を必須とする資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針との対応	4	人間理解と倫理観				4	国際理解			
	1	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	0	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	食物や健康に関わるトピックを扱ったテキストを用いて、リーディング、リスニング、ライティング等の総合的な英語運用能力を高めるための講義を行う。授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声教材を用いた活動を取り入れる。									
到達目標	1. 一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを身につける。 2. リスニング、ライティングなども含めた総合的な英語運用能力を高める。 3. 英語学習を通して専門用語の学び方を身につける。									
使用教材	Better Health for Every Day 毎日の健康に学ぶ大学総合英語, 西原俊明 / 西原真弓 / Amy Mukamuri 著, 金星堂, ￥1,900 (税込 ￥2,090)									
参考文献										
評価方法	授業への参加度と平常点(小テスト)40%、期末試験 60%から総合的に評価する。									
課題に対するフィードバック	小テスト、期末試験は採点後に返却もしくは模範解答を提示する。									
オフィスアワー (研究室)	授業開始前または終了後に応じる。				メールアドレス (#→@)		初回授業時に提示する。			
1	講義内容	ガイダンス、Unit 1 – Fuel Your Body and Mind								
	該当到達目標	予習	I. Vocabulary Study と III. Reading Activity を調べておく。						0.5	時間
	1, 2, 3	復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。						0.5	時間
2	講義内容	Unit 2 – What Helps Keep a Doctor Away?								
	該当到達目標	予習	I. Vocabulary Study と III. Reading Activity を調べておく。						0.5	時間
	1, 2, 3	復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。						0.5	時間
3	講義内容	Unit 3 – Laughing Will Save You from Going Crazy								
	該当到達目標	予習	I. Vocabulary Study と III. Reading Activity を調べておく。						0.5	時間
	1, 2, 3	復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。						0.5	時間
4	講義内容	Unit 4 – The French Paradox								
	該当到達目標	予習	K I. Vocabulary Study と III. Reading Activity を調べておく。						0.5	時間
	1, 2, 3	復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。						0.5	時間
5	講義内容	Unit 5 – Americans’ Interest in Sushi								
	該当到達目標	予習	I. Vocabulary Study と III. Reading Activity を調べておく。						0.5	時間
	1, 2, 3	復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。						0.5	時間
6	講義内容	Unit 6 – Don’t Stay Away from Natto								
	該当到達目標	予習	I. Vocabulary Study と III. Reading Activity を調べておく。						0.5	時間
	1, 2, 3	復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。						0.5	時間
7	講義内容	Unit 7 – Acute Alcohol Intoxication Can Kill You								

	該到達目標 1, 2, 3	予習	I. Vocabulary Study と III. Reading Activity を調べておく。	0.5 時間
		復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。	0.5 時間
8	講義内容	Unit 8 – Is Snoring a Bad Sign?		
	該到達目標 1, 2, 3	予習	I. Vocabulary Study と III. Reading Activity を調べておく。	0.5 時間
		復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。	0.5 時間
9	講義内容	Unit 9 – Getting a Good Night’s Sleep is a Challenge		
	該到達目標 1, 2, 3	予習	I. Vocabulary Study と III. Reading Activity を調べておく。	0.5 時間
		復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。	0.5 時間
10	講義内容	Unit 10 – Chocolate and its Magical Power		
	該到達目標 1, 2, 3	予習	I. Vocabulary Study と III. Reading Activity を調べておく。	0.5 時間
		復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。	0.5 時間
11	講義内容	Unit 11 – The Health Risks of Eating Processed Food		
	該到達目標 1, 2, 3	予習	I. Vocabulary Study と III. Reading Activity を調べておく。	0.5 時間
		復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。	0.5 時間
12	講義内容	Unit 12 – Is Genetically Modified Food Safe Enough?		
	該到達目標 1, 2, 3	予習	I. Vocabulary Study と III. Reading Activity を調べておく。	0.5 時間
		復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。	0.5 時間
13	講義内容	Unit 13 – Environmental Health Threats		
	該到達目標 1, 2, 3	予習	I. Vocabulary Study と III. Reading Activity を調べておく。	0.5 時間
		復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。	0.5 時間
14	講義内容	Review Test 1[Unit 1 – 6 復習テスト]		
	該到達目標 1, 2, 3	予習	Unit 1 – 6 を復習する。	0.5 時間
		復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。	0.5 時間
15	講義内容	Review Test 2[Unit 7 – 13 復習テスト]		
	該到達目標 1, 2, 3	予習	Unit 7 – 13 を復習する。	0.5 時間
		復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	音声教材は C-learning にアップします。			

科目名	英語 IVB(リテラシー)						科目ナンバリング	LAL004		
英文名	English IVB						講義形態	講義		
担当教員	山田 HAY 美由紀									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 後期		選必・単位数		必修 1 単位					
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	4	人間理解と倫理観				4	国際理解			
	1	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	0	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○	○	○		○				○	○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	英語会話で必要なアクティブラーニングに使える単語や文を指導する。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	この講義では、看護の現場において必要とされるコミュニケーション能力を英語をツールとして習得する。各自が自分の考えを持って英語で意見交換できる課題、コミュニケーションを必要とするグループ活動課題等を通し、日常英語の語彙、リスニング能力、英語表現力を身につける。また、専門用語に使用される英語についての理解、発音、使用例などに触れる。時事問題について時勢に沿ったテーマを取り上げる時間も設ける。講義は学生の既習内容を考慮した上、英語で行う。質問、疑問、意見等はその都度か講義後に発言すること。質問や意見は、積極的な参加態度、自己表現として奨励する。グループ課題終了後、自己評価・講義に対する評価用紙に記入することもできる。									
到達目標	1. 英語を使って自己の考えを口頭表現することができる。 2. 英語を使って自己の考えを口頭表現することができる。 3. 協力して課題を解決していくことにより、互いの能力を認め合い、個人を尊重する姿勢を身につける。									
使用教材	課題により印刷教材を配布する。									
参考文献										
評価方法	講義は実技中心のため、時間内のコミュニケーション状況(30%)、課題発表(50%)、講義への参加(20%)を評価する。個人課題は、講義の始めに毎回評価する。ペア、グループ課題は講義内での実践中、各人の英語によるコミュニケーションの様子を評価する。コミュニケーションのためのキープレーズを毎時紹介するので、記録して課題実践中に使うことが期待される。講義内外でのコミュニケーション(参加度)も評価の対象となる。自己評価用紙の記入は行うが、筆記試験による評価は行わない。講義に参加することが評価の対象になるので、欠席は 3 日を超えないよう留意すること。超える場合は要相談。									
課題に対するフィードバック	課題は、個人課題、ペア課題、グループ課題 1、グループ課題 2 の 4 種類。 講義内で個人、グループ、全体への口頭評価、課題発表後に口頭でフィードバックする。 また、グループ内で学生同士のフィードバックもある。									
オフィスアワー (研究室)	授業の際に指示する				メールアドレス (#→@)		連絡方法については初回で提示する			
1	講義内容	講義内容、出欠、評価の概要について理解する。個人活動。								
	該当到達目標	予習	英語に触れる機会を増やすための個人課題を出すので、受講期間中続けること。					0.5 時間		
	1, 2, 3	復習	Review					0.5 時間		
2	講義内容	個人課題について発表し教員評価を受ける。簡単なグループ活動と発表。ペア活動の紹介と実践。								
	該当到達目標	予習	個人課題を続ける。					0.5 時間		
	1, 2, 3	復習	Review					0.5 時間		
3	講義内容	個人課題について発表し教員評価を受ける。ペア活動。グループ課題 1 の紹介。								

	該当到達目標 1, 2, 3	予習	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5 時間
		復習	Review	0.5 時間
4	講義内容	個人課題についてペアで発表し合う。グループ課題 1 について理解する。専門用語・時事問題等		
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	個人課題を修正しながら続けること。	0.5 時間
		復習	Review	0.5 時間
5	講義内容	個人課題についてペアで発表し合う。グループ課題 1 の実践。専門用語・時事問題等		
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	個人課題を修正しながら続ける。	0.5 時間
		復習	Review	0.5 時間
6	講義内容	個人課題についてグループ内で評価し発表する。グループ課題 1 の実践。専門用語・時事問題等		
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5 時間
		復習	Review	0.5 時間
7	講義内容	個人課題についてグループ内で評価し発表する。グループ課題 1 の実践。		
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5 時間
		復習	グループ課題 1 の発表に向けて個人練習すること。	0.5 時間
8	講義内容	個人課題についてグループ内で評価し発表する。グループ課題 1 のリハーサル。		
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5 時間
		復習	グループ課題 1 の発表に向けて個人練習すること。	0.5 時間
9	講義内容	個人課題についてグループ内で評価し発表する。グループ課題1の発表。		
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5 時間
		復習	Review	0.5 時間
10	講義内容	発表について教員から口頭評価。自己評価・講義に対する評価（印刷物配布）。グループ課題 2 の説明		
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5 時間
		復習	Review	0.5 時間
11	講義内容	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題 2 の内容構成。英語押韻について		
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	個人課題を続ける。グループ課題の内容について必要事項を調べておく。	0.5 時間
		復習	Review	0.5 時間
12	講義内容	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題 2 の内容構成。英語押韻について		
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	個人課題を続ける。グループ課題の内容について必要事項を調べておく。	0.5 時間
		復習	Review	0.5 時間
13	講義内容	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題 2 の練習。英語押韻について		
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	個人課題を続ける。グループ課題2の練習をしておく。	0.5 時間
		復習	Review	0.5 時間
14	講義内容	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題 2 のリハーサル。		
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	個人課題を続ける。グループ課題2の練習をしておく。	0.5 時間
		復習	グループ課題 2 の練習をしておく。	0.5 時間
15	講義内容	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題の発表。口頭で評価。自己評価・講義に対する評価の記入（印刷物配布）。		
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	発表準備	0.5 時間
		復習	Review	0.5 時間
合計時間（予習・復習）				15 時間
備考	・講義内で電子辞書またはスマートフォンによる辞書検索を行うので持参すること。講義以外の使用については学生として品位のある態度で取り扱うこと。 ・コミュニケーションのためのフレーズを毎回紹介するので、記録して講義中に使用すること。記録用媒体はノート、スマートフォンなど個人で選択する。			

科目名	英語IVC(リテラシー)							科目 ナンバリング	LAL004	
英文名	English IVC							講義形態	講義	
担当教員	岡田和子									
科目に関連した 実務経験										
学年・開講期	2 年 後期		選必・単位数		必修 1 単位					
履修を必須とする 資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針 との対応	4	人間理解と倫理観				4	国際理解			
	1	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	0	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連										
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
「その他」のアクティブ ラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	看護・医療の現場において必要とされる英語に焦点を絞ったテキストを用い、基礎的な医療現場での会話表現を習得する。授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。									
到達目標	1. 医療コミュニケーションの英語運用能力を身に付ける。 2. 看護・医療に関する基礎的な語彙を獲得する。 3. 看護・医療に関する英文読解のためのリーディング・スキルを獲得する。									
使用教材	自作プリント配布 (1. 看護のための実践メディカル英語 2. 問診票英語版)									
参考文献	1.『沈みゆく大国アメリカ―逃げ切れ！日本の医療』堤未果(著) 集英社新書 2015 2.『日本が売られる』堤未果(著) 幻冬社新書 2018									
評価方法	平常点 20%(予習・発表状況など)、定期試験 80%を総合的に評価する。									
課題に対する フィードバック	課題、試験等の解説は授業中に行う。必要な場合は添削・コメントを付した後返却する。									
オフィスアワー (研究室)	火曜の 4 限まで。1 号館 1 階の講師室				メールアドレス (#→@)		非公開			
1	講義内容	第 1 課 痛みに関する英語表現								
	該当到達目標	予習	テキストを読んで内容を理解する						0.5 時間	
	1, 2, 3	復習	専門用語と表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する						0.5 時間	
2	講義内容	第 2 課 外来での英会話(診察前)								
	該当到達目標	予習	テキストを読んで内容を理解する						0.5 時間	
	1, 2, 3	復習	専門用語と表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する						0.5 時間	
3	講義内容	第 3 課 外来での英会話(診察後)								
	該当到達目標	予習	テキストを読んで内容を理解する						0.5 時間	
	1, 2, 3	復習	専門用語と表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する						0.5 時間	
4	講義内容	〇〇科の言い方 身体部位の表現(hip は「尻」ではない)								
	該当到達目標	予習	テキストを読んで内容を理解する						0.5 時間	
	1, 2, 3	復習	専門用語と表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する						0.5 時間	
5	講義内容	第 4 課 医療面接での英会話(主訴・現病歴) 問診票①								
	該当到達目標	予習	テキストを読んで内容を理解する						0.5 時間	
	1, 2, 3	復習	専門用語と表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する						0.5 時間	
6	講義内容	第 5 課 医療面接での英会話(既往歴・家族歴・社会歴)								

	該当到達目標	予習	テキストを読んで内容を理解する	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	専門用語と表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する	0.5 時間
7	講義内容	第 6 課 健康状態に関する英語表現		
	該当到達目標	予習	テキストを読んで内容を理解する	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	専門用語と表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する	0.5 時間
8	講義内容	第 7 課 症状に関する英語表現 問診票②		
	該当到達目標	予習	テキストを読んで内容を理解する	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	専門用語と表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する	0.5 時間
9	講義内容	第 8 課 検査に関する英語表現		
	該当到達目標	予習	テキストを読んで内容を理解する	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	専門用語と表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する	0.5 時間
10	講義内容	第 9 課 検査に関する英語表現(続)		
	該当到達目標	予習	テキストを読んで内容を理解する	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	専門用語と表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する	0.5 時間
11	講義内容	第 10 課 介助で使う英語表現		
	該当到達目標	予習	テキストを読んで内容を理解する	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	専門用語と表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する	0.5 時間
12	講義内容	第 10 課 介助で使う英語表現(続)		
	該当到達目標	予習	テキストを読んで内容を理解する	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	専門用語と表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する	0.5 時間
13	講義内容	問診票③④		
	該当到達目標	予習	テキストを読んで内容を理解する	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	専門用語と表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する	0.5 時間
14	講義内容	健康保険・医療職名称・病名等の注意すべき表現		
	該当到達目標	予習	テキストを読んで内容を理解する	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	専門用語と表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する	0.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	テキストを読んで内容を理解する	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	専門用語と表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考				

科目名	Integrated English I（リテラシー）							科目ナンバリング	LAL005	
英文名	Integrated English I							講義形態	講義	
担当教員	クリストファー・ターン									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	選択 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	4	人間理解と倫理観					4	国際理解		
	1	論理的思考力・問題解決力					1	生涯学習力		
	0	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
						○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	本講義では、海外英語研修参加希望者を対象とする。英語による日常英会話レベルのコミュニケーション能力を獲得することを講義目標としている。 教員より、コミュニケーションをとる必要がある様々な場面設定が提示される。受講生はその対応を考え、実践演習を行う。その後課題を分析し、再度実践演習を行う。また、学生生活で学んだ英語をまとめてノートを作成する。									
到達目標	1. コミュニケーションの基礎知識を学ぶ 2. 海外での様々な場面を想定した英会話の練習をする 3. プレゼンテーションの実践演習を行う また海外英語研修に向けた事前準備や説明を行う。									
使用教材	特に定めない。									
参考文献										
評価方法	授業内パフォーマンス 90%、提出物 10%									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出物にはコメントをつけて返却する。個人面談を行う。									
オフィスアワー（研究室）	火曜 3 限、金曜 3 限 （1 号館 315 研究室）				メールアドレス （#→@）		tarn#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	What is communication?								
	該当到達目標	予習	なし							0.5 時間
	1,2,3	復習	授業内容について要約する							0.5 時間
2	講義内容	Cognitive Psychology: Get to Know Yourself								
	該当到達目標	予習	自分自身について書く							0.5 時間
	1,2,3	復習	自分のインターナショナル・スキルについて書く							0.5 時間
3	講義内容	Social Skills								
	該当到達目標	予習	社会心理学について事前調べを行う							0.5 時間
	1,2,3	復習	改善すべき自分の社会的スキルについて書く							0.5 時間
4	講義内容	The Power of Imagination and Innovation								
	該当到達目標	予習	行きたい国、行きたい理由を挙げる							0.5 時間
	1,2,3	復習	その国について調べる							0.5 時間
5	講義内容	Learning to Control a Conversation								
	該当到達目標	予習	言葉が理解できない状況でどういくコミュニケーションが有効か考える							0.5 時間
	1,2,3	復習	ホストファミリーとの会話例を考える							0.5 時間
6	講義内容	Listening Strategies								

	該当到達目標 1,2,3	予習	訪問国の英語発音について調べる	0.5	時間
		復習	訪問国の短編映画やアニメを見る	0.5	時間
7	講義内容	Basic English: Self Introduction and First Step for Communication in English			
	該当到達目標 1,2,3	予習	自己紹介文を書く	0.5	時間
		復習	自己紹介文を仕上げる	0.5	時間
8	講義内容	Create your own English Database			
	該当到達目標 1,2,3	予習	ノートの準備をする	0.5	時間
		復習	English Database を作成する	0.5	時間
9	講義内容	Meet a Foreigner			
	該当到達目標 1,2,3	予習	外国人ゲストとの会話を考える	0.5	時間
		復習	外国人ゲストとの会話から、スピーキングの課題を見つける	0.5	時間
10	講義内容	Speech Basics: Talking to Audience			
	該当到達目標 1,2,3	予習	相手に伝わるプレゼンテーションについて調べる	0.5	時間
		復習	大学紹介についてのパワーポイントを作成する	0.5	時間
11	講義内容	Presentation 1			
	該当到達目標 1,2,3	予習	自分の学科(専門)についてのプレゼンテーションを作成する	0.5	時間
		復習	プレゼンテーションの直しと仕上げをする	0.5	時間
12	講義内容	Presentation 2			
	該当到達目標 1,2,3	予習	テーマについてのプレゼンテーションの準備をする	0.5	時間
		復習	プレゼンテーションの直しと仕上げをする	0.5	時間
13	講義内容	Make your own Textbook 1			
	該当到達目標 1,2,3	予習	海外研修・ホームステイを想定し自分自身のテキストブックを作成する	0.5	時間
		復習	海外研修・ホームステイを想定し自分自身のテキストブックを作成する	0.5	時間
14	講義内容	Do Group Work to Improve your Textbook			
	該当到達目標 1,2,3	予習	グループごとに各自のテキストブックについて話し合い改善する	0.5	時間
		復習	想定した研修やホームステイについてレポートを書く	0.5	時間
15	講義内容	Conclusion			
	該当到達目標 1,2,3	予習	これまでの授業の復習をする	0.5	時間
		復習	全講義を通して学んだことをレポートにする	0.5	時間
合計時間(予習・復習)				15	時間
備考	本講義は海外英語研修参加者を対象とする。予習復習時間については各自補完すること。				

科目名		Integrated English II（リテラシー）						科目ナンバリング		LAL006	
英文名		Integrated English II						講義形態		講義	
担当教員		高橋 栄作									
科目に関連した実務経験											
学年・開講期		1 年 後期		選必・単位数		選択 1 単位					
履修を必須とする資格											
学位授与方針との対応		4	人間理解と倫理観				4	国際理解			
		1	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
		0	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連											
アクティブラーニング実施方法		PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○				○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		英語の基礎文法事項を整理し、語彙力をつけながら TOEIC®テスト受験に必要とされる基礎的な英語力養成を目指す。 そのため授業では、TOEIC®テスト形式の問題演習を中心に、英語の基礎力を主にリスニングとリーディングの面から強化する。練習問題の音声をリピートしたり、スクリプトを音読したり、耳に英語が入った瞬間に理解できるようにインプットする。リーディングでは正解不正解の確認だけでなく、解答の根拠を理解し、応用可能な解法を身につける。									
到達目標		1. TOEIC®テストの形式と内容を理解できる。 2. 語彙力が身につく。 3. 文法事項を理解できる。 4. リスニング力が身につく。 5. リーディング力が身につく。									
使用教材		Ayako Yokogawa and Tony Cook. (2016). <i>Level-up Trainer for the TOEIC® TEST</i> . 東京: センゲージラーニング.									
参考文献		授業内で紹介する。									
評価方法		授業への参加度、発表、課題(40%)、期末試験(60%)で評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法		課題の解説をする。									
オフィスアワー （研究室）		授業終了後				メールアドレス （#→@）		eisaku #tcue.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス・TOEIC テストとは									
	該当到達目標	予習	教科書の「はじめに」「目次」「本書の使い方」「シラバス」などの内容を読んで、講義の目標などを理解する。							0.5	時間
	1	復習	Pre-test を解いて現在の実力を把握しよう。							0.5	時間
2	講義内容	Unit 1: テスト形式を知る									
	該当到達目標	予習	Unit 1 の語彙の意味を調べる。							0.5	時間
	2,3,4,5	復習	Unit 1 の練習問題の内容を理解する。							0.5	時間
3	講義内容	Unit 2: 基本戦略①									
	該当到達目標	予習	Unit 2 の語彙の意味を調べる。							0.5	時間
	2,3,4,5	復習	Unit 2 の練習問題の内容を理解する。							0.5	時間
4	講義内容	Unit 3: 基本戦略②									
	該当到達目標	予習	Unit 3 の語彙の意味を調べる。							0.5	時間
	2,3,4,5	復習	Unit 3 の練習問題の内容を理解する。							0.5	時間

5	講義内容	Unit 4: 英文の基本構造を見抜く		
	該当到達目標	予習	Unit 4 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	Unit 4 の練習問題の内容を理解する。	0.5 時間
6	講義内容	Unit 5: 解答根拠の登場順		
	該当到達目標	予習	Unit 5 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	Unit 5 の練習問題の内容を理解する。	0.5 時間
7	講義内容	Unit 6: 正解の言い換えパターンを知る		
	該当到達目標	予習	Unit 6 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	Unit 6 の練習問題の内容を理解する。	0.5 時間
8	講義内容	Units 1-6 のまとめ		
	該当到達目標	予習	指定されたリスニング・リーディングの問題を解く。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	解説を聞いて理解し、間違えたところを確認する。	0.5 時間
9	講義内容	Unit 7: 機能疑問文を聞き取る		
	該当到達目標	予習	Unit 7 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	Unit 7 の練習問題の内容を理解する。	0.5 時間
10	講義内容	Unit 8: 動詞の時制を見極める		
	該当到達目標	予習	Unit 8 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	Unit 8 の練習問題の内容を理解する。	0.5 時間
11	講義内容	Unit 9: 接続詞 vs. 前置詞		
	該当到達目標	予習	Unit 9 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	Unit 9 の練習問題の内容を理解する。	0.5 時間
12	講義内容	Unit 10: 複数パッセージ問題の攻略		
	該当到達目標	予習	Unit 10 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	Unit 10 の練習問題の内容を理解する。	0.5 時間
13	講義内容	Unit 11: 接続副詞に強くなる		
	該当到達目標	予習	Unit 11 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	Unit 11 の練習問題の内容を理解する。	0.5 時間
14	講義内容	Unit 12: NOT 型設問のコツ		
	該当到達目標	予習	Unit 12 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	Unit 12 の練習問題の内容を理解する。	0.5 時間
15	講義内容	Units 7-12 のまとめ		
	該当到達目標	予習	Post-test の問題を解く。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	解説を聞いて理解し、間違えたところを確認する。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考				

科目名	ドイツ語（リテラシー）							科目ナンバリング	LAL007	
英文名	German							講義形態	講義	
担当教員	大石 桂子									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	選択 ・ 2 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	4	人間理解と倫理観					4	国際理解		
	1	論理的思考力・問題解決力					1	生涯学習力		
	0	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	3 16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○	○	○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①講義の目標： 日常生活でよく登場する話題を題材に、ドイツ語で自己表現できる力を養成する。発音・会話練習を通して、理解力と表現力を養う。またドイツ語圏の文化、マナー、産業、医療に関連する知識(医療用語を含む)を取りあげ、異文化への関心と理解を喚起する。 ②講義の実施方法： 教科書の他に配布プリント・映像等によって、表現の演習をし、異文化理解を深める。									
到達目標	1. ドイツ語のあいさつ、自己紹介や買い物表現など、基本の会話表現を活用できる。 2. ドイツ語の初級文法を理解し、活用できる。 3. ドイツ語圏の文化、マナー、医療関連の知識について理解を深める。									
使用教材	『アプファールト<ノイ>』三修社。また、講義中に補助プリントを配布する。									
参考文献	講義中に指示する。									
評価方法	定期試験(60%)、小テスト・提出課題(40%)に、授業への積極性などを加味する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	小テストや提出課題は採点して返却し、解説を行う。									
オフィスアワー (研究室)	月曜日の 2 時限、金曜日の 2 時限。 (1 号館 6 階 601)				メールアドレス (#→@)		oishi#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス、ドイツ語の ABC、挨拶①								
	該当到達目標	予習	テキストの付属 CD でアルファベットの発音を確認する。							1 時間
	1	復習	アルファベット、挨拶の表現を CD で復習する。							1.5 時間
2	講義内容	挨拶②、発音練習、ドイツ語を使う国々の紹介								
	該当到達目標	予習	CD でウムラウトなどの発音を確認する。							1 時間
	1,3	復習	配布プリントの発音を確認する。							1.5 時間
3	講義内容	Lektion 1 人と知り合う:名前、出身、住所をたずねる / ドイツ語圏の文化①Sie と du								
	該当到達目標	予習	テキストの Lektion1 の会話文を CD で聞く。							1 時間
	1,2,3	復習	自己紹介の仕方を確認する。							1.5 時間
4	講義内容	Lektion 1 動詞の人称変化 (1)、疑問文 / ドイツ語圏の文化②学校制度								
	該当到達目標	予習	規則変化動詞の現在人称変化を確認する。							1 時間
	1,2,3	復習	配布プリントの問題を解く。							1.5 時間

5	講義内容	Lektion 2 人を誘う:友人を紹介する、数、電話番号 / ドイツ語圏の文化③学生生活			
	該当到達目標 1,2,3	予習	テキストの Lektion 2 の会話文を CD で聞く。数字の発音を確認する。	1 時間	
		復習	0～20 までの数字の発音を定着させる。	1.5 時間	
6	講義内容	Lektion 2 動詞の人称変化 (2)、語順など / ドイツ語圏の文化④食事			
	該当到達目標 1,2,3	予習	不規則変化動詞の現在人称変化を確認する。	1 時間	
		復習	配布プリントの問題を解く。	1.5 時間	
7	講義内容	Lektion 3 道の尋ね方・答え方:位置・方向を表す語 / ドイツ語圏の文化⑤産業			
	該当到達目標 1,2,3	予習	テキストの Lektion 3 の会話文を CD で聞く。	1 時間	
		復習	道案内の表現を確認する。	1.5 時間	
8	講義内容	Lektion 3 名詞の性、定冠詞と不定冠詞など / ドイツ語圏の文化⑥音楽			
	該当到達目標 1,2,3	予習	冠詞の 1 格を確認する。	1 時間	
		復習	配布プリントの問題を解く。	1.5 時間	
9	講義内容	Lektion 4 買い物:値段、気に入った? / ドイツ語圏の文化⑦歴史			
	該当到達目標 1,2,3	予習	テキストの Lektion 4 の会話文を CD で聞き、発音を確認する。	1 時間	
		復習	値段の表現を確認する。	1.5 時間	
10	講義内容	Lektion 4 冠詞の 3 格、前置詞など / ドイツ語圏の文化⑧年中行事			
	該当到達目標 1,2,3	予習	冠詞の 3 格を確認する。	1 時間	
		復習	配布プリントの問題を解く。	1.5 時間	
11	講義内容	Lektion 5 週末や休暇の予定:天候、一日の行動 / ドイツ語圏の文化⑨休暇の過ごし方			
	該当到達目標 1,2,3	予習	テキストの Lektion 5 の会話文を CD で聞き、発音を確認する。	1 時間	
		復習	予定を表す表現を確認する。	1.5 時間	
12	講義内容	Lektion 5 分離動詞、話法の助動詞など / ドイツ語圏の文化⑩医療・医療用語(1)			
	該当到達目標 1,2,3	予習	分離動詞の仕組みを確認する。	1 時間	
		復習	配布プリントの問題を解く。	1.5 時間	
13	講義内容	Lektion 6 過去のできごと:現在完了 / ドイツ語圏の文化⑪医療・医療用語(2)			
	該当到達目標 1,2,3	予習	テキストの Lektion 6 の会話文を CD で聞き、発音を確認する。	1 時間	
		復習	過去の表現を確認する。	1.5 時間	
14	講義内容	まとめ・学生発表①			
	該当到達目標 1,3	予習	ドイツに関する任意のテーマについて調べる。	1.5 時間	
		復習	学習した表現・内容を再確認する。	1 時間	
15	講義内容	まとめ・学生発表②			
	該当到達目標 1,3	予習	ドイツに関する任意のテーマについて調べる。	1.5 時間	
		復習	学習した表現・内容を再確認する。	1.5 時間	
合計時間(予習・復習)					38 時間
備考	予習・復習については試験前の学習で補完してください。 *オンライン授業となった場合は、C-Leaning で講義動画を閲覧し、課題を提出する形式になります。				

科目名		フランス語(リテラシー)					科目ナンバリング	LAL008			
英文名		French					講義形態	講義			
担当教員		松島 洋子									
科目に関連した実務経験		医療通訳・翻訳(産婦人科、形成外科、外科)									
学年・開講期		1 年 前期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする資格											
学位授与方針との対応		6	人間理解と倫理観				国際理解				
			論理的思考力・問題解決力			1	生涯学習力				
		3	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連		④⑰									
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○		○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		フランス語を通じて世界に関心を持ち、豊かな人間性を育む。 ①フランスの文化や習慣に触れ、自らと比較し、多様な価値観への関心を深める。 ②毎回1つのテーマを中心に、「伝わるフランス語」を学ぶ。文法は会話に取り入れ、生徒が楽しんで身に付けられるように進める。									
到達目標		1. フランス語で簡単な会話ができる■ 2. フランス語検定4級相当の文法を理解する■									
使用教材		①今すぐ話せる！いちばんはじめのフランス語単語・CD・ROM 付き 東進ブック ISBN978-4-89085-719-7 ②フランス語をひとつひとつわかりやすく。―超基礎からの個人授業 学研教育出版 ISBN978-4-05-303813-5									
参考文献											
評価方法		授業内の課題及び期末テストにて文法理解度を確認 50%、 授業内の発言・質問・ロールプレイ等 50%									
課題・評価に対するフィードバック方法		授業内で取り組んだ課題とテストをチェックして返却する。									
オフィスアワー (研究室)		質問等は、開始前もしくは終了後に応じる。				メールアドレス	連絡手段は初回授業時に提示する。				
1	講義内容	フランス語の基本／アルファベの発音、発音記号、挨拶、仏語の特性■									
	該当到達目標	予習	第 1 回で取り組む単元を CD で聞いておく。							0.5	時間
	1,2	復習	第 1 回で取り組んだ単元を再確認しておく。							0.5	時間
2	講義内容	名詞／男性名詞と女性名詞の単数形、複数形■									
	該当到達目標	予習	第 2 回で取り組む単元を CD で聞いておく。							0.5	時間
	1,2	復習	第 2 回で取り組んだ単元を再確認しておく。							0.5	時間
3	講義内容	動詞の活用① フランス語の基礎となる動詞／名詞「性格」「国」■									
	該当到達目標	予習	第 3 回で取り組む単元を CD で聞いておく。							0.5	時間
	1,2	復習	第 3 回で取り組んだ単元を再確認しておく。							0.5	時間
4	講義内容	動詞の活用② 規則動詞と不規則動詞 動詞 avoir の使い方■									
	該当到達目標	予習	第 4 回で取り組む単元を CD で聞いておく。							0.5	時間
	1,2	復習	第 4 回で取り組んだ単元を再確認しておく。							0.5	時間
5	講義内容	動詞の活用③ 不規則動詞「GO」の意味を持つ「aller」／場所につける前置詞■									
	該当到達目標	予習	第 5 回で取り組む単元を CD で聞いておく。							0.5	時間
	1,2	復習	第 5 回で取り組んだ単元を再確認しておく。							0.5	時間

6	講義内容	所有形容詞「私の」「彼の」／名詞「家族・友人・身の回りのもの」■		
	該当到達目標	予習	第 6 回で取り組む単元を CD で聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第 6 回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
7	講義内容	否定文の作り方／動詞「話す」、名詞「職業」■		
	該当到達目標	予習	第 7 回で取り組む単元を CD で聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第 7 回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
8	講義内容	動詞の活用④「ER 動詞」の使い方／数えられる名詞と数えられない名詞■		
	該当到達目標	予習	第 8 回で取り組む単元を CD で聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第 8 回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
9	講義内容	疑問文①「はい・いいえ」で答える疑問文と具体的な答えを求める疑問文■		
	該当到達目標	予習	第 9 回で取り組む単元を CD で聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第 9 回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
10	講義内容	動詞の活用⑤「faire～する」の使い方／日常生活「宿題、家事等」■		
	該当到達目標	予習	第 10 回で取り組む単元を CD で聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第 10 回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
11	講義内容	疑問文②「どこですか?」「誰ですか?」／動詞「～を知っている」、人を紹介する■		
	該当到達目標	予習	第 11 回で取り組む単元を CD で聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第 11 回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
12	講義内容	疑問文③ 方向、位置を尋ねる／方向を示す名詞「上下」「左右」等■		
	該当到達目標	予習	第 12 回で取り組む単元を CD で聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第 12 回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
13	講義内容	動詞の活用⑥「faire」の使い方・応用／名詞「スポーツ」■		
	該当到達目標	予習	第 13 回で取り組む単元を CD で聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第 13 回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
14	講義内容	時計の読み方／時間、曜日、月、季節■		
	該当到達目標	予習	第 14 回で取り組む単元を CD で聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第 14 回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
15	講義内容	動詞の活用⑦「○○が欲しい」／「○○ができる」基礎～応用		
	該当到達目標	予習	第 15 回で取り組む単元を CD で聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第 15 回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す			

科目名	ポルトガル語(リテラシー)							科目ナンバリング	LAL009								
英文名	Portuguese							講義形態	講義								
担当教員	カルステン アンジェラ																
科目に関連した実務経験	第二言語としてのポルトガル語教授、25 年の経験																
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位														
履修を必須とする資格																	
学位授与方針との対応	7	人間理解と倫理観					国際理解										
		論理的思考力・問題解決力					生涯学習力										
	3	チームの一員としての協調・協働															
SDGs との関連	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他							
			○	○						○							
「その他」のアクティブラーニング実施方法	ロールプレイングと教育的ゲーム																
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	1. クラスでは、基本的なポルトガル語を紹介し、練習しながら、スピーキング、リスニング、リーディング、ライティング、および基本的な文法知識の習得と語学スキルの向上を目指す。 2. クラスは、ディスカッションやビデオ視聴による日常会話に役立つポルトガル語の導入と、練習で構成され、その後、ロールプレイ、教育的ゲーム、グループ活動を通じて実用性を高める。																
到達目標	1. 初級レベルの日常会話■ 2. 各回に、ポルトガルの文化に触れる時間を設け、自身の文化と比較し、多様な価値観への関心を深める。■																
使用教材	教材プリント																
参考文献	ブラジル人による生きたブラジルポルトガル語著者: Silvia Noriko Kaneyasu																
評価方法	15%・授業への積極的な参加 15%・アンケートへの参加 20%・宿題 25%・中間グループプレゼンテーション 25%・最終グループプレゼンテーション																
課題・評価に対するフィードバック方法	教員は学生の授業活動をチェックしながら、実践的な活動や内容についてアドバイスや指導を行う。																
オフィスアワー (研究室)	授業日の授業開始前もしくは終了後に 教室等で相談に応じる。				メールアドレス (#→@)		連絡手段は初回授業時に提示する。										
1	講義内容	コースとクラスの紹介															
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、疑問点があればメモしておく。							1,5 時間							
	1,2	復習	1. 授業で練習した自己紹介や挨拶を覚える。 2. ビデオを見てポルトガル語のアルファベットを覚える。							1,5 時間							
2	講義内容	ブラジルについて。自分自身について話す。(ポルトガル語の“Be” 動詞 - <i>ser/estar</i>) ■															
	該当到達目標	予習	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。							1,5 時間							
	1,2	復習	自己紹介文を見直す。							1,5 時間							
3	講義内容	家族について(私の、あなたの、彼女の、彼の... <i>meu, seu, dele, dela</i> ...) ■															
	該当到達目標	予習	宿題、アンケート実施。							1,5 時間							

	1,2	復習	家族についての話し、文を見直す。	1,5 時間
4	講義内容	数字、曜日、月、天気、について。■		
	該当到達目標	予習	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1,5 時間
	1,2	復習	ポルトガル語で曜日、1 から 10 までの数字、月を学ぶ。	1,5 時間
5	講義内容	好き嫌いについて 動詞「gostar」(ポルトガル語で色、食べ物、飲み物など)■		
	該当到達目標	予習	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1,5 時間
	1,2	復習	好きなことや嫌いなことについての話し方、文を見直す。	1,5 時間
6	講義内容	物事の説明(形容詞、反対語)■		
	該当到達目標	予習	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1,5 時間
	1,2	復習	ポルトガル語の便利な形容詞とその反対語を見直す。	1,5 時間
7	講義内容	日常の活動について(よく使われる規則動詞)■		
	該当到達目標	予習	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1,5 時間
	1,2	復習	動詞「comprar」、「estudar」、「trabalhar」、「comer」、「beber」、「escrever」、partir、 abrir の活用と使い方の練習。	1,5 時間
8	講義内容	これまでの内容の復習、中間グループ発表■		
	該当到達目標	予習	中間グループプレゼンテーション準備。	1,5 時間
	1,2	復習	授業で示される重要語彙の復習。	1,5 時間
9	講義内容	疑問詞の使い方(Como? Onde?, O que? Quem?...) ■		
	該当到達目標	予習	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1,5 時間
	1,2	復習	ポルトガル語での質問文を見直す。(どのように、いつ、どこで、誰...)	1,5 時間
10	講義内容	時間について■		
	該当到達目標	予習	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1,5 時間
	1,2	復習	ポルトガル語で時間を言う練習をする。	1,5 時間
11	講義内容	ポルトガル語の動詞「estar」の使い方 (前置詞、動詞の動名詞形) ■		
	該当到達目標	予習	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1,5 時間
	1,2	復習	動詞の継続時制を使う練習をする。	1,5 時間
12	講義内容	私たちが持っているもの、欲しいもの、やっていること。(不規則動詞「ter」、「querer」、「fazer」)■		
	該当到達目標	予習	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1,5 時間
	1,2	復習	あなたが持っているもの、欲しいもの、やっていることについて書き、話す練習をする。	1,5 時間
13	講義内容	予定について(動詞「行く」と「来る」 - 「ir」と「vir」)■		
	該当到達目標	予習	宿題、アンケートの実施。 質問があればメモしておく。	1,5 時間
	1,2	復習	予定の短いリストを書き、読む練習をする。	1,5 時間
14	講義内容	知っていること、できることについて。(動詞「saber」と「conhecer」の使い方)		
	該当到達目標	予習	宿題、アンケート実施。	1,5 時間

	1,2		質問があればメモしておく。	
		復習	自分にできることについて書き、話す練習をする。	1,5 時間
15	講義内容	プレゼンテーション クラス全体でのディスカッション■		
	該当到達目標	予習	グループプレゼンテーションの準備。	1,5 時間
	1,2	復習	学習した動詞を使用しながら自分自身について話す練習をする。	1,5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	中国語(リテラシー)						科目 ナンバリング	LAL010		
英文名	Chinese						講義形態	講義		
担当教員	渡邊 賢									
科目に関連した 実務経験										
学年・開講期	1 年 前期		選必・単位数	選択 2 単位						
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	2	人間理解と倫理観			0	国際理解				
	0	論理的思考力・問題解決力			6	生涯学習力				
	2	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連										
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①中国語を学ぶ上で不可欠である発音とその表記と、また最も基礎的な語彙と構文とを身に付け、簡単なコミュニケーションができる語学力の養成を目指す。同時に中国文化の全般に関する興味を喚起したい。 ②1)授業は全 15 回を通じて、音声および表記の反復学習を徹底する形で展開し、中国語基礎学力の定着を目指す。失敗を恐れず、積極的に楽しく学んでほしい。外国語学習には習慣性とある程度の忍耐が必要である。学生諸君には外国語の学習を通じて、習慣的学習や知的忍耐力を身に付けられたい。 2)毎回、中国の文化に触れる時間を設け、自らと比較し、多様な価値観への関心を深める。									
到達目標	1. 中国の地理、風俗および言語とその多様性を理解する。 2. 中国語音を表記する音声記号を習得する。 3. 中国語音を表記する音声記号を正確に発音する能力を育成する。 4. 中国語音を聞いて、弁別する聴力を育成する。 5. 日常会話に不自由しない程度の語彙と語法とを習得する。									
使用教材	教科書『大学一年生のための合格中国語』小幡敏行著(朝日出版社) ISBN97-4-255-45224-1C1087									
参考文献										
評価方法	毎回の小試験 20%、発音中間試験 30%、学期末筆記試験 50%により評価する。 総合評価 60%以上を合格とみなす。									
課題・評価に対する フィードバック方法	毎回の小試験は採点の上、返却する。各自、未熟な点をよく自覚し克服されたい。									
オフィスアワー (研究室)	授業開始前もしくは授業終了後に応じる。				メールアドレス	連絡手段は初回授業時に提示する。				
1	講義内容	ガイダンス								
	該当到達目標	予習	シラバス内容、教科書第 8 頁「中国語について」を読み、講義目標や中国語の特性などについて理解する。						1 時間	
	1	復習	必要時適宜						0 時間	
2	講義内容	発音の基礎Ⅰ:ピンイン字母、単母音、四声などを学習する。								
	該当到達目標	予習	必要時適宜						0 時間	
	2,3,4	復習	授業で学習したことを、毎日、一日 10 分程度、発音する。						1 時間	
3	講義内容	発音の基礎Ⅱ:複合母音、「声(子音)」の唇音・舌先音・舌根音などを学習する。								
	該当到達目標	予習	必要時適宜						0 時間	
	2,3,4	復習	授業で学習したことを、毎日、一日 10 分程度、発音する。						1 時間	

4	講義内容	発音の基礎Ⅲ:鼻母音、「声(子音)」の舌面音・捲舌音・舌歯音などを学習する。		
	該当到達目標	予習	必要時適宜	0 時間
	2,3,4	復習	授業で学習したことを、毎日、一日 10 分程度、発音する。	1 時間
5	講義内容	教科書第 1 課、名前の聞き方・答え方、人称代名詞などの学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 1 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
6	講義内容	教科書第 2 課、指示代名詞、「是」を用いた判断文などの学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 2 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
7	講義内容	教科書第 3 課、形容詞述語文や数量表現などの学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 3 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
8	講義内容	教科書第 4 課、存在文や構造助詞「的」などの学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 4 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
9	講義内容	教科書第 5 課、介詞構造や方位詞などの学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 5 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
10	講義内容	教科書第 6 課、連動文や能願動詞などの学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 7 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
11	講義内容	教科書第 7 課、数量補語や動態助詞の「了」と語気詞の「了」などの学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 7 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
12	講義内容	教科書第 8 課、動態助詞「過」や程度補語などについての学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 8 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
13	講義内容	教科書第 9 課、能願動詞「会」「能」「可以」などについての学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 9 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
14	講義内容	教科書第 10 課、方向補語や結果補語などについての学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 10 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
15	講義内容	教科書第 11 課、主述述語文や比較表現などについての学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 11 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				26 時間
備考	復習は机に向かうには及ばない。通学時などわずかな余暇を利用して、10 分程度で構わぬので、必ず毎日、口や舌を動かして毎回の授業の内容を消化することが望ましい。毎回の積み重ねが肝要。後刻、自力でマスターしようとしてもほとんど不可能と心得よ。 予習・復習:必要に応じて適宜、各自で補完すること。			

科目名	ハングル語(リテラシー)						科目ナンバリング	LAL011		
英文名	Korean						講義形態	講義		
担当教員	丁美貞									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	5	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	3	論理的思考力・問題解決力				0	生涯学習力			
	2	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○						
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①はじめて韓国語をまなぶ学生を対象とする。表音文字であるハングルの表記を覚え、単語や文章を正確に発音する練習をする。会話の練習を通して簡単な挨拶や自己紹介、身の回りのものについて覚える。 ②ハングルの文字と単語の書き方、読み方から発音練習や会話表現の練習を行う。毎回、韓国の文化に触れる時間を設け、自らと比較し、多様な価値観への関心を深める。									
到達目標	1. 正確なハングル文字の表記及び発音を習得する。 2. 합니다体の叙述・疑問に関する表現を習得する。 3. 100 語程度を用いた簡単な挨拶や自己紹介などの基本文型を習得する。 4. 日常生活でよく使われる基本的な表現や言い回しを理解し、簡単な会話ができる。									
使用教材	朴庚卿,仲島淳子,金美順,徐明煥(2023)『ワンアクション韓国語』朝日出版社									
参考文献	斉藤明美(2005)『ことばと文化の日韓比較—相互理解をめざして』世界思想社									
評価方法	授業への参加度 10%、課題・小テスト 30%、定期試験 60%									
課題・評価に対するフィードバック方法	課題にはコメントを付けて返却する。小テストを毎回返却し解説する。									
オフィスアワー (研究室)	質問等がある場合は授業の前後に応じる。もしくはメールで連絡すること。				メールアドレス (#→@)		mijeong621#gmail.com			
1	講義内容	授業概要、ハングルについて、基本母音								
	該当到達目標 1	予習	テキストを用意し、2 頁～6 頁を読んてくる。韓国語のノートを用意すること。						1.5	時間
		復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。						1.5	時間
2	講義内容	基本子音（平音、激音、濃音）								
	該当到達目標 1	予習	7 頁～17 頁を読んてくる。						1.5	時間
		復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。						1.5	時間
3	講義内容	複合母音								
	該当到達目標 1	予習	18 頁～21 頁を読んてくる。						1.5	時間
		復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。						1.5	時間
4	講義内容	終声(パッチム)								
	該当到達目標 1	予習	22 頁～25 頁を読んてくる。						1.5	時間
		復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。						1.5	時間
5	講義内容	発音の変化								
	該当到達目標	予習	26 頁～30 頁を読んてくる。						1.5	時間

	1	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
6	講義内容	基礎まとめ、日本語のハングル表記、ハングル入力(メール)		
	該当到達目標	予習	31 頁～32 頁を読んでくる。	1.5 時間
	1	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
7	講義内容	「挨拶をする」 입니다、助詞「는/은」、助詞「도」、라고/이라고 합니다		
	該当到達目標	予習	32 頁～35 頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
8	講義内容	「挨拶をする」 입니다、助詞「는/은」、助詞「도」、라고/이라고 합니다、作文練習		
	該当到達目標	予習	34 頁～43 頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
9	講義内容	「状況を説明する」 합니다体、助詞「를/을」		
	該当到達目標	予習	44 頁～47 頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
10	講義内容	「状況を説明する」 助詞「에서」、助詞「에」(位置)、否定形「지 않다」、作文練習		
	該当到達目標	予習	48 頁～53 頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
11	講義内容	「買い物をする」 指示語、助詞「가/이」、助詞「와/과」		
	該当到達目標	予習	54 頁～59 頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
12	講義内容	「買い物をする」 漢数詞、가/이 아니다、作文練習		
	該当到達目標	予習	60 頁～65 頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
13	講義内容	「予定を述べる」 固有数詞、助詞「에」(時間)、助詞「에」(方向)		
	該当到達目標	予習	66 頁～71 頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
14	講義内容	「予定を述べる」 助詞「에서/부터～까지」、否定形「안」、를/을 좋아합니다、作文練習		
	該当到達目標	予習	72 頁～77 頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
15	講義内容	総まとめ		
	該当到達目標	予習	今まで勉強した内容をもう一度、確認して理解しておく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	適宜	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	毎回課題や小テストを行うため必ず予習・復習を行うこと。音源を活用しテキストの読みを練習すること。 メールを送る際は「件名」に「高崎健康福祉大学ハングル語：名前」を必ず記入すること。 予習・復習：必要に応じて、各自適宜補完すること。			

科目名	情報リテラシーⅠ（基礎教養科目）						科目ナンバリング	LAL012		
英文名	Information LiteracyⅠ						講義形態	講義		
担当教員	茂木佐智子、飯島友美、木幡 直樹									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	選択 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	3	人間理解と倫理観				1	国際理解			
	2	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	3	チームの一員としての協調・協働								
SDGsとの関連	4 5 12									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
						○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①大学での学習に必要なパソコンを利用に関わる基礎的スキルを身につけることを目標とする。 ②授業はオンライン・オンデマンド開講とする。									
到達目標	1. 書誌的事項を過不足なく記載でき、参考資料や引用文献を適切に取り扱い、レポートが作成できる。 2. メールや SNS を正しく扱うことができる。 3. 授業における調べものやレポート作成に使用するパソコンを適切に取り扱うことができる。 4. 大学のメールや学生ポータルサイト、学習支援サイトを適切に利用できる。 5. 情報倫理やアクセシビリティを理解し、パソコンや情報機器を利用できる。									
使用教材	配布資料									
参考文献										
評価方法	単元毎のテストを行い、合計点を 100 点に換算して、60 点以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	C-learning を利用して学習状況や授業における疑問点や改善要望等を収集する。									
オフィスアワー （研究室）	水曜3限 1号館6階615研究室				メールアドレス （#→@）	kohata#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	レポートの書き方 ①レポートの記載事項 ②参考文献・資料引用の注意点 ③知的財産権・著作権の取り扱い上の注意点								
		該当到達目標 1	予習	1 回目の講義内容を予め読んでおく						1.5
		復習	1 回目の講義内容を復習する						1.5	時間
2	講義内容	メール・SNS 利用のマナーと注意点 ①メールの書き方（件名、本文の書き方、TO/CC/BCC の使い分け、署名） ②ファイルの添付/添付ファイルのダウンロード ③不審メールへの対処 ④SNS 利用上の注意（マナー、リスク、注意事項） ⑤クラウドサービス利用上の注意事項								
		該当到達目標 2,4	予習	2 回目の講義内容を予め読んでおく						1.5
		復習	2 回目の講義内容を復習する						1.5	時間
3	講義内容	Windows PC の操作1（基本操作編） ①起動、シャットダウン、スリープ、ロック、サインアウト/サインイン								

		②文字入力とカナ漢字変換 ③ネットワークの接続設定(無線/有線)と Web サイトへの接続 ④Web ブラウザの便利機能とセキュリティ管理		
	該当到達目標 3	予習	3 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	3 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
4	講義内容	Widows PC の操作2(エクスプローラ操作編) ①各種表示機能の ON/OFF ②フォルダ・ファイル操作に関する基本機能と応用機能 ③ファイル情報の表示と検索 ④ショートカットの作成		
	該当到達目標 3	予習	4 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	4 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
5	講義内容	Widows PC の操作3(実用操作編) ①画面キャプチャ、アプリ強制終了、スタートアップ設定 ②Windows の各種設定とメンテナンス ③アプリのインストール/アンインストール、関連付け、メニュー登録 ④パーティションの作成 ⑤クラウドの利用(OneDrive、GoogleDrive)		
	該当到達目標 3	予習	5 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	5 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
6	講義内容	G メールの設定と利用 ①本学メールシステムへのログイン・ログアウト ②画面構成(受信トレイ・送信済み・迷惑メール・ゴミ箱) ③メールの作成・送信(To/Cc/Bcc)・返信・転送 ④署名の設定、ファイルの添付 ⑤実践(履修者同士での練習)		
	該当到達目標 2,4	予習	6 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	6 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
7	講義内容	情報の倫理とモラル ①個人情報保護と情報倫理 ②情報利用のモラル		
	該当到達目標 5	予習	7 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	7 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
8	講義内容	情報通信のアクセシビリティ ①アクセシビリティについて ②キーボード補助機能・マウス補助機能・見やすさの機能・他機能 ③音声認識アプリ・会話補助装置・意思伝達装置・他		
	該当到達目標 5	予習	8 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	8 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	予習・復習:必要に応じて、各自補完すること。 1.授業はオンライン授業となる。 2. 学生は、C-learning を活用し出席の登録を行う。 3. 学習状況、小テストについては、C-learning にて科目責任者が連絡する。 4. 授業内容についての質問事項は、メールアドレス kohata#takasaki-u.ac.jp まで連絡する。			

科目名	情報リテラシーⅡ（リテラシー）						科目ナンバリング	LAL013		
英文名	Information Literacy Ⅱ						講義形態	講義		
担当教員	梅原里実、内田真理子、木幡直樹									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	選択 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	3	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	6	倫理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	0	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	3 4 12									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
						○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①大学での学習に必要なパソコンを利用に関わる基礎的技能を身につけることを目標とする。 ②授業はオンライン・オンデマンド開講とする。									
到達目標	1. 情報量の表示に関わる接頭語が理解でき、正しく使える。 2. 論理演算が理解でき、真理値表やベン図で説明できる。 3. コンピュータの5 大要素を説明でき、主要な入出力装置やインターフェースを適切に利用できる。 4. OS の役割を説明できる。									
使用教材	オンラインで PDF 資料を配布、動画閲覧									
参考文献										
評価方法	各単元で実施する小テストの合計を 100 点満点に換算し、60 点以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	C-learning を利用して学習状況や授業における疑問点や改善要望等を収集する。									
オフィスアワー （研究室）	金曜2限、4号館5階506 研究室				メールアドレス （#→@）	umehara#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	コンピュータの仕組み1 ①情報量と補助単位（接頭語） ②2 進数、8 進数、16 進数								
	該当到達目標 1	予習	1 回目の講義内容を予め読んでおく						1.5	時間
		復習	1 回目の講義内容を復習する						1.5	時間
2	講義内容	コンピュータの仕組み2 ①2値論理 ②真理値表 ③ベン図								
	該当到達目標 2	予習	2 回目の講義内容を予め読んでおく						1.5	時間
		復習	2 回目の講義内容を復習する						1.5	時間
3	講義内容	コンピュータの仕組み3 ①コンピュータの概要（5 大要素） ②コンピュータの種類								
	該当到達目標	予習	3 回目の講義内容を予め読んでおく						1.5	時間

	3	復習	3 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
4	講義内容	コンピュータの仕組み4 ①入力装置 ②出力装置 ③記憶装置 ④演算装置 ⑤制御装置		
		該当到達目標	予習	4 回目の講義内容を予め読んでおく
	3	復習	4 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
5	講義内容	コンピュータの仕組み5 ① 周辺装置(入力装置・出力装置) ② 周辺装置(補助記憶装置) ③ ドライバ		
		該当到達目標	予習	5 回目の講義内容を予め読んでおく
	3	復習	5 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
6	講義内容	コンピュータの仕組み6 ① OS の種類 ② OS の役割(ファイル管理) ③ OS の役割(タスク管理・メモリ管理・デバイス管理) ④ OS と GUI インターフェイス		
		該当到達目標	予習	6 回目の講義内容を予め読んでおく
	3	復習	6 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
7	講義内容	コンピュータの仕組み7 ① LAN とインターネット ② IP アドレスとルーティング ③ ファイヤーウォール ④ Web と Web アプリ		
		該当到達目標	予習	7 回目の講義内容を予め読んでおく
	4	復習	7 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
8	講義内容	コンピュータの仕組み8 ① パソコンの構造 ② 筐体 ③ マザーボード ④ 各種拡張ボード		
		該当到達目標	予習	8 回目の講義内容を予め読んでおく
	3	復習	8 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	予習・復習:必要に応じて、各自補完すること。			
	1. 授業はオンライン授業となる。			
	2. 学生は、C-learning を活用し出席の登録を行う。			
	3. 学習状況、小テストについては、C-learning にて科目責任者が連絡する。			
	4. 授業内容についての質問事項は、メールアドレス kohata#takasaki-u.ac.jp まで連絡する。			

科目名	情報リテラシーⅢ(リテラシー)	科目ナンバリング	LAL014
英文名	Information Literacy Ⅲ	講義形態	演習

担当教員	小池洋子 浅井直美 木幡 直樹									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	選択 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	3	人間理解と倫理観					0	国際理解		
	6	倫理的思考力・問題解決力					1	生涯学習力		
	0	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	①	④	⑨					⑫		
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○				○	○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①大学での学習に必要な文書作成やプレゼンテーションの基礎的技能を身につけることを目標とする。 ②授業はオンライン・オンデマンド開講とする。									
到達目標	1. Word を使って各種文書を作成できる。 2. PowerPoint を使ってスライドを作成でき、プレゼンテーションが出来る。									
使用教材	30 時間でマスターOffice2021 実教出版									
参考文献										
評価方法	単元毎のテストを行い、合計点を 100 点に換算して、60 点以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	C-learning を利用して学習状況や授業における疑問点や改善要望等を収集する。									
オフィスアワー (研究室)	水曜3限 1号館 6階615研究室				メールアドレス (#→@)		kohata#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	Word 利用の基礎(演習)1 ①Word の起動と画面構成 ②文書の入力と編集 ③ページ設定								
		該当到達目標 1	予習	該当する部分の教科書を読んでおくこと。						1.5 時間
		復習	講義内容に関する課題を行い提出すること。						1.5 時間	
2	講義内容	Word 利用の基礎(演習)2 ①文書の作成 ②文字の配置 ③文字の修飾								
		該当到達目標 1	予習	該当する部分の教科書を読んでおくこと。						1.5 時間
		復習	講義内容に関する課題を行い提出すること。						1.5 時間	
3	講義内容	Word 利用の基礎(演習)3 ①表の作成 ②表のレイアウトの変更 ③表の編集								
		該当到達目標 1	予習	該当する部分の教科書を読んでおくこと。						1.5 時間
		復習	講義内容に関する課題を行い提出すること。						1.5 時間	
4	講義内容	Word 利用の基礎(演習)4 ①ページの色や罫線 ②ワードアートの利用 ③図形の挿入 ④テキストボックスの挿入								
		該当到達目標 1	予習	該当する部分の教科書を読んでおくこと。						1.5 時間
		復習	講義内容に関する課題を行い提出すること。						1.5 時間	
5	講義内容	Word 利用の基礎(演習)5								

		①文書作成のまとめ(文書資料の作成)		
	該当到達目標	予習	ここまで学習した内容を確認しておくこと。	2 時間
	1	復習	課題内容に関する課題を行い提出すること。	1 時間
6	講義内容	PowerPoint 利用の基礎(演習)1 ①PowerPoint の画面構成 ②プレゼンテーションの作成 ③文字修飾と図形の活用		
	該当到達目標	予習	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	1.5 時間
	2	復習	講義内容に関する課題を行い提出すること。	1.5 時間
7	講義内容	PowerPoint 利用の基礎(演習)2 ①グラフの活用 ②スマートアートの活用 ③アニメーション効果 ④その他の機能		
	該当到達目標	予習	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	1.5 時間
	2	復習	講義内容に関する課題を行い提出すること。	1.5 時間
8	講義内容	PowerPoint 利用の基礎(演習)3 ①プレゼンテーション資料作成のまとめ(プレゼンテーション資料の作成)		
	該当到達目標	予習	ここまで学習した内容を確認しておくこと。	2 時間
	2	復習	課題内容に関する課題を行い提出すること。	1 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	講義での演習は、大学から推奨された性能の PC で進めること。なお、講義では office 系ソフト(Word、PowerPoint)を使用するものとする。 予習・復習:必要に応じて、各自で補完すること。 1.授業はオンライン授業となる。 2. 出席については、C-learning を活用し出席の登録とアンケート機能を利用し確認をする。 3. 出席、学習状況、小テストについては、C-learning にて科目責任者が連絡する。 4. 授業内容についての質問事項は、メールアドレス kohata#takasaki-u.ac.jp まで連絡する。			

科目名	情報リテラシーⅣ(リテラシー)						科目ナンバリング	LAL015		
英文名	Information Literacy IV						講義形態	演習		
担当教員	赤堀八重子、福島直子、木幡直樹									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数	選択 1 単位						
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	3	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	6	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	0	チームの一員としての協調・協働								
SDGsとの関連	3 4 12									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
						○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①大学での学習に必要な表計算処理の基礎的技能を身につけることを目標とする。 ②授業はオンライン・オンデマンド開講とする。									
到達目標	6. Excel を使って基本的な集計ができる。 7. Excel の簡単な関数機能が利用できる。 8. Excel の表データからグラフを作成できる。 9. Excel でデータの検索や並べ替えができる。									
使用教材	30 時間でマスターOffice2021 実教出版									
参考文献										
評価方法	単元毎のテストを行い、合計点を 100 点に換算して、60 点以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	C-learning を利用して学習状況や授業における疑問点や改善要望等を収集し、次回講義に回答する。									
オフィスアワー (研究室)	後期 水曜 3 限 (1 号館 6 階 615 研究室)				メールアドレス (#→@)	kohata#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	Excel 利用の基礎(演習)1 ①Excel の画面構成 ②ブックの操作 ③データの入力と編集 ④オートフィル								
		該当到達目標	1	予習	1 回目の講義内容を予め読んでおく				1.5 時間	
	1	復習	1 回目の講義内容を復習する				1.5 時間			
2	講義内容	Excel 利用の基礎(演習)2 ①計算式の入力 ②表示形式の変更 ③書式の変更								
		該当到達目標	1	予習	2 回目の講義内容を予め読んでおく				1.5 時間	
	1	復習	2 回目の講義内容を復習する				1.5 時間			
3	講義内容	Excel 利用の基礎(演習)3 ①合計(SUM)関数								

		②平均(AVERAGE)関数 ③最大(MAX)最小(MIN)		
	該当到達目標 2	予習	3 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	3 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
4	講義内容	Excel 利用の基礎(演習)4 ①グラフの作成		
	該当到達目標 3	予習	4 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	4 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
5	講義内容	Excel 利用の基礎(演習)5 ①条件判定(IF 関数)と順位付け(RANK.EQ 関数)I		
	該当到達目標 3	予習	5 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	5 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
6	講義内容	Excel 利用の基礎(演習)6 ①条件判定(IF 関数)と順位付け(RANK.EQ 関数)II ②検索関数の利用		
	該当到達目標 4	予習	6 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	6 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
7	講義内容	Excel 利用の基礎(演習)7 ①セルの参照機能 ②文字列の結合 ③セルの条件付き書式 ④並び替え		
	該当到達目標 4	予習	7 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	7 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
8	講義内容	Excel 利用の基礎(演習)8 ①フィルター ②文字の結合 ③Word と Excel の活用		
	該当到達目標 4	予習	8 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	8 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	単位習得に必要な時間を満たしていない場合 ・記載した予習、復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 1.授業はオンライン授業となる。 2. 出席については、C-learning を活用し出席の登録とアンケート機能を利用し確認をする。 3. 出席、学習状況、小テストについては、C-learning にて科目責任者が連絡する。 4. 授業内容についての質問事項は、メールアドレス kohata#takasaki-u.ac.jp まで連絡する。 5. 講義での演習は、大学から推奨された性能の PC で進めること。なお、講義では office 系ソフト(Word、PowerPoint)を使用するものとする。			

科目名	情報リテラシーⅤ（リテラシー）							科目ナンバリング	LAL016	
英文名	Information Literacy Ⅴ							講義形態	講義	
担当教員	寺口顕子、桐山勝枝、木幡直樹									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数		選択 1 単位					
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	3	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	6	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	0	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	3412									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
						○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ② 講義の実施方法	① ネットワークに情報機器を接続し、安全かつ適切に利用できる基礎的知識と技能を身につけることを目標とする。 ② 授業はオンライン・オンデマンド開講とする。									
到達目標	10. ネットワーク利用に必要な基礎知識があり、利用できる。 11. 情報セキュリティに関する基礎知識があり、安全に気を配り情報機器やシステムを利用できる。 12. 専攻領域における ICT の利用事例や先進的利用について、説明できる。									
使用教材	配布資料									
参考文献										
評価方法	単元毎のテストを行い、合計点を 100 点に換算して、60 点以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	C-learning を利用して学習状況や授業における疑問点や改善要望等を収集し、次回講義に回答する。									
オフィスアワー (研究室)	後期 水曜3限 1号館6階615研究室				メールアドレス (#→@)		kohata#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ネットワークの基礎知識1 ①DHCP(IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNS) ②ブラウザ ③プロバイダと回線接続業者								
		該当到達目標	予習	1 回目の講義内容を予め読んでおく						1.5 時間
	1	復習	1 回目の講義内容を復習する						1.5 時間	
2	講義内容	ネットワークの基礎知識2 ①Wi-Fi によるネットワーク接続(SSID とパスワード、接続周波数) ②4G と 5G・無線 LAN 規格、テザリング ③セキュリティの選択、トラブル対策								
		該当到達目標	予習	2 回目の講義内容を予め読んでおく						1.5 時間
	1	復習	2 回目の講義内容を復習する						1.5 時間	
3	講義内容	情報セキュリティの基礎1 ①情報資産の脅威・脆弱性とリスク ②サイバー攻撃								

		③マルウェア対策			
	該当到達目標	予習	3 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間	
	2	復習	3 回目の講義内容を復習する	1.5 時間	
4	講義内容	情報セキュリティの基礎2 ①アクセス管理と認証 ②不正アクセス対策 ③暗号とデジタル署名			
	該当到達目標	予習	4 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間	
	2	復習	4 回目の講義内容を復習する	1.5 時間	
5	講義内容	情報セキュリティの基礎3 ①組織のセキュリティ対策 ②情報セキュリティ関連の法規と制度 ③知的財産保護と個人情報保護			
	該当到達目標	予習	5 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間	
	2	復習	5 回目の講義内容を復習する	1.5 時間	
6	講義内容	社会と ICT 活用1 ① 医療・健康分野での ICT の活用 ② 社会福祉分野での ICT の活用 「※健康・医療・福祉分野の ICT 活用」			
	該当到達目標	予習	6 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間	
	3	復習	6 回目の講義内容を復習する	1.5 時間	
7	講義内容	社会と ICT 活用 2 ① 教育分野での ICT の活用			
	該当到達目標	予習	7 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間	
	3	復習	7 回目の講義内容を復習する	1.5 時間	
8	講義内容	社会と ICT 活用3 ① 農業・食糧生産分野での ICT の活用 ② 食品産業分野での ICT の活用 「※食品・農業分野の ICT の活用」			
	該当到達目標	予習	8 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間	
	3	復習	8 回目の講義内容を復習する	1.5 時間	
		合計時間(予習・復習)			24 時間
備考	予習・復習:必要に応じて、各自で補完すること。 1.授業はオンライン授業となる。 2. 小テストを受け、提出することで出席したことになる。 3. 学習状況、小テストについては、C-learning にて科目責任者が連絡する。 4. 授業内容についての質問事項は、メールアドレス kohata#takasaki-u.ac.jp まで連絡する。				

科目名	情報リテラシーⅥ(リテラシー)							科目ナンバリング	LAL017	
英文名	Information Literacy VI							講義形態	講義	
担当教員	堀越摂子、伊藤歩美、木幡直樹									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数		選択 1 単位					
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	3	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	6	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	0	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	3 4									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
						○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①情報数理統計・データサイエンスの基礎的知識と処理の技能を身につけることを目標とする。 ②授業はオンライン・オンデマンド開講とする。									
到達目標	13. 度数分布表、累積度数分布表によるデータの整理ができ、 ヒストグラムによるデータの可視化ができる。 14. 最頻値、中央値、平均値の定義と計算方法が説明できる。 15. 四分位数、5 数要約、レンジ、四分位範囲の定義と計算方法を理解し、説明できる。 16. 分散と標準偏差の意味、定義、計算方法を理解し、説明できる。									
使用教材	オンラインで PDF 資料を配布									
参考文献										
評価方法	各単元で実施する小テストの合計を 100 点満点に換算し、60 点以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	C-learning を利用して学習状況や授業における疑問点や改善要望等を収集し、次回講義に回答する。									
オフィスアワー (研究室)	後期 水曜3限 1号館6階615研究室				メールアドレス (#→@)		kohata#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	データサイエンスの基礎1 ①データサイエンスとは何か、 ②度数分布表、累積度数分布表によるデータの整理 ③ヒストグラムによるデータの可視化 ④ヒストグラムから読み取るデータの特徴								
		該当到達目標	1	予習	1 回目の講義内容を予め読んでおく					1.5 時間
	1	復習	1 回目の講義内容を復習する					1.5 時間		
2	講義内容	データサイエンスの基礎2 ①Excel を使った度数分布とヒストグラムの作成								
		該当到達目標	1	予習	2 回目の講義内容を予め読んでおく					1.5 時間
	1	復習	2 回目の講義内容を復習する					1.5 時間		
3	講義内容	データサイエンスの基礎3 ①最頻値、中央値、平均値の定義と計算方法								

		②最頻値、中央値、平均値と度数分布、累積度数分布、ヒストグラムの関係		
	該当到達目標	予習	3 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	2	復習	3 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
4	講義内容	データサイエンスの基礎4 ①Excel を使った代表値の算出		
	該当到達目標	予習	4 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	2	復習	4 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
5	講義内容	データサイエンスの基礎5 ①分位数の考え方 ②四分位数、5 数要約、レンジ、四分位範囲の定義と計算方法 ③箱ひげ図による 5 数要約の可視化 ④箱ひげ図とヒストグラムの形状との関係		
	該当到達目標	予習	5 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	3	復習	5 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
6	講義内容	データサイエンスの基礎6 ①Excel を使った 5 数要約の算出、箱ひげ図の作成		
	該当到達目標	予習	6 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	3	復習	6 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
7	講義内容	データサイエンスの基礎7 ① Σ 記号の定義と性質 ②分散と標準偏差の意味、定義、計算方法 ③データの一次変換と平均、分散、標準偏差 ④変動係数の定義と性質		
	該当到達目標	予習	7 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	4	復習	7 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
8	講義内容	データサイエンスの基礎8 ①Excel を使った分散、標準偏差、変動係数の算出		
	該当到達目標	予習	8 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	4	復習	8 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	予習・復習: 必要に応じて各自で補完すること。 1. 授業はオンライン授業となる。 2. 学生は、C-learning を活用し出席の登録を行う。 3. 学習状況、小テストについては、C-learning にて科目責任者が連絡する。 4. 授業内容についての質問事項は、メールアドレス kohata#takasaki-u.ac.jp まで連絡する。			

科目名	論理学(専門教養)						科目ナンバリング	LSC201・A		
英文名	logic						講義形態	講義		
担当教員	米田和美									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 前期		選必・単位数	選択 1 単位						
履修が必須となる資格										
学位授与方針との対応	6	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	0	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	3	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○			○		○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	筋道の通った考え方、物事を客観的に判断できる能力と、事実を正しく解釈できる思考を訓練する。 授業は次の①②③を繰り返し行う。 ①資料文の内容を正確に読みとる。 ―いつ、どこで、だれが、だれに、なにを、どうしたか ②登場人物の言動の問題点を抽出する。 ―問題は何か、なぜ問題か ③対処法を提案する。 ―どうすべきか									
到達目標	論理的思考を養う。(文章の読解及び表現ができる。物事の筋道をたてて正しく考える。) 1. 読む、書くを中心に文章の書き方を身につける。「一文一義」の文が書けるようになる。 2. 聞く、話すを中心に言葉の運用能力の向上を図る。									
使用教材	使用しない(講義2～3週間前までにプリントを配布します。事前に読んでおくこと。)									
参考文献	プリントにて配布します。									
評価方法	意見文 30 :小テスト 30 :提出物 30 :講義参加状況 10 の割合で評価します。									
課題に対するフィードバック	意見文、提出物はチェックを入れて返します。									
オフィスアワー (研究室)	初回授業で提示する				メールアドレス (#→@)	初回授業で提示する				
1	講義内容	引用								
	該当到達目標 1.正確な引用	予習	「先天異常児の助命は絶対か」を読んでおく。						1.5 時間	
		復習	「引用は一字一句正確に」を理解する。						1.5 時間	
2	講義内容	悪文①書き改め								
	該当到達目標 1.段落は意味のまとまり	予習	「食欲のない患者に看護師が行う援助」を書き改める。						1.5 時間	
		復習	「段落、箇条書き、しかしの使い方」を理解する。						1.5 時間	
3	講義内容	資料文の読み方								
	該当到達目標 1.5W1H 読み取り	予習	「物差し狂っている母娘」を読んでおく。						1.5 時間	
		復習	「いつ、どこで、誰が、誰に、何を、どうしたか」を理解する。						1.5 時間	
4	講義内容	悪文②書き改め								
	該当到達目標	予習	「専門的な母」を書き改める。						1.5 時間	

	1.頭括法と尾括法	復習	「主張を断定、理由を箇条書き」を理解する。	1.5 時間
5	講義内容	主張と理由		
	該当到達目標	予習	「個性と異常の境界線は」の意見文を書く。	1.5 時間
	1.主語と引用	復習	検討内容を参考に意見文を直す。	1.5 時間
6	講義内容	悪文③書き改め		
	該当到達目標	予習	「経静脈栄養注射」を書き改める。	1.5 時間
	1.根拠の基礎知識	復習	「()の使い方、『こと』の使い方」を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	「変」を見つける①		
	該当到達目標	予習	「体位変換」「コオロギ」の「変」をみつける。	1.5 時間
	1.文型「A はB である」	復習	「体位変換」「コオロギ」を正しい文章に書き改める。	1.5 時間
8	講義内容	「変」を見つける②		
	該当到達目標	予習	「告知」を読んでおく。	1.5 時間
	1.問題抽出	復習	「問題は何か、なぜ問題か、どうすべきか」を理解する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考				

科目名	人間発達論(専門教養科目)						科目ナンバリング	LSC101・A		
英文名	Human development						講義形態	講義		
担当教員	角野善司									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修が必須となる資格										
学位授与方針との対応	3	人間理解と倫理観				2	国際理解			
	2	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	2	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	3 4 5 8 10 11 16 17									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○							○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	本講義は人間の生涯にわたる発達を受胎から死まで視野に入れて学び、考察を深めることを目的とする。合わせて、疾患・障害が人間の発達に及ぼす影響にも目を向け、検討する。 授業期間全体を通じた授業の進め方：毎回の予習が、知識獲得の中心である。その意識を強く持って、取り組んでもらいたい。対面授業は、難解な箇所に関する追加的な解説に重点を置く。また、理解を深めるために必要に応じて視聴覚教材を活用する。授業後には、復習課題に取り組むとともに、授業での学修を基に考察を深め、小レポートを作成し、提出することを求める。									
到達目標	1.生涯発達について説明できる。 2.発達段階および発達課題について説明できる。 3.疾患・障害が発達に及ぼす影響について説明できる。 4.発達検査について説明できる。									
使用教材	「ガイドライン生涯発達心理学 第2版」二宮克美ほか ナカニシヤ出版 2012 年									
参考文献										
評価方法	毎回の課題・小レポート 45%(3 点×15 回)、学期末筆記試験 30%、学期末レポート 25%									
課題に対するフィードバック	毎回の課題・小レポートは授業時に、学期末筆記試験・レポートは事後に講評解説の機会を設ける。									
オフィスアワー (研究室)	初回授業時に告知するとともに、研究室 ドアに掲出する(8 号館 405 室)				メールアドレス (#→@)		zsumino#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	発達の理論 (1) 生涯発達								
	該当到達目標 1	予習	シラバスを読んで講義の目標などを理解する。教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。						1.5 時間	
		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。						1.5 時間	
2	講義内容	発達の理論 (2) 発達段階と発達課題								
	該当到達目標 2	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。						1.5 時間	
		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。						1.5 時間	
3	講義内容	生涯発達の様相 (1) 胎生期・周産期								
	該当到達目標 1,2	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。						1.5 時間	
		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。						1.5 時間	
4	講義内容	生涯発達の様相 (2) 乳児期								
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。						1.5 時間	

	1,2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
5	講義内容	生涯発達の様相 (3) 幼児期		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
6	講義内容	生涯発達の様相 (4) 児童期		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
7	講義内容	生涯発達の様相 (5) 青年期		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
8	講義内容	生涯発達の様相 (6) 成人期前半		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
9	講義内容	生涯発達の様相 (7) 成人期後半		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
10	講義内容	生涯発達の様相 (8) 老年期		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
11	講義内容	疾患・障害と発達 (1) 慢性疾患や障害のある子どもの発達		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	3	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
12	講義内容	疾患・障害と発達 (2) 慢性疾患や障害のある子どもの親・きょうだい		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	3	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
13	講義内容	疾患・障害と発達 (3) 発達期における各種の障害		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	3	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
14	講義内容	疾患・障害と発達 (4) 重症心身障害		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	3	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
15	講義内容	疾患・障害と発達 (5) 発達検査		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	4	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	仮に諸事情により対面での学期末筆記試験の実施ができない場合には、成績評価にあたっての配点は以下のとおりとする： 毎回の課題・小レポート 75%(5 点×15 回)、学期末レポート 25%			

科目名	人間行動学(専門教養科目)						科目ナンバリング	LSC102・B		
英文名	Behavioral Science						講義形態	講義		
担当教員	上原 徹・服部 卓									
科目に関連した実務経験	精神科医として大学病院等で勤務経験 35 年以上、現在も非常勤医師として実務を行っている(上原)。臨床心理士として大学病院等で勤務経験は約 35 年、現在に至る(服部)。									
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数	選択 2 単位						
履修が必須となる資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針との対応	5	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	2	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	2	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	316									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
						○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法	前半の授業で、一部実技や演習を取り入れる									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 学生が、行動科学の基礎と応用を学ぶことで、臨床や対人支援の場面におけるクライアントの行動や、支援者である自らの行動との相互作用を理解することができる。 ② 教室での対面講義形式の授業。後半は映像教材(DVD)を多用する。									
到達目標	1.医療などの対人支援における基本的姿勢を身につける 2.ケアを受ける人の心理や行動を理解できる 3.適切な対人的交流のための知識と技術が説明できる 4.他職種と機能的に連携する視点を持てる■ 5.行動科学や心理学の初級知識を解説できる									
使用教材	特に指定しない。資料配布もしくはeラーニングでファイル公開。DVD 教材を用いた授業も行う。									
参考文献	福村出版「行動科学への招待〔改訂版〕現代心理学のアプローチ」									
評価方法	レポートを 90%とし、授業中の態度を 10%程度参考にして総合評価する。授業態度(静肅さ、不必要な私語、真摯な姿勢など)に問題がある場合は、個別に減点する。									
課題に対するフィードバック	レポートについては、事前に課題内容を告知し、記載方法や出題意図、基準をフィードバックする。									
オフィスアワー(研究室)	月4 金3 研究室:1号館5階501				メールアドレス (#→@)		授業で提示する			
1	講義内容	青年期の心理と性格								
	該当する到達目標	予習	参考書などの講義に関係する部分を読むこと。						0.5 時間	
	3,5	復習	ノートを読むこと。						2.5 時間	
2	講義内容	対人行動								
	該当する到達目標	予習	参考書などの講義に関係する部分を読むこと。						1 時間	
	1,2	復習	ノートを読むこと。						2 時間	
3	講義内容	集 団■								
	該当する到達目標	予習	参考書などの講義に関係する部分を読むこと。						1 時間	
	2,3,4	復習	ノートを読むこと。						2 時間	
4	講義内容	異文化と自己								
	該当する到達目標	予習	参考書などの講義に関係する部分を読むこと。						1 時間	
	3,5	復習	ノートを読むこと。						2 時間	

5	講義内容	ヒューマンファクター——労働の心理学		
	該当する到達目標	予習	参考書などの講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	1,5	復習	ノートを読むこと。	2 時間
6	講義内容	きずなの発達		
	該当する到達目標	予習	参考書などの講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	2,5	復習	ノートを読むこと。	2 時間
7	講義内容	自己の形成と発達		
	該当する到達目標	予習	参考書などの講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	2,5	復習	ノートを読むこと。	2 時間
8	講義内容	医療における人間関係		
	該当する到達目標	予習	参考書などの講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	1,2,3	復習	ノートを読むこと。	2 時間
9	講義内容	健 康		
	該当する到達目標	予習	参考書などの講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	1,2,5	復習	ノートを読むこと。	2 時間
10	講義内容	学習と学習支援		
	該当する到達目標	予習	参考書などの講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	3,5	復習	ノートを読むこと。	2 時間
11	講義内容	知 覚		
	該当する到達目標	予習	参考書などの講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	3,5	復習	ノートを読むこと。	2 時間
12	講義内容	記 憶		
	該当する到達目標	予習	参考書などの講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	3,5	復習	ノートを読むこと。	2 時間
13	講義内容	思 考		
	該当する到達目標	予習	参考書などの講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	3,5	復習	ノートを読むこと。	2 時間
14	講義内容	疲労・メンタルヘルスと現代の職場 ■		
	該当する到達目標	予習	参考書などの講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	4,5	復習	ノートを読むこと。	2 時間
15	講義内容	音楽と脳・まとめ ■		
	該当する到達目標	予習	ノートを読むこと。	1 時間
	1,2,3,4,5	復習	参考書などの講義に関係する部分を読むこと。	2 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	授業では配布資料も使って要点をまとめ、一部 DVD を視聴しつつ進める。複数の学科学生が多数で聴講し、非常勤講師を迎えるので、静粛に臨んでほしい。授業中の不必要な私語や不謹慎な態度は、厳に慎むこと(成績評価に影響する)。予習・復習については、試験前後の学習で補完すること。オフィスアワーや連絡先は、主任講師の上原がオリエンテーション時に案内する。 ■:実務経験に基づく内容			

科目名	化学(専門教養科目)						科目ナンバリング	LSC103・A		
英文名	Chemistry						講義形態	講義		
担当教員	信田智哉									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針との対応	5	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	4	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	0	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	③⑨									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①医療現場で必要となる、基礎的な化学の知識を習得する。前半は基礎化学として、原子の構造や周期表、化学結合、溶液、酸・塩基、酸化・還元を学ぶ。後半は主に有機化学として、有機化合物の結合や構造、高分子や生体内に存在する有機化合物、栄養素等の知識を習得する。 ②授業は教科書と教員の作成するプリントを使って、要点をまとめていく。パワーポイントによる図の提示を行っていく。									
到達目標	1. 原子の構造を説明できる。また、放射線を列挙し、特徴を説明できる。 2. 電子殻や電子配置を説明できる。 3. 周期表を理解し、代表的な元素の特徴を説明できる。 4. 化学結合を列挙し、特徴を説明できる。 5. 原子量や分子量を理解し、溶液の濃度を説明できる。また、物質の状態を説明できる。 6. 物質の溶解を説明できる。また、蒸気圧と浸透圧を説明できる。 7. 酸・塩基の定義とその反応を説明できる。 8. 酸化・還元の定義とその反応を説明できる。 9. 有機化合物の結合を説明できる。また、官能基を列挙し、特徴を説明できる。 10. 異性体を列挙し、特徴を説明できる。特に鏡像異性体の特徴を説明できる。 11. 化学反応とエネルギーを説明できる。また、有機化学の反応を説明できる。 12. 高分子化合物を列挙し、特徴を説明できる。 13. 糖類を列挙し、特徴を説明できる。また、脂質を列挙し、特徴を説明できる。 14. アミノ酸を列挙し、特徴を説明できる。また、タンパク質の構造や機能を説明できる。 15. DNA や RNA の構造や機能を説明できる。また、ビタミンを列挙し、構造や機能を説明できる。									
使用教材	コ・メディカル化学（改訂版）医療・看護系のための基礎化学 齋藤勝裕・荒井貞夫・久保勘二共著 裳華房、2022 年 11 月 15 日 [改定] 第 1 版 1 刷発行、2,400 円(税抜) また、使用教材として教科書の他に毎回プリントを配布する。									
参考文献										
評価方法	教科書の各章の内容をまとめたレポート(A4 用紙 1 枚×15 回)により、評価する(100%)。 筆記試験は行わない。									
課題に対するフィードバック	レポートにコメントをつけて返却する。									
オフィスアワー (研究室)	火曜日 2 限目、水曜日 2 限目 研究室:7 号館 2 階 203 室				メールアドレス (#→@)	nobuta#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	原子の構造と放射能								
	該当到達目標	予習	教科書第 1 章に目を通しておく。						1 時間	

	1	復習	教科書第 1 章に記載されている演習問題を解く。 教科書第 1 章の内容をレポートにまとめる。	2 時間
2	講義内容	原子の電子構造		
	該当到達目標	予習	教科書第 2 章に目を通しておく。	1 時間
	2	復習	教科書第 2 章に記載されている演習問題を解く。 教科書第 2 章の内容をレポートにまとめる。	2 時間
3	講義内容	周期表と元素		
	該当到達目標	予習	教科書第 3 章に目を通しておく。	1 時間
	3	復習	教科書第 3 章に記載されている演習問題を解く。 教科書第 3 章の内容をレポートにまとめる。	2 時間
4	講義内容	化学結合と分子		
	該当到達目標	予習	教科書第 4 章に目を通しておく。	1 時間
	4	復習	教科書第 4 章に記載されている演習問題を解く。 教科書第 4 章の内容をレポートにまとめる。	2 時間
5	講義内容	物質の量と状態		
	該当到達目標	予習	教科書第 5 章に目を通しておく。	1 時間
	5	復習	教科書第 5 章に記載されている演習問題を解く。 教科書第 5 章の内容をレポートにまとめる。	2 時間
6	講義内容	溶液の化学		
	該当到達目標	予習	教科書第 6 章に目を通しておく。	1 時間
	6	復習	教科書第 6 章に記載されている演習問題を解く。 教科書第 6 章の内容をレポートにまとめる。	2 時間
7	講義内容	酸・塩基		
	該当到達目標	予習	教科書第 7 章 p. 57～63 に目を通しておく。	1 時間
	7	復習	教科書第 7 章に記載されている演習問題 1～6 を解く。 教科書第 7 章 p. 57～63 の内容をレポートにまとめる。	2 時間
8	講義内容	酸化・還元		
	該当到達目標	予習	教科書第 7 章 p. 63～67 に目を通して。	1 時間
	8	復習	教科書第 7 章に記載されている演習問題 7～8 を解く。 教科書第 7 章 p. 63～67 の内容をレポートにまとめる。	2 時間
9	講義内容	有機化合物の構造		
	該当到達目標	予習	教科書第 8 章に目を通しておく。	1 時間
	9	復習	教科書第 8 章に記載されている演習問題を解く。 教科書第 8 章の内容をレポートにまとめる。	2 時間
10	講義内容	異性体と立体化学		
	該当到達目標	予習	教科書第 9 章に目を通しておく。	1 時間
	10	復習	教科書第 9 章に記載されている演習問題を解く。 教科書第 9 章の内容をレポートにまとめる。	2 時間
11	講義内容	有機化学反応		
	該当到達目標	予習	教科書第 10 章に目を通しておく。	1 時間
	11	復習	教科書第 10 章に記載されている演習問題を解いてみる。 教科書第 10 章の内容をレポートにまとめる。	2 時間
12	講義内容	高分子化合物		
	該当到達目標	予習	教科書第 11 章に目を通しておく。	1 時間
	12	復習	教科書第 11 章に記載されている演習問題を解く。 教科書第 11 章の内容をレポートにまとめる。	2 時間
13	講義内容	教科書第 12 章に目を通しておく。		
	該当到達目標	予習	教科書第 12 章に目を通しておく。	1 時間
	13	復習	教科書第 12 章に記載されている演習問題を解く。 教科書第 12 章の内容をレポートにまとめる。	2 時間
14	講義内容	アミノ酸とタンパク質		
	該当到達目標	予習	教科書第 13 章に目を通しておく。	1 時間
	14	復習	教科書第 13 章に記載されている演習問題を解く。 教科書第 13 章の内容をレポートにまとめる。核酸とビタミン	2 時間
15	講義内容	核酸とビタミン		

	該当到達目標 15	予習	教科書第 14 章に目を通しておく。	1 時間
		復習	教科書第 14 章に記載されている演習問題を解く。 教科書第 14 章の内容をレポートにまとめる。	2 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考				

科目名	統計学(専門教養科目)						科目ナンバリング	LSC104・A		
英文名	Statistics						講義形態	講義		
担当教員	福島博									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期		選必・単位数	必修 1 単位						
履修が必須となる資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針との対応	5	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	4	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	0	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	③⑬									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
										○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	小テストに対してコメントを付し返却する。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	医療の現場で役に立つ統計的思考力が身に付く。 具体例を通して統計学の知識や方法の実際の使い方を学ぶ。									
到達目標	1. 平均、メジアン、分散、標準偏差、相関係数 等の基本的 統計量の意味を理解する。 2. 統計的手法を学ぶことにより、いろいろの情報の意味を正しく理解できるようになる。									
使用教材	はじめての統計15講、小寺平治、講談社、2015 年、2000 円(税別)									
参考文献										
評価方法	期末試験 70%とレポート 30%で評価する。総合得点 60%以上を合格とする。									
課題に対するフィードバック	レポートにはコメントを付けて返却する。									
オフィスアワー (研究室)	木曜日4時限 非常勤講師室				メールアドレス (#→@)	fukusima#cup.ocn.ne.jp				
1	講義内容	平均と分散								
	該当到達目標	予習	教科書1, 2, 3講を読んでおく。						2 時間	
	1	復習	平均と分散について、具体例の計算を通して理解する。						2 時間	
2	講義内容	相関係数								
	該当到達目標	予習	教科書4講を読んでおく。						2 時間	
	1	復習	相関係数、共分散について理解する。						2 時間	
3	講義内容	確率変数								
	該当到達目標	予習	教科書5講を読んでおく。						2 時間	
	1	復習	確率変数とその期待値、分散について理解する。						2 時間	
4	講義内容	正規分布								
	該当到達目標	予習	教科書6講を読んでおく。						2 時間	
	2	復習	正規分布とその期待値、標準偏差について理解する。						2 時間	
5	講義内容	二項分布								
	該当到達目標	予習	教科書7講を読んでおく。						2 時間	
	2	復習	二項分布の正規分布近似について理解する。						2 時間	
6	講義内容	標本平均								
	該当到達目標	予習	教科書8講を読んでおく。						2 時間	
	2	復習	標本平均の平均、中心極限定理について理解する。						2 時間	
7	講義内容	区間推定								

	該当到達目標	予習	教科書9講を読んでおく。	2 時間
	2	復習	区間推定、t分布について理解する。	2 時間
8	講義内容	母平均の検定		
	該当到達目標	予習	教科書10. 11講を読んでおく。	2 時間
		2	復習	検定について理解する。
合計時間(予習・復習)				32 時間
備考	オンラインで実施する場合、レポート 70%と出席 30%で評価する。			

科目名	生物学(専門教養)							科目ナンバリング	LSS105・A	
英文名	Biology							講義形態	講義	
担当教員	今井 純、坂井 隆浩									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数		選択 ・ 2 単位						
履修を必須とする資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針との対応	3	人間理解と倫理観					0	国際理解		
	2	論理的思考力・問題解決力					2	生涯学習力		
	3	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	3 16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○									
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①生物として「健康」であるため、細胞はその恒常性を維持するように機能している。学生は本講義を通じて、生物の基本単位である細胞の構造と機能を学習し、細胞社会の統合体としての個体が恒常性を維持する仕組みについての基本的知識を習得する。 ②教科書、配布資料に基づき講義を進める。前回の授業を振り返る理解度確認を最初の 10 分実施する。									
到達目標	(1)細胞の構造や細胞での物質代謝を説明できる (2)細胞内外の情報伝達機構を説明できる (3)遺伝や遺伝子について説明できる (4)発生現象を配偶子形成から個体発生まで説明できる (5)免疫反応を分類し説明できる									
使用教材	教科書「ヒトを理解するための生物学」八杉貞雄著(裳華房) ISBN978-4-7853-5226-4 講義のスライドを随時プリントして配布する。									
参考文献	『アメリカ版大学生物の教科書 第 1 巻(細胞生物学)・第 2 巻(分子遺伝学)・第 3 巻(分子生物学)』石崎泰樹／丸山敬監修(講談社 2010 年 1,300 円, 1,500 円, 1,500 円)									
評価方法	定期テスト(90%)と授業中に興味を持った話題に対するアクティブラーニング形式のレポート(10%)で評価する。総合評価 60%以上で合格とする。									
課題に対するフィードバック	レポートには授業中にコメントをつける。定期試験の解答を掲示し、間違えた部分の復習を促す。									
オフィスアワー (研究室)	金曜日の 16:00-17:00、メールによる 質問は随時、研究室:7 号館 3 階 326(今井)、7 号館 2 階 201(坂井)				メールアドレス (#→@)		今井(jimai#takasaki-u.ac.jp) 坂井(sakai#takasaki-u.ac.jp)			
1	講義内容	生物学とはどのような学問か								
	該当到達目標 1	予習	教科書の 1～8 ページを読んで内容を理解する。						1.5	時間
		復習	生物学について理解する。						1.5	時間
2	講義内容	生命とはなにか、生物はどのようなものか。								
	該当到達目標 1	予習	教科書の 10～17 ページを読んで内容を理解する。						1.5	時間
		復習	生物について理解する。						1.5	時間
3	講義内容	細胞とはどのようなものか。								

	該当到達目標 1、2	予習	教科書の 19～27 ページを読んで内容を理解する。	1.5 時間
		復習	細胞について理解する。	1.5 時間
4	講義内容	体をつくる分子にはどのようなものがあるか		
	該当到達目標 1、2	予習	教科書の 29～36 ページを読んで内容を理解する。	1.5 時間
		復習	生体構成分子について理解する。	1.5 時間
5	講義内容	体の中で物質はどのように変化するか。		
	該当到達目標 1、2	予習	教科書の 38～45 ページを読んで内容を理解する。	1.5 時間
		復習	代謝について理解する。	1.5 時間
6	講義内容	遺伝子と遺伝はどのように関係しているのか。		
	該当到達目標 1、2	予習	教科書の 47～58 ページを読んで内容を理解する。	1.5 時間
		復習	遺伝現象について理解する	1.5 時間
7	講義内容	ヒトの体はどのようにできているか。		
	該当到達目標 1、2	予習	教科書の 59～66 ページを読んで内容を理解する。	1.5 時間
		復習	ヒトの体の仕組みを理解する	1.5 時間
8	講義内容	エネルギーはどのように獲得されるか。		
	該当到達目標 1、2	予習	教科書の 68～76 ページを読んで内容を理解する。	1.5 時間
		復習	呼吸と消化吸収について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	ヒトはどのように運動するか。		
	該当到達目標 1、2、3	予習	教科書の 77～85 ページを読んで内容を理解する。	1.5 時間
		復習	ヒトの運動の仕組みを理解する。	1.5 時間
10	講義内容	体の恒常性はどのように維持されるか。		
	該当到達目標 1、2、3、5	予習	教科書の 87～96 ページを読んで内容を理解する。	1.5 時間
		復習	恒常性維持について理解する。	1.5 時間
11	講義内容	体の恒常性はどのように維持されるか。		
	該当到達目標 1、2、3、5	予習	教科書の 87～96 ページを読んで内容を理解する。	1.5 時間
		復習	恒常性維持について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	ヒトは病原体とどのようにたたかうか。		
	該当到達目標 4	予習	教科書の 98～106 ページを読んで内容を理解する。	1.5 時間
		復習	免疫系について理解する。	1.5 時間
13	講義内容	ヒトはどのように進化してきたか。		
	該当到達目標 4	予習	教科書の 117～125 ページを読んで内容を理解する。	1.5 時間
		復習	ヒトの進化について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	ヒトをとりまく環境はどのようになっているか。		
	該当到達目標 2	予習	教科書の 127～135 ページを読んで内容を理解する。	1.5 時間
		復習	環境について理解する。	1.5 時間
15	講義内容	ヒトはどのような生き物か。		
	該当到達目標 1、2、3、4、5	予習	教科書の 137～145 ページを読んで内容を理解する。	1.5 時間
		復習	ヒトについて理解する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	予習・復習については、試験前の学習で補完すること、メール、c-learning などによる質問は随時受け付ける。			

科目名		生活科学概論(専門教養科目)						科目ナンバリング	LSC106・A		
英文名		Introduction of Life Science						講義形態	講義		
担当教員		内田幸子									
科目に関連した実務経験											
学年・開講期		1 年 前期	選必・単位数	選択・1 単位							
履修を必須とする資格											
学位授与方針との対応		6	人間理解と倫理観			0	国際理解				
		3	論理的思考力・問題解決力			1	生涯学習力				
		0	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連		③⑪⑫									
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○							○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		私たちの生活は急激に変化しつつある。生活していく上で出会うさまざまな課題に対し、生活者の立場から総合的に捉えることをめざす。衣食住や環境などのきわめて日常的な生活行為に関する問題を理解し、医療従事者としての自身の生活向上に必要な知識を習得する。理解度を深めるため、プリント・パワーポイントによる講義を進める。									
到達目標		1. 生活基盤としての生活科学について学習内容を理解できる 2. 生活していく上で必要な衣食住の知識を習得できる 3. 授業で学んだ生活科学について理解を深め実生活に活かすことができる									
使用教材		適宜プリントを配布する									
参考文献		参考図書「生活科学のすすめ」佐藤方彦著(井上書院))ISBN4-7530-2317-6									
評価方法		レポートで評価する。総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法		レポートは評価・コメントを記載しフィードバックする									
オフィスアワー (研究室)		月曜日 3 限 水曜日 3 限 質問はメールでも受け付ける。 研究室:1 号館 5 階 505 研究室				メールアドレス (#→@)		uchida#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス 生活科学とは									
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読んで講義の目的などを理解する							1.5	時間
	1	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する							1.5	時間
2	講義内容	衣の生活科学(衣服と人間)									
	該当到達目標	予習	前回配布したプリントに目を通す							1.5	時間
	1,2	復習	衣服の機能と役割について理解する							1.5	時間
3	講義内容	衣の生活科学(快適な衣服環境)									
	該当到達目標	予習	前回配布したプリントに目を通す							1.5	時間
	1,2	復習	快適な衣服環境について理解する							1.5	時間
4	講義内容	食の生活科学(食生活と栄養管理)									
	該当到達目標	予習	前回配布したプリントに目を通す							1.5	時間
	1,2	復習	食事と健康と関係について理解する							1.5	時間
5	講義内容	食の生活科学(食生活と生活習慣病)									

	該当到達目標	予習	前回配布したプリントに目を通す	1.5 時間
	1,2	復習	食生活と健康について理解する	1.5 時間
6	講義内容	住の生活科学(快適な住環境整備)		
	該当到達目標	予習	前回配布したプリントに目を通す	1.5 時間
	1,2	復習	快適な住環境整備について理解する	1.5 時間
7	講義内容	住の生活科学(住環境と生活)		
	該当到達目標	予習	前回配布したプリントに目を通す	1.5 時間
	1,2	復習	住環境と生活について理解する	1.5 時間
8	講義内容	まとめ及び学習到達度の確認		
	該当到達目標	予習	配布したプリントに目を通す	1.5 時間
	1,2,3	復習	衣食住や環境などの課題について生活者の立場から総合的に理解する	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考				

科目名	看護における ICT 活用(専門教養科目)							科目 ナンバリング	LSC107・B	
英文名	Information and Communication Technology (ICT) Utilization in Nursing							講義形態	講義	
担当教員	小池洋子									
科目に関連した 実務経験	病院の看護部長									
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数		必修 1 単位					
履修が必須となる 資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針 との対応	3	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	4	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	2	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	3416									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○			○					○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	医療・看護分野における ICT 活用の現状を知り、看護専門職として他職種と連携協働できるための情報活用能力としてコンピュータリテラシー、情報リテラシーを身に着ける必要性を理解するとともに、看護実践での ICT の活用の実際を学ぶ。									
到達目標	1. 医療・看護における ICT 活用の発展過程を理解する。 2. 医療・看護における ICT 活用の現状を理解する。■ 3. 看護職として必要な ICT 活用能力について考察する。■ 4. ICT を活用する上での倫理的配慮を理解し実践する。■ 5. 医療・看護における ICT 活用の将来展望を考察する。									
使用教材	資料を配布する									
参考文献	授業時に適宜紹介する									
評価方法	授業への参加態度と授業後の課題の内容等 50%、授業後の課題レポートの内容 50%									
課題に対する フィードバック	毎授業後の課題に対する回答を踏まえ、授業の最初に前回の振り返りを行う。 グループワークにおける成果発表についてコメントを行う。									
オフィスアワー (研究室)	火曜日3・4限 (5号館 412 研究室)				メールアドレス (#→@)		koike-y#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	医療・看護における ICT 活用の発展過程								
	該当到達目標	予習	看護現場でどのような ICT が活用されているか調べる						1.5	時間
	1	復習	医療・看護において ICT 活用がどのように発展してきたかまとめる						1.5	時間
2	講義内容	医療機関における ICT 活用・・・電子カルテ、オーダーリング、看護支援システム等 ■								
	該当到達目標	予習	病院においてどのような ICT が活用されているか調べる						1.5	時間
	1, 2	復習	電子カルテ、オーダーリングシステムなど活用方法をまとめる						1.5	時間
3	講義内容	電子カルテの操作								
	該当到達目標	予習	電子カルテについて調べておく。						1.5	時間
	2, 3	復習	PC を用いて、電子カルテから情報収集を行う。						1.5	時間
4	講義内容	ICT 活用における倫理的配慮、非常時の対応について ■								
	該当到達目標	予習	情報倫理について復習しておく						1.5	時間
	3, 4	復習	医療・看護においてICTを活用する際の倫理的配慮について考えをまとめ						1.5	時間
5	講義内容	病院における ICT 活用の現状								
	該当到達目標	予習	2 回・3 回の学習内容を整理しておく。						1.5	時間
	2, 3, 4, 5	復習	病院の ICT 活用について整理する。						1.5	時間

6	講義内容	地域医療における ICT 活用の現状		
	該当到達目標	予習	地域で医療を行う上で基本的な考え方について調べておく。	1.5 時間
	2, 3, 4, 5	復習	地域で医療を行う上で効果的な ICT 活用について整理する。	1.5 時間
7	講義内容	今後の看護実践場面での ICT の活用		
	該当到達目標	予習	今後の展望について考えておく。	1.5 時間
	5	復習	グループワークで話し合ったことを整理する。	1.5 時間
8	講義内容	グループ話合った学習成果を発表する		
	該当到達目標	予習	発表の準備をしておく。	1.5 時間
	2,3,4,5	復習	他のグループの発表を受けて、気づいたことを整理しておく。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	1. 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 2. この科目は、基礎教養ゼミ、看護学原論を履修していることが望ましい。 3. ルール 4) 自分で調べる課題やグループワークを行う際は、主体的に参加する。 5) 出席確認は対面授業・オンライン授業どちらも C-Learning の出席登録をもって出席とする。但し、出席登録していても、授業時間内に教室に不在であることが確認できた場合は欠席とする。 4. オンライン授業時の変更点 4) 講義に関しては教材倉庫にある動画を視聴し課題を提出する。 5) グループワークは ZOOM 機能を用いて行う。 6) 授業時間以外では C-Learning の相談機能を使い質問に応じる。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	生化学(看護基盤科目群・人間)						科目ナンバリング	NRB101・A		
英文名	Biochemistry						講義形態	講義		
担当教員	石川良樹									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期		選必・単位数		必修・1 単位					
履修が必須となる資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針との対応	1	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	8	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	0	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	③16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	人体を構成する成分を分子レベルで理解するとともに、生命活動の維持における生体分子の役割を学習する。教員の作成したパワーポイントにより、教科書該当部分の抜粋・要約の提示、及びそれに関連する具体例の紹介を行う。同時に、重要部を空欄にしたプリントを配布し、書き込ませながら授業を進める。									
到達目標	1.生体を構成する生体成分の基本的な構造、役割を説明することができる。 2.生命を特徴づける重要な要素の一つである代謝について説明できる。 3.遺伝情報とその発現について説明できる。 4.ビタミン、ホルモン、無機物の役割と調節機構について説明できる。									
評価方法	試験により評価する。試験成績 60%以上を合格とする。									
使用教材	人体の構造と機能2 生化学 (第 14 版、畠山鎮次著、医学書院) ISBN 978-4-260-03556-9 講義に合わせた空欄のあるプリントを配布する。教科書はプリントの空欄の確認、予習・復習に使用する。									
参考文献										
課題に対するフィードバック	定期試験後には解答を公表し、自己学習を行えるようにする。									
オフィスアワー (研究室)	授業開始前もしくは終了後に応じる				メールアドレス (#→@)		ryoki2@outlook.jp			
1	講義内容	ガイダンス、第1章 生化学を学ぶための基礎知識								
	該当到達目標	予習	教科書該当章を熟読し、専門用語の意味等を理解しておくこと。						1.5	時間
	1	復習	配布したプリントや講義メモをもとに、自己の学習ノートを作成すること。						1.5	時間
2	講義内容	第3章 糖質の構造と機能 第4章 糖質代謝								
	該当到達目標	予習	教科書該当章を熟読し、専門用語の意味等を理解しておくこと。						1.5	時間
	1, 2	復習	配布したプリントや講義メモをもとに、自己の学習ノートを作成すること。						1.5	時間
3	講義内容	第5章 脂質の構造と機能 第6章 脂質代謝								
	該当到達目標	予習	教科書該当章を熟読し、専門用語の意味等を理解しておくこと。						1.5	時間
	1, 2	復習	配布したプリントや講義メモをもとに、自己の学習ノートを作成すること。						1.5	時間
4	講義内容	第6章 タンパク質の構造と機能 第7章 タンパク質代謝								
	該当到達目標	予習	教科書該当章を熟読し、専門用語の意味等を理解しておくこと。						1.5	時間
	1, 2	復習	配布したプリントや講義メモをもとに、自己の学習ノートを作成すること。						1.5	時間
5	講義内容	第10章 遺伝子と核酸 第11章 複製 第12章 転写 第13章 翻訳								

	該当到達目標 1, 2, 3	予習	教科書該当章を熟読し、専門用語の意味等を理解しておくこと。	1.5 時間
		復習	配布したプリントや講義メモをもとに、自己の学習ノートを作成すること。	1.5 時間
6	講義内容	水と無機質（該当章なし） 血液と尿（該当章なし） 第9章 ポルフィリン代謝		
	該当到達目標 1, 4	予習	生体を構成する無機質の種類と機能を調査しておくこと。該当章を熟読し、門用語の意味等を理解しておくこと。	1.5 時間
		復習	配布したプリントや講義メモをもとに、自己の学習ノートを作成すること。	1.5 時間
	7	講義内容	ホルモンと生理活性物質（該当章なし）	
該当到達目標 1, 4		予習	代表的なホルモンの名称と機能を事前に調査しておくこと。	1.5 時間
		復習	配布したプリントや講義メモをもとに、自己の学習ノートを作成すること。	1.5 時間
8		講義内容	第2章 代謝の基礎と酵素・補酵素	
	該当到達目標 1, 4	予習	教科書該当章を熟読し、専門用語の意味等を理解しておくこと。	1.5 時間
		復習	配布したプリントや講義メモをもとに、自己の学習ノートを作成すること。	1.5 時間
	合計時間（予習・復習）			
備考	質問は C-learning 上の協働板に設置する「質問コーナー」で受け付ける。			

科目名	解剖生理学Ⅰ（看護基盤科目群・人間）							科目ナンバリング	NRB102・A	
英文名	Anatomy and Physiology Ⅰ							講義形態	講義	
担当教員	桑原敦志									
科目に関連した実務経験	医師として大学病院検査部、感染制御部に勤務。現在、非常勤内科医師として一般内科、甲状腺専門外来を病院で担当している。									
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	必修 2 単位							
履修が必須となる資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針との対応	1	人間理解と倫理観					0	国際理解		
	8	論理的思考力・問題解決力					1	生涯学習力		
	0	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	3 16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
									○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	解剖学は人体の構造がどうなっているか、生理学はどのように機能して生命活動を営んでいるかを学ぶ。生命の成り立ちをきちんと理解することによって、人が病気になったときに起こりうることを予測でき、よりよい看護に結びつけることが出来る。病気からの回復をサポートする看護師のため、神経や筋肉の構造と働きを、そして、循環器、呼吸器、消化器など臓器特異的な構造と働きを理解する必要がある。「解剖生理学」は医療従事者の基本である。 講義内容はできるだけ教科書に沿って進めるが、臨床で経験した患者のことを随時説明し解剖生理学が実践でどのように生かされるか教授していくようにする。									
到達目標	1. 人体の構造を説明することができる。 2. 細胞や臓器の働きを説明できる。 3. 生命活動を行うのにどのように臓器が関連しているか説明できる。 4. 病気になるときの身体の状態が説明できる。■ 5. 生命誕生の過程が説明できる。									
使用教材	教科書「ナースング・グラフィック①解剖生理学」(MC 文芸出版) ISBN978-4-8404-7831-1 講義に合わせたプリントを配布する。C ラーニングにプリントをアップする。									
参考文献	Newton 別冊 人体完全ガイド 改訂第 3 版									
評価方法	定期試験 100%で評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。									
課題に対するフィードバック	定期試験後にはすぐに解答を公表し、自己学習を行えるようにする。									
オフィスアワー (研究室)	水曜日 3 時限、質問はメールでも受け付ける。研究室:5 号館 6 階 601					メールアドレス (#→@)	kuwabara#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	解剖学用語、ホメオスタシス								
	該当到達目標	予習	教科書の序章の青色ページに目を通す。						0.2 5	時間
	1	復習	解剖学用語を学び、ホメオスタシスの維持について理解する。C ラーニングの小テストに解答する。						0.5	時間
2	講義内容	人体の発生について学ぶ。								
	該当到達目標	予習	C ラーニングで配布したプリントを読んでくる。						0.2 5	時間
	5	復習	人体の発生について理解する。C ラーニングの小テストに解答する。						0.5	時間

3	講義内容	細胞の構造と働き			
	該当到達目標 1	予習	教科書の第1章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んでくる。	0.2 5	時間
		復習	細胞の基本構造と細胞内小器官の働き、細胞の受動輸送と能動輸送について、細胞分裂と遺伝情報について理解する。Cラーニングの小テストに解答する。	0.5	時間
4	講義内容	人体を構成する組織			
	該当到達目標 1, 2	予習	教科書の第1章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んでくる。	0.2 5	時間
		復習	人体を構成する4種の組織:表面を覆う上皮組織、支える支持組織、動かす筋組織、他の細胞をコントロールする神経組織について理解する。Cラーニングの小テストに解答する。	0.5	時間
5	講義内容	骨			
	該当到達目標 1, 2, 3, 4	予習	教科書の第2章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んでくる。	0.2 5	時間
		復習	体を支える骨の構造と機能について理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5	時間
6	講義内容	関節			
	該当到達目標 1, 2, 3, 4	予習	教科書の第2章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んでくる。	0.2 5	時間
		復習	体を支える骨と関節の構造と機能について理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5	時間
7	講義内容	骨と骨の結びつきである関節の働き			
	該当到達目標 1, 2, 3, 4	予習	教科書の第2章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んでくる。	0.2 5	時間
		復習	骨と骨の結びつきである関節の構造と働きについて理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5	時間
8	講義内容	筋系			
	該当到達目標 1, 2, 3, 4	予習	教科書の第2章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んでくる。	0.2 5	時間
		復習	体にある筋の種類と機能について理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5	時間
9	講義内容	骨格筋			
	該当到達目標 1, 2, 3, 4	予習	教科書の第2章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んでくる。	0.2 5	時間
		復習	神経の命令によって動かすことのできる骨格筋の種類と動きを理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5	時間
10	講義内容	血液			
	該当到達目標 1, 2, 3, 4	予習	教科書の第3章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んでくる。	0.2 5	時間
		復習	血液の組成と血球、血漿の働きを理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5	時間
11	講義内容	造血			
	該当到達目標 1, 2, 3, 4	予習	教科書の第3章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んでくる。	0.2 5	時間
		復習	血球の性状、造血について理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5	時間
12	講義内容	血液凝固、血液型と輸血			
	該当到達目標 1, 2, 3, 4	予習	教科書の第3章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んでくる。	0.2 5	時間
		復習	血液凝固、血液型と輸血に関して理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5	時間
13	講義内容	循環器系—心臓			
	該当到達目標 1, 2, 3, 4	予習	教科書の第3章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んでくる。	0.2 5	時間
		復習	心臓の構造と機能について理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5	時間
14	講義内容	循環器系—血管とリンパ管			
	該当到達目標	予習	教科書の第3章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んでくる。	0.2 5	時間

	1, 2, 3, 4	復習	血管とリンパ管の構造と機能について理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5 時間
15	講義内容	呼吸器系—鼻から気管支		
	該当到達目標	予習	教科書の第4章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んでくる。	0.2 5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	鼻から気管支までの気道の構造と機能について理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5 時間
16	講義内容	呼吸器系—肺		
	該当到達目標	予習	教科書の第4章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んでくる。	0.2 5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	肺の構造と機能について理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5 時間
17	講義内容	呼吸器系—疾患		
	該当到達目標	予習	教科書の第4章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んでくる。	0.2 5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	気管支や肺の異常所見をもとにして呼吸器疾患を理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5 時間
18	講義内容	呼吸生理、酸塩基平衡		
	該当到達目標	予習	教科書の第4章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んでくる。	0.2 5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	呼吸プロセスを理解し、酸塩基平衡について理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5 時間
19	講義内容	体液		
	該当到達目標	予習	教科書の第5章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んでくる。	0.2 5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	体内の水分を調節する仕組みについて理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5 時間
20	講義内容	泌尿器系—腎		
	該当到達目標	予習	教科書の第6章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んでくる。	0.2 5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	血管とリンパ管の構造と機能について理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5 時間
21	講義内容	泌尿器系—尿管、膀胱		
	該当到達目標	予習	教科書の第6章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んでくる。	0.2 5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	尿管、膀胱、尿道の構造と機能、排尿のしくみについて理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5 時間
22	講義内容	消化器系—口から食道		
	該当到達目標	予習	教科書の第7章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んでくる。	0.2 5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	口から食道までの構造と咀嚼・嚥下について理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5 時間
23	講義内容	消化器系—胃		
	該当到達目標	予習	教科書の第7章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んでくる。	0.2 5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	胃の構造と機能について理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5 時間
24	講義内容	消化器系—肝臓・胆嚢・膵臓		
	該当到達目標	予習	教科書の第7章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んでくる。	0.2 5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	肝臓、胆嚢、膵臓の構造と機能について理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5 時間
25	講義内容	消化器系—小腸・大腸		
	該当到達目標	予習	教科書の第7章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んでくる。	0.2 5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	小腸の炭水化物、脂質、糖質の消化吸収、大腸の構造と機能について理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5 時間
26	講義内容	神経系		

	該当到達目標 1, 2, 3, 4	予習	教科書の第 8 章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読ん でくる。	0.2 5 時間
		復習	神経系の 3 つの機能、感覚・統合・運動について理解する。ニューロンの構造と機能を 理解し、情報伝達のしくみを理解する。■C ラーニングの小テストに解答する。	0.5 時間
27	講義内容	中枢神経系		
	該当到達目標	予習	教科書の第 8 章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読ん でくる。	0.2 5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	大脳および延髄の構造と機能を理解し、中枢神経の特徴を学ぶ。■C ラーニング の小テストに解答する。	0.5 時間
28	講義内容	末梢神経系		
	該当到達目標	予習	教科書の第 8 章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読ん でくる。	0.2 5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	末梢神経の構造と機能、交感神経、副交感神経、脳神経などを理解する。■C ラ ーニングの小テストに解答する。	0.5 時間
29	講義内容	感覚器系—眼		
	該当到達目標	予習	教科書の第 9 章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読ん でくる。	0.2 5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	感覚器としての眼の構造と機能、視野欠損や色覚異常を理解する。■C ラーニン グの小テストに解答する。	0.5 時間
30	講義内容	感覚器系—耳、鼻、舌		
	該当到達目標	予習	教科書の第 9 章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読ん でくる。	0.2 5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	聴覚、嗅覚、味覚などの感覚神経について、耳、鼻、舌の構造と機能を理解す る。■C ラーニングの小テストに解答する。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				22. 5 時間
備考	授業は教科書と教員の作成するプリントを使って、要点をまとめていく。パワーポイントによる図の提示を行っていく。 研究室:5 号館 6 階 601 単位修得に必要な時間を満たしていない場合 記載した予習・復習時間では単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	解剖生理学Ⅱ（看護基盤科目群・人間）						科目ナンバリング	NRB103・B		
英文名	Anatomy and Physiology Ⅱ						講義形態	講義		
担当教員	桑原敦志									
科目に関連した実務経験	医師として大学病院検査部、感染制御部に勤務。現在、非常勤内科医師として一般内科、甲状腺専門外来を病院で担当している。									
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針との対応	1	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	8	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	0	チームの一員としての協調・協働								
SDGsとの関連	316									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	解剖学は人体の構造がどうなっているか、生理学はどのように機能して生命活動を営んでいるかを学ぶ。生命の成り立ちをきちんと理解することによって、人が病気になったときに起こりうることを予測でき、よりよい看護に結びつけることが出来る。病気からの回復をサポートする看護師のため、神経や筋肉の構造と働きを、そして、循環器、呼吸器、消化器など臓器特異的な構造と働きを理解する必要がある。「解剖生理学」は医療従事者の基本である。 講義内容はできるだけ教科書に沿って進めるが、学び順の変更を行い、臨床で経験した患者のことを随時説明し解剖生理学が実践でどのように生かされるか教授していくようにする。									
到達目標	1. 人体の構造を説明することができる。 2. 細胞や臓器の働きを説明できる。 3. 生命活動を行うのにどのように臓器が関連しているか説明できる。 4. 病気になるときの身体の状態が説明できる。■ 5. 生命誕生の過程が説明できる。									
使用教材	教科書「ナース・グラフィック①解剖生理学」(MC 文芸出版) ISBN978-4-8404-7831-1 講義に合わせたプリントを配布する。C ラーニングにプリントをアップする。									
参考文献	Newton 別冊 人体完全ガイド 改訂第 3 版									
評価方法	定期試験 95%、出席課題 5%で評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。									
課題に対するフィードバック	定期試験後にはすぐに解答を公表し、自己学習を行えるようにする。出席課題はその場で評価する。									
オフィスアワー (研究室)	水曜日 3 時限、質問はメールでも受け付ける。研究室:5 号館 6 階 601				メールアドレス (#→@)		kuwabara#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	膜								
	該当到達目標 1, 2, 3, 4	予習	教科書第 10 章ブルーページに目を通す。C ラーニングで配布したプリントを読む。						0.2 5	時間
		復習	人体・臓器・器官の表面を境界し、覆い、保護し、潤す膜の性状と機能について理解する。■C ラーニングの小テストに解答する。						0.5	時間
2	講義内容	皮膚								
	該当到達目標 1, 2, 3, 4	予習	教科書第 10 章ブルーページに目を通す。C ラーニングで配布したプリントを読む。						0.2 5	時間
		復習	皮膚の構造と機能を理解する。■C ラーニングの小テストに解答する。						0.5	時間
3	講義内容	免疫系—生体防御機構								

	該当到達目標	予習	教科書第 10 章ブルーページに目を通す。C ラーニングで配布したプリントを読ん	0.2 5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	自己と非自己の認識、生体の防御機構について理解する。■C ラーニングの小テストに解答する。	0.5 時間
4	講義内容	免疫系—自然免疫・獲得免疫		
	該当到達目標	予習	教科書第 10 章ブルーページに目を通す。C ラーニングで配布したプリントを読ん	0.2 5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	自然免疫と獲得免疫、体液性免疫と細胞性免疫について理解する。■C ラーニングの小テストに解答する。	0.5 時間
5	講義内容	免疫系—自己免疫疾患		
	該当到達目標	予習	教科書第 10 章ブルーページに目を通す。C ラーニングで配布したプリントを読ん	0.2 5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	自己免疫疾患、アレルギーについて理解する。■C ラーニングの小テストに解答する。	0.5 時間
6	講義内容	内分泌系—視床下部下垂体		
	該当到達目標	予習	教科書第 11 章ブルーページに目を通す。C ラーニングで配布したプリントを読ん	0.2 5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	視床下部、下垂体の構造と機能、分泌されるホルモンの働きについて理解する。■C ラーニングの小テストに解答する。	0.5 時間
7	講義内容	内分泌系—甲状腺、膵臓		
	該当到達目標	予習	教科書第 11 章ブルーページに目を通す。C ラーニングで配布したプリントを読ん	0.2 5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	甲状腺、上皮小体、膵臓の構造と機能、分泌されるホルモンの働きについて理解する。■C ラーニングの小テストに解答する。	0.5 時間
8	講義内容	内分泌系—副腎、性腺		
	該当到達目標	予習	教科書第 11 章ブルーページに目を通す。C ラーニングで配布したプリントを読ん	0.2 5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	副腎皮質、副腎髄質、性腺の構造と機能、腎臓や消化管、血管から分泌されるホルモンの働きについて理解する。■C ラーニングの小テストに解答する。	0.5 時間
9	講義内容	生殖器系—女性		
	該当到達目標	予習	教科書第 12 章ブルーページに目を通す。C ラーニングで配布したプリントを読ん	0.2 5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	生殖と生殖器の概念、女性生殖器の構造と機能について理解する。■C ラーニングの小テストに解答する。	0.5 時間
10	講義内容	生殖器系—性周期		
	該当到達目標	予習	教科書第 12 章ブルーページに目を通す。C ラーニングで配布したプリントを読ん	0.2 5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	性周期、月経周期とホルモンとの関連について理解する。■C ラーニングの小テストに解答する。	0.5 時間
11	講義内容	生殖器系—受精、妊娠		
	該当到達目標	予習	教科書第 12 章ブルーページに目を通す。C ラーニングで配布したプリントを読ん	0.2 5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	妊娠、受精のメカニズム、分娩のメカニズムについて理解する。■C ラーニングの小テストに解答する。	0.5 時間
12	講義内容	生殖器系—男性		
	該当到達目標	予習	教科書第 12 章ブルーページに目を通す。C ラーニングで配布したプリントを読ん	0.2 5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	男性生殖器の構造と機能、精子形成について理解する。■C ラーニングの小テストに解答する。	0.5 時間
13	講義内容	胎児		
	該当到達目標	予習	C ラーニングで配布したプリントを読ん	0.2 5 時間
	5	復習	胎児の発育と胎児循環について理解する。C ラーニングの小テストに解答する。	0.5 時間
14	講義内容	新生児		
	該当到達目標	予習	C ラーニングで配布したプリントを読ん	0.2 5 時間
	5	復習	新生児と遺伝子異常について理解する。C ラーニングの小テストに解答する。	0.5 時間

15	講義内容	まとめ			
	該当到達目標 1, 2, 3, 4, 5	予習	C ラーニングで配布したプリントを読んてくる。	0.2 5 時間	
		復習	C ラーニングの小テストに解答する。	0.5 時間	
合計時間(予習・復習)					11. 25 時間
備考	授業は教科書と教員の作成するプリントを使って、要点をまとめていく。パワーポイントによる図の提示を行っていく。 研究室:5 号館 6 階 601 単位修得に必要な時間を満たしていない場合 記載した予習・復習時間では単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。				

科目名	栄養学Ⅰ（看護基盤科目群・人間）							科目ナンバリング	NRB104・B	
英文名	NutritionⅠ							講義形態	講義	
担当教員	河原田 律子、中村 彰男、町田 大輔									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修が必須となる資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針との対応	2	人間理解と倫理観					0	国際理解		
	2	論理的思考力・問題解決力					0	生涯学習力		
	6	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	③ ④									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
									○	○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	毎回実施する小テストに対して、授業中に振り返りを行う。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	身体は発育し、成長し生命を維持している。健全な生命活動を営むために食べ物を摂取し、栄養素を補っている。摂取した栄養素が体内でどのように代謝され、生命を維持しているのかを知る。また日本の食文化、食品の分類方法、主観的包括的栄養評価方法、経口摂取できない場合の栄養補給方法などについて知る。 授業の進め方は、教科書の該当範囲と講義に関する最新のトピックスをまとめたスライドで進める。毎回講義の最後に、確認小テストを課し知識の定着を図る。成績は課題と定期試験で付ける。									
到達目標	1. 栄養学を学ぶ意味、チーム医療について理解できる。 2. 生命を維持するための栄養素の働きが理解でき、各食品の栄養学的特徴が理解できる。 3. 世界の食文化の多様性と日本食の歴史的特徴、日本人の食事摂取基準(2020)の策定ポイントが理解できる。 4. 臨床での栄養評価方法、経口摂取できない場合の栄養補給方法について理解できる。									
使用教材	疾病の成り立ち④臨床栄養学ナースンググラフィカ・関戸恵子・株式会社メディカ出版・2022 年教科書に沿って講義を行う。配布資料を毎回使用する。									
参考文献										
評価方法	期末試験 80%、平常点 20%(授業参加度・課題・小テストへの取り組みを含む)									
課題に対するフィードバック	確認小テストや課題を課し、次週に振り返りを行なう。									
オフィスアワー (研究室)	木曜日 1-4 時限 1 号館 406 研究室/臨床栄養学研究室 質問はメールでも受付ける。				メールアドレス (#→@)		nasu#takasaki-u.ac.jp (河原田)			
1	講義内容	栄養学を学ぶ目的を理解し、食生活を見直す。								
	該当到達目標	予習	看護職が栄養学を学ぶ意義を確認しておくこと。 教科書 P12~13 を読んでおくこと。							1.5 時間
	1	復習	食事を見直し、現代の栄養における問題点を理解する。							1.5 時間
2	講義内容	栄養素の基礎知識を理解する。① 栄養素の種類と働き／たんぱく質・脂質の栄養学的な特徴、生理作用を理解する。								
	該当到達目標	予習	教科書の P14~24 を読んでおくこと。							1.5 時間
	2	復習	たんぱく質、脂質の体内での消化・吸収を理解する。							1.5 時間
3	講義内容	栄養素の基礎概念を理解する。② 炭水化物、食物繊維、ビタミンの栄養学特徴、生理作用、欠乏症、過剰症について理解する。								
	該当到達目標	予習	教科書の P25~37							1.5 時間
	2	復習	炭水化物、ビタミンの体内での消化・吸収を理解する。							1.5 時間
4	講義内容	栄養素の基礎概念を理解する。③ ミネラルの栄養学的な特徴、生理作用、欠乏症、過剰症について理解する。								

	該当到達目標 2	予習	教科書の P37～46 を読んでおくこと。	1.5	時間
		復習	ミネラルの体内での消化・吸収を理解する。	1.5	時間
5	講義内容	食品成分とエネルギー、エネルギーの測定方法について理解する。			
	該当到達目標 2	予習	教科書の P58～70 を読んでおくこと。	1.5	時間
		復習	食品分類方法、エネルギー代謝について理解する。	1.5	時間
6	講義内容	日本人の食事摂取基準(2020 年版)策定ポイントを理解する。			
	該当到達目標 2.3	予習	日本人の食事摂取基準とは何か調べておく。 教科書の P71～94 を読んでおくこと。	1.5	時間
		復習	食事摂取基準と生活習慣病との関連を理解する。	1.5	時間
7	講義内容	食文化の多様性と日本の食文化の特徴について理解する。			
	該当到達目標 4	予習	教科書の P96～99 を読んでおくこと。	1.5	時間
		復習	世界の食文化と日本の食生活について理解する。	1.5	時間
8	講義内容	経口摂取ができない場合の栄養補給方法を理解する。 栄養学Ⅰのまとめ			
	該当到達目標 3	予習	教科書の P153～164 を読んでおくこと。	1.5	時間
		復習	嚥下調整食、経管栄養、中心静脈栄養について理解する。	1.5	時間
合計時間(予習・復習)				24	時間
備考	講義内容の理解を深めるために、毎回確認小テストで振り返りを行う。 学期末試験は確認小テスト内容と他問題にて実施。 予習・復習時間については、試験前の勉強にて補充すること。 オンラインで実施する場合:状況に応じ、講義内容、評価方法、試験を変更することがある。				

科目名		栄養学Ⅱ（看護基盤科目群・人間）					科目ナンバリング	NRB105・B			
英文名		Nutrition Ⅱ					講義形態	講義			
担当教員		河原田 律子、宮崎 純一*									
科目に関連した実務経験		*管理栄養士として医療施設に勤務。臨床栄養管理、給食管理、NST 活動などを実践（現在）									
学年・開講期		1 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修が必須となる資格											
学位授与方針との対応		2	人間理解と倫理観			0	国際理解				
		2	論理的思考力・問題解決力			0	生涯学習力				
		6	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連		3 4									
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
										○	○
「その他」のアクティブラーニング実施方法		毎回実施する小テストに対して、授業中に振り返りを行う。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		生涯にわたり健康を維持するためには、ライフステージごとの身体の変化とその特徴、食事摂取基準の特徴、望ましい食生活のあり方が重要であることを知る。 医療施設における病態別の栄養管理について知る。 授業の進め方は、教科書の該当範囲と講義に関する最新のトピックスをまとめたスライドで進める。 毎回講義の最後に、確認小テストを課し知識の定着を図る。成績は課題と定期試験で付ける。									
到達目標		1. 人生各期の健康生活と栄養の特徴について理解できる。 2. 主な病態別の栄養管理の特徴と食事療法について理解できる。 3. 病態別の栄養指導について、症例を踏まえて適切な指導法を理解できる。■									
使用教材		疾病の成り立ち④臨床栄養学ナースングラフィカ・關戸恵子・株式会社ナース出版・2022 年教科書に沿って講義を行う。配布資料を毎回使用する。									
参考文献											
評価方法		期末試験 80%、平常点 20% (授業参加度・課題・小テストへの取組みを含む)									
課題に対するフィードバック		小テストや課題を課し、次週に振り返りを行なう。									
オフィスアワー (研究室)		木曜日 1-4 時限 1 号館 406 研究室/臨床栄養学研究室 質問はメールでも受付ける。				メールアドレス (#→@)		nasu#takasaki-u.ac.jp (河原田)			
1	講義内容	人生各期の健康生活と栄養① 乳児期・幼児期・学童期・青年期・成人期									
	該当到達目標 1	予習	教科書 P110~120 を読んでおくこと。							1.5	時間
		復習	次回確認テストのため教科書・配付資料の内容を確認しておくこと。							1.5	時間
2	講義内容	人生各期の健康生活と栄養② 妊娠期・授乳期・高齢期									
	該当到達目標 1	予習	教科書 P121~124135 を読んでおくこと。							1.5	時間
		復習	次回確認テストのため教科書・配付資料の内容を確認しておくこと。							1.5	時間
3	講義内容	病態別栄養管理①■ 検査のための食事 治療による回復を促す食事									
	該当到達目標 2	予習	教科書 P140~152 を読んでおくこと。							1.5	時間
		復習	次回確認テストのため教科書・配付資料の内容を確認しておくこと。							1.5	時間
4	講義内容	病態別栄養管理②■ 消化器疾患(胃・十二指腸・大腸) 栄養成分別コントロール食による栄養管理									
	該当到達目標	予習	教科書 P168-175 を読んでおくこと。							1.5	時間

	2	復習	次回確認テストのため教科書・配付資料の内容を確認しておくこと。	1.5 時間
5	講義内容	病態別栄養管理③■ 消化器疾患(膵臓・肝臓・胆嚢)		
	該当到達目標	予習	教科書 P176~185 を読んでおくこと。	1.5 時間
	2	復習	次回確認テストのため教科書・配付資料の内容を確認しておくこと。	1.5 時間
6	講義内容	病態別栄養管理④■ 内分泌代謝疾患(肥満・糖尿病・脂質異常症・高尿酸血症)		
	該当到達目標	予習	教科書 P186~193 を読んでおくこと。	1.5 時間
	2	復習	次回確認テストのため教科書・配付資料の内容を確認しておくこと。	1.5 時間
7	講義内容	病態別栄養管理⑤■ 循環器疾患(高血圧症・動脈硬化症・うっ血性心不全)・腎疾患		
	該当到達目標	予習	教科書 P194~201 を読んでおくこと。	1.5 時間
	2	復習	次回確認テストのため教科書・配付資料の内容を確認しておくこと。	1.5 時間
8	講義内容	健康増進のための食事指導 医療現場で行われている疾病別栄養指導の実際。		
	該当到達目標	予習	教科書 P204~212 を読んでおくこと。	1.5 時間
	3	復習	教科書・配付資料の内容を確認しておくこと。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	講義内容の理解を深めるために、毎回確認小テストで振り返りを行う。 学期末試験は確認小テスト内容と他問題にて実施。 予習・復習時間については、試験前の勉強にて補充すること。 オンラインで実施する場合:状況に応じ、講義内容、評価方法、試験を変更することがある。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	臨床心理学(看護基盤科目群・人間)							科目ナンバリング	NRB201・A	
英文名	Medical treatment clinical psychology							講義形態	講義	
担当教員	千葉 千恵美									
科目に関連した実務経験	心理相談員として大学付属の相談機関で勤務									
学年・開講期	2 年 前期		選必・単位数		選択・1 単位					
履修が必須となる資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針との対応	3	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	5	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGsとの関連	3 4 8 9 10 11 16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○	○				○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	医療臨床による対人援助の基本を学び、より実践的な治療方法や支援方法について学修を目指す。患者さんや家族の立場で考えられるように、具体的な症状に添った援助技術の習得を目指す。 授業の進め方:講義とグループの2部形成に分かれ、学生同士の考えを引き出す等発表形式を取る。 箱庭療法の体験等学生自身の学びが出来る形式を取る。毎回授業の終わりに授業の内容の感想シートを記述させ、各自のまとめとして提出させる方法を取る。									
到達目標	1. 医療臨床による臨床心理学をやる事が出来る。 2. 医療臨床における臨床心理学の役割と関連性について、理解する事が出来る。 3. 具体的な事例検討や症例に添いクライアントや家族の関わり等を応用する事が出来る。■ 4. 体験的な治療方法や支援方法を学ぶ事で、より実践的な治療や支援を考える事が出来る。■									
使用教材	配布した症例に関するプリント又スライドによる内容を主な教材とする									
参考文献										
評価方法	事前の予習 授業後の感想シート 20% 定期試験 80%									
課題に対するフィードバック	感想シートに記載された質問は、授業を通じてフィードバックをする。また試験課題についてもフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	火曜日 4, 5 限目				メールアドレス (#→@)		chiba#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	オリエンテーション								
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、事前に臨床心理学についての知識を予習する						1.5	時間
	1	復習	講義で配布した資料を読み返し、臨床心理学について理解を深める						1.5	時間
2	講義内容	医療と臨床心理学								
	該当到達目標	予習	事前に配布した資料を読み、講義内容についてふれる						1.5	時間
	1.2	復習	講義で配布した資料を読み返し、医療における臨床心理学の理解を深める						1.5	時間
3	講義内容	医療と臨床心理学のこれから								
	該当到達目標	予習	事前に配布した資料を読み、講義内容についてふれる						1.5	時間
	1.2	復習	講義の配布資料を読み返し、医療と臨床心理学のこれからの理解を深める						1.5	時間
4	講義内容	医療における臨床心理学的アプローチ								
	該当到達目標	予習	事前に配布した資料を読み、講義内容にふれる						1.5	時間
	1,2,3,4	復習	講義で配布した資料を読み返し心理面接や不安コントロールの理解を深める						1.5	時間
5	講義内容	カウンセリング・心理療法 ■								
	該当到達目標	予習	事前に配布した資料を読み、講義内容についてふれる						1.5	時間
	1,2,3,4	復習	講義で配布した資料を読み返し、カウンセリング、心理療法の理解を深める						1.5	時間
6	講義内容	心療内科領域での対応								

	該当到達目標 1,2,3,4	予習	事前に配布した資料を読み、講義内容にふれる	1.5 時間
		復習	講義で配布した資料を読み返し、心身症と臨床心理学の歴史の理解を深める	1.5 時間
7	該当到達目標 1,2,3,4	講義内容	乳幼児期の心身症への臨床心理学的アプローチ（ロールプレイ） ■	
		予習	事前に配布した資料を読み、講義内容にふれる	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義で配布した資料を読み返し、乳幼児期の臨床心理学の理解を深める	1.5 時間
8	該当到達目標 1,2,3,4	講義内容	学童期の心身症への臨床心理学的アプローチ（ロールプレイ） ■	
		予習	事前に配布した資料を読み、講義内容にふれる	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義で配布した資料を読み返し、学童期の臨床心理学の理解を深める	1.5 時間
9	該当到達目標 1,2,3,4	講義内容	思春期・青年期の心身症へのアプローチ（ロールプレイ） ■	
		予習	事前に配布した資料を読み、講義内容についてふれる	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義で配布した資料を読み返し思春期・青年期の心身症の理解を深める	1.5 時間
10	該当到達目標 1,2,3,4	講義内容	成人・高齢期の心身症への臨床心理学的アプローチ（ロールプレイ）	
		予習	事前に配布した資料を読み、講義内容にふれる	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義で配布した資料を読み返し、成人期・高齢期の心身症の理解を深める	1.5 時間
11	該当到達目標 1,2,3,4	講義内容	神経・精神科領域での対応（ロールプレイ）	
		予習	事前に配布した資料を読み、講義内容にふれる	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義で配布した資料を読み返し、神経・精神科領域の心身症の理解を深める	1.5 時間
12	該当到達目標 1,2,3,4	講義内容	リハビリテーション・高齢期医療での対応（ロールプレイ）	
		予習	事前に配布した資料を読み、講義内容にふれる	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義の配布資料を読み返し、リハビリテーション・高齢期医療の理解を深める	1.5 時間
13	該当到達目標 1,2,3,4	講義内容	医療の新しい領域でのアプローチ（ロールプレイ）	
		予習	事前に配布した資料を読み、講義内容にふれる	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義で配布した資料を読み返し、新しいアプローチの理解を深める	1.5 時間
14	該当到達目標 1,2,3,4	講義内容	臨床心理学治療に必要なアプローチ(箱庭療法) ■	
		予習	事前に配布した資料に目を通し、講義内容にふれる	1.5 時間
	1,2	復習	講義修了後感想シートを記載し、箱庭療法についての理解を深める	1.5 時間
15	該当到達目標 1,2	講義内容	まとめ 臨床心理学の今後の課題と展望	
		予習	事前に今まで配布した資料に目を通し、講義内容を振り返る	1.5 時間
	1,2	復習	講義修了後配布した資料を読み返し、臨床心理学のまとめをする	1.5 時間
			合計時間(予習・復習)	45 時間
備考	Key Word:医療臨床 対人援助 クライアントと家族 臨床心理学 予習・復習については授業前後の学習の補完とする。 単位修得に必要な時間を満たしていない場合 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完する。 オンラインで実施する場合は、オンデマンド型授業とする。資料の配布や課題の提出には C-learning を用いる。 (■:実務経験に基づく内容を示す。)			

科目名	看護人間発達学(看護基盤科目群・人間)						科目ナンバリング	NRB106・B		
英文名	Human Growth and Development Nursing						講義形態	講義		
担当教員	高田絵理子、吉田久美子、梅原里実、星野美穂、飯嶋友美									
科目に関連した実務経験	担当教員は、大学病院、専門病院、総合病院において看護師としての勤務経験を有する。									
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修が必須となる資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針との対応	3	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	6	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	0	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	31016									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○						○	○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	・与えられたテーマに対して、授業外学習において自ら調べ、解釈・分析し、その内容をまとめる【調査学習】 ・授業受講時、自己学習時に授業資料、ポートフォリオ学習用紙の空白となっている括弧内等に適切な用語や重要点を記載し、講義資料、ポートフォリオ学習用紙を完成させ学習する【ポートフォリオ学習】									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 講義の目標 人間の生涯にわたる成長・発達の特徴を理解し、人間の発達と健康を支える看護の重要性と役割を学習する。 ② 講義の実施方法 本科目は、5名の教員(リプロダクティブヘルス看護学、小児看護学、成人看護学、老年看護学、精神看護学を専門分野とする教員)によるオムニバス形式で授業を展開する。また、教科書、教員が作成した資料、パワーポイントを用いるとともにDVD等の視覚教材を活用することを通じ、人間の成長・発達の特徴のイメージ化、発達と健康、看護との関係についての理解を図りながら授業を展開する。									
到達目標	1. 看護の対象としての「人間」の理論的定義、発達の概念・原則、発達に影響する要因を概説する 2. 人間のライフサイクルの各発達段階における成長・発達の特徴と健康課題を説明する ■ 3. 各発達段階の成長・発達がその後の発達段階の成長・発達や健康に及ぼす影響を概説する ■ 4. 看護学における人間理解のあり方と、人間の発達を促し健康を支えるための看護の重要性と役割について考察する ■ 5. 看護学において人間の成長・発達の特徴を学習することの意義を思考する ■									
使用教材	舟島なをみ、望月美知代、看護のための人間発達学 第5版、医学書院、2017. ¥3,000＋税 ※教科書は、授業および予習・復習において使用する。適宜、授業資料を配布する									
参考文献	1)福田恵美子、コメディカルのための専門基礎分野テキスト 人間発達学 改定5版、中外医、2019. ¥2,600＋税 2)服部祥子、生涯人間発達ー人間への深い理解と愛情をはぐくむためにー 第3版、医学書院、2020. ¥2,100＋税 3)上杉 雅之、イラストでわかる人間発達学、医歯薬出版、2015. ¥4,620									
評価方法	筆記試験(100%)を行い、合計 60 点以上を合格とする。 オンラインの場合、C-learning などを利用してオンライン上で試験(100%)を行い、合計 60 点以上を合格とする。									
課題に対するフィードバック	原則として、対面授業でも、オンライン授業でもレポートにはコメントを付して返却する。なお、必要に応じて C-learning を通じてコメントする。									
オフィスアワー (研究室)	水曜日 10:00～15:00 (5号館4階 403 研究室 高田)				メールアドレス (#→@)	takada-e#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	人間と発達(総説)【高田】 ー「発達」の概念定義と原則、「発達」に影響する要因、人間の「発達」を学習することの意義ー								
		該当到達目標 1,5	予習	教科書の講義内容と関連する項を精読する。					1 時間	
	復習	人間の成長・発達に影響する要因について調べ、まとめる。					2 時間			
2	講義内容	人間のライフサイクルと発達 [1] 乳児期～老年期にある人間の心理・社会的側面の発達と発達の危機(健康課題) ■【高田】								

	該当到達目標 2. 3, 4	予習	教科書の乳児期～老年期の心理・社会的側面の発達を精読する。自分自身や身近な人を想起し、人間の心理・社会的な発達の特徴を把握する。	1 時間
		復習	授業内容に基づき、乳児期～老年期にある対象の心理・社会的な発達の特徴を整理する。	2 時間
3	講義内容	人間のライフサイクルと発達 [2] 受精、胎児期、新生児期 ■【飯嶋】		
	該当到達目標 2. 3, 4	予習	教科書の講義内容と関連する項を精読する。	1 時間
	復習	授業内容に基づき、胎児期～新生児期にある対象の発達的特徴を整理する。		2 時間
4	講義内容	人間のライフサイクルと発達 [3] 乳児期～幼児期 ■【星野】		
	該当到達目標 2. 3, 4	予習	教科書の講義内容と関連する項を精読する。また、自分の母子健康手帳等を観て、乳児期～幼児期の自己の発達過程、発達の特徴を把握する。	1 時間
	復習	授業内容に基づき、乳児期～幼児期にある対象の発達的特徴を整理する。		2 時間
5	講義内容	人間のライフサイクルと発達 [4] 学童期～思春期 ■【星野】		
	該当到達目標 2. 3, 4	予習	自己の学童期～思春期に体験したことを想起・照合しながら、教科書の講義内容と関連する項を精読する。	1 時間
	復習	授業内容に基づき、乳・幼児期にある対象の発達的特徴を整理する。		2 時間
6	講義内容	人間のライフサイクルと発達 [5] 青年期～成人期 ■【吉田】		
	該当到達目標 2. 3, 4	予習	教科書の講義内容と関連する青年期～成人期の項を精読する。自分のことと照らし合わせ考える。	1 時間
	復習	授業内容に基づき、青年期・成人期にある対象の発達的特徴を整理する。		2 時間
7	講義内容	人間のライフサイクルと発達 [6] 向老期～老年期 ■【梅原】		
	該当到達目標 2. 3, 4	予習	自身の身近な人を想起しながら教科書の講義内容と関連する章を精読する。	1 時間
	復習	授業内容に基づき、老年期にある対象の発達的特徴を整理する。		2 時間
8	講義内容	人間の発達と看護(総括)－人間の発達と健康を支えるための看護の役割 ■【高田】		
	該当到達目標 3. 4. 5	予習	第1～7回までの授業の学習内容を再確認する	1 時間
	復習	それぞれのライフサイクルの人間の発達の特徴をふまえた上で、人間の発達と健康を支える看護の重要性と役割、および看護学における人間理解のあり方について自己の考えを考察し、整理する。		2 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	【学習上の助言および受講時のルール】 ・授業シラバス、授業計画を必ず確認し、予習・復習を十分行い、積極的に授業に臨む。 ・予習・復習:必要に応じて各自で補完する。 ・授業中に提示された課題は、提出期限を厳守し必ず提出する。未提出の場合には単位修得に影響する。 【出席登録】 出席登録は、C-learning の下記の方法1・2のいずれかの方法で行う。方法は C-learning【協働板】または【ニュース】を確認すること。 ・方法1:【出席管理】機能を通じて、確認キーをみて出席登録を行う。 ・方法2:【アンケート】機能を通じて設問に回答する。 【オンライン授業での出席の取り扱い】 オンラインで授業を行う場合には、上記の C-learning を通じた出席登録を行うこと、および C-learning【教材倉庫】内の教材が「既読」になっていることを条件に出席として取り扱う。 (■:実務経験に基づく内容を示す。)			

科目名		医療安全論(看護基盤科目群・環境)					科目ナンバリング	NRB206・B			
英文名		Theory of Medical Safety					講義形態	講義			
担当教員		安野朝子									
科目に関連した実務経験		総合病院における感染管理室長									
学年・開講期		2 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修が必須となる資格											
学位授与方針との対応		2	人間理解と倫理観			1	国際理解				
		3	論理的思考力・問題解決力			1	生涯学習力				
		3	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連		341617									
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○					○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		実施概要 安全な医療の提供は、医療従事者の重要な責務であることを理解し、個人および組織においてどのような対策が求められているか学習する。 ①講義目標：医療における安全対策の歴史、種類、方法を学び、臨地実習や就職後に活用できる基本的な安全対策スキルの学習方法を身につける。 ②実施方法 講義を中心に行い、事例検討は一部 GW を行う。									
到達目標		1. 医療安全の基本的な考え方が説明できる。 2. インシデント・アクシデントの具体的な事例を認識し、説明できる。■ 3. 医療安全における対策とは何かとその適応方法を知り、事例に沿って考えることができる。■ 4. 安全対策、感染対策、薬剤対策、医療機器対策の個別対応と組織的な対応の違いを知り、個人と組織をつなぐチームの存在を知る。■ 5. 医療従事者の安全対策について理解し、説明できる。■ 6. 安全文化の醸成について学び、学習した事例を GW で発表し、共有する方法を体験する。 7. 医療安全の考え方を、常に臨地実習で活用できるよう準備する。									
使用教材		看護学テキスト NiCE 医療安全 多職種でつくる患者安全をめざして. 山内豊明 荒井有美. 南江堂. 2020. 2,500 円 テキスト以外に必要な資料は適宜配布する。									
参考文献		授業初回に紹介する									
評価方法		毎回の講義終了後の振り返りと課題提出、小テストを含め(40%)。定期試験(60%)。総合評価 100%中の 60%以上を合格とする。									
課題に対するフィードバック		講義の振り返りについては、次回講義時にコメントしフィードバックする。 試験については不正解の多かった項目について解説する。									
オフィスアワー (研究室)		火曜日 13 時～16 時 15 分 (5 号館 4 階 404 研究室)				メールアドレス (#→@)	yasuno#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	医療安全を学ぶ意義と事故発生のメカニズムについて学ぶ ヒューマンファクター ハイน์リッヒの法則 スイスチーズモデル 過去の重大事故の振り返り									
	該当到達目標	予習	新聞やニュースで聞く医療事故の情報を一つ探してくる							1.5	時間
	1.2.7	復習	事故発生のメカニズムを学び、自分の探した情報のメカニズムを検討してみる							1.5	時間
2	講義内容	インシデント・アクシデント事例について学ぶ ■ インシデント・アクシデントの定義 転倒転落 誤認 薬剤投与間違い 医療機器の使用間違い 医療関連感染 アウトブレイク									

	該当到達目標	予習	今までの実習で出会ったインシデント・アクシデントについて思い出して整理する 出会ったことが無ければ、テキストの事例を読む	1.5 時間
	1.2.3.4.7	復習	事例から看護場面にある身近にあるリスクについて考察する	1.5 時間
3	講義内容	安全対策の方法を学ぶ ■ KYT 報告・連絡・相談 個人の対策 組織の対策 事故報告制度 事故後の対応		
	該当到達目標	予習	事故を防ぐとはどのようなことか、テキストを読んで考える	1.5 時間
	3.4	復習	さまざまな方法をどのように実施するのか実習場面に照らして考える	1.5 時間
4	講義内容	感染対策の方法を学ぶ ■ 微生物の特徴 新興再興感染症の対策 人の移動とアウトブレイク 標準予防策・感染経路別対策の成り立ち 洗浄、消毒、滅菌の適応		
	該当到達目標	予習	微生物学の復習をして微生物の特徴を思い出す 感染症が伝播する仕組みを復習しておく	1.5 時間
	3.4	復習	感染予防において、グローバルな世界に生きている現代の人が備えておくべき知識を整理する	1.5 時間
5	講義内容	事例の検討過程と種類について 個人と組織、チームの関わり、コミュニケーションについて学ぶ。 安全文化の醸成と報告システムの成り立ちについて学ぶ ■		
	該当到達目標	予習	医療の安全はさまざまな事象から学ぶことで、再発防止につながっていることをテキストを読んで知る	1.5 時間
	1.2.3.4.6	復習	安全文化の醸成には何が必要かを整理する	1.5 時間
6	講義内容	医療従事者の安全対策について学ぶ ■ 職業感染対策 血液曝露対策 空気・飛沫曝露対策 放射線曝露対策 薬物(抗がん剤、消毒薬等)曝露対策 健康管理 身体のリズムと安全 心の安全		
	該当到達目標	予習	医療職にあるリスクについてテキストから学ぶ	1.5 時間
	1.2.3.4.5	復習	自身の健康管理と適切な曝露対策等が安全な医療につながることを理解し、学びを整理する	1.5 時間
7	講義内容	体験事例等について、各自検討して GW で発表し、共有する方法を体験する		
	該当到達目標	予習	事例をどのように伝えれば、報告出来るのか記録して伝える準備をする	1.5 時間
	1.2.3.4.6.7	復習	GW での学びを整理する	1.5 時間
8	講義内容	まとめ 学びの振り返りと実習に備える		
	該当到達目標	予習	1-7 回に学んだことを振り返る	1.5 時間
	1.2.3.4.5.6.7	復習	医療安全論の学びを実習に生かすために、患者安全と医療者の安全双方を適切に行うための方法を整理する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	1. 単位習得に必要な時間を満たしていない場合 講義のみでは単位習得に必要な時間を満たさないため、予習・復習時間を含め、各自が補完すること。 2. 履修条件 この科目は、基礎看護技術、微生物学、臨床医学、コミュニケーション演習、全ての領域別科目の概論と方法論を履修していることが望ましい。 3. 受講ルール 1) 出席は、講義後 c-learning のアンケートによる振り返りと課題の提出をもって出席とする。 2) GW は少人数で行い、各自が主体的に課題に取り組み情報交換する。 4. オンライン授業時の変更点 1) 講義は c-learning の教材倉庫に掲載した資料と説明動画を視聴し学習する。 2) 質問等は c-learning の連絡・相談を使用する。必要に応じ MEET やチャットを利用する場合もある。 3) GW は ZOOM を使用する。 ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	疫学(看護基盤科目群・環境)							科目ナンバリング	NRB202・B	
英文名	Epidemiology							講義形態	講義	
担当教員	宮崎 有紀子									
科目に関連した実務経験	・看護師として病院に勤務(経験) ・保健師(非常勤)として健診業務等に従事(経験)									
学年・開講期	2 年 後期		選必・単位数		必修 2 単位					
履修が必須となる資格										
学位授与方針との対応	2	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	7	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	0	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	③⑩⑪⑬⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○					○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	人間集団の疾病および健康現象の発生状況を把握し、それに影響を及ぼす要因や条件を包括的に探る方策として、疫学の考え方や方法について学ぶ。									
到達目標	1.疫学の考え方や方法について理解できる。 2.集団の健康指標について理解できる。 3.リスクの考え方、および曝露効果に関する指標の意味が理解できる。 4.因果関係を探る方法について理解できる。 5.スクリーニングの意義と妥当性について理解できる。■ 6.人を対象とした研究における倫理的配慮について考えることができる。									
使用教材	教科書 はじめて学ぶやさしい疫学 日本疫学会監修 (南江堂) ISBN978-4-524-24399- 講義の内容をプリントにて配布する									
参考文献	授業の中で紹介する									
評価方法	試験 80%, 提出物 20%, 総合評価 60%以上を合格とする									
課題に対するフィードバック	課題として提出された内容について全体的にまとめ、共有する。									
オフィスアワー (研究室)	授業の前後(非常勤講師室)				メールアドレス (#→@)		miyazaki-yu#gchs.ac.jp			
1	講義内容	疫学の概要								
	該当到達目標	予習	教科書の前書き, シラバスの内容を読み講義の目標などを理解する						1.5 時間	
	1	復習	講義内容を確認する. 教科書第 1 章に目を通す						1.5 時間	
2	講義内容	記述疫学と仮説設定								
	該当到達目標	予習	教科書第 5 章に目を通す						1.5 時間	
	1	復習	講義内容を確認する						1.5 時間	
3	講義内容	横断研究・生態学的研究								
	該当到達目標	予習	教科書第 6 章 6-1 に目を通す						1.5 時間	
	1	復習	講義内容を確認する						1.5 時間	
4	講義内容	疾病頻度の測定:率、比、割合								
	該当到達目標	予習	教科書第 3 章に目を通す						1.5 時間	

	2	復習	講義内容を確認する	1.5 時間
5	講義内容	コホート研究		
	該当到達目標	予習	教科書第 6 章 6-3 に目を通す	1.5 時間
	1,3	復習	講義内容を確認する	1.5 時間
6	講義内容	症例対照研究		
	該当到達目標	予習	教科書第 6 章 6-2 に目を通す	1.5 時間
	1,3	復習	講義内容を確認する	1.5 時間
7	講義内容	介入研究		
	該当到達目標	予習	教科書第 7 章に目を通す	1.5 時間
	1	復習	講義内容を確認する	1.5 時間
8	講義内容	疫学調査の倫理		
	該当到達目標	予習	教科書第 18 章に目を通す	1.5 時間
	1,6	復習	講義内容を確認する	1.5 時間
9	講義内容	疫学的因果推論の考え方 (1)		
	該当到達目標	予習	教科書第 9 章, 10 章に目を通す	1.5 時間
	1,4	復習	講義内容を確認する	1.5 時間
10	講義内容	疫学的因果推論の考え方 (2)		
	該当到達目標	予習	教科書第 9 章, 10 章に目を通す	1.5 時間
	1,4	復習	講義内容を確認する	1.5 時間
11	講義内容	スクリーニングの方法 ■		
	該当到達目標	予習	教科書第 11 章に目を通す	1.5 時間
	5	復習	講義内容を確認する	1.5 時間
12	講義内容	スクリーニングの評価 ■		
	該当到達目標	予習	教科書第 11 章に目を通す	1.5 時間
	5	復習	講義内容を確認する	1.5 時間
13	講義内容	社会と疫学		
	該当到達目標	予習	教科書第 19 章 19-5 に目を通す	1.5 時間
	1	復習	講義内容を確認する	1.5 時間
14	講義内容	演習(1) 疫学調査事例		
	該当到達目標	予習	教科書第 3 章, 第 6 章を復習する	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容を確認する	1.5 時間
15	講義内容	演習(2) 疫学調査事例		
	該当到達目標	予習	教科書第 3 章, 第 6 章を復習する	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容を確認する	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	授業は教科書と教員の作成するプリントを使って, 要点をまとめていく。またパワーポイントにより図等の提示を行っていく。予習・復習については試験前の学習でも補完すること。 ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	社会調査特論(看護基盤科目群・環境)						科目 ナンバリング	NRB203・B		
英文名	Social Research Advanced Course						講義形態	講義		
担当教員	安達 正嗣									
科目に関連した 実務経験	兵庫県庁の家庭問題研究所において 3 年間、研究員および主任研究員として兵庫県の各市町村で家族・高齢者・福祉調査を実施して調査資料を作成することによって、各課への政策提言をおこなった。									
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数		選択 1 単位						
履修が必須となる 資格										
学位授与方針 との対応	2	人間理解と倫理観			2	国際理解				
	5	論理的思考力・問題解決力			1	生涯学習力				
	0	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	① ③ ④ ⑤ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑯ ⑰									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○		○	○				
「その他」のアクティ ブラーニング実施方 法										
実施概要 ① 講義の目標 ② 講義の実施方法	① 本講義の目的は、保健医療分野における実証的研究の手法として、社会調査の基本的な知識や技法を解説することによって、受講生が現代の看護師の業務における社会調査の意義を理解することである。 ② 講義の実施方法としては、社会調査の実施過程にそって講義を進めていき、毎回の講義後に課題レポートを提示し、次回の講義では各受講生が提出した課題レポートについて、担当者と全受講生で検討するといった双方向的な講義をおこなう。									
到達目標	(1) 看護学を専攻する大学生としての基礎的知識力として、社会調査の基本を身につけることができる。 (2) 社会調査を学ぶことを通じて、豊かな人間性と倫理観を身につけることができる。 (3) 社会調査の技法を学ぶことで、専門知識・技術の活用力を身につけることができる。■ (4) 社会調査を学ぶことで、論理的思考力を身につけることができる。 (5) 社会調査の技法を会得することで、理学療法の現場のチームの一員としての協調・協働を身につけることができる。 (6) 社会調査の基礎を身につけることで、専門家としての生涯学習力を身につけることができる。									
使用教材	講義中に、毎回、配布する。									
参考文献	講義中に、適宜指示する。									
評価方法	第 2 回以降に提出する作業レポート(50%)、ならびに学期末レポート(50%)により、評価する。									
課題に対する フィードバック	第 2 回以降に提出する作業レポートにコメントがつけられるので、これを参考にしながら、最終的な学期末レポートを作成する。									
オフィスアワー (研究室)	火曜日 5 限・6 限				メールアドレス (#→@)	adachi-m#takasaki-u,ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーションとして、配布資料に基づいて社会調査の概要を解説する。								
	該当到達目標	予習	不要。						0 時間	
	1,2,3,6	復習	社会調査の概要について理解しておくこと。						1.5 時間	
2	講義内容	配布資料に基づいて、社会調査のための情報資源にいかアクセスするか、それをどのように活かしていくのかを解説する。								
	該当到達目標	予習	第 1 回で配布された資料をよく読んでおくこと。						1.5 時間	
	1,2,3,4,6	復習	各受講生が自分の関心にしたがって、調査にむけての情報を収集して、次回に小レポートを作成すること。						1.5 時間	
3	講義内容	配布資料に基づいて、量的調査(質問紙調査)と質的調査(面接調査)について解説する。小レポートを回収する。実務経験で得た調査結果を事例として提示する。■								

	該当到達目標 1,2,3,4,6	予習	第 2 回で配布された資料をよく読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	とくに質問紙調査の手法について理解することによって、各自の関心に基づいたテーマと仮説を小レポートとして作成すること。	1.5 時間
4	講義内容	各自のテーマと仮説を全体で検討した後で、配布資料に基づいて調査票の作成方法を解説する。前回の小レポートは、コメントをつけて返却する。		
		該当到達目標	予習 第 3 回で配布された資料をよく読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4,6	復習	講義中のコメントを参考にして、各自のテーマと仮説を修正しておくこと。また、その仮説を検証するための調査票を小レポートとして作成すること。	1.5 時間
5	講義内容	データの分析方法について、配布資料に基づいて解説する。		
		該当到達目標	予習 第 4 回で配布された資料をよく読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4,6	復習	データ分析の方法について復習しておくこと。	1.5 時間
6	講義内容	教室内で各自の修正した調査票を配布して、実査(調査者側と被調査者側)を体験する。小レポートにコメントをつけて返却する。		
		該当到達目標	予習 受講生数に応じて調査票を用意しておくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4,6	復習	各自の記入済みの調査票を点検しておくこと。	1.5 時間
7	講義内容	調査報告書のまとめ方について、配布資料で解説する。		
		該当到達目標	予習 各自のデータ分析の計画を作成しておくこと。	1.5 時間
	1,2,3,4,6	復習	データ分析の方法を復習して、データ分析をおこなうこと。	1.5 時間
8	講義内容	全講義を振り返って、あらためて社会調査のやり方について解説する。		
		該当到達目標	予習 これまでの講義の配布資料を読み直しておくこと。	3 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	これまでの講義の配布資料を参考にしながら、調査報告書を作成すること。	3 時間
合計時間(予習・復習)				25.5 時間
備考	1 回でも欠席すると講義に参加できなくなりますので、8 回すべてに出席することが不可欠です。 なお、以上のシラバスは対面授業を想定しており、遠隔授業になった場合には各受講生がおこなう作業は質問紙作成までになり、各受講生がおこなう予定のデータ収集・分析については解説のみになりますので、了承してください。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	公衆衛生学(看護基盤科目群・環境)			科目ナンバリング	NRB106・B
英文名	Public Health			講義形態	講義
担当教員	小出 省司				
科目に関連した実務経験	群馬県庁において保健医療福祉行政に従事したこと。				
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	必修 2 単位		
履修が必須となる資格					
学位授与方針との対応	2	人間理解と倫理観	0	国際理解	
	7	論理的思考力・問題解決力	1	生涯学習力	
	0	チームの一員としての協調・協働			
SDGs との関連	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑧ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮				
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 公衆衛生学は健康な集団に対して予防医学的なアプローチを行うところに特徴がある。公衆衛生学の歴史を学びながら、このような公衆衛生学の特徴、医療・福祉・介護また環境等との関連を理解し、現在の公衆衛生学的なものの見方や考え方を習得し、将来の看護師、保健師、助産師、理学療法士等の業務を遂行していく際の周辺領域を理解する。 ② 教科書、参考資料等の具体的説明とともに、新聞資料、関係パンフレット等で実のある授業を進めたい。				
到達目標	1. 公衆衛生学に関する基本的な概念を理解し説明できる。 2. 関連する法律・法制度、基本的な用語、社会・環境と健康の関連を説明できる。 3. 現在のわが国の公衆衛生活動を理解し説明できる。				
使用教材	1教科書「衛生・公衆衛生学」(アイ・ケイコーポレーション) その他、必要により関連する資料を配布する。				
参考文献	参考図書「国民衛生の動向」(厚生労働統計協会)				
評価方法	期末のレポート(90%)及び、毎回の授業終了時に提出する質問・感想・意見等(10%)により総合的に評価する。				
課題に対するフィードバック	授業中、可能な限り質問を受けたり、各課題に対する学生の意見を聞く等の中でフィードバックしていきたい。				
オフィスアワー(研究室)	必要に応じて対応する		メールアドレス(#→@)	必要に応じて対応する	
1	講義内容	オリエンテーション			
	該当到達目標	予習	この科目を受講する意味を考えて、問題意識を深める。■		1 時間
	1.2	復習	今まで学んだ看護等各科目の知識との関連を考察する。		1 時間
2	講義内容	社会保障と税の一体改革			
	該当到達目標	予習	今回の新型コロナの影響で社会保障全般に影響が出ている。一番は持続可能な制度を維持できるかが課題である。この辺について学習する。■		1 時間
	1.2.3	復習	公衆衛生の実現はこれら社会保障制度が有効に運用されることにある。。		1 時間
3	講義内容	第1章 公衆衛生学序論 第2章 国際保健			
	該当到達目標	予習	健康増進をキーに公衆衛生の役割とその活動のプロセスを理解する。また、グローバル時代に向けて WHO を中心に世界の動きを理解する。(教科書 1頁～24頁)		1 時間
	1.2	復習	公衆衛生学の重要性を理解する。		1 時間
4	講義内容	第3章 行政の仕組みと公衆衛生関連法規			
	該当到達目標	予習	社会の基本ルールは法に拠所がある。特に行政の果たす役割が大きいのでその仕組みや法規について理解する。■(教科書25頁から37頁		1 時間
	1.2	復習	実際の行政の現場、法律等がどのように運用されているかを具体的に検証し理解する。		1 時間

5	講義内容	第4章 保健統計		
	該当到達目標	予習	各種保健統計がどのように作成され、活用されているかを概観する。(教科書 38頁～56頁)	1 時間
	1.2	復習	それぞれの統計から日本の人口、疾病構造、健康志向等を確認する。	1 時間
6	講義内容	第5章 疫学 第6章 疫学研究		
	該当到達目標	予習	疫学とは何かを理解する。また、そのエビデンスの質のレベルについても考察する。■(教科書 57頁～83頁)	1 時間
	1.2	復習	健康を支える疫学について総合的に学習する。	1 時間
7	講義内容	第7章 疾病予防と健康管理		
	該当到達目標	予習	生活習慣病予防のための健康対策の概略を理解する。■(教科書 84頁～109頁)	1 時間
	1.2	復習	よりよい生活習慣を維持するための個人、組織・集団、国レベルの対策を具体的に理解していく。	1 時間
8	講義内容	第8章 主要疾病の疫学と予防		
	該当到達目標	予習	がん、心臓病、脳卒中等様々な疾患の現状を把握し、その疫学と今後の予防対策を学ぶ。■(教科書 110頁～139頁)	1 時間
	1.2	復習	時代の流れと共に変化していく疾病の動きを把握し、そのための治療等が効果が出ているか検証する。	1 時間
9	講義内容	第9章 地域保健		
	該当到達目標	予習	健康活動の拠点である地域でどのような活動が展開されているか、特に行政等の地域保健活動を概観する、■(教科書 140頁～145頁)	1 時間
	1.2	復習	保健所や市町村保健センター等での保健師活動を中心に考察する。	1 時間
10	講義内容	第10章 医療・福祉・介護 ① 医療		
	該当到達目標	予習	社会保障制度の中で医療について概観する。■(教科書 146頁～157頁)	1 時間
	1.2	復習	日本の国民皆保険制度がどう機能しているか、医療の向上に果たしている役割等を考察する。	1 時間
11	講義内容	第10章 医療・福祉・介護 ② 福祉・介護		
	該当到達目標	予習	公衆衛生の隣接部門である福祉、介護も特に地域ケアシステムの理念から必須の情報である。■(教科書 158頁～167頁)	1 時間
	1.2	復習	少子高齢化社会の中で福祉、介護等の具体的課題を学習する。	1 時間
12	講義内容	第11章 母子保健		
	該当到達目標	予習	日本の保健制度の原点である母子保健の必要性、今日的課題等について概観する。■(教科書 168頁～174頁)	1 時間
	1.2	復習	年間の出生数が90万人を割り一人ひとりの命を大事に育てて行く重要性を学習する。	1 時間
13	講義内容	第12章 学校保健 第13章 産業保健		
	該当到達目標	予習	学校では毎日多くの児童生徒教員等が生活している。そこでの健康管理の維持がどうなっているか？を概観する。働く職場でも同じ課題等がある。(教科書 175頁～202頁)	1 時間
	1.2	復習	組織・集団内での健康確保、法制、専門職等の働きについても考察していく。	1 時間
14	講義内容	第14章 成人・高齢者保健 第15章 環境保健		
	該当到達目標	予習	人口の動きで高齢化が最大の特徴である日本においてこれら対象者の健康管理をどう守っていくべきか、また温暖化が様々な事件を及ぼしている現実を概観する。■(教科書 203頁～267頁)	1 時間
	1.2	復習	社会保障給付費も100兆円を超えている中で人生100年時代を健康寿命の延	1 時間

			伸の中で生きていく課題を考察する。	
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	この科目で学ぶべきことは何だったのかを考察する。	1 時間
	1.2	復習	もう一度,教科書等を復習してポイントを押さえていく。	1 時間
合計時間(予習・復習)				30 時間
備考	① 毎回講義終了後に質問等受付ける。 ② 公衆衛生学はそれぞれの現場があり、授業中にもそれらの実際等を紹介していく。 ③ 日々のニュースや社会の動き(例・新型コロナウイルスの発症)を注視し学習している内容との関連性を検討する。 ④ 予習・復習を疎かにしないようお願いする。記載した予習・復習時間に加え必要な学修時間を各自で補完すること。 ⑤ リモートワークでの授業の場合はそのシステムをフルに活用して受講する学生が情報を収集できるよう最大限の努力をするとともにアンケートや資料提供しながら学習支援をしていく。 ■:実務経験に基づく内容を示す			

科目名	保健医療福祉行政論(看護基盤科目群・環境)				科目 ナンバリング	NRB204・B
英文名	Social Welfare and Policy in Health Care				講義形態	講義
担当教員	小出 省司					
科目に関連した 実務経験	群馬県庁において保健医療福祉行政に従事した。					
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位			
履修が必須となる 資格						
学位授与方針 との対応	2	人間理解と倫理観		0	国際理解	
	7	論理的思考力・問題解決力		1	生涯学習力	
	0	チームの一員としての協調・協働				
SDGs との関連	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮					
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①地域看護における保健・医療・福祉活動を深く理解するため、保健・医療・福祉活動に関わる多面的な法的基盤や財政の状況を知る。あわせて、地域における活動の現状と今後の課題を考える機会とする。 ②教科書や参考資料の中で具体的に説明すると共に行政資料や新聞記事等を活用して例示する。					
到達目標	1 国・都道府県及び市町村で実施している保健・医療・福祉施策について学ぶと共に、それぞれの役割を理解し、説明できる。 2 医療の専門職として、それぞれの事業へどのような関わりができるかを考え、説明することができる。					
使用教材	1 ①標準保健師講座「保健医療福祉行政論」(医学書院) 2 ②「国民衛生の動向」(厚生労働統計協会) その他、必要により関連する資料を配布する。					
参考文献						
評価方法	期末レポート(90%)及び、毎回の授業終了時に提出する質問・感想・意見等(10%)により総合的に評価する。					
課題に対する フィードバック	授業中、可能な限り質問を受けたり各課題に対する学生の意見を聞く等の中でフィードバックしていきたい。					
オフィスアワー (研究室)			メールアドレス (#→@)			
1	講義内容	オリエンテーション				
	該当到達目標 1, 2	予習	この科目を受講する意味を考えて、問題意識を深める。■			1 時間
		復習	今まで学んだ看護各科目の知識との関連を考察する。			1 時間
1, 2	1, 2	社会保障と税の一体改革について				
	1, 2	予習	今回の新型コロナの影響で社会保障全般に影響が出ている。一番は持続可能な制度を維持できるかが課題である。この辺について学習する。■			1 時間
		復習	保健医療福祉行政には様々な課題があるが、地蔵可能なものにしていくことが何よりも重要である。この辺を学習する。			1 時間
3	講義内容	1章 保健医療福祉行政の基本、第2章 保健医療福祉制度の変遷				
	該当到達目標 1, 2	予習	住民の健康福祉の向上が目的であるが、現実がどうなっているか？特に憲法に規定された公的責任をどう進めるか理解していく。そのためには歴史的にどのように発展してきたかも重要な視点である。■(教科書①2頁～58頁)			1 時間
		復習	社会保障制度の充実に向けどのような対応を図ってきたかを検証する。			1 時間
4	講義内容	第3章 保健医療福祉行政・財政の理念と仕組み				
	該当到達目標 1, 2	予習	社会保障の具体的な実現には行政組織の充実と財源の確保が事業実現には不可欠であることを理解する。■(教科書①60頁～93頁)			1 時間
		復習	具体的な行政組織の確認、またお金の流れがどうなっているか等を検証してい			1 時間

			く。	
5	講義内容	第4章 地域保健行政と保健師活動		
	該当到達目標	予習	健康の基本は予防対策であるが、健康寿命の延伸に向けてどのような保健活動が展開されているか理解する。■(教科書①96頁～121頁)	1 時間
	1, 2	復習	保健と医療、福祉の連携が重要視されているが、地域保健活動の成否がその基本であることを検証していく。	1 時間
6	講義内容	第5章 社会保障制度と政策		
	該当到達目標	予習	年金、衣料、④福祉等の諸制度を理解し、これからの時代にどこに重点を置いて行くべきかを理解する。■(教科書①124頁～188頁)	1 時間
	1, 2	復習	制度の詳細を確認しながら、それぞれの目的が実現できているか検証していく。	1 時間
7	講義内容	第5章 保健医療福祉計画と評価		
	該当到達目標	予習	保健医療福祉の事業は多くの人材、莫大な費用が必要になります。年次計画を立て効果的な事業運営が求められていることを理解する。■(教科書①190頁～248頁)	1 時間
	1, 2	復習	戦後、様々な計画が検討されてきたが、その成果等を確認し今後の取り組みを検討していく。	1 時間
8	講義内容	第1編 わが国の社会保障の動向と衛生行政の体系		
	該当到達目標	予習	少子高齢化の進行が激しい中で、日本の社会保障の鳥瞰図を確認して今後の課題等を理解していく。■(教科書②11頁～49頁)	1 時間
	1, 2	復習	今後押し進めるべき課題は何か、また見直し等検討を要するものは何かを具体的に考察していく。	1 時間
9	講義内容	第2編 衛生の主要指標		
	該当到達目標	予習	各種の統計指標を確認し時系列も含めて医療や保健の実際を理解していく。■(教科書②50頁～91頁)	1 時間
	1, 2	復習	政策課題を考察する上でデータは証拠になるものであり、それらを確認して事業展開を図っていく必要がある。	1 時間
10	講義内容	第3編 保健と医療の動向		
	該当到達目標	予習	生活習慣病、がん、感染症等の保健と医療の具体的な事業を理解していく。■(教科書②92頁～182頁)	1 時間
	1, 2	復習	健康の維持の観点から様々な疾患の治療等がどうなっているか検証する。	1 時間
11	講義内容	第4編 医療提供体制と医療保険、 第5編 介護保険		
	該当到達目標	予習	病院、診療所等の実態がどうか、また多額な医療費を保険で賄えるか等の現状を理解すると共に2000年に始まった介護保険もその課題を理解する。■(教科書②183頁～256頁)	1 時間
	1, 2	復習	持続可能な医療保険制度のあり方等を検証していく。	1 時間
12	講義内容	第6編 薬事、 第7編 生活環境		
	該当到達目標	予習	関連事項である薬事、生活環境について理解する。(教科書②257頁～318頁)	1 時間
	1, 2	復習	これら関連事項が国民の健康福祉の推進に役立っているかを検証する。	1 時間
13	講義内容	第8編 労働衛生、 第9編 環境保健、 第10編 学校保健		
	該当到達目標	予習	この項も関連事項である労働衛生、環境保健、学校保健について理解していく。(教科書②319頁～384頁)	1 時間
	1, 2	復習	やはり国民の健康福祉の推進にどう関連しているかも検証する。	1 時間
14	講義内容	保健医療等に関連する「新書」から情報収集[未定]		
	該当到達目標	予習	保健医療等に関する「新書」を選定し、今まで学んだ内容の検証を行う。■	1 時間
	1, 2	復習	保険と医療と福祉の連携が重要になっていることを新書等で総合的に確認してみ	1 時間

			る。	
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標 1, 2	予習	この科目で学ぶべきことは何だったのかを考察する。	1 時間
		復習	もう一度,教科書等を復習してポイントを押さえていく。	1 時間
合計時間(予習・復習)				30 時間
備考	① 毎回講義終了後に質問等受付ける。 ② 保健、医療、福祉はそれぞれの現場があり、授業中にもそれらの実際等を紹介していく。 ③ 日々のニュースや社会の動き(例・新型コロナウイルスの発症)を注視し学習している内容との関連性を検討する。 ④ 予習・復習を疎かにしないようお願いする。 ⑤ リモートによる授業の場合はそのシステムを有効に活用し、受講する学生が最大限情報収集できるよう努めるとともに、資料等を提供し学習の支援をしていく。			

科目名	医療情報システム論(看護基盤科目群・環境)							科目ナンバリング	NRB205・B	
英文名	Medical Information System Theory							講義形態	講義	
担当教員	一戸 真子									
科目に関連した実務経験	約 30 年間、病院機能評価を実施し、医療の質改善支援を行ってきており、医療現場に精通しており、数多くの病院情報システムや電子カルテシステム、看護支援システム、地域医療連携システムの実践について熟知している。									
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数	選択 1 単位							
履修が必須となる資格										
学位授与方針との対応	2	人間理解と倫理観					0	国際理解		
	7	論理的思考力・問題解決力					1	生涯学習力		
	0	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	3 4 8 9 10 16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	情報テクノロジーの目覚ましい進歩に伴い、医療現場における医療情報システム化が急速に進んできている現状を理解することにより、どのようなことが患者・家族―看護師関係および看護師―医師関係、その他の医療従事者間において変化してきているかについて学習する。オーダーリングシステムや電子カルテシステムにはどのような情報が含まれているか、医療情報のシステム化が医療・看護の質の向上にどのように貢献可能であるかについて理解を深め、チーム医療時代における医療情報システムのあり方、医療安全への貢献についても理解を深める。看護支援システムについても理解を深め、更に地域医療連携情報システムについても学習する。講義の具体的な実施方法としては、教科書を使用し、講義中心に進めながら、途中グループワークも実施する。									
到達目標	1.医療情報システムの定義および関係する制度や情報の量と質について説明できる。 2.オーダーリングシステムおよび電子カルテシステムの実践について説明できる。■ 3.看護情報支援システムについて説明できる。■ 4.医療情報システムにおける患者・家族―看護師関係および看護師―医師関係、その他の医療従事者関係の変化について説明できる。■ 5.医療情報システムが、医療現場における医療の質の向上および医療の安全にどのように貢献できるか説明できる。■ 6.地域医療連携情報システムと標準化について説明できる。									
使用教材	教科書「医療情報システム入門 2023」保健医療福祉情報システム工業会 JAHIS 編（社会保険研究所）最新版 ISBN 978-4-7894-28705									
参考文献	必要に応じて授業内で紹介する。									
評価方法	期末レポート試験60%、小レポート40%で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。									
課題に対するフィードバック	小レポートの返却および解説を行う。 定期試験後に問題出題意図を説明する。									
オフィスアワー (研究室)	集中講義日の土曜日 12～13 時				メールアドレス (#→@)		shinkoichinohe#gmail.com			
1	講義内容	医療情報システムの基礎と実際 ■								
	該当到達目標	予習	教科書の第 1 章の第 1 部に目を通す。							1.5 時間
	1	復習	病院情報システムを理解する。							1.5 時間
2	講義内容	医療の IT 化に関する諸制度								
	該当到達目標	予習	教科書の第 1 章の第 2 部に目を通す。							1.5 時間
	1	復習	病院業務と IT、診療報酬制度との関係を理解する。							1.5 時間

3	講義内容	オーダリングシステム、電子カルテシステムと実際 ■		
	該当到達目標	予習	教科書の第2章の第1部に目を通す。	1.5 時間
	2	復習	電子カルテシステムの実際と機能について理解する。	1.5 時間
4	講義内容	看護情報支援システム ■		
	該当到達目標	予習	教科書の第2章の第2部に目を通す。	1.5 時間
	3	復習	看護情報支援システムの機能と実際について理解する。	1.5 時間
5	講義内容	患者・家族中心のシステムに求められる視点 ■		
	該当到達目標	予習	教科書の第3章の第1部、第2部に目を通す。	1.5 時間
	4	復習	患者・家族—看護師関係、看護師—医師関係とシステムについて理解する。	1.5 時間
6	講義内容	チーム医療と医療情報システム ■		
	該当到達目標	予習	教科書の第3章の第3部、第4部に目を通す。	1.5 時間
	4	復習	各部門におけるシステムを理解し、チーム医療との関係を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	医療の質の向上、安全とシステム ■		
	該当到達目標	予習	教科書の第4章の第1部に目を通す。	1.5 時間
	5	復習	リスク管理システムやセキュリティについて理解する。	1.5 時間
8	講義内容	医療情報システムの今後		
	該当到達目標	予習	教科書の第4章の第2部、第3部に目を通す。	1.5 時間
	6	復習	医療情報の標準化や地域医療連携情報システムについて理解する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	(■:実務経験に基づく内容を示す。)			

科目名	薬理学(看護基盤科目群・健康)							科目ナンバリング	NRB207・A	
英文名	Pharmacology							講義形態	講義	
担当教員	吉田一貴									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 前期		選必・単位数		必修・1 単位					
履修が必須となる資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針との対応	2	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	8	論理的思考力・問題解決力				0	生涯学習力			
	0	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	③									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 医薬品の作用する過程を理解するために、代表的な薬物の作用、作用機序、及び体内での運命に関する基本的知識を修得する。 ② 講義形式で行う									
到達目標	基本的な疾患についての代表的な治療薬を挙げ、その作用機序ならびに副作用を説明できる。 1. 薬はどのように作用するのか説明できる。 2. 薬はどのように体内をめぐるのか説明できる。 3. 薬効に影響する因子・薬物の有害作用はなぜおこるのか・薬害問題について説明できる。 4. 抗感染症薬について説明できる。 5. 抗がん薬・免疫治療薬について説明できる。 6. 抗アレルギー薬・抗炎症薬について説明できる。 7. 末梢神経系に作用する薬について説明できる。 8. 中枢神経系に作用する薬 について説明できる。 9. 心臓・血管系に作用する薬 について説明できる。 10. 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬について説明できる。 11. 物質代謝に作用する薬について説明できる。									
使用教材	系統看護学講座専門基礎分野「薬理学」第 15 版 吉岡充弘他編 医学書院 2022 年講義のスライドを随時プリントして配布する。									
参考文献										
評価方法	受講態度(10%)および期末試験(90%)から総合的に評価する。									
課題に対するフィードバック	講義の単元ごとに確認問題を提示し、その解説を行う。									
オフィスアワー (研究室)	木曜 5 限。金曜 5 限。その他適宜対応可能(7 号館 実験室 I または 201 室)。				メールアドレス (#→@)		yoshida-k#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	薬理学の概念								
	該当到達目標	予習	教科書の総論第 1 章と第 2 章の F に目を通しておくこと。							1 時間
	1	復習	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。							1 時間
2	講義内容	薬はどのように作用するのか								
	該当到達目標	予習	教科書 第 2 章の A に目を通しておくこと。							1 時間
	1	復習	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。							1 時間

3	講義内容	薬はどのように体内をめぐるのか		
	該当到達目標	予習	教科書 第2章のBに目を通しておくこと。	1 時間
	2	復習	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1 時間
4	講義内容	薬効に影響する因子・薬物の有害作用はなぜおこるのか・薬害問題		
	該当到達目標	予習	教科書第2章のC、D、Eに目を通しておくこと。	1 時間
	3	復習	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1 時間
5	講義内容	抗感染症薬		
	該当到達目標	予習	教科書 第3章に目を通しておくこと。	1 時間
	4	復習	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1 時間
6	講義内容	抗がん薬・免疫治療薬		
	該当到達目標	予習	教科書 第4章と第5章に目を通しておくこと。	1 時間
	5	復習	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1 時間
7	講義内容	抗アレルギー薬・抗炎症薬		
	該当到達目標	予習	教科書 第6章に目を通しておくこと。	1 時間
	6	復習	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1 時間
8	講義内容	末梢神経系に作用する薬(1)		
	該当到達目標	予習	教科書 第7章のA、B、Cに目を通しておくこと。	1 時間
	7	復習	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1 時間
9	講義内容	末梢神経系に作用する薬(2)		
	該当到達目標	予習	教科書 第7章のD、Eに目を通しておくこと。	1 時間
	7	復習	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1 時間
10	講義内容	中枢神経系に作用する薬(1)		
	該当到達目標	予習	教科書 第8章のA、B、C、Dに目を通しておくこと。	1 時間
	8	復習	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1 時間
11	講義内容	中枢神経系に作用する薬(2)		
	該当到達目標	予習	教科書 第8章のE、F、G、Hに目を通しておくこと。	1 時間
	8	復習	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1 時間
12	講義内容	心臓・血管系に作用する薬(1)		
	該当到達目標	予習	教科書 第9章のA、B、C、Dに目を通しておくこと。	1 時間
	9	復習	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1 時間
13	講義内容	心臓・血管系に作用する薬(2)		
	該当到達目標	予習	教科書 第9章のE、F、G、Hに目を通しておくこと。	1 時間
	9	復習	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1 時間
14	講義内容	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬		
	該当到達目標	予習	教科書 第10章に目を通しておくこと。	1 時間
	10	復習	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1 時間
15	講義内容	物質代謝に作用する薬		
	該当到達目標	予習	教科書 第11章に目を通しておくこと。	1 時間
	11	復習	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1 時間
合計時間(予習・復習)				30 時間
備考	各分野ごとに疾患治療に用いられる代表的な薬物を取り上げ、その作用機序を説明する。 予習復習の不足分は、試験前の学習で補完すること。 オンラインで講義を行う場合は講義スライド及び、講義スライドに音声を入れた動画をC-learningにアップロードします。			

科目名	微生物学(看護基盤科目群・健康)							科目ナンバリング	NRB109・A	
英文名	Microbiology							講義形態	講義	
担当教員	桑原敦志									
科目に関連した実務経験	医師として大学病院検査部、感染制御部に勤務。現在、非常勤内科医師として一般内科、甲状腺専門外来を病院で担当している。									
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	2	人間理解と倫理観					0	国際理解		
	7	論理的思考力・問題解決力					1	生涯学習力		
	0	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	3 16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
「その他」のアクティブラーニング実施方法	○									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	微生物感染症は、先進国においては過去の疾患と思われがちであるが、高齢者やがんなどの患者では、免疫力が低下しているために感染症を起こしやすく、日本人の死亡原因の第 4 位の肺炎は微生物感染症である。入院患者では、院内感染症の発生が致命的となる。看護職にある者にとって必須の感染症の発生要因、予防法、治療法について理解することが本講座の目的である。 講義内容はできるだけ教科書に沿って進めるが、学び順の変更を行い、臨床で経験した患者のことを随時説明し微生物学が実践でどのように生かされるか教授していくようにする。									
到達目標	1. 微生物に関する基本的知識が説明できる。 2. 病原体となる微生物の特徴を説明することができる。■ 3. 病原微生物に対する消毒や化学療法が説明できる。■ 4. 院内感染防止など感染予防の説明ができる。■ 5. 感染症から身を守るための免疫システムの説明ができる。■									
使用教材	テキスト: 系統看護学講座[微生物学](医学書院) ISBN978-4-260-04702-9 講義に合わせたプリントを配布する。C ラーニングにプリントを教材としてアップする。									
参考文献										
評価方法	定期試験 100%で評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。									
課題に対するフィードバック	定期試験後にはすぐに解答を公表し、自己学習を行えるようにする。									
オフィスアワー (研究室)	水曜日 3 時限、質問はメールでも受け付ける。研究室: 5 号館 6 階 601					メールアドレス (# → @)	kuwabara#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	微生物の概要								
	該当到達目標 1	予習	教科書第 1 章に目を通す。C ラーニングで配布してあるプリントを読んでくる。						0.2 5	時間
		復習	微生物の種類や人と微生物のかかわりについて理解する。C ラーニングで小テストに解答する。						0.5	時間
2	講義内容	細菌の性質								
	該当到達目標 1, 2	予習	教科書第 2 章に目を通す。C ラーニングで配布してあるプリントを読んでくる。						0.2 5	時間
		復習	細菌の特徴、形態、常在細菌について理解する。■C ラーニングで小テストに解答する。						0.5	時間
3	講義内容	ウイルスの性質								

	該当到達目標	予習	教科書第3章に目を通す。Cラーニングで配布してあるプリントを読んでもくる。	0.2 5 時間
	1, 2	復習	ウイルスの構造と種類について理解する。■Cラーニングで小テストに解答する。	0.5 時間
4	講義内容	真菌の性質		
	該当到達目標	予習	教科書第4章に目を通す。Cラーニングで配布してあるプリントを読んでもくる。	0.2 5 時間
	1, 2	復習	真菌の特徴、形態、常在細菌について理解する。■Cラーニングで小テストに解答する。	0.5 時間
5	講義内容	感染と感染症		
	該当到達目標	予習	教科書第5章に目を通す。Cラーニングで配布してあるプリントを読んでもくる。	0.2 5 時間
	5	復習	感染と感染症違い、病原体別の感染経路を理解する。■Cラーニングで小テストに解答する。	0.5 時間
6	講義内容	感染に対する生体防御機構		
	該当到達目標	予習	教科書第6章に目を通す。Cラーニングで配布してあるプリントを読んでもくる。	0.2 5 時間
	5	復習	液性免疫と細胞性免疫、感染徴候と症状について理解する。■Cラーニングで小テストに解答する。	0.5 時間
7	講義内容	滅菌と消毒		
	該当到達目標	予習	教科書第7章に目を通す。Cラーニングで配布してあるプリントを読んでもくる。	0.2 5 時間
	1, 2	復習	消毒・滅菌法や標準予防策を理解する。■Cラーニングで小テストに解答する。	0.5 時間
8	講義内容	感染症の検査と診断		
	該当到達目標	予習	教科書第8章に目を通す。Cラーニングで配布してあるプリントを読んでもくる。	0.2 5 時間
	3	復習	細菌学的検査法、真菌、ウイルス、寄生虫の検査法と遺伝学的検査を理解する。■Cラーニングで小テストに解答する。	0.5 時間
9	講義内容	感染症の治療		
	該当到達目標	予習	教科書第9章に目を通す。Cラーニングで配布してあるプリントを読んでもくる。	0.2 5 時間
	1, 4	復習	■Cラーニングで小テストに解答する。	0.5 時間
10	講義内容	感染症の現状と対策		
	該当到達目標	予習	教科書第10章に目を通す。Cラーニングで配布してあるプリントを読んでもくる。	0.2 5 時間
	3, 4	復習	院内感染対策や標準予防策、ワクチンの現状を理解する。■Cラーニングで小テストに解答する。	0.5 時間
11	講義内容	病原細菌と細菌感染症		
	該当到達目標	予習	教科書第11章に目を通す。Cラーニングで配布してあるプリントを読んでもくる。	0.2 5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	病気を起こす細菌の発病症状や感染経路に関して理解する。■Cラーニングで小テストに解答する。	0.5 時間
12	講義内容	病原ウイルスとウイルス感染症		
	該当到達目標	予習	教科書第12章に目を通す。Cラーニングで配布してあるプリントを読んでもくる。	0.2 5 時間
	1, 2, 4	復習	ウイルス感染の症状や感染経路、治療法を理解する。■Cラーニングで小テストに解答する。	0.5 時間
13	講義内容	病原真菌と真菌感染症、寄生虫と衛生動物		
	該当到達目標	予習	教科書第13章および付章に目を通す。Cラーニングで配布してあるプリントを読んでもくる。	0.2 5 時間
	1, 2, 4	復習	呼吸器感染を起こす病原体、結核感染やインフルエンザ感染を理解する。■Cラーニングで小テストに解答する。	0.5 時間
14	講義内容	医療従事者としての院内感染対策・予防接種		
	該当到達目標	予習	Cラーニングで配布してあるプリントを読んでもくる。	0.2 5 時間
	4	復習	院内感染防止のための標準予防策や予防接種を理解する。■Cラーニングで小テストに解答する。	0.5 時間
15	講義内容	最近話題の感染症及びまとめ		

	該当到達目標	予習	C ラーニングで配布してあるプリントを読んでくる。	0.2 5	時間
	1, 2	復習	コロナウイルスやジカウイルスなど最近の感染症を理解する。■C ラーニングで小テストに解答する。	0.5	時間
	合計時間(予習・復習)			11. 25	時間
備考	授業は教科書と教員の作成するプリントを使って、要点をまとめていく。パワーポイントによる図の提示を行っていく。 研究室:5号館6階601 単位修得に必要な時間を満たしていない場合 記載した予習・復習時間では単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。				

科目名	病理学(看護基盤科目群・健康)						科目ナンバリング	NRB208・B		
英文名	Pathological basis of human diseases						講義形態	講義		
担当教員	半田正									
科目に関連した実務経験	教育現場(大学 医学部 医学科 / 大学院 医学系研究科、医療技術学部 医療技術学科)と臨床現場(県内の病院)で臨床検査技師・細胞検査士として、病理学教育、病理組織検査、細胞検査に従事。									
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	2	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	7	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	0	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	③16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○									
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①病理学は、解剖学とともに、近現代医学の根幹である。病理学によって確立された医学上の諸概念を知悉しておくことは、初学者から専門職医療人に至るまで、医療に携わるものにとっては避けては通れないものである。この講義では、これまで学んだ、解剖学、組織学、生化学、生理学の知識を確認しながら、「からだのかたちの変化としての病気」をみてゆく、そして、疾病の病因論、病理形態学の基礎知識を学習し、今後の勉学の礎を形成することが目標である。 ②講義内容はできるだけ教科書に沿う形で、自作の配布プリント及びパワーポイントを活用し、図や表を元に口頭での説明を交え詳しく説明していく。また、毎回講義の最後に練習問題を解いてもらうので、その日の講義で学んだ内容を振り返ってもらいたい。これはその日の簡単な復習も兼ねており、普段の自主学習や国試の勉強にも役立つものである。									
到達目標	1.病理学の基礎的な概念、用語を理解し、人に説明できる。■ 2.各臓器で、経験する頻度が高く、重要な疾患の概要を説明できる。■									
使用教材	系統看護講座専門基礎病理学、大橋健一ら著、医学書院、2024 年版									
参考文献	初回授業時に提示する。									
評価方法	レポート試験(総論)40%＋期末試験(各論)60%の成績と出席状況等総合評価し、60点以上を可とする。									
課題に対するフィードバック	レポート試験、期末試験後に、問題出題意図についてパワーポイントを活用し、口頭で解説する(試験問題、解答用紙は返却しない)。									
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。				メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する。				
1	講義内容	病理学概論～総論1 染色体・遺伝子・発生の異常■								
	該当到達目標	予習	教科書の前書き、シラバス内容を読んで講義目標など理解する。また、教科書の「病理学で学ぶこと、先天異常と遺伝性疾患、生活習慣と環境因子による生体の障害」の部分に目を通す。						1.5 時間	
	1,2	復習	病理学、病理診断学の医学、医療における意義、病気の原因(内因と外因)、染色体・遺伝子・発生の異常を理解する。						1.5 時間	
2	講義内容	病理学総論2 退行性病変、進行性病変■								
	該当到達目標	予習	教科書の「細胞・組織の損傷と修復、炎症、代謝障害」の部分に目を通す。						1.5 時間	
	1,2	復習	ヒトの細胞・組織の損傷と修復、代謝障害の種類、原因、病理学的特徴を理解する。						1.5 時間	
3	講義内容	病理学総論3 循環障害■								
	該当到達目標	予習	教科書の「循環障害」の部分に目を通す。						1.5 時間	
	1,2	復習	循環障害の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。						1.5 時間	
4	講義内容	病理学総論4 炎症と免疫■								
	該当到達目標	予習	教科書の「細胞・組織の損傷と修復、炎症、免疫、移植と再生医療、感染症」の部						1.5 時間	

			分に目を通す。	
	1,2	復習	細胞・組織の炎症と免疫、感染症の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。また、再生医療の現状と展望についても理解する。	1.5 時間
5	講義内容	病理学総論5 腫瘍■		
	該当到達目標	予習	教科書の「腫瘍」の部分に目を通す。	1.5 時間
	1,2	復習	腫瘍の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。	1.5 時間
6	講義内容	病理学各論1 循環器系、血液・造血器系の疾患■		
	該当到達目標	予習	心・血管・骨髄の構造、機能を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	心・血管・骨髄の疾患の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	病理学各論2 呼吸器系の疾患■		
	該当到達目標	予習	上部気道・肺の構造、機能を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	上部気道・肺の疾患の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	病理学各論3 消化器系の疾患1(消化管)■		
	該当到達目標	予習	消化管の構造、機能を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	消化管の疾患の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。	1.5 時間
9	講義内容	病理学各論4 消化器系の疾患2(肝・胆・膵)■		
	該当到達目標	予習	肝臓・胆嚢・膵臓の構造、機能を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	肝臓・胆嚢・膵臓の疾患の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。	1.5 時間
10	講義内容	病理学各論5 腎・泌尿器・男性生殖器の疾患■		
	該当到達目標	予習	腎・泌尿器・男性生殖器の構造、機能を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	腎・泌尿器・男性生殖器の疾患の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。	1.5 時間
11	講義内容	病理学各論6 女性生殖器・乳腺の疾患■		
	該当到達目標	予習	子宮・卵巣・乳腺の構造、機能を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	婦人科・乳腺の疾患の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。	1.5 時間
12	講義内容	病理学各論7 内分泌系の疾患■		
	該当到達目標	予習	内分泌臓器の構造、機能を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	内分泌系の疾患の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。	1.5 時間
13	講義内容	病理学各論8 脳・神経・筋肉系の疾患■		
	該当到達目標	予習	脳・神経・筋肉の構造、機能を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	脳・神経・筋肉系の疾患の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	病理学各論9 骨・関節疾患、眼・耳・皮膚の疾患■		
	該当到達目標	予習	骨・関節・眼・耳・皮膚構造、機能を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	骨・関節・眼・耳・皮膚の疾患の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。	1.5 時間
15	講義内容	病理学各論10 病理組織検査・細胞診検査■		
	該当到達目標	予習	腫瘍の病理学的特徴、正常細胞と癌細胞の違いを確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	病理組織検査の意義、細胞診検査の癌の早期発見における意義を理解する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	病理学は基礎医学と臨床医学を連携する領域であり、診療に深く関わる診断の重要な領域でもあるので、しっかり履修する必要がある。授業前には関連する解剖・生理学の復習をし、授業後には病理学、臨床医学の関連する領域を復習する。復習には臨床分野の教科書を参考にして、インターネット等も活用して関連する情報の取得して、知識を確認、更新につとめる。 ・予習・復習については、試験前後の学習で補完すること。 ・質問等は授業中に行うことが望ましいが、授業開始前もしくは終了後に教室で応じる。 (■:実務経験に基づく内容を示す。)			

科目名	リハビリテーション概論(看護基盤科目群・健康)							科目ナンバリング	NRB209・B		
英文名	Introduction to Rehabilitation							講義形態	講義		
担当教員	解良武士、齊田高介										
科目に関連した実務経験	大学病院および急性期総合病院、慢性期病院勤務■										
学年・開講期	2 年 後期		選必・単位数		選択 1 単位						
履修が必須となる資格											
学位授与方針との対応	2	人間理解と倫理観				0	国際理解				
	6	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力				
	1	チームの一員としての協調・協働									
SDGs との関連	③16										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他	
				○							
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①医療・福祉では重要なリハビリテーションについて、その概要を知る。またチーム医療として一緒に働く理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の仕事を知る。さらにリハビリテーションの対象となる疾病の障害像について理解する。 ②主に資料とビデオなどを用いて講義を行う。										
到達目標	1. リハビリテーションの理念・概念が理解できる。■ 2. 疾病や障害による心身機能低下をもつ対象者の障害像が理解できる。■ 3. リハビリテーションを提供するセラピストの業務が理解できる。 4. リハビリテーションに関わるチーム医療について理解できる。■ 5. リハビリテーション看護について理解できる。										
使用教材	配付資料										
参考文献	リハビリテーション看護 障害をもつ人の可能性とともに歩む 改訂第 2 版 看護学テキスト nice										
評価方法	学期末試験(100%)										
課題に対するフィードバック	講義内でまとめる。										
オフィスアワー (研究室)	各教員により異なるため、質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。				メールアドレス (#→@)		kera#takasaki-u.ac.jp				
合計時間(予習・復習)									24 時間		
1	講義内容	リハビリテーション概論について■									
	該当到達目標 1	予習	リハビリテーションについて調べてくる。						1.5 時間		
		復習	リハビリテーションの概念について説明できるように復習する。						1.5 時間		
2	講義内容	リハビリテーションに共通した看護とリハビリテーション看護									
	該当到達目標 2	予習	ICF について調べてくる						1.5 時間		
		復習	リハビリテーション場面でのケアについて復習する						1.5 時間		
3	講義内容	リハビリテーションにおける各種測定法と看護■									
	該当到達目標 2	予習	関節可動域について調べておく						1.5 時間		
		復習	基本的機能評価について復習する						1.5 時間		
4	講義内容	疾患別リハビリテーション看護 (脳血管障害) ■									

	該当到達目標	予習	脳卒中について調べておく	1.5 時間
	3, 4, 5	復習	上記疾患に関するケアについて復習する	1.5 時間
5	講義内容	疾患別リハビリテーション看護（運動器疾患） ■		
	該当到達目標	予習	大腿骨頸部骨折について調べる	1.5 時間
	3, 4, 5	復習	上記疾患に関するケアについて復習する	1.5 時間
6	講義内容	疾患別リハビリテーション看護（循環器疾患） ■		
	該当到達目標	予習	虚血性心疾患について調べておく	1.5 時間
	3, 4, 5	復習	上記疾患に関するケアについて復習する	1.5 時間
7	講義内容	疾患別リハビリテーション看護（呼吸器疾患） ■		
	該当到達目標	予習	COPD について調べておく	1.5 時間
	3, 4, 5	復習	上記疾患に関するケアについて復習する	1.5 時間
8	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	1～7回までの内容について復習する	1.5 時間
	1-5	復習	学期末試験の内容について復習する	1.5 時間
合計時間（予習・復習）				24 時間
備考	■実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	臨床医学Ⅰ（内科学・外科学）（専門基礎科目・健康）							科目ナンバリング	NRB108・B	
英文名	Clinical medicineⅠ（Internal medicine・Surgery）							講義形態	講義	
担当教員	田中聡一									
科目に関連した実務経験	非常勤医師として病院に勤務（現在）									
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数		必修 2 単位					
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	2	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	6	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	34									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○		○							
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 講義の目標 講義の実施方法	人の病気に関する臨床医学の基礎を学習する。本科目では、講義、ディスカッションで神経系疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、血液疾患、消化器疾患および腎疾患について学ぶ。									
到達目標	1. 人の解剖、生理を説明できる。■ 2. 疾患の概要（原因、疫学、症状、検査、治療）を説明できる。■									
使用教材	「臨床病態学」1、2巻（ヌーヴェルヒロカワ） ISBN 978-4861740497									
参考文献	「人体のしくみとはたらき」（朝倉書店） ISBN 978-4254330083 使用教材にラインやポイントを書き込んで pdf 化したファイル									
評価方法	定期試験 85%、授業参加・貢献度 15%で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。									
課題に対するフィードバック	課題事項を、授業中、メール、オンラインで説明する。									
オフィスアワー（研究室）	月曜 3-4 限（5 号館 6 階 602 研究室）				メールアドレス （#→@）		stanaka#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	脳血管障害 ■								
	該当到達目標 1, 2	予習	配付した脳血管障害に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。						0.5 時間	
		復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。						0.25 時間	
2	講義内容	神経系感染症、脱髄性疾患 ■								
	該当到達目標 1, 2	予習	配付した神経系感染症、脱髄性疾患に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。						0.5 時間	
		復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。						0.25 時間	
3	講義内容	神経変性症、筋萎縮性側索硬化症 ■								
	該当到達目標 1, 2	予習	配付した神経変性症、筋萎縮性側索硬化症に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。						0.5 時間	
		復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。						0.25 時間	
4	講義内容	末梢神経疾患、筋疾患 ■								
	該当到達目標 1, 2	予習	配付した末梢神経疾患、筋疾患に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。						0.5 時間	
		復習	授業中に新規に学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。						0.25 時間	

5	講義内容	呼吸器感染症 ■		
	該当到達目標	予習	配付した呼吸器感染症に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。	0.5 時間
	1, 2	復習	授業中に新規に学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
6	講義内容	呼吸器アレルギー性疾患 ■		
	該当到達目標	予習	配付した呼吸器アレルギー性疾患に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。	0.5 時間
	1, 2	復習	授業中に新規に学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
7	講義内容	呼吸器閉塞性疾患、拘束性疾患 ■		
	該当到達目標	予習	配付した閉塞性肺疾患、拘束性肺疾患に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。	0.5 時間
	1, 2	復習	授業中に新規に学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
8	講義内容	肺循環障害、換気異常 ■		
	該当到達目標	予習	配付した肺循環障害、換気異常に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。	0.5 時間
	1, 2	復習	授業中に新規に学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
9	講義内容	肺がん、胸腔疾患 ■		
	該当到達目標	予習	配付した肺がん、胸腔疾患に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。	0.5 時間
	1, 2	復習	授業中に新規に学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
10	講義内容	先天性心疾患 ■		
	該当到達目標	予習	配付した先天性心疾患に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。	0.5 時間
	1, 2	復習	授業中に新規に学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
11	講義内容	虚血性心疾患 ■		
	該当到達目標	予習	配付した虚血性心疾患に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。	0.5 時間
	1, 2	復習	授業中に新規に学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
12	講義内容	心弁膜症 ■		
	該当到達目標	予習	配付した心弁膜症に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。	0.5 時間
	1, 2	復習	授業中に新規に学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
13	講義内容	心筋症、肺性心 ■		
	該当到達目標	予習	配付した心筋症、肺性心に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。	0.5 時間
	1, 2	復習	授業中に新規に学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
14	講義内容	心不全、血圧異常 ■		
	該当到達目標	予習	配付した心不全、血圧異常に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。	0.5 時間

	1, 2	復習	授業中に新規に学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
15	講義内容	上室性不整脈 ■		
	該当到達目標	予習	配付した上室性不整脈に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。	0.5 時間
	1, 2	復習	授業中に新規に学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
16	講義内容	心室性不整脈、救急処置 ■		
	該当到達目標	予習	配付した心室性不整脈、救急処置に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。	0.5 時間
	1, 2	復習	授業中に新規に学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
17	講義内容	血管性疾患 ■		
	該当到達目標	予習	配付した血管性疾患に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。	0.5 時間
	1, 2	復習	授業中に新規に学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
18	講義内容	赤血球異常症 ■		
	該当到達目標	予習	配付した赤血球異常症に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。	0.5 時間
	1, 2	復習	授業中に新規に学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
19	講義内容	白血球異常症 ■		
	該当到達目標	予習	配付した白血球異常症に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。	0.5 時間
	1, 2	復習	授業中に新規に学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
20	講義内容	悪性リンパ腫、骨髄系疾患 ■		
	該当到達目標	予習	配付した悪性リンパ腫、骨髄系疾患に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。	0.5 時間
	1, 2	復習	授業中に新規に学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
21	講義内容	出血性疾患 ■		
	該当到達目標	予習	配付した出血性疾患に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。	0.5 時間
	1, 2	復習	授業中に新規に学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
22	講義内容	食道疾患、胃疾患 ■		
	該当到達目標	予習	配付した食道疾患、胃疾患に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。	0.5 時間
	1, 2	復習	授業中に新規に学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
23	講義内容	十二指腸疾患、小腸疾患 ■		
	該当到達目標	予習	配付した十二指腸疾患、小腸疾患に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。	0.5 時間
	1, 2	復習	授業中に新規に学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
24	講義内容	大腸疾患 ■		
	該当到達目標	予習	配付した大腸疾患に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事	0.5 時間

			前に書き込む。	
	1, 2	復習	授業中に新規に学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
25	講義内容	肝炎、脂肪肝 ■		
	該当到達目標	予習	配付した ABC 型肝炎、脂肪肝に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。	0.5 時間
	1, 2	復習	授業中に新規に学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
26	講義内容	肝硬変、肝がん ■		
	該当到達目標	予習	配付した肝硬変、肝がんに関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。	0.5 時間
	1, 2	復習	授業中に新規に学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
27	講義内容	胆道系疾患 ■		
	該当到達目標	予習	配付した胆道系疾患に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。	0.5 時間
	1, 2	復習	授業中に新規に学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
28	講義内容	脾疾患 ■		
	該当到達目標	予習	配付した脾疾患に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。	0.5 時間
	1, 2	復習	授業中に新規に学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
29	講義内容	腎炎、ネフローゼ症候群 ■		
	該当到達目標	予習	配付した腎炎、ネフローゼ症候群に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。	0.5 時間
	1, 2	復習	授業中に新規に学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
30	講義内容	急性腎不全、慢性腎不全 ■		
	該当到達目標	予習	配付した急性腎不全、慢性腎不全に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分の教科書に事前に書き込む。	0.5 時間
	1, 2	復習	授業中に新規に学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
合計時間(予習・復習)				22.5 時間
備考	予習として、あらかじめ配付した pdf ファイルに記載されたポイントを教科書に写しておくこと。 わからない言葉などがある場合は医学辞典などを用いて調べること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	臨床医学Ⅱ（内科学・外科学）（専門基礎科目・健康）						科目ナンバリング	NRB210・A		
英文名	Clinical medicine Ⅱ（Internal medicine・Surgery）						講義形態	講義		
担当教員	田中聡一									
科目に関連した実務経験	非常勤医師として病院に勤務（現在）									
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	2	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	6	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	3 4 8									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○		○							
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	人の病気に関する臨床医学の基礎を学習する。本科目では、講義、ディスカッションで内分泌疾患、代謝疾患、感染症、感覚器疾患、泌尿・生殖器疾患および口腔疾患について学ぶ。									
到達目標	1. 人の解剖、生理を説明できる。■ 2. 疾患の概要（原因、疫学、症状、検査、治療）を説明できる。■									
使用教材	「臨床病態学」1、2巻（ヌーヴェルヒロカワ） ISBN 978-4861740497									
参考文献	「人体のしくみとはたらき」（朝倉書店） ISBN 978-4254330083 使用教材に、ラインやポイントをすでに書き込んでだ pdf ファイル									
評価方法	定期試験 85%、授業参加・貢献度 15%で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。									
課題に対するフィードバック	課題事項を、授業中、メール、オンラインで説明する。									
オフィスアワー （研究室）	月曜 3-4 限（5 号館 6 階 602 研究室）				メールアドレス （#→@）	stanaka#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	内分泌疾患（内分泌器官と生理学的働き）■								
	該当到達目標	予習	配付した内分泌器官と生理学的働きに関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。						0.5 時間	
	1, 2	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。						0.2 5 時間	
2	講義内容	内分泌疾患（視床下部・下垂体系）■								
	該当到達目標	予習	配付した視床下部・下垂体系疾患に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。						0.5 時間	
	1, 2	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。						0.2 5 時間	
3	講義内容	内分泌疾患（甲状腺・副甲状腺）■								
	該当到達目標	予習	配付した甲状腺・副甲状腺疾患に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。						0.5 時間	
	1, 2	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。						0.2 5 時間	
4	講義内容	内分泌疾患（副腎疾患）■								
	該当到達目標	予習	配付した副腎疾患に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている						0.5 時間	

			教科書にあらかじめ書き込んでおく。	
	1, 2	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.2 5 時間
5	講義内容	内分泌疾患(性腺疾患)■		
	該当到達目標	予習	配付した性腺疾患に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	0.5 時間
	1, 2	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.2 5 時間
6	講義内容	代謝疾患(糖代謝異常症)■		
	該当到達目標	予習	配付した糖代謝異常症に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	0.5 時間
	1, 2	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.2 5 時間
7	講義内容	代謝疾患(脂質代謝異常症、栄養異常、痛風)■		
	該当到達目標	予習	配付した脂質代謝異常症、栄養異常、痛風に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	0.5 時間
	1, 2	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.2 5 時間
8	講義内容	感染症(ウイルス感染症)■		
	該当到達目標	予習	配付したウイルス感染症に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	0.5 時間
	1, 2	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.2 5 時間
9	講義内容	感染症(細菌感染症)■		
	該当到達目標	予習	配付した細菌感染症に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	0.5 時間
	1, 2	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.2 5 時間
10	講義内容	感染症(真菌感染症、原虫感染症、寄生虫感染症)■		
	該当到達目標	予習	配付した真菌感染症、原虫感染症、寄生虫感染症に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	0.5 時間
	1, 2	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.2 5 時間
11	講義内容	感覚器疾患(皮膚疾患)■		
	該当到達目標	予習	配付した皮膚疾患に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	0.5 時間
	1, 2	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.2 5 時間
12	講義内容	感覚器疾患(眼疾患)■		
	該当到達目標	予習	配付した眼疾患に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	0.5 時間
	1, 2	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.2 5 時間
13	講義内容	感覚器疾患(耳疾患、鼻疾患)■		
	該当到達目標	予習	配付した耳疾患、鼻疾患に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	0.5 時間
	1, 2	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.2 5 時間

14	講義内容	泌尿器・生殖器疾患 ■			
	該当到達目標 1, 2	予習	配付した泌尿器・生殖器疾患に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	0.5 時間	
		復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.2 5 時間	
15	講義内容	歯科・口腔系疾患(う歯、歯周病) ■			
	該当到達目標 1, 2	予習	配付したう歯、歯周病に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	0.5 時間	
		復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.2 5 時間	
合計時間(予習・復習)					11. 25 時間
備考	予習として、あらかじめ配付した pdf ファイルに記載されたポイントを教科書に写しておくこと。 わからない言葉などがある場合は医学辞典などを用いてしらべること。 ■ : 実務経験に基づく内容を示す。				

科目名	臨床医学Ⅲ(老年医学)(専門基礎科目・健康)						科目ナンバリング	NRB211・A		
英文名	Clinical medicine Ⅲ (Geriatric medicine)						講義形態	講義		
担当教員	田中聡一									
科目に関連した実務経験	非常勤医師として病院に勤務(現在)									
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	2	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	6	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	3 4									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○		○							
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	講義、ディスカッションで、フレイル、高齢者の生理機能を学習し、高齢者特有の病気に関する臨床医学の基礎を習得する。									
到達目標	1. フレイル、高齢者の生理機能を説明できる。■ 2. 高齢者に多い疾患の概要(原因、疫学、症状、検査、治療)を説明できる。■									
使用教材	《系統看護学講座 専門分野Ⅱ》老年看護 病態・疾患論(医学書院) ISBN 978-4260031721									
参考文献	「臨床病態学」1、2巻(ヌーヴェルヒロカワ) ISBN 978-4861740497 「人体のしくみとはたらき」(朝倉書店) ISBN 978-4254330083 使用教材に、ラインやポイントをすでに書き込んでだ pdf ファイル									
評価方法	定期試験 85%、授業参加・貢献度 15%で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。									
課題に対するフィードバック	課題事項を、授業中、メール、オンラインで説明する。									
オフィスアワー (研究室)	月曜 3-4 限(5 号館 6 階 602 研究室)				メールアドレス (#→@)		stanaka#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	高齢者の生理学的特徴(認知機能、感覚機能)■								
	該当到達目標	予習	配付した高齢者の認知機能、感覚機能に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。						0.5 時間	
	1	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。						0.25 時間	
2	講義内容	高齢者の生理学的特徴(呼吸機能、循環機能、代謝機能)■								
	該当到達目標	予習	配付した高齢者の呼吸機能、循環機能、代謝機能に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。						0.5 時間	
	1	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。						0.25 時間	
3	講義内容	高齢者の生理学的特徴(排尿障害、便秘)■								
	該当到達目標	予習	配付した高齢者の排尿障害、便秘に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。						0.5 時間	
	1	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。						0.25 時間	
4	講義内容	フレイル(身体的)■								
	該当到達目標	予習	配付した身体的フレイルに関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。						0.5 時間	

	1	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
5	講義内容	腰痛、膝痛、転倒、骨折■		
	該当到達目標	予習	配付した高齢者の腰痛、膝痛、転倒、骨折に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	0.5 時間
	2	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
6	講義内容	フレイル(精神的)■		
	該当到達目標	予習	配付した精神的フレイルに関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	0.5 時間
	1	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
7	講義内容	認知症総論、MCI、アルツハイマー病■		
	該当到達目標	予習	配付した認知症総論、MCI、アルツハイマー病に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	0.5 時間
	2	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
8	講義内容	脳血管性認知症、前頭側頭型認知症、クロイツフェルト・ヤコブ病■		
	該当到達目標	予習	配付した脳血管性認知症、前頭側頭型認知症、クロイツフェルト・ヤコブ病に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	0.5 時間
	2	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
9	講義内容	認知症を伴うパーキンソン症候群■		
	該当到達目標	予習	配付した認知症を伴うパーキンソン症候群に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	0.5 時間
	2	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
10	講義内容	治療可能な認知症(水頭症、慢性硬膜下血腫、脳腫瘍)■		
	該当到達目標	予習	配付した治療可能な認知症(水頭症、慢性硬膜下血腫、脳腫瘍)に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	0.5 時間
	2	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
11	講義内容	意識障害、せん妄、睡眠障害、抑うつ■		
	該当到達目標	予習	配付した意識障害、せん妄、睡眠障害、抑うつに関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	0.5 時間
	2	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
12	講義内容	フレイル(社会的)		
	該当到達目標	予習	配付した社会的フレイルに関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	0.5 時間
	1	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
13	講義内容	高齢者に関する社会保障制度		
	該当到達目標	予習	配付した高齢者に関する社会保障制度に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	0.5 時間
	1	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
14	講義内容	高齢者にみられやすい病態(熱中症、脱水症、発熱)■		
	該当到達目標	予習	配付した高齢者にみられやすい病態(熱中症、脱水症、発熱)に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	0.5 時間
	2	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
15	講義内容	高齢者と薬物■		

	該当到達目標	予習	配付した高齢者と薬物に関する pdf 教材をみて、下線やポイントを自分が持っている教科書にあらかじめ書き込んでおく。	0.5 時間
	2	復習	新たに学んだことをさらに教科書にさらに書き込み、当該分野の理解を深める。	0.25 時間
合計時間(予習・復習)				11.2 5 時間
備考	予習として、あらかじめ配付した pdf ファイルに記載されたポイントを教科書に写しておくこと。 わからない言葉などがある場合は医学辞典などを用いてしらべること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	臨床医学Ⅳ(小児医学)(看護基盤科目群・健康)							科目ナンバリング	NRB212・A	
英文名	Clinical Medicine Ⅳ (Pediatric medicine)							講義形態	講義	
担当教員	鈴木 隆									
科目に関連した実務経験	1981 年より小児科常勤医として病院に勤務									
学年・開講期	2 年 前期		選必・単位数		必修・1 単位					
履修が必須となる資格										
学位授与方針との対応	2	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	6	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	① ③ ⑥									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○				○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	子どもの疾病についての医学的知識の習得を目的とし、病因・病態・診断・検査・治療等について理解する。 資料を配布し、パワーポイントによる解説を行う。									
到達目標	1. 小児に特有な疾患と病態を理解する。 2. 診断に必要な所見・検査を理解する。 3. 主な治療法について理解する。 4. 健康障害をもつ子どもとその家族の生活・療養援助について学ぶ。									
使用教材	小児臨床看護各論 医学書院 写真・図・表を中心に資料として講義中に使用する									
参考文献										
評価方法	レポート30% 期末試験70%									
課題に対するフィードバック	レポートにコメントをつけて返却する									
オフィスアワー (研究室)	質問、学習相談は講義終了後に応じる				メールアドレス (#→@)		suzuki383#harunacoop.com			
1	講義内容	人はなぜ病気になるのか、子どもの体と病気の全体像、染色体異常:ダウン症候群■								
	該当到達目標	予習	進化医学、子どもとメディアについて調べておく。教科書第 1 章を読んでおく						2 時間	
	1,2,4	復習	講義資料の重要項目をまとめておく						1 時間	
2	講義内容	先天性代謝異常・内分泌疾患:糖尿病■、下垂体疾患■、甲状腺疾患■								
	該当到達目標	予習	教科書第 3 章、第 4 章を読んでおく						1.5 時間	
	1,2,3,4	復習	講義資料の重要項目をまとめておく						1.5 時間	
3	講義内容	アレルギー疾患・免疫疾患・リウマチ性疾患■:食物アレルギー■、喘息■、免疫不全■、若年性特発性関節炎■								
	該当到達目標	予習	教科書第 5 章を読んでおく						1.5 時間	
	1,2,3,4	復習	講義資料の重要項目をまとめておく						1.5 時間	
4	講義内容	感染症 1 ウイルス感染症:インフルエンザ■、ムンプス■、水痘■、風疹■、麻疹■、ヘルペス属ウイルス■								
	該当到達目標	予習	教科書第 6 章の B②まで読んでおく						1.5 時間	
	1,2,3,4	復習	講義資料の重要項目をまとめておく						1.5 時間	
5	講義内容	感染症 2 細菌感染症:肺炎球菌■、ヒブ■、溶連菌■、ブドウ球菌■								
	該当到達目標	予習	教科書第 6 章の B③以降を読んでおく						1.5 時間	
	1,2,3,4	復習	講義資料の重要項目をまとめておく						1.5 時間	
6	講義内容	呼吸器疾患:喉頭炎■、気管支炎■、肺炎■								

	該当到達目標 1,2,3,4	予習	教科書第7章を読んでおく	1.5 時間
		復習	講義資料の重要項目をまとめておく	1.5 時間
7	講義内容	循環器疾患:先天性心疾患■、不整脈■、心筋疾患■、学校心臓健診■、		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	教科書第8章を読んでおく	1.5 時間
		復習	講義資料の重要項目をまとめておく	1.5 時間
8	講義内容	消化器疾患:先天異常、胃腸炎■、肝炎■、腸重積■、虫垂炎■、炎症性腸疾患■		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	教科書第9章を読んでおく	1.5 時間
		復習	講義資料の重要項目をまとめておく	1.5 時間
9	講義内容	川崎病の歴史、疫学、症状、合併症、検査、治療についてのレポート発表会■		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	教科書第8章 B③を読んでおく	1.0 時間
		復習	配布された発表レポートを読んでまとめておく	2.0 時間
10	講義内容	血液疾患・悪性新生物:貧血■、出血性疾患■、白血病■、脳腫瘍■、胎児性腫瘍		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	教科書第10章、11章を読んでおく	1.5 時間
		復習	講義資料の重要項目をまとめておく	1.5 時間
11	講義内容	腎泌尿器疾患・皮膚疾患:尿路奇形、腎炎■、ネフローゼ■、母斑■、湿疹■		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	教科書第12章、15章を読んでおく	1.5 時間
		復習	講義資料の重要項目をまとめておく	1.5 時間
12	講義内容	新生児期の疾患・神経疾患:低出生体重児■、新生児黄疸■、てんかん■、脳性マヒ■、脳炎		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	教科書第2章、第13章を読んでおく	1.5 時間
		復習	講義資料の重要項目をまとめておく	1.5 時間
13	講義内容	耳鼻咽喉疾患・眼疾患・精神疾患:中耳炎■、副鼻腔炎■、斜視■、結膜炎■、発達障害■、PTSD		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	教科書第16章、17章、18章を読んでおく	1.5 時間
		復習	講義資料の重要項目をまとめておく	1.5 時間
14	講義内容	運動器疾患・事故:先天性股関節脱臼、窒息、交通事故、頭部外傷■、誤飲■、熱中症■		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	教科書第14章、19章を読んでおく	1.5 時間
		復習	講義資料の重要項目をまとめておく	1.5 時間
15	講義内容	総まとめ		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	1~14回の講義の重要項目をまとめておく	3 時間
		復習		0 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	授業はパワーポイントで説明しながら適時学生に質問する。重要項目、内容を補完する図表などは教員の作製する資料を配布する。教科書は診断基準・管理基準の参考及び、図や写真で疾患の理解を深めるために使用する。 予習・復習については試験前後の勉強にて補完すること 毎回の講義では講師の臨床経験を踏まえて実際の症例をなるべく紹介する ■ オンライン授業の場合は毎回講義の後に小テストを行い提出をもって出席の確認を行う。評価は期末試験に替えて2回目のレポートを追加して行う。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	臨床医学Ⅴ(女性医学)(看護基盤科目群・健康)							科目ナンバリング	NRB213・A	
英文名	Clinical Medicine Ⅴ (Women Medicine)							講義形態	講義	
担当教員	竹中 恒久									
科目に関連した実務経験	非常勤医師として病院に勤務(現在)									
学年・開講期	2 年 前期		選必・単位数		必修 1 単位					
履修が必須となる資格	保健師国家試験受験資格 選択必修科目									
学位授与方針との対応	2	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	6	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	3 5									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①講義の目標 1.妊娠、分娩、産褥の生理を理解する。■ 2.妊娠、分娩、産褥の病理を理解する。■ 3.出生前診断、不妊症を理解する。■ 4.女性生殖器の解剖・生理・病態生理を理解する。■ 5.女性生殖器の診察・検査と治療・処置を理解する。■ 6.女性生殖器の疾患を理解する。■ ②講義の実施方法 パワーポイントを使い、教科書に沿って授業を進める。									
到達目標	周産期にある経過を理解し、異常な状態や疾患について知識を習得する。■ また女性性器に起こる疾患についても理解する。■									
使用教材	母性看護学[2]母性看護学各論 医学書院 成人看護学[9]女性生殖器 医学書院									
参考文献										
評価方法	筆記試験 100%									
課題に対するフィードバック	試験の問題文の最後に、その問題に該当するプリントあるいは教科書のページを記載し、試験後の学習をやりやすくする。									
オフィスアワー (研究室)	必要に応じて対応する				メールアドレス (#→@)		t-hisa#iris.ocn.ne.jp			
1	講義内容	妊娠の生理① 妊娠の成立、胎児の発育と生理■								
	該当到達目標	予習	教科書 2 冊のはしがきを読んでおいてください。						0.5	時間
	1	復習	教科書の講義内容相当部分を熟読する。						0.5	時間
2	講義内容	妊娠の生理② 妊婦と胎児のアセスメント■								
	該当到達目標	予習	配布プリントの講義該当部分を通読する。						0.5	時間
	1	復習	教科書の講義内容相当部分を熟読する。						0.5	時間
3	講義内容	分娩の生理① 分娩の要素■								
	該当到達目標	予習	配布プリントの講義該当部分を通読する。						0.5	時間
	1	復習	教科書の講義内容相当部分を熟読する。						0.5	時間
4	講義内容	分娩の生理②産褥の生理 分娩の経過、産褥期の身体的変化■								
	該当到達目標	予習	配布プリントの講義該当部分を通読する。						0.5	時間
	1	復習	教科書の講義内容相当部分を熟読する。						0.5	時間
5	講義内容	妊娠の異常① ハイリスク妊娠、妊娠期の感染症■								
	該当到達目標	予習	配布プリントの講義該当部分を通読する。						0.5	時間

	2	復習	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5 時間
6	講義内容	妊娠の異常② 妊娠疾患、多胎妊娠、流産、早産、異所性妊娠■		
	該当到達目標	予習	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5 時間
	2	復習	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5 時間
7	講義内容	分娩の異常① 産道の異常、娩出力の異常、胎位の異常■		
	該当到達目標	予習	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5 時間
	2	復習	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5 時間
8	講義内容	分娩の異常② 前置胎盤、常位胎盤早期剥離■		
	該当到達目標	予習	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5 時間
	2	復習	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5 時間
9	講義内容	分娩の異常③ 分娩時損傷、産科処置と産科手術■		
	該当到達目標	予習	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5 時間
	2	復習	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5 時間
10	講義内容	産褥の異常、新生児の異常 子宮復古不全、新生児仮死、分娩外傷、低出生体重児■		
	該当到達目標	予習	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5 時間
	2	復習	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5 時間
11	講義内容	出生前診断と不妊治療 出生前診断、不妊症の診断治療■		
	該当到達目標	予習	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5 時間
	3	復習	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5 時間
12	講義内容	女性生殖器の構造と疾患① 女性生殖器の構造と機能、症状と病態生理■		
	該当到達目標	予習	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5 時間
	4	復習	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5 時間
13	講義内容	女性生殖器の構造と疾患② 診察・検査と治療・処置■		
	該当到達目標	予習	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5 時間
	5	復習	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5 時間
14	講義内容	女性生殖器の構造と疾患③ 疾患の理解①■		
	該当到達目標	予習	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5 時間
	6	復習	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5 時間
15	講義内容	女性生殖器の構造と疾患④ 疾患の理解②■		
	該当到達目標	予習	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5 時間
	6	復習	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	教科書、配布プリント、パワーポイントを用いて、聴覚と視覚から理解してもらうよう授業を進める。 ・予習・復習については、試験前後の学習で補完すること。 ・質問等は授業中に行うことが望ましいが、授業開始前もしくは終了後に教室で応じる。また、出席票による質問も受け付ける。 オンライン講義となった場合の対応 ・講義方法:講義内容の動画視聴による ・評価方法:期末に実施する c-learning 上のオンライン試験による ・出席確認:c-learning のアンケート機能を用いた出欠確認フォームへの記入の有無による ・フィードバック:出欠確認フォームに記述のあった質問に、後日回答を c-learning 上で行う ■実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	臨床医学Ⅵ(精神医学)(看護基盤科目群・健康)							科目ナンバリング	NRB214・A	
英文名	Clinical Medicine Ⅵ (Psychiatry)							講義形態	講義	
担当教員	上原 徹									
科目に関連した実務経験	精神科医として大学病院等で勤務経験35年以上、現在も非常勤医師として実務を行っている									
学年・開講期	2 年 前期		選必・単位数		必修 1 単位					
履修が必須となる資格										
学位授与方針との対応	2	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	6	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	3 16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他 ○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	各回で国家試験形式の小テストを公開し、正解を示す。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①学生が、医療専門職である看護師・保健師・理学療法士として必要となる、精神医学に関する基本的な知識を身につけることができる。精神医療全般についての初級知識を習得し、その視点を生かした援助方法を、自ら考えるきっかけをつかむことができる。 ②教室での対面講義形式の授業。映像教材(DVD)も活用する。									
到達目標	1.精神保健や心理社会的問題の概要を説明できる 2.代表的な疾患の基本的概要を解説できる 3.精神科医療機関における治療構造や治療の内容特性を解説できる 4.精神医療における治療法や支援策を解説できる■ 5.チーム医療の担う専門職の役割と多職種連携を理解できる									
使用教材	教科書は特に指定しない。DVD 映像教材を利用する。									
参考文献	参考書としては、専門医がやさしく語る はじめての精神医学、中山書店、渡辺著、改訂第2版 / PT/OT 基礎から学ぶ精神医学ノート第2版、医歯薬出版、中島ら著 などがある。									
評価方法	期末筆記試験90%、C ラーニングによる小テスト提出10%で評価する。									
課題に対するフィードバック	専門職としての必要な知識をフィードバックする。模擬問題の正解や解説を提示する。									
オフィスアワー (研究室)	月4 金3 研究室:1号館5階501				メールアドレス (#→@)		授業で提示する			
1	講義内容	精神医学や精神医療のイントロダクション								
	該当する到達目標	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。						0.5 時間	
	2,5	復習	資料を用いて自習する。						2.5 時間	
2	講義内容	統合失調症とは？								
	該当する到達目標	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。						1 時間	
	1,2,3	復習	資料を用いて自習する。						2 時間	
3	講義内容	双極性障害(躁うつ病)とは？								
	該当する到達目標	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。						1 時間	
	1,3	復習	資料を用いて自習する。						2 時間	
4	講義内容	うつ病とは？								
	該当する到達目標	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。						1 時間	
	1,3	復習	資料を用いて自習する。						2 時間	

5	講義内容	神経症と不安障害		
	該当する到達目標	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1 時間
	1,3	復習	資料を用いて自習する。	2 時間
6	講義内容	摂食障害		
	該当する到達目標	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1 時間
	1,3	復習	資料を用いて自習する。	2 時間
7	講義内容	PTSD 特論		
	該当する到達目標	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1 時間
	1,3	復習	資料を用いて自習する。	2 時間
8	講義内容	アルコールや物質依存とは?		
	該当する到達目標	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1 時間
	1,3	復習	資料を用いて自習する。	2 時間
9	講義内容	睡眠障害		
	該当する到達目標	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1 時間
	1,3	復習	資料を用いて自習する。	2 時間
10	講義内容	認知症		
	該当する到達目標	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1 時間
	1,3	復習	資料を用いて自習する。	2 時間
11	講義内容	小児の精神疾患		
	該当する到達目標	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1 時間
	1,3	復習	資料を用いて自習する。	2 時間
12	講義内容	外因性・器質性・症状性疾患など		
	該当する到達目標	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1 時間
	1,3	復習	資料を用いて自習する。	2 時間
13	講義内容	精神科の治療法や支援について■		
	該当する到達目標	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1 時間
	2,3,4	復習	資料を用いて自習する。	2 時間
14	講義内容	リハビリテーションや心理社会アプローチ■		
	該当する到達目標	予習	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1 時間
	2,3,4	復習	資料を用いて自習する。	2 時間
15	講義内容	まとめ■		
	該当する到達目標	予習	資料を用いて自習する。	2 時間
	1,2,3,4,5	復習	試験問題を復習する。	1 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	授業は DVD 視聴と解説、パワーポイントファイル上映説明のハイブリッドで進める。授業の最後に理解度確認のための c ラーニングによる小テストを行う。複数の学科学生が多数で聴講するため、不必要な私語は慎んでほしい。予習・復習に活用できる教材を随時提案する。そのほか、試験前後の学習で補完すること。 ■:実務経験に基づく内容			

科目名	心の健康(看護基盤科目群・健康)							科目ナンバリング	NRB110・A	
英文名	Mental Health							講義形態	講義	
担当教員	高田絵理子									
科目に関連した実務経験	担当教員は、県立高等学校のスクールカウンセラー、総合病院や精神科病院の看護師として勤務経験を有する。									
学年・開講期	1 年	前期	選必・単位数	選択 1 単位						
履修が必須となる資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針との対応	2	人間理解と倫理観					0	国際理解		
	6	論理的思考力・問題解決力					1	生涯学習力		
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	3 16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○							○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	③ 講義の目標 心の健康の基礎、ストレスの対処方法、自分の心の健康を保つ方法を学習する。 ④ 講義の実施方法 本科目は、精神看護学を担当する教員が実施する。教員が作成した資料、パワーポイント、視聴覚教材を用い、心の健康に関する基礎的な知識、ストレス対処方法、リラクゼーション技法についての理解を図りながら授業を展開する。									
到達目標	1. 心の健康の基礎を理解できる。■ 2. ストレスおよびストレス対処方法について理解できる。■ 3. マインドフルネス、認知行動療法、リラクゼーション方法を理解できる。									
使用教材	配布資料および授業に関連した DVD									
参考文献	貝谷久宣著、図解やさしくわかる認知行動療法、ナツメ社 吉田昌生著、マインドフルネス瞑想入門、wave 出版									
評価方法	筆記試験 80%、授業参加度 20%で算出し、60 点以上を合格とする。 オンラインの場合も C-learning、meet、zoom などを利用して行うため評価方法は上記と同様にする。									
課題に対するフィードバック	・レポートはコメントを付して返却する。 ・オンラインの場合、C-learning の「レポート」「連絡・相談」などを利用してコメントをフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	水曜日 10:00～15:00 (5 号館 403 研究室 高田)					メールアドレス (#→@)	takada-e#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	心の健康とは■								
	該当到達目標	予習								時間
	1	復習	配布された資料に目を通し、重要なキーワードと内容を復習する。							1 時間
2	講義内容	ストレスとストレスサーについて■								
	該当到達目標	予習	ストレスとストレスサーについて、調べて要点をまとめる。							1.5 時間
	2	復習	配布された資料に目を通し、重要なキーワードと内容を復習する。							1 時間
3	講義内容	ストレスの対処方法								
	該当到達目標	予習	ストレスの対処方法について、調べて要点をまとめる。							1.5 時間
	2	復習	配布された資料に目を通し、重要なキーワードと内容を復習する。							1 時間
4	講義内容	マインドフルネスについて								
	該当到達目標	予習	マインドフルネスについて、調べて要点をまとめる。							1.5 時間
	2.3	復習	配布された資料に目を通し、重要なキーワードと内容を復習する。							1 時間
5	講義内容	認知行動療法について①								

	該当到達目標	予習	認知行動療法について、調べて要点をまとめる。	1.5 時間
	2.3	復習	配布された資料に目を通し、重要なキーワードと内容を復習する。	1 時間
6	講義内容	認知行動療法について②		
	該当到達目標	予習	認知行動療法のコラム法を用いて、自分の感情が動かされた出来事を思い出してまとめてくる	1.5 時間
	2.3	復習	配布された資料に目を通し、重要なキーワードと内容を復習する。	1 時間
7	講義内容	リラクゼーション技法について■		
	該当到達目標	予習	呼吸法、漸進的筋弛緩法、自律訓練法について、調べて要点をまとめる。	1.5 時間
	2.3	復習	配布された資料に目を通し、重要なキーワードと内容を復習する。	1 時間
8	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	今までの講義を振り返る	1.5 時間
	1.2.3	復習	筆記試験のため第1～7 回の重要なキーワードと内容を復習する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				19 時間
備考	・本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム『多職種連携コース』の対象科目である。 なお、他学科の学生が本講義を受講する場合は、単位認定時の評価は「認定(N)」となる。 また、GPA 算出、卒業必要単位の対象外となる。履修登録時の履修上限制度(CAP)のカウントには含めない。 ・養護教諭一種資格取得を希望する場合、卒業要件選択科目となっているため、履修する必要がある。 ・メールで質問をする際は、氏名、学籍番号を必ず記載すること。 ・記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 ・■:実務経験を示す。			

科目名	リラクセーション概論(看護基盤科目群・健康)						科目ナンバリング	NRB111・A		
英文名	Introduction to Relaxation						講義形態	講義		
担当教員	小野寺 由美子									
科目に関連した実務経験	・博士(スポーツ健康科学)として、心と身体のリラクセーション指導および講演活動(現在)									
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	選択 1 単位							
履修が必須となる資格										
学位授与方針との対応	2	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	6	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	③									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○						
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	心身の健康の維持・増進のための方法のひとつであるリラクセーションについて、講義と実技を通して学ぶ。ストレスによって生じた「筋肉の緊張」をほぐしリラクセーションを体験することで、身体と精神の関係を理解する。また、自己洞察力を深めて感受性を高めることで、将来看護する立場となった時、他者との人間関係の形成に役立てることをねらいとする。									
到達目標	1.ストレスと身体症状の関係について理解できる■ 2.心と身体の関係について理解できる■ 3.身体の緊張のほぐし方について理解できる■ 4.身体への関わり方と他者との関係について理解できる■									
使用教材	講義のスライドを随時プリントして配付する。									
参考文献	講義内で、随時、紹介する。									
評価方法	セルフチェック課題(4 回)20%、レポート(1 回)80%で評価する。 総合評価 60/100 点以上を合格とする。									
課題に対するフィードバック	セルフチェック課題の実施後に、質疑応答によって理解を深める。									
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。				メールアドレス (#→@)	メールアドレスは初回授業時に提示する。				
1	講義内容	ガイダンス								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する						1.0	時間
	1,2,3,4	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する						2.0	時間
2	講義内容	ストレスと身体症状■								
	該当到達目標	予習	自分のストレスと身体症状との関連を考える						1.5	時間
	1	復習	ストレスとは何か、ストレスと身体症状との関連について理解する						1.5	時間
3	講義内容	心と身体の関係■								
	該当到達目標	予習	これまでの自分の体験を通して、心と身体の関係について考える						1.5	時間
	2	復習	心と身体の関係について理解する						1.5	時間
4	講義内容	リラクセーションの種類と効果■								
	該当到達目標	予習	リラクセーションの種類とリラクセーション反応について調べる						1.5	時間
	2,3	復習	自分のリラクセーション法を考える						1.5	時間
5	講義内容	身体の緊張のほぐし方■								
	該当到達目標	予習	自分が緊張した時の状態について考える						1.5	時間
	3	復習	身体の緊張をほぐしてみる						1.5	時間

6	講義内容	身体への関わり方と他者との関係■		
	該当到達目標 4	予習	他者に触れる際の留意点を考える	1.5 時間
		復習	身体への関わり方と他者との関係について理解する	1.5 時間
7	講義内容	リラクゼーション技法の習得①■		
	該当到達目標 2,3,4	予習	骨格の繋がりについて調べる	1.5 時間
		復習	自分でできるリラクゼーションを実践する	1.5 時間
8	講義内容	リラクゼーション技法の習得②■		
	該当到達目標 2,3,4	予習	呼吸法について調べる	1.0 時間
		復習	家族、友人などへのリラクゼーションを実践する	2.0 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	講義と合わせ、体育館でリラクゼーションの体験学習を実施する。 体育館での授業は、ヨガマットやバスタオルなどの敷物を準備すること。 予習・復習については、セルフチェック課題やレポートの学習で各自で補完すること。 オンライン授業を行う場合は、セルフチェック課題を毎回(8回)実施し、その提出をもって出席とみなす。セルフチェック課題(8回)20%、レポート(1回)80%で評価する。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	看護学概論（看護専門科目群・専門分野Ⅰ・基礎看護学）						科目ナンバリング	NRS110・A		
英文名	Introduction to Nursing						講義形態	講義		
担当教員	鶴田 晴美									
科目に関連した実務経験	看護師として病院に勤務									
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	必修 2 単位							
履修が必須となる資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針との対応	5	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	4	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	0	チームの一員としての協調・協働								
SDGsとの関連	316									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○	○				○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 看護学の基盤となる主な概念(人間・環境・健康・看護)について学び、看護の対象となる生活者としての人間について理解するとともに、看護専門職としての役割・機能について理解する。また、看護理論に触れ、看護を科学的に理解する力や看護の基盤となる看護観を養うことを目標とする。 ②自分で考え、創造していく力を養うため、学生間の話し合いと発表する機会を多く設定する。									
到達目標	1.看護の主要概念(人間・環境・健康・看護)について学び、看護とは何かを述べることができる。■ 2.看護の対象となる生活者としての人間について説明できる。■ 3.看護活動の提供の場としくみ、看護の役割と機能について説明できる。■ 4.専門職の定義について学び、看護専門職としての基本的な態度について説明できる。■ 5.看護実践のための理論に触れ、看護について考察することができる。 6.自分の考える看護について述べることができる。									
使用教材	教材:配布資料 使用教科書 ・看護学概論 茂野香おる他、医学書院 2022 年 ・看護覚え書・F・ナイチンゲール、湯槇ます、薄井坦子訳、現代社 2019 年 ・看護の基本となるもの、ヴァージニア・ヘンダーソン、湯槇ます、小玉香津子訳 日本看護協会出版会									
参考文献	・看護の原理、菱沼典子、井上智子、武田利明編、ライフサポート社、2009 年									
評価方法	1. 対面授業の場合:課題提出 45%、筆記試験(小テスト含む)40%、最終レポート 15% 2. オンライン授業の場合:課題提出 60%、筆記試験 40% * 総合的に評価し、60 点以上を合格とする。 評価は、授業の出席が 3 分の 2 以上を満たしている者に行う。									
課題に対するフィードバック	・授業前課題を提示し、講義内で解説をする形でフィードバックする。 ・事後課題は、全体に必要なフィードバックを授業内で行う。 ・C-learning 上の小テストを実施する。小テストについては、実施後解説する。									
オフィスアワー (研究室)	水曜日・木曜日5時限 (5号館3階 鶴田 302 研究室)				メールアドレス (#→@)		tsuruta-h#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	科目オリエンテーション 私の考える看護とは グループワーク								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読み、講義目標および到達目標を理解する。						1.5	時間
	6	復習	グループワーク後、現時点で考えている看護に対する考えをまとめる。						1.5	時間
2	講義内容	私の考える看護について発表 看護の歴史の変遷								
	該当到達目標	予習	テキストや資料により看護の歴史の概要についてまとめる。						1.5	時間
	6	復習	看護の歴史で興味・関心を持ったことをまとめる。						1.5	時間

3	講義内容	看護活動を展開するための法的根拠 看護の定義 地域基盤の看護と看護の継続性		
	該当到達目標	予習	看護はどのような特性を持っているのかについて調べ、考えをまとめる。	1.5 時間
	1	復習	講義の内容を振り返り、看護の目的、機能について考えをまとめる。	1.5 時間
4	講義内容	看護の対象の理解 人間の「こころ」とからだ、生涯発達し続ける存在 ■		
	該当到達目標	予習	自分の一生について図示し、人間の一生についてイメージ化を図る。	1.5 時間
	1, 2	復習	講義内容を振り返り、新しい発見があったことをまとめる。	1.5 時間
5	講義内容	看護の対象の理解 生活者としての人間 ■		
	該当到達目標	予習	私が生活するということはどういうことかを考え、まとめる。	1.5 時間
	1, 2	復習	授業を振り返り、看護の対象は生活者であるという視点で考えをまとめる。	1.5 時間
6	講義内容	看護における健康の概念 国民の健康・生活の全体像 小テスト(第1回)		
	該当到達目標	予習	Textを読み、国民の健康・生活の特徴について分かったことをまとめる。	1.5 時間
	1, 2	復習	講義内容を振り返り、健康の概念と日本の健康・生活の全体像をまとめる。	1.5 時間
7	講義内容	看護の提供の場としくみ ■		
	該当到達目標	予習	看護者が働いている場所について調べ、まとめる。	1.5 時間
	3	復習	講義内容を振り返り、看護が行われる場について、まとめる。	1.5 時間
8	講義内容	看護の専門性の探究 ■ 看護の専門職性、専門領域の確立と展望		
	該当到達目標	予習	専門職とはどういうことをいうのか、調べてまとめる。	1.5 時間
	4	復習	講義内容を振り返り、専門職を目指す自己の考えをまとめる。	1.5 時間
9	講義内容	看護実践のための理論: ナイチンゲール 小テスト(第2回)		
	該当到達目標	予習	ナイチンゲール看護覚え書の指定ページを読み、要約を作成する。	1.5 時間
	5	復習	講義内容と意見交換を振り返り、印象に残った事柄をまとめる。	1.5 時間
10	講義内容	看護実践のための理論: ナイチンゲール		
	該当到達目標	予習	ナイチンゲール看護覚え書の指定ページを読み、要約を作成する。	1.5 時間
	5	復習	ナイチンゲール看護覚え書から、看護について考察する。	1.5 時間
11	講義内容	看護実践のための理論: ヘンダーソン		
	該当到達目標	予習	看護の基本となるものの指定されたページを読み、要約を作成する。	1.5 時間
	5	復習	講義内容と意見交換を振り返り、印象に残った事柄をまとめる。	1.5 時間
12	講義内容	看護実践のための理論: ヘンダーソン		
	該当到達目標	予習	看護の基本となるものの指定されたページを読み、要約を作成する。	1.5 時間
	5	復習	ヘンダーソンの看護の基本となるものから、看護について考察する。	1.5 時間
13	講義内容	病者の理解 ■ 文献購読 ゲストスピーカー		
	該当到達目標	予習	看護の実際の資料を読み、看護者と患者の相互作用について考える。	1.5 時間
	2, 3, 4, 5	復習	講義内容を振り返り、印象に残った内容をまとめる。	1.5 時間
14	講義内容	私たちの考える看護 グループワーク		
	該当到達目標	予習	これまでの授業を振り返り、私の考える看護についてまとめる。	1.5 時間
	6	復習	グループでの意見交換により考えたことをまとめる。	1.5 時間
15	講義内容	私たちの考える看護 (発表)		
	該当到達目標	予習	グループメンバーと協力し、発表資料をまとめる。	1.5 時間
	6	復習	他のグループの発表を聴いての学びをまとめる。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間

備考	対面授業での出席の登録・確認 ・出席の登録は、1) C-learning に授業開始時行う。また、2) 授業終了時のアンケートを提出する。1) 2) で確認する。 オンライン授業での出席の登録・確認 ・出席の登録は、C-learning の下記1)～2)のいずれかの方法で行う。方法は「ニュース」で確認すること。 1) 「アンケート」の提出 2) 課題を提出する 単位修得に必要な時間を満たしていない場合 ・記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	コミュニケーション演習(看護専門科目群・専門分野Ⅰ・基礎看護学)						科目ナンバリング	NRS111・A		
英文名	Communication Exercises						講義形態	演習		
担当教員	小池洋子 鶴田晴美 西林京子									
科目に関連した実務経験	看護師として一般病院に勤務(経験)									
学年・開講期	1 年 前期		選必・単位数		必修 1単位					
履修を必須とする資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針との対応	4	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	3	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	2	チームの一員としての協調・協働								
SDGsとの関連	34									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○		○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	1. 人間関係の前提となるコミュニケーションの効果的な方法について、体験学習を通して様々な気づきを得るなかで、スキル学習に磨きをかけ習得できることを目標とする。 2. 講義は最初に概要を説明し、大半はDVDを使った演習や事例を基にした2人組、3人組の演習を取り入れ、コミュニケーションスキルの習得ができるように構成している									
到達目標	1. コミュニケーションの前提としての、自己理解と他者理解を深める■ 2. コミュニケーションの基本的スキルを用いて、コミュニケーションを体験する■ 3. プロセスレコードの書き方・読み方を説明する■ 4. 患者とのコミュニケーションに活かせるコミュニケーションの方法についての考えを述べる									
使用教材	教材は使用せず、必要時参考文献などを印刷して配布する									
参考文献	「看護学生のためのよくわかる大学での学び方」 前原澄子編 金鳳堂 「人間関係づくりトレーニング」 津村俊充・山口真人編 金子書房									
評価方法	1. 毎回の感想レポートの提出と授業・演習への参加度で40点。 2. 学んだスキル会話場面に関する考察レポートの提出で60点とし、計100点として評価します。 (対面授業でもオンライン事業でも同様の評価とします)									
課題に対するフィードバック	毎回、講義・演習の感想や質問をC-Learning上で行い、次の授業でコメントや質問への解説を行う理解できたか学生に確認し、新たな課題や質問が出された場合、その都度回答する									
オフィスアワー (研究室)	火・木曜3限、5号館412研究室				メールアドレス (#→@)		koike-y#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス 自己理解 who am I 自己の性格行動特性 ■								
	該当到達目標	予習	コミュニケーションを学ぶ意義や必要性について本や文献で調べておく						15	分
	1	復習	自分の性格行動特性の結果について整理し、理解を深める						30	分
2	講義内容	自己概念とジョハリの窓 「自己イメージ 他者イメージ」 ■								
	該当到達目標	予習	自己概念とジョハリの窓について本などで調べておく						15	分
	1	復習	他者からのフィードバックによる自己イメージの変化について整理する						30	分
3	講義内容	コミュニケーションとは ■								
	該当到達目標	予習	コミュニケーションとは何かについてインターネットなどで調べる						15	分
	1,2	復習	DVD「コミュニケーションの基本」で学べたスキルと自己の課題を整理する						30	分
4	講義内容	コミュニケーションの基本 「聞く・話す」 ■								
	該当到達目標	予習	基本である聞く・話すについて自分が陥りやすい傾向について考えてくる						15	分
	1,2	復習	話す・聞く役割のロールプレイをして、自分の課題を考え整理する						30	分
5	講義内容	2種類のコミュニケーション 「言語と非言語」 ■								

	該当到達目標 1,2,4	予習	コミュニケーションの構成要素と種類について調べておく	15	分
		復習	DVD と演習を基に気づいたことを整理する	30	分
6	講義内容	グループでの非言語コミュニケーションの演習 「協力ゲーム」			
	該当到達目標 1,2,4	予習	非言語のコミュニケーションの効果について整理しておく	15	分
		復習	言葉を使わないで一つのものを作り、協力し合うためには何が必要か整理する	30	分
7	講義内容	グループ活動における感情を分かち合う ■			
	該当到達目標 1,2	予習	非言語のコミュニケーションでどのような感情が起きていたのか整理しておく	15	分
		復習	グループプロセスの中で起きた感情の変化とその意味について整理する	30	分
8	講義内容	納得できるまで聞き、伝える 「クルーザー物語」の演習			
	該当到達目標 1.2	予習	自分自身の大切にしているものや自分の価値観について整理しておく	15	分
		復習	価値観が違う対象の話を読み、自分の考えを吟味できるプロセスを振り返る、	30	分
9	講義内容	伝え合う・分かち合う グループでのコミュニケーション			
	該当到達目標 1.2	予習	GW を通して、それぞれの考えや思いをどこまでわかったか、考える	15	分
		復習	考えや気持ちを分かち合い、人間関係がどのように変化したか整理する	30	分
10	講義内容	プロセスレコードの書き方・読み方			
	該当到達目標 1,2,3	予習	プロセスレコードとは何か調べておく	15	分
		復習	プロセスレコード課題を作成する	30	分
11	講義内容	人間関係で困った場面 ■			
	該当到達目標 1,2,3	予習	人間関係で困った場面のプロセスレコードを書く。	15	分
		復習	なぜ、困った場面が生じたかを考え整理する。	30	分
12	講義内容	アサーティブ・コミュニケーション			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	困った場面を回避するためのコミュニケーションを考えておく。	15	分
		復習	アサーティブトレーニングを実施し、何が難しかったのか整理する。	30	分
13	講義内容	コミュニケーションを上達するためのスキル 「質問する」「伝える」 ■			
	該当到達目標 1,2,4.	予習	相手に聞くととき、伝える時、わかりやすく伝える方法について考えてくる。	15	分
		復習	DVD で学べたスキルと自己の課題を整理する患者達の話を読み、どのようなコミュニケーションの姿勢が必要か整理する	30	分
14	講義内容	患者さんとの交流―看護者に求めるコミュニケーション			
	該当到達目標 1,4	予習	患者の体験記などを読み、求められるコミュニケーションについて考える。	15	分
		復習	患者達の話を読み、どのようなコミュニケーションの姿勢が必要か整理する。	30	分
15	講義内容	まとめ			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	今まで学習した授業内容について整理しておく	15	分
		復習	実施した課題について、納得いくまで整理しておく	30	分
合計時間(予習・復習)				15	時間
備考	対面授業およびオンライン授業ともに、C-leaning の出席登録とアンケートへの回答で出席とします。 特に対面授業において、出席登録していても授業時間内に教室不在を確認した場合は欠席とします。また、出席していても、C-leaning のアンケートに回答をしない場合は欠席とみなすので、注意してください。授業は、2人組・3人組の演習も多いため、欠席するとペアになった人にも迷惑がかかるので、参加してください。やむを得ず欠席となった場合、補修の手立てをしますが、全15回のうち6回以上欠席の場合は試験を受けられません。 ■:実務経験に基づく内容を示す。				

科目名		フィジカルアセスメント(看護専門科目群・専門分野Ⅰ・基礎看護学)						科目ナンバリング	NRS112・B		
英文名		Physical Assessment						講義形態	講義		
担当教員		廣井寿美 鶴田晴美 桐山勝枝 伊藤歩美 西林京子									
科目に関連した実務経験		看護師として病院に勤務(経験)									
学年・開講期		1 年 後期	選必・単位数		必修		1 単位				
履修が必須となる資格		アイテムを選択してください。									
学位授与方針との対応		5	人間理解と倫理観				0	国際理解			
		3	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
		1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連		③16									
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
							○			○	○
「その他」のアクティブラーニング実施方法		演習を挟みながら講義を行う。各ベッドに補助教員が配置し、その場でフィードバックを行う。 演習記録に対してコメントを付し返却する。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		対象の身体的な健康状態を観察・評価することをフィジカルアセスメントという。これは、問診に加え身体各部や器官系統ごとに、視診・触診・打診・聴診の 4 つの技術を用いて実施する。この講義は看護専門職として対象の看護を展開する場合に必要なフィジカルアセスメントに関する基礎的知識を理解し、説明できるようにする。さらに、身体的な健康状態を実際に観察・評価(正常か否か)できるようにする。									
到達目標		1. フィジカルアセスメントの看護上の意義が説明できる。■ 2. フィジカルアセスメントについて、基礎的な知識を説明できる。■ 3. 主要なフィジカルイグザミネーションを手順に沿って実施することができる。■ 4. 主要なフィジカルイグザミネーションを体験し、基礎的な観察と正常か否かの判断を述べる ことができる。■									
使用教材		・写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメント…アドバンス…、森田美奈子監修、インターメディカ、ISBN;978-4-89996-408-7、2020 年 ・系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 第 19 版、茂野香おる、医学書院、ISBN;978-4-260-04992-4、2023 年									
参考文献		教科書「ナースング・グラフィカ①解剖生理学」(MC メディカ出版)ISBN978-4-8404-7831-1									
評価方法		①対面授業の場合:筆記試験(60%)、演習課題 (35%)、授業への参加態度(5%)による総合評価とし、60 点以上を合格とする。 ②オンライン授業の場合:小テスト(30%)、課題提出状況(30%)、オンライン期末課題(40%)による総合評価とし、60 点以上を合格とする。									
課題に対するフィードバック		課題については授業の中でフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)		廣井(火・木・金 2 時限と 3 時限の間) 研究室				メールアドレス (#→@)		hiro-i-t#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	オリエンテーション、フィジカルアセスメントに共通する技術 演習:視診・触診・打診・聴診の技術■									
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	教科書 p14~27 を読み、該当ページの QR コードから動画を視聴する。						0.5	時間	
		復習	教科書 p14~27 を読み、動画を視聴し、講義内容を復習する。						0.25	時間	
2	講義内容	筋・骨格系のアセスメント 演習:関節可動域測定・徒手筋力テスト■									
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	解剖生理学で学習した全身の骨格・筋の構造と機能を確認する。						0.5	時間	
		復習	教科書 p144~153 を読み、動画を視聴し、講義内容を復習する。						0.25	時間	
3	講義内容	運動機能のアセスメント 演習:ロンベルグ徴候、バレー徴候、指鼻試験等■									
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	解剖生理学で学習した運動機能の働きを確認する。						0.5	時間	
		復習	教科書 p141~143、154~157 を読み、動画を視聴し、講義内容を復習する。						0.25	時間	
4	講義内容	バイタルサイン(1) 演習:一般状態の観察、体温測定■									
	予習	教科書 p30~37 を読み、体温のしくみについての既習学習を確認する。						0.5	時間		

	該当到達目標 1,2,3,4	復習	教科書 p30～37 を読み、動画を視聴し、講義内容を復習する。	0.25 時間
5	講義内容	バイタルサイン(2) 演習:呼吸・脈拍の測定 ■		
	該当到達目標	予習	教科書 p38～44 を読み、呼吸・脈拍のしくみについて既習学習を確認する。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	教科書 p38～44 を読み、動画を視聴し、講義内容を復習する。	0.25 時間
6	講義内容	バイタルサイン(3) 演習:血圧の測定 ■		
	該当到達目標	予習	教科書 p45～53 を読み、血圧の調整機能についての既習学習を確認する。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	教科書 p45～53 を読み、動画を視聴し、講義内容を復習する。	0.25 時間
7	講義内容	バイタルサイン(4) 演習:血圧の測定 ■		
	該当到達目標	予習	前回の講義内容をもとに、血圧測定の手順を確認する。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	教科書 p45～53 を読み、動画を視聴し、講義内容を復習する。	0.25 時間
8	講義内容	バイタルサイン(5) 演習:血圧の測定 ■		
	該当到達目標	予習	前回の演習内容をもとに、自分の血圧測定の課題を確認する。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	明らかになった自己課題をもとに技術の自己練習を行う。	0.25 時間
9	講義内容	皮膚・爪・口腔のアセスメント 演習:皮膚・爪の観察、頸部の視診・触診 ■		
	該当到達目標	予習	解剖生理学で学習した皮膚・爪・口腔の構造と機能を確認する。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	教科書 p164～172 を読み、動画を視聴し、講義内容を復習する。	0.25 時間
10	講義内容	フィジカルイグザミネーションの技術確認		
	該当到達目標	予習	講義で実施したバイタルサイン測定の技術を繰り返し練習する。	0.5 時間
	2,3	復習	演習で行った技術を振り返り、課題を見出し上達に向けて練習する。	0.25 時間
11	講義内容	フィジカルイグザミネーションの技術確認		
	該当到達目標	予習	前回の演習を振り返り、見出した課題をもとに練習する。	0.5 時間
	2,3	復習	演習で行った技術を振り返り、課題を見出し上達に向けて練習する。	0.25 時間
12	講義内容	呼吸器系のアセスメント 演習:胸郭の視診・触診、酸素飽和度の測定・呼吸音聴診 ■		
	該当到達目標	予習	解剖生理学で学習した胸郭・肺・気管支の構造と機能を確認する。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	教科書 p95～103 を読み、動画を視聴し、講義内容を復習する。	0.25 時間
13	講義内容	消化器系のアセスメント 演習:腹部の触診・腸蠕動音の聴診 ■		
	該当到達目標	予習	解剖生理学で学習した腹部の構造と機能を確認する。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	教科書 p59～81 を読み、動画を視聴し、講義内容を復習する。	0.25 時間
14	講義内容	循環器系のアセスメント 演習:主な動脈の触知、心音の聴診 ■		
	該当到達目標	予習	解剖生理学で学習した心臓の構造と機能を確認する。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	教科書 p54～55、108～121、158～161 を読み、動画を視聴し、講義内容を復習する。	0.25 時間
15	講義内容	脳神経のアセスメント 演習:意識レベルの評価、対光反射、聴覚検査、膝蓋腱反射等 ■		
	該当到達目標	予習	解剖生理学で学習した脳・神経系の構造と機能を確認する。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	教科書 p54～55、108～121、158～161 を読み、動画を視聴し、講義内容を復習する。	0.25 時間
合計時間(予習・復習)				11.25 時間
備考	1. 授業の進め方: ①授業は教科書と教員作成の資料およびパワーポイントによる説明を行う。 ②演習では、教員によるデモンストレーションを提示する。 ③演習は、グループワーク形式を用いる。看護師役や対象者役の体験を通し、意見を交換しながら学びを深める。 ④記載した予習・復習時間を各自で学習して講義に臨むこと。 2. オンライン授業での出席の登録・確認 ・出席の登録は、C-learning の下記①～③のいずれかの方法で行う。方法は「ニュース」で確認すること。 ①「小テスト」で設問へ解答する。 ②「レポート」の課題を提出する。 ③「アンケート」の提出。 ■実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		看護技術論（看護専門科目群・専門分野Ⅰ・基礎看護学）						科目ナンバリング	NRS113.A		
英文名		Fundamental Nursing Skills						講義形態	講義		
担当教員		鶴田晴美 廣井寿美 桐山勝枝 伊藤歩美 西林京子									
科目に関連した実務経験		看護師として病院に勤務(経験)									
学年・開講期		1 年 後期		選必・単位数		必修 1 単位					
履修が必須となる資格		アイテムを選択してください。									
学位授与方針との対応		4	人間理解と倫理観				0	国際理解			
		5	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
		0	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連		316									
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○		○			○	○
「その他」のアクティブラーニング実施方法		演習記録に対してコメントを付して返却する。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		①看護技術の概念および看護職の実践を支える看護技術の特徴について学ぶ。また、共通する基本的な技術となる医療安全、感染予防、看護過程について学習し、日常生活援助技術や治療・症状緩和技術、看護学方法論の基礎とする。 ②講義および演習により、感染予防、ボディメカニクス技術を根拠に基づいて体験する。									
到達目標		1. 看護技術の定義について学び、看護技術とは何かを述べることができる。■ 2. 看護技術の特徴や看護技術の構成要素について述べることができる。■ 3. 感染予防の知識に基づいた標準予防策(手指衛生など)について実施することができる。■ 4. ボディメカニクスの技術に基づき、体位変換・車椅子移乗・ポジショニングについて、対象の安全・安楽・自立を考慮しながら実施することができる。■ 5. 看護過程の技術の構成要素について述べることができる。									
使用教材		茂野香おる編集:基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学① 医学書院 茂野香おる編集:基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学② 医学書院									
参考文献		授業の中で適宜紹介する									
評価方法		① 対面授業の場合:筆記試験(50%) 課題提出(20%) 小テスト(30%) 総合評価 60%以上を合格とする。 * 評価は 3 分の 2 以上の出席を満たしている者に行う。 * 20 分以上の遅刻、早退は欠席扱いとする。また、20 分以内の遅刻を3回した場合は 1 回の欠席とする ② オンラインの場合:小テスト(30%)、課題提出(20%)、オンライン期末課題(50%) 総合評価 60%以上を合格とする。									
課題に対するフィードバック		講義・演習で作成した課題レポートは、担当教員からのコメントを付して返却する。(オンライン時も同様)									
オフィスアワー (研究室)		鶴田(火曜日・木曜日 5 限) 質問・学習相談は授業時間後に応じる 5 号館3階 鶴田研究室 302				メールアドレス (#→@)		Tsuruta-h#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	科目オリエンテーション 看護技術とは 看護技術の特徴 看護技術の構成要素									
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読み、講義内容および到達目標を確認してくる。						1.5 時間		
	1, 2	復習	到達目標、講義内容、看護技術の学修方法、成績評価方法などを理解する。						1.5 時間		
2	講義内容	医療安全の確保 ■ ・看護技術と医療安全 ・チーム医療に必要なコミュニケーション									
	該当到達目標	予習	過去の医療事故について調べ、まとめる。						1.5 時間		
	1, 2	復習	講義内容を復習し、医療安全の必要性について考えたことをまとめる。						1.5 時間		

3	講義内容	感染予防の技術 ■ ・感染と感染症 ・感染成立の条件 ・感染予防		
	該当到達目標 3	予習	看護者および医療従事者が感染予防を行う必要性について調べ、まとめる。	1.5 時間
		復習	講義内容を復習し、感染予防の要点をまとめる。 小テスト(第 1 回)	1.5 時間
4	講義内容	感染予防の技術(演習) ・実習室オリエンテーション ・手指衛生、マスク、エプロン装着方法		
	該当到達目標 3	予習	演習資料を精読する。	1.5 時間
		復習	演習の振り返りを行う。課題に取り組み指定日に提出する。	1.5 時間
5	講義内容	活動休息援助技術 ■ ・良い姿勢 ・ボディメカニクス ・体位、体位変換		
	該当到達目標 4	予習	どのような体位があるのか、どのような特徴があるのかをまとめる。	1.5 時間
		復習	講義の復習を行い、基礎的な知識について確認する。小テスト(第 2 回)	1.5 時間
6	講義内容	活動休息援助(演習) ・体位 ・体位変換 ・ポジショニング(仰臥位、側臥位)		
	該当到達目標 4	予習	演習資料を精読する。	1.5 時間
		復習	演習の振り返りを行う。振り返りに基づき、自己練習を行う。	1.5 時間
7	講義内容	活動休息援助技術(演習) ・体位 ・体位変換 ・ポジショニング(仰臥位、側臥位)		
	該当到達目標 4	予習	前回の授業内容を読み込む。	1.5 時間
		復習	演習の振り返りを行う。自己練習課題に取り組み指定日に提出する。	1.5 時間
8	講義内容	看護過程展開の技術 ■ ・看護過程とは ・看護過程の構成要素 ・看護記録		
	該当到達目標 5	予習	資料を読み、感想をまとめる。	1.5 時間
		復習	看護実践に看護過程を用いる必要性についてまとめる。 小テスト(第 3 回)	1.5 時間
合計時間(予習・復習) 24 時間				
備考	1. 単位修得に必要な時間を満たしていない場合 ・記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること ・記載した予習・復習に臨んで受講すること ・看護技術の演習内容は、個人またはグループで協力して自己練習すること 2. オンライン授業での出席の登録および確認 ・出席の登録は、C-learning の下記1)～3)のいずれかの方法で行う。方法は「ニュース」で確認すること 1)「小テスト」で設問へ解答する。 2)「レポート」の課題を提出する。 3)「アンケート」の提出。 ■:実務経験に基づく内容			

科目名	日常生活援助技術(看護専門科目群・専門分野Ⅰ・基礎看護学)						科目ナンバリング	NRS114・B		
英文名	Nursing Skills For Assisting Daily Living						講義形態	講義		
担当教員	桐山勝枝、伊藤歩美、鶴田晴美、廣井寿美 西林京子									
科目に関連した実務経験	看護師として病院に勤務(経験)									
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	必修 2 単位							
履修が必須となる資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針との対応	4	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	5	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	0	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	③ ⑩									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
						○			○	○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	演習記録に対してコメントを付し返却する。 各ベッドに補助教員が配置し、その場でフィードバックを行う。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①看護技術の基本と根拠を理解し、安全、安楽な日常生活援助の方法を考え実施できる。 ②事前課題に取り組み、講義の後に演習を行う。復習時間に演習の補完をする。									
到達目標	1.看護技術における安全、安楽、コミュニケーション、エビデンスの重要性が理解できる。■ 2.日常生活援助技術の基本を理解できる。■ 3.事例の状況に合わせた日常生活援助の方法を考え実施することができる。■ 4.看護者としての倫理的態度を身につける。■									
使用教材	・配布資料 ・仁和子他：基礎看護技術Ⅱ(第18版)，医学書院									
参考文献	・茂野香おる他：基礎看護技術Ⅰ(第19版)，医学書院									
評価方法	筆記試験(60%)、看護技術チェック(30%)、授業への参加態度(10%)による総合評価 ただし、筆記と実技とも60%以上を合格とする。 *20分以上の遅刻、早退は欠席扱いとする。20分以内の遅刻を3回した場合は1回の欠席とする。 *看護技術チェックにおいては、合格点に達しない場合は、再評価を受ける。 *オンライン授業のみになった場合：小テスト(30%)、課題提出状況(10%)、オンライン期末課題(60%)に変更する。									
課題に対するフィードバック	講義・演習で作成したレポート等は、担当教員からのコメントを付して返却する。									
オフィスアワー (研究室)	桐山：研究室：5号館3階301研究室				メールアドレス (#→@)	桐山 kiriyama#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	環境調整技術：オリエンテーション、快適な療養環境の整備、臥床患者のリネン交換(講義)■								
	該当到達目標	予習	テキスト基礎看護技術Ⅱ第1章を精読する。						0.25	時間
	1.2.4	復習	シラバスの内容を読み、講義目標および到達目標を理解する。 講義内容を振り返り、看護技術について、本科目での学修方法について理解を深める。						0.5	時間
2	講義内容	環境調整技術：オリエンテーション、快適な療養環境の整備、臥床患者のリネン交換(講義)■								
	該当到達目標	予習	環境調整についての事前課題に取り組む。						0.25	時間
	1.2.3.4	復習	講義内容を振り返り、看護技術について、本科目での学修方法について理解を深める。						0.5	時間
3	講義内容	環境調整技術：臥床患者のリネン交換(演習)								
	該当到達目標	予習	講義を振り返り、目的に合ったケアを行うための留意点について考える。						0.25	時間
	1.2.3.4	復習	演習のまとめレポートを作成し、臥床患者のリネン交換の練習をする。						0.5	時間

4	講義内容	環境調整技術:臥床患者のリネン交換(演習)		
	該当到達目標	予習	講義を振り返り、目的に合ったケアを行うための留意点について考える。	0.25 時間
	1.2.4	復習	テキスト基礎看護技術Ⅱ第1章を精読する	0.5 時間
5	講義内容	環境調整技術:臥床患者のリネン交換(演習)		
	該当到達目標	予習	講義を振り返り、目的に合ったケアを行うための留意点について考える。	0.25 時間
	1.2.3.4	復習	演習のまとめレポートを作成し、臥床患者のリネン交換の練習をする。	0.5 時間
6	講義内容	清潔・衣生活援助技術:寝衣交換(演習)		
	該当到達目標	予習	講義を振り返り、目的に合ったケアを行うための留意点について考える。	0.25 時間
	1.2.3.4	復習	演習のまとめレポートを作成し、寝衣交換の練習を行う。	0.5 時間
7	講義内容	清潔・衣生活援助技術:寝衣交換(演習)		
	該当到達目標	予習	講義を振り返り、目的に合ったケアを行うための留意点について考える。	0.25 時間
	1.2.3.4	復習	演習のまとめレポートを作成し、清拭の練習を行う。	0.5 時間
8	講義内容	清潔・衣生活援助技術:部分浴(演習)		
	該当到達目標	予習	講義を振り返り、目的に合ったケアを行うための留意点について考える。	0.25 時間
	1.2.3.4	復習	演習のまとめレポートを作成し、清拭の練習を行う。	0.5 時間
9	講義内容	清潔・衣生活援助技術:清拭(演習)		
	該当到達目標	予習	講義を振り返り、目的に合ったケアを行うための留意点について考える。	0.25 時間
	1.2.3.4	復習	演習のまとめレポートを作成し、清拭の練習を行う。	0.5 時間
10	講義内容	清潔・衣生活援助技術:清拭(演習)		
	該当到達目標	予習	講義を振り返り、目的に合ったケアを行うための留意点について考える。	0.25 時間
	1.2.3.4	復習	演習のまとめレポートを作成し、清拭の練習を行う。	0.5 時間
11	講義内容	清潔・衣生活援助技術:洗髪(講義)■		
	該当到達目標	予習	洗髪に関する事前課題に取り組む。	0.25 時間
	1.2.3.4	復習	講義内容を振り返り、理解を深める。	0.5 時間
12	講義内容	清潔・衣生活援助技術:洗髪(演習)		
	該当到達目標	予習	講義を振り返り、目的に合ったケアを行うための留意点について考える。	0.25 時間
	1.2.3.4	復習	演習のまとめレポートを作成し、清拭の練習を行う。	0.5 時間
13	講義内容	清潔・衣生活援助技術:洗髪(演習)		
	該当到達目標	予習	講義を振り返り、目的に合ったケアを行うための留意点について考える。	0.25 時間
	1.2.3.4	復習	演習のまとめレポートを作成し、清拭の練習を行う。	0.5 時間
14	講義内容	食事の援助技術:食事に関する援助(講義)■		
	該当到達目標	予習	食事の援助に関する事前課題に取り組む。	0.25 時間
	1.2.3.4	復習	講義内容を振り返り、食事援助に関する理解を深める。	0.5 時間
15	講義内容	食事の援助技術:食事に関する援助(演習)		
	該当到達目標	予習	講義を振り返り、目的に合ったケアを行うための留意点について考える。	0.25 時間
	1.2.3.4	復習	演習のまとめレポートを作成し、食事の援助の練習をする。	0.5 時間
16	講義内容	食事の援助技術:食事介助(演習)		
	該当到達目標	予習	講義を振り返り、目的に合ったケアを行うための留意点について考える。	0.25 時間
	1.2.3.4	復習	演習のまとめレポートを作成し、食事の援助の練習をする。	0.5 時間
17	講義内容	看護技術チェック(感染予防技術、環境調整技術、活動・運動援助技術、衣生活援助技術、清潔援助技術)		
	該当到達目標	予習	演習内容を振り返り、既習の演習項目について練習をする。	0.25 時間
	1.2.3.4	復習	演習内容を振り返り、既習の演習項目について練習をする。	0.5 時間
18	講義内容	看護技術チェック(感染予防技術、環境調整技術、活動・運動援助技術、衣生活援助技術、清潔援助技術)		
	該当到達目標	予習	演習内容を振り返り、既習の演習項目について練習をする。	0.25 時間
	1.2.3.4	復習	演習内容を振り返り、既習の演習項目について練習をする。	0.5 時間
19	講義内容	看護技術チェック(感染予防技術、環境調整技術、活動・運動援助技術、衣生活援助技術、清潔援助技術)		
	該当到達目標	予習	演習内容を振り返り、既習の演習項目について練習をする。	0.25 時間
	1.2.3.4	復習	演習内容を振り返り、既習の演習項目について練習をする。	0.5 時間

20	講義内容	看護技術チェック（感染予防技術、環境調整技術、活動・運動援助技術、衣生活援助技術、清潔援助技術）		
	該当到達目標	予習	演習内容を振り返り、既習の演習項目について練習をする。	0.25 時間
	1.2.3.4	復習	演習内容を振り返り、既習の演習項目について練習をする。	0.5 時間
21	講義内容	清潔・衣生活援助技術：部分浴（演習）		
	該当到達目標	予習	講義を振り返り、目的に合ったケアを行うための留意点について考える。	0.25 時間
	1.2.3.4	復習	演習のまとめレポートを作成し、寝衣交換の練習をする。	0.5 時間
22	講義内容	振り返り/まとめ		
	該当到達目標	予習	既習技術を振り返り、知識・技術の確認をする。	0.25 時間
	1.2.3.4	復習	既習技術のまとめを行う。	0.5 時間
23	講義内容	振り返り/まとめ		
	該当到達目標	予習	既習技術を振り返り、知識・技術の確認をする。	0.25 時間
	1.2.3.4	復習	既習技術のまとめを行う。	0.5 時間
24	講義内容	排泄援助技術：排泄の援助技術（講義）■		
	該当到達目標	予習	排泄の援助に関する事前課題に取り組む。	0.25 時間
	1.2.3.4	復習	講義内容を振り返り、排泄援助に関する理解を深める。	0.5 時間
25	講義内容	排泄援助技術：排泄の援助技術（演習）		
	該当到達目標	予習	講義を振り返り、目的に合ったケアを行うための留意点について考える。	0.25 時間
	1.2.3.4	復習	演習のまとめレポートを作成し、食事の援助の練習をする。	0.5 時間
26	講義内容	排泄援助技術：排泄の援助技術（演習）		
	該当到達目標	予習	講義を振り返り、目的に合ったケアを行うための留意点について考える。	0.25 時間
	1.2.3.4	復習	演習のまとめレポートを作成し、食事の援助の練習をする。	0.5 時間
27	講義内容	排泄援助技術：陰部の保清（陰部洗浄）（演習）		
	該当到達目標	予習	講義を振り返り、目的に合ったケアを行うための留意点について考える。	0.25 時間
	1.2.3.4	復習	演習のまとめレポートを作成し、陰部洗浄の練習をする。	0.5 時間
28	講義内容	活動・休息援助技術：移乗・移送（講義）■		
	該当到達目標	予習	移乗・移送に関する事前課題に取り組む。	0.25 時間
	1.2.3.4	復習	講義内容を振り返り、移乗・移送に関する理解を深める。	0.5 時間
29	講義内容	活動・休息援助技術：車椅子での移送、歩行・移動介助、移乗介助、ストレッチャーの移送（演習）		
	該当到達目標	予習	講義を振り返り、目的に合ったケアを行うための留意点について考える。	0.25 時間
	1.2.3.4	復習	演習のまとめレポートを作成し、移乗移送の練習を行う。	0.5 時間
30	講義内容	活動・休息援助技術：車椅子での移送、歩行・移動介助、移乗介助、ストレッチャーの移送（演習）		
	該当到達目標	予習	講義を振り返り、目的に合ったケアを行うための留意点について考える。	0.25 時間
	1.2.3.4	復習	演習のまとめレポートを作成し、移乗移送の練習を行う。	0.5 時間
合計時間（予習・復習）				22.5 時間
備考	単位修得に必要な時間を満たしていない場合 ・記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 ・演習後は、個人またはグループで、練習課題に取り組むこと。 ■実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		治療・症状緩和技術(看護専門科目群・専門分野Ⅰ・基礎看護学)					科目 ナンバリング	NRS210・A			
英文名		Nursing Skills for Assisting in Medical Care and Symptom Relief					講義形態	講義			
担当教員		伊藤歩美、桐山勝枝、鶴田晴美、廣井寿美、西林京子									
科目に関連した 実務経験		看護師として病院に勤務(経験)									
学年・開講期		2 年 前期	選必・単位数	必修 2 単位							
履修が必須となる 資格		アイテムを選択してください。									
学位授与方針 との対応		4	人間理解と倫理観			0	国際理解				
		4	論理的思考力・問題解決力			1	生涯学習力				
		1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連		③								16	
アクティブラーニング 実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○	○		○			○	○
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法		各ベッドに補助教員を配置し、その場でフィードバックを行う。 演習記録に対してコメントを付して返却する。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		健康障害のある対象の援助方法を理解し、科学的根拠を基とした診断・治療・処置を伴う看護援助技術 を習得する。									
到達目標		1.看護技術における安全、安楽、コミュニケーション、エビデンスの重要性が理解できる。■ 2.治療的援助技術の基本を習得できる。■ 3.対象の状況に合わせた治療的援助の方法を考えることができる。■ 4.看護学生としての倫理的態度について理解できる。■									
使用教材		使用教材:配布資料 ・仁和子他:基礎看護技術Ⅱ(第18版),医学書院 ・茂野香おる他:基礎看護技術Ⅰ(第19版),医学書院									
参考文献		・守田美奈子他:看護のためのフィジカルアセスメントアドバンス,インターメディカ									
評価方法		①対面授業の場合:筆記試験(60%)、看護技術チェック(30%)、授業への参加態度(10%)に よる総合評価とする。但し、筆記試験・看護技術チェックは、それぞれの試験で60点以上を合格とする。 *20分以上の遅刻、早退は欠席扱いとする。20分以内で3回遅刻した場合は、1回の欠席とする。 *看護技術チェックにおいては、合格点に達しない場合、再評価を受ける。 ②オンライン授業の場合:小テスト(30%)、課題提出状況(10%)、オンライン期末課題(60%)による総 合評価とし、60点以上を合格とする。									
課題に対する フィードバック		講義・演習で作成したレポートは、担当教員からのコメントを付して返却する。 技術チェックでは担当教員がその場でフィードバックを行う。									
オフィスアワー (研究室)		伊藤(月曜日・水曜日)4時限目 5号館 4階 406 研究室				メールアドレス (#→@)		ito-a#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	オリエンテーション、安楽に関する技術:電法<温電法・冷電法>(講義) 電法の援助が必要な対象者の状況や、その効果について事例を用いて解説する。■									
	該当到達目標	予習	基礎看護技術Ⅱの第5章B(p156~160)を読み、電法ケアに関する事前課題レ ポートに取り組む。							0.25	時間
	1,2,3,4	復習	講義内容を振り返り、電法ケアに関する理解を深める。							0.5	時間
2	講義内容	安楽に関する技術:電法-腰部温電法(演習)									
	該当到達目標	予習	電法に関するチェックリストを基に、腰部温電法の方法をイメージする。							0.25	時間
	1,2,3,4	復習	チェックリストを基に電法の方法の理解を深める。							0.5	時間

3	講義内容	安楽に関する技術：電法-腰部温電法（演習）			
	該当到達目標	予習	安全で効果的な腰部温電法を実施するための留意点について考える。	0.25	時間
	1,2,3,4	復習	演習を振り返り、安全で効果的な電法を実施するための課題を明確にする。	0.5	時間
4	講義内容	感染予防技術：スタンダードプリコーション・無菌操作（講義） 感染予防の原則について、臨床で起こりうる危険を例に挙げながら解説する。■			
	該当到達目標	予習	基礎看護技術Ⅰの第2章A・B(p64～78)を読み、事前課題に取り組む。	0.25	時間
	1,2,3,4	復習	講義内容を振り返り、感染予防策に関する理解を深める。	0.5	時間
5	講義内容	感染予防技術：スタンダードプリコーション・無菌操作（演習）			
	該当到達目標	予習	チェックリストを基に、感染予防策の方法をイメージする。	0.25	時間
	1,2,3,4	復習	チェックリストを基に感染予防策の方法の理解を深める。	0.5	時間
6	講義内容	感染予防技術：スタンダードプリコーション・無菌操作（演習）			
	該当到達目標	予習	適切な感染予防策を行うための留意点について考える。	0.25	時間
	1,2,3,4	復習	演習を振り返り、演習に関するまとめレポートを作成し、防護用具の装着・無菌操作の練習をする。	0.5	時間
7	講義内容	排泄援助技術：導尿法（講義） 導尿が必要な対象者の状況や、援助に伴う苦痛への配慮について事例を交えて解説する。■			
	該当到達目標	予習	基礎看護技術Ⅱの第3章B(p79～87)を読み、導尿法に関する事前課題レポートに取り組む。	0.25	時間
	1,2,3,4	復習	講義内容を振り返り、導尿法に関する理解を深める。	0.5	時間
8	講義内容	排泄援助技術：一時的導尿法（演習）			
	該当到達目標	予習	チェックリストを基に、一時的導尿の方法をイメージする。	0.25	時間
	1,2,3,4	復習	チェックリストを基に一時的導尿の方法の理解を深める。	0.5	時間
9	講義内容	排泄援助技術：一時的導尿法（演習）			
	該当到達目標	予習	チェックリストを基に一時的導尿の方法の理解を深める。	0.25	時間
	1,2,3,4	復習	演習に関するまとめレポートを作成し、一時的導尿法の練習をする。	0.5	時間
10	講義内容	排泄援助技術：浣腸（講義） 浣腸における留意点や効果について、臨床で起こりうる有害事象や事例を用いて解説する。■			
	該当到達目標	予習	基礎看護技術Ⅱの第3章C(p87～94)を読み、排便コントロールに関する事前課題レポートに取り組む。	0.25	時間
	1,2,3,4	復習	講義内容を振り返り、排便コントロールに関する理解を深める。	0.5	時間
11	講義内容	排泄援助技術：グリセリン浣腸（演習）			
	該当到達目標	予習	チェックリストを基にグリセリン浣腸の方法をイメージする。	0.25	時間
	1,2,3,4	復習	演習を振り返り、安全で効果的なグリセリン浣腸を実施するための課題を明確にする。	0.5	時間
12	講義内容	排泄援助技術：グリセリン浣腸（演習）			
	該当到達目標	予習	安全で効果的なグリセリン浣腸を実施するための留意点について考える。	0.25	時間
	1,2,3,4	復習	演習を振り返り、安全で効果的なグリセリン浣腸を実施するための課題を明確にする。演習に関するまとめレポートを作成する。	0.5	時間
13	講義内容	呼吸を整える技術：吸引・吸入・酸素療法（講義） 臨床で酸素療法や吸引を行っている対象者の事例をもとに症状・病態と結びつけ、理解が深まるよう指導する。■			
	該当到達目標	予習	基礎看護技術Ⅱの第7章A・B・D(p234～255、260～264)を読み、呼吸を整えるケアに関する事前課題レポートに取り組む。	0.25	時間
	1,2,3,4	復習	講義内容を振り返り、呼吸を整えるケアに関する理解を深める。	0.5	時間
14	講義内容	呼吸を整える技術：酸素療法／口腔内吸引（演習）			
	該当到達目標	予習	チェックリストを基に、酸素療法および口腔内吸引の方法をイメージする。	0.25	時間
	1,2,3,4	復習	チェックリストを基に酸素療法および口腔内吸引の方法の理解を深める。	0.5	時間
15	講義内容	呼吸を整える技術：酸素療法／口腔内吸引（演習）			
	該当到達目標	予習	患者にとって安全で効果的な酸素療法および口腔内吸引を実施するための留意点について考える。	0.25	時間
	1,2,3,4	復習	演習に関するまとめレポートを作成し、呼吸音聴取・酸素療法・口腔内吸引の練習をする。	0.5	時間

16	講義内容	看護技術チェック(安楽に関する技術、感染予防技術、排泄援助技術、呼吸を整える技術)		
	1,2,3,4	予習	演習内容を振り返り、既習の演習項目について練習をする。	0.25 時間
		復習	看護技術チェックリストを基に、既習の演習項目について練習をする。	0.5 時間
17	講義内容	看護技術チェック(安楽に関する技術、感染予防技術、排泄援助技術、呼吸を整える技術)		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	演習内容を振り返り、既習の演習項目について練習をする。	0.25 時間
		復習	看護技術チェックリストを基に、既習の演習項目について練習をする。	0.5 時間
18	講義内容	看護技術チェック(安楽に関する技術、感染予防技術、排泄援助技術、呼吸を整える技術)		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	演習内容を振り返り、既習の演習項目について練習をする。	0.25 時間
		復習	看護技術チェックリストを基に、既習の演習項目について練習をする。	0.5 時間
19	講義内容	検査に関する技術：尿検査・血液検査(講義) 採血では、血管の弾力性や走行など対象の状態をふまえて選択する方法を、臨床での事例をもとに解説し指導する。■		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	基礎看護技術Ⅱの第11章A・B(p406～413, 416～422)を読み、静脈血採血に関する事前課題レポートに取り組む。	0.25 時間
		復習	講義内容を振り返り、尿検査・血液検査に関する理解を深める。	0.5 時間
20	講義内容	検査に関する技術：静脈血採血(演習)		
	該当到達目標	予習	チェックリストを基に、静脈血採血の方法をイメージする。	0.25 時間
		復習	チェックリストを基に静脈血採血の方法の理解を深める。	0.5 時間
21	講義内容	検査に関する技術：静脈血採血(演習)		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	安全で適切な静脈血採血を実施するための留意点について考える。	0.25 時間
		復習	演習に関するまとめレポートを作成し、静脈血採血の練習をする。	0.5 時間
22	講義内容	与薬の技術：与薬について(講義) 与薬の管理の重要性について、臨床で起こりうる事故や実際の事故防止対策を具体的に示し意識付けを行う。■		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	基礎看護技術Ⅱの第9章A・B・C・D・E・F・G(p310～325)を読み、与薬に関する事前課題レポートに取り組む。	0.25 時間
		復習	講義内容を振り返り、与薬に関する理解を深める。	0.5 時間
23	講義内容	与薬の技術：注射法 筋肉注射 皮下注射(講義) 臨床で起こりうる危険や実際の管理方法を具体的に示し解説を行う。■		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	基礎看護技術Ⅱの第9章H(p326～349)を読み、与薬に関する事前課題レポートに取り組む。 注射の準備、筋肉注射、皮下注射に関するチェックリストを基に、看護ケアの流れをイメージする。	0.25 時間
		復習	チェックリストを基に注射の準備、筋肉注射、皮下注射の方法の理解を深める。	0.5 時間
24	講義内容	与薬の技術：注射の準備(演習)		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	チェックリストを基に、注射の準備の方法をイメージする。	0.25 時間
		復習	チェックリストを基に注射の準備の方法について理解を深める。	0.5 時間
25	講義内容	与薬の技術：皮下注射・筋肉注射(演習)		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	チェックリストを基に、皮下注射・筋肉注射の方法をイメージする。	0.25 時間
		復習	チェックリストを基に皮下注射・筋肉注射の方法の理解を深める。	0.5 時間
26	講義内容	与薬の技術：皮下注射・筋肉注射(演習)		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	安全で適切な皮下注射・筋肉注射を実施するための留意点について考える。	0.25 時間
		復習	演習を振り返り、安全で適切な皮下注射・筋肉注射を実施するための課題を明確にする。	0.5 時間
27	講義内容	与薬の技術：点滴静脈内注射(講義) 臨床で起こりうる危険や実際の管理方法を具体的に示し解説を行う。■		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	基礎看護技術Ⅱの第9章H・I(p350～375)を読み、点滴静脈内注射に関する事前課題レポートに取り組む。	0.25 時間
		復習	講義内容を振り返り、点滴静脈内注射に関する理解を深める。	0.5 時間
28	講義内容	与薬の技術：点滴静脈内注射(演習)		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	チェックリストを基に、点滴静脈内注射の方法をイメージする。	0.25 時間
		復習	チェックリストを基に点滴静脈内注射の方法の理解を深める。	0.5 時間
29	講義内容	与薬の技術：点滴静脈内注射(演習)		

	該当到達目標	予習	安全で適切な点滴静脈内注射を実施するための留意点について考える。	0.25 時間
	1,2,3,4	復習	演習を振り返り、安全で適切な点滴静脈内注射を実施するための課題を明確にする。	0.5 時間
30	講義内容	与薬の技術：点滴静脈内注射（演習）		
	該当到達目標	予習	安全で適切な点滴静脈内注射を実施するための留意点について考える。	0.25 時間
	1,2,3,4	復習	演習に関するまとめレポートを作成し、点滴静脈内注射の練習をする。	0.5 時間
	合計時間（予習・復習）			22.5 時間
備考	1. 授業の進め方： ①授業は教科書と教員作成の資料およびパワーポイントによる説明を行う。 ②演習では、教員によるデモンストレーションを提示する。また、モデル人形や看護技術で必要な様々な物品を用いて指導する。 ③演習は、グループワークの形式を用いる。看護師役や対象者役、観察者などの体験を通し、意見を交換しながら学びを深める。 ④演習後は、個人またはグループで、練習課題に取り組むこと。 2. オンライン授業での出席の登録・確認 ・出席の登録は、C-learning の下記1)～3)のいずれかの方法で行う。方法は「ニュース」で確認すること。 1)「小テスト」で設問へ解答する。 2)「レポート」の課題を提出する。 3)「アンケート」を提出する。 ■実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	基礎看護技術総合演習(看護専門科目群・専門分野Ⅰ・基礎看護学)						科目ナンバリング	NRS211・A		
英文名	Fundamental Nursing: Comprehensive Practice						講義形態	講義		
担当教員	桐山勝枝、伊藤歩美、鶴田晴美、廣井寿美、西林京子									
科目に関連した実務経験	看護師として病院に勤務(経験)									
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修が必須となる資格										
学位授与方針との対応	4	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	4	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	③⑩									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○	○	○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	この講義は、臨床推論から臨床判断を行い、既習の看護技術を基に、対象の健康状態や心理状態、とりまく状況を考慮し、個別性に応じた看護援助を安全安楽に提供するための能力を養うことが目的である。特に基礎看護学実習Ⅲで実施する頻度が高い日常生活援助技術について重点をおく。既習の看護技術の原則を基盤とし、事例の状況をアセスメントし、対象に応じた個別性のある援助方法を考え実施し評価する。									
到達目標	1. 対象の病態や症状をアセスメントできる。■ 2. 対象の状態(個別性)を踏まえて、必要な看護ケアを考え、述べることができる。■ 3. 対象に自分が実施する看護援助について説明し、同意を得ることができる。■ 4. 自分の考えた看護援助を、対象の状況(個別性)に合わせて、安全・安楽に配慮しながら実施できる。■ 5. 実施した看護援助と観察内容について、適切に報告できる。■ 6. 実施した援助の効果について評価し、修正点・課題を述べることができる。■ 7. 臨床現場で遭遇する様々な事柄を臨床推論し臨床判断ができる。■									
使用教材	・配布資料 ・系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 第18版、仁和子、医学書院、ISBN;978-4-260-04212-3、2022 年									
参考文献	・系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 第19版、茂野香おる、医学書院 ISBN;978-4-260-04992-4、2023 年									
評価方法	①対面授業の場合:課題(50%)、演習記録(20%)、授業への参加度(20%)、小テスト(10%) * 20 分以上の遅刻、早退は欠席扱いとする。20 分以内の遅刻を3回した場合は 1 回の欠席とする。 ②オンラインの場合:課題(80%)、小テスト(20%)									
課題に対するフィードバック	担当教員からコメントを付してフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	桐山(火・金) 5 号館 3 階 301 研究室				メールアドレス (#→@)	kiriyaama#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション／事例を提示・計画の立て方・試験方法説明／連絡・報告・相談について ■								
	該当到達目標 1, 2	予習	シラバスの内容を読み、講義目標および到達目標を理解する。					0.25	時間	
		復習	事例の情報を整理し必要な日常生活援助を考える					0.5	時間	
2	講義内容	演習: 事例の臨床推論と臨床判断を行い適切な看護ケアを検討する。■								
	該当到達目標	予習	事前課題に取り組む。					0.25	時間	

	1, 2, 5	復習	グループディスカッションのための準備を行う。	0.5 時間
3	講義内容	演習	事例の臨床推論と臨床判断を行い適切な看護ケアを検討する。■	
	該当到達目標 1, 2, 3, 4, 5, 6	予習	自身の臨床判断を、グループディスカッションに向け整理する。	0.25 時間
		復習	グループディスカッションで得た内容を修正し理解を深める。	0.5 時間
4	講義内容	講義・演習	報告・連絡・相談について実施する。■	
	該当到達目標 1, 2	予習	事前課題に取り組む。	0.25 時間
		復習	演習内容を振り返り、レポートをまとめ理解を深める。	0.5 時間
5	講義内容	演習	事例に対するケア計画をもとに、座位の足浴を実施する。■	
	該当到達目標 1, 2	予習	臨床判断をもとに、看護ケアノートを作成する。	0.25 時間
		復習	演習内容を振り返り、レポートをまとめ理解を深める。	0.5 時間
6	講義内容	演習	事例に対するケア計画をもとに、座位の足浴を実施する。■	
	該当到達目標 3, 4, 5, 6	予習	臨床判断をもとに、看護ケアノートを作成する。	0.25 時間
		復習	演習内容を振り返り、レポートをまとめ理解を深める。	0.5 時間
7	講義内容	演習	事例に対するケア計画をもとに、洗髪を実施する。■	
	該当到達目標 3, 4, 5, 6	予習	臨床判断をもとに、看護ケアノートを作成する。	0.25 時間
		復習	演習内容を振り返り、レポートをまとめ理解を深める。	0.5 時間
8	講義内容	演習	事例に対するケア計画をもとに、洗髪を実施する。■	
	該当到達目標 1, 2,	予習	臨床判断をもとに、看護ケアノートを作成する。	0.25 時間
		復習	演習内容を振り返り、レポートをまとめ理解を深める。	0.5 時間
9	講義内容	演習	事例に対するケア計画をもとに、洗髪を実施する。■	
	該当到達目標 3, 4, 5	予習	臨床判断をもとに、看護ケアノートを作成する。	0.25 時間
		復習	演習内容を振り返り、レポートをまとめ理解を深める。	0.5 時間
10	講義内容	演習	事例に対するケア計画をもとに、清拭とバイタルサインを実施する。■	
	該当到達目標 3, 4, 5	予習	臨床判断をもとに、看護ケアノートを作成する。	0.25 時間
		復習	実施したケアを振り返り、他者の意見をもとに再考し修正する。	0.5 時間
11	講義内容	事例に対するケア計画をもとに、清拭とバイタルサインを実施する。■		
	該当到達目標 1, 5, 6	予習	臨床判断をもとに、看護ケアノートを作成する。	0.25 時間
		復習	振り返りの意見交換から自己課題を見出し、技術練習を行う。	0.5 時間
12	講義内容	事例に対するケア計画をもとに、清拭とバイタルサインを実施する。■		
	該当到達目標 3, 4, 5	予習	臨床判断をもとに、看護ケアノートを作成する。	0.25 時間
		復習	演習内容を振り返り、レポートをまとめ理解を深める。	0.5 時間
13	講義内容	事例に対するケア計画をもとに、おむつ交換・陰部洗浄・臥床患者のリネン交換を実施する。■		
	該当到達目標 3, 4, 5	予習	臨床判断をもとに、看護ケアノートを作成する。	0.25 時間
		復習	演習内容を振り返り、レポートをまとめ理解を深める。	0.5 時間
14	講義内容	事例に対するケア計画をもとに、おむつ交換・陰部洗浄・臥床患者のリネン交換を実施する。■		
	該当到達目標 1, 5, 6	予習	臨床判断をもとに、看護ケアノートを作成する。	0.25 時間
		復習	振り返りの意見交換から自己課題を見出し、技術練習を行う。	0.5 時間
15	講義内容	事例に対するケア計画をもとに、おむつ交換・陰部洗浄・臥床患者のリネン交換を実施する。■ 振り返りとまとめ		
	該当到達目標 6	予習	実施したケアを振り返り、自身のケア技術について不十分な部分を確認する。	0.25 時間
		復習	振り返りのレポートをまとめ、基礎看護学実習Ⅲに向けて、技術の向上に努める。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				11.25 時間
備考				

科目名	看護学方法論(看護専門科目群・専門分野Ⅰ・基礎看護学)						科目ナンバリング	NRS212・A		
英文名	Nursing Process						講義形態	講義		
担当教員	廣井寿美、鶴田晴美、桐山勝枝、伊藤歩美、西林京子									
科目に関連した実務経験	看護師として病院に勤務(経験)									
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修が必須となる資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針との対応	4	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	5	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	0	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	316									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○	○	○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	看護の対象の健康問題や健康課題に対して、知識とクリティカルシンキング、技能およびケアリングを基盤とした看護過程を用いて看護を展開する方法を学ぶ。									
到達目標	1. 健康課題・健康問題を解決するための方法論である看護過程の概要を理解できる。 2. ゴードンの理論を用いて、事例の健康課題・健康問題を解決するための看護過程のプロセスが理解できる。 3. ゴードンの機能的健康パターンの考え方にに基づき情報収集の視点が理解できる。■ 4. アセスメントの視点に沿って情報の分析・解釈・判断ができる。■ 5. 統合した全体像をとらえ、看護問題の明確化(看護診断)ができる。■ 6. 看護問題の優先順位を考え、看護計画を立案できる。■ 7. 看護計画を実施し評価することの意義と方法を述べることができる。■									
使用教材	①「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 第19版」: 茂野香おる、医学書院、ISBN: 978-4-260-04992-4、2023 年 ②「ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント: 同一事例による比較 第3版」、渡邊トシ子編、ヌーヴェルヒロカワ、ISBN: 978-4-86174-043-5 ③「看護診断ハンドブック、第12版」、RJ.カルペニート著、医学書院、2023 年、ISBN: 9784260050210 ④「検査値早わかりガイド 第3版」、江口正信・水口國雄著、サイオ出版、ISBN: 978-4-907176-60-0、2017 年 ⑤「関連図の書き方をマスターしよう」蔵谷範子編、サイオ出版、ISBN: 978-4-907176-48-8									
参考文献	「事例を通してやさしく学ぶ中範囲理論入門(第2版)」佐藤栄子編、日総研、ISBN: 978-4-7760-1414-0									
評価方法	① 対面授業の場合: 毎回課す課題 75%、小テスト 15%、授業の参加態度 10%によって、総合的に判断し 60%以上を合格とする。 ② オンライン授業の場合: 毎回課す課題を C-learning 内に提出 70%、小テスト 20%、meet または ZOOM によるグループ学習への参加度 10%、により総合的に判断し、60%以上を合格とする。									
課題に対するフィードバック	課題については授業の中でフィードバックする。									

オフィスアワー (研究室)		廣井(水・木・金 2 時限と 3 時限の間) 4 号館 5 階 507 研究室		メールアドレス (#→@)	hiro-i-t#takasaki-u.ac.jp
1	講義内容	オリエンテーション／看護過程の概要／看護記録			
	該当到達目標	予習	看護技術論の看護過程に関する資料を読む		0.5 時間
	1, 2	復習	小テストを行い、看護過程の概要を復習する		0.25 時間
2	講義内容	第 1 段階 アセスメント ～ステップ1 情報収集～／ゴードンの機能的健康パターン			
	該当到達目標	予習	提示された情報をもとに、疾患や看護の事前学習を行う		0.5 時間
	3, 4	復習	データベースを記入し、事例の情報を整理する		0.25 時間
3	講義内容	第 1 段階 アセスメント ～ステップ2 情報分類～			
	該当到達目標	予習	事例の情報から、必要な情報収集の内容と方法を検討する		0.5 時間
	3, 4	復習	ゴードンの機能的健康パターンについて、資料を基に理解を深める		0.25 時間
4	講義内容	第 1 段階 アセスメント ～ステップ3 分析～ パターン1			
	該当到達目標	予習	機能的健康パターンに沿って、情報を整理し、分析する		0.5 時間
	4	復習	解説をもとに、アセスメントを修正する		0.25 時間
5	講義内容	第 1 段階 アセスメント ～ステップ3 分析～ パターン2～3			
	該当到達目標	予習	機能的健康パターンに沿って、情報を整理し、分析する		0.5 時間
	4	復習	解説をもとに、アセスメントを修正する		0.25 時間
6	講義内容	第 1 段階 アセスメント ～ステップ3 分析～ パターン4～6			
	該当到達目標	予習	機能的健康パターンに沿って、情報を整理し、分析する		0.5 時間
	4	復習	解説をもとに、アセスメントを修正する		0.25 時間
7	講義内容	第 1 段階 アセスメント ～ステップ3 分析～ パターン7～11			
	該当到達目標	予習	機能的健康パターンに沿って、情報を整理し、分析する		0.5 時間
	4	復習	解説をもとに、アセスメントを修正する		0.25 時間
8	講義内容	第 1 段階 アセスメント ～ステップ3 分析～／～ステップ4 統合～			
	該当到達目標	予習	機能的健康パターンに沿って、情報を整理し、分析する		0.5 時間
	4, 5	復習	解説をもとに、アセスメントを修正する		0.25 時間
9	講義内容	第 1 段階 アセスメント ～ステップ4 統合～ 関連図の作成			
	該当到達目標	予習	アセスメントをもとに、関連図を作成する		0.5 時間
	5	復習	講義内容をもとに、関連図の作成と修正を行う		0.25 時間
10	講義内容	関連図の発表			
	該当到達目標	予習	関連図を作成し、他者に伝えられるよう準備を行う。		0.5 時間
	5	復習	他者の発表をもとに、自己の関連図を修正する		0.25 時間
11	講義内容	第 2 段階 看護問題の明確化～看護診断～			
	該当到達目標	予習	看護問題に看護診断ラベルを付ける		0.5 時間
	5	復習	講義内容をもとに、看護診断ラベルを修正し、理解を深める		0.25 時間
12	講義内容	第 2 段階 看護問題の明確化～優先順位の決定～ 看護診断リストの作成			

	該当到達目標	予習	看護診断の優先順位を考え、リストを作成する	0.5 時間
	5, 6	復習	講義内容をもとに、自分の付けた優先順位を修正し、理解を深める	0.25 時間
13	講義内容	第3段階 看護計画 ～期待される成果～		
	該当到達目標	予習	看護計画の期待される成果を考え、設定する	0.5 時間
	6, 7	復習	講義内容をもとに、期待される成果を修正し、理解を深める	0.25 時間
14	講義内容	第3段階 看護計画 ～プランの立案～ / SOAP 記録		
	該当到達目標	予習	看護計画のプランを立案する	0.5 時間
	7	復習	講義内容をもとに、看護計画を修正し、理解を深める	0.25 時間
15	講義内容	第4段階 評価 ～看護計画の実施・結果・評価～ / まとめ		
	該当到達目標	予習	看護計画の実施・結果・評価を記載する	0.5 時間
	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7	復習	講義で行った看護計画の評価をもとに、看護過程のプロセスについて理解を深める	0.25 時間
合計時間(予習・復習)				11.15 時間
備考	1. 授業の進め方 ・提示された個人ワークは必ず取り組むこと ・個人ワークで実施した後に行うグループワークでは、積極的に意見交換し、考え方を深める機会とする。 ・単位修得に必要な時間を満たしていない場合 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 2. オンライン授業での出席の登録・確認 ・出席の登録は、C-learning の下記1)～3)のいずれかの方法で行う。方法は「ニュース」で確認すること。 1)「小テスト」で設問へ解答する。 2)「レポート」の課題を提出する。 3)「アンケート」の提出。 ■実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	基礎看護学実習Ⅰ（看護専門科目群・専門分野Ⅰ・基礎看護学）						科目ナンバリング	NRS115B		
英文名	Fundamental Nursing PracticumⅠ						講義形態	講義		
担当教員	鶴田晴美 廣井寿美 桐山勝枝 伊藤歩美 西林京子									
科目に関連した実務経験	臨床看護師として病院に勤務									
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修が必須となる資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針との対応	4	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	4	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	③16									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○	○	○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法	実習記録についてコメントを付し返却する。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①看護学概論、コミュニケーション演習などの既習知識を総合し、旧高崎地域に暮らし施設（長寿センター）を利用している対象者とのコミュニケーションをとおして、対象の言動や反応から健康に対する思いや考えを理解する。 ②施設実習により実際に対象と接し、コミュニケーションを取り、振り返りながら学習する。									
到達目標	1. 対象とのコミュニケーションをとおして、対象に応じたコミュニケーション方法を理解し行動することができる。■ 2. 対象とのコミュニケーションをとおして、対象の日常生活の過ごし方や健康に対する思いについて述べるができる。■ 3. 実習における行動をとおして、看護者の倫理的態度を身につけることができる。■									
使用教材	臨地実習要項 基礎看護学実習Ⅰ要項 講義資料「コミュニケーション演習」「看護学概論」「地域包括ケア論」									
参考文献	配布資料									
評価方法	1. 対面の場合：実習中の看護実践（60 点）、実習に取り組む倫理的態度（20 点）、課題レポート（20 点） 2. 学内実習またはオンラインの場合：課題記録（60 点）、実習に取り組む倫理的態度（20 点）、課題レポート（20 点） ＊実習評価表に沿って、総合的に評価する。60 点以上を合格とする。									
課題に対するフィードバック	実習の最後の個人面談の際に、実習担当者より実習内容に関するコメントを口頭で行う。 実習記録、課題レポートに関しては、実習担当者よりコメントを付して返却する。 （対面講義でもオンライン講義でも同様）									
オフィスアワー（研究室）	鶴田 木曜日 5 時限 （5 号館3階 鶴田 302 研究室）				メールアドレス （#→@）		tsuruta-h#takasaki-u.ac.jp			
講義内容	実習内容（施設実習および学内実習 計 5 日間の実習） 1. 実習オリエンテーションにより実習目標が理解できるように準備状態を整える。 2. 施設にてオリエンテーションを受け、実習目標が達成できるよう準備状態を整える。 3. 施設実習 ■ 1)施設の活動に参加し、対象と共に時間を過ごし交流する。 2)対象に応じたコミュニケーション方法について考え、実践する。 3)対象とのコミュニケーションをとおして、対象の日常生活の過ごし方やニーズについて聴く。 4)1)～3)を踏まえて、地域で暮らしている対象者の生活や健康に対する思いを考察する。 4. 施設実習では、対象と関わり、コミュニケーションをとおして、対象の思いに気づくことができるよう、既習のコミュニケーション技法を活用する。また、カンファレンスをとおして、自分の感じ考えたことを言語化し、他者に伝え、意見交換する機会とする。さらに、カンファレンスをとおして他者の学びを共有する。■									

	5. 実習をとおして看護者としての基本的な態度(倫理的態度)について考え、行動する。■		
	6. 最終日は、実習での体験を基に、実習目標1～2について具体的に振り返り、学びをプレゼンテーションする。		
	予習	既習学習の復習	適宜 時間
	復習	実習での体験を振り返り、指定された記録用紙に学びを記載する。	適宜 時間
合計時間(予習・復習)			時間
備考	実習科目の単位修得については、実習の規定に準じる。 オンライン授業での出席の登録・確認 ・出席の登録は、C-learning の下記1)～2)のいずれかの方法で行う。 1)出席登録する。 2)「レポート」の課題を提出する。 3)「アンケート」を提出する。 本実習は、2 年次に行われる基礎看護学実習Ⅲを履修する条件の一つとなる。 ■:実務経験に基づく内容を示す。		

科目名	基礎看護学実習Ⅱ（看護専門科目群・専門分野Ⅰ・基礎看護学）			科目 ナンバリング	NRS116B
英文名	Fundamental Nursing Practicum Ⅱ			講義形態	実習
担当教員	廣井寿美、鶴田晴美、桐山勝枝、伊藤歩美、西林京子				
科目に関連した 実務経験	看護師として病院に勤務（経験）				
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	必修1単位		
履修が必須となる 資格	アイテムを選択してください。				
学位授与方針 との対応	4	人間理解と倫理観	0	国際理解	
	4	論理的思考力・問題解決力	1	生涯学習力	
	1	チームの一員としての協調・協働			
SDGs との関連	③			⑬	
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	病院における看護活動の実際を見学することとおして、入院生活が個々の人間の生活に与える影響を理解するとともに、対象を取り巻く療養環境および看護の役割・機能について理解する。また、対象とのコミュニケーションをとおして、人間関係を築き、対象の思いを理解する。				
到達目標	1. 看護者からの説明や対象とのコミュニケーションをとおして、疾病や障害・入院が対象の日常生活に与える影響を理解する。■ 2. 発達段階の特徴を踏まえて対象に関心に向け、コミュニケーションを図ることとおして、対象の言動や反応から対象の思いを理解する。■ 3. 対象に行われる日常生活援助および検査・治療過程に関連する看護ケアを見学することとおして、対象に必要な看護を判断し実施する必要性と看護の役割を理解する。■ 4. 実習における行動をとおして、看護師としての倫理的態度を身につける。				
使用教材	臨地実習要項、基礎看護学実習Ⅱ要項				
参考文献	看護学概論の講義資料、コミュニケーション演習講義資料				
評価方法	①対面の場合：実習中の看護実践・倫理的態度・学習態度（80 点）、課題レポート（20 点） ②オンラインの場合：課題取り組み・実習に取り組む倫理的態度（80 点）、課題レポート（20 点） ＊実習評価表に沿って総合的に評価する。60 点以上を合格とする。 （対面授業でもオンライン授業でも同様）				
課題に対する フィードバック	実習の最後の個人面談の際に、実習担当者より学習内容に関するコメントを口頭で行う。 課題レポートに関しては、実習担当者よりコメントを付して返却する。				
オフィスアワー （研究室）	廣井：火・木・金曜日2・3時限の間		メールアドレス （#→@）	廣井：hiro-i-t#takasaki-u.ac.jp	
講義内容	学習内容（病院実習および学内実習 計 5 日間の実習） 1. 実習オリエンテーションにより実習目標が理解できるように準備状態を整える。 2. 実習病院にて病院の概要および実習の心構え、倫理、リスクマネジメント、感染対策についてオリエンテーションを受け、実習目標が達成できるよう準備状態を整える。 3. 臨地実習は病棟実習を行う。 1) 看護師と共に行動し、患者への対応の仕方、看護師の役割について観察する。 2) 受け持ち患者を持ち、患者の療養環境について考える。また患者に必要な日常生活援助に関する看護援助を見学し、考える。 3) 1～3を踏まえて、看護の役割について考察する。 看護ケア見学の場面では、患者のおかれている状況から、ケアの方法についての意味づけができるよう実務経験を基に指導する。■ 4. 1～3をふまえて看護者としての基本的な態度（倫理的態度）を身につけることを促す。 5. 病院実習では、患者（家族）との関わり、コミュニケーションをとおして、患者の思いに気づくことができるよう、既習のコミュニケーション技法を活用する。また、カンファレンスをとおして、自分の感じ考えたことを言語化し、他者に伝え、意見交換する機会とする。カンファレンスをとおして他者の学びを共有する。 6. 学内実習は、病院実習での体験を基に、実習目標1～4について具体的に振り返り、学びをまとめ、プレゼンテーションする。				
	予習	当日の実習目標および行動計画を考え記述する。			適 宜 時間

	復習	実習での体験を振り返り、指定された記録用紙に観察した場面及び考えたことを記載する。その日の学習目標を評価する。	適宜	時間
合計時間(予習・復習)				時間
備考	実習科目の単位修得については、実習の規定に準じる。 オンライン授業での出席の登録・確認 ・出席の登録は、C-learning の下記1)～2)のいずれかの方法で行う。方法は「ニュース」で確認すること。 1)「レポート」の課題を提出する。 2)「アンケート」の提出。 ■:実務経験に基づく内容を示す。 本実習を合格することで、2年次に行われる基礎看護学実習Ⅲを履修する条件の一つとなる。十分に注意して学習すること。			

科目名	基礎看護学実習Ⅲ(看護専門科目群・専門分野Ⅰ・基礎看護学)					科目ナンバリング	NRS213・B			
英文名	Fundamental Nursing Practicum Ⅲ					講義形態	実習			
担当教員	鶴田晴美 廣井寿美 桐山勝枝 伊藤歩美 西林京子									
科目に関連した実務経験	看護師として病院に勤務(経験)									
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数	必修 2 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	4	人間理解と倫理観			0	国際理解				
	4	論理的思考力・問題解決力			1	生涯学習力				
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGsとの関連	③16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○	○	○			○	○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	実習記録に対してコメントを付し返却する。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①基礎看護領域において学習した内容を統合し、様々な発達課題にある対象の健康問題をアセスメントし、その解決に向けて対象に必要な日常生活援助を展開する方法を学ぶ。 ②日常生活援助を中心とした看護実践の基礎を学び、患者の健康問題・健康課題に対する看護ケアについて看護過程を用いて展開する。									
到達目標	1. 対象と援助的な関係を築くための態度を身につけることができる。 2. 対象の発達段階・発達課題と特徴、対象を取り巻く環境について述べることができる。■ 3. 対象の顕在・潜在する看護問題を身体・精神・社会的側面からアセスメントすることができる。■ 4. 対象の看護問題の解決に向けた個別的な看護計画を立案・実践・評価することができる。■ 5. 看護者としての倫理的態度を身につけ行動することができる。									
使用教材	臨地実習要項、基礎看護学実習Ⅲ要項 実習に関連する授業：看護学概論、コミュニケーション演習、フィジカルアセスメント、看護技術論、日常生活援助技術、看護学方法論、基礎看護技術総合演習、治療・症状緩和技術									
参考文献	・茂野香おる他：基礎看護技術Ⅰ(第18版)、医学書院 ・仁和子他：基礎看護技術Ⅱ(第18版)、医学書院 ・ヘンダーソン・ゴードンに基づく実践看護アセスメント第3版 ニューベルヒロカワ 2,500 円 ・看護診断ハンドブック第12版 医学書院 ・検査値はやわかりガイド サイオ出版									
評価方法	対面の場合：看護実践内容(64 点)、看護者の基本的態度(倫理的態度)(28 点)、課題レポート(8 点)をもとに実習評価表に沿って、総合的に評価する。60 点以上を合格とする。 オンラインの場合：課題取り組み・実習に取り組む倫理的態度(80 点)、課題レポート(20 点)									
課題・評価に対するフィードバック方法	実習記録および実習の課題レポートは実習担当者からのコメントを付して返却する。									
オフィスアワー (研究室)	鶴田 (火曜 5 限・木曜 5 限) 研究室：5 号館3階 302 研究室				メールアドレス (#→@)	Tsuruta-h#takasaki-u.ac.jp				
講義内容	実習内容：病院実習と学内実習 (計 10 日間：60 時間) 1. 患者(家族)の反応、心配や気がかり(病気、症状、生活等)に関心を向ける。■ 2. 患者の病態や臨床所見(徴候や検査データ)と患者の症状や生活・生活行動を関連づけ記述する。 3. コミュニケーションや日常生活援助等の看護ケアをとおして、対象との人間関係を形成する。 4. 安全・安楽・自立と個別性を目指して実施した看護ケアについて振り返り、看護ケアの意味を考え述べる。■									

	5. 健康問題・健康課題に対する看護ケアについて看護過程を用いて展開する。■ 6. 看護者としての基本的な態度(倫理的態度)について考えながら行動する。 7. 実習をととしての学びを考察する。(課題レポート) 8. カンファレンスを通して自分の考えや思いを発表するとともに他者の意見を取り入れ考えを深める。		
	予習	・人間の発達段階・発達課題と、病態生理・症状・検査・治療、看護について事前学習し、記録用紙にまとめる。 ・対象に行うケアなど個別性を踏まえて計画し、助言を受けて実施に備える。	適宜
	復習	・指導を受けたことをふまえ、受け持ち患者記録を記載し追加修正する。 ・学内実習で得た学びなどを記録し、提出レポートなど記録物をまとめる。	適宜
合計時間(予習・復習)			時間
備考	実習科目の単位修得については、実習の規定に準じる。 オンライン授業での出席の登録・確認 ・出席の登録は、C-learning の書き1)～2)のいずれかの方法で行う。 1)「レポート」の課題提出 2)「アンケート」の提出 履修承認基準として、以下の(1)、(2)の条件を全て満たしていること (1)2 年前期までに開講されている看護専門科目群、基礎看護学の以下の必修科目の単位を修得していること。 看護学概論、コミュニケーション演習、フィジカルアセスメント、看護技術論、日常生活援助技術、治療・症状緩和技術、基礎看護技術総合演習、看護学方法論、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ (2)2 年前期までに看護専門科目群の成人看護学概論、老年看護学概論、精神看護学概論の単位を修得していること ■: 実務経験に基づく内容を示す。		

科目名	成人看護学概論(看護専門科目軍・専門分野・成人看護学)							科目ナンバリング	NRS117・B		
英文名	Introduction to Adult Nursing							講義形態	講義		
担当教員	石田順子・吉田久美子・砂賀道子										
科目に関連した実務経験	看護師として大学病院に勤務										
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	1 単位								
履修が必須となる資格	保健師国家試験受験資格 選択必修科目										
学位授与方針との対応	2	人間理解と倫理観				0	国際理解				
	6	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力				
	1	チームの一員としての協調・協働									
SDGsとの関連	③16										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他	
					○				○		
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①成人期にある対象の健康レベルと看護の特徴を理解し、対象の健康増進・回復、疾病から死までの看護を急性期、回復期(リハビリテーション期)、慢性期、終末期として学ぶ。また、看護を行うのに必要な理論について学ぶ。 ②講義内容の要点について、事例を用い講義を行い、質問を交えて展開する。3 人の教員がオムニバスで実施する。										
到達目標	1. 様々な健康レベルにある成人期にある対象者の特徴と看護の役割について説明できる。 2. 成人期にある対象の健康増進、疾病の回復、疾病との共存について急性期、回復期、慢性期看護を通して説明できる。また、人生の終焉についての看護を説明できる。 3. 成人看護に必要な理論について説明できる。										
使用教材	林直子他編集, 成人看護学概論, 南江堂 ISBN978-4-524-23073-0 ・毎回の授業時に構造的に記載した資料										
参考文献	講義中に紹介する										
評価方法	・授業へのコメント(CL)・レポート等を 20%(20 点) 筆記試験 80%(80 点)として評価する。 ・総合評価 60 点以上を合格とする。										
課題に対するフィードバック	・レポートにはコメントを付し、返却する。 ・定期試験の前に学習内容の要点と予習・復習の意図を関連付け資料によって示す。										
オフィスアワー (研究室)	火曜日 1～4 限 (5 号館 405 研究室 石田)				メールアドレス (#→@)		jishida#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	第1章 成人看護学の特性 成人を取り巻く状況と成人期にある人の健康問題 ■									
	該当到達目標	予習	1. 看護発達学の成人期の講義を振り返る。2. 成人看護学の対象についてテキストを読む。3. 成人期の健康についてテキストを読む							1 時間	
	1	復習	現代における成人を取り巻く環境や成人期の人が罹患しやすい疾患と予防、療養についてまとめる							2 時間	
2	講義内容	第2章 健康状態に応じた看護 1. 健康状態が急激に変化し急性の状態にある人への看護 ■									
	該当到達目標	予習	対象の特徴について、1)成人が遭遇する身体侵襲の種類と、2)急性期にある対象の健康状態の特徴についてテキストを読む							1 時間	
	2	復習	急性期にある対象の身体的・心理的变化をふまえた看護の要点をまとめる。							2 時間	
3	講義内容	第2章 健康状態に応じた看護 2. 生活機能障害のある人への看護(リハビリテーション看護) ■									
	該当到達目標	予習	1).リハビリテーションとリハビリテーション看護の定義、2).リハビリテーション看護の内容、3).リハビリテーション看護の事例について調べる。							1 時間	
	2	復習	回復期にある対象のリハビリテーションを促す看護の要点をまとめる。							2 時間	
4	講義内容	第2章 健康状態に応じた看護 3. 慢性的な経過をたどる健康障害を有する人への看護									

	該当到達目標	予習	慢性期にある対象の特徴として、1)各系統別にみた主な慢性疾患の疾患名と主な症状と治療法について調べる。(がん含)	1 時間
	2	復習	慢性期にある対象の悪化を防ぐための看護の要点をまとめる。	2 時間
5	講義内容	第2章 健康状態に応じた看護 4. 人生の最終段階にある人への看護		
	該当到達目標	予習	1).終末期と緩和ケアの定義と違い 2)全人的苦痛 3)終末期の患者に対する看護の例について調べる。	1 時間
	2	復習	終末期にある対象の全人的苦痛を緩和する看護の要点を確認する。	2 時間
6	講義内容	第3章 成人看護学の展開に活用される理論 1 ストレス理論 2 危機理論		
	該当到達目標	予習	1).ストレス理論のストレス、ストレッサー、コーピングの意味 2).危機の意味、フィンク・アギュレラの危機モデルの内容の例について調べる。	1 時間
	3	復習	強いストレスを抱える対象に向けた看護の要点をまとめ確認する。	2 時間
7	講義内容	第3章 成人看護学の展開に活用される理論 3 自己効力 4 アンドラゴジー		
	該当到達目標	予習	1)自己効力とは、2) アンドラゴジーとペタゴジーの違いを調べる。	時間
	3	復習	対象に向けた看護の要点をまとめ確認する。	時間
8	講義内容	第4章 成人看護を充実させる実践的環境と倫理【まとめ】		
	該当到達目標	予習	授業資料から第1～7回までの要点を確認する。	時間
	1, 2, 3	復習	全般的に授業内容を振り返り、到達目標に向け体系的に知識をまとめる	時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	1.単位習得に必要な時間を満たしていない場合 記載した予習・復習時間では単位習得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 2.履修条件 1)この科目は「看護学言論」を履修していることが望ましい。 3.出席の登録・確認 出席の登録は、C-learning の「出席」の確認キーを見て登録する。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	成人看護学方法論Ⅰ（専門科目群・専門分野Ⅱ・成人看護学）							科目ナンバリング	NRS214・A	
英文名	Adlut Nursing:Assesment and skill Ⅰ (Acute Care・Convalescent Care)							講義形態	講義	
担当教員	石田 順子 砂賀 道子 小野 千沙子 石下 綾乃									
科目に関連した実務経験	大学病院で看護師としての臨床経験あり									
学年・開講期	2 年 前期		選必・単位数		2 単位					
履修が必須となる資格	保健師国家試験受験資格 選択必修科目									
学位授与方針との対応	2	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	6	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	③16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①我が国の急性期・救急医療の現状を理解し、急性期・救急看護の役割、急性期・救急患者のアセスメント法、救急外来および集中治療室における看護について学習する。また、周手術期にある人とその家族の身体的、心理・社会的特徴について知識を深め、その特徴をふまえた看護実践を行うための基礎知識について学習する。また、急性期にある人の回復過程について知識を深め、具体的な看護および看護の役割について学習する。 ②オムニバス形式で実施する。									
到達目標	1.急性期・救急医療の現状および急性期・救急看護の役割について述べることができる。 2.急性期・救急に特徴的な看護方法について述べることができる 3.周手術期にある人とその家族の身体的・心理的・社会的特徴について記述できる。 4.手術を受ける人の術前・術中・術後の看護実践を行うための基礎的知識について記述できる。■ 5 急激な外科的侵襲によって危機的状態にある人の回復過程について記述できる。 6 急激な外科的侵襲によって危機的状態にある人が回復に向かうための具体的な看護と看護の役割について記述できる。■									
使用教材	・毎回の授業時に構造的に学習内容を記載した資料を配付する。 ・テキスト・・・急性期・周手術期看護論									
参考文献	各講義で紹介する									
評価方法	・レポート(またはマメテスト)20%、筆記試験 80%で評価する。 ・総合評価で 60 点以上を合格とする。									
課題に対するフィードバック	レポート等にはコメントをつけて返却する									
オフィスアワー (研究室)	火曜日 10:00～17:00 (405 研究室)				メールアドレス (#→@)		jishida#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	急性期看護の特徴と周手術期看護。手術前期の看護:手術前の患者の基本的看護								
	該当到達目標	予習	周手術期看護、手術前期の看護についてテキストを読んでおく						1 時間	
	3, 4	復習	授業資料とテキストを活用し、手術前期の患者の特徴と基本的看護技術について整理する。						2 時間	
2	講義内容	手術中の看護 手術室における患者の基本的看護								
	該当到達目標	予習	手術室における患者の看護についてテキストを読んでおく。						1 時間	
	3, 4	復習	授業資料とテキストを読み、手術室看護と手術室において提供される看護について整理する。						2 時間	

3	講義内容	手術後期の看護 術後合併症と術後の回復を促進するケア		
	該当到達目標	予習	術後合併症についてテキストを読んでおく。	1 時間
	3, 4	復習	授業資料とテキストを読み、術後合併症と回復を促進するケアについて学んだことを整理する。	2 時間
4	講義内容	急性期から回復期へ 退院に向けた指導・支援		
	該当到達目標	予習	退院に向けた指導・支援についてテキストを読んでおく	1 時間
	2, 6	復習	授業資料とテキストを読み、急性期から回復期への退院に向けた指導・支援について学んだことを整理する。	2 時間
5	講義内容	事例で考える看護①胸痛のある人の看護: 急性心筋梗塞		
	該当到達目標	予習	頭痛のある疾患についてテキスト等で調べておく。	1 時間
	1, 2, 5, 6,	復習	授業資料とテキストを読み、頭痛を訴える患者の看護の概要について学んだことを整理する。	2 時間
6	講義内容	事例で考える看護②頭痛のある人の看護: くも膜下出血・脳腫瘍 ■		
	該当到達目標	予習	頭痛のある疾患についてテキスト等で調べておく。	1 時間
	1, 2, 5, 6	復習	授業資料とテキストを読み、頭痛を訴える患者の看護の概要について学んだことを整理する。	2 時間
7	講義内容	事例で考える看護③消化機能に問題がある人の看護: 胃がん		
	該当到達目標	予習	消化機能に問題のある疾患についてテキスト等で調べておく。	1 時間
	3, 4, 5, 6	復習	授業資料とテキストを読み、摂取機能に問題のある患者の看護の概要について学んだことを整理する。	2 時間
8	講義内容	事例で考える看護④排泄機能に問題がある人の看護: 大腸がん・膀胱がん		
	該当到達目標	予習	排泄機能に問題がある疾患についてテキスト等で調べておく。	1 時間
	3, 4, 5, 6	復習	授業資料とテキストを読み、排泄機能に問題がある患者の看護の概要について学んだことを整理する。	2 時間
9	講義内容	事例で考える看護⑤運動機能に問題がある人の看護: 変形性股関節症・変形性膝関節症		
	該当到達目標	予習	運動機能に問題がある疾患についてテキスト等で調べておく。	1 時間
	3, 4, 5, 6	復習	授業資料とテキストを読み、運動機能に問題がある患者の看護について学んだことをまとめる	2 時間
10	講義内容	事例で考える看護⑥呼吸機能に問題がある人の看護: 肺がん・気胸		
	該当到達目標	予習	呼吸機能に問題がある疾患についてテキスト等で調べておく。	1 時間
	3, 4, 5, 6	復習	授業資料とテキストを読み、呼吸機能に問題がある患者の看護について学んだことをまとめる。	2 時間
11	講義内容	事例で考える看護⑦生殖機能に問題がある人の看護: 乳がん・子宮がん		
	該当到達目標	予習	生殖機能に問題がある疾患についてテキスト等で調べておく。	1 時間
	3, 4, 5, 6	復習	授業資料とテキストを読み、生殖機能に問題がある患者の看護について学んだことを整理する。	2 時間
12	講義内容	急性期看護・救急看護の現状と課題と患者の特徴		
	該当到達目標	予習	急性期・救急看護の現状についてテキストを読んでおく。	1 時間
	1, 2	復習	授業資料とテキストを活用し、急性期・救急看護と患者の特徴について学んだことを整理する。	2 時間
13	講義内容	急性期・救急看護: 救急外来・集中治療室における看護		
	該当到達目標	予習	救急外来・集中治療室における看護についてテキストを読んでおく。	1 時間
	1, 2	復習	授業資料とテキストを活用し、急性期・救急医療と患者の特徴について学んだことを整理する。	2 時間
14	講義内容	急性期・救急看護: クリティカルケアとは クリティカルケアの概念と特徴		
	該当到達目標	予習	クリティカルケアについて調べておく。	1 時間
	1, 2	復習	授業資料とテキストを活用し、クリティカルケアについて学んだことを整理する。	2 時間
15	講義内容	地域包括ケアの中での急性期看護 まとめ		
	該当到達目標	予習	配布された資料(急性期看護実習の指導事例)および 1～14 回の授業資料を読む。	1 時間
	1, 2, 3, 4, 5, 6	復習	授業資料とテキストを読み、急性期・救急・回復期について学んだことを整理する。	2 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	1.記載した予習復習の時間が単位修得に必要な時間数を満たしていない場合 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間が時間に満たないため、各自で補完すること。 2.履修条件			

この科目は、「成人看護学概論」を履修していることが望ましい。

3.ルール

課題としてレポートの提出を求めることがあるが、ワープロで仕上げる。

出席確認は C-learning で行う。

4.授業の進め方

1)教材として、主に教員の作成する講義・演習資料と視聴覚教材、シミュレーション教材などを使用する。

2)到達目標に向け学習が効果的に積み重ねられるよう、学習内容を体系的に提示し進めていく。

■:実務経験に基づく内容を示す。

科目名	成人看護学方法論Ⅱ（看護専門科目群・専門分野Ⅱ・成人看護学）							科目ナンバリング	NRS215・A	
英文名	Adult Nursing: Assessment and Skills II (Chronic Care・Palliative Care)							講義形態	講義	
担当教員	吉田久美子・福島直子・中川裕									
科目に関連した実務経験	総合病院で看護師として勤務									
学年・開講期	2 年 前期		選必・単位数		必修・1 単位					
履修が必須となる資格										
学位授与方針との対応	2	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	6	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	③16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○	○	○	○	○				○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ① 講義の目標 ②講義の実施方法	①慢性期にある対象の特徴の理解し、対象の QOL の向上を目指しセルフケアを促進する看護について習得する。また、終末期にある対象について、緩和ケアを必要としている対象の特徴と看護について習得する。 ② オムニバス形式で実施する。									
到達目標	1.慢性期にあり、生涯、疾病をマネジメントする必要のある対象の特徴について説明できる。■ 2.疾病の悪化を予防するために対象のセルフケアを促進するための看護について説明できる。■ 3.終末期にあり、緩和ケアを必要としている対象の特徴と看護について説明できる。■									
使用教材	看護学テキスト,Nice 成人看護学 慢性期看護,南江堂、ISBN978-4-524-24198-9 各講義で学習内容を体系化した授業資料を配付する。									
評価方法	参加状況・レポート 20% 筆記試験 80%で評価する。 総合評価 60 点以上を合格とする。									
課題に対するフィードバック	課題の要点を資料などで確認し、また個人のレポートにはコメントをつけて返却する									
オフィスアワー (研究室)	月曜 1～4 限(5 号館 410 研究室)				メールアドレス (#→@)		yoshikumi#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	第 1 章 慢性期にある対象の特徴と看護の基本■ 1.慢性疾患の考え方と特徴								【担当:吉田】
	該当到達目標 1, 2	予習	慢性疾患の特徴について成人看護学概論の授業資料とテキストを読んでおくこと						0.2 5	時間
		復習	講義資料を読み直し、テキストの指定部分と関連づけまとめること						0.5	時間
2	講義内容	第 1 章 慢性期にある対象の特徴と看護の基本■ 2.慢性疾患がある対象の看護の基本								【担当:吉田】
	該当到達目標 1, 2	予習	慢性疾患がある対象の特徴について、テキストの指定部分を読んでおくこと						0.2 5	時間
		復習	講義資料を読み直し、テキストの指定部分と関連づけまとめること						0.5	時間
3	講義内容	第 2 章 終末期にある対象の特徴と看護の基本■ 1.緩和ケアを受けるがん患者の特徴と看護の基本								【担当:吉田】
	該当到達目標 3	予習	成人看護学概論の授業資料の緩和ケアの定義などを読んでおくこと						0.2 5	時間
		復習	緩和ケアを必要とする対象の特徴と看護の基本について要点をまとめること						0.5	時間

4	講義内容	第2章 終末期にある対象の特徴と看護の基本■ 2.エンド・オブ・ライフ・ケアの基本			【担当:吉田】
	該当到達目標 3	予習	緩和ケアの概要について第3回の授業資料を読んでもくること	0.2 5 時間	
		復習	第4回の授業資料を読み、要点を確認しておくこと	0.5 時間	
5	講義内容	第3章 呼吸機能障害がある対象の看護■ 終末期の肺がんの患者の看護			【担当:吉田】
	該当到達目標 3	予習	呼吸器系の解剖と生理について確認しておくこと 緩和ケアの定義とWHOの主なサービスについて授業資料を読んでもくること	0.2 5 時間	
		復習	授業資料を読み、要点を確認しておくこと	0.5 時間	
6	講義内容	第4章 循環機能障害がある対象の看護■ 1.心筋梗塞の患者の看護			【担当:福島】
	該当到達目標 1, 2	予習	肺循環・体循環と心臓の解剖・生理について読んでもくること	0.2 5 時間	
		復習	テキストを読み、心筋梗塞の患者の特徴と看護をまとめておくこと	0.5 時間	
7	講義内容	第4章 循環機能障害がある対象の看護■ 2..心不全の患者の看護			【担当:福島】
	該当到達目標 1, 2	予習	右・左心不全の症状を生理学や病態と関連づけまとめておくこと	0.2 5 時間	
		復習	心不全の患者の特徴を身体的・心理的・社会的側面からまとめること	0.5 時間	
8	講義内容	第5章 造血機能障害がある対象の看護■ 白血病患者の看護			【担当:吉田】
	該当到達目標 1, 2	予習	血液の解剖生理について確認しておくこと	0.2 5 時間	
		復習	授業資料を読み直し、白血病患者の看護の要点をまとめておくこと	0.5 時間	
9	講義内容	第6章 栄養摂取・代謝障害がある対象の看護■ 肝硬変の患者の看護			【担当:福島】
	該当到達目標 1, 2	予習	肝臓の解剖生理を確認しておくこと	0.2 5 時間	
		復習	授業資料とテキストの関連部分を読み、非代償期肝硬変患者の看護の要点をまとめること	0.5 時間	
10	講義内容	第7章 内分泌機能障害がある対象の看護■ 1.甲状腺機能障害の患者の看護			【担当:中川】
	該当到達目標 1, 2	予習	大腸の解剖生理を確認しておくこと	0.2 5 時間	
		復習	授業資料とテキストの関連部分を読み、大腸がん患者の看護の要点をまとめること	0.5 時間	
11	講義内容	第7章 内分泌代謝機能障害がある対象の看護■ 2.糖尿病の患者の看護			【担当:福島】
	該当到達目標 1, 2	予習	膵臓の解剖生理と糖尿病について確認しておくこと	0.2 5 時間	
		復習	授業資料とテキストの関連部分を読み、糖尿病の患者看護の要点をまとめること	0.5 時間	
12	講義内容	第8章 腎機能障害がある対象の看護■ 慢性腎不全の患者の看護			【担当:福島】
	該当到達目標 1, 2	予習	腎臓の解剖生理と腎機能について確認しておくこと	0.2 5 時間	
		復習	授業資料とテキストの関連部分を読み、慢性腎不全患者の看護の要点をまとめること	0.5 時間	
13	講義内容	第9章 脳・神経機能障害がある対象の看護■ 難病の患者の看護			【担当:中川】
	該当到達目標 1, 2	予習	難病の定義について確認しておくこと	0.2 5 時間	
		復習	授業資料とテキストの関連部分を読み、難病の患者の看護の要点をまとめること	0.5 時間	
14	講義内容	第10章 終末期にある対象の地域包括ケア・退院支援■			【担当:吉田】

	該当到達目標	予習	緩和ケアについて成人看護学概論と成人看護学方法論Ⅱの授業資料を読んでおくこと	0.2 5 時間
	3	復習	授業資料を読み直し、緩和ケアを受ける対象の退院支援について要点をまとめておくこと	0.5 時間
15	講義内容	まとめ【担当:吉田】		
	該当到達目標	予習	授業資料から第1～14回までの要点を確認しておくこと	0.2 5 時間
	1, 2, 3	復習	授業内容を全般的に振り返り、到達目標に向け体系的に要点をまとめておくこと	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				11. 25 時間
備考	1.単位修得に必要な時間数を満たしていない場合 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間が時間に満たないため、各自で補完すること。 2.履修条件 「成人看護学概論」を履修していること。 3.ルール 課題としてレポートの提出を求めることがあるが、手書きのみとする。 4.授業の進め方 1) 教材として、テキストと教員の作成する授業資料を使用する。 2) 授業方法は、講義内容の要点について、事例を用いながら講義し、質問などに対しても具体的な説明をする。 3)到達目標に向け学習が効果的に積み重ねられるよう、学習内容を体系的に提示し進めていく。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	成人看護学演習 A(看護専門科目群・専門分野Ⅱ・成人看護学)						科目 ナンバリング	NRS216・B		
英文名	Adult Nursing Practice A						講義形態	演習		
担当教員	吉田久美子・石田順子・砂賀道子・福島直子・小野千沙子・中川裕・石下綾乃									
科目に関連した 実務経験	看護師として総合病院に勤務(経験)									
学年・開講期	2 年 後期		選必・単位数		必修・1 単位					
履修が必須となる 資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針 との対応	2	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	6	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	③16									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○	○	○	○	○	○			○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要	①成人期の発達段階や健康レベルにおける特徴を考慮し、臨床判断能力の育成も含め、看護理論などを活用した看護過程の展開方法について習得する。									
② 講義の目標	②オムニバス形式で講義と演習を組み合わせ実施する									
②講義の実施方法										
到達目標	1. 急性期・回復期における対象の特徴を考慮し、看護理論を活用し看護過程を展開できる。■ 2. 慢性期における対象の特徴を考慮し、看護理論などを活用し看護過程を展開できる。									
使用教材	看護学テキスト,Nice 成人看護学 慢性期看護,南江堂 看護学テキスト,Nice 成人看護学 急性期看護 I 概論・周手術期,南江堂 授業で資料を配付する									
評価方法	参加状況 20 点(20%)・レポート 80 点(80%)で評価する。 総合評価 60 点(60%)以上を合格とする。									
課題に対する フィードバック	学習課題のフィードバックは、構造的に要点を記載した資料で振り返ることができるよう配付する。 個人レポートには、学習内容で確認すべき点などコメントして返却する。									
オフィスアワー (研究室)	月曜日 1～4 限 (5 号館 410 研究室)				メールアドレス (#→@)		yoshikumi#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	第1章 成人看護学における看護過程 1【講義】■ Ⅰ.看護専門職における看護過程の目的と重要性 Ⅱ.問題解決思考としての各プロセス Ⅲ.プロセスの概要 1.クラスタリングと各パターンの分析方法 2.分析結果を統合した全体像における看護問題のとらえ方								
		該当到達目標	予習	ゴードンの機能的健康パターンについて、各パターンの焦点と各パターンで問題へつながりやすい主要な看護診断ラベルの定義について読んでおくこと					15	分
	1,2	復習	第 1 回の授業資料を読み、第 1 回の授業目標に対する学びを整理しておくこと					30	分	
2	講義内容	第1章 成人看護学における看護過程 2【講義】■ Ⅲ.プロセスの概要 3.看護問題の種類に応じた表現と、各種類に対応する患者目標の表現 4.患者目標に向け必要な 3 種類の看護計画の着眼点と表現方法 5.看護計画から実施、評価の方法 6.プロセス全体における一貫性								
		該当到達目標	予習	第 1 回の授業資料を読み、特に授業資料にある要点を確認しておくこと					15	分
	1,2	復習	第 2 回の授業資料を読み、成人看護学の看護過程の要点について確認しておくこと					30	分	
3	講義内容	第 2 章 急性期・回復期にある対象の看護過程 1【講義・演習】■ 1. 事例紹介 2. 手術・麻酔侵襲と急性期のアセスメントの視点								

	該当到達目標 1	予習	第 1～2 回の講義資料を読む、成人看護学方法論Ⅰの「手術侵襲」の講義資料を読む	15	分
		復習	事例について情報を整理する	30	分
4	講義内容	第 2 章 急性期・回復期にある対象の看護過程 2【講義・演習】■ 術後合併症予防と回復期に向けたアセスメントの視点			
	該当到達目標 1	予習	事例の疾患、術式、術後合併症について調べる	15	分
		復習	術後合併症予防と術後の回復について整理する	30	分
5	講義内容	第 2 章 急性期・回復期にある対象の看護過程 3【講義・演習】■ 急性期特有の看護診断・共同問題と優先順位			
	該当到達目標 1	予習	第 3 回・4 回の講義を踏まえ個人でアセスメントを進めておく	15	分
		復習	問題リストの作成と、共同問題について要点を整理する	30	分
6	講義内容	第 2 章 急性期・回復期にある対象の看護過程 4【講義・演習】■ 関連図①(全体像の示し方、病態から手術・麻酔、術後合併症を踏まえて作成する)			
	該当到達目標 1	予習	アセスメント・問題リストを進めておく	15	分
		復習	講義を踏まえて関連図を作成する	30	分
7	講義内容	第 2 章 急性期・回復期にある対象の看護過程 5【講義・演習】■ 関連図②(手術・麻酔、術後合併症、退院後の生活を見据えて全体を統合する)			
	該当到達目標 1	予習	関連図を進めておく	15	分
		復習	講義を踏まえて関連図を作成する	30	分
8	講義内容	第 2 章 急性期・回復期にある対象の看護過程 6【講義・演習】■ 看護計画①術後患者の看護問題・共同問題に対応した目標設定 看護問題・共同問題の具体策のポイント			
	該当到達目標 1	予習	今までの講義資料と自己の課題を見直しておく	15	分
		復習	講義を踏まえて看護計画を進める	30	分
9	講義内容	第 2 章 急性期・回復期にある対象の看護過程 7【講義・演習】■ 看護計画②退院後を見据えた看護計画 計画の評価と修正			
	該当到達目標 1	予習	今までの講義資料と自己の課題を見直しておく	15	分
		復習	講義を踏まえて看護計画を作成する	30	分
10	講義内容	第2章 第 3 章 慢性期にある対象の看護過程 1【演習】■ 1.慢性疾患患者の特徴と、健康知覚・健康管理パターンの情報と分析の意味 2.慢性疾患患者の身体的変化を考慮した各パターンの注目の仕方			
	該当到達目標 2	予習	第 1 回～第 2 回の授業資料を読み直しておくこと	15	分
		復習	本時の目標に対する課題と授業資料を関連づけ読んでおくこと	30	分
11	講義内容	第3章 第 3 章 慢性期にある対象の看護過程 2【演習】■ 3.慢性疾患患者における 11 パターンの分析に必要な知識 4.慢性疾患患者の身体的回復に向けた分析の着眼点と方向性			
	該当到達目標 2	予習	第 10 回の授業資料を読んでおくこと	15	分
		復習	課題と授業資料を関連づけ読んでおくこと	30	分
12	講義内容	第4章 第 3 章 慢性期にある対象の看護過程 3【演習】■ 5.慢性疾患患者の分析結果の統合と全体像 6.慢性疾患患者の全体像から導き出す看護問題			
	該当到達目標 2	予習	第 11 回の授業資料を読んでおくこと	15	分
		復習	課題と授業資料を関連づけ読んでおくこと	30	分
13	講義内容	第5章 第 3 章 慢性期にある患者の看護過程 4【演習】■ 7.慢性疾患患者の看護問題の種類と表現 8.慢性疾患患者の看護問題に対応した患者目標			
	該当到達目標 2	予習	第 12 回の授業資料を読んでおくこと	15	分
		復習	課題と授業資料を関連づけ読んでおくこと	30	分
14	講義内容	第6章 第 3 章 慢性期にある患者の看護過程 5【演習】■ 9.慢性疾患患者の将来像と、患者目標の段階的設定 10..慢性疾患患者の個別性を考慮した看護計画の立案			
	該当到達目標 2	予習	第 13 回の授業資料を読んでおくこと	15	分
		復習	課題と授業資料を関連づけ読んでおくこと	30	分

15	講義内容	第7章 第3章 慢性期にある患者の看護過程 6 【演習】■			
		11.慢性疾患患者の看護計画の実践における配慮 12.実践と評価の関連づけと、一連のサイクル			
	該当到達目標 2	予習	第10～14回の授業資料の要点を読んでおくこと	15	分
		復習	第10～14回の授業資料の要点をまとめておくこと	30	分
合計時間(予習・復習)					11時間15分
備考	1.単位修得に必要な時間数を満たしていない場合 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間が時間に満たないため、各自で補完すること。 2.履修条件 この科目は「成人看護学概論」「成人看護学方法論Ⅰ」「成人看護学方法論Ⅱ」を履修していること。 3.ルール 課題としてレポートの提出を求めることがあるが、手書きとする。 4.授業の進め方 1)教材として、主に教員の作成する授業資料を使用する。 2)授業方法は、講義内容の要点について、事例を用いながら講義し、質問などに対しても具体的な説明をする。 3)到達目標に向け学習が効果的に積み重ねられるよう、学習内容を体系的に提示し進めていく。 4)オンラインで行う場合は、具体的な学習方法などについて別途連絡する。 ■:実務経験に基づく内容を示す。				

科目名	成人看護学演習 B(看護専門科目群・専門分野Ⅱ・成人看護学)						科目 ナンバリング	NRS217・B		
英文名	Adult Nursing: Assessment and Skills B						講義形態	演習		
担当教員	砂賀道子・吉田久美子・石田順子・福島直子・中川裕・小野千沙子・石下綾乃									
科目に関連した 実務経験	看護師として総合病院に勤務(経験)									
学年・開講期	2 年 後期		選必・単位数		必修 1 単位					
履修が必須となる 資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針 との対応	2	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	6	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	3 16									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○	○	○			○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①成人期にある対象の各健康レベルにおける特徴をふまえ、根拠に基づいた看護援助を行うために必要な知識・技術を習得する。 ②グループワークを取り入れながら、事前学習、演習実施、振り返りと一連のシミュレーション教育の流れに沿って実施する。									
到達目標	3. 急性期・回復期にある対象の身体的状況と回復状態をアセスメントするための観察技術と術後合併症の予防、および早期回復に向けた看護援助方法を実施できる。 4. 急性期・救急看護において必要な心肺蘇生法を実施できる。 5. 慢性期にある対象の検査に伴う看護援助を、状態を考慮しながら実施できる。 6. 慢性期にある対象のセルフケアを促す看護援助を、計画に基づき実施できる。 7. 終末期にある対象の症状の緩和を考慮し、日常生活援助が実施できる。									
使用教材	【急性期・回復期】 1. 「術後観察演習ノート」 2. BLS マニュアル、CPR に関する DVD 等 3. 各授業で必要な資料を配布する 【慢性期・終末期】 1. 授業で必要な資料を配布する。									
参考文献	授業時に学習内容に適した文献を紹介する。									
評価方法	定期試験 60 点(60%)、参加状況と演習レポート 40 点(40%)で評価する。 総合評価 60 点(60%)以上を合格とする。									
課題に対する フィードバック	1. 毎回の授業時に構造的に学習内容を記載した資料を配付する。 2. 演習を実施した際には自己評価と感想などのレポートを課す。 レポートに関してはコメントを付して返却する									
オフィスアワー (研究室)	火曜日 1～4 限 (5 号館 408 研究室)				メールアドレス (#→@)		sunaga#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	オリエンテーション(演習の進め方、術後観察ノートの活用、事前学習等) 【急性期・回復期】術後観察①<演習>:術後合併症の観察項目と観察ポイント■								
	該当到達目標	予習	成人看護学方法論Ⅰの「第 6 回・第 7 回 術後の看護」の講義資料を読む。						15	分
	1	復習	配布した術後観察ノートを参考に観察項目とアセスメントの視点を明確にする。						30	分
2	講義内容	【急性期・回復期】術後観察②<演習>:早期離床のケア計画立案								
	該当到達目標	予習	早期離床のメリットなどについて教科書 急性期看護Ⅰ(P146～148)を読む。						15	分

	1	復習	術後患者の特徴を理解し、早期離床のケア計画を作成する。	30	分
3	講義内容	【急性期・回復期】術後観察③<演習>術後合併症の観察とアセスメント			
	該当到達目標	予習	術後合併症ごとの観察項目を挙げ、観察方法を調べておく。	15	分
	1	復習	演習の振り返りをレポートに記載する。	30	分
4	講義内容	【急性期・回復期】術後観察④<演習>術後早期離床の援助			
	該当到達目標	予習	早期離床のケア計画が実施できるようシミュレーションをしておく。	15	分
	1	復習	演習後の振り返りを行い、ケア計画を完成させる。	30	分
5	講義内容	【急性期・回復期】一次救命処置(BLS)①<講義>:一次救命処置(BLS)とその一連の流れ■			
	該当到達目標	予習	教科書 急性期看護Ⅱの第Ⅸ章を読む	15	分
	2	復習	BLSの流れとCPRの実際について要点を整理する	30	分
6	講義内容	【急性期・回復期】一次救命処置(BLS)②<演習>:心肺蘇生法(CPR)の実際			
	該当到達目標	予習	演習資料を読み CPRのアルゴリズムを確認する	15	分
	2	復習	実施したCPRについて要点を整理する	30	分
7	講義内容	【急性期・回復期】一次救命処置(BLS)②<演習>:心肺蘇生法(CPR)の実際			
	該当到達目標	予習	演習資料を読み CPRのアルゴリズムを確認する	15	分
	2	復習	実施したCPRについて要点をまとめ自己の課題を記述する	30	分
8	講義内容	【慢性期】循環器系に障害がある対象の看護 心筋梗塞の患者の身体状態の観察と記録・報告			
	該当到達目標	予習	成人看護学方法論Ⅱ「心筋梗塞の患者の看護」の授業資料を活用し、病態、症状、観察項目を関連づけ整理する。	15	分
	3	復習	観察した内容の解釈を記載する。	30	分
9	講義内容	【慢性期】循環器系に障害がある対象の看護 心筋梗塞で標準12誘導心電図検査を受ける患者の観察と援助			
	該当到達目標	予習	演習資料を読み、標準12誘導心電図検査の手順を確認する	15	分
	3	復習	標準12誘導心電図検査を受ける患者の援助の要点をまとめる。	30	分
10	講義内容	【慢性期】内分泌代謝機能に障害がある対象の看護: 糖尿病の患者のセルフケアを促す看護① 自己血糖測定の実際			
	該当到達目標	予習	演習資料を読み、自己血糖測定の方法を理解する。	15	分
	4	復習	自己血糖測定のポイントを整理する。	30	分
11	講義内容	【慢性期】内分泌代謝機能に障害がある対象の看護: 糖尿病の患者のセルフケアを促す看護② 教育支援案の作成			
	該当到達目標	予習	演習資料を読み、患者教育支援の演習目標と課題を確認する。	15	分
	4	復習	自己血糖測定の教育支援のポイントを整理する。	30	分
12	講義内容	【慢性期】内分泌代謝機能に障害がある対象の看護: 糖尿病の患者のセルフケアを促す看護③ 患者教育支援のロールプレイ			
	該当到達目標	予習	演習資料と第11回に学習した教育支援のポイントを読む。	15	分
	4	復習	患者教育支援のロールプレイから、支援方法の要点と自己の課題を記述する	30	分
13	講義内容	【終末期】エンドオブライフケア・緩和ケアを受けるがん患者を対象に疼痛のアセスメントと援助			
	該当到達目標	予習	成人看護学方法論Ⅱ 3回目の授業資料 緩和ケアやがん患者の疼痛について読んでくこと。	15	分
	5	復習	がん患者の疼痛緩和に向けた援助の要点をまとめる。	30	分
14	講義内容	【終末期】エンドオブライフケア・緩和ケアを受けるがん患者を対象に、エネルギーの消耗を最小限にした日常生活援助			
	該当到達目標	予習	成人看護学方法論Ⅱ 3回目の授業資料 緩和ケアを受けるがん患者の特徴を読み直してくこと。	15	分
	5	復習	がん患者の状態を考慮し、エネルギーの消耗を最小限にした日常生活援助の要点をまとめる。	30	分
15	講義内容	【まとめ】			
	該当到達目標	予習	今までの演習資料、関連する資料を見直す	15	分
	1～5	復習	演習内容を振り返り、それぞれの看護援助・技術の要点をまとめる	30	分

合計時間(予習・復習)		11 時間 15 分
備考	●後期(後半 2 コマ続き)	
	1.単位修得に必要な時間数を満たしていない場合 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間が時間に満たないため、各自で補完すること。 2.履修条件 「成人看護学概論」「成人看護学方法論Ⅰ」「成人看護学方法論Ⅱ」を履修していること。 3.ルール 1)課題としてレポートの提出を求めることがあるが、手書きとする。 2)事前課題は必ず行い、演習に臨むこととする。 4.授業の進め方 1)教材として、主に教員の作成する講義・演習資料と視聴覚教材、シミュレーション教材などを使用する。 2)演習方法は1)をふまえ、その内容の要点を説明し、デモンストレーションを行いグループで学習を行う。 質問などに対しても具体的な説明をする。 3)到達目標に向け学習が効果的に積み重ねられるよう、学習内容を体系的に提示し進めていく。 ■:実務経験に基づく内容を示す。	

科目名	セルフケア論(看護専門科目群・専門分野Ⅱ・成人看護学)							科目ナンバリング	NRS218・B		
英文名	Self-care Theory in Nursing							講義形態	講義		
担当教員	吉田久美子										
科目に関連した実務経験	看護師として総合病院で勤務した経験を有する										
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数	選択・1 単位								
履修が必須となる資格											
学位授与方針との対応	2	人間理解と倫理観					0	国際理解			
	6	論理的思考力・問題解決力					1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働									
SDGs との関連	3 16										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他	
	○	○	○						○		
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要	①慢性疾患がある対象にセルフケアと関連する理論について理解し、対象のセルフケアを促進するための看護の方法について習得する。										
①講義の目標	②主に講義形式で進め、一部学習内容に応じ演習形式を取り入れ行う。										
②講義の実施方法											
到達目標	1. 慢性疾患がある対象に活用するセルフケアと関連する理論について説明できる。■ 2. 対象のセルフケアを促進するための看護の方法について説明できる。■										
使用教材	毎回の授業時に学習内容を構造的に記載した資料を配付する。										
評価方法	小テスト 90 点 (90%)、参加状況とレポート 10 点 (10%) の割合で、総合評価 60% 以上を合格とする。										
課題に対するフィードバック	①レポートにはコメントなどを付けて返却する。 ②筆記試験前に学習内容の要点と予習・復習の意図を関連付け資料によって示す。										
オフィスアワー (研究室)	月曜日 1～3 限 (5 号館 410 研究室)					メールアドレス (#→@)	yoshikumi#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	第1章 セルフケアの基本 1.セルフケアの定義と関連する理論■									
	該当する到達目標 1	予習	アンドラゴジーと自己効力感理論について、成人看護学概論のテキストを読んでおくこと。						1.5	時間	
		復習	授業資料を読み要点を確認しておくこと						1.5	時間	
2	講義内容	第1章 セルフケアの基本 2.オレムのセルフケア理論■									
	該当する到達目標 1,2	予習	セルフケアについて成人看護学概論のテキストを読んでおくこと。						1.5	時間	
		復習	授業資料を読み要点を確認しておくこと						1.5	時間	
3	講義内容	第2章 セルフケアを促進する看護の方法 1.慢性疾患患者のセルフケアを促進する看護の方法■									
	該当する到達目標 1,2	予習	第1回目・2回目の授業資料を読み直しておくこと						1.5	時間	
		復習	授業資料のポイントを確認しておくこと						1.5	時間	
4	講義内容	第2章 セルフケアを促進する看護の方法 2.がんとともに生きる患者のセルフケアを支える看護■									
	該当する到達目標	予習	緩和ケアの定義と主なサービスについて、成人看護学概論の授業資料を読んでおくこと。						1.5	時間	

	1,2	復習	がん患者のセルフケアを支援する看護の要点をまとめておくこと。	1.5	時間
5	講義内容	第2章 セルフケアを促進する看護の方法 1-1 リハビリテーション看護を基盤にした看護の方法 ■			
	該当する到達目標	予習	第1回～第2回の授業資料を読んでおくこと	1.5	時間
	1,2	復習	第5回の授業資料を読み直し、要点を確認しておくこと	1.5	時間
6	講義内容	第2章 セルフケアを促進する看護の方法 1-2.リハビリテーション看護を基盤にした看護の方法 ■			
	該当する到達目標	予習	第5回の授業資料を読んでおくこと	1.5	時間
	1,2	復習	ADLの支援を中心にリハビリテーション看護の要点をまとめ確認する。	1.5	時間
7	講義内容	【まとめ】			
	該当する到達目標	予習	第1～6回の授業資料の要点を読んでおくこと	1.5	時間
	1,2	復習	第7回の授業資料の課題に取り組むこと	1.5	時間
8	講義内容	【まとめ・小テスト】			
	該当する到達目標	予習	第1～7回の授業資料の要点を読んでおくこと		時間
	1,2	復習	第8回の授業資料の課題に取り組むこと	1.5	時間
合計時間(予習・復習)				24	時間
備考	1.単位修得に必要な時間数を満たしていない場合 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間が時間に満たないため、各自で補完すること。 2.履修条件 この科目は「成人看護学概論」「成人看護学方法論Ⅱ－A」を履修していることが望ましい。 3.ルール 課題としてレポートの提出を求めることがあるが、手書きのみとする。 4.授業の進め方： 1)教材としてテキストと教員の作成する授業資料を使用する。 2)授業方法は、講義内容の要点について、事例を用いながら講義し、質問などに対しても具体的な説明をする。 3)到達目標に向け学習が効果的に積み重ねられるよう、学習内容を体系的に提示し進めていく。 5.その他 ■：実務経験に基づく内容を示す。				

科目名	成人・老年看護学実習Ⅰ（看護専門科目群・専門分野Ⅱ・成人看護学）							科目ナンバリング	NRS310・C	
英文名	Adult & Elder Nursing: PracticumⅠ (Acute Care・Convalescent Care)							講義形態	講義	
担当教員	石田 順子 砂賀 道子 小野 千沙子 石下綾乃									
科目に関連した実務経験	看護師として大学病院に勤務									
学年・開講期	3年 通年		選必・単位数		通年・2単位					
履修が必須となる資格	保健師国家試験受験資格 選択必修科目									
学位授与方針との対応	2	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	6	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGsとの関連	③					16				
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○	○	○	○	○		
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 急性期・回復期に問題のある成人・老年期の対象を総合的にとらえ、健康障害からの回復と社会復帰に向けた看護を学習する。また、地域ケアシステムの視点から退院後の生活を踏まえたセルフケアを高めるための指導及び支援について学習する。 ② 期間は、2週間とする。8日間を臨地実習、3日間を学内実習とする。									
到達目標	1. 急性期・回復期にある対象の身体的・心理的・社会的特徴を述べることができる。 2. 対象の看護上の問題を把握し、解決に向けて看護計画を立案、実施、評価できる。 3. 対象のストレスとコーピング、またはボディイメージ変化の受容、喪失と悲嘆のプロセスに対し、必要な援助を行うことができる。 4. 急性期にある対象の著しい身体的変化とそれに伴う心理的状态をとらえ、必要な援助を行うことができる。 5. 回復期にある対象の回復段階を踏まえ、心身の回復や社会復帰に向けた援助を行うことができる。 6. 急性期・回復期に携わる医療チームの役割と連携について述べることができる。 7. 必要な社会資源の活用や継続支援の方法について述べることができる。 8. 退院に向け、地域包括ケアを踏まえた調整と支援について考えることができる。									
使用教材	1. 成人・老年看護学実習Ⅰの実習要項 2. 成人看護学方法論Ⅰで使用したテキストおよび講義資料、術後観察ノート 3. 看護診断ハンドブック(医学書院)									
参考文献	適宜紹介する。									
評価方法	急性期・回復期にある患者を受け持ち看護過程を展開し、受け持ち患者に応じた看護を行う。実習評価表に基づき評価を行い、実習目標の達成 70%、実習の態度(カンファレンス参加度も含む) 20%、出席 10%とし、総合評価 60点以上で合格とする。									
課題に対するフィードバック	・ 実習期間中の記録等については、その都度、担当教員からのコメントを付して返却する。 ・ 追加・修正された箇所においても担当教員がコメントする。 ・ カンファレンス等においては、指導者・担当教員および成人看護学Ⅰの教員がコメントするとともに、学生間で共有する。									
オフィスアワー(研究室)	金曜日(405研究室)				メールアドレス (#→@)		jishida#takasaki-u.ac.jp			
講義内容	I.実習内容 1. 急性期または回復期の健康障害を持つ患者を受け持ち、受け持ち患者の看護過程を展開し、看護計画に沿った援助を提供する。また、受け持ち患者と関連する病棟以外の部門(手術、ICU、									

	透析等)において見学実習を行う。受け持ち患者が治療により受ける侵襲を理解し、その心身の回復に向けた援助につなげる。 2. カンファレンス(グループ・全体)を行い、学びを深める。 3. 看護過程記録、事前レポート、終了時レポート等に記録を行う。 II.実習計画 実習は、2 週間のうち 7 日間は病院実習を行う。3 日間は、学内で学びを深めるためのカンファレンスを通して、意見交換を行う。そして、2 週間を通して、学んだことを体系的にまとめ、地域包括ケアを踏まえ、今後必要となる社会資源の活用や継続支援について記述する。		
	予習	急性期・回復期実習に必要な知識(事前学習課題)について学習する。 受け持ち患者の疾患レポートを作成する。 実習の目標を達成するために学習計画を立てる。 手術見学等を行う場合は、見学願いを作成する。	適宜
	復習	実習で指導を受けたことを踏まえ、病院実習の中で得られた情報をもとに、受け持ち患者記録を整理する。また、整理した記録から対象に必要な援助及び日常生活指導や退院指導を導き出し、準備を進めていく。 手術見学や ICU(HCU) 見学を行った時は、学びを見学レポートにまとめる。 日々の実習を考察し、提出レポート等の記録をまとめる、	適宜
合計時間(予習・復習)			適宜
備考	1. 指導体制 ・1 グループ 5～6 名の学生に教員 1 名と病院の指導者 1 名がついて、指導を行う。 ・学生が受け持ち患者の看護問題を導き出す過程では、事前学習や疾患レポート等を用いて指導を行う。 ・看護ケアを施行する時は、学生の知識を確認し、ケアを提供する。 ・実務経験をふまえた指導を行う。 2. ルール ・体調管理に留意し、必要時、担当教員に相談・報告する。 ・記録やメモ帳に患者の個人情報に記載しない。 ・記録物の取り扱いには十分な注意を払う。(決められた場所以外での記録を禁ずる) 3. 履修要件 ☐ 受講するためには臨地実習科目の履修承認基準を満たしていることが必要となる。 4. その他 実習方法が変更になる場合には、具体的な学習方法について別途連絡する。		

科目名	成人・老年看護学実習Ⅱ（看護専門科目群・専門分野Ⅱ・成人看護学）						科目 ナンバリング	NRS311・C		
英文名	Adult & Elder Nursing: Practicum II (Chronic Care・Palliative Care)						講義形態	実習		
担当教員	吉田久美子・福島直子・中川裕									
科目に関連した 実務経験	看護師として総合病院で勤務									
学年・開講期	3 年 通年		選必・単位数		必修・2 単位					
履修が必須となる 資格										
学位授与方針 との対応	2	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	6	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	③ 16									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○	○	○	○	○	○			○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方 法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①慢性疾患がある対象の QOL の向上に向け、対象の特徴をふまえセルフケアを支援するための看護を修得する。また、終末期にある対象の生命の尊厳を重視し、全人的苦痛を緩和するための看護を修得する。 ②10 日間の実習期間とし、8 日間を臨地実習、2 日間を学内実習とする。									
到達目標	1.慢性期にある対象の身体的・心理的・社会的状況をふまえ特徴を説明する。■ 2.アンドラゴジーを活用し、対象に適したセルフケアを捉え援助する。■ 3.対象の日常生活行動の援助について、状態に適した方法を計画し援助する。■ 4.検査や治療について、目的や方法と身体的および心理的な影響をふまえ援助する。■ 5.終末期にある対象の特徴を理解し、緩和ケアを基盤に苦痛の緩和と家族の支援に向け援助する。■ 6.慢性期および終末期にある対象の OQL の向上に向けた看護を記述する。 7.課題について主体的に取り組み、協調性や責任感と倫理観を養い、看護師として望ましい態度で援助を実施する。									
参考文献	授業で紹介する。									
評価方法	受け持ち患者への援助の状況をもとに適宜面接を行い、最終的に評価表で実習目標への達成度を評価する。総合評価 60 点以上を合格とする。									
課題に対する フィードバック	病棟実習期間中は、実習記録に対し担当教員よりコメントを付しフィードバックする。 習熟度の向上に向け、追加修正された箇所についてもコメントする。 カンファレンスで課題について共有し、課題に対する理解を深める。									
オフィスアワー (研究室)	金曜日（5 号館 410 研究室）				メールアドレス (#→@)		yoshikumi#takasaki-u.ac.jp			
講義内容	1.実習期間および実習場所 実習期間は 2 週間で、実習場所は一般病院あるいは専門病院の病棟で 2 週間(1 日 8 時間、週 4 日)、学内実習を毎週金曜日に行う。 2.実習内容 1)病棟実習 慢性期あるいは終末期にある対象患者を受け持ち、身体的・心理的・社会的特徴を考慮しながら看護過程を展開し、適した看護を実践する。特に、アンドラゴジーを活用し、対象に必要なセルフケアを捉え援助する。また、日常生活行動の援助が必要な対象に対しては状況に応じ健康を促進する方法を選択し実									

施する。さらに、検査や治療に伴う看護を学習し、可能な範囲について実施する。 また、終末期にある患者を受け持った場合は、緩和ケアを基盤に苦痛の緩和を中心に看護過程を展開し援助する。 3) 学内実習 到達目標に対して病棟実習や治療室実習で経験し学習した内容を体系的にまとめ発表し、意見交換を行う。そして、各自の慢性期および終末期にある対象の QOL の向上に向けた看護について考察し記述する。 4) 実習の全体において 実習期間中は、課題について主体的に実習に取り組み、協調性や責任感、倫理観を養い、看護師としての態度を養うよう心がける。	
予習	慢性疾患患者の特徴や、受け持ち患者に関する疾患や看護について学習する。
復習	実習で指導を受けたことをふまえ、受け持ち患者記録を記載し追加修正する。 病棟実習で得た経験からの学びなど記録の準備など計画的に進める。 学内実習で得た学びなどを記録し、提出レポートなど記録物をまとめる。

備考

- 1.授業の進め方
- 1)病棟実習と学内実習において、個々の学生が主体的に学習できるよう個別にサポートする。
2)既習の知識や技術を活用しながら実習目標に向かうことが出来るよう、臨床指導者と協力体制を整え指導する。
3)看護者として求められる態度についても、協調性や責任感、倫理観など総合的に育成できるよう支援する。
- 2.履修条件
- 受講するためには臨地実習科目の履修承認基準を満たしていることが必要となる。
3. ルール
- 全体要項に記載してある実習方法などに準じる。
- 4.その他
- 1)必要な基礎的知識を備え実習にのぞむことができるよう、実習前演習などに出席すること。
2)病棟実習中は「日々の記録」と「受け持ち患者記録」などの記録を病棟指導者の助言などもふまえ記載できるように教員がサポートする。
3)学内実習では病棟実習の経験をふまえ資料作成などを計画している。そのため、「成人看護学概論」や「成人看護学方法論Ⅱ」、「成人看護学演習 A」「成人看護学演習 B」「セルフケア論」で学習した理論や概念を活用するため復習しておくこと。
4)オンラインで行う場合は、具体的な学習方法などについて別途連絡する。
- : 実務経験に基づく内容を示す。

科目名	成人・老年看護学実習Ⅲ（看護専門科目群・専門分野Ⅱ・成人看護学）					科目ナンバリング	NRS312・C			
英文名	Adult & Elder Nursing: Practicum Ⅲ : (Admission/discharge support and outpatient care)					講義形態	実習			
担当教員	砂賀道子、石田順子、吉田久美子、福島直子、中川 裕、小野 千沙子、石下綾乃									
科目に関連した実務経験	看護師として大学病院等で勤務									
学年・開講期	3 年 通年		選必・単位数	必修・1 単位						
履修が必須となる資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針との対応	1	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	5	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	3	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	③					16				
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○	○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①地域包括ケアの視点から、成人・老年期にある対象の入退院支援や通院治療に伴う看護について学習する。 ②5 日間の実習期間とし 3 日間を臨地実習、2 日を学内実習とする。									
到達目標	1. 入院治療が必要な対象(家族を含む)に対し、地域包括ケアの視点から入院および退院に向けて行われる支援および看護について記述することができる。 2. 通院治療を受ける対象が抱える問題をとらえ、地域包括ケアの視点から看護のあり方について記述することができる。									
使用教材	1. 藤澤まこと編:『ナースが行う入退院支援 患者・家族のその人らしく生きるを支えるために』メヂカルフレンド社 をテキストとする。 2. 成人看護学概論、成人看護学方法論Ⅰ・Ⅱ、在宅看護学概論等の講義資料、上記講義で利用した教科書、その他の参考書も使用する。									
参考文献	関連する科目の講義資料 地域包括ケア、入退院支援、通院治療に関する参考書等									
評価方法	1. 病院実習、学内カンファレンス・発表会への参加度、記録内容(事前学習、行動記録、レポート等)について評価表を用いて評価する。 2. 総合評価 60 点以上を合格とする。									
課題に対するフィードバック	事前課題、実習記録等において、担当教員からのコメントを付して返却する。 カンファレンスや発表会等においては、担当教員および成人看護学の教員がコメントする。									
オフィスアワー (研究室)	金曜日 2～4 限(5 号館 408 研究室)				メールアドレス (#→@)		sunaga#takasaki-u.ac.jp			
講義内容	I. 実習内容 1. 入退院支援 1) 地域の医療機関や福祉関係者と連携し、入院の受け入れと退院に向けた支援を行うための機能・役割について説明を受ける。 2) 地域の医療機関や福祉関係者と連携し、入院の受け入れと退院に向けた支援の実際を見学し、入院または退院に向けた支援を受けている対象とコミュニケーションを図る。 2. 通院治療室看護 1) 通院で行われている治療とその看護について説明を受ける。 2) 通院で行われている治療とその看護について見学し、通院で治療を受けている対象とコミュニケー									

	ションを図る。 II. 実習計画 実習は 1 週間である。臨地実習は 3 日間とし、2 日は学内で学びを深めるためのカンファレンス、事後課題の作成を行う。		
	予習	事前学習課題 ① 実習病院(関連施設を含む)の概要をホームページ等で調べる。 ② これまでの学習(講義資料等)を振り返り、「入退院支援」、「通院治療(外来化学療法、透析療法、放射線治療)」「継続看護」「地域包括ケアシステム」について整理する。	適宜
	復習	・実習での学びを実習目標に照らし合わせて考察し、自己の考えを記述する。	適宜
備考	1. 指導体制 ・ 基本的には 1 グループ 5 名の学生を教員が担当する。 ・ 各部署の指導担当者が講義や説明を行う。 ・ 実務経験をふまえた指導を行う。 2. ルール ・ 体調管理に留意し、必要時、担当教員に相談・報告する。 ・ 記録やメモ帳に患者の個人情報に記載しない。 ・ 記録物の取り扱いには十分な注意を払う。(決められた場所で行う) 3. 履修条件 ・ 受講するためには臨地実習科目の履修承認基準を満たしていることが必要となる。 4. その他 オンラインで行う場合には、具体的な学習方法について別途連絡する。		

科目名	老年看護学概論（看護専門科目群・専門分野Ⅱ・老年看護学）						科目ナンバリング	NRS118・B		
英文名	Introduction to Gerontological Nursing						講義形態	講義		
担当教員	梅原里実、内田真理子、星河純子									
科目に関連した実務経験	看護師として病院に勤務、認知症看護認定看護師として活動									
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	必修 ・ 1 単位							
履修が必須となる資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針との対応	2	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	6	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	316									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○		○				○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	授業中にワークシートを活用し意見交換や振り返り、質疑応答の時間を設ける。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①講義の目標 老年看護の対象者である高齢者を、身体的側面や心理的側面、社会・生活背景などから多角的に理解する。また、高齢者のヘルスプロモーションを支援する看護の役割と、その人らしさを支える看護や高齢者の尊厳の保持について学ぶ。 ②講義の実施方法 講義及びグループワークを取り入れた演習形式で実施する。									
到達目標	1. 「老いること」、「老いを生きること」について老年期の発達課題をふまえて説明できる。 2. 超高齢社会の現況と高齢者の権利擁護などに関する社会保障について説明できる。 3. 高齢者のヘルスアセスメント(ヘルスアセスメントの基本、身体の高齢変化とアセスメント)について説明できる。 4. 老年期にある人の意思決定支援における課題について説明できる。 5. 高齢者体験を通して、高齢者の身体的変化や心理的不安、留意すべきことについて考察できる。 6. 老年看護の役割と責務について考察できる。									
使用教材	教科書：北川公子(他)：系統看護学講座専門分野老年看護学, 2024, 医学書院,2,700 円(税別) 講義用資料を随時配布する。									
参考文献	泉キヨ子、小山幸代(著)：看護実践のための根拠がわかる老年看護技術,2021,メヂカルフレンド社 堀内ふくら(編著)：ナースンググラフィカ老年看護学① 高齢者の健康と障害,2022,メディカ出版 堀内ふくら(編著)：ナースンググラフィカ老年看護学② 高齢者看護の実践,2022,メディカ出版 小木曾加奈子著：地域包括ケアにおける高齢者に対するシームレスケア,2019,学文社 奥宮暁子編著：ウエルネスの視点にもとづく老年看護過程第2版,2019,医歯薬出版株式会社 山田律子：生活機能からみた 老年看護過程+病態・生活機能関連図第 4 版,2020,医学書院									
評価方法	定期試験 65%と、課題レポート(1回)・授業参加度・学習態度で 35%で評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。									

課題に対する フィードバック		提出されたレポート内容に関し、授業時間を用いて公表やコメントをする。			
オフィスアワー (研究室)		質問や学習相談には、授業開始前 もしくは終了時に応じる。		メールアドレス (#→@)	梅原 : umehara #takasaki-u.ac.jp
1	講義内容	「老いを生きること」、老年期における発達課題、諸理論			
	該当到達目標 1	予習	教本の第1章 A,B,C 第3章 A,B,C に目を通す。		1 時間
		復習	配布資料の復習。		2 時間
2	講義内容	超高齢社会と社会保障(介護保険福祉システム、権利擁護 コミュニケーション)			
	該当到達目標 1, 2	予習	教本の第2章 A,B,C に目を通す。		1 時間
		復習	教本と配布資料の復習。		2 時間
3	講義内容	高齢者のヘルスアセスメント①(身体に加齢変化とアセスメント)			
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	教本の第4章 A に目を通す。		1 時間
		復習	教本と配布資料の復習。		2 時間
4	講義内容	高齢者のヘルスアセスメント②(身体に加齢変化とアセスメント)			
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	教本の第4章 B①,②に目を通す。		1 時間
		復習	教本と配布資料の復習。		2 時間
5	講義内容	高齢者のヘルスアセスメント③(身体に加齢変化とアセスメント)			
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	教本の第4章 B③,④,⑤に目を通す。		1 時間
		復習	教本と配布資料の復習。		2 時間
6	講義内容	高齢者のヘルスアセスメント④(身体に加齢変化とアセスメント)			
	該当到達目標 1, 2, 4	予習	教本の第4章 B⑥,⑦,⑧に目を通す。		1 時間
		復習	教本と配布資料を復習。		2 時間
7	講義内容	高齢者体験			
	該当到達目標 1, 5	予習	教本の第4章 B②,⑧ 第5章 A①に目を通す。		1 時間
		復習	ワークシートと配布資料を復習し、レポートを作成する。		2 時間
8	講義内容	高齢者の尊厳、高齢者の健康とヘルスプロモーション、ICF、老年看護の役割・責務			
	該当到達目標 1, 2, 3, 6	予習	教本の第3章 D, 第 5 章-G,H, 第9章 A に目を通す。今までの学習内容を振り返り疑問点等を整理する。		1 時間
		復習	教本と配布資料の復習。		2 時間
合計時間(予習・復習)					24 時間
備考	■実務経験に基づき授業を進める ①学生の質問や意見を適宜受ける ②事例や視聴覚教材を用いて講義する ・オンラインにて実施する場合: 対面授業と同様の内容を C-Learnig にて行う。 ・出席登録方法: 対面授業の場合は、C-Learnig の出席管理にて行う ・オンラインの場合は、上記に加え、アンケートまたは小テストと合わせて実施する				

科目名	老年看護学方法論(看護専門科目群・専門分野Ⅱ・老年看護学)						科目ナンバリング	NRS219・A		
英文名	Gerontological Nursing: Assessment and Skills						講義形態	講義		
担当教員	梅原里実、内田真理子、星河純子									
科目に関連した実務経験	看護師として病院勤務(経験)									
学年・開講期	2 年 前期		選必・単位数		必修 ・ 2 単位					
履修が必須となる資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針との対応	2	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	6	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	316									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○			○				○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	授業中に振り返りや質疑応答の時間を設ける									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①講義の目標 高齢者に特徴的な疾患や健康障害により援助を必要とする要介護高齢者など、さまざまな健康レベルに応じた高齢者の障害や症状に応じた看護の方法を習得する。 ②講義の実施方法 講義および演習にて実施する。									
到達目標	1. 加齢による生活機能への影響をふまえ高齢者の生活機能を整える看護について説明できる。■ 2. 検査・治療を受ける際の加齢に伴うリスクと看護について考察できる。■ 3. 認知機能障害の特徴と認知機能障害のある高齢者の看護について説明できる。■ 4. 高齢者に特徴的な疾患の病態をふまえた高齢者の看護について説明できる。■									
使用教材	[1] 系統看護学講座専門分野老年看護学:北川公子,医学書院,2024 [2] 看護実践のための根拠がわかる老年看護技術:泉キヨ子・小山幸代,メヂカルフレンド社,2022 講義資料を随時プリントして配布する。									
参考文献	堀内ふきら編著:ナーシンググラフィカ老年看護学① 高齢者の健康と障害.2022,メディカ出版 堀内ふきら編著:ナーシンググラフィカ老年看護学② 高齢者看護の実践.2022,メディカ出版									
評価方法	筆記試験 85%、レポート(授業参加度・学習態度を含む) 15%									
課題に対するフィードバック	課題に基づいて提出されたレポート内容について、授業時間を用いて公表やコメントを行う。									
オフィスアワー (研究室)	金曜日 2 限 不在時はメール等で問い合わせのこと。				メールアドレス (#→@)	梅原(umehara#takasaki-u.ac.jp) 内田(uchida-m#takasaki-u.ac.jp) 星河(hoshikawa#takasaki-u.ac.jp)				
1	講義内容	高齢者の生活機能を整える看護 1 日常生活を支える基本的活動(転倒予防を含む) ■								
	該当到達目標 1	予習	教科書[1]第 5 章 A 教科書[2] 第Ⅱ章 ①-4、第Ⅳ章 4 に目を通す					1 時間		
		復習	加齢による運動機能の低下から起こる生活障害を理解し、高齢者の日常生活を支える基本的活動への援助方法を教科書、配布資料にて復習する。					2 時間		
2	講義内容	高齢者の生活機能を整える看護 2 食事・食生活 ■								
	該当到達目標 1, 5	予習	教科書[1] 第 5 章 B 教科書[2] 第Ⅲ章 ①、第Ⅳ章 ①に目を通す。					1 時間		
		復習	加齢による機能低下から起こる食生活への影響を理解し、高齢者の食生活を支える援助を教科書、配布資料にて復習する。					2 時間		
3	講義内容	高齢者の生活機能を整える看護 3 排泄 ■								
	該当到達目標 1, 5	予習	教科書[1] 第 5 章 C 教科書[2] 第Ⅲ章 ②、第Ⅳ章 ②、③に目を通す。					1 時間		
		復習	加齢による機能低下から起こる排泄への影響を理解し、高齢者の尊厳に配慮した排泄の援助を教科書、配布資料にて復習する。					2 時間		

4	講義内容	高齢者の生活機能を整える看護 4 清潔■		
	該当到達目標	予習	教科書[1] 第4章B①、第5章D、第6章A⑧ 教科書[2]第Ⅲ章③に目を通す。	1 時間
	1, 5	復習	高齢者の清潔を保つ援助、褥瘡の概要と褥瘡を持つ高齢者の看護を教科書、配布資料にて復習する。	2 時間
5	講義内容	高齢者の生活機能を整える看護 5 生活リズム■		
	該当到達目標	予習	教科書[1] 第5章E 教科書[2] 第Ⅲ章 ⑤、⑥に目を通す。	1 時間
	1, 5	復習	加齢による機能低下から起こる生活リズムへの影響を理解し、高齢者の生活リズムを整える援助を教科書、配布資料にて復習する。	2 時間
6	講義内容	高齢者の生活機能を整える看護 6 社会参加、リハビリテーション、ICF■		
	該当到達目標	予習	教科書[1] 第3章B、第5章H、第7章D 教科書[2] 第Ⅲ章 ⑥に目を通す。	1 時間
	2	復習	高齢者の社会参加、リハ ビリテーションを必要とする高齢者の看護について教科書、配布資料にて復習する。	2 時間
7	講義内容	治療を必要とする高齢者の看護 検査、薬物療法を受ける高齢者の看護		
	該当到達目標	予習	教科書[1] 第7章A、B 教科書[2] 第Ⅳ章⑥に目を通す。	1 時間
	4	復習	加齢による薬物動態への影響と支援、検査の支援を教科書、配布資料にて復習する。	2 時間
8	講義内容	認知機能障害のある高齢者の看護 1 認知症① 疾患・治療■		
	該当到達目標	予習	教科書[1] 第6章C③ 教科書[2] 第Ⅴ章①に目を通す。	1 時間
	3	復習	認知症の原因、診断・治療・予防について教科書、配布資料にて復習する。	2 時間
9	講義内容	認知機能障害のある高齢者の看護 2 認知症② 日常生活への影響■		
	該当到達目標	予習	教科書[1] 第6章C④、教科書[2] 第Ⅴ章④、⑤に目を通す。	1 時間
	3	復習	認知症の特徴と認知機能低下から起こる生活障害を理解し、認知症高齢者の看護を教科書、配布資料にて復習する。	2 時間
10	講義内容	認知機能障害のある高齢者の看護 3 認知症③ 認知症高齢者への対応、認知症高齢者とのコミュニケーション■		
	該当到達目標	予習	教科書[1] 第5章F、第6章C⑤ 教科書[2] 第Ⅱ章②、第Ⅴ章②、③に目を通す。	1 時間
	3	復習	認知症高齢者とのコミュニケーションの基本と支援を教科書、配布資料にて復習する。	2 時間
11	講義内容	認知機能障害のある高齢者の看護 4 認知症④ 環境調整 パーソンセンタードケア■		
	該当到達目標	予習	教科書[1] 第6章C-Column 教科書[2]第Ⅴ章①-5に目を通す。	1 時間
	3	復習	認知症高齢者看護の基本理念と支援を教科書、配布資料にて復習する。	2 時間
12	講義内容	認知機能障害のある高齢者の看護 5 うつ・せん妄■		
	該当到達目標	予習	教科書[1] 第6章C-①、② 教科書[2] 第Ⅴ章①-3に目を通す。	1 時間
	3	復習	うつ、せん妄状態にある高齢者の看護を教科書、配布資料にて復習する。	2 時間
13	講義内容	健康逸脱からの回復を促す看護 1 脳卒中、パーキンソン病・パーキンソン症候群 ■		
	該当到達目標	予習	教科書[1] 第6章B-①、⑥に目を通す。	1 時間
	4	復習	脳卒中、パーキンソン病の概要と高齢者の特徴、看護を教科書、配布資料にて復習する。	2 時間
14	講義内容	健康逸脱からの回復を促す看護 2 骨粗鬆症、骨折■		
	該当到達目標	予習	教科書[1] 第6章B-⑨、⑩ 教科書[2] 第Ⅳ章 ④に目を通す	1 時間
	4	復習	骨粗鬆症・骨折を持つ高齢者の看護を教科書、配布資料にて復習する。	2 時間
15	講義内容	健康逸脱からの回復を促す看護 3 インフルエンザ、肺炎、逆流性食道炎■		
	該当到達目標	予習	教科書[1] 第6章B-⑦、⑧ 教科書[2] 第Ⅳ章 ①、⑤に目を通す。	1 時間
	5	復習	インフルエンザ、肺炎、逆流性食道炎の概要と高齢者の看護を教科書、配布資料にて復習する。	2 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■実務経験に基づき授業を進める。 ①学生の質問や意見を適宜受ける。②事例や視聴覚教材を用いて講義する。 オンラインの場合:①講義及び評価方法は対面授業と同様とする。 ②課題に対するフィードバックは、C-Learning の協働版および連絡・相談機能などに行う。 出席登録方法:対面授業の場合は、ポータルサイトまたは C-Learning の出席管理にて行う。 オンラインの場合は、C-Learning の出席管理及び、アンケートまたは小テストなどと合わせて実施する。予習・復習については、試験前の学習で補完すること。			

科目名		老年看護学演習(看護専門科目群・専門分野Ⅱ・老年看護学)						科目 ナンバリング	NRS220・B		
英文名		Gerontological Nursing Practice						講義形態	演習		
担当教員		梅原里実、内田真理子、星河純子									
科目に関連した 実務経験		看護師として病院勤務(経験)									
学年・開講期		2 年 後期		選必・単位数		必修・1 単位					
履修が必須となる 資格		アイテムを選択してください。									
学位授与方針 との対応		2 人間理解と倫理観				0 国際理解					
		6 論理的思考力・問題解決力				1 生涯学習力					
		1 チームの一員としての協調・協働									
SDGs との関連		③						16			
アクティブラーニング 実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○		○		○				○
「その他」のアクティブ ラーニング実施方法		CL 等を活用して提出されたレポートのコメントを付す。授業中に振り返りや質疑応答の時間を設ける									
実施概要 ①講義の目標 ② 講義の実施方法		①講義の目標 援助を必要とする要介護高齢者など、健康レベルに応じた高齢者の生活機能全体の向上につながる看護の方法を習得する。 ②講義の実施方法 講義と演習(個人および GW)。									
到達目標		1.高齢者に特徴的な疾患や症状を抱える高齢者の看護について説明できる。■ 2.ICF の視点から高齢者の生活機能をアセスメントし、さまざまな健康レベルの高齢者の生活機能全体の向上を目指すヘルスプロモーションをふまえた高齢者支援の方法を修得する。■ 3.高齢者の特性をふまえたコミュニケーション技術、脳機能を高める援助技術について考察する。■ 4.高齢者の尊厳、QOL をふまえたその人らしい日常生活を送るための看護について考察する。■									
使用教材		[1] 系統看護学講座専門分野老年看護学:北川公子,医学書院,2024. 2,700 円+税 [2] 看護実践のための根拠がわかる老年看護技術:泉キヨ子・小山幸代.メヂカルフレンド社.2024. 3,600 円+税 講義資料を随時配布する。									
参考文献		小木曾加奈子著:地域包括ケアにおける高齢者に対するシームレスケア. 学文社,2019, 2,600 円+税 奥宮暁子編著:ウエルネスの視点にもとづく老年看護過程第 2 版.2019, 医歯薬出版株式会社,2,300 円+税 堀内ふきら編著:ナーシンググラフィカ老年看護学① 高齢者の健康と障害.メディカ出版,2022. 堀内ふきら編著:ナーシンググラフィカ老年看護学② 高齢者看護の実践. メディカ出版, 2022									
評価方法		筆記試験 60%、レポート 20%、グループワーク(演習参加度・学習態度を含む)20%									
課題に対する フィードバック		課題に基づいて提出されたレポート内容について、授業時間を用いて公表やコメントを行う。事例検討においては、発表会資料を配布し、発表会においてコメントする。									
オフィスアワー (研究室)		金曜日 2 限 不在時はメール等で問い合わせのこと。				メールアドレス (#→@)		梅原(umehara#takasaki-u.ac.jp) 内田(uchida-m#takasaki-u.ac.jp) 星河(hoshikawa#takasaki-u.ac.jp)			
1	講義内容	健康逸脱からの回復を促す看護1 バイタルサイン、脱水、浮腫、スキナーテア ■									
	該当到達目標	予習	教科書[1] 第 6 章 A-①、④、⑥、⑧ [2] 第Ⅱ章1-③に目を通す。							15	分
	1	復習	高齢者のバイタルサインの特徴と高齢者に特徴的な症状と看護について、教科書、配布資料にて復習する。							30	分
2	講義内容	健康逸脱からの回復を促す看護2 嘔吐(感染性胃腸炎)、尿路感染症、掻痒、白癬 ■									
	該当到達目標	予習	教科書[1] 第 5 章 D- ② 第 6 章 A-③、⑤に目を通す。							15	分
	1	復習	掻痒、白癬教科書、配布資料を復習する。							30	分
3	講義内容	高齢者・認知症高齢者とのコミュニケーションの支援と実際 PCC とユマニチュード■									

	該当到達目標	予習	教科書[1] 第5章 F-1①～③、第6章 C-⑤ 教科書[2] 第Ⅱ章②第5章①-5に目を通す。	15 分
	1, 2	復習	高齢者・認知症高齢者とのコミュニケーションについて、配布資料にて復習する。	30 分
4	講義内容	認知症予防:脳活性化リハビリテーション 高齢者施設におけるアクティビティケア演習①■		
	該当到達目標	予習	教科書[2] 第Ⅲ章⑥に目を通す	15 分
	1, 2	復習	教科書、配布資料を復習する。	30 分
5	講義内容	高齢者施設におけるアクティビティケア演習②■		
	該当到達目標	予習	教科書[2] 第Ⅲ章⑥に目を通す	15 分
	1, 2	復習	全体発表の内容を振り返る	30 分
6	講義内容	ヘルスプロモーションをふまえた高齢者支援の展開① オリエンテーション		
	該当到達目標	予習	教科書[1] 第3章 B-②、第9章に目を通す。	15 分
	1, 2, 4	復習	教科書、配布資料を復習する。	30 分
7	講義内容	ヘルスプロモーションをふまえた高齢者支援の展開② 情報収集と情報の整理		
	該当到達目標	予習	教科書[1] 第3章 B-②、第9章に目を通す。	15 分
	1, 2, 4	復習	教科書、配布資料を復習する。	30 分
8	講義内容	ヘルスプロモーションをふまえた高齢者支援の展開 ③ アセスメント1		
	該当到達目標	予習	教科書[1] 第3章 B-②、第9章に目を通す。	15 分
	1, 3	復習	教科書、配布資料を復習する。	30 分
9	講義内容	ヘルスプロモーションをふまえた高齢者支援の展開 ④ ニーズの抽出と支援方針の決定		
	該当到達目標	予習	教科書[1] 第3章 B-②、第9章に目を通す。	15 分
	1, 3	復習	教科書、配布資料を復習する。	30 分
10	講義内容	ヘルスプロモーションをふまえた高齢者支援の展開 ⑤ 支援計画の立案		
	該当到達目標	予習	教科書[1] 第3章 B-②、第9章に目を通す。	15 分
	1, 3, 4	復習	教科書、配布資料を復習する。	30 分
11	講義内容	ヘルスプロモーションをふまえた高齢者支援の展開 ⑥ 発表		
	該当到達目標	予習	教科書[1] 第3章 B-②、第9章に目を通す。	15 分
	1, 3, 4	復習	教科書、配布資料を復習する。	30 分
12	講義内容	高齢者看護に必要な基本的看護 1 演習:排泄ケア①(おむつ交換等) ■		
	該当到達目標	予習	教科書[1] 第5章 C、D 教科書[2] 第Ⅲ章②、③ 第Ⅳ章② 事前配布資料に目を通す。	15 分
	1, 3	復習	教科書、配布資料を復習する。	30 分
13	講義内容	高齢者看護に必要な基本的看護 1 演習:排泄ケア②(おむつ交換等) ■		
	該当到達目標	予習	教科書[1] 第5章 C、D 教科書[2] 第Ⅲ章②、③ 第Ⅳ章② 事前配布資料に目を通す。ワークシートを作成する。	15 分
	1, 3	復習	演習を通しての学びをワークシートにまとめる。教科書、配布資料を復習する。	30 分
14	講義内容	高齢者看護に必要な基本的看護 2 演習:口腔ケア(義歯の取り扱い等) ■		
	該当到達目標	予習	教科書[1] 第5章 B 教科書[2] 第Ⅳ章① 事前配布資料に目を通す	15 分
	1, 3	復習	演習を通しての学びをワークシートにまとめる。教科書、配布資料を復習する。	30 分
15	講義内容	高齢者の尊厳、QOL をふまえたその人らしい日常生活を送るための看護、まとめ		
	該当到達目標	予習	これまでの講義資料に目を通す。	15 分
	1, 2, 3, 4	復習	高齢者の特徴と看護についての学びをまとめる。配布資料を復習する。	30 分
合計時間(予習・復習)				11 時間 15 分
備考	■実務経験に基づき授業を進める。 ①学生の質問や意見を適宜受ける。②事例や視聴覚教材を用いて講義する。 オンラインの場合:①講義及び評価方法は対面授業と同様とする。 ②課題に対するフィードバックは、C-Learning の協働板および連絡・相談機能などにて行う。 出席登録方法:対面授業の場合は、ポータルサイトまたは C-Learning の出席管理にて行う。 オンラインの場合は、C-Learning の出席管理、及びアンケートまたは小テストなどと合わせ実施する。 予習・復習については、試験前の学習で補完すること。			

科目名	成人・老年看護学実習Ⅳ(看護専門科目群・専門分野Ⅱ・老年看護学)							科目ナンバリング	NRS313・C	
英文名	Gerontological Nursing Practicum							講義形態	講義	
担当教員	梅原里実、内田真理子、星河純子									
科目に関連した実務経験	看護師として病院勤務(経験)									
学年・開講期	3年 通年		選必・単位数	必修・2単位						
履修が必須となる資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針との対応	2	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	6	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGsとの関連	3 16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
「その他」のアクティブラーニング実施方法	○									
実施概要	①講義目標 老年期にある対象の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、ヘルスプロモーションの視点から老年期にある対象の生活機能の維持・向上に向けた高齢者支援に必要な知識・技術・態度を学ぶ。 ②講義の実施方法 高齢者施設での臨地実習および学内実習を行う。									
到達目標	1. 老年期にある対象の身体的・心理的・社会的特徴および発達課題について述べる。 2. 高齢者施設の役割と機能・特徴、施設における高齢者支援について述べる。 3. 生活の場におけるヘルスプロモーションをふまえ、老年期にある対象に必要な支援を計画・実施・評価する。 4. 老年期にある対象と老年看護の特徴について述べる。 5. 老年看護に携わる看護学生として、協調性や責任感、態度を修得する。									
使用教材	既習の老年看護学における使用教材および臨地実習要項、成人・老年看護学実習Ⅳ実習要項、事前配布資料									
参考文献	小木曾加奈子著:地域包括ケアにおける高齢者に対するシームレスケア.2019,学文社 山田律子:生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図.2020,医学書院									
評価方法	実習中は適宜面接を行い、最終的に評価表を用いて評価する。 実習参加度・学習態度、実習目標の達成状況、実習記録(事前学習課題を含む)を評価項目とし、評価表において 60 点以上を合格とする。									
課題に対するフィードバック	実習の事前課題、実習記録等を提出期限内に提出した学生には、実習担当者からのコメントを付して返却する。看護援助場面、カンファレンス、実習報告会等でその都度コメントを行う。									
オフィスアワー (研究室)	金曜日 2 限、3 限 不在時はメール等で問い合わせのこと。				メールアドレス (#→@)		梅原(umehara#takasaki-u.ac.jp) 内田(uchida-m#takasaki-u.ac.jp) 星河(hoshikawa#takasaki-u.ac.jp)			
1	講義内容	施設実習、学内実習								
	該当到達目標	予習	事前に提示された学習課題をまとめ、実習で活用できるようにする。事前情報や実習中に得られた情報から実習で必要と予測される項目(演習を含む)について、学習をする。							期間中適宜
	1, 2, 3, 4, 5	復習	日々の得られた情報や学びをもとに、実習記録を整理する。実習での学びをまとめ、実習報告会及び自己の記録に反映する。							期間中適宜
合計時間(予習・復習)										時間
備考	・高齢者とのコミュニケーションやケアを行うなかで、臨地実習の指導者とともに看護技術や知識について指導する。看護実践や記録等の確認・指導を行う。学内実習では、グループワークや実習発表会等を通して、臨地実習の振り返りや質疑応答を行いながら、学習を深める。 【自己学習の内容】老年看護学概論および老年看護学方法論、老年看護学演習を復習し、様々な健康レベルにある高齢者への個別的な援助について、学生自らが考え実習で活用できるよう自己学習をしておくことが望ましい。									

- ・実習期間中はその都度、指示されたことや学んだことを書き出すなど、学習内容を整理する必要がある。
- ・実習科目の単位修得については、実習の規定に準ずる。

オンラインの場合：

①実習はヘルスプロモーションの視点をふまえた看護過程の展開を行う。②評価方法は臨地による実習と同様とする。③課題に対するフィードバックは、C-Learning の協働板および連絡・相談機能などにて行う。

出席登録方法：臨地実習の場合は、直接出席管理を行う。

オンラインの場合は、C-Learning の出席管理、及びアンケートまたは小テストなどと合わせ実施する。

科目名	小児看護学概論(看護専門科目群・専門分野Ⅱ・小児看護学)						科目ナンバリング	NRS119・B		
英文名	Introduction to Pediatric Nursing						講義形態	講義		
担当教員	星野美穂									
科目に関連した実務経験	担当教員は、大学病院や総合病院の小児病棟、小児専門病院やクリニック等での看護師としての勤務経験を有する。									
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修が必須となる資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針との対応	2	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	6	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGsとの関連	31016									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○					○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要	① 講義の目標 小児期にある子どもの健康と成長・発達、養育期にある家族、子どもと家族を取り巻く環境を理解し、小児看護の役割を学習する。 ② 講義の実施方法 看護人間発達学で学習した乳・幼児期、学童期、思春期にある対象の成長・発達に関する学びを活用し、子どもと家族の特徴および生活する環境に関する学びを統合した上で、小児看護の役割について教授する。また、教科書、教員が作成した資料・パワーポイントの他、視聴覚教材、手記等を活用し、子どもと家族の特徴や健康課題のイメージ化を図るとともに、学生間の相互学習も取り入れて授業を展開する。									
到達目標	1.小児看護の対象である子どもと家族、環境の特徴、および目標、役割を理解する 2.小児看護における子どもの権利とその重要性および倫理的課題を理解する■ 3.小児・母子保健統計の変遷、小児・母子保健の関係法規および行政施策を理解する 4.小児期各期の子どもの成長・発達の特徴を理解する 5.小児期各期に生じやすい健康課題と疾病の予防、健康の維持・増進に向けた支援を考察する■ 6.日本における小児看護の課題および小児看護の役割を考察する■ 7.グループで協力しながら行う課題学習への参画・貢献するプロセスを通じ、チームの一員として看護職に求められる役割を思考する 8.既習の知識を臨床での看護実践に応用・活用するための基本的な学習態度を修得する									
使用教材	1) 奈良間美保他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論，医学書院，¥2,900＋税 2) 舟島なをみ，望月美知代，看護のための人間発達学 第5版，医学書院，2017. ¥3,000＋税 ※教科書は、授業および予習・復習において使用する。適宜、授業資料を配布する									
参考文献	・中野綾美編：ナースング・グラフィカ 小児看護学①ー小児の発達と看護，メディカ出版。									
評価方法	定期試験を受験するために必要な出席回数を満たしたことを条件に、筆記試験 80%、レポート 20%の配分で、合計 60 点以上を合格とする。 ※オンラインで試験を実施する場合も、上記と同様の方法で評価する。									
課題に対するフィードバック	原則として、対面授業でも、オンライン授業でもレポートにはコメントを付して返却する。なお、必要に応じて C-learning を通じてコメント・解説する。									
オフィスアワー(研究室)	金曜日 1 限 (5 号館 4 階、411 研究室)				メールアドレス (#→@)		hoshino-m#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	科目オリエンテーション小児看護の役割／子どもと家族を取り巻く環境[1] ―小児看護の対象(子ども、家族)と環境―								

	該当到達目標 1,6	予習	教科書 1) の第 1 章－A、C および第 7 章を精読する	1 時間
		復習	Bronfenbrenner の生態学的環境モデル、小児看護の対象(子どもと家族)と環境の関係、家族のライフサイクルからみた基本的発達課題、家族のおかれている状況と子どもへの影響について整理する。	2 時間
2	講義内容	小児看護の役割／子どもと家族を取り巻く社会環境[2] —小児看護における子どもの権利と倫理—■		
	該当到達目標	予習	教科書 1) の第 1 章－D を精読する。また、新聞や報道等により子どもの権利が脅かされる社会問題または課題について情報収集する。	1 時間
	2,6	復習	予習で情報収集した子どもの権利が脅かされる社会問題・課題が生じている経緯や要因を分析するとともに解決するための方策や支援について、自己の考えを考察する。	2 時間
3	講義内容	小児看護の役割／子どもと家族を取り巻く環境[3] —小児保健・母子保健にかかわる健康指標の意義と動向、および関係法規・施策—		
	該当到達目標	予習	教科書 1) の第 1 章－B、第 8 章を精読する。	1 時間
	3,6	復習	新聞・報道等により、子どもと家族に関する社会問題または課題について情報収集し、その経緯や要因を分析するとともに解決するための方策や支援について、自己の考えを考察する。	2 時間
4	講義内容	小児看護の役割／子どもと家族を取り巻く環境[4]—小児看護の目標、役割—■		
	該当到達目標	予習	教科書 1) の第 1 章－A、E を精読する。	1 時間
	6	復習	第 1～4 回の学習内容をまとめ、小児看護の目標、役割・機能を整理する。母子健康手帳等を活用し、自己の発育過程を評価し、レポートを作成する。	2 時間
5	講義内容	子どもの成長・発達、健康課題と看護[1]: 乳・幼児期にある子どもの身体的、心理・社会的な成長・発達の特徴と健康課題(基本的生活習慣の獲得、不慮の事故)【グループワーク】		
	該当到達目標	予習	教科書、専門書、ポートフォリオを活用し、上記の健康課題に関連する事前学習課題に取り組む。	1 時間
	4,5,6,7,8	復習	乳・幼児期にある子どもの成長・発達の特徴をふまえ、健康課題とその支援のあり方について整理する。	2 時間
6	講義内容	子どもの成長・発達、健康課題と看護[2]: 乳・幼児期にある子どもの身体的、心理・社会的な成長・発達の特徴と健康課題(感染症、マルトリートメント)【グループワーク】		
	該当到達目標	予習	教科書、専門書、ポートフォリオを活用し、上記の健康課題に関連する事前学習課題に取り組む。	1 時間
	4,5,6,7,8	復習	乳・幼児期にある子どもの成長・発達の特徴をふまえ、健康課題とその支援のあり方について整理する。	2 時間
7	講義内容	子どもの成長・発達、健康課題と看護[3]: 学童期、思春期にある対象の身体的、心理・社会的な成長・発達の特徴と健康課題(生活習慣病、心理・社会的不適応)【グループワーク】		
	該当到達目標	予習	教科書、専門書、ポートフォリオを活用し、上記の健康課題に関連する事前学習課題に取り組む。	1 時間
	4,5,6,7,8	復習	学童・思春期にある対象の成長・発達の特徴をふまえ、健康課題とその支援のあり方について整理する。	2 時間
8	講義内容	子どもの成長・発達、健康課題と看護[4]—総括、小児看護の役割■		
	該当到達目標	予習	教科書 1) の第 5 章のうち、講義内容と関連する項を精読する。	1 時間
	6	復習	これまでの授業全体の内容を再確認し、小児看護の役割を整理し、自己の看護観を考察する。	2 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	【学習上の助言および受講時のルール】 ●本科目は、小児看護学方法論、小児看護学演習、小児看護学実習へと連動して授業展開される基盤となる科目であるため、授業シラバス、授業計画を必ず確認し、予習・復習を十分行い、積極的に授業に臨む。 ●単位修得に必要な時間を満たしていない場合 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完する。 ●授業の進行過程において、各自がポートフォリオを作成する。また、ポートフォリオを持参し、内容を補充しながら授業に臨む。 ●授業中に提示された課題は、提出期限を厳守し必ず提出する。未提出の場合には単位修得に影響する。 ●本科目は、養護教諭一種資格取得に関わる科目である。			
	【出席登録】 出席登録は、C-learning の下記の方法 1・2 のいずれかの方法で行う。方法は C-learning【協働板】または【ニュース】を確認すること。 ・方法 1:【出席管理】機能を通じて、確認キーをみて出席登録を行う。 ・方法 2:【アンケート】機能を通じて設問に回答する。			

【オンライン授業での出席の取り扱い】

オンラインで授業を行う場合には、上記の C-learning を通じた出席登録を行うこと、および C-learning【教材倉庫】内の教材が「既読」になっていることを条件に出席として取り扱う。

【履修条件】

この科目は、「看護人間発達学」を履修していることが望ましい。

（■：実務経験に基づく内容を示す。）

科目名	小児看護学方法論(看護専門科目群・専門分野Ⅱ・小児看護学)					科目 ナンバリング	NRS221・A			
英文名	Pediatric Nursing: Assessment and Skills					講義形態	講義			
担当教員	星野美穂, 山崎彩									
科目に関連した 実務経験	・担当教員は、大学病院や総合病院の小児病棟、小児専門病院やクリニック等での看護師としての勤務経験を有する。 ・緩和ケア認定看護師、訪問看護ステーションの訪問看護師を講師として招く。									
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	必修 2 単位							
履修を必須とする 資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針 との対応	2	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	6	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	③⑩⑯									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○						○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 講義の目標 健康障がいのある子どもの発達段階、健康状態(疾患、疾患・治療に起因する症状、病期、治療・検査・処置など)に応じた看護実践方法を学習する。 ② 講義の実施方法 看護人間発達学や小児看護学概論で学習した成長・発達に関する学びを活用し、健康障がいのある子どもと家族の特徴および生活する療養環境に関する学びを統合した上で、健康障がいのある子どもと家族への看護について講義を行う。また、教科書、教員が作成した資料・パワーポイント、視聴覚教材の活用や、学生同士のディスカッションを行い、さまざまな発達段階、疾患を抱える子どもと家族のイメージ化を図り授業を展開する。									
到達目標	1.病気や障がい、入院・治療が子どもと家族に及ぼす影響を統合的に理解する 2.医療を受ける子どもの権利と倫理的課題を理解する■ 3.治療・検査・処置を受ける子どもと家族の特徴を理解する■ 4.小児期に生じやすい健康障害とその主な症状の特徴を理解する 5.各病期(急性期、慢性期、終末期、周手術期)にある子どもと家族の健康問題・課題を理解する■ 6.外来や在宅での継続的な医療・看護を必要とする子どもと家族の健康問題・課題を理解する■ 7.健康がいを抱える子どもの発達段階、健康状態に応じた根拠に基づいた看護を考察する■ 8.既習の知識を臨床での看護実践に応用・活用するための基本的な学習態度を修得する									
使用教材	1) 奈良間美保他:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論, 医学書院. ¥2,900+税 2) 奈良間美保他:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2] 小児臨床看護各論, 医学書院. ¥3,300+税 3) 中野綾美編:ナーシング・グラフィカ 小児看護学②ー小児看護技術, メディカ出版. ¥3,200+税 ※教科書は、授業および予習・復習において使用する。適宜、授業資料を配布する									
参考文献	1) 中野綾美編:ナーシング・グラフィカ 小児看護学①ー小児の発達と看護, メディカ出版. ¥3,800+税 2) 中野綾美編:ナーシング・グラフィカ 小児看護学③ー小児の疾患と看護, メディカ出版. ¥3,200+税 3) 浅野みどり編集:発達段階からみた 小児看護過程 第4版: +病態関連図, 医学書院. ¥3,290									
評価方法	定期試験を受験するために必要な出席回数を満たしたことを条件に、筆記試験 80%、レポート 20%の配分で、合計 60 点以上を合格とする。									

		※オンラインで試験を実施する場合も、上記と同様の方法で評価する。		
課題に対するフィードバック		原則として、対面授業でも、オンライン授業でもレポートにはコメントを付して返却する。なお、必要に応じて C-learning を通じてコメント・解説する。		
オフィスアワー (研究室)		金曜日 1 限 (5 号館 4 階、411 研究室)	メールアドレス (#→@)	hoshino-m#takasaki-u.ac.jp
1	講義内容	科目オリエンテーション 健康障がい、入院・治療が子どもと家族に与える影響と看護[1]: 子どもへの影響と看護		
	該当到達目標	予習	教科書 1) の第 1・2 章のうち、講義内容と関連する項を精読する。	1 時間
	1,6	復習	健康障がいのある子どもの体験と子どもへの看護について整理する。	2 時間
2	講義内容	健康障がい、入院・治療が子どもと家族に与える影響と看護[2]: 家族への影響と看護		
	該当到達目標	予習	教科書 1) の第 1・2 章のうち、講義内容と関連する項を精読する。	1 時間
	1,6	復習	健康障がいのある子どもの家族(母親、父親、きょうだい)の体験と家族へ看護について整理する。	2 時間
3	講義内容	健康障がい、入院・治療が子どもと家族に与える影響と看護[3]: 医療を受ける子どもの権利、子どもの病気の理解と説明■		
	該当到達目標	予習	教科書 1) の第 1 章 D 章を精読する。また、教科書、専門書、ポートフォリオを活用し、事前学習課題(子どもの権利、倫理原則など)に取り組む。	1 時間
	2,6,7,8	復習	健康障がいのある子どもの権利が脅かされる状況を考察し、看護のあり方を考える。	2 時間
4	講義内容	健康障がい、入院・治療が子どもと家族に与える影響と看護[4]: 健康障がいのある子どもへの日常生活支援		
	該当到達目標	予習	教科書 1) の第 1・2 章のうち、講義内容と関連する項を精読するとともに、小児看護学概論で学習した「各発達段階の日常生活習慣の獲得過程とその支援」について学習する。	1 時間
	1,6	復習	講義内容を参考に、病気や健康障がいのある子どもへの支援のあり方について自己の意見を考察する。	2 時間
5	講義内容	治療・検査・処置を必要とする子どもと家族への看護[1]: 子どもの体験、採血・腰椎穿刺・骨髄穿刺を受ける子どもへの看護■		
	該当到達目標	予習	教科書 1) の第 6 章のうち講義内容と関連する項を精読する。	1 時間
	3,6	復習	子どもの採血、腰椎穿刺、骨髄穿刺に関わる知識・技術を整理する。	2 時間
6	講義内容	治療・検査・処置を必要とする子どもと家族への看護[2]: 薬物療法(輸液療法・与薬)を受ける子どもへの看護、発達に応じたプレパレーション■		
	該当到達目標	予習	教科書 1) の第 6 章のうち、講義内容と関連する項を精読する。	1 時間
	3,6	復習	与薬に関わる知識・技術に関して、課題学習に取り組む。	2 時間
7	講義内容	子どもの示す主な症状とその看護[1]—不機嫌および啼泣、痛み、発熱、脱水—		
	該当到達目標	予習	教科書 1) の第 5 章のうち、講義内容と関連する項を精読する。また、「子どものコミュニケーション」「体温調節機能」「腎機能」の発達の特徴を学習する。	1 時間
	4	復習	症状のメカニズムと症状緩和方法、合併症予防の方法を理解する。	2 時間
8	講義内容	子どもの示す主な症状とその看護[2]—呼吸困難、けいれん(意識障害)—		
	該当到達目標	予習	教科書 1) の第 5 章のうち、講義内容と関連する項を精読する。また、子どもの「呼吸器」「脳・神経系」の発達の特徴を学習する。	2 時間
	4	復習	症状のメカニズムと症状緩和方法を整理する。	1 時間
9	講義内容	病期別の子どもと家族への看護[1] —急性期にある子どもと家族への看護 —		
	該当到達目標	予習	教科書 1) の第 3 章—B を精読する。また、川崎病の病態生理、治療、一般的な看護について調べる。	2 時間
	5	復習	急性期にある川崎病の病態生理、治療、および提示した事例の発達段階を考慮した上で、子どもと家族に必要な看護を整理する。	1 時間
10	講義内容	病期別の子どもと家族への看護[2] —慢性期にある子どもと家族への看護—■		
	該当到達目標	予習	教科書 1) の第 3 章—A を精読する。また、急性リンパ性白血病の病態生理、治療、一般的な看護について調べる。	2 時間
	5	復習	慢性期にある急性リンパ性白血病の病態生理、治療、および提示した事例の発達段階を考慮した上で、子どもと家族に必要な看護を整理する。また、小児慢性疾患の子どもと家族を支える行政施策について調べ、自己学習する。	1 時間
11	講義内容	病期別の子どもと家族への看護[3] —終末期にある子どもと家族への看護—■		

	該当到達目標 5	予習	教科書 1) の第 3 章－D を精読する。	1 時間
		復習	子どもの死の概念の発達と、終末期にある子どもと家族への看護のあり方をまとめる。	2 時間
12	講義内容	病期別の子どもと家族への看護[6]: 周手術期にある子どもと家族への看護■		
	該当到達目標	予習	教科書 1) の第 3 章－C を精読する。また、小児看護学概論で学習した子どもの「呼吸器」「循環器」の成長・発達の特徴、成人看護学方法論 I、臨床医学等で学習した「Moore の手術後の生体の回復過程」を学習する。	1 時間
	1,4,6	復習	手術を受ける子どもの手術前・後の看護について整理する。	2 時間
13	講義内容	さまざまな状況にある子どもと家族への看護[1]: 外来における子どもと家族への看護■		
	該当到達目標	予習	教科書 1) の第 2 章－B を精読する。また、本科目で学習した子どもの「セルフケアの発達過程」、看護人間発達学で学習した「思春期・青年期にある対象者の発達の特性」について再学習する。	1 時間
	1,5,6	復習	セルフケアの獲得に向けた支援、成人移行期支援について整理する。	2 時間
14	講義内容	さまざまな状況にある子どもと家族への看護[2]: 小児在宅看護■		
	該当到達目標	予習	教科書 1) の第 2 章－C を精読する。	1 時間
	1,5,6	復習	小児在宅医療・看護の現状と課題、在宅療養を必要とする子どもと家族への看護について整理する	2 時間
15	講義内容	総括: 健康障がいのある子どもと家族への看護の役割■		
	該当到達目標	予習	教科書 1) の小児臨床看護総論 第 1 章を再度精読する。	1 時間
	6	復習	これまでの授業内容を再確認し、健康障がいのある子どもと家族への看護について整理する。	2 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	【学習上の助言および受講時のルール】 ● 本科目は、小児看護学演習、小児看護学実習へと連動して授業展開される科目であるため、授業シラバス、授業計画を必ず確認する。また、看護人間発達学、小児看護学概論での既習の知識を活用するとともに、予習・復習を十分行い、積極的に授業に臨む。 ● 単位修得に必要な時間を満たしていない場合 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完する。 ● 授業の進行過程において、各自がポートフォリオを作成する。また、ポートフォリオを持参し、内容を補充しながら授業に臨む。 ● 授業中に提示された課題は、提出期限を厳守し必ず提出する。未提出の場合には単位修得に影響する。			
	【出席登録】 出席登録は、C-learning の下記の方法 1・2 のいずれかの方法で行う。方法は C-learning【協働板】または【ニュース】を確認すること。 ・方法 1: 【出席管理】機能を通じて、確認キーをみて出席登録を行う。 ・方法 2: 【アンケート】機能を通じて設問に回答する。			
	【オンライン授業での出席の取り扱い】 オンラインで授業を行う場合には、上記の C-learning を通じた出席登録を行うこと、および C-learning【教材倉庫】内の教材が「既読」になっていることを条件に出席として取り扱う。			
	【履修条件】 この科目は、「看護人間発達学」「小児看護学概論」を履修していることが望ましい。			
	(■: 実務経験に基づく内容を示す。)			

科目名	小児看護学演習(看護専門科目群・専門分野Ⅱ・小児看護学)					科目 ナンバリング	NRS222・B			
英文名	Pediatric Nursing Practice					講義形態	演習			
担当教員	星野美穂・山崎彩									
科目に関連した 実務経験	・担当教員は、大学病院や総合病院の小児病棟、NICU、小児専門病院や小児科クリニックで看護師としての勤務経験を有する。 ・実習先の現職者である重症心身障害看護認定看護師より講義を受ける。 ・実習先の現職者である小児救急看護認定看護師を技術演習の指導者として招く。									
学年・開講期	2年 後期	選必・単位数	必修 1単位							
履修を必須とする 資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針 との対応	2	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	6	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	③ 16									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○		○			○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①講義の目標 健康障害を抱える子どもの発達段階、健康状態(疾患、疾患・治療に起因する症状、病期、治療・検査・処置など)、個別性に応じた看護過程を展開する方法および看護を実践する上で必要な基本的知識・技術を学習する。 ②講義の実施方法 ・教科書、教員が作成した資料、パワーポイントを用いるとともに、DVD等の視覚教材も活用し、疾患を抱える子どもと家族の特徴や、健康問題・健康課題のイメージ化を図りながら講義を行う。 ・学生間、学生と教員間でのディスカッションを行いながら、疾患を抱える子どもと家族のモデル事例への看護過程の展開を行う。 ・モデル人形、シミュレーターを用い、看護を実践するうえで必要な小児看護技術の演習を行う。									
到達目標	1.小児期特有の症状や疾患を抱える子どもと家族への看護を理解する■ 2.健康障害を抱える子どもの特徴をふまえ、看護過程の基本的な考え方を理解する 3.健康障害を抱える子どもの顕在的・潜在的な健康問題・課題とその支援の必要性をアセスメントする 4.健康障害を抱える子どもの顕在的・潜在的な健康問題・課題に対する支援の方向性を導く 5.子どもの発達段階、健康状態に応じた看護を実践する上で必要な小児看護技術を習得する■									
使用教材	1)奈良間美保他:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論, 医学書院. ¥2,800 2) 奈良間美保他:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2] 小児臨床看護各論, 医学書院. ¥3,300 3)中野綾美編:ナーシング・グラフィカ 小児看護学②ー小児看護技術, メディカ出版. ¥3,456 ※教科書は、授業および予習・復習において使用する ・その他、適宜、授業資料を配布する									
参考文献	①中野綾美編:ナーシング・グラフィカ 小児看護学①ー小児の発達と看護, メディカ出版. ②中野綾美編:ナーシング・グラフィカ 小児看護学③ー小児の疾患と看護, メディカ出版.									
評価方法	授業参加度、試験・課題の提出状況により、総合的に評価する。 看護過程の課題(35%)、技術演習の課題(15%)、筆記試験(50%)									
課題に対する フィードバック	レポートにはコメントを付して返却する。また、小テストを返却し、解説する(対面講義でもオンライン講義でも同様)。									

オフィスアワー (研究室)		質問および学習相談には、授業開始前 もしくは終了後に応じる。 (5号館4階411研究室)		メールアドレス (#→@)	hoshino-m#takasaki-u.ac.jp
1	講義内容	科目オリエンテーション 小児の看護過程総論ー小児看護における看護過程の基本的な考え方、アセスメントの特徴			
	該当到達目標	予習	基礎看護学において学習した看護過程、看護診断について復習する。	15分	
	2	復習	小児看護における看護過程の特徴と前提となる考え方について再度資料を精読し、理解を深めるとともに、3回目以降の授業で行う事例のアセスメントに活用できるポートフォリオを作成・整理する。	30分	
2	講義内容	モデル事例に基づく看護過程演習[1]			
	該当到達目標	予習	第1回目の授業資料の内容について復習する	15分	
	1,2,3	復習	小児看護における看護過程のアセスメントの基本的な方法について再度資料を精読し理解を深めるとともに、第3回目以降の授業で行う事例のアセスメントに活用できるポートフォリオを作成・整理する。	30分	
3	講義内容	モデル事例に基づく看護過程演習[2]ー事例紹介・演習の進め方・アセスメント①ー			
	該当到達目標	予習	幼児の身体的、心理的、社会的な成長・発達の特徴、気管支喘息の病態生理、治療、および看護について学習する。	15分	
	1,2,3	復習	事例を精読し、予習で不足していた知識について補充学習する。アセスメント枠組みに基づき、モデル事例の情報を整理する。	30分	
4	講義内容	モデル事例に基づく看護過程演習[3]ーアセスメント②ー			
	該当到達目標	予習	アセスメント枠組みに基づき、モデル事例の情報を整理する。	15分	
	1,2,3	復習	既習の知識・講義内容に基づき、モデル事例の看護上の問題になりうる事項を検討し、その原因・誘因を探索し、記述する。	30分	
5	講義内容	モデル事例に基づく看護過程演習[4]ーアセスメント③ー			
	該当到達目標	予習	アセスメント枠組みに基づき、モデル事例の情報を整理する。	15分	
	1,2,3	復習	既習の知識・講義内容に基づき、モデル事例の看護上の問題になりうる事項を検討し、その原因・誘因を探索し、記述する。	30分	
6	講義内容	モデル事例に基づく看護過程演習[5]ー対象の強みと支援の方向性(個人およびグループワーク)ー			
	該当到達目標	予習	モデル事例の強みをワークシートに記述する。	15分	
	3,4	復習	グループワークをふまえ、自身の学びと課題を整理する。	30分	
7	講義内容	モデル事例に基づく看護過程演習[6]ー看護の方向性、看護問題の抽出ー			
	該当到達目標	予習	講義内容と強みのワークをふまえ、アセスメントをすすめる。	15分	
	3,4	復習	既習の知識・講義内容に基づき、モデル事例の看護上の問題になりうる事項を検討し、その原因・誘因を探索し、記述する。	30分	
8	講義内容	小児期特有の症状や疾患を抱える子どもと家族への看護[1] ー心身障害を抱える子どもと家族への看護 総論ー■			
	該当到達目標	予習	教科書1)の小児臨床看護総論 第7章を精読する。	15分	
	1,2	復習	心身障害を抱える子どもと家族の特徴を理解する。また、親の障害受容段階を参考に、家族への看護のあり方について自己の考えを考察する。	30分	
9	講義内容	小児期特有の症状や疾患を抱える子どもと家族への看護[2] ー心身障害を抱える子どもと家族への看護 看護の実際ー■			
	該当到達目標	予習	教科書1)の小児臨床看護総論 第7章を精読する。	15分	
	1,2	復習	心身障害を抱える子どもの身体的・生理的特徴、合併しやすい障害や症状、重要な看護を理解する。	30分	
10	講義内容	小児期特有の症状や疾患を抱える子どもと家族への看護[3] ーハイリスク新生児と家族への看護ー■			
	該当到達目標	予習	教科書2)の2章のうち、低出生体重児に関連する項を精読する。	15分	
	1,2	復習	低出生体重児の身体的・生理的特徴、合併しやすい障害や症状、重要な看護を理解する。また、ディベロップメンタルケアの原則的な考え方とその支援について理解する。	30分	
11	講義内容	小児看護技術[1] 子どもへの説明			
	該当到達目標	予習	小児看護学概論および小児看護学方法論で学習した、子どもの認知発達の特徴、子どもの権利について確認する。	15分	
	1,5	復習	子どもへの説明のワークを通し、自己の傾向と課題を明らかにする。	30分	
12	講義内容	小児看護技術[2] フィジカルアセスメント、演習オリエンテーション			
	該当到達目標	予習	教科書1)の小児臨床看護総論 第4章を精読する。	15分	

	1,5	復習	フィジカルアセスメントの目的、基本技術、活用方法を理解する。また、演習で行う小児看護技術の内容と目標を確認する。	30 分
13	講義内容	小児看護技術[3] 技術演習:バイタルサイン測定、身体計測、心肺蘇生法、プレパレーション ■		
	該当到達目標	予習	演習で行う小児看護技術について調べ、事前学習課題レポートに取り組む。また、演習で行う小児看護技術の目標を確認する。	15 分
	1,5	復習	演習で行った小児看護技術における学びと自己の課題を明確にし、ワークシートを記入する。	30 分
14	講義内容	小児看護技術[4] 技術演習:バイタルサイン測定、身体計測、心肺蘇生法、プレパレーション ■		
	該当到達目標	予習	演習で行う小児看護技術について調べ、事前学習課題レポートに取り組む。また、演習で行う小児看護技術の目標を確認する。	15 分
	1,,5	復習	演習で行った小児看護技術における学びと自己の課題を明確にし、ワークシートを記入する。	30 分
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	講義・演習で学習した内容を振り返る。	15 分
	1,2,3,4	復習	講義・演習での学びと自己の課題を明確にする。	30 分
合計時間(予習・復習)				11 時間 15 分
備考	【学習上の助言および受講時のルール】 ●本科目は、小児看護学実習へと連動して授業展開される科目であるため、授業シラバス、授業計画を必ず確認する。 ●小児看護学概論、小児看護学方法論での既習の知識を活用するとともに、予習・復習を十分行い、積極的に授業に臨む。 ●予習・復習時間:必要に応じて各自で補完する。 ●授業の進行過程において、各自がポートフォリオを作成する。また、ポートフォリオを持参し、内容を補充しながら授業に臨む。 ●授業中に提示された課題は、提出期限を厳守し必ず提出する。未提出の場合には単位修得に影響する。 ・小児看護技術[3][4]技術演習を欠席した場合には、担当教員に申し出る。演習を未実施のまま単位修得することはできない。 ・本科目は、養護教諭一種資格取得に関わる科目である。 【出席登録】 ・出席登録は C-learning による「出席管理」および授業終了後の「アンケート」への回答により行う。 【履修条件】 この科目は、「小児看護学概論」、「小児看護学方法論」を履修していることが望ましい。 (■:実務経験に基づく内容を示す。)			

科目名	小児看護学実習(看護専門科目群・専門分野Ⅱ・小児看護学)						科目 ナンバリング	NRS314・C		
英文名	Pediatric Nursing: Practicum						講義形態	実習		
担当教員	星野美穂・山崎彩									
科目に関連した 実務経験	担当教員は、大学病院や総合病院の小児病棟、NICU、小児専門病院やクリニック等での看護師としての勤務経験を有する。									
学年・開講期	3 年 通年		選必・単位数		必修 2 単位					
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	2	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	6	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	③16									
アクティブラーニング実 施方法	PBL (課題解決型学 習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○		○				
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①講義の目標 多様な場で生活する小児期にある対象とその家族を包括的に理解し、健康の保持増進、疾病の予防、成長・発達の促進、特定の健康課題に解決を目指した個別性に応じた看護を実践するための基礎的能力を養うとともに、小児看護の役割を学ぶ。 ②講義の実施方法 実習は 5 人程度の小グループで行い、臨地(病院や施設)において対象者を受け持ちながら看護過程の展開を行い、学内実習において学びを整理する。個別指導やグループカンファレンスを通して実習目標の達成を目指す。									
到達目標	1.小児期にある対象の成長・発達や家族の特性をふまえた援助的関係を構築するための態度を修得する。■ 2.小児期にある対象の成長・発達と健康状態を身体的、心理的、社会的側面から包括的にアセスメントする。■ 3.小児期にある対象の顕在的・潜在的な健康課題とその支援の必要性を身体的、心理的、社会的側面から明確にする。■ 4.小児期にある対象のアセスメントに基づき、個別性のある看護支援を計画・実施・評価する。■ 5.小児期にある対象の理解および看護実践をとらえて、小児看護の役割とその意義を理解する。 6.小児期にある対象と家族をとりまく保健医療福祉および教育にかかわる多職種連携チームの一員として行動する。 7.看護学の初学者として、看護の役割を果たすための責任感、および態度を修得する。■									
使用教材	1)奈良間美保他:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論, 医学書院。 2)奈良間美保他:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2] 小児臨床看護各論, 医学書院。 3)中野綾美編:ナーシング・グラフィカ 小児看護学②ー小児看護技術, メディカ出版。¥ 3,456 ※教科書は、授業および予習・復習において使用する 4)学科作成の小児看護学実習要項 5)その他、小児看護学概論、小児看護学方法論、小児看護学演習で配布した授業資料も活用する。									
参考文献	1)中野綾美編:ナーシング・グラフィカ 小児看護学①ー小児の発達と看護, メディカ出版。 2)中野綾美編:ナーシング・グラフィカ 小児看護学③ー小児の疾患と看護, メディカ出版。 3)筒井真優美監修:小児看護 第 2 版 パーフェクト臨床実習ガイド, 照林社。 4)その他、適宜参考文献を別途紹介する。									
評価方法	実習目標を評価基準として 100 点換算し、総合評価 60 点以上を合格とする。 臨地実習、学内実習、カンファレンスにおける学生の言動、記録物・レポートの記載内容、および、実習参加度により統合的に評価する。									
課題・評価に対する フィードバック方法	事前学習課題および実習期間中に提出された課題に対しては、担当教員から随時コメントを付して返却する。実習終了時に提出された課題には、コメントを付して返却する。									

オフィスアワー (研究室)	質問および学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。 (5号館4階411研究室;星野)	メールアドレス (#→@)	hoshino-m#takasaki-u.ac.jp
講義内容	【授業の進め方】 ・1グループに対し教員1名が実習指導を担当する。 ・行動目標の達成に向け教員は、対象理解・全体像の把握・看護問題の抽出・看護計画の立案と実施・評価の一連の過程について、支援を行う。 ・小児地域包括支援実習および幼稚園実習では、対象者の特徴と看護の実際について、参加観察を通して支援を行う。 ・行動目標の達成に向け、グループワークやカンファレンスを実施する。 【実習期間および実習施設】 実習期間は 2 週間で、病院または施設、および附属幼稚園で8日間、学内で2日間実習を行う。なお、病院実習では、小児専門病院、総合病院、医療型障害児入所施設のいずれかにおいて実習を行う。 【実習内容】 1) 病棟実習: 病院または施設に入院している子どもを受け持ち、看護過程を展開するとともに、日常生活の支援(食事・清潔・排泄・遊び等)、治療・検査・処置にかかわる支援を実施する。さらに受け持ち患者への看護実践を通して、健康障害を抱える子どもとその家族への支援のあり方と意義を探究する。■ 2) 小児地域包括支援実習: NICU/GCU、重症心身障害児・者デイサービス、病児保育について、事前学習および、参加観察実習を行い、子どもと家族の特徴と看護の実際を学習する。■ 3) 幼稚園実習: 対象となる子どもや子どもを取り巻く人的・物理的環境を観察する。また、保育・活動場面、日常生活支援場面(遊び、昼食、片付け、手洗い・うがいなど)において、子どもと関わりながら参加観察を実施する。そして、乳幼児期にある健康な子どもの成長・発達の特徴および生じやすい健康問題について理解を深めるとともに、健康な子どもへの支援のあり方とその意義について考察する。 4) 学内演習(統合カンファレンス) 小児看護学実習で体験した、倫理的な側面からの気づき・ジレンマ・課題を共有し、小児看護の特徴、役割・機能について理解を深めるとともに、自己の課題を明確にする。■		
	予習	・小児看護学実習における対象の理解、看護過程の展開、看護実践、看護の本質を探究する上で必要な知識・技術に関して学習し、ポートフォリオを作成する。 ・日々の実習においては学習行動計画用紙を活用し、翌日の学習目標および目標を達成するための学習計画をたてて実習に臨む。 ・実習指導教員、実習指導者の助言に基づき、受け持ち患者への看護過程の展開や看護実践に必要な知識・技術について日々学習し、実習に臨む。	期間中適宜
	復習	・学習行動計画用紙、C-learning でのアンケート等を活用して日々の実習を振り返り、目標の達成状況の自己評価を行う。 ・実習での学びを統合し、以下の内容のレポートを作成する。 ①小児期にある対象の理解および看護実践をとおして経験したこと、学んだことを具体的に提示し、『小児看護の特徴と看護者の役割・機能』について考察する。 ②小児看護学実習をとおし、今後の自己の課題を具体的に考察する。 指定の期日までに、上記レポートと実習記録を提出する。	期間中適宜
合計時間(予習・復習)			時間
備考	【学習上の助言および受講時のルール】 ●学生は1名の対象者を受け持ち、看護問題の解決に向けた看護過程を展開する。そのため、各自で作成したポートフォリオを活用し、主体的・自律的に実習に臨むこと。 ●本科目は、1 年時からの学習の積み重ねが重要であるため、小児看護学概論、小児看護学方法論、小児看護学演習を中心に十分に復習しておくこと。 ●実習科目の単位修得については、実習の規定に準じる。 【履修条件】 ●この科目は、臨地実習科目の履修承認基準をすべて満たしていなければ受講できない (■:実務経験に基づく内容を示す。)		

科目名	リプロダクティブヘルス看護学概論(看護専門科目群・専門分野Ⅱ・母性看護学)						科目ナンバリング	NRS120・B		
英文名	Introduction to Reproductive Health Nursing						講義形態	講義		
担当教員	茂木佐智子									
科目に関連した実務経験	助産師として総合病院の勤務経験を有する									
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数		必修・1 単位					
履修が必須となる資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針との対応	2	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	6	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	3 5 16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
									○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①リプロダクティブヘルスとは、性と生殖に関する健康、つまり、性と生殖システム、その機能と過程の全ての側面において、身体的、精神的、社会的に完全な良好な状態を意味している。これは、生殖年齢にある男女のみならず、思春期から生涯にわたる、すべての個人が持つ権利であり保証されなければならない。本授業では、リプロダクティブヘルスに関する基礎的知識と看護の役割について考察する。 ②スライド資料を配布し、スライドを利用した講義を展開する。									
到達目標	1. リプロダクティブヘルス看護の実践に必要な概念を述べる。 2. 女性のライフサイクルと各ライフステージにおける心身の健康の特徴を述べる。■ 3. 女性を取り巻く社会の現状と健康課題を調べ説明する。■ 4. リプロダクティブヘルス看護の役割を説明する。									
使用教材	・有森直子編, 母性看護学 I 概論第 2 版 女性・家族に寄り添い健康を支えるウィメンズヘルスケアの追求, 医歯薬出版, 2020. (2,200 円+税) ISBN978-4-263-23736-6 ・配布資料および視聴覚教材を使用する。									
参考文献	・授業の中で紹介する。									
評価方法	定期試験 60%、提出物(時間厳守)35%、授業態度 5%によって総合的に評価する。オンライン授業の場合も同様とする。									
課題に対するフィードバック	レポート等についてコメントする。オンライン授業の場合も同様とする。									
オフィスアワー (研究室)	火曜日の 4 限 5 号館 3 階 304 研究室				メールアドレス (#→@)		motegi-s#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	科目ガイダンス、リプロダクティブヘルス看護の実践の基盤になる概念								
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、講義の目標と内容を確認する。 教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。							1 時間
	1	復習	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。							2 時間
2	講義内容	リプロダクティブヘルスに関する動向(出生、死亡に関する統計、家族形成に関する統計)								
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。							1 時間
	2, 3	復習	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。							2 時間
3	講義内容	リプロダクティブヘルスに関する法と施策(子どもと女性の保護、女性の就労、暴力・虐待の防止に関する法律や施策と支援)								
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。							1 時間
	2, 3	復習	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。							2 時間
4	講義内容	思春期女性の健康■								

	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。また、自分が今までに受けてきた記憶に残る性教育の内容を記述する。	1 時間
	2, 3	復習	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2 時間
5	講義内容	成熟期女性の健康 ■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1 時間
	2, 3	復習	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2 時間
6	講義内容	妊娠・出産をめぐる医療と看護（不妊症と生殖医療） ■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1 時間
	2, 3	復習	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2 時間
7	講義内容	更年期女性の健康 ■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1 時間
	2, 3	復習	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2 時間
8	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	全体の授業内容を振り返る。	1 時間
	1, 2, 3, 4	復習	リプロダクティブヘルスに関する基礎的知識と、リプロダクティブヘルス看護の役割についてまとめる。	2 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間

備考	【ルール】 ・記載した予習・復習時間では単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完する。 ・提示された課題は提出期限を厳守し提出する。 【出席登録・確認】 出席の登録・確認は、下記の方法で行う。 方法 1. C-learning の「出席」の確認キーを見て登録する。 方法 2. C-learning の「アンケート」に回答する。 【オンライン授業での出席の取り扱い】 オンラインで授業を行う場合には、上記の C-learning を通じた出席登録を行うこと、および C-learning【教材倉庫】内の教材が「既読」になっていることを条件に出席として取り扱う。 ※本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム『多職種連携コース』の対象科目である。 なお、他学科の学生が本講義を受講する場合は、単位認定時の評価は「認定(N)」となる。 また、GPA 算出、卒業必要単位の対象外となる。履修登録時の履修上限制度(CAP)のカウントには含めない。 ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	リプロダクティブヘルス看護学方法論(看護専門科目群・専門分野Ⅱ・母性看護学)							科目ナンバリング	NRS223・A	
英文名	Reproductive Health Nursing Assessment and Skills							講義形態	講義	
担当教員	茂木佐智子、木村由利絵、吉田千草									
科目に関連した実務経験	助産師として病院に勤務(経験)									
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	必修 2 単位							
履修が必須となる資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針との対応	2	人間理解と倫理観					0	国際理解		
	6	論理的思考力・問題解決力					1	生涯学習力		
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	3 5 16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
「その他」のアクティブラーニング実施方法	○									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①リプロダクティブヘルス看護学の対象は、思春期、成熟期、更年期、老年期にある女性のみならず、女性と生殖や育児のパートナーとしての男性、子どもが生まれ乳児を育てる家族、その家族が生活する地域社会も含む。特に、妊娠、出産は、女性と家族にとって大きな転機となるライフイベントであり、その後の人生に大きな影響を及ぼす。本授業では、妊産褥婦および新生児に焦点をあて、健康状態を維持・促進するための看護、ならびに、正常からの逸脱を早期に発見し適切に対処するための看護の基礎的知識と看護技術を修得する。 ②スライド等の教具活用によって基礎的知識や看護技術を教示する。									
到達目標	1. 妊娠期の身体的・心理的・社会的特徴を述べる。 2. 妊娠経過をアセスメントする方法を述べる。 3. 妊婦の健康状態を維持・促進するための看護を説明する。■ 4. 妊娠期に起こる正常からの逸脱時の看護について述べる。■ 5. 分娩の生理を述べる。 6. 分娩経過をアセスメントする方法を述べる。 7. 分娩経過に沿った産婦の看護を説明する。■ 8. 産褥期の身体的・心理・社会的特徴を述べる。 9. 産褥経過をアセスメントする方法を述べる。 10. 褥婦の健康状態を維持・促進するための看護を説明する。■ 11. 産褥期に起こる正常からの逸脱時の看護について述べる。■ 12. 新生児の生理的特徴を述べる。 13. 新生児をアセスメントする方法を述べる。 14. 新生児の看護を説明する。■ 15. 妊産褥婦および新生児の健康状態を維持・促進するための看護の意義を認める。									
使用教材	・次の教科書を使用する。 ①有森直子編, 母性看護学Ⅱ 周産期各論 第2版 質の高い周産期ケアを追求するアセスメントスキルの習得 医歯薬出版, 2020. (4200 円+税) ISBN978-4-263-23737-3 ②荒木奈緒他編, ナーシング・グラフィカ 母性看護学(3)母性看護技術第5版 メディカ出版, 2022. (2600 円+税) ISBN978-4-8404-7533-4 ③リンダ J.カルペニート著; 黒江ゆり子監訳, 看護診断ハンドブック 第12版, 医学書院, 2023. (4,000 円+税) ISBN978-4-260-05021-0 ・配布資料および視聴覚教材を使用する。									

参考文献		・森恵美編, 系統看護学講座母性看護学[2]母性看護学各論第 14 版医学書院, 2021.			
評価方法		定期試験 60%、提出物(時間厳守)35%、授業態度 5%によって総合的に評価する。オンライン授業の場合も同様とする。			
課題に対するフィードバック		レポートやアンケート等に対してコメントする。オンライン授業の場合も同様とする。			
オフィスアワー (研究室)		火曜日の 4 限 5 号館 3 階 304 研究室	メールアドレス (#→@)	motegi-s#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	科目ガイダンス、妊娠経過のアセスメント【茂木】			
	該当到達目標	予習	シラバスおよび教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1	時間
	1, 2	復習	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2	時間
2	講義内容	妊婦の看護①セルフケア能力を高めるための支援 ■【茂木】			
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1	時間
	3	復習	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2	時間
3	講義内容	妊婦の看護②出産と子育ての準備のための支援 ■【茂木】			
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1	時間
	3	復習	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2	時間
4	講義内容	妊娠期に起こりうる正常からの逸脱 ■【茂木】			
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1	時間
	4	復習	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2	時間
5	講義内容	分娩経過のアセスメント【茂木】			
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1	時間
	5, 6	復習	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2	時間
6	講義内容	産婦の看護 ■【茂木】			
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1	時間
	7	復習	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2	時間
7	講義内容	産褥経過のアセスメント【茂木】			
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1	時間
	8, 9	復習	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2	時間
8	講義内容	新生児のアセスメント【茂木】			
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1	時間
	12, 13	復習	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2	時間
9	講義内容	新生児の看護①出生直後の看護 ■【茂木】			
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1	時間
	14	復習	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2	時間
10	講義内容	新生児の看護②入院中の看護 ■【吉田千】			
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1	時間
	14	復習	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2	時間
11	講義内容	褥婦の看護①日常生活とセルフケア ■【木村】			
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1	時間
	10	復習	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2	時間
12	講義内容	褥婦の看護②母乳育児 ■【茂木】			
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1	時間
	10	復習	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2	時間
13	講義内容	褥婦の看護③役割調整 ■【茂木】			
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1	時間

	10	復習	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2 時間
14	講義内容	産褥期に起こりうる正常からの逸脱 ■【茂木】		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1 時間
	11	復習	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2 時間
15	講義内容	まとめ【茂木】		
	該当到達目標	予習	全体の授業内容を振り返る。	1 時間
	1-15	復習	リプロダクティブヘルス看護に関する基礎的知識と看護技術についてまとめる。	2 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	【ルール】 ・記載した予習・復習時間では単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完する。 ・提示された課題は提出期限を厳守し提出する。 【出席登録・確認】 出席の登録・確認は、下記の方法で行う。 方法 1. C-learning の「出席」の確認キーを見て登録する。 方法 2. C-learning の「アンケート」に回答する。 【オンライン授業での出席の取り扱い】 オンラインで授業を行う場合には、上記の C-learning を通じた出席登録を行うこと、および C-learning【教材倉庫】内の教材が「既読」になっていることを条件に出席として取り扱う。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	リプロダクティブヘルス看護学演習(看護専門科目群・専門分野Ⅱ・母性看護学)						科目ナンバリング	NRS224・B		
英文名	Reproductive Health Nursing Excercise						講義形態	演習		
担当教員	茂木佐智子、木村由利絵、吉田千草									
科目に関連した実務経験	助産師として病院に勤務(経験)									
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数		必修 1 単位						
履修が必須となる資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針との対応	2	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	6	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	3 5 16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○		○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①リプロダクティブヘルス看護学方法論において学習した基礎的知識を基盤とした看護過程の展開を通して、リプロダクティブヘルス看護の実践の基礎となる看護過程の展開に必要な知識、技術、態度を修得する。 ②授業は、妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期における事例の看護過程を展開し、ヘルスプロモーション型看護診断の特性や看護実践について学習する。また、それぞれの時期において活用する技術をモデルなどの教具を使用した演習を行う。									
到達目標	1. 正常な妊婦、産婦、褥婦、新生児を対象とした看護過程の展開方法を説明する。■ 2. 妊婦、産婦、褥婦、新生児のアセスメントの視点とその解釈を説明する。 3. 妊婦のセルフケア能力を高める看護の必要性を説明する。 4. 産婦・胎児にとって安全・安楽な分娩となるための看護の必要性を説明する。 5. 新生児の看護の必要性を説明する。 6. 褥婦の子宮復古の促進、母乳育児の確立のためのセルフケア能力を高める看護の必要性を説明する。 7. 新生児と褥婦のアセスメントや看護ケアに必要な技術の方法・留意点を説明する。 8. 新生児のバイタルサインの測定を実施し、健康状態をアセスメントする。■ 9. 新生児の沐浴を実施する。■ 10.褥婦の子宮底の高さと硬さを確認し、子宮復古状態をアセスメントする。■ 11.看護過程の展開に関わる自己の課題を見いだす。									
使用教材	・次の教科書を使用する。 ①有森直子編, 母性看護学Ⅱ 周産期各論 第2版 質の高い周産期ケアを追求するアセスメントスキルの習得医歯薬出版, 2020. (4200 円+税) ISBN978-4-263-23737-3 ②荒木奈緒他編, ナーシング・グラフィカ 母性看護学(3)母性看護技術第5版 メディカ出版, 2022. (2600 円+税) ISBN978-4-8404-7533-4 ③リンダ J.カルペニート著; 黒江ゆり子監訳, 看護診断ハンドブック 第12版, 医学書院, 2023.(4,000 円+税) ISBN978-4-260-05021-0 ・配布資料および視聴覚教材を使用する。									
参考文献	・森恵美編, 系統看護学講座母性看護学[2]母性看護学各論第14版医学書院, 2021. ・その他、授業の中で紹介する。									
評価方法	定期試験 50%、提出物(時間厳守)40%、授業態度 10%によって総合的に評価する。オンライン授業の場合も同様とする。									
課題に対するフィードバック	レポートやアンケート等に対してコメントする。オンライン授業の場合も同様とする。									
オフィスアワー (研究室)	火曜日の4限 5号館3階304研究室				メールアドレス (#→@)		motegi-s#takasaki-u.ac.jp			

1	講義内容	科目ガイダンス、リプロダクティブヘルス看護学における看護過程とは、模擬事例紹介		
	該当到達目標	予習	シラバスおよび教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1 時間
	1	復習	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2 時間
2	講義内容	妊婦の看護過程① アセスメント		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1 時間
	2	復習	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2 時間
3	講義内容	妊婦の看護過程② アセスメント、看護診断		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1 時間
	3	復習	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2 時間
4	講義内容	妊婦の看護過程③ 看護実践(妊婦健診と保健指導)		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1 時間
	1	復習	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2 時間
5	講義内容	産婦の看護過程① アセスメント		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1 時間
	2	復習	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2 時間
6	講義内容	産婦の看護過程② 看護技術(モニタリングと産痛緩和)		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1 時間
	4	復習	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2 時間
7	講義内容	新生児の看護過程① アセスメント		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1 時間
	2	復習	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2 時間
8	講義内容	新生児の看護過程② アセスメント		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1 時間
	2	復習	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2 時間
9	講義内容	新生児の看護過程③ 看護技術(全身の観察、沐浴ほか)		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1 時間
	5	復習	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2 時間
10	講義内容	褥婦の看護過程① アセスメント		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1 時間
	2	復習	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2 時間
11	講義内容	褥婦の看護過程② アセスメント		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1 時間
	2	復習	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2 時間
12	講義内容	褥婦の看護過程③ 看護技術(子宮復古の観察、母乳育児ほか)		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1 時間
	6	復習	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2 時間
13	講義内容	実技演習：褥婦と新生児の観察とアセスメント、沐浴の実施①		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1 時間
	2,7,8,9,10	復習	演習レポートを記述し、学習内容を整理する。	2 時間
14	講義内容	実技演習：褥婦と新生児の観察とアセスメント、沐浴の実施②		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1 時間
	2,7,8,9,10	復習	演習レポートを記述し、学習内容を整理する。	2 時間
15	講義内容	まとめ 1		
	該当到達目標	予習	全 14 回の授業内容を振り返る。	1 時間

	1,11	復習	妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期の看護過程の展開で活用した基礎的知識を復習する。	2 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	【ルール】 ・記載した予習・復習時間では単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完する。 ・提示された課題は提出期限を厳守し提出する。 【出席登録・確認】 出席の登録・確認は、下記の方法で行う。 方法 1. C-learning の「出席」の確認キーを見て登録する。 方法 2. C-learning の「アンケート」に回答する。 【オンライン授業での出席の取り扱い】 オンラインで授業を行う場合には、上記の C-learning を通じた出席登録を行うこと、および C-learning【教材倉庫】内の教材が「既読」になっていることを条件に出席として取り扱う。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	リプロダクティブヘルス看護学実習(看護専門科目群・専門分野Ⅱ・母性看護学)						科目ナンバリング	NRS315・C		
英文名	Reproductive Health Nursing Practicum						講義形態	実習		
担当教員	茂木佐智子、木村由利絵、吉田千草									
科目に関連した実務経験	助産師として病院に勤務(経験)									
学年・開講期	3 年 通年	選必・単位数	必修 2 単位							
履修が必須となる資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針との対応	2	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	6	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGsとの関連	3516									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○		○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①看護学実習は、看護職者が行う実践の中に学生が身を置き、看護職者の立場でケアを行うことである。この学習過程では、リプロダクティブヘルス看護学概論・方法論・演習において学習した知識・技術・態度の統合を図り、リプロダクティブヘルス看護の実践に必要な基礎的能力を修得する。 ②実習は3年次通年に行われる。実習グループごとに実習指導担当教員が割り振られ、リプロダクティブヘルス看護の対象者に対する看護ケアを提供することを通じ、実習目標に到達できるよう、実習施設の関係者と連携し支援する。									
到達目標	1. 妊娠・分娩・産褥期および新生児期にある対象の健康状態をアセスメントし、総合的に理解する。■ 2. 妊娠・分娩・産褥期および新生児期にある対象とその家族の健康の保持増進に向けた看護計画を立案・実施・評価する。■ 3. リプロダクティブヘルス看護の機能と役割を理解する。 4. 看護学生としての責務を果たす。									
使用教材	・リプロダクティブヘルス看護学実習要項 ・有森直子編, 母性看護学Ⅱ 周産期各論 第2版 質の高い周産期ケアを追求するアセスメントスキルの習得 医歯薬出版, 2020. (4200 円+税) ISBN978-4-263-23737-3 ・荒木奈緒他編, ナーシング・グラフィカ 母性看護学(3)母性看護技術第5版 メディカ出版, 2022. (2600 円+税) ISBN978-4-8404-7533-4 ・リンダ J.カルペニート著; 黒江ゆり子監訳, 看護診断ハンドブック 第12版, 医学書院, 2023. (4,000 円+税) ISBN978-4-260-05021-0 ・リプロダクティブヘルス看護学概論、リプロダクティブヘルス看護学方法論、リプロダクティブヘルス看護学演習の授業資料									
参考文献	・森恵美編, 系統看護学講座母性看護学[2]母性看護学各論第14版 医学書院, 2021. ・その他、実習中に紹介する。									
評価方法	実習評価表に基づき評価を行う。実習目標の達成を100%とし、総合評価60点以上で合格とする。									
課題に対するフィードバック	実習期間中に提出された記録は、担当教員から随時コメントする。 実習終了時に提出された記録物は、コメントを付して返却する。									
オフィスアワー(研究室)	授業開始前または終了後 5号館3階304研究室				メールアドレス (#→@)		motegi-s#takasaki-u.ac.jp			
講義内容	【実習期間】2週間 【リプロダクティブヘルス看護学実習施設】 産科婦人科出張館 佐藤病院 多野藤岡医療事務市町村組合 公立藤岡総合病院									

	医療法人愛弘会 横田マタニティーホスピタル SUBARU 健康保険組合 太田記念病院 【実習方法】 次の①と②を実習の場に応じて実施する。 ①受け持ち褥婦と新生児に対する、一連の看護過程の展開■ 正常に経過している対象者への健康増進に向けた看護を実施する。(到達目標 1,2,3,4) なお、褥婦と新生児を受け持つことができない場合には、紙上事例の看護過程を展開する。 ②機能別の実習■ 新生児に対する基本的看護を実施する。(到達目標 1,2,3,4) 産婦人科外来・分娩室等において、妊娠褥婦に対する看護活動を参加観察する。(到達目標 1,3,4) なお、新生児の看護や、妊娠褥婦に対する看護活動の参加観察の実施ができない場合には、視聴覚教材の視聴やシミュレーション演習によって学習する。 ※詳細は、リプロダクティブヘルス看護学実習要項参照		
	予習	既習のリプロダクティブヘルス看護学概論、プロダクティブヘルス看護学方法論、リプロダクティブヘルス看護学演習において学習した基礎的知識と技術(リプロダクティブヘルス看護学実習要項参照)を、教科書や参考書、資料によって確認する。 また、実習オリエンテーションにおいて配布した資料の内容を確認する。	適宜
	復習	実習で体験したことを実習目標と照らし合わせて学習到達度を自己評価し、課題を明確にして翌日の実習に臨む。	適宜
	合計時間(予習・復習)		適宜
備考	・褥婦と新生児を受け持つ場合は、原則として2～3名の学生が母子1組を担当する。 褥婦と新生児を受け持つことができない場合は、原則としてグループメンバーに同一の紙上事例を提示し、看護過程を展開する。 ・看護過程の展開は所定の記録用紙に各自で記録していくが、個別学習をもとに協力し合いながら看護計画を立案し実施する。 ・オンライン授業によるリプロダクティブヘルス看護学実習の出席登録・確認は、下記の方法で行う。 方法① C-Learning の「出席」の確認キーを見て登録する。 方法② Google Meet 等によるリアルタイムに音声や動画で双方向のやりとりに参加する。 上記①②による欠席が複数回確認された場合は、担当教員より個別に連絡する。その連絡に対し状況を伝えること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。		

科目名	精神看護学概論(看護専門科目群・専門分野Ⅱ・精神看護学)						科目ナンバリング	NRS121・B		
英文名	Introduction to Psychiatric and Mental Health Nursing						講義形態	講義		
担当教員	高田絵理子									
科目に関連した実務経験	担当教員は総合病院や精神科病院での看護師としての勤務経験を有する。									
学年・開講期	1 年	後期	選必・単位数	必修 1 単位						
履修が必須となる資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針との対応	2	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	6	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	③16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験実習、 実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○							○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要	⑤ 講義の目標 精神看護学の基本的な考え方、精神の健康に関する知識、精神障害者の治療の歴史、精神関連法規について学習する。									
①講義の目標	⑥ 講義の実施方法									
②講義の実施方法	本科目は、精神看護学を担当する教員が実施する。教科書、教員が作成した資料、パワーポイント、視聴覚教材を用い、精神の健康に関する基礎的な考え方および知識、関連法規についての理解を図りながら授業を展開する。									
到達目標	1.精神看護学の基本的な考え方を理解できる。 ■ 2.精神の健康と障害を理解できる。■ 3.人間の心のはたらきを理解できる。 4.精神障害者の治療と歴史及び法制度を理解できる。									
使用教材	教科書:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学[1] 配布資料 授業に関連した DVD									
参考文献	厚生労働省ホームページ「心の健康」									
評価方法	筆記試験 60%、小テスト 30%、授業参加度 10%で算出し、60 点以上を合格とする。 オンラインの場合も C-learning、Zoom などを活用し、上記と同様の評価を行う。									
課題に対するフィードバック	・レポートはコメントを付して返却する。 ・オンラインの場合も C-learning の「レポート」「連絡・相談」などを利用してコメントをフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	水曜日 10:00~15:00 (5 号館 403 研究室)室)				メールアドレス (#→@)		takada-e#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	講義ガイダンス、現代社会とメンタルヘルス								
	該当到達目標	予習	教科書第1章の精神保健関連の統計値にしっかりと目を通す。						1.5 時間	
	3	復習	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する。						1.5 時間	
2	講義内容	精神看護学で学ぶこと								
	該当到達目標	予習	教科書の第1章「精神看護学でまなぶこと」に目を通す。						1.5 時間	
	1.2	復習	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する。						1.5 時間	
3	講義内容	精神保健の考え方■								
	該当到達目標	予習	教科書の第2章「精神保健の考え方」に目を通す。						1.5 時間	
	2.3	復習	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する						1.5 時間	
4	講義内容	人間の心のはたらきとパーソナリティ								
	該当到達目標	予習	教科書の第3章「心のはたらきと人格の形成」に目を通す。						1.5 時間	

	3	復習	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する	1.5 時間
5	講義内容	関係のなかの人間 ■		
	該当到達目標	予習	教科書の第4章「関係のなかの人間」に目を通す。	1.5 時間
	3	復習	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する	1.5 時間
6	講義内容	社会のなかの精神障害1 ■		
	該当到達目標	予習	教科書の第7章「社会のなかの精神障害」に目を通す。	1.5 時間
	3	復習	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する	1.5 時間
7	講義内容	社会のなかの精神障害2 ■		
	該当到達目標	予習	教科書の第7章のE「精神障害と法制度」に目を通す。	1.5 時間
	2.4	復習	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する	1.5 時間
8	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	今までの講義を振り返る。	1.5 時間
	2.3.4	復習	筆記試験のため第2~7回の重要なキーワードと内容を復習する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	・C-learning の「出席管理」を用いて出席登録を行う。 ・記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 ・メールで質問をする際は氏名、学籍番号を必ず記載すること。 ・養護教諭一種資格取得を希望する場合、卒業要件選択科目となっているため、履修する必要がある。 ・■：実務経験を示す。			

科目名	精神看護学方法論(看護専門科目群・専門分野Ⅱ・精神看護学)						科目 ナンバリング	NRS225・A		
英文名	Psychiatric and Mental Health Nursing: Assessment and Skills						講義形態	講義		
担当教員	高田絵理子									
科目に関連した 実務経験	担当教員は総合病院や精神科病院で看護師としての勤務経験を有する。									
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	必修 2 単位							
履修を必須とする 資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針 との対応	2	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	6	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	3 16									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
		○		○					○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	⑦ 講義の目標 精神看護学のケアの原則・方法、精神科看護師の役割、地域精神保健について学習する。 ⑧ 講義の実施方法 本科目は、精神看護学を担当する教員が実施する。教科書、教員が作成した資料、パワーポイント、視 聴覚教材を用い、精神のケアの原則・方法、精神科看護師の役割、地域精神障保健についての理解を 図りながら授業を展開する。									
到達目標	1. ケアの原則・方法やケアをする上での関係を理解できる。 ■ 2. 精神科における看護の役割を理解できる。■ 3. 地域で生活するための原則や法制度および地域での看護の実際を理解できる。 4. 精神科以外での精神看護の実践を理解できる。■									
使用教材	教科書:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学[1] 教科書:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学[2] 配布資料 授業に関連した DVD									
参考文献	宮本真巳著 看護場面の再構成 日本看護協会出版会 川野雅資著 エビデンスに基づく精神科看護ケア関連図 中央法規出版 白石壽美子著 全人的視点にもとづく精神看護過程 医歯薬出版株式会社									
評価方法	筆記試験 50%、小テスト 20%、レポート 20%、授業参加度 10%で算出し、60 点以上を合格とす る。 オンラインの場合も C-learning、Zoom などを活用し、上記と同様の評価を行う。									
課題に対する フィードバック	・レポートはコメントを付して返却する。 ・オンラインの場合も C-learning の「レポート」「連絡・相談」などを利用してコメントをフィードバックす る。									
オフィスアワー (研究室)	水曜日 10:00~15:00 (5 号館 403 研究室)				メールアドレス (#→@)		takada-e#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	講義ガイダンス、ケアの人間関係1 ■								
	該当到達目標	予習	既習の「精神看護学概論」の見直しをする。						1.5 時間	
	1.2	復習	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する。						1.5 時間	
2	講義内容	ケアの人間関係2 ■								
	該当到達目標	予習	教科書第8章 D 関係をアセスメントするに目を通す。						1.5 時間	
	1.2	復習	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する。						1.5 時間	
3	講義内容	ケアの人間関係3 ■								
	該当到達目標	予習	教科書第8章 E 患者看護師関係における感情体験～G 医療の場のダイナミク スに目を通す。						1.5 時間	

	1.2	復習	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する。	1.5 時間
4	講義内容	回復を助ける1 ■		
	該当到達目標	予習	教科書第9章 A 回復の意味に目を通す。	1.5 時間
	1.2	復習	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する。	1.5 時間
5	講義内容	回復を助ける2 ■		
	該当到達目標	予習	教科書第9章 B 入院治療の目的と意味に目を通す。	1.5 時間
	1.2.3	復習	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する。	1.5 時間
6	講義内容	回復を助ける3 ■		
	該当到達目標	予習	教科書第9章 C 治療的環境をつくるに目を通す。	1.5 時間
	1.2	復習	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する。	1.5 時間
7	講義内容	安全をまもる1 ■		
	該当到達目標	予習	教科書第 10 章 A リスクマネジメント～B 緊急事態に対処するに目を通す	1.5 時間
	2	復習	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する	1.5 時間
8	講義内容	安全をまもる1 ■		
	該当到達目標	予習	教科書第10章 C 院内を中心とした災害時のケアに目を通す	1.5 時間
	2.3	復習	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する。	1.5 時間
9	講義内容	身体をケアする1 ■		
	該当到達目標	予習	教科書第11章A精神科の治療と身体ケア～C精神科の治療と身体ケアに目を通す。	1.5 時間
	1.2	復習	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する。	1.5 時間
10	講義内容	身体をケアする2 ■		
	該当到達目標	予習	教科書第 11 章 D 日常から気をつけておきたい身体合併症～G 身体の問題へのグループアプローチに目を通す。	1.5 時間
	1.2	復習	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する。	1.5 時間
11	講義内容	地域における精神保健と精神看護1		
	該当到達目標	予習	教科書第13章 A 精神障害をもちながら地域で暮らす人を支える～C 生活を支えるための社会資源に目を通す。	1.5 時間
	3	復習	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する。	1.5 時間
12	講義内容	地域における精神保健と精神看護2		
	該当到達目標	予習	教科書第13章 D 地域での看護の実際に目を通す。	1.5 時間
	2.3	復習	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する。	1.5 時間
13	講義内容	地域における精神保健と精神看護3		
	該当到達目標	予習	教科書第13章 E 学校における精神保健と精神看護に目を通す。	1.5 時間
	1.4	復習	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する。	1.5 時間
14	講義内容	地域における精神保健と精神看護4		
	該当到達目標	予習	教科書第13章 F 職場における精神保健と精神看護に目を通す。	1.5 時間
	1.4	復習	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する。	1.5 時間
15	講義内容	リエゾン精神看護 まとめ		
	該当到達目標	予習	教科書第14章リエゾン精神看護に目を通す。 今までの講義を振り返る	1.5 時間
	2.4	復習	筆記試験のため第2～15回の重要なキーワードと内容を復習する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	・C-learning の「出席管理」を用いて出席登録を行う。 ・予習・復習の時間は、各自適宜補完すること。 ・養護教諭一種資格取得を希望する場合、卒業要件選択科目となっているため、履修する必要がある。 ・メールで質問をする際は、氏名、学籍番号を必ず記載すること。 ・■:実務経験を示す。			

科目名	精神看護学演習(看護専門科目群・専門分野Ⅱ・精神看護学)							科目ナンバリング	NRS226・B	
英文名	Psychiatric and Mental Health Nursing: Practice							講義形態	演習	
担当教員	高田絵理子									
科目に関連した実務経験	担当教員は総合病院、精神科専門病院で看護師としての勤務経験を有する。									
学年・開講期	2 年 後期		選必・単位数		必修 1 単位					
履修を必須とする資格	アイテムを選択してください。 看護師国家試験受験資格 指定科目									
学位授与方針との対応	2	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	6	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	3					16				
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
		○		○		○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	⑨ 講義の目標 精神疾患・症状に関する知識を身につけ、その知識を基に精神科疾患をもつ人の看護過程を展開する方法について学習する。 ⑩ 講義の実施方法 本科目は、精神看護学を担当する教員が実施する。教科書、教員が作成した資料、パワーポイント、視聴覚教材を用い、主な精神疾患・症状、精神疾患をもつ人の看護過程の展開についての理解を図りながら授業を展開する。									
到達目標	1. 精神に特徴的な疾患や症状に応じた看護方法を理解できる。■ 2. 精神看護学で看護過程を展開する方法を理解できる。 ■ 3. 精神に障害のある方の理解を深める。									
使用教材	教科書:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学[1] 教科書:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学[2] 配布資料 授業に関連した DVD									
参考文献	宮本真巳著 看護場面の再構成 日本看護協会出版会 川野雅資著 エビデンスに基づく精神科看護ケア関連図 中央法規出版 白石壽美子著 全人的視点にもとづく精神看護過程 医歯薬出版株式会社									
評価方法	筆記試験 40%、レポート 30%、小テスト 20%、授業参加度 10%で算出し、60 点以上を合格とする。 オンラインの場合も C-learning、Zoom などを活用し、上記と同様の評価を行う。									
課題に対するフィードバック	・レポートはコメントを付して返却する。 ・オンラインの場合も C-learning の「レポート」「連絡・相談」などを利用してコメントをフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	水曜日 10:00~15:00 (5 号館 403 研究室)				メールアドレス (#→@)		takada-e#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	講義ガイダンス、精神科における人権と安全								
	該当到達目標	予習	精神看護学概論、精神看護学方法論Ⅱの重要な事項をまとめておく。						0.2	時間
	3	復習	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する。						0.5	時間
2	講義内容	統合失調症の看護(急性期、回復期)■								
	該当到達目標	予習	教科書5章統合失調症に目を通す。						0.2	時間
	1.2	復習	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する。						0.5	時間
3	講義内容	統合失調症の看護(慢性期、社会復帰期)■								
	該当到達目標	予習	教科書5章統合失調症に目を通す。						0.2	時間
	1	復習	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する。						0.5	時間

4	講義内容	うつ病・躁うつ病の看護■		
	該当到達目標	予習	教科書5章気分障害に目を通す。	0.2 時間
	1	復習	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する。	0.5 時間
5	講義内容	摂食障害、アディクションの看護■		
	該当到達目標	予習	教科書5章摂食障害、アルコール症～精神物質使用による行動異常に目を通す。	0.2 時間
	1	復習	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する。	0.5 時間
6	講義内容	パーソナリティ障害、神経症の看護■		
	該当到達目標	予習	教科書5章パーソナリティ障害、神経症性障害に目を通す。	0.2 時間
	1	復習	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する。	0.5 時間
7	講義内容	精神障害者に対する地域包括支援について		
	該当到達目標	予習	教科書13章地域における精神保健に目を通す。	0.2 時間
	1.3	復習	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する。	0.5 時間
8	講義内容	アセスメントの視点、看護過程の展開■		
	該当到達目標	予習	セルフケア理論について予習してくる。	0.2 時間
	1.2	復習	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する。	0.5 時間
9	講義内容	事例展開1－①グループワーク		
	該当到達目標	予習	統合失調症失調症の急性期・回復期の看護について予習してくる。	0.2 時間
	1.2	復習	配布された事例についてセルフケア理論にそって情報を整理し、アセスメントをし、看護計画の立案をする。	0.5 時間
10	講義内容	事例展開1－②グループワーク		
	該当到達目標	予習	統合失調症失調症の急性期・回復期の看護について予習してくる。	0.2 時間
	1.2	復習	配布された事例についてセルフケア理論にそって情報を整理し、アセスメントをし、看護計画の立案をする。	0.5 時間
11	講義内容	グループワークの発表		
	該当到達目標	予習	発表内容のまとめ、役割・担当を確認する。	0.2 時間
	1.2	復習	他のグループの発表内容や質問された内容を振り返り、まとめておく。	0.5 時間
12	講義内容	事例展開2－①		
	該当到達目標	予習	うつ病の看護について予習してくる。	0.2 時間
	1.2	復習	配布された事例についてセルフケア理論にそって情報を整理し、アセスメントをし、看護計画の立案をする。	0.5 時間
13	講義内容	事例展開2－②		
	該当到達目標	予習	うつ病の看護について予習してくる。	0.2 時間
	1.2	復習	配布された事例についてセルフケア理論にそって情報を整理し、アセスメントをし、看護計画の立案をする。	0.5 時間
14	講義内容	グループ・ワーク・発表		
	該当到達目標	予習	発表内容のまとめ、役割・担当を確認する。	0.2 時間
	1.2	復習	他のグループの発表内容や質問された内容を振り返り、まとめておく。	0.5 時間
15	講義内容	リエゾン精神看護		
	該当到達目標	予習	教科書第14章リエゾン精神看護に目を通す。 今までの講義を振り返る	0.2 時間
	1	復習	筆記試験のため第2～15回の重要なキーワードと内容を復習する。	0.7 5 時間
合計時間(予習・復習)				11 . 25 時間
備考	・ C-learning の「出席管理」を用いて出席登録を行う。 ・ 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 ・ メールで質問をする際は、氏名、学籍番号を必ず記載すること。 ・ ■:実務経験を示す。			

科目名	精神看護学実習(看護専門科目群・専門分野Ⅱ・精神看護学)						科目 ナンバリング	NRS316・C		
英文名	Psychiatric and Mental Health Nursing: Practicum						講義形態	実習		
担当教員	高田絵理子・井田伸人・実習補助教員									
科目に関連した 実務経験	担当教員は、大学病院、総合病院、精神科病院で看護師としての勤務経験を有する。									
学年・開講期	3 年 通年	選必・単位数	必修 2 単位							
履修が必須となる 資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針 との対応	2	論理的思考力・問題解決力				0	国際理解			
	6	人間理解と倫理観				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	③16									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決 型学習)	反転授業	ディスカッ ション、ディベ ート	グルー プ ワ ー ク	プレゼン テ ー シ ョ ン	演習、実験 実習、実技	フィール ド ワ ー ク	指導案作 成、模擬授 業	リアクショ ン ペ ー パ ー	その他
			○			○	○		○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①実習の目標 精神に障害のある対象の特徴を理解し、対象のセルフケア向上・自立にむけた看護援助を実践するための基礎的能力を学ぶ。さらに、地域で生活する対象の特徴を理解し、保健医療福祉職との連携と協働、支援方法について学ぶ。 ②実習の実施方法 実習は、病棟や学内、オンラインにおいて、個々の学生が主体的に学習できるよう充分な個別指導を行う。									
到達目標	1. 精神医療の実際を通して、疾患や治療、看護の役割について理解できる。■ 2. 精神に障害のある対象の個別性を考慮し、看護過程を展開できる。■ 3. 精神に障害のある対象と自身との相互関係を振り返り、症状に応じたコミュニケーションスキルを実践できる。■ 4. 地域精神保健福祉活動の現状や保健医療福祉職の連携について理解できる。									
使用教材	1. 武井麻子他:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[1]精神看護学の基礎 医学書院 2. 武井麻子他:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[2]精神看護学の展開 医学書院 3. 田中美恵子編著:精神看護学 学生－患者のストーリーで綴る実習展開 医歯薬出版 4. 精神看護学実習要項 5. その他、精神看護学概論、精神看護学方法論Ⅰ、精神看護学方法論Ⅱで配布した授業資料も活用する。									
参考文献	1. 白石壽美子著、武居奈保子編,全人的視点に基づく精神看護過程 医歯薬出版 2. 必携! 精神看護学実習ポケットブック 精神看護出版 3. エビデンスに基づく精神科看護ケア関連図 中央法規出版 4. オレムのセルフケアモデル事例を用いた看護過程の展開 ヌーヴェルヒロカワ 5. 精神科ナースのアセスメント&プランニング books 統合失調症の看護ケア 中央法規出版 6. 精神科ナースのアセスメント&プランニング books うつ病・双極性障害の看護ケア 中央法規出版									
評価方法	・実習評価表に基づき評価を行う。実習目標の達成を 100%とし(実習態度、記録・レポート、出席日数等含む)、総合評価 60 点以上を合格とする。 ・オンライン実習となった場合は、看護援助の実践などが行えないため、該当する実習目標を達成可能な目標に変更し、zoom や meet などを利用し上記と同様に評価する。									
課題に対する フィードバック	・実習の事前学習および実習期間内に提出した記録物については、授業担当者からのコメントを付して返却する。習熟度の向上に向け、追加修正された箇所についてもコメントする。 ・オンライン実習となった場合は、C-learning、meet を用いて、上記と同様にフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	金曜日 14 時 30 分～16 時 ・高田絵理子:5 号館 403 研究室 ・井田伸人 :5 号館 実習指導室				メールアドレス (#→@)		・高田絵理子 takada-e # takasaki-u.ac.jp ・井田伸人 ida-n # takasaki-u.ac.jp			

講義内容	1. 実習期間および実習施設 実習期間は2週間であり、精神科病院および社会福祉施設で実習を行う。 2. 実習内容 1) 病院実習では1 人の対象を受け持ち、看護過程を展開するとともに、対象のセルフケア能力を高められるような援助を実践する。 2) 社会福祉施設では、施設利用者とともに活動に参加し、地域で生活することの意義や支援のあり方を探求する。 3) 学内実習では、学生が受け持っている1事例を用いてアセスメント、看護計画の立案、カンファレンスを行い、学びを深める。また、各自で病院実習や社会福祉施設実習で体験した内容を振り返り、精神看護の特徴、役割、機能について理解を深めるとともに、自己の課題を明確にする。		
	予習	・精神に障害のある対象とその治療を理解するために、必要な知識について学習する。 ・日々の実習においては学習行動計画用紙を活用し、翌日の学習目標および目標を達成するための学習計画を立案して実習に臨む。 ・教員、実習指導者の助言に基づき、看護過程の展開や看護実践に必要な知識、技術について日々学習する。	期間中適宜
	復習	・学習行動計画用紙を活用して日々の実習を振り返り、目標の達成状況の自己評価を行う。 ・実習先で指導を受けたことをふまえ、受け持ち患者記録を記載し、追加修正を加える。 ・受け持ち患者に必要な援助および日常生活指導や退院指導を導き出し、準備を進める。 ・病院実習、社会福祉施設での学びについて、レポートを作成する。 ・精神看護学実習を通し、自己の課題を具体的に考察する。 ・指定の期日までに、上記レポートと実習記録を提出する。	期間中適宜
合計時間(予習・復習)			適宜
備考	【出席登録方法】 ・臨地実習、学内実習の場合は、C-learning の「出席管理」を用いて出席登録を行う。 ・オンライン実習の出席は次の 1～3 いずれかの方法にて行う。 1.C-learning の出席登録 2.C-learning のアンケートの回答 3.zoom や meet での面接により直接確認 【授業の進め方】 ・グループとして学びを共有できるよう指導する。 ・既習の知識や技術を活用しながら実習目標に向かうことができるよう、臨床指導者と協力体制を整え指導する。 ・看護者として求められる態度についても、協調性や責任感、倫理観など総合的に育成できるよう支援する。 【その他】 ・受講するためには、臨地実習科目の履修登録が必要である。また、関連する科目(精神看護学概論、精神看護学方法論、精神看護学演習)の履修が必要である。 ・本科目は、1 年時からの学習の積み重ねが重要であるため、精神看護学概論、精神看護学方法論、精神看護学演習を中心に十分に復習しておくこと。 ・必要な基礎的知識を備え実習に臨むことができるよう、事前演習などに出席すること。 ・実習科目の単位修得については、実習の規定に準じる。 ■: 実務経験に基づく内容を示す。		

科目名	地域包括ケア論(看護専門科目群・専門分野Ⅱ・在宅看護学)						科目ナンバリング	NRS122・B		
英文名	Theory of Integrated Community Care						講義形態	講義		
担当教員	棚橋さつき									
科目に関連した実務経験	看護師、訪問看護師として総合病院、訪問看護ステーションに勤務(経験) 医療介護連携相談センターに看護師として勤務(経験)									
学年・開講期	1 年	後期	選必・単位数	必修・1 単位						
履修が必須となる資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針との対応	2	人間理解と倫理観			0	国際理解				
	5	論理的思考力・問題解決力			1	生涯学習力				
	2	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	3 16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○			○			
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①地域包括ケアシステムの概要を理解し、地域で暮らす高齢者の生活および健康増進に関するニーズについて学ぶ。 ②1、2、3 回の講義は、地域包括に必要な概要について講義する。授業はパワーポイントにより要点を提示する。4~6 回は、グループワークで進める。7 回では実践について学び、8 回目では学習した内容を整理する。									
到達目標	1. 地域包括ケアシステムの概要について理解する。■ 2. 対象の潜在能力や資源などの強みに着目した健康課題の捉え方を知る。■ 3. 地域で暮らす身近な高齢者とのコミュニケーションを通して、高齢者の日々の生活の実際を知る。■ 4. 地域で暮らす身近な高齢者、家族、コミュニティ、地域等との相互関係を知る。 5. 地域で暮らす高齢者の健康増進に関するニーズを知る。									
使用教材	医歯薬出版株式会社 地域・在宅看護論 適宜、講義資料を配布する									
参考文献	系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護学 北川公子 医学書院 標準保健師講座 公衆衛生看護学概論 医学書院									
評価方法	まとめレポート 50%、個人課題レポート 30%、グループレポート 10%、授業参加度 10%の総合評価とする。									
課題に対するフィードバック	レポートや質問については次の回に全体に向けて総評または回答・解説する。									
オフィスアワー (研究室)	月曜 3 限(4 号館 304 研究室)				メールアドレス (#→@)	tanahashi#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	ガイダンス、地域包括ケアシステムの概要(講義)■								
	該当到達目標 1	予習	シラバスを読み、講義の目標と内容を確認する。 教科書の「地域包括ケアシステムの概要」該当箇所を読み、学習することを確認する。						1.5 時間	
		復習	教科書とプリントを読み返し、疑問点を調べ、地域包括ケアシステムについて理解する。						1.5 時間	
2	講義内容	主要概念の理解 ICF、ストレングスモデル、自助・互助等(講義)■								
	該当到達目標 1.2	予習	教科書の「ICF」、「ストレングスモデル」、「自助・互助」該当箇所を読み、学習することを確認する。						1.5 時間	
		復習	教科書とプリントを読み返し、疑問点を調べ、主要概念について理解する。						1.5 時間	
3	講義内容	地域における施設、活動内容等(講義)								
	該当到達目標	予習	地域にある施設について調べ、学習の確認をする。						2.5 時間	

	1.5	復習	学習した内容を整理し、次のグループワークに向けて準備する。	0.5 時間
4	講義内容	地域で暮らす高齢者の生活の実際①(事前課題レポートに基づくグループワーク)		
	該当到達目標	予習	課題 1 レポート(地域で暮らす身近な高齢者とのコミュニケーションを通して、高齢者の日々の生活の実際をインタビューし、情報収集を行う)	2.5 時間
	2.3.4	復習	高齢者の生活状況から考えられる健康上の問題および健康に影響する要因(阻害要因、増進要因)について整理する。	0.5 時間
5	講義内容	地域で暮らす高齢者の生活の実際②(事前課題レポートに基づくグループワーク)		
	該当到達目標	予習	課題 1 レポート(地域で暮らす身近な高齢者とのコミュニケーションを通して、高齢者の日々の生活の実際をインタビューし、レポートを作成する。)	2.5 時間
	2.3.4	復習	高齢者の生活状況から考えられる健康上の問題および健康に影響する要因(阻害要因、増進要因)について整理する	0.5 時間
6	講義内容	地域で暮らす高齢者の生活の実際③(事前課題レポートに基づくグループワーク、発表)		
	該当到達目標	予習	課題レポート(地域で暮らす身近な高齢者と家族、コミュニティ、地域等との相互関係について)インタビューおよびフィールドワークを通してレポートを作成する。	2.5 時間
	2.3.4.5	復習	高齢者、家族、コミュニティ、地域等との相互関係について、「環境」や「健康」という視点から考えたことを整理する。	0.5 時間
7	講義内容	地域で暮らす高齢者の実際について理解を深める		
	該当到達目標	予習	有料老人ホーム等について事前学習を行い、整理する。	2.5 時間
	4.5	復習	高齢者、家族、コミュニティ、地域等との相互関係について、整理する。	0.5 時間
8	講義内容	地域で暮らす高齢者の健康増進に関する多様なニーズについて理解を深める、まとめ		
	該当到達目標	予習	高齢者の健康増進に関連して調べた内容、グループワークで広げた知識を整理し、理解を深める。	2.5 時間
	2.3.4.5	復習	地域で暮らす高齢者の健康増進に関する多様なニーズについて理解する	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	・単位修得に必要な時間数を満たしていない場合 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間が満たないため、各自で補完すること。 ・出席登録は C-learning を用いて行う。 ・オンラインで行う場合は、具体的な学習方法などについて別途提示する。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	地域・在宅看護学概論(看護専門科目群・専門分野Ⅱ・在宅看護学)						科目ナンバリング	NRS123・B		
英文名	Introduction to Community Health and Home Care Nursing						講義形態	講義		
担当教員	棚橋さつき									
科目に関連した実務経験	看護師、訪問看護師として総合病院、訪問看護ステーションに勤務(経験) 医療介護連携相談センターに看護師として勤務(経験)									
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	必修・1 単位							
履修が必須となる資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針との対応	2	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	6	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	③16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○							○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	小テストを実施し、授業の中で解説を行う。									
実施概要	①在宅看護の目的と特性を知り、在宅で生活する療養者とその家族に必要な看護を提供するための基礎を学ぶ。									
①講義の目標	②各回のテーマについてパワーポイントにより概要を説明する。									
②講義の実施方法										
到達目標	1. 在宅看護の変遷や関連する制度について社会情勢などを踏まえながら説明できる。■ 2. 在宅療養者や家族機能について説明できる。■ 3. 継続看護の方法について説明できる。■									
使用教材	医歯薬出版株式会社 地域・在宅看護論 適宜、講義資料を配布する									
参考文献	これからの退院支援・退院調整 宇都宮宏子 日本看護協会出版会 リスクマネジメントマニュアル 宮崎和歌子 日本看護協会出版会									
評価方法	筆記試験(6 割以下の場合再試験)60%、ミニテスト 30%、授業参加度 10%の総合評価とする。									
課題に対するフィードバック	レポートや質問については次の回に全体に向けて総評または回答・解説する。									
オフィスアワー(研究室)	月曜 3 限(4 号館 304 研究室)				メールアドレス (#→@)		tanahashi#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンスおよび在宅看護の目的と特性■								
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、講義の目標と内容を確認する。 教科書の該当箇所を読み、学習することを確認する。						1.5	時間
	1.2	復習	在宅看護の目的と内容の資料を復習すること。						1.5	時間
2	講義内容	訪問看護制度の概要と訪問看護の役割■								
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読み、学習することを確認する。						1.5	時間
	1.2	復習	次回授業内容にかかわるミニテストを実施するので復習しておくこと。						1.5	時間
3	講義内容	療養者・家族の特徴と意思決定支援■								
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読み、学習することを確認する。						1.5	時間
	2.3	復習	次回授業内容にかかわるミニテストを実施するので復習しておくこと。						1.5	時間
4	講義内容	在宅における人材育成								
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読み、学習することを確認する。						1.5	時間
	2.3	復習	次回授業内容にかかわるミニテストを実施するので復習しておくこと。						1.5	時間
5	講義内容	訪問看護マナーと実際■								
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読み、学習することを確認する。						1.5	時間
	1	復習	次回授業内容にかかわるミニテストを実施するので復習しておくこと。						1.5	時間
6	講義内容	在宅看護における安全と健康危機管理(リスクマネジメント)■								

	該当到達目標 1.2	予習	教科書の該当箇所を読み、学習することを確認する。	1.5	時間
		復習	次回授業内容にかかわるミニテストを実施するので復習しておくこと。	1.5	時間
7	講義内容	在宅移行への継続看護■			
	該当到達目標 3	予習	教科書の該当箇所を読み、学習することを確認する。	1.5	時間
		復習	地域で暮らす高齢者の健康増進に関する多様なニーズについて理解する。	1.5	時間
8	講義内容	在宅看護の展望と総括■			
	該当到達目標 3	予習	教科書の該当箇所を読み、学習することを確認する	1.5	時間
		復習	地域・在宅看護論の各講義の要点をまとめ確認する。	1.5	時間
合計時間(予習・復習)				24	時間
備考	・単位修得に必要な時間数を満たしていない場合 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間が満たないため、各自で補完すること。				
	・出席登録は C-learning を用いて行う。 ・オンラインで行う場合は、具体的な学習方法などについて別途提示する。				
■：実務経験に基づく内容を示す。					

科目名	地域・在宅看護学方法論Ⅰ（看護専門科目群・専門分野Ⅱ・在宅看護学）							科目 ナンバリング	NRS227・A	
英文名	Community Health and Home Care Nursing Assessment and SkillsⅠ							講義形態	講義	
担当教員	田村直子 浅井直美 小沼美加 棚橋さつき									
科目に関連した 実務経験	看護師、訪問看護師として総合病院、訪問看護ステーションに勤務（経験）棚橋・浅井・小沼・田村 医療介護連携相談センターに看護師として勤務（経験）棚橋									
学年・開講期	2年 前期		選必・単位数		必修 2 単位					
履修が必須となる 資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針 との対応	3	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	3	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	3	チームの一員としての協調・協働								
SDGsとの関連	③					⑯				
アクティブラーニング 実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○					○	○
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法	小テスト・レポートに対してコメントを付し返却する。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①在宅療養者を支える介護保険制度等の社会資源および様々な発達段階、健康段階、生活環境にある在宅療養者と家族が安心して生活するための看護支援方法について学ぶ。 ②各講義資料としてレジュメやパワーポイント資料を配布する。基本定期試験で成績を付けるが、小テストを行い知識を確認する。									
到達目標	1. 在宅療養者を支える医療制度などの社会資源やサポートシステムについて説明できる。■ 2. 在宅看護における対象別看護の特徴を理解できる。■ 3. 在宅における看護課題を解決するための日常生活援助、多職種連携、社会資源の実際が理解できる。■									
使用教材	① 地域・在宅看護論 医歯薬出版株式会社 ② ナーシンググラフィカ在宅看護論① 在宅療養を支えるケア メディカ出版 ③ ナーシンググラフィカ在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版 ④ 適宜、講義資料を配布する									
参考文献										
評価方法	定期試験を受験するために必要な出席回数を満たしたことを条件に、筆記試験 80%、授業への参加度（演習への参加度、グループ活動への貢献度等）10%、課題レポート（エンドオブライフケア）10%の配分で、総合評価 60 点以上を合格とする。 ※定期試験が 60 点未満（100 点満点）は再試験 ※オンラインで試験を実施する場合は、小テスト、レポート、課題などの総合評価を行う。									
課題に対する フィードバック	小テストについては、後日解説する。レポートはコメントを入れ後日返却する。									
オフィスアワー （研究室）	質問は、C-learning 連絡・相談にて連絡を。担当教員が回答する。				メールアドレス （#→@）	tanahashi#takasaki-u.ac.jp tamura#takasaki-u.ac.jp asai-n#takasaki-u.ac.jp konuma-m#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	ガイダンス、在宅ケアに関わる諸制度①介護保険制度の概要								
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、講義の目標と内容を確認する。 教科書の該当箇所を読み、学習することを確認する。						1.5 時間	
		1.3	復習	介護保険制度の仕組み、利用方法を理解する。						1.5 時間
2	講義内容	在宅ケアに関わる諸制度②介護保険サービスの内容（訪問、通所サービス等）								
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読み、学習することを確認する。						1.5 時間	
		1.3	復習	訪問、通所サービス等の内容、関係する職種を理解する。						1.5 時間
3	講義内容	在宅ケアに関わる諸制度③介護保険サービスの内容（住宅改修、福祉用具等）								

	該当到達目標 1.3	予習	教科書の該当箇所を読み、学習することを確認する。	1.5 時間
		復習	住宅改修、福祉用具等の利用方法、留意点等を理解する。	1.5 時間
4	講義内容	在宅ケアに関わる諸制度④介護保険サービスの内容(地域密着型サービス等)		
	該当到達目標 1.3	予習	教科書の該当箇所を読み、学習することを確認する。	1.5 時間
	1.3	復習	地域密着型サービスの内容、関係する職種を理解する。	1.5 時間
		講義内容	在宅ケアに関わる諸制度⑤訪問看護における介護保険と医療保険の区別	
5	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読み、学習することを確認する。	1.5 時間
	1.3	復習	対象者の疾患、状態により利用できる制度(介護保険と医療保険等)が異なることを理解する。	1.5 時間
6	講義内容	地域包括ケアシステムにおける意思決定支援とターミナルケア		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読み、学習することを確認する。	1.5 時間
	1.2.3	復習	地域連携と人生を支える看護について理解する	1.5 時間
		講義内容	在宅療養を支える日常生活援助:清潔ケア、排泄ケア	
7	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読み、学習することを確認する。	1.5 時間
	2.3	復習	在宅看護における清潔ケアと排泄ケアの看護支援方法を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	在宅療養を支える日常生活援助:食生活支援、服薬管理		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読み、学習することを確認する。	1.5 時間
	2.3	復習	在宅看護における服薬管理と食生活の看護支援方法を理解する。	1.5 時間
		講義内容	在宅療養を支える日常生活援助:環境調整、訪問リハビリテーション	
9	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読み、学習することを確認する。	1.5 時間
	2.3	復習	在宅リハビリテーションの役割と多職種連携について要点を理解する。	1.5 時間
10	講義内容	対象の理解:高齢者・認知症のある療養者の訪問看護		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読み、学習することを確認する。老年看護学で学習した加齢に伴う身体機能変化や認知症症状を復習する。	1.5 時間
	2.3	復習	高齢者や認知高齢者が抱える看護課題と看護支援方法を理解する。	1.5 時間
		講義内容	対象の理解:子ども・障害をもつ子どもの訪問看護■	
11	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読み、学習することを確認する。小児看護学で学習した医療的ケアが必要な小児と家族への看護を復習する。	1.5 時間
	2.3	復習	小児を対象とした訪問看護師の役割、看護支援方法を理解する。	1.5 時間
12	講義内容	対象の理解:精神疾患の療養者への訪問看護■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読み、学習することを確認する。精神看護学で学習した地域で暮らす方への看護支援、制度について復習する。	1.5 時間
	2.3	復習	精神疾患にある療養者と家族が抱える看護課題と看護支援方法を理解する。	1.5 時間
		講義内容	対象の理解:在宅におけるエンドオブライフケア■	
13	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読み、学習することを確認する。他領域で学習したエンドオブライフケア(人生の最終段階の看護)について復習する。	1.5 時間
	2.3	復習	人生の最終段階にある療養者と家族が抱える看護課題と看護支援方法、多職種連携について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	対象の理解:難病療養者への訪問看護■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読み、学習することを確認する。成人看護学、家族看護論、地域・在宅看護学概論で学習した難病患者の看護や社会資源について復習する。	1.5 時間
	2.3	復習	難病療養者と家族が抱える看護課題と看護支援方法を理解する。	1.5 時間
		講義内容	在宅における多職種連携と情報共有	
15	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読み、学習することを確認する。チーム医療アプローチ論で学習した他職種の役割について復習する。	1.5 時間
	1.2.3	復習	在宅における多職種連携と情報共有の意義、方法を理解する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	・記載した予習・復習時間では単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 ・現職の訪問看護ステーションに勤務する訪問看護師等を講義に招きます。 ・■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	地域・在宅看護学方法論Ⅱ（看護専門科目群・専門分野Ⅱ・在宅看護学）						科目ナンバリング	NRS228・B		
英文名	Community Health and Home Care Nursing:Assessment and Skills Ⅱ						講義形態	講義		
担当教員	浅井直美、田村直子、小沼美加、棚橋さつき									
科目に関連した実務経験	看護師として総合病院、訪問看護ステーションに勤務（経験）：浅井、田村、小沼、棚橋 医療介護連携相談センターに看護師として勤務（経験）：棚橋									
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数	必修 2 単位							
履修が必須となる資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針との対応	2	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	6	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	③ 16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○		○			○	○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	小テストを実施し、授業の復習を行う。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①在宅看護で特徴的な医療的ケアの基本的知識と看護技術の知識・技術を習得する。特に医療依存度が高い在宅療養者とその家族に対する看護支援方法について学習する。 様々な発達段階、健康段階、生活環境にある在宅療養者と家族が安心してその人らしく生活するための在宅看護過程について学習する。 ②講義は、テーマについて概要を説明する。授業はパワーポイントにより要点を提示する。医療的ケアの技術については、一部演習を行う。看護過程については、グループワークによる協同学習を行う。C-Learning システムを活用し、課題提出、学生同士の共有をはかる。									
到達目標	1. 在宅で特徴的な医療的ケアの看護技術の基本的知識を学ぶ。■ 2. 在宅で特徴的な医療的ケアを必要とする対象の看護支援方法を学ぶ。■ 3. 在宅療養を支える在宅看護過程について基本的な考え方と特徴を学ぶ。■ 4. 在宅療養者の情報から、アセスメントの視点や看護課題を解決するための日常生活援助、医療的ケア、社会資源の活用、多職種連携等の具体的支援について学ぶ。■									
使用教材	①地域・在宅看護論 医歯薬出版 ②ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版 ③ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版 適宜、講義資料を配布する									
参考文献	1)河野あゆみ編：強みと弱みからみた在宅看護過程＋総合的関連図，医学書院.2018. 2)正野逸子編：関連図を理解する在宅看護過程第2版，メヂカルフレンド社.2019. 3)正野逸子，本田彰子編：在宅看護技術 メヂカルフレンド社.2019.									
評価方法	①対面試験の場合 筆記試験 50%（定期試験 50%）、課題レポート 50%（看護過程） ＊定期試験が 60 点未満（100 点満点）は再試験 ②対面試験ができない場合 小テスト、レポート、課題などの総合評価を行う									
課題に対するフィードバック	課題については、授業中、または C-Learning を通して、コメントを行う。 演習・グループワークの際は、学生の進捗状況に合わせた助言を行う。									
オフィスアワー（研究室）	月曜日 3 限 5 号館 305 研究室				メールアドレス （#→@）		浅井 asai-n#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	在宅における医療的ケアの特徴、在宅における呼吸管理Ⅰ 在宅酸素療法【講義】■								
	該当到達目標	予習	解剖生理学、基礎看護学、成人看護学で既習した呼吸の機能、酸素療法について復習する。テキストの該当箇所を読み学習する。							1.5 時間
	1	復習	在宅酸素をしている療養者・家族への看護支援方法について復習する。							1.5 時間
2	講義内容	在宅における呼吸管理Ⅱ 人工呼吸療法【講義】■								

	該当到達目標 1, 2	予習	テキストの該当箇所を読み学習する。	1.5 時間
		復習	在宅人工呼吸療法をしている療養者・家族の看護支援方法について復習する。	1.5 時間
3	講義内容	在宅における栄養管理 在宅経管栄養法【講義】■		
	該当到達目標 1, 2	予習	解剖生理学、基礎看護学・成人看護学で既習した摂食・嚥下、栄養・代謝機能について復習する。 テキストの該当箇所を読み学習する。	1.5 時間
		復習	在宅経管栄養法をしている療養者・家族の看護支援方法について復習する。	1.5 時間
4	講義内容	在宅における栄養管理 在宅中心静脈栄養法【講義】■		
	該当到達目標 1, 2	予習	基礎看護学・成人看護学で既習した中心静脈栄養について復習する。 テキストの該当箇所を読み学習する。	1.5 時間
		復習	在宅中心静脈栄養法をしている療養者・家族の看護支援方法について復習する。	1.5 時間
5	講義内容	在宅におけるストーマ管理【講義】【演習】■		
	該当到達目標 1, 2	予習	解剖生理学、成人看護学で既習した消化・吸収機能、ストーマの基本について復習する。 テキストの該当箇所を読み学習する。	1.5 時間
		復習	在宅におけるストーマを造設している療養者・家族の看護支援方法について復習する。	1.5 時間
6	講義内容	在宅における褥瘡管理、スキンケア【講義】【演習】■		
	該当到達目標 1, 2	予習	基礎看護学で既習した褥瘡の基本的知識について復習する。 テキストの該当箇所を読み学習する。	1.5 時間
		復習	在宅におけるスキンケア・褥瘡管理が必要な療養者・家族の看護支援方法について復習する。	1.5 時間
7	講義内容	在宅における薬物療法（インスリン・疼痛管理）【講義】■		
	該当到達目標 1, 2	予習	成人看護学で既習したインスリン療法、疼痛管理について復習する。 テキストの該当箇所を読み学習する。	1.5 時間
		復習	在宅におけるインスリン療養、疼痛管理が必要な療養者・家族の看護支援方法について復習する。	1.5 時間
8	講義内容	在宅看護過程①—基本的な考え方—【講義】		
	該当到達目標 3, 4	予習	テキストの該当箇所を読み学習する。	1.5 時間
		復習	講義資料を踏まえ、在宅看護過程の基本的な考え方と特徴を理解する。提示された事例について理解できるように知識の確認をする。	1.5 時間
9	講義内容	在宅看護過程②情報整理・アセスメント グループワーク■		
	該当到達目標 3, 4	予習	個人ワークの課題を提示する。	1.5 時間
		復習	グループワークにより得た意見を参考に、個人ワークを加筆修正する。	1.5 時間
10	講義内容	在宅看護過程③アセスメント・関連図 グループワーク■		
	該当到達目標 3, 4	予習	個人ワークの課題を提示する。	1.5 時間
		復習	グループワークにより得た意見を参考に、個人ワークを加筆修正する。	1.5 時間
11	講義内容	在宅看護過程④関連図・看護課題の抽出 グループワーク■		
	該当到達目標 3, 4	予習	個人ワークの課題を提示する。	1.5 時間
		復習	グループワークにより得た意見を参考に、個人ワークを加筆修正する。 グループで関連図・看護課題リストを検討する。	1.5 時間
12	講義内容	在宅看護過程⑤関連図・看護課題リスト発表 ■		
	該当到達目標 3, 4	予習	個人ワークの課題を提示する。	1.5 時間
		復習	グループワークにより得た意見を参考に、個人ワークを加筆修正する。	1.5 時間
13	講義内容	在宅看護過程⑥看護計画 グループワーク■		
	該当到達目標 3, 4	予習	個人ワークの課題を提示する。	1.5 時間
		復習	グループワークにより得た意見を参考に、個人ワークを加筆修正する。	1.5 時間
14	講義内容	在宅看護過程⑦看護計画の発表・看護計画に基づく看護支援 グループワーク■		
	該当到達目標 2, 3, 4	予習	個人ワークの課題を提示する。	1.5 時間
		復習	個人ワークを加筆修正する。	1.5 時間
15	講義内容	在宅看護過程⑧看護計画に基づく看護支援、まとめ■		
	該当到達目標 2, 3, 4	予習	看護過程記録用紙の個人ワークの課題を提示する。	1.5 時間
		復習	個人ワークを加筆修正し、仕上げる。	1.5 時間

合計時間(予習・復習)		45 時間
備考	・課題としてレポート提出を求めることがあるが、レポートは PC 使用、看護過程のレポートは手書きまたは PC 使用とする。 ・■:実務経験に基づく内容を示す。	

科目名	地域・在宅看護学実習(看護専門科目群・専門分野Ⅱ・在宅看護学)						科目 ナンバリング	NRS317・C		
英文名	Community Health and Home Care Nursing Practicum						講義形態	実習		
担当教員	浅井直美 田村直子 小沼美加 木内唯花 棚橋さつき									
科目に関連した 実務経験	看護師として総合病院・訪問看護ステーションに勤務(経験):浅井、田村、小沼、棚橋 医療介護連携相談センターに看護師として勤務(経験):棚橋 看護師として総合病院に勤務(経験):木内									
学年・開講期	3年 通年		選必・単位数		必修 2 単位					
履修が必須となる 資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針 との対応	2	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	6	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	3 16									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○		○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①在宅で療養する療養者と家族を総合的に理解し、生活の場における療養上のニーズを充足するための看護の展開方法を学ぶ。また、在宅療養者とその家族を支援するための社会資源の活用方法や在宅における多職種連携・協働の実際から、地域包括ケアシステムにおける看護職の役割を学ぶ。 ②実習は前期・後期の通年に行われる。臨地では、同行する看護師の指導を受け、在宅療養者宅に看護師とともに同行訪問を行う。各グループの担当教員から、臨地実習や学内実習を通して個別指導を受ける。臨地実習の振り返りを行い、経験内容を意味づけ学習する。									
到達目標	1. 在宅療養者と家族の多様な特性や環境、望む生活を踏まえて、療養上のニーズおよび必要な支援を理解する。■ 2. 生活の場であることを踏まえ、在宅療養者および家族のニーズを充足するための看護計画を立案し、適切な支援について考察する。■ 3. 在宅療養者とその家族を支援するための社会資源の活用方法や在宅における多職種連携・協働について理解する。■ 4. 訪問看護ステーションの特徴と機能を理解し、地域包括ケアシステムにおける看護師の役割と機能について考察する。■ 5. 初学者である看護学生として、主体的に学習し、責任ある態度を修得する。									
使用教材	学科作成の実習要項、及び領域で作成した地域・在宅看護学実習要項									
参考文献	①地域・在宅看護論 医歯薬出版 ②ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版 ③ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版 ④強みと弱みからみた在宅看護過程 医学書院									
評価方法	実習目標を評価基準とし、実習、学内実習、カンファレンスにおける学生の言動、記録物・レポートの記載内容、および、実習参加態度により総合的に評価する。 【オンライン実習】カンファレンスにおける学生の言動、記録物・レポートの記載内容、小テストおよび、実習参加態度等により総合的に評価する。									
課題に対する フィードバック	実習記録、訪問記録等に関して随時指導、コメントを付して返却する。									
オフィスアワー (研究室)	質問および学習相談には、実習開始前もしくは終了後に応じる。 C-learning 連絡・相談にて対応。				メールアドレス (#→@)		asai-n#takasaki-u.ac.jp tamura#takasaki-u.ac.jp konuma-m#takasaki-u.ac.jp			

			kiuchi#takasaki-u.ac.jp tanahashi#takasaki-u.ac.jp
講義内容	上記の到達目標達成に向けて、2 週間の実習を行う。訪問看護ステーションでの臨地実習 7 日間、学内実習 3 日間とする。訪問看護ステーションでは療養者 1 名を受け持ち、実習中に 2 回以上訪問看護に同行する。また、受け持ち以外の療養者への訪問看護に同行し、在宅看護の多様性について学習する。 ・臨地・学内カンファレンスを行う。カンファレンスでは実習目標に沿って学んだことを共有し、意見交換を行う。 ※実習内容の詳細は配属される実習先によって異なる。		
	予習	・受け持ち療養者の疾病に関して事前学習する。 ・在宅療養を支える社会資源、実習施設に関する情報を整理する。 ・日々の実習において、行動計画用紙を活用し、翌日の学習目標を達成するための計画をたて実習に臨む。 ・実習指導教員、実習指導者の助言に基づき、受け持ち療養者への看護過程の展開や看護実践に必要な知識と技術について、日々学習し実習に臨む。	適宜
	復習	・実習を通して学んだことを実習目標に沿って振り返り、整理する。 ・臨地・学内カンファレンスを通して、考察したことを実習レポートなどにまとめる。 ・在宅看護学実習を通して、今後の自己の課題を具体的に考察する。	適宜
合計時間(予習・復習)			時間
備考	【実習期間全体を通じた実習の進め方】 受け持ち療養者に同行訪問し、情報収集・アセスメントから看護上の課題を検討し、看護計画を立案し、看護支援方法について考察する。 受持ち療養者以外の療養者に同行訪問し、環境や療養上のニーズ、個別性の高い看護支援について学習する。 実習目標に沿った学びについて、カンファレンス等で意見交換を行う。 本科目は、1 年次からの学習の積み重ねが重要であるため、地域包括ケア論、地域・在宅看護学概論、地域・在宅看護学方法論Ⅰ、地域・在宅看護学方法論Ⅱを中心に十分復習しておくこと。 【履修条件】 この科目は、看護専門科目群 専門分野Ⅱの実習科目(専門領域別実習)の履修承認基準をすべて満たしていなければ受講できない。 【オンライン実習となった場合】 上記の到達目標達成に向けて、2 週間の実習を行う。 出席登録は C-learning による「出席管理」および実習終了後の「アンケート」への回答により行う。 C-learning による資料配布・自己学習資料の配布を行う。 在宅看護の様々な場面における課題、事例を通し、カンファレンスを行う。 実習期間中に課題レポートの提出と最終日に小テストを実施する。 ■:実務経験に基づく内容を示す。		

科目名	地域・在宅看護学実習(看護専門科目群・専門分野Ⅱ・在宅看護学)						科目 ナンバリング	NRS317・C		
英文名	Community Health and Home Care Nursing Practicum						講義形態	実習		
担当教員	浅井直美 田村直子 小沼美加 木内唯花 棚橋さつき									
科目に関連した 実務経験	看護師として総合病院・訪問看護ステーションに勤務(経験):浅井、田村、小沼、棚橋 医療介護連携相談センターに看護師として勤務(経験):棚橋 看護師として総合病院に勤務(経験):木内									
学年・開講期	3 年 通年		選必・単位数	必修 2 単位						
履修が必須となる 資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針 との対応	2	人間理解と倫理観			0	国際理解				
	6	論理的思考力・問題解決力			1	生涯学習力				
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	3 16									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○		○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①在宅で療養する療養者と家族を総合的に理解し、生活の場における療養上のニーズを充足するための看護の展開方法を学ぶ。また、在宅療養者とその家族を支援するための社会資源の活用方法や在宅における多職種連携・協働の実際から、地域包括ケアシステムにおける看護職の役割を学ぶ。 ②実習は前期・後期の通年に行われる。臨地では、同行する看護師の指導を受け、在宅療養者宅に看護師とともに同行訪問を行う。各グループの担当教員から、臨地実習や学内実習を通して個別指導を受ける。臨地実習の振り返りを行い、経験内容を意味づけ学習する。									
到達目標	5. 在宅療養者と家族の多様な特性や環境、望む生活を踏まえて、療養上のニーズおよび必要な支援を理解する。■ 6. 生活の場であることを踏まえ、在宅療養者および家族のニーズを充足するための看護計画を立案し、適切な支援について考察する。■ 7. 在宅療養者とその家族を支援するための社会資源の活用方法や在宅における多職種連携・協働について理解する。■ 8. 訪問看護ステーションの特徴と機能を理解し、地域包括ケアシステムにおける看護師の役割と機能について考察する。■ 5. 初学者である看護学生として、主体的に学習し、責任ある態度を修得する。									
使用教材	学科作成の実習要項、及び領域で作成した地域・在宅看護学実習要項									
参考文献	①地域・在宅看護論 医歯薬出版 ②ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版 ③ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版 ④強みと弱みからみた在宅看護過程 医学書院									
評価方法	実習評価表に基づき評価を行い、レポート・記録物の記載内容、カンファレンスにおける学生の発言内容を含め実習目標の達成 92%、小テスト 8%とし、総合評価 60 点以上で合格とする。									
課題に対する フィードバック	実習記録、訪問記録等に関して随時指導、コメントを付して返却する。									
オフィスアワー (研究室)	質問および学習相談には、実習開始前もしくは終了後に応じる。 C-learning 連絡・相談にて対応。				メールアドレス (#→@)		asai-n#takasaki-u.ac.jp tamura#takasaki-u.ac.jp konuma-m#takasaki-u.ac.jp kiuchi#takasaki-u.ac.jp tanahashi#takasaki-u.ac.jp			
講義内容	上記の到達目標達成に向けて、2 週間の実習を行う。訪問看護ステーションでの臨地実習 7 日間、学内実習 3 日間とする。訪問看護ステーションでは療養者 1 名を受け持ち、実習中に 2 回以上訪問									

	看護に同行する。また、受け持ち以外の療養者への訪問看護に同行し、在宅看護の多様性について学習する。 ・臨地・学内カンファレンスを行う。カンファレンスでは実習目標に沿って学んだことを共有し、意見交換を行う。 ※実習内容の詳細は配属される実習先によって異なる。		
	予習	・受け持ち療養者の疾病に関して事前学習する。 ・在宅療養を支える社会資源、実習施設に関する情報を整理する。 ・日々の実習において、行動計画用紙を活用し、翌日の学習目標を達成するための計画をたて実習に臨む。 ・実習指導教員、実習指導者の助言に基づき、受け持ち療養者への看護過程の展開や看護実践に必要な知識と技術について、日々学習し実習に臨む。	適宜
	復習	・実習を通して学んだことを実習目標に沿って振り返り、整理する。 ・臨地・学内カンファレンスを通して、考察したことを実習レポートなどにまとめる。 ・在宅看護学実習を通して、今後の自己の課題を具体的に考察する。	適宜
	合計時間(予習・復習)		適宜
備考	【実習期間全体を通じた実習の進め方】 受け持ち療養者に同行訪問し、情報収集・アセスメントから看護上の課題を検討し、看護計画を立案し、看護支援方法について考察する。 受持ち療養者以外の療養者に同行訪問し、環境や療養上のニーズ、個別性の高い看護支援について学習する。 実習目標に沿った学びについて、カンファレンス等で意見交換を行う。 本科目は、1年次からの学習の積み重ねが重要であるため、地域包括ケア論、地域・在宅看護学概論、地域・在宅看護学方法論Ⅰ、地域・在宅看護学方法論Ⅱを中心に十分復習しておくこと。		
	【履修条件】 この科目は、看護専門科目群 専門分野Ⅱの実習科目(専門領域別実習)の履修承認基準をすべて満たしていなければ受講できない。 【オンライン実習となった場合】 上記の到達目標達成に向けて、2週間の実習を行う。 出席登録は C-learning による「出席管理」および実習終了後の「アンケート」への回答により行う。 C-learning による資料配布・自己学習資料の配布を行う。 在宅看護の様々な場面における課題、事例を通し、カンファレンスを行う。 実習期間中に課題レポートの提出と最終日に小テストを実施する。 ■:実務経験に基づく内容を示す。		

科目名	地域・在宅看護学実習(看護専門科目群・専門分野Ⅱ・在宅看護学)						科目 ナンバリング	NRS317・C		
英文名	Community Health and Home Care Nursing Practicum						講義形態	実習		
担当教員	浅井直美 田村直子 小沼美加 木内唯花 棚橋さつき									
科目に関連した 実務経験	看護師として総合病院・訪問看護ステーションに勤務(経験):浅井、田村、小沼、棚橋 医療介護連携相談センターに看護師として勤務(経験):棚橋 看護師として総合病院に勤務(経験):木内									
学年・開講期	3年 通年		選必・単位数		必修 2 単位					
履修が必須となる 資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針 との対応	2	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	6	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	3 16									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○		○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①在宅で療養する療養者と家族を総合的に理解し、生活の場における療養上のニーズを充足するための看護の展開方法を学ぶ。また、在宅療養者とその家族を支援するための社会資源の活用方法や在宅における多職種連携・協働の実際から、地域包括ケアシステムにおける看護職の役割を学ぶ。 ②実習は前期・後期の通年に行われる。臨地では、同行する看護師の指導を受け、在宅療養者宅に看護師とともに同行訪問を行う。各グループの担当教員から、臨地実習や学内実習を通して個別指導を受ける。臨地実習の振り返りを行い、経験内容を意味づけ学習する。									
到達目標	9. 在宅療養者と家族の多様な特性や環境、望む生活を踏まえて、療養上のニーズおよび必要な支援を理解する。■ 10. 生活の場であることを踏まえ、在宅療養者および家族のニーズを充足するための看護計画を立案し、適切な支援について考察する。■ 11. 在宅療養者とその家族を支援するための社会資源の活用方法や在宅における多職種連携・協働について理解する。■ 12. 訪問看護ステーションの特徴と機能を理解し、地域包括ケアシステムにおける看護師の役割と機能について考察する。■ 5. 初学者である看護学生として、主体的に学習し、責任ある態度を修得する。									
使用教材	学科作成の実習要項、及び領域で作成した地域・在宅看護学実習要項									
参考文献	①地域・在宅看護論 医歯薬出版 ②ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版 ③ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版 ④強みと弱みからみた在宅看護過程 医学書院									
評価方法	実習目標を評価基準とし、実習、学内実習、カンファレンスにおける学生の言動、記録物・レポートの記載内容、および、実習参加態度により総合的に評価する。 【オンライン実習】カンファレンスにおける学生の言動、記録物・レポートの記載内容、小テストおよび、実習参加態度等により総合的に評価する。									
課題に対する フィードバック	実習記録、訪問記録等に関して随時指導、コメントを付して返却する。									
オフィスアワー (研究室)	質問および学習相談には、実習開始前もしくは終了後に応じる。 C-learning 連絡・相談にて対応。				メールアドレス (#→@)		asai-n#takasaki-u.ac.jp tamura#takasaki-u.ac.jp konuma-m#takasaki-u.ac.jp kiuchi#takasaki-u.ac.jp tanahashi#takasaki-u.ac.jp			

講義内容	上記の到達目標達成に向けて、2 週間の実習を行う。訪問看護ステーションでの臨地実習 7 日間、学内実習 3 日間とする。訪問看護ステーションでは療養者 1 名を受け持ち、実習中に 2 回以上訪問看護に同行する。また、受け持ち以外の療養者への訪問看護に同行し、在宅看護の多様性について学習する。 ・臨地・学内カンファレンスを行う。カンファレンスでは実習目標に沿って学んだことを共有し、意見交換を行う。 ※実習内容の詳細は配属される実習先によって異なる。		
	予習	・受け持ち療養者の疾病に関して事前学習する。 ・在宅療養を支える社会資源、実習施設に関する情報を整理する。 ・日々の実習において、行動計画用紙を活用し、翌日の学習目標を達成するための計画をたて実習に臨む。 ・実習指導教員、実習指導者の助言に基づき、受け持ち療養者への看護過程の展開や看護実践に必要な知識と技術について、日々学習し実習に臨む。	適宜
	復習	・実習を通して学んだことを実習目標に沿って振り返り、整理する。 ・臨地・学内カンファレンスを通して、考察したことを実習レポートなどにまとめる。 ・在宅看護学実習を通して、今後の自己の課題を具体的に考察する。	適宜
合計時間(予習・復習)			時間
備考	【実習期間全体を通じた実習の進め方】 受け持ち療養者に同行訪問し、情報収集・アセスメントから看護上の課題を検討し、看護計画を立案し、看護支援方法について考察する。 受持ち療養者以外の療養者に同行訪問し、環境や療養上のニーズ、個別性の高い看護支援について学習する。 実習目標に沿った学びについて、カンファレンス等で意見交換を行う。 本科目は、1 年次からの学習の積み重ねが重要であるため、地域包括ケア論、地域・在宅看護学概論、地域・在宅看護学方法論Ⅰ、地域・在宅看護学方法論Ⅱを中心に十分復習しておくこと。 【履修条件】 この科目は、看護専門科目群 専門分野Ⅱの実習科目(専門領域別実習)の履修承認基準をすべて満たしていなければ受講できない。 【オンライン実習となった場合】 上記の到達目標達成に向けて、2 週間の実習を行う。 出席登録は C-learning による「出席管理」および実習終了後の「アンケート」への回答により行う。 C-learning による資料配布・自己学習資料の配布を行う。 在宅看護の様々な場面における課題、事例を通し、カンファレンスを行う。 実習期間中に課題レポートの提出と最終日に小テストを実施する。 ■:実務経験に基づく内容を示す。		

科目名	公衆衛生看護学概論Ⅰ（看護専門科目群・専門分野Ⅱ・地域看護学）							科目ナンバリング	NRS229・A	
英文名	Introduction to Public Health Nursing I							講義形態	講義	
担当教員	倉林 しのぶ 赤堀八重子									
科目に関連した実務経験	保健師としての勤務経験：県教育委員会・病院・事業所（倉林） 保健師としての勤務経験：行政（町役場）（赤堀）									
学年・開講期	2 年 前期		選必・単位数		必修・1 単位					
履修が必須となる資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針との対応	2	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	5	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	2	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	316									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
					○	○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①公衆衛生の歴史をたどりながらプライマリヘルスケアとヘルスプロモーションの概念を学ぶ。また、地域で生活するすべての人々を対象とし、健康課題を環境や生活と関連づけて捉える公衆衛生看護活動の特徴と保健師の役割について学習する。 ②テキスト中心に行うが、補足的内容を含め教員が作成したパワーポイント及び資料を使い解説する。									
到達目標	1. プライマリヘルスケアおよびヘルスプロモーションの概念と概要を理解することができる。■ 2. 社会環境や生活状況から生じる健康課題をとらえることができる。■ 3. 公衆衛生看護活動の場と活動の概要を理解することができる。■ 4. 地域診断の意義と方法について理解することができる。■									
使用教材	公衆衛生看護学.jp 荒賀直子・後閑容子・鳩野洋子・神庭純子、インターメディカル（4,840 円） 講義のスライドを随時プリントして配布する。									
参考文献										
評価方法	定期試験 80%、演習課題 10%、授業参加度 10%として総合的に評価する。 総合評価 60 点以上を合格とする。									
課題に対するフィードバック	レポートや質問については次の回に全体に向けて総評または回答・解説する。									
オフィスアワー （研究室）	倉林：月曜日火曜日 11:00～13:00 赤堀：金曜日 13:00～16:15				メールアドレス （#→@）		倉林：kura#takasaki-u.ac.jp 赤堀：akabori#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	公衆衛生看護学とは（概念、ヘルスプロモーション、公衆衛生看護の歴史、医療経済と保健活動、保健医療福祉システム）■								
	該当到達目標 1, 2	予習	教科書「第 1 章Ⅰ 公衆衛生看護学とは」の該当箇所を読み、概要を理解しておく。						1.5 時間	
		復習	特に、公衆衛生看護学の概念、プライマリーヘルスケアとヘルスプロモーション、保健医療福祉システムについて振り返りを行う。						1.5 時間	
2	講義内容	地域保健の活動（保健師と公衆衛生活動、活動の場、活動内容、方法、保健師が行う保健指導、保健行動と保健活動、社会環境の変化と健康課題）■								
	該当到達目標 1, 3	予習	教科書「第 1 章Ⅱ 地域保健の活動」の該当箇所を読み、概要を理解しておく。						1.5 時間	
		復習	保健師の活動の場、保健師が行う保健指導等について、また、社会環境の変化と健康課題についての振り返りを行う。						1.5 時間	
3	講義内容	地域保健活動のツール（家庭訪問、健康相談、健康教育）■								
	該当到達目標	予習	教科書「第 2 章 地域保健活動の要素」の該当箇所を読み、概要を理解						1.5 時間	

			しておく。PDCA サイクルについて確認をしておく。	
	3	復習	教科書「第3章地域保健活動のツール」の該当箇所を読み、概要を理解しておく。 教科書「第1章Ⅱ・3保健師が行う保健指導」について再確認を行う。	1.5 時間
4	講義内容	地域保健活動のツール(健康診査、グループ支援・地域組織活動、地域組織活動) ■		
	該当到達目標	予習	教科書「第3章地域保健活動のツール」の該当箇所を読み、概要を理解しておく。	1.5 時間
	3	復習	健康診査、グループ支援・地域組織活動、地域組織活動について振り返りを行う。	1.5 時間
5	講義内容	地域保健活動過程と保健師活動(地域診断、事業計画と保健師の役割) ■		
	該当到達目標	予習	教科書「第2章地域保健活動のエレメント」の該当箇所を読み、概要を理解しておく。PDCA サイクルについて確認をしておく	1.5 時間
	2, 3, 4	復習	保健師が行う地域診断の目的、方法および、地域保健活動に用いる理論について振り返りを行う。	1.5 時間
6	講義内容	地域保健活動過程と保健師活動(地域におけるグループ支援・地域組織活動、地域ケアシステム、地域ケアシステムにおけるチームワーク) ■		
	該当到達目標	予習	教科書「第2章地域保健活動のエレメント」の該当箇所を読み、概要を理解しておく。	1.5 時間
	2, 3, 4	復習	地域におけるグループ支援、組織活動、地域ケアシステムにおける保健師の役割や活動について振り返りを行う。	1.5 時間
7	講義内容	地域アセスメント(地域診断)1 演習 ■		
	該当到達目標	予習	地元の地域についての調査(高齢者の視点で)	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	地元地域の特徴と特性について考えてみる	1.5 時間
8	講義内容	地域アセスメント(地域診断)2 演習 ■		
	該当到達目標	予習	地元の特性と強みを考えてくる(高齢者の視点で)	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	地域診断の意味と意義についてまとめる	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	○履修条件:本科目は「公衆衛生学」を履修していることが望ましい。 ■:実務経験に基づく内容を示す			

科目名	公衆衛生看護学概論Ⅱ（看護専門科目群・専門分野Ⅱ・地域看護学）						科目ナンバリング	NRS318・A		
英文名	Introduction to Public Health NursingⅡ						講義形態	講義		
担当教員	赤堀八重子・倉林 しのぶ									
科目に関連した実務経験	保健師としての勤務経験：行政（町役場）（赤堀）、県教育委員会・病院・事業所（倉林）									
学年・開講期	3 年 前期	選必・単位数	選択・1 単位							
履修が必須となる資格	保健師国家試験受験資格 選択必修科目									
学位授与方針との対応	2	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	5	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	2	チームの一員としての協調・協働								
SDGsとの関連	316									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○	○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①保健医療福祉システムにおける公衆衛生看護の役割を学ぶ。また、地域診断（アセスメント）を基盤とする公衆衛生看護活動の展開方法および、事業化と施策化のプロセスについて学修する。 演習では、地域の社会資源や制度を活用した事例検討を行う。 ②授業の進め方：テキスト中心に行うが、補足的内容を含め教員が作成したパワーポイント及び資料を使い解説する。また、事例検討を含む演習を実施する。									
到達目標	1. 公衆衛生看護活動の計画・実践・評価の流れを理解することができる。■ 2. 地域アセスメントに必要な情報およびその情報を整理統合する方法を理解することができる。■ 3. 課題解決のために活用できる社会資源や制度、また、地域の中のインフォーマルな資源について理解できる。■ 4. 地域の課題抽出から事業化までのプロセスおよびその意義について理解することができる。■									
使用教材	保健学講座 公衆衛生看護支援技術、岸恵美子・平野かよ子・村嶋幸代、メジカルフレンド社（3,800 円） 講義のスライドを随時プリントして配布する。									
参考文献	公衆衛生看護学.jp 荒賀直子・後閑容子・鳩野洋子・神庭純子、インターメディカル（4,840 円）									
評価方法	定期試験 70%、レポート・記録物等 20%、授業・演習参加度 10%、として総合的に評価する。 総合評価 60 点以上を合格とする。									
課題に対するフィードバック	レポートや質問については次の回に全体に向けて総評または回答・解説する。									
オフィスアワー （研究室）	赤堀：金曜日 13:00～16:15 倉林：月曜日火曜日 11:00～13:00				メールアドレス （#→@）	赤堀：akabori#takasaki-u.ac.jp 倉林：kura#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	地域診断（地域アセスメント）■								
	該当到達目標	予習	教科書「第6章地域診断（地域アセスメント）」を読んでおくこと。公衆衛生看護学概論Ⅰをふまえ地域アセスメントの方法を復習しておくこと。							1.5 時間
	1, 2, 4	復習	地域診断の方法について整理し、理解を深める。							1.5 時間
2	講義内容	理論モデル（コミュニティ・アズ・パートナーモデル / プリシード・プロシード・モデルその他）								
	該当到達目標	予習	教科書「第6章地域診断（地域アセスメント）」および「第4章公衆衛生看護における対人支援の技術、健康教育に用いる基礎理論と歴史的変化③プリシード・プロシード・モデル」を読んでおくこと。							1.5 時間
	1, 4	復習	各モデルの概要を整理し、理解を深める。							1.5 時間
3	講義内容	計画策定とは（計画策定のプロセス・要素・問題の構造化）■								
	該当到達目標	予習	教科書「第9章公衆衛生看護活動における事業化と施策化の意味と意義」を読んでおくこと。							1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	計画策定のプロセスを整理し、確認しておく。							1.5 時間

4	講義内容	計画策定の具体的な流れ(優先順位の決定・予算／活動の評価の方法)■		
	該当到達目標	予習	教科書「第9章公衆衛生看護活動における事業化と施策化の意味と意義」を読んでおくこと。	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	予算、優先順位の決定方法、活動の評価方法について整理し、確認しておく。	1.5 時間
5	講義内容	演習:事例検討■		
	該当到達目標	予習	事例に関係する社会資源・制度についてまとめておく	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	事例を読み込んで必要な情報について検討する	1.5 時間
6	講義内容	演習:事例検討■		
	該当到達目標	予習	事例を読み込んで必要な情報について検討する	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	アセスメントと抽出した課題の再確認	1.5 時間
7	講義内容	演習:事例検討■		
	該当到達目標	予習	計画立案とプレゼンテーション準備	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	計画の問題点の整理	1.5 時間
8	講義内容	演習・事例検討 評価／まとめ■		
	該当到達目標	予習	問題点の整理と評価をしてみる	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	地域アセスメントと公衆衛生看護活動についての振り返りをする	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	○履修条件:保健師課程の必修科目である。「公衆衛生看護学概論Ⅰ」および「公衆衛生看護方法論」を履修していることが望ましい。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	公衆衛生看護学方法論(看護専門科目群・専門分野Ⅱ・地域看護学)					科目ナンバリング	NRS230・B			
英文名	Public Health Nursing: Assessment and Skills					講義形態	講義			
担当教員	赤堀 八重子、武居 明美、倉林 しのぶ、黒岩 あゆみ									
科目に関連した実務経験	赤堀:保健師として行政(町役場)に勤務(経験) 武居:保健師として健康保険組合に勤務(経験) 倉林:保健師として都道府県教育委員会・病院・事業所に勤務(経験)									
学年・開講期	2 年 後期		選必・単位数		必修・2 単位					
履修が必須となる資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針との対応	2	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	5	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	2	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	③16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
					○					○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	C-learning の小テスト、アンケートを活用									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①講義の目標 地域住民の健康生活を支援する公衆衛生看護活動全般と保健師の役割について学ぶ。保健所における保健活動と市町村における保健活動の実際を学び、母子、成人、高齢者等のライフサイクル別、また、健康課題に応じた個人と家族への支援、また集団を対象とした支援等、地域における保健師活動の実際を学習する。 ②講義の実施方法 教科書(使用教材)および教員の作成するパワーポイント、資料を使用し、説明を行っていく。出席管理は C-learning 上、登録キーの管理で行う。登録キーについては講義時間内に提示する。									
到達目標	1.地域における看護職としての保健師の機能と役割を理解する■ 2.対象に応じた保健活動および保健師の役割を理解する■ 3.保健指導、家庭訪問、健康相談、健康教育、健康診査等の保健師業務と役割を説明できる■ 4.公衆衛生看護活動のなかでの連携、チームケアにおける保健師の役割を説明できる■									
使用教材	公衆衛生看護学.jp 荒賀直子・後閑容子・鳩野洋子・神庭純子、インターメディカル(4,840 円) 国民衛生の動向、厚生労働統計協会編、厚生労働統計協会(2,500 円税込)									
参考文献										
評価方法	定期試験(70%)、授業参加度・態度(20%)、課題・ミニテスト等(10%)として総合的に評価する。 総合評価 60 点以上を合格とする。									
課題に対するフィードバック	学生からの質問等については、講義前に全体に向けて解説する。 オンラインの場合:C-learning 等を活用しコメントをつけてフィードバックを行う。									
オフィスアワー (研究室)	赤堀:金曜日 13:00～16:15 武居:月曜日 10:00～13:00				メールアドレス (#→@)	赤堀:akabori#takasaki-u.ac.jp 武居:takei-a#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	保健師業務・発達段階と保健活動■								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。						1.5 時間	
	1, 2	復習	講義で学んだことを基に、保健師の業務内容・役割、個人・家族の発達段階と保健活動について理解を深める。						1.5 時間	
2	講義内容	母子保健活動■								
	該当到達目標	予習	教科書「第4章Ⅱ母子保健活動1～3」および国民衛生の動向「保健対策(母子保健)」を読んでおく。						1.5 時間	
	1, 2, 3	復習	母子保健活動に関わる法律を整理し、内容について確認する。						1.5 時間	
3	講義内容	母子保健活動の実際と保健師の役割■								
	該当到達目標	予習	教科書「第4章Ⅱ母子保健活動4～5」および国民衛生の動向「保健対策(母子保健)」を読んでおく。						1.5 時間	

	1, 2, 3, 4	復習	母子保健活動の実際および保健師の役割について整理し、理解する。	1.5 時間
4	講義内容	成人保健活動と保健師の役割■		
	該当到達目標	予習	教科書「第4章Ⅲ成人保健活動」および国民衛生の動向「生活習慣病と健康増進対策」を読んでおくこと。	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	成人保健活動に関わる法律を整理し、内容について確認する。	1.5 時間
5	講義内容	成人保健活動(特定健康診査・特定保健指導)■		
	該当到達目標	予習	教科書「第4章Ⅲ成人保健活動」および国民衛生の動向「生活習慣病と健康増進対策」を読んでおくこと。	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	特定健康診査・特定保健指導の根拠法、特定健康診査・特定保健指導の概要について見直しを行う。保健師の役割について整理し、理解を深める。	1.5 時間
6	講義内容	高齢者保健活動■		
	該当到達目標	予習	教科書「第4章Ⅳ高齢者保健活動」および国民衛生の動向「保健医療を取り巻く社会保障第1章介護保険」を読んでおくこと。	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	高齢者保健活動に関わる法律を整理し、内容について理解する。	1.5 時間
7	講義内容	高齢者保健活動の実際と保健師の役割■		
	該当到達目標	予習	教科書「第4章Ⅳ高齢者保健活動」および国民衛生の動向「保健医療を取り巻く社会保障第1章介護保険」を読んでおくこと。	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	高齢者保健活動における保健師の役割について整理し、理解を深める。	1.5 時間
8	講義内容	障害者(児)保健活動と保健師の役割■		
	該当到達目標	予習	教科書「第4章Ⅵ障害者(児)保健活動」および国民衛生の動向「保健対策(障害児・者施策)」を読んでおく。	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	障害者(児)の保健活動に関わる法律を整理し、内容を確認する。保健師の役割について理解を深める。障害者総合支援法について整理し、理解を深める。	1.5 時間
9	講義内容	精神障害者保健活動と保健師の役割		
	該当到達目標	予習	教科書「第4章Ⅶ精神保健活動」および国民衛生の動向「保健対策(精神保健)」を読んでおく。	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	精神保健福祉法について整理し、内容を確認する。精神保健福祉活動の実際について整理し、理解を深める。	1.5 時間
10	講義内容	難病保健活動と保健師の役割■		
	該当到達目標	予習	教科書「第4章Ⅴ難病保健活動」および国民衛生の動向「疾病対策(難病対策)」を読んでおく。	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	難病保健活動に関する法律を整理し、内容を確認する。難病保健活動における保健師の役割について理解を深める。	1.5 時間
11	講義内容	感染症保健活動と保健師の役割■		
	該当到達目標	予習	教科書「第4章Ⅷ感染症保健活動」および国民衛生の動向「感染症対策」を読んでおく。	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	感染症保健活動に関わる法律について整理し、内容を確認する。感染症保健活動(感染症対策)における保健師の役割について理解を深める。	1.5 時間
12	講義内容	歯科口腔保健活動／在宅ケア		
	該当到達目標	予習	教科書「第4章Ⅸ歯科口腔保健活動」および国民衛生の動向「歯科保健医療」を読んでおく。教科書「第6章Ⅲ在宅ケア」を読んでおく。	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	歯科口腔保健活動に関わる法律、施策について整理し、内容を確認する。在宅ケアにおける保健師の役割について整理し、理解を深める。	1.5 時間
13	講義内容	健康危機管理■		
	該当到達目標	予習	教科書「第5章Ⅸ健康危機管理」および国民衛生の動向「健康危機管理体制」を読んでおく。	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	健康危機管理、災害保健活動に携わる保健師の役割について理解を深める	1.5 時間
14	講義内容	産業保健活動と保健師の役割／学校保健■		
	該当到達目標	予習	教科書「第6章Ⅰ学校保健」、「第6章Ⅱ産業保健」を読んでおく。	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	産業保健、学校保健について理解を深める。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	授業資料を基に第1回～14回の要点をまとめておく。	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	これまでの授業内容を振り返り、各保健活動に関連する法律、保健師の役割について整理する。	1.5 時間

合計時間(予習・復習)		45 時間
備考	●単位修得に必要な時間を満たしていない場合 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 ●履修条件 公衆衛生看護学概論を修得していることが望ましい。 ●オンラインの場合 1)評価方法:オンライン授業参加度(10%)、演習態度・レポート(課題)30%、小テストなどによる試験(60%) 2)課題に対するフィードバック:レポートにはコメントをつけて返却する。小テストは解答・解説を公開する。 3)出席登録:①C-learning への出席登録 ②小テストまたはアンケート ①②で出席の確認を行う。 ■:実務経験に基づく内容を示す	

科目名	地域包括支援実習(看護専門科目群・専門分野Ⅱ・地域看護学)					科目 ナンバリング	NRS319・C			
英文名	Prctice for Regional comprehensive support					講義形態	実習			
担当教員	武居 明美、赤堀 八重子、倉林 しのぶ、黒岩 あゆみ									
科目に関連した 実務経験	武居:保健師として職域保険協会に勤務、看護師として病院に勤務(経験) 赤堀:保健師として行政(町役場)に勤務、看護師として病院・訪問看護ステーションに勤務(経験) 倉林:保健師として病院に勤務(経験)									
学年・開講期	3年 通年	選必・単位数	必修1単位							
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	2	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	5	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	2	チームの一員としての協調・協働								
SDGsとの関連	③16									
アクティブラーニング実 施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○		○				
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①講義の目標 地域社会で生活する高齢者とその家族のニーズを捉え、介護保険制度、および医療・介護・予防・住まい・生活支援が切れ目なく提供される地域包括ケアシステムについて理解する。また、さまざまな健康レベルにある高齢者を総合的に支援するための地域包括支援センターをはじめとする行政の役割や関係機関との連携について学ぶ。 ②講義の実施方法 主な実習先は、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所などの介護保険関連施設、老人福祉センターである。実習期間は1週間であり、4日間は地域包括支援センター、居宅介護支援事業所などの介護保険関連施設、老人福祉センターで実習を行う。実習最終日には、学内実習を行う。									
到達目標	1. 地域で生活する高齢者の身体的・精神的・社会的特性をふまえた上で、あらゆる健康レベルにある高齢者への社会的支援の方法について理解する。■ 2. 介護保険制度における介護給付・予防給付・地域支援事業の概要について理解する。■ 3. 地域包括ケアシステムの要となる地域包括支援センターについて、その役割、業務について理解する。■ 4. 地域包括ケアシステムにおける5つの視点および保健・医療・福祉の連携の在り方について理解する。■ 5. 地域で活動する看護職としての役割を果たすための責任感、態度を修得する。									
使用教材	・公衆衛生看護学.jp 荒賀直子、後閑容子、鳩野洋子、神庭純子 インターメディカル 4,840円 ・国民衛生の動向, 厚生労働統計協会編, 厚生労働統計協会(2,500円税込) ・その他介護保険に関するテキストおよび資料									
参考文献	・厚生労働省ホームページ介護事業所・生活関連情報検索(介護サービス情報公表システム) https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/publish/ ・最新保健師講座対象別公衆衛生看護活動3 松田正巳著, 医学書院 ・系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護学:北川公子, 医学書院 ・地域・在宅看護論, 尾崎章子他, 医歯薬出版									
評価方法	実習目標達成度 90%(事前学習、実習態度、カンファレンスへの参加度、日々の記録物、レポートなど)、実習参加度 10%									
課題・評価に対する フィードバック方法	記録に関しては、教員が内容を確認し、コメントを付して返却する。また、最終レポートに関しては教員が内容を確認後、返却する。									
オフィスアワー (研究室)	武居: 月曜日 10:00~13:00 赤堀: 金曜日 13:00~16:15				メールアドレス (#→@)	武居:takei-a#takasaki-u.ac.jp 赤堀:akabori#takasaki-u.ac.jp				
講義内容	1.実習期間および実習施設 実習期間は1週間で、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所などの介護保険関連施設、老人福									

	祉センターにおいて実習する。			
	2. 実習内容			
	1) 地域包括支援センター 保健師、主任介護支援専門員、社会福祉士との同行訪問や会議への見学参加が中心となる。			
	2) 居宅介護支援事業所・介護保険施設 居宅介護支援事業所では、主に、介護支援専門員との同行訪問、サービス担当者会議の見学参加を行う。介護施設では利用者とのコミュニケーションのほか、介護支援への見学参加を行う。			
	3) 老人福祉センター センター内で行われる活動に参加し、地域で生活する高齢者とのコミュニケーションを図る。			
	4) 学内実習(グループワークおよびカンファレンス) 到達目標に対して、事前学習や実習での参加見学を通して学習した内容を体系的にまとめ発表し、意見交換を行う。行政で活動する看護職の役割および地域で生活する高齢者および家族を支えるための地域包括ケアシステムについて考察する。■			
	予習	・地域包括ケアシステムの概要 ・地域包括支援センターの概要と所属する専門職の役割 ・介護保険制度についての事前学習 ・実習先に関する予習、実習指導で準備した資料の確認	適宜	時間
	復習	地域包括ケアシステムの全体像とそこに関わる職種の連携についての確認	適宜	時間
合計時間(予習・復習)				時間
備考	●本科目は、公衆衛生看護における高齢者保健活動について理解していることが重要であるため、公衆衛生看護学概論Ⅰ、公衆衛生看護学方法論を中心に十分復習をしておくこと。 【履修条件】 ●履修承認基準を満たしていること(臨地実習科目の履修承認基準をすべて満たしていなければ受講できない)。 ●オンラインの場合 1)評価方法:実習目標達成度 90%(事前学習、実習態度、カンファレンスへの参加度、記録物、レポートなど)、オンライン実習参加度(10%) 2)課題に対するフィードバック:レポートにはコメントをつけて返却する。小テストは解答・解説を公開する。 3)出席登録:①C-learning への出席登録 ②小テストまたはアンケート ①②で出席の確認を行う。 ■:実務経験に基づく内容を示す			

科目名	学校保健Ⅰ（看護専門科目群・統合分野）							科目ナンバリング	NRT231・A		
英文名	School HealthⅠ							講義形態	講義		
担当教員	尾内 雅子・北原 恵美										
科目に関連した実務経験	養護教諭として小学校・中学校・特別支援学校に勤務（経験）										
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数		選択・1 単位							
履修が必須となる資格	養護教諭一種免許 選択必修科目										
学位授与方針との対応	2	人間理解と倫理観				0	国際理解				
	5	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力				
	2	チームの一員としての協調・協働									
SDGsとの関連	3 4 16										
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他	
				○					○		
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①学校保健の目的・意義を理解し、学校を活動の場とした児童生徒の健康の保持増進、心身の成長発達を支援するための保健管理、保健教育、保健組織活動を題材に、学校保健活動における学校（教諭・養護教諭等）、地域、家庭の役割について学ぶ。 ②講義、演習、グループワークを実施する。										
到達目標	1.学校保健に関連する法律である教育基本法、学校教育法、学校保健安全法について学び、学校保健の領域構造の法律的位置づけについて説明することができる。 2.学校保健の領域構造における保健教育、保健管理、保健組織活動等について学び、学校における、教員や養護教諭等の職務や役割、地域や家庭との連携の必要性を説明することができる。										
使用教材	「学校保健マニュアル 改訂10版」 編集 衛藤 隆 植田誠治 南山堂										
参考文献	「改訂版 学校環境衛生管理マニュアル 学校環境衛生基準の理論と実践」 日本学校保健会										
評価方法	1. 通常授業：筆記試験（80％）提出物、授業への参加内容（20％） 2. オンライン授業：小テスト 60％、授業への参加内容（出席及びアンケート内容）20％、期末課題 20％										
課題に対するフィードバック	レポート及びワークシートにはコメントをつけて返却する。（対面講義でもオンライン講義でも同様） 定期試験の後に、出題の意図を掲示によって示す。										
オフィスアワー（研究室）	月・水・金曜日の3限4限				メールアドレス （#→@）		m-onai#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	学校教育と学校保健及び養護教諭の職務■ ・学校保健の目的、学校保健の領域構造について学ぶ。 ・養護教諭の職務に関する経緯や職務内容について学ぶ。									
	該当到達目標	予習	教科書により予習を行う。							1.5	時間
	1, 2	復習	学校保健活動の目的・意義、対象・領域、学校保健活動の歴史、養護教諭の職務について整理し、理解を深める							1.5	時間
2	講義内容	健康の評価・疾病および健康障害■ ・健康状態に関する情報収集・処理及び活用について学ぶ。 ・学校保健統計から子供たちの健康課題をとらえ、疾病管理や対応について考える									
	該当到達目標	予習	教科書により予習を行う。							1.5	時間
	2	復習	保健調査・健康観察、保健情報収集について整理し、健康課題と疾病管理について理解を深める。							1.5	時間
3	講義内容	保健管理（健康診断） ・健康診断の法的根拠をおさえ、定期・臨時・就学時健康診断の内容・事後措置について学ぶ									
	該当到達目標	予習	教科書により予習を行う。							1.5	時間
	2	復習	定期・臨時・就学時健康診断の内容・事後措置について整理し、理解を深める。							1.5	時間

4	講義内容	感染症とその対応 ・学校での感染症に関する法令・対応について学ぶ。		
	該当到達目標 1, 2	予習	教科書により予習を行う。	1.5 時間
		復習	学校で行う感染症対策について整理し、理解を深める。	1.5 時間
5	講義内容	精神保健■ ・児童生徒の精神保健の現状と対応を学ぶ。		
	該当到達目標 1, 2	予習	教科書により予習を行う。	1.5 時間
		復習	精神保健に関する基本知識や心の健康問題の予防・早期発見について整理し、理解を深める。	1.5 時間
6	講義内容	発達や行動上の課題と特別支援教育 ・発達障害者支援法・発達や行動上に困難のある児童生徒の障がいについて学ぶ。		
	該当到達目標 1, 2	予習	教科書により予習を行う。	1.5 時間
		復習	発達障害・特別支援教育・医療的ケアを整理し、理解を深める	1.5 時間
7	講義内容	保健室の役割・安全管理と危機管理■ ・保健室の法的根拠・機能を学ぶ。 ・子供たちの安全をめぐる状況や学校における危機管理の基本的な考え方を学ぶ。		
	該当到達目標 1, 2	予習	教科書により予習を行う。	1.5 時間
		復習	保健室の法的根拠・機能及び子供たちの安全をめぐる状況や学校における危機管理の基本的な考え方について整理し理解を深める。	1.5 時間
8	講義内容	学校環境衛生・まとめ ・学校環境衛生の考え方・関係法令・基準値について学ぶ。		
	該当到達目標 1, 2	予習	教科書により予習を行う。	1.5 時間
		復習	学校環境衛生基準値・方法について整理し、理解を深める。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	1.単位修得に必要な時間数を満たしていない場合 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 2. 授業は教科書と教員の作成するプリントを使って、要点をまとめていく。 3. パワーポイントによる図の提示を行っていく。また事例を示しグループワークにより課題解決学習も取り入れる。 4. オンライン授業での出席の登録・確認 出席の登録方法については、C-learning の「協働版」で確認すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す			

科目名	ヘルスカウンセリング(看護専門科目群・統合分野)							科目ナンバリング	NRS232・B	
英文名	Health Counseling							講義形態	講義	
担当教員	池田優子									
科目に関連した実務経験	カウンセラーとして精神科クリニックに勤務(経験) ■									
学年・開講期	2 年 後期		選必・単位数		選択 1 単位					
履修が必須となる資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針との対応	4	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	3	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	2	チームの一員としての協調・協働								
SDGsとの関連	3 4 16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○		○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	本講義では看護に必要なカウンセリングマインドについて理解し、患者の理解と健康へ向けた専門的支援方法としてのヘルスカウンセリングを学ぶ。 講義はカウンセリングの構造の理解から始め、傾聴・共感などの基本姿勢を演習を通して身につけるとともに、様々な支援法について理解を深めるよう進めていく									
到達目標	1. 自己理解を深め、自分自身の持つ感情や期待・欲求について内省が深められる ■ 2. カウンセリングの「4つの基本的姿勢」を身につけられる ■ 3. カウンセリングとガイダンス、指導の違いを理解し、様々な健康支援法が理解できる ■									
使用教材	テキストは使用せず、自作の講義資料や演習のフォーマット、DVD を使っていく									
参考文献	「入門 健康カウンセリング」 ヘルスカウンセリングセンターインターナショナル									
評価方法	1. 毎回の講義や演習の課題について C-learning のアンケートへの入力・提出で 40 点。 2. 最終日にカウンセリング演習を実施し、分析と考察のテスト・レポート点で 60 点の評価とする。 (オンライン授業、対面授業も、同様の評価とします)									
課題に対するフィードバック	毎回、講義・演習の感想や質問をアンケートに入力してもらい、次の授業で感想へのコメントや質問への解説を行う。理解できたか学生に確認し、新たな課題や質問が出された場合、その都度回答する									
オフィスアワー	授業開始前や終了後に質問及び学習相談に応じる				メールアドレス (#→@)		yukoike9@gmail.com			
1	講義内容	ガイダンス カウンセリングの概要の理解 ■								
	該当到達目標	予習	1 年次実施の自己理解のチェックリストを整理しておく						1.5 時間	
	1	復習	DVD で視聴した内容や、来談者中心療法等のカウンセリングについて整理する						1.5 時間	
2	講義内容	ヘルスカウンセリングとは カウンセリングが感情に焦点を当てる意味とは								
	該当到達目標	予習	自分が普段感じる様々な感情を思い浮かべ、整理しておく						1.5 時間	
	1	復習	実施した「感情のセルフカウンセリング」の気づきをまとめる						1.5 時間	
3	講義内容	カウンセリングの基本姿勢の理解 ■ 傾聴と確認のエクササイズ								
	該当到達目標	予習	二重意思理論と人間の意識構造について復習しておく						1.5 時間	
	1.2	復習	傾聴と確認の演習を振り返り、どのような態度をとると効果的か整理する						1.5 時間	
4	講義内容	「印象に残った事」のモデリング学習 ■								

	該当到達目標	予習	「観察」「傾聴」「確認」「共感」について復習しておく	1.5	時間
	1.2	復習	モデリング場面で観察できたことを整理しておく	1.5	時間
5	講義内容	自己イメージの理解とマイブームカウンセリングの演習 ■			
	該当到達目標	予習	ヘルスカウンセリングの手順について資料を見て予習しておく	1.5	時間
	1.2	復習	自分達で実施したカウンセリングの課題を考察する	1.5	時間
6	講義内容	メンタルヘルスの改善に役立つストレスマネジメント ■			
	該当到達目標	予習	日頃の生活の中で感じるストレスについて意識を向け書きとめておく	1.5	時間
	1.2	復習	自己の抱えるストレスの特徴とストレス対処方法についての学びを整理する	1.5	時間
7	講義内容	クライアント状況別支援法 心象風景連想法 認知行動療法			
	該当到達目標	予習	健康教育論で学んだヘルスガイダンス法を復習しておく	1.5	時間
	1. 2.3	復習	対象のニーズに応じた様々な支援法について整理する	1.5	時間
8	講義内容	総まとめと「行動変容のヘルスカウンセリング」の実施			
	該当到達目標	予習	講義の到達目標に照らし合わせて、学習の中で学べたことをまとめる	1.5	時間
	1. 2.3	復習	全体を通して学べたことを講義目標と照らし合わせて整理する	1.5	時間
合計時間(予習・復習)				24	時間
備考	授業の進め方は、状況に応じて対面授業とオンライン授業のそれぞれの強みを生かしながら実施する 1. 対面事業においては、2 人組、3 人組の演習形式をとり、相手とのやりとりの中で生まれる気づきを大切にする 2. オンライン授業では、周りの目を気にせず、ゆっくり自分を向き合えるセルフカウンセリングの時間とする。 3. 最終回は総まとめとテストレポートとして、「行動変容のためのヘルスカウンセリング」の課題を提出する。 尚、2 回以上の欠席でテスト評価外となります。毎回、授業の感想や質問を C-leaning のアンケートに入力することで、出席と見なすので、忘れずに入力してください。 ■:実務経験に基づく内容を示す。				

科目名	看護学特論(リプロダクティブヘルス看護学)(看護専門科目群・統合分野)							科目ナンバリング	NRS233・B	
英文名	Professional Nursing Development							講義形態	演習	
担当教員	茂木佐智子 大石時子 寺口顕子 堀越摂子									
科目に関連した実務経験	助産師として病院に勤務(経験)									
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数	選択 1 単位							
履修が必須となる資格										
学位授与方針との対応	3	人間理解と倫理観				1	国際理解			
	4	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGsとの関連	3 5 16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○	○				○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要	①思春期から子育て期にある女性のリプロダクティブヘルス/ライツに関わる健康課題を概観し、リプロダクティブヘルス看護の対象を理解するとともに、その対象に必要な支援の在り方について考察する。									
①講義の目標	②講義内容の要点の講義と、ゼミナール形式で実施する。4 人の教員によるオムニバス形式。									
②講義の実施方法										
到達目標	1. リプロダクティブヘルス看護の対象を述べる。 2. 思春期から子育て期にある女性のリプロダクティブヘルス/ライツに関わる健康課題を説明する。 3. 思春期から子育て期にある女性のリプロダクティブヘルス/ライツに関わる健康課題に必要な支援について考えを述べる。 4. リプロダクティブヘルス看護に関する自己の課題を見いだす。 5. 看護者として主体的な態度で学習に取り組む。									
使用教材	教科書は使用せず、必要に応じて演習中に紹介する。									
参考文献	・「母性看護学Ⅰ概論第2版 女性・家族に寄り添い健康を支えるウィメンズヘルスケアの追求」有森直子編、医歯薬出版、2020。(2,200 円+税) ISBN978-4-263-23736-6									
評価方法	学習活動(30%)、レポート(70%)により、到達目標の達成状況を評価する。									
課題に対するフィードバック	提出されたレポート等に対してコメントする。									
オフィスアワー(研究室)	火曜日 4 限 5 号館 3 階 304 研究室				メールアドレス (#→@)	motegi-s#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	リプロダクティブヘルス/ライツと性教育① 担当:大石								
	該当到達目標	予習	思春期の女性(男性も含む)の健康課題、特に性に関連する課題を調べておく。							1.5 時間
	1,2,5	復習	思春期の女性の健康課題、特に性に関する課題の原因が多面的であることを復習する。							1.5 時間
2	講義内容	リプロダクティブヘルス/ライツと性教育② 担当:大石								
	該当到達目標	予習	思春期の女性の健康課題について、性教育がどのような支援をできるか、考えてみる。							1.5 時間
	2,3,5	復習	性教育の多様な内容と方法について、復習する。							1.5 時間
3	講義内容	リプロダクティブヘルス/ライツと出生前検査にかかる支援① 担当:寺口								
	該当到達目標	予習	妊娠期に行われる出生前検査について、リプロダクティブヘルス看護学方法論の内容を振り返る。							1.5 時間
	1,2,5	復習	出生前検査に伴う身体的・心理社会的課題について復習する。							1.5 時間
4	講義内容	リプロダクティブヘルス/ライツと出生前検査にかかる支援② 担当:寺口								

	該当到達目標	予習	出生前検査を受けるかどうか意思決定する際に気がかりな点について考えてくる(当事者、看護者)。	1.5 時間
	2,3,5	復習	遺伝学的検査に関する意思決定における看護支援について考察する。	1.5 時間
5	講義内容	リプロダクティブヘルス/ライツと子育て支援① 担当:堀越		
	該当到達目標	予習	乳幼児の子育てにおける心理社会的な課題を考えてみる。	1.5 時間
	1,2,5	復習	育児環境と関連させて理解した乳幼児の子育ての課題について復習する。	1.5 時間
6	講義内容	リプロダクティブヘルス/ライツと子育て支援② 担当:堀越		
	該当到達目標	予習	子育て支援にかかわる機関について調べておく。	1.5 時間
	2,3,5	復習	妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援の意義について考察する。	1.5 時間
7	講義内容	リプロダクティブヘルス/ライツとキャリアの両立支援 担当:茂木		
	該当到達目標	予習	十数年後の自分のキャリアプランやライフプランを想像し、現在の自分の健康課題を考えてみる。	1.5 時間
	1,2,5	復習	キャリアとライフイベントを両立するための支援について考察する。	1.5 時間
8	講義内容	リプロダクティブヘルス看護について学びを深める 担当:茂木		
	該当到達目標	予習	全体の授業内容を振り返る。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	リプロダクティブヘルス看護の対象に必要な支援の在り方について、自己の考えをまとめる。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間

備考	【ルール】 ・記載した予習・復習時間では単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完する。 ・授業中に提示された課題は提出期限を厳守し提出する。 ・演習中の作業が特定の個人に偏らないよう、協力し合いながらグループワークに参加する。			
	【授業の進め方】 1)教材として教員の作成する授業資料、テーマに関する研究論文、テーマに係る DVD を使用する。 2)オンライン授業となる場合は、C-learning を利用した教材倉庫に掲載した授業資料を読み、課題に回答してもらう方法のほか、Google Meet を使ったリアルタイム授業の方法もとり入れる。			
	【出席登録・確認】 出席の登録・確認は、下記の方法方法で行う。 方法 1. C-learning の「出席」の確認キーを見て登録する。 方法 2. C-learning の「アンケート」に回答する。			
	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	看護学特論(看護管理)(看護専門科目群・統合分野)							科目ナンバリング	NRS233・B	
英文名	Professional Nursing Development							講義形態	演習	
担当教員	小池洋子									
科目に関連した実務経験	病院の看護部長・医療安全管理者、県の看護行政職として勤務(経験)									
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数	選択 1 単位							
履修が必須となる資格										
学位授与方針との対応	3	人間理解と倫理観				1	国際理解			
	4	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGsとの関連	3 16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○			○	○					
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 医療安全・医療事故に関する基礎知識を理解し、事例を検討することにより医療安全意識を高める。 ② 課題図書をメンバーで分担してプレゼンテーションを行いグループでの意見交換を行う。									
到達目標	1. 医療事故・医療安全の概念を理解する。 2. 看護実践環境に潜むリスクについて理解する。 3. 医療事故に関する文献から医療事故の加害者・被害者双方の感情について考える。 4. 医療安全を推進するための対策について考える。 5. 領域別看護学実習に取り組むにあたり、医療安全に関する目標を設定する。									
使用教材	永井裕之(2007):断罪された「医療事故隠し」. あけび書房. (1600 円)(購入は不要です) DVD「事例で学ぶヒヤリハット」. 医学映像教育センター 必要時資料を配布									
参考文献	川野龍太郎(2014):医療におけるヒューマンエラー第2版, 医学書院(2,800 円). 豊田郁子(2016):うそをつかない医療, 亜紀書房(1,600 円) 長野展久(2012):医療事故の舞台裏ー25のケースから学ぶ日常診療の心得, 医学書院(2500 円)									
評価方法	授業への参加状況、討論での発言内容、課題レポートの提出にて総合評価し、60%以上を合格とする。 オンライン・対面ともに同様の方法で評価する。									
課題に対するフィードバック	討論の中で、適宜フィードバックを行う。課題やレポートはコメントを記載し返却する。									
オフィスアワー (研究室)	月曜日 16:30 以降(5 号館小池 412 研究室)				メールアドレス (#→@)		Koike-y#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	医療安全、医療事故とは■								
	該当到達目標 1	予習	医療安全、医療事故に関するニュースについて調べる。						1.5	時間
		復習	医療安全の取り組みの経緯についてまとめる。						1.5	時間
2	講義内容	病院における看護実践環境に潜むリスク■								
	該当到達目標 2	予習	病院の環境で起こりそうな医療事故について考えを整理する。						1.5	時間
		復習	DVD を視聴して気づいたことを整理する。						1.5	時間
3	講義内容	事故発生当初の家族の思い/病院の対応についての家族の思い								
	該当到達目標 3	予習	「断罪された医療事故隠し」第1・2章を読み、わからない言葉を調べる。 (担当者はプレゼンテーションの資料を作成する)						1.5	時間
		復習	討議を踏まえ、事故発生当初の家族の思いについて自分の考えを整理する。						1.5	時間
4	講義内容	組織としてすべきことについて/事故当時者の立場と思いについて								

	該到達目標 3	予習	「断罪された医療事故隠し」第3・4章を読み、わからない言葉を調べる。 (担当者はプレゼンテーションの資料を作成する)	1.5 時間
		復習	討論の踏まえ、事故の当事者の思いについて考え、看護職としてのあり方について自己の考えを整理する。	1.5 時間
5	講義内容	医療者としての行動について		
	該到達目標 4	予習	「断罪された医療事故隠し」第5章を読み、わからない言葉を調べる。 (担当者はプレゼンテーションの資料を作成する)	1.5 時間
		復習	討議を踏まえ、病院組織としての対応方法について自己の考えを整理する。	1.5 時間
6	講義内容	インシデント・アクシデント分析		
	該到達目標 1, 2, 4	予習	提示された事例を読んでおく。	1.5 時間
		復習	インシデント・アクシデントの起こりうる要因について整理する	1.5 時間
7	講義内容	医療安全を推進するための対策		
	該到達目標 3. 4	予習	インシデント発生要因を踏まえ、発生を防ぐ対策を考えておく	1.5 時間
		復習	看護職になるうえでの心構えについて整理する	1.5 時間
8	講義内容	まとめ 「領域別実習を取り組むにあたっての、医療安全に関する目標設定」		
	該到達目標 4. 5	予習	1～7 回に学んだことを振り返る。	1.5 時間
		復習	設定した目標を達成するための具体策を整理しておく。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	1. 記載した予習・復習時間では、単位習得に満たないため、各自で補完すること。 2. 授業の日程は履修生と相談し決定する。 3. ルール 6) 担当になった章は要約しプレゼンを行い、その後の討論の進行を担当する。 7) 担当になっていない章も授業前に読んで参加し、討論に積極的に参加する。 8) 出席確認は対面授業・オンライン授業どちらも C・Leaning の出席登録により行う。 4. オンライン授業時の変更点 7) ZOOM を用い対面と同様の内容を実施する。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	看護学特論(基礎看護学)(看護専門科目群・統合分野)							科目ナンバリング	NRS233・B	
英文名	Professional Nursing Development							講義形態	講義	
担当教員	鶴田晴美									
科目に関連した実務経験	看護師として病院勤務(経験)									
学年・開講期	2 年 後期		選必・単位数		選択 1 単位					
履修が必須となる資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針との対応	3	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	5	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	③16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○		○	○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①在宅や臨床で実施されている手浴・足浴後に用いることができるマッサージ方法について学び、リラクセーション法を実施する看護者の役割について理解する。また、皮膚の状態を測定する機器の使用について学び、スキンケア実践活用の導入とする。 ②体験学習を中心に毎回の授業を展開する。									
到達目標	1. リラクセーション法についての興味・関心について述べるができる。 2. スキンケアに役立つ測定用具の使用方法を体験し、看護実践の活用性を考えることができる。 3. アロマを用いたバンドマッサージ・フットマッサージに必要な基礎的知識を説明できる。■ 4. 知識に基づいて、ハンドマッサージ・フットマッサージを実施することができる。■ 5. ケアの体験をとおして、身体反応や主観的効果について説明できる。■									
使用教材	・適時配布する。									
参考文献	岡本佐智子 根拠がわかる看護マッサージ 患者を癒すリラクセーション技術 中央法規 今西治郎、荒川唱子 アロマセラピー入門 日本看護協会出版会 小坂橋喜久代、荒川唱子 リラクセーション法入門 日本看護協会出版会 五十嵐透子 リラクセーション法の理論と実際 第2版 医歯薬出版									
評価方法	① 対面授業の場合:演習と振り返り 60%、最終レポート 40%の構成で評価する。 ② オンライン授業の場合:課題提出 50%、最終レポート 50%で評価する。 * 総合評価 60 点以上を合格とする。									
課題に対するフィードバック	課題については学習内容の要点と予習・復習の意図を関連付けて示し、資料を用いフィードバックする。 ・課題に対する記録などにはコメントを付けて返却する。									
オフィスアワー (研究室)	水曜日・木曜日5時限 (5号館3階鶴田302研究室)				メールアドレス (#→@)	tsuruta-h#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	ガイダンス、各自の興味・関心について発表しよう								
	該当到達目標	予習	リラクセーション法について興味・関心を持った動機をまとめてくる。							1.5 時間
	1	復習	到達目標、授業内容、評価方法などについて確認する。							1.5 時間
2	講義内容	皮膚の水分量を測定してみよう ■								
	該当到達目標	予習	皮膚の機能について調べる。							1.5 時間
	2	復習	皮膚の保湿の重要性について確認する。							1.5 時間
3	講義内容	アロマを用いたハンドマッサージを体験してみよう ■								
	該当到達目標	予習	アロマについての資料を読んで臨む。							1.5 時間
	2, 3	復習	演習資料を確認して、次回の演習に臨む。							1.5 時間
4	講義内容	アロマを用いたハンドマッサージを体験してみよう ■								
	該当到達目標	予習	ハンドマッサージの資料を確認して臨む。							1.5 時間

	2、3	復習	実施後の振り返りをまとめる。	1.5 時間
5	講義内容	アロマを用いたフットマッサージを体験してみよう。 ■		
	該当到達目標	予習	フットマッサージの配布資料を精読して臨む。	1.5 時間
	3	復習	実施後の振り返りをまとめる。	1.5 時間
6	講義内容	既習の知識・技術を基にアロマを用いたハンドマッサージを他学生に提供しよう		
	該当到達目標	予習	配布資料を精読し、自己練習してマッサージに臨む。	1.5 時間
	4	復習	体験後の振り返りをまとめる。	1.5 時間
7	講義内容	既習の知識・技術を基にアロマを用いたハンドマッサージを他学生に提供しよう		
	該当到達目標	予習	配布資料を精読し、自己練習してマッサージに臨む。	1.5 時間
	2, 4	復習	体験後の振り返りまとめる。	1.5 時間
8	講義内容	文献学習および体験学習のまとめ（プレゼンテーション）		
	該当到達目標	予習	まとめの準備を行う。	1.5 時間
	1, 5	復習	学習した内容をレポートする。	1.5 時間
合計時間（予習・復習）				24 時間
備考	単位修得に必要な時間を満たしていない場合 ・記載した予習、復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 授業の日程は、受講生と相談の上、集中講義にて実施する。 オンライン授業での出席の登録・確認 ・C-learning を活用し出席の登録、アンケート機能を利用し確認をする。 ■：実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	看護学特論(国際看護学)(看護専門科目群・統合分野)							科目 ナンバリング	NRS233・B	
英文名	Professional Nursing Development							講義形態	講義	
担当教員	李孟蓉									
科目に関連した 実務経験	看護師とし大学病院に勤務(経験)									
学年・開講期	2 年 後期		選必・単位数		選択 1 単位					
履修が必須となる 資格										
学位授与方針 との対応	2	人間理解と倫理観				3	国際理解			
	3	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	31516									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○	○		○	○		
「その他」のアクティ ブラーニング実施方 法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	大泉町にあるブラジル人学校に通う小・中学生及び保護者を対象に栄養学科や理学療法学科の学生と共に健康講座を企画し、令和6年11月19日(日)に実施する予定です。 ①地域において健康教育を企画・実践・評価を行うために必要な知識及び実践力の基礎を身につける ②グループワークを中心に行います。栄養学科や理学療法学科の学生と合同で、デモンストレーションを行ったり、講座で使用する教材を検討したりします。									
到達目標	1. 在日外国人(特にブラジル人)が当面する健康問題を理解する 2. 在日外国人(特にブラジル人)健康問題解決へ向けて、健康講座を企画する 3. 企画した健康講座に使用する教材を開発する 4. 地域における健康教育の具体的なあり方について理解する■									
使用教材	1)1 年次に使った教科書 看護学テキスト NiCE 国際看護 国際社会の中で看護の力を発揮するために(南江堂) ISBN 978-4-524-25264-0 2)プリントを配布します									
参考文献	新しい健康教育 理論と事例から学ぶ健康増進への道 保健同人社 実践 行動変容のためのヘルスコミュニケーションー人を動かす 10 原則 大修館書店 医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎 第2版生活習慣病を中心に 医歯薬出版社									
評価方法	対面講義:健康教育の企画・教材の提出、授業への参加度及び態度 50%、健康教育の実践 50%									
課題に対する フィードバック	企画・教材作成及び実践に対し、コメントを返す									
オフィスアワー (研究室)	木曜日 2 限・金曜日 2 限				メールアドレス (#→@)		ri#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	健康教育の進め方～対象の健康課題の把握、効果的な啓発教材								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読んで講義の到達目標などを理解する						1.5 時間	
	1	復習	健康課題の把握の仕方や効果的な啓発教材について理解する						1.5 時間	
2	講義内容	在日外国人の健康課題								
	該当到達目標	予習	配布された資料に目を通しておく						1.5 時間	
	1	復習	在日外国人の健康課題を理解する						1.5 時間	
3	講義内容	健康教育実践へ向けた教材開発～グループワーク①(題材決定とアイデアスケッチ)								
	該当到達目標	予習	題材案を考える						1.5 時間	
	2	復習	決定した題材に関する資料を収集する						1.5 時間	
4・5	講義内容	健康教育実践へ向けた教材開発～グループワーク②③(教材のアイデアスケッチ・作成)								
	該当到達目標	予習	教材を作成する						1.5 時間	

	2, 3	復習	自身の役割を確認し、デモストレーションの準備をする	1.5 時間
6	講義内容	健康講座デモストレーション～栄養学科竹内ゼミ・理学療法学科正木ゼミとの合同～		
	該当到達目標	予習	自身の役割を確認し、デモストレーションの準備をする	1.5 時間
	3, 4	復習	指摘を受け、教材の修正を行い健康講座に備える	1.5 時間
7・8	講義内容	健康講座の実践～大泉町南公民館 11 月 19 日(日)午前 9 時～12 時■		
	該当到達目標	予習	健康講座全体の流れを理解し、自身の役割が果たせるよう準備をする	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	健康教育を企画・実践・評価するために必要な知識や実践力を理解する	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	1.単位修得に必要な時間数を満たしていない場合 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。			
	2.授業の進め方:			
	1)対面授業			
	①第 1・2 回は講義を通して、健康講座を実施する大泉町や対象やの理解を深めるとともに、令和 6 年度の企画(案)を考える。			
	②第 3 回～第 5 回はグループに分かれ健康教育で使用する教材を作成する。			
	③第 6 回は健康講座を合同担当する栄養学科竹内ゼミ及び理学療法学科正木ゼミの学生と合同で、全体の流れを確認し役割を分担する			
	④第 7 回・8 回は 11 月 19 日(日)の午前に大泉町南公民館で開催される健康講座を、大泉役場職員、竹内ゼミ・正木ゼミの学生とともに運営します。			
	2)オンライン授業(ZOOM を使用する)			
	①第 1～6 回の授業は Zoom を使用して行う。内容は、対面授業と同じ。			
	②第 7 回は、竹内ゼミ、正木ゼミの学生と合同で作成した教材の発表を行う。			
	③第 8 回は作成した教材について大泉の外国人学校の先生や子供からの評価を受け、改善点をグループで協議する			
	3.オンライン授業での出席の登録・確認 C-learning の「出席管理」で確認すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	看護学特論(成人看護学)(看護専門科目群・統合分野)							科目ナンバリング	NRS233・B	
英文名	Professional Nursing Development							講義形態	演習	
担当教員	砂賀道子、吉田久美子、石田順子									
科目に関連した実務経験	大学病院等で看護師として勤務									
学年・開講期	2 年 後期		選必・単位数		選択 1 単位					
履修が必須となる資格										
学位授与方針との対応	3	人間理解と倫理観				1	国際理解			
	4	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	③							16		
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○		○		○		○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①がん看護に関するトピックスについて、がん看護専門看護師(OCNS)の講義やイベント参加を通して、がん患者家族の状況を理解し、看護者としての活動や役割について学習する。 ②講義、がん患者支援イベントへの参加、文献学習など。									
到達目標	1. がん患者・家族(がんサバイバー)の状況について概要を説明できる。 2. がんサバイバーの活動や社会的な支援について概要を説明できる。 3. がん看護における看護専門職者の活動と役割について考察できる。									
使用教材	授業時に資料を配布し、必要時文献を提示する。									
参考文献	1. 近藤まゆみ・峯岸秀子編著:『がんサバイバーシップ 第2版 がんとともに生きる人びとへの看護ケア』医歯薬出版									
評価方法	授業参加度・貢献度 40 点(40%)、プレゼンテーション・レポート 60 点(60%)で総合的に評価する。 総合評価 60 点(60%)以上を合格とする。									
課題に対するフィードバック	講義やがん患者支援に関する行事への参加、課題についてのレポートやプレゼンテーションに対してその都度、講評・コメントする。									
オフィスアワー (研究室)	火曜日(5号館 408 研究室)				メールアドレス (#→@)		sunaga # takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	科目オリエンテーション・がんサバイバーシップの概念、がん医療の現状<対面講義>								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容及び講義目標を理解し、がんサバイバー、がん医療の現状について調べる。						1.5	時間
	1, 2	復習	がんサバイバーシップの概念、がん医療の現状について要点を確認しておく。						1.5	時間
2	講義内容	がんサバイバーに対する社会的支援・リレーフォーライフについて<対面講義>								
	該当到達目標	予習	リレーフォーライフの歴史や活動について調べる。						1.5	時間
	1、2	復習	ルミナリエを作成する。						1.5	時間
3	講義内容	リレーフォーライフへの参加<イベント参加・フィールドワーク>								
	該当到達目標	予習	前回の講義内容を整理しておく。						1.5	時間
	1、2	復習	がんサバイバー支援活動に参加して感じたこと、学んだことをレポートにまとめる。						1.5	時間
4	講義内容	がんサバイバーに対する社会的支援について<ディスカッション>								
	該当到達目標	予習	第2回・3回の内容を整理しておく。						1.5	時間
	2	復習	がんサバイバーに対する支援について要点をまとめる。						1.5	時間
5	講義内容	がん看護専門看護師(OCNS)の活動<OCNS による講義>								
	該当到達目標	予習	がん看護専門看護師の教育・資格制度と役割を調べる。						1.5	時間
	1, 2, 3	復習	がん看護専門看護師の活動と役割について講義から学んだことをまとめる。						1.5	時間
6	講義内容	がんサバイバーを支える看護について<ディスカッション>								

	該当到達目標	予習	前回までの内容を整理しておく。	1.5	時間
	1, 2, 3	復習	提示された文献を精読する。	1.5	時間
7	講義内容	今までの講義やイベントへの参加などからがん看護に関する学びと看護師の役割についてまとめるく 演習・自己学習＞			
	該当到達目標	予習	今までの講義・演習を通して学んだことを整理する。	1.5	時間
	1, 2, 3	復習	がん看護における看護師の役割について資料をまとめる。	1.5	時間
8	講義内容	がん看護の役割について＜プレゼンテーション＞			
	該当到達目標	予習	プレゼンテーションの準備をする。	1.5	時間
	1, 2, 3	復習	他の学生のプレゼンテーションを含めて、がんサバイバーを支援する看護師の役割を考察する。	1.5	時間
合計時間(予習・復習)				24	時間
備考	1.単位修得に必要な時間数を満たしていない場合 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間が時間に満たないため、各自で補完すること。				
	2.履修条件 この科目は「成人看護学概論」「成人看護学方法論Ⅰ」「成人看護学方法論Ⅱ」を履修していること。				
	3. ルール 話し合いには積極的に参加し、他者の意見を尊重する。				
	4. 授業の進め方: 1)教材として教員の作成する授業資料や DVD、論文などを適宜使用する。 2)講義は各自が探求したいテーマを重視し、参考となる資料や文献を紹介しながら進めていく。 講義内容に関する質問などに対しても具体的な説明をする。 3)到達目標に向け学習が効果的に積み重ねられるよう、学習内容を体系的に提示し進めていく。 4)活動への参加・プレゼンテーション時は、主体的な態度での参加を求める。 5)授業内容に基づき、自ら学習すべき内容を精選し自律的に学習することを期待する。 *リレーフォーライフが covid-19 や天候等により中止になった場合は、ほかの内容を検討し、到達目標が達成できるよう調整を行うことがある。その場合の講義の進め方、課題については事前に別途指示する。				
	5. オンライン授業での出席登録 出席の登録は C-learning の「出席確認キー」を見て登録する。課題がある場合は指示に従って提出する。				
	■:実務経験に基づく内容を示す。				

科目名	看護学特論(精神看護学)(看護専門科目群・統合分野)							科目 ナンバリング	NRS233・B	
英文名	Professional Nursing Development							講義形態	講義	
担当教員	高田絵理子									
科目に関連した 実務経験	精神科病院にて看護師として勤務経験がある									
学年・開講期	1 年 前期		選必・単位数		選択 1 単位					
履修が必須となる 資格										
学位授与方針 との対応	3	人間理解と倫理観				1	国際理解			
	4	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	3 16									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○	○				○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①講義の目標 精神障害者の地域生活に必要な法制度、社会資源を理解し、看護者の役割について考察する。 ②講義の実施方法 教員が作成した資料、厚労省の資料、視聴覚教材を用い、精神障害者の自立を支えるシステムと法制度、精神障害者の就労支援についての理解を図りながら授業を展開する。									
到達目標	1. 精神障害者の自立を支えるシステムと法制度について説明することができる。 2. 精神障害者の就労支援に関して、現状と今後の展望について個々の考えをまとめ、グループ内でディスカッションすることができる。									
使用教材	配布資料:厚労省の資料「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」・授業に関連した DVD									
参考文献	大熊一夫著、精神病院を捨てたイタリア 捨てない日本、岩波書店 滝沢武久著、日本の精神科医療の歴史的検証と政策提言、武久出版									
評価方法	・出席状況 30%とレポート 70%の構成で評価する。 ・総合評価 60 点以上を合格とする。									
課題に対する フィードバック	・レポートはコメントを付して返却する。 ・オンラインの場合も C-learning を利用し、コメントをフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	水曜日 10:00-15:00 (5 号館 403 研究室)				メールアドレス (#→@)		takada-e#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	精神医療および精神保健福祉の現状について ■								
	該当到達目標	予習	新聞記事や参考文献を読み、概要について調べてくる。							1.5 時間
	1	復習	第 1 回の配布資料と講義内容の学びを整理しておく。							1.5 時間
2	講義内容	精神障害者の自立を支えるシステムと関連法規について								
	該当到達目標	予習	精神障害者の自立を支えるシステムと関連法規について、調べ要点をまとめる。							1.5 時間
	1.2	復習	第 2 回の配布資料と講義内容の学びを整理しておく。							1.5 時間
3	講義内容	精神障害者のリカバリーと社会参加 ■								
	該当到達目標	予習	精神障害者のリカバリーと社会参加について、調べ要点をまとめる。							1.5 時間
	1.2	復習	第 3 回の配布資料と講義内容の学びを整理しておく。							1.5 時間
4	講義内容	精神障害者の就労支援についてプレゼンテーションとグループディスカッション①								
	該当到達目標	予習	精神障害者の就労環境、課題について調べ、プレゼンテーションできるように準備をする。							1.5 時間

	1.2	復習	プレゼンテーションで提起された課題を各自で改善策等を調べる。	1.5 時間
5	講義内容	精神障害者の就労支援についてプレゼンテーションとグループディスカッション②		
	該当到達目標	予習	精神障害者の就労環境、課題について調べ、プレゼンテーションできるように準備をする。	1.5 時間
	1.2	復習	プレゼンテーションで提起された課題を各自で改善策等を調べる。	1.5 時間
6	講義内容	精神障害者の就労支援についてプレゼンテーションとグループディスカッション②		
	該当到達目標	予習	精神障害者の就労環境、課題について調べ、プレゼンテーションできるように準備をする。	1.5 時間
	1.2	復習	プレゼンテーションで提起された課題を各自で改善策等を調べる。	1.5 時間
7	講義内容	イタリアのバザーリア法制定の経緯 ～DVD「人生ここにあり」より～		
	該当到達目標	予習	イタリアの医師バザーリアが精神病院を廃止した経緯を調べ、要点をまとめる。	1.5 時間
	1.2	復習	第 7 回で視聴した DVD の内容の学びを整理しておく。	1.5 時間
8	講義内容	【まとめ】 グループディスカッション		
	該当到達目標	予習	第 1 回～第 7 回の授業内容の要点を確認して、自分の考えをまとめる。	1.5 時間
	1.2	復習	グループディスカッションでの学びを整理しておく。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	・メールで質問をする際は、氏名、学籍番号を必ず記載すること。 ・記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 ・■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	看護学特論(公衆衛生看護学)(看護専門科目群・統合分野)							科目ナンバリング	NRS233	
英文名	Professional Nursing Development							講義形態	演習	
担当教員	赤堀八重子									
科目に関連した実務経験	保健師としての勤務経験：行政(町役場)(赤堀)									
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数	選択 1 単位							
履修が必須となる資格										
学位授与方針との対応	3	人間理解と倫理観					1	国際理解		
	4	論理的思考力・問題解決力					1	生涯学習力		
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGsとの関連	3 16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○		○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要	①講義の目標 健康増進等に向けた行政の取組みや住民に対する支援方法を学習し、公衆衛生における看護職の役割や公衆衛生看護活動に関する理解を深める。									
①講義の目標	②講義の実施方法 ・教科書(使用教材)および教員の作成するパワーポイント、資料を使用し、説明を行っていく。 ・事例検討や行政の展開する事業への参加見学をふまえ、カンファレンスやディスカッションを実施する。 ・到達目標に向け、学習が効果的に積み重ねられるよう、学習内容を確認しながら進めていく。 ・出席管理は C-learning 上、登録キーの管理で行う。登録キーについては講義時間内に提示する									
②講義の実施方法										
到達目標	①公衆衛生看護活動および公衆衛生看護活動における支援の展開方法を理解する。 ②健康増進等に向けた行政の取組みや住民に対する支援方法を理解する。 ③公衆衛生看護における看護職の役割を理解する。									
使用教材	公衆衛生看護学.jp 荒賀直子・後閑容子・鳩野洋子・神庭純子、インターメディカル(4,840 円) 国民衛生の動向、厚生労働統計協会編、厚生労働統計協会(2,500 円税込) 毎回の授業時に、必要な資料を配布する。									
参考文献	授業で紹介する。									
評価方法	学習中の参加・活動状況 50%、最終レポート 50%とし、総合的に評価する。									
課題に対するフィードバック	個人あるいはグループで作成した記録や資料に対して、コメントを付して返却する。 カンファレンスでは、学習内容や課題を確認し、コメントする。 事例検討や演習は、感染予防に配慮した上で 対面形式で実施し、質疑応答はその場で行う。									
オフィスアワー(研究室)	赤堀:金曜日13:00~16:15				メールアドレス (#→@)		赤堀:akabori#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	公衆衛生看護活動の実際■								
	該当到達目標	予習	公衆衛生、公衆衛生看護について教科書等を読み確認しておく。							1.5 時間
	1	復習	講義で学んだことを基に、公衆衛生看護活動における看護職の役割について理解を深める。							1.5 時間
2	講義内容	健康増進等に向けた行政の取組みおよび支援方法■								
	該当到達目標	予習	地元の市町村における健康増進等に向けた事業について確認しておく。							1.5 時間
	1, 2	復習	健康増進等に向けた事業の必要性、行政(自治体)の役割について理解を深める。							1.5 時間
3	講義内容	演習・グループワーク(地域診断、事業計画立案)■								
	該当到達目標	予習	大学所在地である高崎市のホームページ、健康増進計画等を確認しておく。							1.5 時間
	1, 2	復習	演習・グループワークの内容について振り返りを行う。							1.5 時間
4	講義内容	演習・グループワーク(地域診断、事業計画立案)■								

	該当到達目標 1, 2, 3	予習	大学所在地である高崎市のホームページ、健康増進計画等を確認しておく。	1.5 時間
		復習	演習・グループワークの内容について振り返りを行う。	1.5 時間
5	講義内容	演習・グループワーク(事業計画立案または事業への参加見学) ■		
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	大学所在地である高崎市のホームページ、健康増進計画等を確認しておく。	1.5 時間
		復習	演習・グループワークの内容について振り返りを行う。	1.5 時間
6	講義内容	演習・グループワーク(事業計画立案または事業への参加見学) ■		
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	大学所在地である高崎市のホームページ、健康増進計画等を確認しておく。	1.5 時間
		復習	演習・グループワークの内容について振り返りを行う。	1.5 時間
7	講義内容	演習・グループワーク(事業計画立案または事業への参加見学) ■		
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	大学所在地である高崎市のホームページ、健康増進計画等を確認しておく。	1.5 時間
		復習	演習・グループワークの内容について振り返りを行う。	1.5 時間
8	講義内容	まとめ		
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	第1回～7回までの学習内容を振り返っておく	1.5 時間
		復習	意見交換での学びをまとめる	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	※事業への参加・見学については(3～4コマ)、市町村の事業に参加するため、土曜日(11月第3土曜日の可能性が高い)に実施する予定である。 ●単位修得に必要な時間を満たしていない場合 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 ●履修条件 この科目は科目名「公衆衛生看護学概論Ⅰ」「公衆衛生看護学方法論」を履修していることが望ましい(※公衆衛生看護学方法論については履修中)。 ●オンラインの場合 1)評価方法:オンライン授業参加度 50%、演習態度・レポート(課題)50% 2)課題に対するフィードバック:レポートにはコメントをつけて返却する。 3)出席登録:①C-learning への出席登録 ②アンケート ①②で出席の確認を行う。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	看護学特論(老年看護学)(看護専門科目群・統合分野)							科目ナンバリング	NRS233・B	
英文名	Professional Nursing Development							講義形態	講義	
担当教員	梅原里実									
科目に関連した実務経験	急性期病院の看護師、管理者として実務経験 認知症看護認定看護師として実務経験 認知症看護認定看護師教育課程の教育経験									
学年・開講期	2 年 後期		選必・単位数		選択 1 単位					
履修が必須となる資格										
学位授与方針との対応	3	人間理解と倫理観				1	国際理解			
	4	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	316									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○			○				○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	随時ゼミ形式にて意見交換を行いながら進める									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①高齢者及び認知症高齢者を取り巻くタイムリーな課題より,対象の理解を深めると共に実践的な看護について主体的に取り組む ②ゼミナール形式で学習する									
到達目標	1.高齢者を理解することの意義と課題について説明できる 2.認知症高齢者のもてる力に着目した実践的な支援について説明できる 3.高齢者や認知症高齢者との関係づくりについて考察できる									
使用教材	講義用資料を配布する * 1 年次購入済の系統看護学講座専門老年看護学(医学書院)									
参考文献	①鈴木みずえ(監):認知症の看護・介護に役立つよくわかるパーソン・センタード・ケア.2017.池田書店. ②本田美和子他:ニューマニチュード入門.2014,医学書院.									
評価方法	課題レポート評価 20% 学習態度・出席率 80%									
課題に対するフィードバック	提出された記録物はコメントして返却する									
オフィスアワー (研究室)	金曜日午後 4 号館 5 階 506 研究室				メールアドレス (#→@)		umehara@takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	シラバスの説明 高齢者を理解することの意義と課題								
	該当到達目標	予習	シラバスを読む 高齢者を取り巻く社会の現状を調べる							1 時間
	1	復習	配布資料の復習							2 時間
2	講義内容	高齢者が生きてきた時代背景 ■								
	該当到達目標	予習	昭和の時代の歴史から特徴的な生活スタイルについて調べる							1 時間
	1	復習	授業の内容を振り返りながら高齢者が生きてきた時代について理解する							2 時間
3	講義内容	介護予防への取り組み:脳活性化リハビリテーション■								
	該当到達目標	予習	配布資料を読む							1 時間
	1, 2	復習	配布資料を 2 回目と関連付けて整理する							2 時間
4	講義内容	認知症予防への挑戦 ■								
	該当到達目標	予習	配布資料を読む							1 時間
	2	復習	授業の内容を振り返り予防的ケアについて整理する							2 時間
5	講義内容	コミュニケーション法:ユマニチュード ■								
	該当到達目標	予習	配布資料を読む							1 時間
	2, 3	復習	認知症者とのコミュニケーション法について整理する							2 時間
6	講義内容	非薬物療法①(回想法)の実際 ■								
	該当到達目標	予習	配布資料を読む							1 時間
	1, 2	復習	高齢者への回想法について整理する							2 時間

7	講義内容	非薬物療法②（認知症看護認定看護師による講義） ■		
	該当到達目標	予習	配布資料を読む	1 時間
	2, 3	復習	認知症高齢者との関係づくりについてレポートにまとめる準備をする	2 時間
8	講義内容	認知症高齢者との関係づくり まとめ ■		
	該当到達目標	予習	配布資料を読む	1 時間
	1, 2, 3	復習	認知症高齢者との関係づくりについてレポートにまとめる	2 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	1.履修条件 この科目は「老年看護学概論」「老年看護学方法論」を履修していることが望ましい。 2.ルール 課題としてのレポートの提出を求める。(文字制限の指示あり) 3.授業の進め方: 1)教材として教員の作成する授業資料や DVD(著作権遵守)などの視聴覚教材を使用する。 * オンラインの場合 C-learning を用いるが配布資料は対面時に印刷物として事前に配布する。 2)授業方法は、講義内容の要点について講義し、質問などに対しても具体的な説明をする。 (1) 個別の質問は直接講義中、あるいは C-learning の「連絡・相談」で受ける。 (2) オンライン時は全体で共有する質問内容と判断した場合はコメントは C-learning の「協働板」に記載する。 3)到達目標に向け学習が効果的に積み重ねられるよう、学習内容を体系的に提示し進めていく。 4.授業での出席の登録は、C-learning「出席管理」にて行う。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	健康教育論(看護専門科目群・統合分野)							科目ナンバリング	NRS234・B	
英文名	Health Education							講義形態	講義	
担当教員	北原 恵美・尾内 雅子									
科目に関連した実務経験	養護教諭として小学校・中学校・特別支援学校に勤務(経験)									
学年・開講期	2 年 後期		選必・単位数		選択 1 単位					
履修が必須となる資格	養護教諭一種免許 選択必修科目									
学位授与方針との対応	3	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	5	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	3416									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○				○	○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①あらゆるライフステージの人々の健康の保持増進と疾病からの回復や QOL の向上を目指した健康教育の意義を理解し、個別的・集団的健康教育の方法と實際を学ぶ ②授業は教員の作成するプリントを使って、要点をまとめていく。パワーポイントによる図の提示や DVD による実践の様子提示をしていく。グループワークを取り入れる。									
到達目標	1.健康教育の目指すものと目的を理解する 2.健康教育の対象と方法を理解する ■									
使用教材	配布資料を使用する									
参考文献	新しい健康教育～理論と事例から学ぶ健康増進への道～ 保健同人社									
評価方法	1. 対面授業:試験 50%、提出物と授業への参加内容 50% 2. オンライン授業:試験 80%、提出物と授業への参加内容 20%									
課題に対するフィードバック	定期試験の後に、出題の意図を掲示によって示す(対面講義でもオンライン講義でも同様)									
オフィスアワー (研究室)	月曜日の 3.4 限				メールアドレス (#→@)		m-onai@takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	健康教育と健康教育								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する							1.5 時間
	1	復習	健康教育の歴史、目的、健康行動の分類、健康行動の変容に影響を与える要因について理解する							1.5 時間
2	講義内容	地域における健康教育の実際(1)■(赤堀)								
	該当到達目標	予習	配布された資料に目を通しておく							1.5 時間
	1, 2	復習	地域における健康教育の特徴やその實際を理解する							1.5 時間
3	講義内容	仲間教育の意義と実際■(池田)								
	該当到達目標	予習	配布された資料に目を通しておく							1.5 時間
	1, 2	復習	仲間における健康教育の特徴やその實際を理解する							1.5 時間
4	講義内容	地域における健康教育の実際(2)■(正木)								
	該当到達目標	予習	配布された資料に目を通しておく							1.5 時間
	1, 2	復習	地域における健康教育の特徴やその實際を理解する							1.5 時間
5	講義内容	学校における健康教育の実際■								
	該当到達目標	予習	配布された資料に目を通しておく							1.5 時間
	1, 2	復習	学校における健康教育の特徴やその實際を理解する							1.5 時間

6	講義内容	健康教育(1)企画の立案			
	該当到達目標 1, 2	予習	配布された資料に目を通しておく	1.5	時間
		復習	グループで健康教育を企画し、指導案や教材の準備をすすめる	1.5	時間
7	講義内容	健康教育(2)実施への準備 ■			
	該当到達目標 1, 2	予習	グループで健康教育を企画し、指導案や教材の準備をすすめる	1.5	時間
		復習	発表ができるように準備する	1.5	時間
8	講義内容	健康教育(3)発表			
	該当到達目標 1, 2	予習	企画した健康教育を発表できるように準備する	1.5	時間
		復習	発表後の協議を受け、計画案の改善点を明確にする	1.5	時間
合計時間(予習・復習)					24 時間
備考	1. オンライン授業での出席の登録・確認 出席の登録方法については、C-learning の「協働版」で確認すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す				

科目名	災害看護学(看護専門科目群・統合分野)							科目ナンバリング	NRS321・A	
英文名	Disaster Nursing							講義形態	講義	
担当教員	李孟蓉、齋藤正子									
科目に関連した実務経験	看護職として被災地域での支援活動(経験)									
学年・開講期	3 年 前期		選必・単位数		必修 1 単位					
履修が必須となる資格	アイテムを選択してください。									
学位授与方針との対応	2	人間理解と倫理観				1	国際理解			
	5	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	3 16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○					○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①世界各地で自然災害が増加しており、災害の定義や看護活動の基盤となる法的制度等から多角的に学び、被災者の特性や生活上の困難さ、健康への影響を理解できる。そのうえで災害時の看護師の役割を理解し、災害サイクル各期において、チーム医療の中で他職種と協働しながら、被災者特性を考慮した適切な看護を展開するために必要な知識と技術、態度を習得できる。また、看護職として公助・共助・自助の意味を理解し、自らの防災力を高められる。 ②授業方法は講義内容の要点について説明し、質問などに対して具体的に説明する。到達目標に向け学習が効果的に積み重ねられるよう、小テストを実施し習得状況を確認しながら進めていく。									
到達目標	1. 災害の定義と分類を理解し、災害が健康に及ぼす影響について説明できる。 2. 災害発生時に社会的の対応や看護活動の基盤となる法的制度について説明できる。 3. 災害各期や場所に応じた看護の特徴について説明できる。 ■ 4. 災害時の被災者の特性やサイクルに応じた看護について説明できる。■ 5. 災害時に傷病者に優先順位をつける意味を理解し、手順や留意点を踏まえて実施する。 6. 災害時の精神的ケアの方法について学習する。 7. 災害時の公助を理解するとともに自助能力を高められる。									
使用教材	「災害看護」酒井明子編(南江堂)改定第3版 ISBN978-4-524-25569-6									
参考文献	「災害看護」改定3版 南山堂、「災害看護学・国際看護学」医学書院									
評価方法	●対面授業:授業参加度・小テスト 20%、筆記試験 80%の割合とし、総合評価 60 点以上を合格とする。 ○オンライン授業:対面授業と同様									
課題に対するフィードバック	授業後にアンケートを行い、次回の授業初めに振り返りを行う。C-learningにて行った小テストについては、正解を提示し、解説を行う。(対面授業・オンライン授業とも共通)									
オフィスアワー (研究室)	火曜日・木曜日の2限、 研究室:3号館2階208 研究室不在時はメールにて対応する。				メールアドレス (#→@)		ri#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	災害および災害看護に関する基礎的知識 (一部 AL 実施)								
	該当到達目標	予習	教科書の第Ⅰ章1～4を読んでおく。							1.5 時間
	1	復習	教科書の第Ⅰ章1～4を読み、講義内容 災害・災害看護の歴史と災害看護の定義し、災害の種類別の疾病構造、近年発生する災害の特徴、課題、災害関連死、要配慮者及び避難行動要支援者の定義をまとめる。							1.5 時間
2	講義内容	災害をめぐる社会の対応やしきみ (一部 AL 実施)								
	該当到達目標	予習	教科書の第Ⅱ章1～3を読んでおく。							1.5 時間

	1,2	復習	災害をめぐる関係法規の特徴、災害情報伝達のしくみや海外における災害関係各機関の支援体制の要点をまとめる。	1.5 時間
3	講義内容	災害サイクルに応じた看護:超急性期～静穏期 ■ (一部 AL 実施)		
	該当到達目標	予習	教科書の第Ⅳ章1A、第Ⅵ章1を読んでおく。	1.5 時間
	1,3,4	復習	災害サイクル各期に応じて、病院や避難所・応急仮設住宅等における看護の役割についてまとめる	1.5 時間
4	講義内容	災害時に必要な技術 (一部 AL 実施) 小テスト1回目(第1回～第3回講義内容)		
	該当到達目標	予習	教科書の第Ⅴ章に目を通す。	1.5 時間
	1,5	復習	トリアージの概念、災害時におけるトリアージの目的やトリアージカテゴリー、方法、タッグの使用方法、治療と搬送のポイントについてまとめる。	1.5 時間
5	講義内容	災害看護各論(1)在宅・高齢者看護と災害 ■ (一部 AL 実施) 災害発生時に高齢者や在宅避難者について、事例をもとに解説を加えて講義する		
	該当到達目標	予習	教科書の第Ⅷ章 4A～B までに目を通す。	1.5 時間
	3,4	復習	災害時において高齢者や在宅避難者が受ける影響やケアニーズ、災害時における高齢者看護支援のポイントについてまとめる。	1.5 時間
6	講義内容	災害看護各論(2)慢性期看護と災害、外国人と災害 (一部 AL 実施)		
	該当到達目標	予習	教科書の第Ⅷ章 6A～G まで目を通す。	1.5 時間
	1,4	復習	災害時に慢性疾患を持ち、治療・生活している患者や外国人への看護のポイントを考察する。	1.5 時間
7	講義内容	災害看護各論(3)精神看護と災害、こころのケア、(一部 AL 実施) 小テスト2回目(第4回～第6回講義内容)		
	該当到達目標	予習	教科書の第Ⅲ章、第Ⅷ章5に目を通す。	1.5 時間
	1,3,6	復習	災害後の被災者のストレスと看護援助のポイントについて要点をまとめておく。	1.5 時間
8	講義内容	災害支援者への看護支援、まとめ		
	該当到達目標	予習	第7回目の講義内容を振り返り、授業に臨む。	1.5 時間
	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7	復習	被災者が抱えるこころの問題を理解し、災害支援者(二次被災者)への看護支援を考察する。教科書やこれまでの講義で配布した資料を読み、学んだ内容を振り返り、災害看護学に必要な知識や技術の理解を深め、看護職として災害時に自助能力を高めることにつなげる。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	AL(アクティブラーニング)は、ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、クローズドクエスチョン、オープンクエスチョンなど。 1. 単位修得に必要な時間を満たしていない場合 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 2. ルール 1)能動的に、積極的に学ぶ姿勢で授業に臨むこと。 2)他学生の学習の妨げとなるような行為を慎むこと。 3. 出席登録の方法 出席の登録は、C-learning の下記1)～2)のいずれかの方法で行う。方法は授業、「ニュース」で確認すること。 1)「小テスト」を受ける。 2)「アンケート」を提出する。 ■:実務経験に基づく内容を示す			

科目名		国際看護学(看護専門科目群・統合分野)						科目ナンバリング	NRS124・B		
英文名		International Nursing						講義形態	講義		
担当教員		李孟蓉									
科目に関連した実務経験		看護職として大学病院に勤務、在日外国人への健康支援(経験) 大泉町多文化共生協働課職員をゲストスピーカーとして招く(第6回)									
学年・開講期		1 年 後期	選必・単位数		必修 1 単位						
履修が必須となる資格											
学位授与方針との対応		1	人間理解と倫理観			5	国際理解				
		2	論理的思考力・問題解決力			1	生涯学習力				
		1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連		③16									
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
					○					○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		①グローバル化が急速に進んでいる日本において、国際看護の概念と対象、そして、自分とは異なる文化背景を持つ対象者に関心を持ち、国際看護学を学ぶ意義と必要性について理解する。また、多文化化する日本社会において、自分なりの見方を涵養し、看護におけるグローバル化の対応として、多様な文化・言語的背景をもつ対象者を理解するための知識や技術、態度を学修する。 ②授業方法は講義内容の要点について説明し、質問などに対して具体的に説明する。到達目標に向け学習が効果的に積み重ねられるよう、小テストを実施し習得状況を確認しながら進めていく。									
到達目標		1. 国際看護の概念と対象、国際看護の実践の場について説明できる。 2. 世界の健康問題とそれに関連する国際機関、NGO の取り組みについて説明できる。 3. 世界における看護支援の実際を理解できる。■ 4. 異文化理解と異文化適応について理解できる。■ 5. 日本国内における国際看護について理解できる。■									
使用教材		看護学テキスト NiCE 国際看護 国際社会の中で看護の力を発揮するために(南江堂)ISBN 978-4-524-25264-0、配布資料									
参考文献		看護の統合と実践「国際看護学」田村やよひ編(メジカルフレンド社) 序説 国際看護学 久間圭子(日本看護協会出版会)									
評価方法		●対面授業:授業参加度 20%、筆記試験 80%の割合とし、総合評価 60 点以上を合格とする。 ○オンライン授業:対面授業と同様									
課題に対するフィードバック		授業後にアンケートを行い、次回の授業初めに振り返りを行う。C-learning にて行った小テストについては、正解を提示し、解説を行う。(対面授業・オンライン授業とも共通)									
オフィスアワー (研究室)		木曜日・金曜日の3限、昼休み時間、 研究室:3号館2階208 質問はメールでも対応する。				メールアドレス (#→@)		ri#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	国際看護の概念と対象、看護と国際協力(一部 AL 実施)									
	該当到達目標 1	予習	シラバスの内容を読み、実施概要と到達目標を理解する。 教科書第1章1~2、5. A~B に目を通す。						1.5 時間		
		復習	講義内容を振り返り、国際看護の概念と対象、歴史的変遷についてまとめ、理解を深める。						1.5 時間		
2	講義内容	グローバルヘルスと開発理念の変遷、SDGs									
	該当到達目標 2, 3	予習	教科書の第Ⅲ章1D. 4、4. A~B に目を通す。						1.5 時間		
		復習	教科書、配布資料を読み、グローバルヘルスの開発理念について理解を深める。						1.5 時間		

3	講義内容	国際看護活動を推進する人と機関（一部 AL 実施）		
	該当到達目標	予習	教科書の第Ⅴ章1に目を通す。	1.5 時間
	2, 3	復習	世界の健康問題に関連する国際機関の種類や活動概要、日本の ODA、NGO 団体の活動状況や国際看護協力を展開する実践の場について理解を深める。	1.5 時間
4	講義内容	世界の健康課題：感染症と非感染性疾患（一部 AL 実施）		
	該当到達目標	予習	教科書の第Ⅲ章2、第Ⅶ3、9に目を通す	1.5 時間
	2	復習	教科書、配布資料を読み、世界の非感染性疾患の現状、グローバル化に伴い感染症の脅威とその対策について理解を深める	1.5 時間
5	講義内容	世界の健康課題：健康の格差、SDG と母子保健（一部 AL 実施）、小テスト		
	該当到達目標	予習	教科書の第Ⅲ章1、第Ⅶ章4に目を通す	1.5 時間
	4	復習	教科書、配布資料を読み、世界で起きている健康課題と健康課題を改善するための取り組み、母子保健について理解を深める。	1.5 時間
6	講義内容	訪日外国人・在日外国人の背景、医療における課題、看護と健康支援（一部 AL 実施）、まとめ ■		
	該当到達目標	予習	教科書の第Ⅰ章3・5C、第Ⅴ章2A～D、第Ⅷ章1に目を通す。日本、群馬県内の在日外国人（人口、国籍、在留資格、居住地域、生活など）について調べ、体験、新聞等の媒体から実情に関心を持ち把握しておくこと。	1.5 時間
	4	復習	教科書の該当箇所を振り返り、在日外国人が抱えている健康問題と看護支援について理解を深める。	1.5 時間
7	講義内容	異文化理解と異文化適応 多文化共生 大泉町（一部 AL 実施）		
	該当到達目標	予習	第Ⅱ章4に目を通す	1.5 時間
	4, 5	復習	大泉町に住んでいるブラジル人の背景を知り、多文化共生という考え方、多文化社会する日本において、自分なりの見方、考えをまとめておく。	1.5 時間
8	講義内容	異文化理解と看護（一部 AL 実施）		
	該当到達目標	予習	教科書の第Ⅱ章に目を通す第Ⅱ章4に目を通す。身近にある異文化体験をまとめておくこと。	1.5 時間
	4, 5	復習	第1回～第8回講義資料、教科書の該当箇所を振り返り、在日外国人が抱えている健康問題と看護支援について理解を深める。また、異文化に遭遇した際に求められる必要な対処について考えをまとめておく。	1.5 時間
合計時間（予習・復習）				24 時間
備考	AL（アクティブラーニング）は、ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、クローズドクエスチョン、オープンクエスチョンなど。 1. 単位修得に必要な時間を満たしていない場合 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 2. ルール 1) 能動的に、積極的に学ぶ姿勢で授業に臨むこと。 2) 他学生の学習の妨げとなるような行為を慎むこと。 3. 出席登録の方法 出席の登録は、C-learning の下記1)～2)のいずれかの方法で行う。方法は授業、「ニュース」で確認すること。 1) 「小テスト」を受ける。 2) 「アンケート」を提出する。 ■：実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	看護研究概論(看護専門科目群・統合分野)						科目ナンバリング	NRS322・B		
英文名	Introduction to Nursing Research						講義形態	講義		
担当教員	吉田久美子・倉林しのぶ・石田順子・砂賀道子・堀越摂子									
科目に関連した実務経験	担当教員は、大学病院、専門病院、総合病院において看護師としての経験を有し(吉田・石田・砂賀・堀越)、また病院と事業所において保健師としての経験を有する(倉林)。									
学年・開講期	3 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修が必須となる資格										
学位授与方針との対応	1	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	5	論理的思考力・問題解決力				3	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	③ ⑪									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○	○				○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要	①看護学における研究の必要性和看護実践における研究の重要性を理解し、看護研究の基礎的能力を習得する。									
①講義の目標	②オムニバス形式での講義と、一部演習を実施する。									
②講義の実施方法										
到達目標	1. 看護における研究の必要性和意義および基本的なプロセスについて説明できる。■ 2. 看護研究における質的研究の要点と基本的な研究手法について説明できる。■ 3. 看護研究における量的研究の要点と、基本的な統計的分析について説明できる。■ 4. 研究倫理の必要性和重要性、基本的な内容について説明できる。■ 5. 効率的な文献検索と文献レビューの理解のもとに、研究計画書の要点について説明できる。■ 6. 文献クリティークの要点と、研究論文の基本について説明できる。■									
使用教材	各授業で主な学習内容を含めた資料を配付する。									
参考文献	参考教材: 坂下玲子, 宮芝智子, 小野博史, 系統看護学講座 看護研究, 医学書院, 2016 ISBN978-4-260-02182-1, 他、授業で紹介する。									
評価方法	定期試験を受験するために必要な出席回数を満たしたことを条件に、レポート 20 点(20%)、筆記試験 80 点(80%)の配分で、合計 60 点(60%)以上を合格とする。									
課題に対するフィードバック	課題に対し資料などを配布しフィードバックを行う。									
オフィスアワー (研究室)	月・金曜日 (5 号館 410 研究室)				メールアドレス (#→@)		yoshikumi#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	第 1 章 看護研究の基本■							<担当: 吉田>	
	該当到達目標	予習	看護研究の目的や意義について参考文献などを活用し読んでくること。							
	1	復習	看護研究の目的、意義、プロセスの概要について授業資料を読んでくること。 質的研究・量的研究のプロセスと特徴を理解する基盤として確認してくるこ						0.5 時間	
2	講義内容	第 2 章 質的研究-1- 質的研究の概要■							<担当: 堀越>	
	該当到達目標	予習	質的研究とはどのような研究なのか参考文献や研究論文等で調べてくること。また、第 1 回目学習した看護研究の目的、意義について授業資料を読んでくること。						0.2 時間	
	1,2,3,4	復習	配布資料に目を通し、質的研究の特徴、意義についてまとめ、理解を深めること。						0.5 時間	
3	講義内容	第 2 章 質的研究-2- 質的研究の手法—質的研究におけるデータ収集と分析							<担当: 堀越>	
	該当到達目標	予習	質的研究のデータ収集方法および分析の方法について参考文献や研究論文等で調べてくること。						0.2 時間	
	1,2,3,4	復習	配布資料に目を通し、質的研究のデータ収集および分析の具体的な方法とその留意点についてまとめ、理解を深めること。						0.5 時間	

4	講義内容	第3章 量的研究-1- 量的研究の概要 ■			＜担当：石田＞
	該当到達目標	予習	量的研究とはどのような研究なのか文献を参考にして調べてくること。	0.2 5	時間
	1,2,3	復習	量的研究の特徴(質的研究との違い)と概要について、授業資料を活用しまとめる	0.5	時間
5	講義内容	看護研究発表会から学ぶ：卒研発表会への参加			＜担当：吉田＞
	該当到達目標	予習	研究テーマの発見の仕方について授業資料や参考文献を活用し確認すること。	0.2 5	時間
	1,2,3,4,5	復習	研究発表会に参加し得た気づき、興味関心、疑問をまとめること	0.5	時間
6	講義内容	看護研究発表会から学ぶ：卒研発表会への参加			＜担当：吉田＞
	該当到達目標	予習	研究テーマの発見の仕方について授業資料や参考文献を活用し確認すること。	0.2 5	時間
	1,2,3,4,5	復習	研究発表会に参加し得た気づき、興味関心、疑問をまとめること。	0.5	時間
7	講義内容	第3章 量的研究-2- 調査研究 ■			＜担当：石田＞
	該当到達目標	予習	どんな研究が調査研究なのか文献(本)を参考にして調べること。	0.2 5	時間
	1,2,3	復習	調査研究の特徴と概要について、授業資料を活用しまとめること。	0.5	時間
8	講義内容	第3章 量的研究-3- 統計処理-1- 量的データ分析の基本 ① ■			＜担当：砂賀＞
	該当到達目標	予習	調査研究と統計的手法についての基礎的知識を図書館等の資料を通じて得てくること。	0.2 5	時間
	3	復習	授業内容を振り返り、調査研究および統計学の基礎的内容を理解すること。	0.5	時間
9	講義内容	第3章 量的研究-4- 統計処理-2- 量的データ分析の基本 ② ■			＜担当：砂賀＞
	該当到達目標	予習	調査研究と統計的手法についての基礎的知識を図書館等の資料を通じて得てくること。	0.2 5	時間
	3	復習	配布された資料に目を通し、しっかりと復習すること。	0.5	時間
10	講義内容	第4章 研究倫理 ■			＜担当：倉林＞
	該当到達目標	予習	研究に関する「倫理」とは何かについて各々が考えてくること	0.2 5	時間
	5	復習	配布資料を再確認しておくこと	0.5	時間
11	講義内容	第5章 文献検索 ■			＜担当：司書・吉田＞
	該当到達目標	予習	文献検索の必要性について第1回の授業資料を活用し確認してくること。	0.2 5	時間
	2	復習	文献検索の目的、方法について授業資料をもとに復習すること。	0.5	時間
12	講義内容	第5章 研究計画書の要点 ■			＜担当：吉田＞
	該当到達目標	予習	第1回の授業資料を読んでくること。	0.2 5	時間
	1,2,3,4,5	復習	研究計画書の作成の要点をまとめておくこと。	0.5	時間
13	講義内容	第5章 研究計画書の要点 ■			＜担当：吉田＞
	該当到達目標	予習	第1回の授業資料を読んでくること。	0.2 5	時間
	1,2,3,4,5	復習	研究計画書の作成の要点をまとめておくこと。	0.5	時間
14	講義内容	第6章 文献クリティークの要点・論文作成の基本 ■			＜担当：吉田＞
	該当到達目標	予習	第1回の授業資料を読んでくること。	0.2 5	時間
	1,2,3,4,5,6	復習	文献クリティークの要点について授業資料や記録した内容を読み直すこと。	0.5	時間
15	講義内容	【まとめ】			＜担当：吉田＞
	該当到達目標	予習	第1回～第14回の授業資料の要点を読んでくること。	0.2 5	時間
	1,2,3,4,5,6	復習	第1回～第15回の授業資料を読んでおくこと。	0.5	時間
合計時間(予習・復習)					11. 25 時間
備考	* 第1～4回 金曜に開講 * 第7～15回 集中講義期間内に開講				

- 1.履修条件:この科目は「看護基盤科目群」と「看護専門科目群」の必修科目の全てを履修していることが望ましい。
- 2.ルール:課題としてレポートの提出を求めることがあるが、手書きのみとする。
- 3.授業の進め方:1) 授業方法は、講義内容の要点について説明し、質問などに対しても具体的な説明する。
2) 到達目標に向け学習が効果的に積み重ねられるよう、学習内容を体系的に提示し進めていく。

■:実務経験を示す

科目名	看護倫理学Ⅰ（看護専門科目群・統合分野）							科目ナンバリング	NRS324・B	
英文名	Nursing EthicsⅠ							講義形態	講義	
担当教員	倉林 しのぶ									
科目に関連した実務経験	保健師としての勤務経験： 県教育委員会、病院、事業所									
学年・開講期	3 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修が必須となる資格										
学位授与方針との対応	5	人間理解と倫理観					0	国際理解		
	3	論理的思考力・問題解決力					1	生涯学習力		
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGsとの関連	3 16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○		○	○					○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①西洋と日本における倫理観の違いおよび、看護倫理の歴史的発展についての理解を深めながら看護倫理学及び臨床倫理学の基本的知識を学ぶ。また、倫理原則や倫理綱領を基盤にしつつ、それだけに頼ることのない倫理的アプローチ方法を探求し、学生としての倫理観、医療現場における看護職者としての倫理的責任と、チームケアにおける看護職者の役割について学習する。 ②授業の進め方： 講義形式だけでなく、臨床で生じる倫理的問題についてケースをもとにディスカッションするという形です。後半には事例をとりあげ個人またはグループワークをしたうえで解説する。									
到達目標	1.看護倫理学における基本的知識を習得できる。■ 2.学生としての倫理的態度が理解できる。■ 3.医療現場における看護職者としての倫理的責任を理解できる。									
使用教材	使用しない									
参考文献	・赤林朗：入門・医療倫理Ⅰ 勁草書房 2009 ・浅井篤ほか：医療倫理 勁草書房 ・服部健二ほか：医療倫理学ABC（メヂカルフレンド社） ・小西恵美子編：看護倫理 南江堂・系統看護学講座看護倫理：医学書院 ・箕岡真子：蘇生不要指示のゆくえ 医療者のための DNAR の倫理 ワールドプランニング ・箕岡真子：認知症ケアの倫理 ワールドプランニング 2014									
評価方法	毎回の参加態度 20%、筆記試験 80%（8回目終了後の日程で実施）により総合的に評価します。 オンラインの場合、C-learning 上での小テスト、レポート 50%、試験 50%により総合的に評価します。									
課題に対するフィードバック	毎回の質問やレポートについては、次の回の講義開始前にコメントする。 オンラインの場合も同様に、C-learning 等を活用してコメントをフィードバックする。									
オフィスアワー（研究室）	月曜日・火曜日の11:00～13:00					メールアドレス（#→@）	kura#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	看護倫理の基礎的知識(倫理とは・看護倫理とは)								
	該当到達目標	予習	医療倫理・看護倫理のイメージを考える							1.5 時間
	1, 2	復習	自分と他者との価値観の違いについて理解する							1.5 時間
2	講義内容	価値について(医療における価値とは)■								
	該当到達目標	予習	価値とは何かについて考える							1.5 時間
	1, 2	復習	自分と他者との価値観の違いについて理解する							1.5 時間
3	講義内容	歴史的変遷/徳の倫理・原則の倫理								
	該当到達目標	予習	よい医療者とは何かについてイメージ化する							1.5 時間
	1, 2	復習	被験者保護の歴史について理解する。また、医療職の「徳」について振り返る。							1.5 時間

	講義内容	原則の倫理(倫理的判断基準としての原則とその限界)		
4	該当到達目標	予習	倫理的問題の判断について自分なりの意見をもつ	1.5 時間
	1, 2	復習	医療に関する4つの倫理原則について振り返りを行う。	1.5 時間
	講義内容	インフォームド・コンセントと自律 ■		
5	該当到達目標	予習	インフォームド・コンセントとは何かについて考える	1.5 時間
	1, 2	復習	インフォーム(説明)からコンセント(同意)までのプロセスについて理解する	1.5 時間
	講義内容	終末期医療とアドヴァンス・ケア・プランニング ■		
6	該当到達目標	予習	終末期の医療・ケアについて考える	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	終末期医療の倫理的課題と医療者の姿勢について理解する	1.5 時間
	講義内容	倫理的課題と看護実践1(ケース検討)		
7	該当到達目標	予習	第1回～第6回の内容を見直す	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	今回のケースについての倫理的判断の根拠とそのプロセスを理解する	1.5 時間
	講義内容	倫理的課題と看護実践2(ケース検討)・まとめ		
8	該当到達目標	予習	第1回～第6回の内容を見直す	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	今回のケースについての倫理的判断の根拠とそのプロセスを理解する	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	1. オンラインの場合、C-learning また動画配信による講義を行う。また、出席管理は C-learning 上、登録キーの管理で行う。登録キーについては講義時間内に提示する。 2. 履修条件: ディスカッションが授業の中心となります。積極的な発言を期待します。また、質問は講義内でも受け付けますが、リアクションペーパーに感想と合わせ記載した場合は、次回の講義時に回答解説をします。 ■: 実務経験に基づく内容を示す			

科目名	看護倫理学Ⅱ（看護専門科目群・統合分野）						科目 ナンバリング	NRS412・A			
英文名	Nursing Ethics Ⅱ						講義形態	講義			
担当教員	倉林 しのぶ、小池洋子、高田絵理子、茂木佐智子、星野美穂、内田真理子、田村直子										
科目に関連した 実務経験	保健師としての勤務経験： 県教育委員会、病院、事業所（倉林） 看護師としての勤務経験： 病院看護部長（小池）、病院看護師（高田、星野、内田、田村） 助産師としての勤務経験： 病院助産師（茂木）										
学年・開講期	4 年	前期	選必・単位数	必修・1 単位							
履修が必須となる 資格											
学位授与方針 との対応	5	人間理解と倫理観				0	国際理解				
	3	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力				
	1	チームの一員としての協調・協働									
SDGs との関連	3 16										
アクティブラーニング 実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他	
	○		○	○					○		
「その他」のアクティブ ラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①医療をめぐる環境は大きく変化し、医療の高度化や複雑化の中で、新たな倫理的課題が浮かび上が ってきている。ここでは、今まで受けた講義や実習経験の「統合」として、倫理的課題の実践的解決へ向 けた道筋を考える力を養う。 ②授業の進め方：講義はオムニバスで行う。各領域担当教員が作成したパワーポイント及び資料を 使い解説する。また、それぞれが実習等で感じている倫理的課題をもとに個人またはグループワー クを行い解説する。										
到達目標	1. 「臨床で直面する倫理的課題とは何か」について理解する。 2. 臨地実習の中で直面した倫理的ジレンマと課題を明確化できる。 3. 課題に対しどのような態度と行動を取ってゆけばいいか、倫理的判断力と意思決定支援のためのプ ロセスを理解する。■										
使用教材	使用教材については講義前に提示します。テキストは使用しません。										
参考文献	・霜田求：テキストブック生命倫理。法律文化社 2018 ・今井道夫：生命倫理学入門〔第4版〕。産業図書 2017 ・箕岡真子：蘇生不要指示のゆくえ 医療者のための DNAR の倫理。ワールドプランニング 2015 ・箕岡真子：認知症ケアの倫理。ワールドプランニング 2014 ・シリーズ生命倫理学 1～ シリーズ生命倫理学編集委員会編 丸善出版 平成 24 年										
評価方法	毎回の参加態度 20%、各担当教員からの課題（小テストまたはレポート）80%で総合的に評価します。 *各回で課題があります。 オンラインの場合、各回の課題 70% および、最終レポート 30%により総合的に評価します。										
課題に対する フィードバック	各回のレポートについては、コメントをつけて返却する。または、次の回の講義開始前に総評として コメントする。オンラインの場合も同様に、C-learning 等を活用してコメントをフィードバックする。										
オフィスアワー （研究室）	月曜日・火曜日の11:00～13:00				メールアドレス （#→@）		kura#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	看護における倫理／4 分割法									
	該当到達目標	予習	3 年次の看護倫理学Ⅰについて復習しておく							1.5	時間
	1	復習	4 分割法についてまとめておく							1.5	時間
2	講義内容	臨床における倫理的課題①老年看護の現場で■									
	該当到達目標	予習	実習（老年看護）の中で抱えた倫理的ジレンマについて、整理しておく							1.5	時間
	2, 3	復習	倫理的ジレンマの根拠と課題解決のプロセスを理解する							1.5	時間

3	講義内容	臨床における倫理的課題②精神看護の現場で■		
	該当到達目標	予習	実習(精神看護)の中で抱えた倫理的ジレンマについて、整理しておく	1.5 時間
	2, 3	復習	倫理的ジレンマの根拠と課題解決のプロセスを理解する	1.5 時間
4	講義内容	臨床における倫理的課題③小児看護の現場で■		
	該当到達目標	予習	実習(小児看護)の中で抱えた倫理的ジレンマについて、整理しておく	1.5 時間
	2, 3	復習	倫理的ジレンマの根拠と課題解決のプロセスを理解する	1.5 時間
5	講義内容	臨床における倫理的課題④母性看護の現場で■		
	該当到達目標	予習	実習(リプロダクティブヘルス看護)の中で抱えた倫理的ジレンマについて、整理しておく	1.5 時間
	2, 3	復習	倫理的ジレンマの根拠と課題解決のプロセスを理解する	1.5 時間
6	講義内容	臨床における倫理的課題⑤在宅看護の現場で■		
	該当到達目標	予習	実習(在宅看護)の中で抱えた倫理的ジレンマについて、整理しておく	1.5 時間
	2, 3	復習	倫理的ジレンマの根拠と課題解決のプロセスを理解する	1.5 時間
7	講義内容	臨床における倫理的課題⑥看護管理■		
	該当到達目標	予習	組織の一員としての倫理的ジレンマについて考えておく	1.5 時間
	2, 3	復習	倫理的ジレンマの根拠と課題解決のプロセスを理解する	1.5 時間
8	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	臨床における倫理的課題について整理しておく	1.5 時間
	3	復習	倫理的課題の解決に向けた方策についてまとめる	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	1. オンラインの場合、C-learning また動画配信による講義を行う。また、出席管理は C-learning 上、登録キーの管理で行う。登録キーについては講義時間内に提示する。 2. 履修条件:本科目は「看護倫理学Ⅰ」を修得していることが望ましい。 ■: :実務経験に基づく内容を示す			

科目名	エンド・オブ・ライフ・ケア実習(看護専門科目群・統合分野)							科目 ナンバリング	NRS325・C	
英文名	End-of- Life Care Practicum							講義形態	実習	
担当教員	田村直子 吉田久美子 梅原里実 内田真理子 小沼美加 石下綾乃 他 看護学科教員									
科目に関連した 実務経験	看護師として総合病院に勤務(経験): 吉田、梅原、石下 看護師として総合病院・病院・訪問看護ステーションに勤務(経験): 田村、内田、小沼									
学年・開講期	3 年 通年	選必・単位数	必修 1 単位							
履修が必須となる 資格										
学位授与方針 との対応	3	人間理解と倫理観					0	国際理解		
	3	論理的思考力・問題解決力					1	生涯学習力		
	3	チームの一員としての協調・協働								
SDGsとの関連	③ 16									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○	○	○	○		○	○		○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	エンドオブライフケア実習を通して、人生の最終段階にある人と家族を総合的に理解し最善の生を生きるための具体的かつ実際の支援内容、多職種連携・協働についても理解する。人生を支える国家資格である看護職に求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を身につける。 各施設に指導担当教員が割り振られ、実習指導や学内指導を通して学生と実習先と連携し十分な個別指導を行う。									
到達目標	1. エンドオブライフケアが必要な人と家族の多様な価値観を理解し、最善の生を生きるためのニーズおよび必要な支援を理解する。■ 2. エンドオブライスカケアにおける意思決定支援(ACP)の必要性を理解する。■ 3. 最善の生を生きるための支援として、社会資源の活用方法や多職種連携・協働の実際より、エンドオブライフケアを支える地域包括ケアシステムと看護職の役割について考察する。■ 4. 多様な疾患や多様な療養の場におけるエンドオブライフケアの重要性や意義を見出す。■ 5. 看護学の初学者として、エンドオブライフケアにおける看護職としてのコミュニケーション能力および責任感、倫理観、態度を修得する。									
使用教材	エンドオブライフケア その人にとっての最善をめざして 南江堂 ISBN978-4-524-23202-4 学科作成の実習要項、及びエンドオブライフケア実習要項									
参考文献	看護実践にいかす エンド・オブ・ライフケア 日本看護協会出版会 エンドオブライフケア看護学 基礎と実践 ヌ・ヴェルヒロカワ									
評価方法	最終的に評価表で実習目標への達成度(100%)を評価する。総合評価 60 点以上を合格とする。 1)実習への取り組み(カンファレンスへの参加度などを含む)、態度。 2)事前学習、日々の実習記録、最終提出記録。									
課題に対する フィードバック	実習記録等に関して随時指導、コメントを付して返却する。最終的に提出された実習記録に関しては、コメントを付して返却する。									
オフィスアワー (研究室)	質問および学習相談には、実習期間中適宜応じる。担当教員または C-learning 連絡・相談にて対応。				メールアドレス (#→@)		tamura#takasaki-u.ac.jp			
講義内容	・到達目標達成に向けて、1 週間の実習を行う。各施設臨地実習 4 日間(1 日 8 時間)、学内実習 1 日とする。各施設におけるエンドオブライフケアについての具体的支援内容を実践的に理解する。 ・臨地・学内カンファレンスを行う。カンファレンスでは実習目標に沿って学んだことを共有するとともに意見交換を行う。									

	※実習内容の詳細は配属される実習先によって異なる。		
	予習	実習先に関する予習、実習指導で準備した資料の確認	適宜
	復習	・実習先で知り得た知識の再確認、現場で得た学びを振り返り、整理する。 ・臨地・学内カンファレンスを通して、考察したことを実習レポートなどにまとめる。 ・実習を通して学び得たエンドオブライフケアについて考察する。	適宜
合計時間(予習・復習)			適宜
備考	【実習期間全体を通じた実習の進め方】 実習前の全体オリエンテーションには必ず参加し、実習に備えること。 実習内容の詳細は配属される実習先によって異なる。 実習目標に沿った学びの整理は、カンファレンス等のグループワークの形式で進める。 本科目は、1年次からの学習の積み重ねが重要であるため、十分復習しておくこと。		
	【履修条件】 この科目は、臨地実習科目の履修承認基準をすべて満たしていなければ受講できない。 【オンライン実習となった場合】 上記の到達目標達成に向けて、1週間の実習を行う。 出席登録はC-learningによる「出席管理」および実習終了後の「アンケート」への回答により行う。 C-learningによる資料配布・自己学習資料の配布を行う。 エンドオブライフケアの様々な場面における課題、事例を通し、カンファレンスを行う。 実習期間中に課題レポートの提出を課す。 ■：実務経験に基づく内容を示す。		

科目名	家族看護論(看護専門科目群・統合分野)					科目ナンバリング	NRS413・A			
英文名	Family Nursing					講義形態	講義			
担当教員	石田順子・高田絵里子・茂木佐智子・星野美穂・梅原里実・浅井直美									
科目に関連した実務経験	看護師として大学病院に勤務									
学年・開講期	4 年 前期	選必・単位数	選択 1 単位							
履修が必須となる資格										
学位授与方針との対応	2	人間理解と倫理観			0	国際理解				
	5	論理的思考力・問題解決力			1	生涯学習力				
	2	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	316									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 家族をひとつのユニット、家族機能をひとつのシステムとして捉え、家族のライフサイクルの段階に応じた発達課題、直面する危機や健康問題に対する支援のあり方を習得し、家族看護の役割について理解を深めることを目標とする。 ② 6人の教員でオムニバス形式で講義を行う。									
到達目標	1. 現代家族における家族の多様性を述べるができる。■ 2. 現代家族の課題を述べることができる。■ 3. ライフサイクルに応じた家族に対する支援の特徴を記述できる。■ 4. 現代における家族看護の役割について述べるができる。									
使用教材	テキスト…家族看護論のテキストを使用する。									

		各講義ごとに講義資料を配布する。		
参考文献		適宜紹介する		
評価方法		総合評価60点以上で合格とする。		
課題に対するフィードバック		レポートにはコメントを付けて返却する。		
オフィスアワー (研究室)		火曜日 9:00～17:00(405研究室)	メールアドレス (#→@)	jishida#takasaki-u.ac.jp
1	講義内容	家族看護とは、家族看護の対象理解■		
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、講義の目標と内容を確認する。テキストの該当する箇所を読んでおく。	1 時間
	1, 2	復習	家族看護とは何かについてまとめ、家族看護の必要性について説明できる。	2 時間
2	講義内容	子どもの誕生期にある家族への支援		
	該当到達目標	予習	方法論および臨地実習を振り返り、家族に対してどのような支援が必要か考えをまとめる。テキストの該当する箇所を読んでおく。	1 時間
	1, 2, 3	復習	講義の要点をまとめ、子どもの誕生期にある家族の支援について説明できる。	2 時間
3	講義内容	入院治療を受ける病児をもつ家族への支援		
	該当到達目標	予習	方法論および臨地実習を振り返り、家族に対してどのような支援が必要か考えをまとめる。テキストの該当する箇所を読んでおく。	1 時間
	1, 2, 3	復習	講義の要点をまとめ、入院治療を受ける病児をもつ家族の支援について説明できる。	2 時間
4	講義内容	がん患者の家族への支援 ■		
	該当到達目標	予習	方法論および臨地実習を振り返り、家族に対してどのような支援が必要か考えをまとめる。テキストの該当する箇所を読んでおく。	1 時間
	1, 2, 3	復習	講義の要点をまとめ、高齢者を介護する家族の支援について説明できる。	2 時間
5	講義内容	高齢者を介護する家族への支援		
	該当到達目標	予習	方法論および臨地実習を振り返り、家族に対してどのような支援が必要か考えをまとめる。テキストの該当する箇所を読んでおく。	1 時間
	1, 2, 3	復習	講義の要点をまとめ、高齢者を介護する家族の支援について説明できる。	2 時間
6	講義内容	在宅療養者を介護する家族への支援		
	該当到達目標	予習	方法論および臨地実習を振り返り、家族に対してどのような支援が必要か考えをまとめる。テキストの該当する箇所を読んでおく。	1 時間
	1, 2, 3	復習	講義の要点をまとめ、在宅療養者の介護を行っている家族と支援について説明できる。	2 時間
7	講義内容	精神疾患をもつ患者の家族への支援		
	該当到達目標	予習	方法論および臨地実習を振り返り、家族に対してどのような支援が必要か考えをまとめる。テキストの該当する箇所を読んでおく。	1 時間
	1, 2, 3	復習	講義の要点をまとめ、精神疾患をもつ患者の家族の支援について説明できる。	2 時間
8	講義内容	家族看護学の課題 まとめ		
	該当到達目標	予習	第 1～7 回までの講義資料やまとめに目を通し学習内容を確認する。	1 時間
	4	復習	全ての学習内容を統合し、家族看護学の課題と展望について考える。	2 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	・本講義は、6 つの看護学領域の教員によるオムニバス形式で授業を展開する。教材として、テキストと教員の作成する授業資料を使用する。 ・各回の講義内容に関する質問等は、原則として講義時間内に問い合わせる。 ・レポートを記載する際は、教科書や資料の他、図書館等にある参考書、資料も読むことにより理解を深めること。 ・評価:筆記試験かレポートかは講義時に担当教員が説明する。それぞれの配点については最初の講義で説明する。 ・■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	看護マネジメント(看護専門科目群・統合分野)							科目ナンバリング	NRS411・A		
英文名	Nursing Management							講義形態	講義		
担当教員	小池洋子										
科目に関連した実務経験	病院の看護部長										
学年・開講期	4 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位								
履修が必須となる資格											
学位授与方針との対応	2	人間理解と倫理観				0	国際理解				
	3	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力				
	4	チームの一員としての協調・協働									
SDGs との関連	③16										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他	
	○			○					○		
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①一人の対象者にケアが提供されるまでに個人・チーム・組織がどのような機能を果たしていくかについて事例を通して考え、組織の中の看護職の機能・役割を理解する。さらに、看護マネジメントに必要なスキルを身につけ、組織の一員として働く能力を養う。 ②講義は、基礎的な知識を教員が説明し、現場を想定した場面についてのグループワークを行い理解を深める。										
到達目標	1. 看護マネジメントについての概念を理解する■ 2. 看護サービスを提供するためのマネジメントについて理解する■ 3. 看護職を取り巻く法制度を理解する■ 4. サービスの質評価の構造を理解する■ 5. 看護マネジメントに必要なスキルについての基礎を学び実践に活用する■ 6. インシデント分析の必要性を理解し、分析を体験する■										
使用教材	ナースিং・グラフィカ看護の統合と実践①看護管理 2023 年: 吉田千文ら, メディカ出版 (3年の看護職キャリア形成論で使用了テキストを使用) 必要に応じ資料を配布します										
参考文献	授業の中で紹介します										
評価方法	毎回の授業終了後の課題の記述内容、講義・グループワークへの参加態度等 50% 最終講義終了後の課題レポートの内容 50%										
課題に対するフィードバック	毎回の授業の最初に前回授業後課題の内容を踏まえてフィードバックを行う。最終レポートはコメントをつけて返却する。										
オフィスアワー (研究室)	火曜日3・4限 (5 号館 412 研究室)				メールアドレス (#→@)	koike-y#takasaki-u.ac.jp					
1	講義内容	マネジメントとは、看護マネジメント、看護ケアマネジメントとは■									
	該当到達目標 1	予習	一般的に使われている「～マネジメント」について考える							1.5	時間
		復習	看護過程と看護ケアマネジメントの関係を整理する							1.5	時間
2	講義内容	看護サービスを提供するためのマネジメント■									
	該当到達目標 1, 2	予習	対象者に看護サービスを提供するためにスタッフとして知らなければならないことについて調べる							1.5	時間
		復習	スタッフとして看護提供システム、看護業務管理、物的管理、時間管理についての考えをまとめる							1.5	時間
3	講義内容	看護サービスを提供する上で知っておくべき法制度■									
	該当到達目標 2, 3	予習	看護職として働く上で関わる法律にはどのようなものがあるか調べる							1.5	時間
		復習	看護に関わる法律や制度の概要、看護職の法的責任を整理する							1.5	時間
4	講義内容	多重課題の対応、サービスの質評価■									

	該当到達目標 1, 2, 3, 4, 5	予習	臨床で発生しそうな多重課題について考える	1.5	時間
		復習	サービスの質評価における「構造」「過程」「結果」の3側面について整理する	1.5	時間
5	講義内容	マネジメントに必要なスキル(コミュニケーション、アサーティブ、リーダーシップ、コーチング)■			
	該当到達目標	予習	3 年次までに学んだコミュニケーション、アサーティブ、リーダーシップ、コーチングなどの知識を整理する	1.5	時間
	4	復習	マネジメントする上で必要なスキルについて自分の考えをまとめる	1.5	時間
6	講義内容	安全な医療看護を提供するための組織横断的な活動■			
	該当到達目標	予習	2 年次に学習した医療安全論について復習しておく	1.5	時間
	5, 6	復習	組織横断的な活動の重要性について考えを整理する	1.5	時間
7	講義内容	インシデント分析の実際■			
	該当到達目標	予習	事故発生メカニズムについて学習する(P134～137)	1.5	時間
	5, 6	復習	インシデント分析を体験して、分析の必要性について考えをまとめる	1.5	時間
8	講義内容	まとめ 看護職ひとりひとりが看護マネジメントを意識し行動することの意義			
	該当到達目標	予習	1～8 回までの学習内容を振り返る	1.5	時間
	1, 2, 4, 5	復習	看護職ひとりひとりが看護マネジメントを意識し行動することの意義をまとめる	1.5	時間
合計時間(予習・復習)				24	時間
備考	1. 単位修得に必要な時間を満たしていない場合 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。				
	2. 履修条件 1) この科目は、看護学原論と各看護学概論、医療安全論を履修していることが望ましい。				
	3. 出席登録方法 1)対面授業・オンライン授業ともに、C-learning の出席管理にて行う。				
	4. ルール 1)グループワークを行う際は、各自が主体的に参加する。				
	5. オンライン授業時の変更点 1) 講義に関しては、教材倉庫にある動画を視聴し課題を提出する。				
	2) グループワークは、ZOOM 機能を用いて行う。				
■:実務経験に基づく内容を示す。					

科目名	がん看護(看護専門科目群・統合分野)						科目ナンバリング	NRS414・A		
英文名	Cancer Nursing						講義形態	講義		
担当教員	砂賀道子、吉田久美子、石田順子									
科目に関連した実務経験	大学病院で看護師として勤務									
学年・開講期	4 年 前期	選必・単位数	選択 1 単位							
履修が必須となる資格										
学位授与方針との対応	1	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	6	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	2	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	③16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○		○				○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① がん医療の特徴と政策を理解し、がん看護の基本を踏まえ、治療と看護、地域で生活するがんサバイバーの支援を地域包括ケアの視点から習得する。また最新のがん看護研究を把握し、がん看護について探求する。 ②事例、文献を用い講義し、演習：興味を抱く最新のがん看護に関する原著論文を読み、他者に説明していく。									
到達目標	1. 国・群馬県のがん対策の取り組み、がん対策基本法やサバイバーの体験やピアサポートの効果を概説できる 2. 苦痛症状、がん治療と看護についての基本を理解し問題解決のために原著論文を活用できる■ 3. 自己が興味を抱く最新のがん看護に関する原著論文を読み、他者に説明できる。 (症状緩和・QOL、家族支援、がん教育、心理・社会的な支援 チームアプローチ) 4. 文献や討議等を通して、がん看護や研究についての自己の考えをまとめることができる。									
使用教材	・小松浩子ほか 系統看護学講座 別巻 がん看護／医学書院 ISBN 978-4-260-02763-2C3347 ・毎回の授業時に構造的に学習内容を記載した資料を配付する。									
参考文献	講義中に紹介する									
評価方法	・出席が 2／3 以上で、レポートを提出する権利がある。オンライン授業においても同様である。 ・レポート 50 点(50%)、プレゼンテーション 30 点(30%)、発言 20 点(20%)の構成で評価する。 ・総合評価 60 点(60%)以上を合格とする。									
課題に対するフィードバック	レポートにはコメントなどを付けて返却する。返却の日時は別途連絡する。 ・関連する項について テキスト内容の予習・復習を説明する。 ・授業時に最新の研究内容を示す資料を配付する。 ・最終回の講義において到達目標の要点を説明する。									
オフィスアワー (研究室)	オフィスアワー： 火曜日 1～4 限(408 研究室)				メールアドレス (#→@)	sunaga #takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	1 オリエンテーション がん医療の現在と看護 国・群馬県のがん対策の取り組み								
	該当到達目標	予習	国・群馬県のがん対策の取り組み、がん対策基本法について Web で調べ要点を確認する。						1.5	時間
	1	復習	看護が担う役割について参考文献などを活用しまとめる。						1.5	時間
2	講義内容	2.がんサバイバーシップケア、患者会、がんサロン								
	該当到達目標	予習	がんサバイバーシップケアの考え方、がん体験者の語りを聴取しておく。						1.5	時間
	1	復習	がんサバイバーシップケアにおける看護役割についての考えをまとめる。						1.5	時間

3	講義内容	3. がん看護の基本 苦痛・心理的サポート		
	該当到達目標	予習	苦痛に対するマネジメント、心理的サポート、セルフヘルプグループについて読み、要点を確認する。	1.5 時間
	1, 2	復習	がん診断、再発、苦痛症状のマネジメントに関する最新の研究論文を読み、その要点をまとめる。	1.5 時間
4	講義内容	4. がん治療に対する看護■		
	該当到達目標	予習	① がん手術療法 ②薬物療法(抗がん薬・ホルモン治療) ③放射線療法 ①-③の看護について読みポイントを確認する。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	①～③興味を抱く治療に対する看護の原著論文を検索、読みその要点をまとめる。	1.5 時間
5	講義内容	5. がん治療の場と看護 在宅療養者の支援とチームアプローチの実際		
	該当到達目標	予習	外来がん看護、がん患者の療養支援について読み確認する。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	授業の提示事例の患者と家族への看護、チームアプローチを考察する。	1.5 時間
6	講義内容	6. 興味を抱く研究課題の追求 研究内容の理解、看護支援の検討		
	該当到達目標	予習	興味を抱く研究課題(症状緩和・QOL、家族支援、がん教育、心理・社会的な支援)についての最近 5 年間の原著論文を検索する。	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	関係する論文の内容を熟読し、他者に伝えられるように看護支援について考察する。	1.5 時間
7	講義内容	6. 興味を抱く研究課題の追求 研究内容の理解、看護支援の検討		
	該当到達目標	予習	関係する論文の内容を熟読し、他者に伝えられるように看護支援について考察する。	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	論文の内容を熟読し、他者に伝えられるように看護支援について考察する。	1.5 時間
8	講義内容	6. 文献、発表、討議を通じて、がん看護についての考えを深める		
	該当到達目標	予習	要点をおさえた発表、討議に向けた準備や確認をする。	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	全般的に授業内容を振り返り、到達目標に向け体系的に知識をまとめる	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	この科目は、「看護人間発達学」「成人看護学概論」「成人看護学方法論Ⅰ」「成人看護学方法論Ⅱ」を履修していることが望ましい。積極的な授業参加を望みます。 1. 学習の深め方 1)教材として、医学書院のテキスト別巻を使用するが、予習・復習に利用する。 2)教員の作成する授業資料、文献も使用する。 3) 授業方法は、講義内容の要点について講義し、質問などに対しても具体的な説明をする。 4) 到達目標に向け学習が効果的に積み重ねられるよう、学習内容を体系的に提示し進めていく。 5)発表は学生同士の評価も実施する。どのような視点で発表に臨むか、評価するのか学習する。 6)記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間が満たないため、各自で補完すること。 2. ルール 話し合いに積極的に参加する。他者の意見を尊重する。司会や書記も全員ができるようにする。 看護の専門性を高めていく機会とする。そのため、発言は指摘だけでなく、どうすればよいか示唆を提示する。 3. 出席の登録・確認 出席の登録は、C-learning の「出席」の確認キーを見て登録する。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	国際看護学演習(看護専門科目群・統合分野)						科目ナンバリング	NRS415・A		
英文名	International Nursing Practice						講義形態	講義		
担当教員	李孟蓉									
科目に関連した実務経験	看護師とし大学病院に勤務(経験) 国際学会等での発表、海外研修(経験) 大学の国際交流委員、およびお海外教育機関との国際交流・研究活動(経験)									
学年・開講期	4 年 前期		選必・単位数		選択 1 単位					
履修が必須となる資格										
学位授与方針との対応	1	人間理解と倫理観				5	国際理解			
	2	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	③16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○	○				○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①1 年次に国際看護学で学んだ知識を基盤に、わが国の看護職をめぐる国際化の現状を理解し、将来の協働の在り方を考察する。「様々な文化や言語背景をもつ在留・訪日外国人への看護」、「医療や福祉の現場で外国人看護師との協働」についてグループで討議する。また、WHO 等国际機関のホームページを情報源として、自ら諸外国の保健・医療・福祉制度や健康課題について調べ分析するとともに、健康問題へ影響を及ぼす社会・文化的背景、さらに対策について調べ、記述する。さらに、社会や文化、言語の違う地域や国での異文化体験を通して諸外国の保健医療事情や看護を深める。 ②授業方法は講義内容の要点について説明し、質問などに対して具体的に説明する。到達目標に向け学習が効果的に積み重ねられるよう学習内容を体系的に提示し進めていく。また、学生が課題を論理的に分析し解決能力を身につけるよう、集団討論を取り入れ、発表させる。									
到達目標	1. 在留・訪日外国人である対象者の文化・言語背景に関心を持ち、看護に必要な視点や配慮について説明できる。■ 2. 日本における外国人看護職の現状について調べ、協働に必要な態度や支援の仕方について考察できる。 3. 諸外国の文化的背景や健康問題について説明できる。■ 4. 諸外国の医療制度や看護の特徴を理解し、日本との違いについて説明できる。■									
使用教材	1 年次に使った教科書 看護学テキスト NiCE 国際看護 国際社会の中で看護の力を発揮するために(南江堂) ISBN 978-4-524-25264-0 各自自分で興味関心のある国や地域に関する文献や教材を探すこと									
参考文献	講義内容に沿って、適宜紹介を行う									
評価方法	最終レポート 50%、発表、討議など授業参加度 30%、提出物 20%(対面授業・オンライン授業同様)									
課題に対するフィードバック	発表や討論については、その都度コメントやアドバイスをする。レポートについては、コメントを付して返却する。									
オフィスアワー (研究室)	火曜日・木曜日の 2 限、昼休み時間、 研究室:3 号館 2 階 208 質問はメールでも対応する。				メールアドレス (#→@)		ri#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	イントロダクション								
	該当到達目標	予習	シラバスを熟読し、講義内容と目標を理解しておく。							1.5 時間
	1	復習	講義内容を復習し、日本における国際化の現状についてしっかり理解する。 興味ある在留外国人における看護ニーズについてリサーチする。							1.5 時間
2	講義内容	在留外国人への看護 ■								

		在留外国人をゲストスピーカーとして招き、異文化の中で看護ニーズについて集団討議を通して学ぶ。		
	該当到達目標	予習	教科書の第Ⅱ章、あらかじめ配布した資料に目を通しておく	1.5 時間
	1	復習	講義内容の復習、在留外国人への看護に必要な視点や配慮について、理解を深める。	1.5 時間
3	講義内容	日本における外国人看護職受入の現状と課題 外国人看護職をゲストスピーカーとして招き、日本人看護職者との協働における課題について討議を通して学ぶ。		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料に目を通しておく、興味ある日本での外国人看護職受入の現状と課題についてリサーチする。	1.5 時間
	2	復習	講義内容の復習、外国人看護職との協働について、討議を通して必要な姿勢や態度の理解を深める。	1.5 時間
4	講義内容	先進国(アメリカ、ドイツ、オーストラリア)の看護		
	該当到達目標	予習	先進国(アメリカ、ドイツ、オーストラリア)の看護	1.5 時間
	3,4	復習	講義内容の復習、興味ある国や地域の医療事情をリサーチする	1.5 時間
5	講義内容	中進国(台湾、中国)、途上国(ベトナム、インドネシア、タイ)の看護 ■		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料に目を通しておく	1.5 時間
	3,4	復習	講義内容の復習、興味ある国の医療事情をリサーチする	1.5 時間
6	講義内容	学生プレゼンテーション		
	該当到達目標	予習	過去4回分の講義を復習し、自身が興味ある国や地域の医療事情をまとめてくる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	学生のプレゼンテーションの復習とコメントを記入	1.5 時間
7	講義内容	地域に根付いたプライマリヘルスケアと看護		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料に目を通しておく	1.5 時間
	1,2	復習	講義内容の復習と興味ある国や地域の看護に関する発表準備	1.5 時間
8	講義内容	学生プレゼンテーションとまとめ		
	該当到達目標	予習	自身が興味のある看護に関する発表準備	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	学生のプレゼンテーションの復習とコメントを記入	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	AL(アクティブラーニング)は、ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、クローズドクエスチョン、オープンクエスチョンなど。 1. 単位修得に必要な時間を満たしていない場合 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 2. 履修条件 この科目は看護専門科目群の必修科目である「国際看護学」を履修していることが望ましい。 3. ルール 1) 能動的に、積極的に学ぶ姿勢で授業に臨むこと。 2) 他学生の学習の妨げとなるような行為を慎むこと。 4. 出席登録の方法 C-learningにある「出席管理」への入力をもって、出席とする。 なお、出席管理の確認キーは毎回の授業時に知らせる。 ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	産業保健論(看護専門科目群・統合分野)							科目ナンバリング	NRS416・A		
英文名	Occupational Health & Nursing							講義形態	講義		
担当教員	帆苅 なおみ										
科目に関連した実務経験	産業保健師として、企業に勤務(現在)										
学年・開講期	4 年 前期	選必・単位数	選択 1 単位								
履修が必須となる資格	保健師国家試験受験資格 選択必修科目										
学位授与方針との対応	2	人間理解と倫理観				0	国際理解				
	5	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力				
	2	チームの一員としての協調・協働									
SDGs との関連	3456891112131617										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他	
										○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法	グループワーク、発表、ディスカッション 面談のロールプレイング										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	産業保健看護の目的は労働に関連する健康障害の予防、労働者の生涯にわたる自律的な健康行動の確立、労働者が健康で安全に働き続けることができる職場環境づくり、さらには職場風土の醸成に寄与することである。本講義では、労働生活を支える産業保健師の役割を理解し、働く人の健康管理の実践について学ぶ。 授業では、教科書と教員の作成するプリントを使って、要点をまとめていく。パワーポイントによる図の提示及び、講義の後半ではグループワークを取り入れて講義の理解を深められる工夫を行う。										
到達目標	1.産業保健及び看護職の役割を理解することができる。■ 2. 個人・組織に対するアセスメントと個人・組織の支援への展開を理解することができる。■ 3. 日本における産業保健の課題と対策を産業保健看護職の視点で理解することができる。■ 4. 事例を通じて産業保健看護活動の理解を深めることができる。■										
使用教材	教科書：産業保健看護学－基礎から応用・実践まで－公益財団法人 産業医学新興財団 出版 その他：補足資料として PPT 資料を配布します。										
参考文献	労働衛生のしおり(令和 5 年年度)										
評価方法	試験 70%、授業参加度・授業態度等 30%を総合して評価します。										
課題に対するフィードバック	試験解答用紙に記載事項へのコメントをつけて返却をする。										
オフィスアワー (研究室)	初回授業で提示する				メールアドレス (#→@)		初回授業で提示する				
1	講義内容	産業保健の目的、産業保健師の役割■									
	該当到達目標	予習	教科書概論Ⅰに目を通す							1.5	時間
	1	復習	産業保健看護職の役割と職務を理解できるよう復習する							1.5	時間
2	講義内容	産業保健看護の場と対象を理解する■									
	該当到達目標	予習	教科書概論Ⅱと1回目の講義資料に目を通す							1.5	時間
	1,2,3	復習	産業保健を取り巻く環境、多様化する労働者と働き方を理解できるよう復習する							1.5	時間
3	講義内容	産業保健における健康問題と課題■									
	該当到達目標	予習	教科書概論Ⅲ、2回目講義資料に目を通す							1.5	時間
	1,2,3	復習	産業保健の統計データから労働者の健康・安全衛生課題を理解できるよう復習する							1.5	時間
4	講義内容	産業保健を推進するための制度・関係法規■									
	該当到達目標	予習	教科書概論Ⅳ、3回目講義資料に目を通す							1.5	時間
	1,2,3	復習	産業保健の関連法規と安全衛生管理体制を理解できるよう復習する							1.5	時間
5	講義内容	主な産業保健の方法論■									

	該当到達目標	予習	教科書方法論Ⅴ、4 回目講義資料に目を通す	1.5 時間
	1,2,3	復習	産業保健の 5 管理、ハイリスクアプローチ、ポピュレーションアプローチの具体を理解できるよう復習する	1.5 時間
6	講義内容	主な産業保健の実際①■		
	該当到達目標	予習	教科書活動論Ⅵ、5 回目資料に目を通す	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	有害業務対策・メンタルヘルス対策・過重労働対策の活動の具体を理解できるよう復習する	1.5 時間
7	講義内容	主な産業保健の実際②■		
	該当到達目標	予習	教科書活動論Ⅵ、6 回目資料に目を通す	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	健康増進活動・治療と仕事の両立支援・健康経営・地域職域連携の活動の具体を理解できるように復習する	1.5 時間
8	講義内容	事例検討で産業保健看護活動の実際を学ぶ■		
	該当到達目標	予習	講義で使用した資料に目を通す	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	グループワークで産業保健看護職の対応を検討し発表する	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	予習復習については、試験前後の学習で補完すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す 試験にて評価を行う。			

科目名	チーム医療アプローチ演習(看護専門科目群・統合分野)						科目ナンバリング	NRS410・A		
英文名	Interprofessional Medicine						講義形態	演習		
担当教員	渡邊秀臣(理学)、小池洋子(看護)、篠原智行(理学)、大林恭子・高橋雄太(薬学)、木村憲洋(情報)、竹内真理(栄養)、加藤大輔(社会福祉)、内田祥子(子ども教育)									
科目に関連した実務経験	渡邊秀臣(理学):非常勤医師(整形外科医)として病院に勤務 小池(看護):看護師として一般病院に勤務(経験) 篠原(理学):理学療法士として急性期、回復期病院に勤務(経験)。生活期病院に非常勤勤務。 大林(薬学):薬剤師として大学病院に勤務(経験)大学病院に非常勤勤務。 高橋雄太(薬学):薬剤師として大学病院に勤務(経験)、調剤薬局に非常勤勤務。 木村(情報):病院経営企画及び診療情報管理にて病院に勤務(経験) 竹内(栄養):管理栄養士として国立病院機構に勤務(経験)。健大附属クリニック管理栄養士兼務。 加藤(社会福祉):MSWとしてケアミックス病院に勤務(経験) 内田(子ども教育):保育者養成校での学外実習の指導(経験)									
学年・開講期	4 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修が必須となる資格										
学位授与方針との対応	1	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	3	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	5	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	34816									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○			○	○	○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	チーム医療が必要な事例を用いて、福祉・医療系の各専門職の役割・活動および患者、家族に必要な福祉・医療活動について検討する。さらにチーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性、および専門職の連携の課題について学ぶ。									
到達目標	1. 多職種間での情報伝達・共有の必要性を理解し、効果的な情報伝達・共有方法について考えを述べる。■ 2. 各専門職の役割と活動について理解し、多職種が連携・協働することの意義を述べる。■ 3. チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の連携・協働の必要性を説明できる。■ 4. チーム医療における専門職の連携を促進するための課題を考察できる。									
使用教材	関連する資料を随時配布する。									
参考文献	指定なし。									
評価方法	1～4回の振り返りシートの記述内容、演習参加への積極性・授業態度 40%、5・6回の模擬症例検討内容等 20%、7・8回の演習参加への積極性・授業態度および発表内容・発表態度 20%、授業後レポート 20% (対面授業・オンライン授業共通)									
課題に対するフィードバック	模擬症例検討を行う際には、グループごとに結果をまとめて発表させ、それに対して教員と他チームの学生による検討を行いフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	渡邊(理学):金曜 3 限、4 号館 2 階学部長室 小池(看護):月曜 4 限、5 号館 412 研究室 篠原(理学):水曜 3 限、3 号館 206 研究室 大林(薬学):月曜 1 限、7 号館 307 研究室				メールアドレス (#→@)		渡邊(理学):watanabe-h#takasaki-u.ac.jp 小池(看護):koike-y#takasaki-u.ac.jp 篠原(理学):shinohara-t#takasaki-u.ac.jp 大林(薬学):obayashi#takasaki-u.ac.jp			

		高橋(薬学):水曜 2 限、7 号館 323 研究室 木村(情報):月曜 1 限 7 号館 610 研究室 竹内(栄養):木曜 2 限、1 号館 308 研究室 加藤(社会福祉):木曜 2 限、1 号館 513 研究室 内田(子ども教育):月曜 1 限、8 号館 410 研究室		高橋(薬学):takahashi-yu#takasaki-u.ac.jp 木村(情報):norihiro#takasaki-u.ac.jp 竹内(栄養):mtakeuchi#takasaki-u.ac.jp 加藤(社会福祉):kato-d#takasaki-u.ac.jp 内田(子ども教育):uchida-s#takasaki-u.ac.jp
1	講義内容	ガイダンス / チーム医療アプローチについて		
	該当到達目標	予習	チーム医療について調べておく。	1.5 時間
	1,2	復習	演習の目標や進め方、提出物を確認する。	1.5 時間
2	講義内容	効果的な情報伝達と共有■		
	該当到達目標	予習	情報伝達と共有方法について調べて考えておく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	情報伝達と共有方法の工夫を整理する。	1.5 時間
3	講義内容	多職種連携教育の国内外の動向■		
	該当到達目標	予習	多職種連携について調べておく。	1.5 時間
	2,3	復習	多職種連携教育の動向について整理する。	1.5 時間
4	講義内容	チームカンファレンスの目的と方法■		
	該当到達目標	予習	各専門職の役割について調べておく。	1.5 時間
	2,3	復習	チームカンファレンスの目的・方法を整理する。	1.5 時間
5	講義内容	模擬症例検討①(模擬症例に対する自職種の役割、アプローチについて)【各学科】		
	該当到達目標	予習	疾病と治療について学習し、自職種の関わり方をまとめる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	模擬症例への自職種の役割、アプローチを整理する。	1.5 時間
6	講義内容	模擬症例検討②(模擬症例に対する自職種の役割、アプローチについて)【各学科】		
	該当到達目標	予習	発表の準備をしておく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	模擬症例への自職種の役割、アプローチを整理する。	1.5 時間
7	講義内容	模擬症例検討③(模擬症例への最善の医療に向けたチーム医療アプローチについて)*グループワーク■【合同】		
	該当到達目標	予習	模擬症例への自職種の役割、アプローチを他職種に説明する方法について準備しておく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	模擬症例への各職種の役割、チーム医療アプローチの意義を整理する。	1.5 時間
8	講義内容	模擬症例検討④(模擬症例への最善の医療に向けたチーム医療アプローチについて)*グループワーク発表■【合同】		
	該当到達目標	予習	発表の準備をしておく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	模擬症例への各職種の役割、チーム医療アプローチの意義を整理する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	【履修条件】原則、チーム医療アプローチ論を履修していること。 【授業期間全体を通じた授業の進め方】 1 回目の講義は、テーマについて概要を説明する。授業はパワーポイントにより要点を提示する。 2～8 回目の講義は、グループワークの形式で進める。 オンライン授業になった際は、ZOOM を使い可能な限りグループワークを行うが、状況に応じてその都度指示する。 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 【副専攻対象科目】本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム「多職種連携コース」の対象科目である。 副専攻履修者の単位認定時の評価は、「認定(N)」となり、GPA の算出や卒業必要対象外となる。成績評価基準は、主専攻履修者と異なる場合があり、その場合には、対象者に別途案内する、また、履修登録時に CAP のカウントには含まない。 【キーワード】専門職、チーム医療、多職種連携 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	看護キャリア形成論(看護専門科目群・統合分野)							科目 ナンバリング	NRS323・ B	
英文名	Nursing career Development							講義形態	講義	
担当教員	小池洋子									
科目に関連した 実務経験	病院の看護部長、県の看護行政担当									
学年・開講期	3 年 後期		選必・単位数		必修 1 単位					
履修が必須となる 資格										
学位授与方針 との対応	2	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	4	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	3	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	③ ④ ⑯									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○					○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	看護専門職としてキャリアを発展させる意義を理解し、自分の看護キャリアを形成するために必要な基礎的知識を学ぶ。看護職の活躍の場の多様性を理解するとともに、医療専門職として社会で活躍するために必要な自己研鑽力を養う。 自己の将来を考えながら事前学習を行い、講義・グループワークに望み、自己のキャリアデザインを考える。									
到達目標	1. キャリアの概念を理解する 2. 看護職としての活動の場の多様性を理解する■ 3. 看護職としての自己研鑽の意義を理解する■ 4. 成人学習者としての学習の意義を理解し、自律的な学習活動を実践する 5. 組織の人材育成の意義を理解し、組織の一員としての姿勢を考察する 6. 自身のキャリアプランを描き進路を明確にする									
使用教材	ナーシング・グラフィカ看護の統合と実践①看護管理 2023 年：吉田千文ら，メディカ出版（電子版）									
参考文献	・迷ったら必見！ナースキャリア事例でわかる看護職の働き方ガイド：草柳かほ他．東京医学社．2017.									
評価方法	毎回の授業後課題の記述内容、授業中の課題への取り組みの積極性等 50%、課題レポート 50% オンライン授業の場合、動画の視聴状況や課題の提出状況も積極性に加味する。									
課題に対する フィードバック	授業の最初に前回授業後の課題への記述内容を踏まえたフィードバックを行う。 課題レポートについてはコメントをつけ返却する。									
オフィスアワー (研究室)	火曜日3・4限 (5 号館 412 研究室)				メールアドレス (#→@)		koike-y#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	キャリアの定義								
	該当到達目標	予習	1 年の基礎教養ゼミから作成しているポートフォリオを整理しておく						1.5 時間	
	1	復習	生涯発達の視点で捉えるキャリア形成について自己の考えをまとめる						1.5 時間	
2	講義内容	看護職としての活動の場と役割 ■								
	該当到達目標	予習	看護職が活躍している職場について調べる						1.5 時間	
	2	復習	看護職の活動の場と役割について整理する						1.5 時間	
3	講義内容	看護職としての活動の実践 ■								
	該当到達目標	予習	専門看護師・認定看護師、特定行為研修について調べる						1.5 時間	
	2、3	復習	授業での学びを踏まえ、自分の将来像を考える						1.5 時間	
4	講義内容	新人看護職員研修制度について ■								
	該当到達目標	予習	新人看護職員研修制度について調べる						1.5 時間	
	3、4、5	復習	看護職としての自己研鑽の意義について考えをまとめる						1.5 時間	

5	講義内容	成人学習理論、経験学習理論		
	該当到達目標	予習	自分の学習スタイルについて振り返る	1.5 時間
	4	復習	経験を学習にする過程を整理する	1.5 時間
6	講義内容	組織としての人材育成 ■		
	該当到達目標	予習	各領域での臨地実習施設の理念、目的・目標を調べる	1.5 時間
	5	復習	個人の欲求と組織の欲求の調和について考えをまとめる	1.5 時間
7	講義内容	キャリアデザインをどのように考えるか		
	該当到達目標	予習	1～6回の学習内容を整理する	1.5 時間
	1、6	復習	5年後の自分像を考える	1.5 時間
8	講義内容	まとめ 自分のキャリアデザイン		
	該当到達目標	予習	5年後の自分像に近づくために何をすれば良いかを考える	1.5 時間
	1、3、5、6	復習	自己のキャリアデザインを考える	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	6. 単位修得に必要な時間を満たしていない場合 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 7. 履修条件 1) この科目は、基礎教養ゼミ、各看護学実習を履修していることが望ましい。 8. 出席登録方法 1) 対面授業・オンライン授業ともに、C-learning の出席管理にて行う。 9. ルール 1) グループワークを行う際は、各自が主体的に参加する。 10. オンライン授業時の変更点 1) 講義に関しては、教材倉庫にある動画を視聴し課題を提出する。 2) グループワークは、ZOOM 機能を用いて行う。 ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	健康危機管理論(看護専門科目群・統合分野)							科目ナンバリング	NRS417・B	
英文名	Health Crisis Management							講義形態	講義	
担当教員	武居明美、赤堀八重子、赤羽潤子									
科目に関連した実務経験	日本防災士会群馬支部副支部長として活動(赤羽) 保健師として職域保険協会に勤務、看護師として病院に勤務(武居) 保健師として行政(町役場)に勤務、看護師として病院・訪問看護ステーションに勤務(赤堀)									
学年・開講期	4 年 後期	選必・単位数	選択1単位							
履修を必須とする資格	保健師国家試験受験資格 選択必修科目									
学位授与方針との対応	2	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	5	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	2	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	316									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○	○	○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①自然災害、大規模な事故、感染症等、個人が日常的に遭遇する病気や事故とは規模・性質の異なる健康の安全を脅かす状況に対する公衆衛生上の体制、対応と、保健師がかかわる健康危機管理事例について学習する。 ②授業のすすめ方:健康危機発生時の体制及び組織における保健師の管理能力について学習する。また、自然災害が起きたことを想定した机上での演習を行う。									
到達目標	1.健康危機管理システムと保健所、市町村等の役割について理解できる。■ 2.平常時、災害発生時、災害復旧・復興対策期等、各期に応じて必要な保健師の活動が理解できる。 3.地域住民への啓発と相互支援力について理解することができる。 4.健康危機管理に必要な保健師の管理能力について理解することができる。									
使用教材	資料を配布する									
参考文献	公衆衛生看護学.jp 荒賀直子、後閑容子、鳩野洋子、神庭純子 インターメディカル 4,840 円									
評価方法	試験 60%、授業・演習参加度、態度 10%、レポート 30%、 (修正前:授業演習参加度 60%、レポート 40%)									
課題・評価に対するフィードバック方法	国家試験過去問題についてはその都度解答について解説をし、講義と問題を結び付けて考えられるようにする。オンラインの場合も同様であるが、解説は C-learning 上で行う。									
オフィスアワー (研究室)	武居: 月曜日 9:30~13:00 赤堀: 金曜日 13:00~16:15				メールアドレス (#→@)	武居:takei-a#takasaki-u.ac.jp 赤堀:akabori#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	健康危機管理システムと対策								
	該当到達目標	予習	テキストに目を通してくる							1.5 時間
	1,2	復習	危機管理に関する保健所・市町村の役割について理解する。							1.5 時間
2	講義内容	災害と保健活動①								
	該当到達目標	予習	テキストの災害各期の保健活動のページを読んでくる。							1.5 時間
	1,2	復習	災害各期に必要な支援について理解する。							1.5 時間
3	講義内容	災害と保健活動②								
	該当到達目標	予習	テキストの災害各期の保健活動のページを読んでくる。							1.5 時間
	1,2,3	復習	災害各期の保健所・市町村保健師の役割を理解する。							1.5 時間
4	講義内容	演習オリエンテーション(DIG, HUG について)								
	該当到達目標	予習	事前に配布された資料を読んでおく							1.5 時間

	3,4	復習	DIG, HUG の目的や方法を確認しておく	1.5 時間
5	講義内容	演習(自然災害時の対策と対応①) ■		
	該当到達目標	予習	事前に配布された資料を読んでおく	1.5 時間
	3,4	復習	自分の住んでいる地域の災害マップを確認する	1.5 時間
6	講義内容	演習(自然災害時の対策と対応②) ■		
	該当到達目標	予習	事前に配布された資料を読んでおく	1.5 時間
	3,4	復習	自分の住んでいる地域の災害マップを確認する	1.5 時間
7	講義内容	演習(自然災害時の対策と対応③) ■		
	該当到達目標	予習	事前に配布された資料を読んでおく	1.5 時間
	3,4	復習	自分の住んでいる地域の災害マップを確認する	1.5 時間
8	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	1～7回の講義資料の見直し	1.5 時間
	3,4	復習	各自治体単位での災害危機管理体制について理解する	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	保健師は地域で住民を対象とした災害保健活動に関わることも多いため、地域看護・地域看護管理で学んだ知識を基に、さらに理解を深めること。オンラインの場合の演習については別途連絡する。 ○記載した予習・復習時間では、単位習得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 ○履修条件:保健師課程の必修科目である。「公衆衛生看護学概論Ⅰ・Ⅱ」および「公衆衛生看護方法論」を履修していることが望ましい。 ■実務経験に基づく内容を示す			

科目名	統合実習(看護専門科目群・統合分野)							科目ナンバリング	NRS418・B	
英文名	Integration for Nursing Practice:Practicum							講義形態	実習	
担当教員	小池洋子 他、看護学科教員									
科目に関連した実務経験	病院で看護部長として勤務(経験)									
学年・開講期	4 年 後期	選必・単位数	必修 2 単位							
履修が必須となる資格										
学位授与方針との対応	1	人間理解と倫理観					0	国際理解		
	5	論理的思考力・問題解決力					1	生涯学習力		
	3	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	3 4 16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○			○	○	○	○			
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	基礎分野、専門基礎分野、専門分野で学んだ知識・技術を統合するとともに、看護専門職としての態度を持って、チーム医療における連携と協働、看護マネジメントの実際を体験し、看護実践能力の向上を目指すことを目的として実習を実施する。									
到達目標	1. チーム医療の実際を通して、チーム医療の課題解決方法を理解し、チーム医療における看護職の活動と役割を理解する。■ 2. 看護サービス提供組織における看護マネジメントの実際を体験し、組織の成り立ちを理解し、組織の一員として看護実践するために必要なスキルを身につける。■ 3. 医療安全・感染対策の実際を体験し、組織としての医療安全・感染対策に取り組む意義を理解する。■									
使用教材	・統合実習要項、事前配布資料 ・関連科目のテキストや授業資料									
参考文献	・必要に応じ提示する									
評価方法	・実習目標の達成度と実習態度が 90%、レポート評価 10%のうち合計 60%以上を合格とする。									
課題に対するフィードバック	実習記録、レポートに対して担当者からコメントを付して返却する。 グループワークで話し合った内容について、必要時コメントする。									
オフィスアワー(研究室)	金曜日1～2限 412 研究室				メールアドレス(#→@)		koike-y#takasaki-u.ac.jp			
講義内容	1. 実習期間および実習施設 実習期間は 2 週間、施設実習を8日間、学内実習を2日間行う。実習は、県内病院とその関連施設も含めて行う。 2. 実習内容 1) 看護職や多職種による患者支援について見学や説明を受ける。■ 2) 様々なチームカンファレンス等の連携場面を見学する。■ 3) 関係職種・関係機関との連携の実際、チームカンファレンスの実際について担当者より説明を受ける。■ 4) 1)～3)の実習内容とおし、チームにおける連携のあり方とチーム医療における看護職の役割について、グループワーク等で意見交換する。 5) 看護サービスマネジメントに関するオリエンテーションやレクチャー等を受ける。 6) 病棟等での看護活動を見学する。■ 3. 臨地の受入れが困難な状況が発生した場合 1) 学内においてオンラインで施設の担当者よりレクチャーを受ける。									

	2) チームカンファレンスのロールプレイングや DVD 視聴によるグループワークなどを実施する。		
	予習	実習施設の概要を調べる。 基礎分野、専門基礎分野、専門分野で学んだ内容を復習する。	適宜
	復習	一般目標に沿って学習成果をまとめる。	適宜
合計時間(予習・復習)			時間
備考	・受講するためには、1・2・3年次までの看護専門科目群の必修科目の単位を全て習得していることが必要となる。 ・特に関連する科目や事前配布資料などの学習を推奨する。 ・実習期間中は、臨地に入る前に既習の内容を確認するとともに、実習翌日に提出された記録用紙を確認し不足を補うよう指導する。 ・施設実習が不可能になった場合は、学内実習・オンライン実習を行う。 ■:実務経験に基づく内容を示す。		

科目名	研究ゼミナール(看護専門科目群・統合分野)						科目 ナンバリング	NRS419・C		
英文名	Nursing Research Seminar						講義形態	講義		
担当教員	看護学科 教員									
科目に関連した実務経験	看護師あるいは助産師として病院に勤務(経験) 保健師として保健所などに勤務(経験) 養護教諭として教育機関などに勤務(経験)									
学年・開講期	4年 通年	選必・単位数	必修 3 単位							
履修が必須となる資格										
学位授与方針との対応	1	人間理解と倫理観				1	国際理解			
	6	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	③					16				
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○	○	○	○			
「その他」のアクティブラーニング実施方法	実習記録についてコメントを付し返却する。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 自らの関心に基づき、主体的にテーマを設定し、文献レビューをもとに研究目的を明確にする。 研究目的に適した研究方法を計画し、データ収集と分析により結果と考察をまとめ論文を作成する。 その一連の研究活動を通し、批判的で論理的思考を養い、主体的に取り組む態度を修得する。 ②ゼミナール形式とする。									
到達目標	1.文献レビューもとに、テーマに関する先行研究の背景をとらえ、研究目的を明確にできる。 2.研究目的に適した研究方法を記述できる。 3.倫理的配慮を考慮し、データ収集と分析ができる。 4.結果について図表を用いて簡潔にまとめ、焦点を明確にし、考察として記述できる。 5.研究論文と発表媒体を適切に作成できる。■									
使用教材	・看護研究が効果的に進むよう担当教員が提示や紹介など行う。 ・看護研究概論の授業資料									
参考文献	同上									
評価方法	文献レビュー、研究計画書、論文作成などのプロセス、研究へ取り組む態度などから、各指導教員が総合的に評価し、総合評価 60 点以上を合格とする。									
課題に対するフィードバック	研究計画書など作成した資料にはコメントなどを付けて返却する。 分析結果や図表、また論文全体にコメントなどを付けて返却する。									
オフィスアワー (研究室)	担当教員より説明を受ける (各担当教員の研究室)				メールアドレス (#→@)		各担当教員のアドレスを使用する			
講義内容	4～5 月 研究を倫理的に進めるために必要な内容を含めた研究計画書を作成する。■ 1) 研究の背景・動機を体系的に記載し、研究目的を明確に記載する。 2) 研究方法に対象者、調査方法、調査内容、分析方法、倫理的配慮などを記載する。 6～7 月 計画書に記載した調査方法や調査内容を確認しながらデータを収集する。■ 1) データ収集の手順や対象者への細かな配慮についても検討した上で、収集に取り組む。 2) 得られたデータと研究目的や分析との適合性を確認し、データ収集を行う。 8～9 月 計画書に記載した分析方法に基づき順序立て分析を行い、結果は図表を用いてまとめる。■ 1) データは計画書に記載した分析方法をもとに分析を行う。 2) 分析結果に適した図表を作成し、結果を表現する。 10～11 月 論文の内容を熟考し、表記の適切性にも考慮し作成する。■ 1) 論文として緒言から結語まで、研究目的に対し一貫性や客観性を確認し作成する。									

	2) 研究目的へ対応した研究結果に対する考察を作成する。	
	3) 論文と図表、プレゼンテーション資料について適切な記載方法で作成する。	
	卒業研究発表会において、研究のプロセスに沿って発表し成果を提示する。	
予習	担当教員より説明を受けること	適宜
復習	担当教員より説明を受けること	適宜
合計時間(予習・復習)		適宜
備考	1.単位修得に必要な時間数を満たしていない場合 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間が時間に満たないため、各自で補完すること。	
	2.履修条件 3 年次後期まで開講されている「看護専門科目群」を履修していること。	
	3.ルール・授業外学習の進め方 1)研究のプロセスにおける要点を理解しながら積極的に進めること。 2)関連文献を有効に活用し、主体的に研究活動を行うこと。	
	4.授業の進め方 1)必要に応じ、教材や参考文献、資料などを活用する。 2)授業方法は、研究のプロセスの要点を確認しながら進める。 3)到達目標に向け研究活動が効果的に積み重ねられるよう進める。	
	5.オンライン授業での出席登録方法・他 担当教員より連絡を受けること	
	6.その他 ■:実務経験に基づく内容を示す。	

科目名		保健統計学(保健師課程科目)						科目ナンバリング	NRP310・B		
英文名		Health Statistics						講義形態	講義		
担当教員		宮崎 有紀子									
科目に関連した実務経験											
学年・開講期		3 年 後期		選必・単位数		必修 1 単位					
履修が必須となる資格		保健師国家試験受験資格 選択必修科目									
学位授与方針との対応		1	人間理解と倫理観				0	国際理解			
		8	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
		0	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連		③16									
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○							○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		わが国の主要な衛生関係統計資料の概要、および公衆衛生看護活動の基盤となる健康指標について学び、地域の健康水準の把握方法を習得する。また、健康に関連するデータ解析に必要な統計学の知識を習得する。 授業は教科書と教員の作成するプリントを使って、要点をまとめていく。またパワーポイントにより図等の提示を行っていく。									
到達目標		1.地域診断に必要な統計資料の意義について理解でき、説明できる。 2.健康水準を表す指標について理解でき、説明できる。 3.データの整理、図表化、読み取り、考察ができる。 4.基礎的な統計処理について理解できる。									
使用教材		教科書 ・国民衛生の動向(厚生労働統計協会) ・看護師・保健師をめざす人のやさしい統計処理(実教出版)ISBN978-4-407-34953-5 ・講義の内容をプリントにて配布する									
参考文献		授業中に紹介する									
評価方法		小テスト 75%, 提出物(レポート) 25%, 総合評価 60%以上を合格とする									
課題に対するフィードバック		提出物にコメントをつけて返却する									
オフィスアワー (研究室)		授業の前後(非常勤講師室)				メールアドレス (#→@)		miyazaki-yu#gchs.ac.jp			
1	講義内容	統計の基礎 (1) 代表値とばらつき									
	該当到達目標	予習	「看護師・保健師をめざす人のやさしい統計処理」Part1-1～3 に目を通す							1 時間	
	4	復習	課題プリントで復習する							2 時間	
2	講義内容	統計の基礎 (2) 正規分布, 二項分布									
	該当到達目標	予習	「看護師・保健師をめざす人のやさしい統計処理」Part2-1～3 に目を通す							1 時間	
	4	復習	課題プリントで復習する							2 時間	
3	講義内容	統計の基礎 (3) 推定と検定									
	該当到達目標	予習	「看護師・保健師をめざす人のやさしい統計処理」Part2-4～7 に目を通す							1 時間	
	4	復習	課題プリントで復習する							2 時間	
4	講義内容	統計の基礎 (4) さまざまな検定手法									
	該当到達目標	予習	「看護師・保健師をめざす人のやさしい統計処理」Part2, Part3-1～3 に目を通す							1 時間	
	4	復習	課題プリントで復習する							2 時間	

5	講義内容	統計の基礎 (5) 2 変数データの分析		
	該当到達目標	予習	「看護師・保健師をめざす人のやさしい統計処理」Part3 に目を通す	1 時間
	4	復習	課題プリントで復習する	2 時間
6	講義内容	人口統計		
	該当到達目標	予習	「看護師・保健師をめざす人のやさしい統計処理」Part4-1～3 に目を通す	1 時間
	1,2	復習	課題プリントで復習する	2 時間
7	講義内容	保健統計調査(基幹統計等)		
	該当到達目標	予習	「看護師・保健師をめざす人のやさしい統計処理」Part4-4～7 に目を通す	1 時間
	2,3	復習	課題プリントで復習する	2 時間
8	講義内容	保健統計調査(保健医療福祉に関連する統計)		
	該当到達目標	予習	「看護師・保健師をめざす人のやさしい統計処理」Part1, Part4 に目を通す	1 時間
	1,2,3	復習	課題レポートを作成する	2 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	予習・復習については試験前の学習で補完すること オフィスアワー:授業の前後			

科目名	保健医療福祉行政論演習(保健師課程)						科目ナンバリング	NRP410・A		
英文名	Social Welfare and Policy in Health Care : Seminar						講義形態	演習		
担当教員	依田裕子 (演習)倉林 しのぶ・赤堀八重子・武居明美									
科目に関連した実務経験	保健師としての勤務経験: 県医務課及び保健所・こころの健康センターに勤務(依田), 県教育委員会・病院・事業所(倉林), 行政(町役場)(赤堀), 健康保険組合(武居)									
学年・開講期	4 年 前期	選必・単位数	必修・1 単位							
履修が必須となる資格	保健師国家試験受験資格 選択必修科目									
学位授与方針との対応	2	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	7	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	0	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	③16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○	○	○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①保健、医療、福祉に関連した関係法規と制度の基礎知識を学ぶとともに、地方自治体における保健計画策定・施策化・予算の仕組みについて学習する。また、演習を通して、関係機関、地区組織との連携・社会資源の開発、及び行政におけるヘルスケアシステムの構築と提供方法について学ぶ。 ②授業の進め方: 演習を中心に行う。テキストは補足的に活用し、また、補足的内容を含め教員が作成したパワーポイント及び資料を使い解説する。									
到達目標	1. 地方自治体における計画策定・施策化・予算のしくみについて理解できる。■ 2. 保健活動に関係する組織や関係者間の連携について理解できる。■ 3. 他区組織やグループ活動支援における保健師の役割について理解できる。■ 4. 住民を対象とする事業企画を想定し、保健事業企画から評価までの流れを理解できる。■									
使用教材	標準保健師講座 公衆衛生看護学概論: 医学書院 講義のスライドを随時プリントして配布する。									
参考文献										
評価方法	レポート 20% プレゼンテーション40% 演習参加度 40%から総合的に評価する									
課題に対するフィードバック	レポートや質問については次の回に全体に向けて回答・解説する、また、プレゼンテーションについてはその都度コメントする。									
オフィスアワー (研究室)	(依田)講義開始後に提示する				メールアドレス (#→@)	(依田)講義開始後に提示する (倉林)kura#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	地方自治体における計画策定・施策化・予算のしくみ■								
	該当到達目標	予習	テキストの該当箇所をみしておく							1.5 時間
	1, 2	復習	配布された資料のまとめ							1.5 時間
2	講義内容	職種および組織の連携・グループ支援■								
	該当到達目標	予習	テキストの該当箇所をみしておく							1.5 時間
	2, 3	復習	配布された資料のまとめ							1.5 時間
3	講義内容	演習: 保健事業企画－評価■								
	該当到達目標	予習	地域ケアシステムに関する 3 年次までのテキストを確認							1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	グループワークでの課題を検討							1.5 時間
4	講義内容	演習: 保健事業企画－評価■								
	該当到達目標	予習	事業計画策定の流れを確認する							1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	グループワークでの課題を検討							1.5 時間
5	講義内容	演習: 保健事業企画－評価■								
	該当到達目標	予習	事業計画策定の流れを確認する							1.5 時間

	1, 2, 3, 4	復習	グループワークでの課題を検討	1.5 時間
6	講義内容	演習: 保健事業企画－評価■		
	該当到達目標	予習	プレゼンテーション準備	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	プレゼンテーション準備	1.5 時間
7	講義内容	演習: プレゼンテーション		
	該当到達目標	予習	プレゼンテーション準備	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	実施したプレゼンテーションおよび教員からのコメントのまとめ	1.5 時間
8	講義内容	演習: プレゼンテーション まとめ		
	該当到達目標	予習	プレゼンテーション準備	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	実施したプレゼンテーションおよび教員からのコメントのまとめ	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	○履修条件: 保健師課程の必修科目である。本科目は「保健医療福祉行政論」「公衆衛生看護学概論Ⅰ・Ⅱ」および「公衆衛生看護活動論Ⅰ・Ⅱ」を履修していることが望ましい。 ■: 実務経験に基づく内容を示す			

科目名		公衆衛生看護活動論Ⅰ（保健師課程科目）						科目ナンバリング	NRP311・B		
英文名		Public Health Nursing I						講義形態	講義		
担当教員		赤堀八重子、武居明美、倉林しのぶ									
科目に関連した実務経験		保健師としての勤務経験 赤堀：行政（町役場）、武居：健康保険組合 倉林：都道府県教育委員会・病院・事業所（倉林）									
学年・開講期		3 年 後期		選必・単位数		必修 2 単位					
履修が必須となる資格		保健師国家試験受験資格 選択必修科目									
学位授与方針との対応		2 人間理解と倫理観				0 国際理解					
		6 論理的思考力・問題解決力				1 生涯学習力					
		1 チームの一員としての協調・協働									
SDGsとの関連		③ ⑬									
アクティブラーニング実施方法		PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
					○	○	○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		①講義の目標 地域住民の健康生活を支援する公衆衛生看護活動の考え方と展開方法・技術を学ぶ。母子、成人、高齢者等のライフサイクルに応じた個人と家族への支援、また集団を対象とした支援等、地域における保健師活動の実際を学習する。 ②講義の実施方法 ・授業は、教科書と教員の作成するパワーポイント、資料を使用し、説明を行っていく。 ・演習は、指導場面のロールプレイ、グループワーク及び質疑応答の形式で進める。									
到達目標		1.保健指導、家庭訪問、健康相談、健康教育、健康診査等における保健師活動の実際について理解する。■ 2.ライフサイクルにおける保健施策と保健師の役割について説明する。■ 3.演習を通して基本的な保健指導技術を習得する。■									
使用教材		保健学講座 公衆衛生看護支援技術、岸恵美子・平野かよ子・村嶋幸代、メジカルフレンド社（3,800 円） 最新保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動、松田正巳著、医学書院（3,300 円＋税） 最新保健師講座 2 公衆衛生看護技術、中村裕美子著、医学書院（3,200 円＋税）									
参考文献		公衆衛生看護学.jp 荒賀直子・後閑容子・鳩野洋子・神庭純子、インターメディカル（4,840 円） 標準保健師講座 公衆衛生看護学概論：医学書院 国民衛生の動向、厚生労働統計協会編、厚生労働統計協会（2,500 円税込）									
評価方法		試験 60%、演習・授業参加度（事前課題を含む）30%、授業態度 10%として総合的に評価する。 総合評価 60 点以上を合格とする。									
課題に対するフィードバック		演習では、教員からのアドバイスを適宜行う。 レポートには教員がコメントを入れて返却する。									
オフィスアワー （研究室）		赤堀：金曜日 13:00～16:15 武居：月曜日 10:00～13:00				メールアドレス （#→@）		赤堀：akabori#takasaki-u.ac.jp 武居：takei-a#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	対人支援活動の展開■									
	該当到達目標	1	予習	教科書「公衆衛生看護技術3章公衆衛生看護の基盤となる理論／4章対人支援活動の展開」を読んでおく。						1.5 時間	
		復習	対人支援の技術、ケースマネジメントについて振り返りを行う。						1.5 時間		
2	講義内容	家庭訪問による支援の展開■									
	該当到達目標	1	予習	教科書「公衆衛生看護技術5章家庭訪問による支援の展開」を読んでおく。						1.5 時間	
		復習	家庭訪問の流れについて確認を行う。家庭訪問で行う保健指導の方法について振り返りを行う。						1.5 時間		
3	講義内容	母子保健活動 母子保健施策・母子保健計画■									

	該当到達目標 2	予習	教科書「対象別公衆衛生看護活動」を読み、母子保健活動に関連する法律について確認しておく。	1.5 時間
		復習	母子保健活動における保健師の役割を確認する。	1.5 時間
4	講義内容	母子保健活動 乳幼児訪問、各種健康診査、予防接種 ■		
	該当到達目標	予習	教科書「対象別公衆衛生看護活動」を読み、母子保健活動における家庭訪問、健康診査、予防接種について確認しておく。 乳幼児の成長発達、乳幼児健診について確認しておく。	1.5 時間
	2	復習	母子保健活動における保健師の役割について振り返りを行う。	1.5 時間
5	講義内容	家庭訪問演習（新生児訪問） ■		
	該当到達目標	予習	教科書「対象別公衆衛生看護活動」を読み、新生児訪問、乳幼児の成長発達などを確認しておく。教科書「公衆衛生看護技術5章家庭訪問による支援の展開」を読み、家庭訪問の流れについて再確認しておく。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	演習を通して学んだことについてまとめる。	1.5 時間
6	講義内容	家庭訪問演習（新生児訪問） ■		
	該当到達目標	予習	教科書「対象別公衆衛生看護活動」を読み、新生児訪問、乳幼児の成長発達などを確認しておく。教科書「公衆衛生看護技術5章家庭訪問による支援の展開」を読み、家庭訪問の流れについて再確認しておく。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	演習を通して学んだことについてまとめる。	1.5 時間
7	講義内容	高齢者保健活動 ■		
	該当到達目標	予習	教科書「対象別公衆衛生看護活動」を読み、高齢者の健康課題、保健活動を確認しておく。	1.5 時間
	1, 2	復習	講義で学んだことを確認し、健康相談に必要な資料をまとめておく。	1.5 時間
8	講義内容	健康相談演習（高齢者） ■		
	該当到達目標	予習	健康相談に必要な基礎知識について確認し、まとめておく。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	健康相談に必要な保健師技術について振り返り、理解を深める。	1.5 時間
9	講義内容	健康相談演習（高齢者） ■		
	該当到達目標	予習	健康相談に必要な基礎知識について確認し、まとめておく。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	健康相談に必要な保健師技術について振り返り、理解を深める。	1.5 時間
10	講義内容	学校保健活動／産業保健活動		
	該当到達目標	予習	教科書「対象別公衆衛生看護活動第9章学校保健」を読んでおく。 対象別公衆衛生看護活動「第10章産業保健」を読んでおく。	1.5 時間
	1, 2	復習	学校保健における看護職の役割について理解を深める。 産業保健における保健師の役割について理解を深める。	1.5 時間
11	講義内容	地域組織活動の展開・地域ケアシステム（事例検討） ■		
	該当到達目標	予習	教科書「公衆衛生看護技術7章地域組織活動の展開／8章地域ケアシステム」を読んでおく。	1.5 時間
	1, 3	復習	事例検討を通して学んだことについてまとめる。	1.5 時間
12	講義内容	健康教育の展開 ■		
	該当到達目標	予習	教科書「公衆衛生看護技術6章健康教育の展開」を読んでおく。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	健康教育の技術、媒体、企画から評価までの一連の流れを確認しておく。	1.5 時間
13	講義内容	健康教育 演習（企画・立案・媒体作成） ■		
	該当到達目標	予習	教科書「公衆衛生看護技術6章健康教育の展開」を読んでおく。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	健康教育の展開方法等について確認を行う。	1.5 時間
14	講義内容	健康教育 演習（企画・立案・媒体作成） ■		
	該当到達目標	予習	健康教育の企画、立案、媒体作成に向け、参考資料を確認しておく。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	健康教育テーマに関する情報等の確認、教員からのアドバイスを確認する。	1.5 時間
15	講義内容	健康教育 演習（企画・立案・媒体作成） ■		
	該当到達目標	予習	健康教育の企画、立案、媒体作成に向け、参考資料を確認しておく。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	健康教育テーマに関する情報等の確認、教員からのアドバイスを確認する。	1.5 時間
合計時間（予習・復習）				45 時間
備考	●単位修得に必要な時間を満たしていない場合 ・記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 ●履修条件			

・保健師課程の必修科目である。

●オンラインの場合

1) 評価方法: オンライン授業参加度(30%)、演習態度・参加度(30%)、演習課題・レポート(40%)

2) 課題に対するフィードバック: レポートにはコメントをつけて返却する。小テストは解答・解説を公開する。

3) 出席登録: ①C-learning への出席登録 ②小テストまたはアンケート ①②で出席の確認を行う。

■: 実務経験に基づく内容を示す

科目名	公衆衛生看護活動論Ⅱ（保健師課程科目）							科目ナンバリング	NRP411・A	
英文名	Public Health NursingⅡ							講義形態	講義	
担当教員	赤堀八重子 倉林しのぶ 武居明美									
科目に関連した実務経験	保健師としての勤務経験： 行政〈町役場〉（赤堀）、都道府県教育委員会・病院・事業所（倉林） 健康保険組合（武居）									
学年・開講期	4 年 前期		選必・単位数		必修 2 単位					
履修が必須となる資格	保健師国家試験受験資格 選択必修科目									
学位授与方針との対応	2	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	6	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	316									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○	○	○	○			
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①講義の目標 地域住民の健康生活を支援する公衆衛生看護活動の考え方と展開方法・技術を学ぶ。地域住民へのヘルスニーズの把握方法とヘルスニーズに対応した地域保健活動の計画立案方法を理解する。 ②授業期間全体を通じた授業の進め方 ・授業は、教科書と教員の作成するパワーポイント、資料を使用し、説明を行っていく。 ・演習は、グループワーク、質疑応答の形式で進める。									
到達目標	1.基本的な保健指導技術を習得する。■ 2.保健活動の展開方法である地域診断について理解する。■ 3.地域の健康課題の解決に向けた保健事業計画を立案する。■ 4.公衆衛生看護活動における事業化の意義を理解する。									
使用教材	保健学講座 公衆衛生看護支援技術、岸恵美子・平野かよ子・村嶋幸代、メジカルフレンド社（3,800 円） 最新保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動、松田正巳著、医学書院（3,300 円＋税） 最新保健師講座 2 公衆衛生看護技術、中村裕美子著、医学書院（3,200 円＋税）									
参考文献	公衆衛生看護学.jp 荒賀直子・後閑容子・鳩野洋子・神庭純子、インターメディカル（4,840 円）									
評価方法	試験 60%、演習・授業参加度 30%、授業態度等 10%として総合的に評価する。 総合評価 60 点以上を合格とする。									
課題に対するフィードバック	講義で使用する既存資料、インターネットからの情報については、グループ（地区）ごとに解説する。 プラン検討時には助言を行う。									
オフィスアワー （研究室）	赤堀：金曜日 13:00～16:15 倉林：月曜日・火曜日の 11:00～13:00				メールアドレス （#→@）	赤堀：akabori#takasaki-u.ac.jp 倉林：kura#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	成人保健活動 ■								
	該当到達目標	予習	教科書「対象別公衆衛生看護活動」を読み、成人保健活動に関連する法律、特定健康診査・特定保健指導について確認しておく。						1.5	時間
	1	復習	特定健康診査・特定保健指導の実際について振り返りを行う。						1.5	時間
2	講義内容	保健指導演習（特定保健指導）								
	該当到達目標	予習	特定健康診査の結果の読み方、保健指導に必要な資料を確認しておく。						1.5	時間
	1	復習	効果的な保健指導を行うために必要な技術について理解を深める。						1.5	時間
3	講義内容	保健指導演習（特定保健指導）■								
	該当到達目標	予習	特定健康診査の結果の読み方、保健指導に必要な資料を確認しておく。						1.5	時間
	1	復習	効果的な保健指導を行うために必要な技術について理解を深める。						1.5	時間
4	講義内容	地域診断■								
	該当到達目標	予習	教科書「公衆衛生看護支援技術第5章から第9章」を読んでおく。						1.5	時間

	2, 4	復習	地域診断の流れをPDCA サイクルの視点で見直す。	1.5 時間
5	講義内容	演習	地域診断 既存資料からの情報収集■	
	該当到達目標	予習	視診を実施する地域についての情報を収集しておく。	1.5 時間
	2	復習	視診で得た情報をまとめる。	1.5 時間
6	講義内容	演習	地域診断 既存資料からの情報収集■	
	該当到達目標	予習	視診を実施する地域についての情報を収集しておく。	1.5 時間
	2	復習	視診で得た情報をまとめる。	1.5 時間
7	講義内容	演習	地域診断 地区視診■	
	該当到達目標	予習	視診を実施する地域についての情報を収集しておく。	1.5 時間
	2	復習	視診で得た情報をまとめる。	1.5 時間
8	講義内容	演習	地域診断 地区視診■	
	該当到達目標	予習	視診を実施する地域についての情報を収集しておく。	1.5 時間
	2	復習	視診で得た情報をまとめる。	1.5 時間
9	講義内容	演習	地域診断 地区視診■	
	該当到達目標	予習	視診を実施する地域についての情報を収集しておく。	1.5 時間
	2	復習	視診で得た情報をまとめる。	1.5 時間
10	講義内容	演習	地域診断 情報分析、アセスメント、健康課題の抽出■	
	該当到達目標	予習	視診で得た情報および既存資料からの情報を整理する。	1.5 時間
	2, 3	復習	整理しまとめた情報から導き出される課題を検討する。	1.5 時間
11	講義内容	演習	地域診断 情報分析、アセスメント、健康課題の抽出■	
	該当到達目標	予習	視診で得た情報および既存資料からの情報を整理する。	1.5 時間
	2, 3	復習	整理しまとめた情報から導き出される課題を検討する。	1.5 時間
12	講義内容	演習	地域保健活動計画立案■	
	該当到達目標	予習	導き出された課題と得られた情報を再度見直しプランを検討する。	1.5 時間
	2, 3	復習	検討されたプランが地域のニーズに結びついているか検討する。	1.5 時間
13	講義内容	演習	地域保健活動計画立案■	
	該当到達目標	予習	導き出された課題と得られた情報を再度見直しプランを検討する。	1.5 時間
	2, 3	復習	検討されたプランが地域のニーズに結びついているか検討する。	1.5 時間
14	講義内容	演習	地域保健活動計画立案■	
	該当到達目標	予習	導き出された課題と得られた情報を再度見直しプランを検討する。	1.5 時間
	2, 3	復習	検討されたプランが地域のニーズに結びついているか検討する。	1.5 時間
15	講義内容	発表・情報の共有、まとめ		
	該当到達目標	予習	PDCA サイクルに沿った発表方法を検討する。	1.5 時間
	2, 3, 4	復習	地域診断から導き出されるニーズとプラン、評価について理解する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	●単位修得に必要な時間を満たしていない場合 ・記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 ●履修条件 ・保健師課程の必修科目である。本科目は「公衆衛生看護活動論Ⅰ」を履修していることが望ましい。 ●オンラインの場合 1) 評価方法: オンライン授業参加度(10%)、演習態度・レポート(課題)30%、小テストなどによる試験(60%) 2) 課題に対するフィードバック: レポートにはコメントをつけて返却する。小テストは解答・解説を公開する。 3) 出席登録: ①C-learning への出席登録 ②小テストまたはアンケート ①②で出席の確認を行う。 ■: 実務経験に基づく内容を示す			

科目名	公衆衛生看護学実習Ⅰ（保健師課程科目）						科目ナンバリング	NRP312・B		
英文名	Public Health Nursing: Practicum I						講義形態	実習		
担当教員	赤堀八重子 武居明美 倉林しのぶ									
科目に関連した実務経験	保健師としての勤務経験： 行政(町役場)(赤堀)、健康保険組合(武居) 都道府県教育委員会・病院・事業所(倉林)									
学年・開講期	3 年 後期	選必・単位数	保健師必修1単位							
履修が必須となる資格	保健師国家試験受験資格 選択必修科目									
学位授与方針との対応	2	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	3	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	4	チームの一員としての協調・協働								
SDGsとの関連	③16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○		○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①講義の目標 地域で生活する人々の生活の場の特徴に応じた個人・集団の健康課題を把握し、保健師をはじめとする保健活動に携わる看護職の役割を学ぶ。また、環境と健康課題の関係性を把握し、課題解決に向けた保健事業および保健活動における一連の展開プロセスを学習する。 ②実施方法 群馬県内の産業現場および学校において5日間の実習を行う。産業現場では、3日間(施設見学1日、健康教育の実施2日間)、学校では1日の実習を行う。学内実習は1日である。健康教育はグループで行う。学内実習の振り返り等をカンファレンス形式で行う。									
到達目標	《産業保健》 1. 事業場の見学を通して労働環境や安全衛生活動の実際について理解する 2. 事業場における健康課題とその対策についての知識を習得する 3. 保健指導技術のひとつである健康教育の目的および役割を理解する■ 4. 健康教育の対象者の特徴および労働環境下における健康課題を把握し、健康教育を企画・立案し、実施、評価する。■ 5. 健康教育の実践を通して、公衆衛生看護に携わる看護職としての責任感、態度を修得する。 《学校保健》 1. 生活の場である実習先(学校)の特徴および生活者(生徒)の発達段階および健康課題を把握する。 2. 養護教諭の主な業務である保健管理・保健教育・健康相談・保健室経営などの業務を理解する。 3. 学校保健における組織活動の実際および看護職(養護教諭)の役割について学習する。 4. 学校保健活動における看護職としての基本的知識や態度を学習する。									
使用教材	最新保健師講座対象別公衆衛生看護活動 3 松田正巳著、医学書院(3,300 円＋税) 実施する健康教育のテーマに関する資料									
参考文献	公衆衛生看護活動Ⅱ 学校保健・産業保健, 荒木田美香子, 医歯薬出版株式会社(4,400 円税込)									
評価方法	実習 90%(準備、実施、実習態度、報告会参加度、記録物など)、レポート 10% オンラインの場合は実習開始前に評価方法について提示する									
課題に対するフィードバック	健康教育の実践に向けた健康教育計画書等の資料については、教員が確認し、口頭及びコメントを付して、返却する。 オンラインの場合も同様に、C-learning 等を活用してコメントをフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	赤堀:金曜日 13:00～16:15 武居:月曜日 10:00～13:00				メールアドレス (#→@)		赤堀:akabori#takasaki-u.ac.jp 武居:takei-a#takasaki-u.ac.jp			
講義内容	群馬県内の産業現場および学校において5日間の実習を行う。産業現場では、労働環境や安全衛生活動の実際を学ぶ。健康教育はグループで企画・立案・実践・評価を行う。グループワークには積極的に参加し、情報共有を図ったうえで企画に結びつけること。健康教育の実践は、産業現場で実施する■。 ※健康教育のテーマは、グループにより異なるが、次に掲げる事項を視点におき実習を行う。健康教育計画書や媒体の作成に関しては、担当教員から適宜指導を受ける。1)企業や事業場の見学を通して、労働の場の特徴や業務の概要を知る。2)産業現場で活動する産業保健師や衛生管理者との関わりや									

	指導の中で、労働者の特徴やニーズを理解する。3)対象に合ったテーマを選定し、健康教育の企画立案を行う。4)対象の特徴や条件を考慮した健康教育の運営を行う。5)対象にあわせた媒体を使用し、効果的な健康教育を実施する。6)実施した健康教育を評価する。 ※オンラインの場合の実習内容については別途連絡となる。		
	予習	健康教育の目的、成人期の保健活動、産業保健活動、学校保健、健康教育のテーマに関する資料の確認、健康教育等の評価法の確認	適宜 時間
	復習	産業保健、学校保健での学びの確認。 健康教育テーマに関する情報等の確認、教員や指導者からのアドバイスの確認、健康教育を実施して学んだことについてのまとめ、報告会用資料準備	適宜 時間
合計時間(予習・復習)			時間
備考	●履修条件 ・3年次後期までに開講されている看護専門科目群及び保健師資格に関わる必修科目の単位をすべて修得していること。 ■:実務経験に基づく内容を示す		

科目名	公衆衛生看護学実習Ⅱ（保健師課程科目）						科目ナンバリング	NRP412・A		
英文名	Public Health Nursing: PracticumⅡ						講義形態	実習		
担当教員	倉林しのぶ 赤堀八重子 武居明美									
科目に関連した実務経験	保健師としての勤務経験： 都道府県教育委員会・病院・事業所（倉林）、行政（町役場）（赤堀）健康保険組合（武居）									
学年・開講期	4 年 前期		選必・単位数		必修3単位					
履修が必須となる資格	保健師国家試験受験資格 選択必修科目									
学位授与方針との対応	2	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	5	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	2	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	③16									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①地域社会で生活する住民や家族の保健ニーズと地域の健康課題を包括的にとらえ、課題を解決するための公衆衛生看護活動の基本的実践方法を習得する。 ②実習期間全体を通じた実習の進め方 ・保健所実習4日間、市町村実習8日間、学内実習3日間である。 ・学内実習は、主にグループワークの形式で進める。 ・市町村において実施する健康教育は、事前に担当教員が指導を行う。									
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○	○	○	○		
到達目標	1.公衆衛生に関連する法・制度を理解できる。■ 2.保健所・保健福祉事務所および市町村の役割・機能を理解できる。■ 3.保健所・保健福祉事務所に所属する保健師、および市町村に所属する保健師の役割・機能を理解できる。■ 4.地域住民の生活や保健に関する情報から、地域特性を把握し、健康課題を抽出することができる。■ 5.保健所、市町村で行われている保健事業に参加体験し、各種保健事業の目的や展開プロセスについて理解することができる。■ 6.公衆衛生看護活動における他職種（事務職、福祉職、医療職など）や関係機関との連携の実際を知り、その必要性を理解できる。■									
使用教材	各保健所・市町村における保健事業計画など									
参考文献	最新保健師講座対象別公衆衛生看護活動 3 松田正巳著、医学書院(3,300 円＋税) 最新保健師講座 2 公衆衛生看護技術、中村裕美子著、医学書院(3,200 円＋税)公衆衛生看護学. jp 荒賀直子・後閑容子・鳩野洋子・神庭純子、インターメディカル(4,840 円) 保健学講座 公衆衛生看護支援技術、岸恵美子・平野かよ子・村嶋幸代、メジカルフレンド社(3,800 円) 国民衛生の動向、厚生労働統計協会編、厚生労働統計協会(2,500 円税込) その他事業に関する資料等									
評価方法	実習 80%(事前学習、準備、実習態度、カンファレンス参加度、記録物など)、レポート 20% 施設実習不可の場合の評価方法については、実習開始前に提示する。									
課題に対するフィードバック	記録に関しては実習指導者および教員が確認し、コメントまたは確認印を押して返却する。 実習報告会に向けて作成した資料は資料集として当日配布を予定している。 オンラインの場合は、Meet 等を利用してフィードバックを行う。									
オフィスアワー (研究室)	倉林:月曜日・火曜日 11:00～13:00 赤堀:金曜日 13:00～16:15				メールアドレス (#→@)		倉林:kura#takasaki-u.ac.jp 赤堀:akabori#takasaki-u.ac.jp			
講義内容	群馬県内の保健所および市町村において、3週間の実習を行う。保健所では主に広域的・専門的な公衆衛生看護活動の実際を学ぶ。市町村では地域の特性と地域に暮らす人々の健康課題を把握し、市町村で展開される公衆衛生看護活動の実際を学ぶ。									

	保健所・市町村それぞれの公的機関としての機能・役割および保健師の機能・役割を理解し、公衆衛生看護活動について総合的に学ぶ。 ※実習内容の詳細は配属される実習先により異なるが、次に掲げる事項について学生は実習指導者による指導を受ける。 1) 保健所および関係職種、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションなどの円滑な人間関係の形成について 2) 個人および家族、地域住民との援助関係の形成、個人および家族、地域住民への権利擁護及び支援(エンパワメントを含む。)とその評価。 3) 多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際や根拠法に基づくサービスの実際、行政組織の一員としての役割と責任への理解■ ※施設実習不可の場合の実習内容については別途連絡します。		
	予習	実習先に関する予習、参加する事業の根拠法等、実習指導で準備した資料の確認	適宜 時間
	復習	事業の根拠法の確認、実習先で教わったこと得た体験のまとめ、報告会用資料準備	適宜 時間
	合計時間(予習・復習)		時間
備考	○履修条件:3年次後期までに開講されている看護専門科目群及び保健師資格に関わる必修科目の単位をすべて修得していること。 ■:実務経験に基づく内容を示す		

科目名	学校保健Ⅱ（養護教諭課程）						科目ナンバリング	NRT320・B		
英文名	School Health Theory Ⅱ						講義形態	講義		
担当教員	北原 恵美・尾内 雅子									
科目に関連した実務経験	養護教諭として小学校・中学校・特別支援学校に勤務（経験）									
学年・開講期	3 年 後期	選必・単位数	選択・1 単位							
履修が必須となる資格	養護教諭一種免許 選択必修科目									
学位授与方針との対応	3	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	5	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	3 16									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○		○		○		
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①学校保健の目的・意義を理解するとともに、保健管理・保健教育に関する基礎的知識と技術を習得して、養護教諭として学校保健活動をすすめるために必要な実践力の基礎を身に付ける。 ②講義、演習、グループワークを実施する。									
到達目標	1. 保健教育の内容及機会、教職員の役割について理解する。 2. 保健指導案を作成し模擬授業を実施することができる。■ 3. 保健管理の内容及教職員の役割を理解するとともに、養護教諭として必要な基礎的知識と技術を修得している。 ■									
使用教材	「学校保健マニュアル 改訂10版」編集 衛藤 隆 植田誠治 南山堂 「新養護概説〈第12 版〉」采女智津江 少年写真新聞社 「学校救急処置」監修 草川 功 一般社団法人 農山漁村文化協会									
参考文献	「児童生徒等の健康診断マニュアル 平成27年度改訂」文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課 監修 日本学校保健会 「改訂版 学校環境衛生管理マニュアル 学校環境衛生基準の理論と実践」日本学校保健会 教員採用試験対策 ステップアップ問題集11 専門教科・養護教諭 東京アカデミー									
評価方法	1. 通常授業及びオンライン授業：提出物（指導案、ワークシート：50%）授業への参加内容（模擬授業、技術演習、学校保健委員会：50%）									
課題に対するフィードバック	指導案及びワークシートにはコメントをつけて返却する。（対面講義でもオンライン講義でも同様）									
オフィスアワー（研究室）	月・水・金曜日の3限4限				メールアドレス （#→@）	m-onai#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	現代的な健康課題及び健康教育 ■ ・現代的健康課題を予防するための対策について考える。 ・保健学習・保健指導の位置づけ・内容を学ぶ。								
	該当到達目標	予習	教科書及び配布資料により予習を行う。							1.5 時間
	1	復習	現代的健康課題に対する予防（健康教育・ライフスキル教育）について整理し理解を深める。							1.5 時間
2	講義内容	保健教育（1）：保健指導案 ・作成の方法や留意点について学ぶ。								
	該当到達目標	予習	教科書及び配布資料により予習を行う。							1.5 時間
	1.2	復習	保健指導案の作成上のポイントを整理する。							
3	講義内容	保健教育（2）：保健指導の構想（指導案・教材の作成）								
	該当到達目標	予習	実習校での養護実習を想定して保健指導の資料を収集する。							1.5 時間
	1.2	復習	模擬授業への実践に向けて準備をする。							1.5 時間

4	講義内容	保健教育(3): 模擬授業の実践		
	該当到達目標	予習	教科書及び配布資料により予習を行う。	1.5 時間
	1.2	復習	模擬授業の実践を振り返り、課題を明らかにし修正を行い、指導案を提出する。	1.5 時間
5	講義内容	保健教育(4): 保健だよりの作成・発表		
	該当到達目標	予習	教科書及び配布資料により予習を行う。	1.5 時間
	1	復習	保健だよりを作成して提出する。	1.5 時間
6	講義内容	保健教育(5): 保健だよりと関連づけた掲示物の作成と発表		
	該当到達目標	予習	教科書及び配布資料により予習を行う。	1.5 時間
	1	復習	保健だよりと関連づけた掲示物を作成して提出する。	1.5 時間
7	講義内容	保健管理(1): 「救急処置」: 外科的対応		
	該当到達目標	予習	教科書及び配布資料により予習を行う。	1.5 時間
	3	復習	外科的対応の基礎的な技術を確認する。	1.5 時間
8	講義内容	保健管理(2): 救急処置: 内科的対応		
	該当到達目標	予習	教科書及び配布資料により予習を行う。	1.5 時間
	3	復習	内科的対応の基礎的な技術を確認する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	1. 単位修得に必要な時間数を満たしていない場合 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 2. 授業は教科書と教員の作成するプリントを使って、要点をまとめていく。 3. パワーポイントによる図の提示を行っていく。また事例を示しグループワークにより課題解決学習も取り入れる。 4. オンライン授業での出席の登録・確認 出席の登録方法については、C-learning の「協働版」で確認すること。 ■: 実務経験に基づく内容を示す			

科目名	養護概説(養護教諭課程)							科目ナンバリング	NRT221・B	
英文名	School Health Nursing							講義形態	講義	
担当教員	北原 恵美, 尾内 雅子,小原 成美									
科目に関連した実務経験	養護教諭として小学校・中学校・特別支援学校に勤務(経験)									
学年・開講期	2 年 後期		選必・単位数		必修 2 単位					
履修を必須とする資格	養護教諭一種免許 選択必修科目									
学位授与方針との対応	3	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	5	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	③16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○			○		○		○	○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	学校保健を推進する中核的役割を持つ養護教諭の職務と機能、役割を理解し、児童生徒の健康問題の解決方法と技術について、専門的・実践的に学習する。									
到達目標	1.養護教諭の本質や概念、職務内容について、説明することができる。 ■ 2.保健教育・保健管理・組織活動の内容を説明することができる。 ■ 3.保健指導案を作成し実施することができる。 4. 理想の養護教諭像について述べることができる									
評価方法	筆記試験(60%)、提出物、授業への参加内容(40%)(対面講義でもオンライン講義でも同様)									
使用教材	「新養護概説〈第12 版〉」采女智津江 少年写真新聞社 「児童生徒等の健康診断マニュアル 平成27年度改訂」 文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課 監修 日本学校保健会									
参考文献	「改訂版 学校環境衛生管理マニュアル 学校環境衛生基準の理論と実践」 日本学校保健会									
課題に対するフィードバック	レポート及びワークシートにはコメントをつけて返却する(対面講義でもオンライン講義でも同様) 作成した指導案は冊子にして配布する									
オフィスアワー (研究室)	月曜日の3限・4限				メールアドレス (#→@)	m-onai@takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	養護教諭制度の沿革と職務内容の変遷 ■ 「養護」の概念								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する							1.5 時間
	1.4	復習	養護教諭の制度の変遷、養護教諭の職務・役割の変遷について理解する。 養護教諭の語りから「養護」について整理し理解を深める。							1.5 時間
2	講義内容	現代的健康課題を抱える子供たちへの支援と養護教諭に求められる役割								
	該当到達目標	予習	教科書及び配布されたプリントに目を通す							1.5 時間
	1.4	復習	現代的健康課題を理解するとともに、関係法規や答申等から養護教諭に求められている役割について理解する							1.5 時間
3	講義内容	保健室の経営と運営 ■								
	該当到達目標	予習	教科書及び配布されたプリントに目を通す							1.5 時間
	2	復習	保健室の機能及び保健室経営に果たす養護教諭の役割を理解し、保健室経営計画を作成できるようにする							1.5 時間
4	講義内容	保健管理活動と養護教諭(1):救急処置 ■								

		・ミニ演習:三角巾法・包帯法・体位		
	該当到達目標	予習	教科書及び配布されたプリントに目を通す	1.5 時間
	2	復習	学校における救急処置の目的、適切な見極めと判断、救急体制づくりについて理解するとともに、内科的訴え・外科的な外傷に対して適切な手当てができるようにする。	1.5 時間
5	講義内容	保健管理活動と養護教諭(2):健康診断■ ・ミニ演習:身長測定・視力測定・聴力検査・色覚検査・歯科検診		
	該当到達目標	予習	教科書及び配布されたプリントに目を通す	1.5 時間
	2	復習	健康診断の実施方法及び留意点を整理し理解する	1.5 時間
6	講義内容	保健管理活動と養護教諭(3)健康観察と疾病管理 ■		
	該当到達目標	予習	教科書及び配布されたプリントに目を通す	1.5 時間
	2	復習	健康観察及び疾病管理の実施方法と留意点について理解する。感染症情報管理システムや学校生活管理指導表の活用の実際について理解する。	1.5 時間
7	講義内容	保健管理活動と養護教諭(4)精神保健・健康相談■		
	該当到達目標	予習	教科書及び配布されたプリントに目を通す	1.5 時間
	2	復習	子どもの心の健康問題と対応に当たっての留意点、健康相談及び教育相談の基本的な考え方と専門職及び外部機関の連携を含めた養護教諭の役割を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	保健管理活動と養護教諭(5):学校環境衛生・安全管理■ ・ミニ演習:水質検査・照度測定		
	該当到達目標	予習	教科書及び配布されたプリントに目を通す	1.5 時間
	2	復習	学校環境衛生及び安全に関する具体的な活動及び、養護教諭の役割を理解する	1.5 時間
9	講義内容	健康課題解決に向けた養護教諭の役割の実際(1) ・特別支援学校		
	該当到達目標	予習	教科書に目を通す	1.5 時間
	1, 4	復習	特別支援学校及び特別支援教育について整理し、理解を深める	1.5 時間
10	講義内容	健康課題解決に向けた養護教諭の役割の実際(2) ・小学校		
	該当到達目標	予習	小学生の発達や健康課題について調べておく	1.5 時間
	1.4	復習	小学校における健康課題や養護教諭の役割について整理し理解する	1.5 時間
11	講義内容	健康課題解決に向けた養護教諭の役割の実際(3) ・中学校		
	該当到達目標	予習	中学生の発達や健康課題について調べておく	1.5 時間
	1.4	復習	中学校における健康課題や養護教諭の役割について整理し理解する	1.5 時間
12	講義内容	保健教育(1):ICT 活用と養護教諭		
	該当到達目標	予習	教科書及び配布されたプリントに目を通す	1.5 時間
	1.3	復習	学校保健活動における ICT の活用について整理し、理解する	1.5 時間
13	講義内容	保健教育(2):集団における保健指導の構想と指導案の作成・準備～幼稚園児対象～		
	該当到達目標	予習	過去3年間の実習報告書に掲載されている指導案に目を通す 構想した指導案をもとに教材のアイデアスケッチ及び作成を行う	1.5 時間
	1.3	復習	構想した保健指導の指導案を作成する 教材の準備をする	1.5 時間
14	講義内容	保健教育(3):保健指導の実践～幼稚園児対象～		
	該当到達目標	予習	保健指導を実施できるよう準備する	1.5 時間

	1.3	復習	保健指導を振り返り、改善点を整理する	1.5 時間
15	講義内容	保健指導の振り返り・保健組織活動 ・保健指導の振り返りの共有 ・学校における保健組織活動		
	該当到達目標	予習	学校における組織活動について調べておく	1.5 時間
	1.4	復習	児童生徒の組織活動について整理し、養護教諭の役割について理解を深める	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	1.単位修得に必要な時間数を満たしていない場合 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 2. 授業は教科書と教員が作成した資料を使って、要点をまとめたり、演習やグループワークをして実践力を培う。 3. パワーポイントによる図の提示を行っていく。適時グループワークを取り入れる。 4. 作成した保健指導案の提出 1 回。 5. オンライン授業での出席の登録・確認 出席の登録方法については、C-learning の「協働版」で確認すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す			

科目名	健康相談 I（養護に関する科目）							科目ナンバリング	NRT321・B	
英文名	Health Counseling I							講義形態	講義	
担当教員	高橋 千明									
科目に関連した実務経験	・養護教諭として小学校・中学校に勤務 ・指導主事として群馬県教育委員会・高崎市教育委員会に勤務（経験）									
学年・開講期	3 年 後期	選必・単位数	選択・1 単位							
履修を必須とする資格	養護教諭一種免許 選択必修科目									
学位授与方針との対応	3	人間理解と倫理観					0	国際理解		
	5	論理的思考力・問題解決力					1	生涯学習力		
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	3 16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○		○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	健康相談の基礎的知識・技術を踏まえ、保健室における健康相談を進める上での必要な実践力を養う。									
到達目標	1.養護教諭の行う健康相談の特徴が理解できる。 2.ヘルスカウンセリングや教育相談で学んだ知識・スキルを健康相談に生かすことができる。■ 3.関係者と連携した支援の在り方を考えられる。■									
使用教材	「養護教諭の行う健康相談」大谷直子 東山書房									
参考文献										
評価方法	定期試験（70％）講義及びグループワークへの参加度・貢献度（30％） （対面授業・オンライン授業とも同様）									
課題に対するフィードバック	レポートにコメントを付け返却する（対面授業・オンライン授業とも同様）。									
オフィスアワー (研究室)	授業前後で対応する。					メールアドレス (#→@)	c-takahashi#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	養護教諭と健康相談								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読み講義の目標などを理解する。教科書p14～27 に目を通す。						1.5	時間
	1	復習	養護教諭の役割と活動・職務における健康相談・健康相談の概念を理解する						1.5	時間
2	講義内容	健康相談と保健室								
	該当到達目標	予習	教科書p28～37 に目を通す						1.5	時間
	1.2	復習	健康相談の基礎と背景・養護教諭と保健室について理解する						1.5	時間
3	講義内容	事例からみる健康相談の過程・対象理解と見立て ■								
	該当到達目標	予習	教科書p40～64 に目を通す						1.5	時間
	2	復習	健康相談に活用できるカウンセリング理論と技術を理解する						1.5	時間
4	講義内容	子どもへの支援のための方法と協働 ■								
	該当到達目標	予習	教科書p65～82 に目を通す						1.5	時間
	2.3	復習	支援体制と学校内外の連携と法律を理解する						1.5	時間
5	講義内容	場面や「問題」に応じた健康相談の進め方 ■								
	該当到達目標	予習	教科書p83～95 に目を通す						1.5	時間

	1.2.3	復習	保健室での子供理解の方法と保健室来室者への対応について理解する	1.5 時間
6	講義内容	健康相談の記録 ■		
	該当到達目標	予習	教科書p116～126 に目を通す	1.5 時間
	1.2	復習	記録の意義・目的・管理と個人情報について理解する。	1.5 時間
7	講義内容	健康相談に必要な力量と学びの方法 ■		
	該当到達目標	予習	教科書p127～146 に目を通す	1.5 時間
	1.2	復習	健康相談を円滑にすすめるために養護教諭に求められる力量を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	まとめ 定期試験		
	該当到達目標	予習	教科書や配布資料を読み返し、全体を復習する。	1.5 時間
	1.2.3	復習	教科書や配布資料を読み返し、全体を復習する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	1.単位修得に必要な時間数を満たしていない場合 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 2. 授業は教科書と教員が作成した資料を使って、要点をまとめたり、演習やグループワークをして実践力を培う。 3. 事例を通し、学校が抱える課題をとらえ、養護教諭の役割を理解する。 4. ワークシート及びレポート作成を通し、健康相談を構築する。 5. オンライン授業での出席の登録・確認 出席の登録方法については、C-learning の「協働版」で確認すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す			

科目名	健康相談Ⅱ（養護に関する科目）							科目ナンバリング	NRT420・A	
英文名	Health CounselingⅡ							講義形態	講義	
担当教員	高橋 千明									
科目に関連した実務経験	・養護教諭として小学校・中学校に勤務 ・指導主事として群馬県教育委員会・高崎市教育委員会に勤務（経験）									
学年・開講期	4年 前期	選必・単位数	選択・1単位							
履修を必須とする資格	養護教諭一種免許 選択必修科目									
学位授与方針との対応	3	人間理解と倫理観					0	国際理解		
	5	論理的思考力・問題解決力					1	生涯学習力		
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGsとの関連	③16									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○	○	○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	健康相談の基礎的知識・技術を踏まえ、保健室における健康相談を進める上での必要な実践力を身に付ける									
到達目標	1.養護教諭の行う健康相談の特徴が理解できる 2.ヘルスカウンセリングや教育相談で学んだ知識・スキルを健康相談に生かすことができる■ 3.関係者と連携した支援の在り方を考えられる■									
使用教材	「養護教諭の行う健康相談」大谷直子 東山書房 講義内容・ワークシートを随時プリントして配布									
参考文献										
評価方法	講義及びグループワークへの参加度・貢献度(30%)・課題レポート(70%)									
課題に対するフィードバック	レポート及びワークシートにはコメントを付け返却する（対面授業・オンライン授業とも同様）。									
オフィスアワー （研究室）	授業前後で対応する。					メールアドレス （#→@）	c-takahashi#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	健康相談Ⅰの振り返り 虐待・いじめの理解と支援・対応■								
	該当到達目標	予習	健康相談1の講義資料及び、教科書 101～107pに目を通す						1.5 時間	
	1.2.3	復習	虐待といじめとその対応について理解する						1.5 時間	
2	講義内容	発達障害を持つ子どもの理解とその対応■								
	該当到達目標	予習	教科書 98～101p・107～110pに目を通す						1.5 時間	
	1.2.3	復習	発達障害とその対応について理解する						1.5 時間	
3	講義内容	不登校・保健室登校の理解とその対応■								
	該当到達目標	予習	教科書 110～115pに目を通す						1.5 時間	
	1.2.3	復習	不登校・保健室登校とその対応について理解する						1.5 時間	
4	講義内容	慢性疾患の理解と対応■ 実技演習の進め方								
	該当到達目標	予習	教科書 96～98pに目を通す						1.5 時間	
	1.2.3	復習	慢性疾患とその対応について理解する						1.5 時間	
5	講義内容	健康相談の演習 ■								
	該当到達目標	予習	教科書 156～187pと配布されたプリントに目を通す						1.5 時間	

	1.2.3	復習	学んだ知識を活かし教育実習に向けて実践力を身に付ける	1.5 時間
6	講義内容	健康相談の演習発表活動■		
	該当到達目標	予習	グループ別発表の準備	1.5 時間
	1.2.3	復習	発表活動で共有した知識や技法を、教育実習に活かす	1.5 時間
7	講義内容	事例検討(研究)の意義と進め方		
	該当到達目標	予習	教育実習での健康相談事例の概要をまとめておく	1.5 時間
	1.2.3	復習	事例検討の意義と方法について理解する	1.5 時間
8	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	健康相談で学んだことをまとめて発表できるよう準備しておく	1.5 時間
	1.2.3	復習	健康相談を行う上で必要な資質能力を理解し、自分の得意とする分野と、今後の課題を明確にする。課題に対するレポートを作成し提出する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	1.単位修得に必要な時間数を満たしていない場合 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 2. 教科書と自作のパワーポイントを活用し理論の理解を深める。 3. 事例を通し、学校が抱える課題をとらえ、養護教諭の役割を理解する。 4. 事例ごとにロールプレイ等の演習を実施し体験を通しスキルアップを図る。 5. オンライン授業での出席の登録・確認 出席の登録方法については、C-learning の「協働版」で確認すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す			

科目名	教職論(教職科目)							科目ナンバリング	NRT121・B	
英文名	Theory of Teacher's Profession							講義形態	講義	
担当教員	深見 匡									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする資格	養護教諭一種免許状									
学位授与方針との対応	3	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	5	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働				－				
SDGs との関連	4 10 16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○					○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 現代社会における教職の意義、教員の役割、資質・能力、職務内容の基礎について理解し、基礎的な実践ができるようになること。また、教職に対する自身の適性を理解し、適切な進路選択ができるようになること。 ② 授業の進め方はテキストを中心に講義形式で行い、必要に応じて映像資料やグループワークを用いる。授業の詳細は学生の状況や意見に応じて適宜必要な修正を行う。									
到達目標	1. 現代の学校教育や教職の社会的意義について説明できる。 2. 教員の役割や資質・能力について説明でき、基礎的な実践ができる。 3. 教員の職務内容や教員の服務上・身分上の義務について説明でき、基礎的な実践ができる。 4. 現代の学校が学校内外の専門家と連携する必要について説明できる。 総じて豊かな人間性、教職者に求められる資質・能力、適性の基礎を身に付ける。									
使用教材	毎回講義用のテキスト・資料を配布する。									
参考文献	必要なものは授業時に適宜指示する。									
評価方法	定期試験 70%、平常点 30%(レポート提出、授業態度など)で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。詳細は初回授業や授業時の試験解説で指示する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	レポートは必要に応じてコメントを付して返却する。定期試験については試験後、関連講義において解説する。その他質疑には適宜対応する。									
オフィスアワー (研究室)	月曜 4 限、水曜 4 限 1 号館 307				メールアドレス (#→@)		fukami#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス、現代における学校教育や教員の社会的意義について								
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、講義目標・講義内容・評価方法などを理解する。						1.5	時間
	1	復習	講義内容について整理し、指示された課題に取り組む。						1.5	時間
2	講義内容	現代における学校教育や教員の社会的意義、教員の職業的特徴について								
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。						1.5	時間
	1,2	復習	講義内容について整理し、指示された課題に取り組む。						1.5	時間
3	講義内容	教員の役割と資質・能力について(歴史)								
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。						1.5	時間
	1,2	復習	講義内容について整理し、指示された課題に取り組む。						1.5	時間
4	講義内容	教員の役割と資質・能力について(現代)								
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。						1.5	時間
	1,2	復習	講義内容について整理し、指示された課題に取り組む。						1.5	時間
5	講義内容	教育法と教員の職務や義務① 日本国憲法・教育基本法								

	該当到達目標 1,2,3	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
		復習	講義内容について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
6	講義内容	教育法と教員の職務や義務② 学校教育法		
	該当到達目標 1,2,3	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
		復習	講義内容について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
7	講義内容	教育法と教員の職務や義務③ 教育公務員特例法		
	該当到達目標 1,2,3	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
		復習	講義内容について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
8	講義内容	学校教育と教員の職務や義務④ 教育課程(学習指導要領等)		
	該当到達目標 1,2,3	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
		復習	講義内容について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
9	講義内容	学校教育と教員の職務や義務⑤ 教育課程(各教科・領域他)		
	該当到達目標 1,2,3	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
		復習	講義内容について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
10	講義内容	学校教育と教員の職務や義務⑥ 研修他		
	該当到達目標 1,2,3	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
		復習	講義内容について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
11	講義内容	学校教育と教員の職務や義務⑦ 学校運営(チームとしての学校)		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
		復習	講義内容について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
12	講義内容	現代的な教育課題と教員の職務や義務① 学力問題		
	該当到達目標 2,3,4	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
		復習	講義内容について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
13	講義内容	現代的な教育課題と教員の職務や義務② 生徒指導		
	該当到達目標 2,3,4	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
		復習	講義内容について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
14	講義内容	現代的な教育課題と教員の職務や義務③ 教育改革動向		
	該当到達目標 2,3,4	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
		復習	講義内容について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
15	講義内容	教員の資質・能力と自身の適性について考える		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
		復習	講義内容について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	・状況によりオンラインで実施する場合は C-Learning で行う。 ・教員免許状取得のための必修科目。			

科目名	教育基礎論(教職科目)							科目 ナンバリング	NRT222・B	
英文名	Principles of Education							講義形態	講義	
担当教員	深見 匡									
科目に関連した 実務経験										
学年・開講期	2 年 後期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする 資格	養護教諭一種免許状									
学位授与方針 との対応	3	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	5	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	4 10 16									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○					○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 教育の基本的概念、教育の理念、教育に関する歴史及び思想に関わる基礎的知識について理解し説明ができ、また、教員に求められる基礎的な資質・能力について理解し説明ができる。 ② 授業の進め方はテキストを中心に講義形式で行い、必要に応じて映像資料やグループワークを用いる予定。授業の詳細は学生の状況や意見に応じて適宜必要な修正を行う。									
到達目標	1. 教育の基本的概念について理解し、説明できる。 2. 教育に関する歴史の基礎的知識について理解し、説明できる。 3. 教育に関する思想の基礎的知識について理解し、説明できる。 4. 現代的な教育課題について理解し、考察できる。 総じて豊かな人間性、教職者に求められる資質・能力、適性の基礎を身に付ける。									
使用教材	毎回講義用のテキスト・資料を配布する。									
参考文献	必要なものは授業時に適宜指示する。									
評価方法	定期試験 70%、平常点 30%(レポート提出、授業態度など)で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。詳細は初回授業や授業時の試験解説で指示する。									
課題・評価に対する フィードバック方法	レポートは必要に応じてコメントを付して返却する。定期試験については試験後、関連講義において解説する。その他質疑には適宜対応する。									
オフィスアワー (研究室)	月曜 4 限、水曜 5 限 1 号館 307				メールアドレス (#→@)		fukami#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス								
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、講義目標・講義内容・評価方法などを理解する。							1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容について整理し、指示された課題に取り組む。							1.5 時間
2	講義内容	教育の基礎的概念を学ぶ(社会と教育)								
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。							1.5 時間
	1	復習	教育の基礎的概念について整理し、指示された課題に取り組む。							1.5 時間
3	講義内容	教育の基礎的概念を学ぶ(発達と教育)								
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。							1.5 時間
	1	復習	教育の基礎的概念について整理し、指示された課題に取り組む。							1.5 時間
4	講義内容	教育の基礎的概念を学ぶ(学校教育と教員)								
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。							1,5 時間
	1	復習	教育の基礎的概念について整理し、指示された課題に取り組む。							1.5 時間
5	講義内容	教育の基礎的概念を学ぶ(教育基本法等の現代の教育理念)								
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。							1.5 時間

	1	復習	教育の基礎的概念について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
6	講義内容	教育の歴史について(近代以前)		
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	教育の歴史の基礎的知識について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
7	講義内容	教育の歴史について(近代～戦前日本)		
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	教育の歴史の基本的知識について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
8	講義内容	教育の歴史について(戦後日本)		
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	教育の歴史の基本的知識について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
9	講義内容	教育の思想について(コメニウス、ロック、ルソー等)		
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	古典的な教育思想について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
10	講義内容	教育の思想について(ペスタロッチ、フレーベル、ヘルバルト等)		
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	古典的な教育思想について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
11	講義内容	教育の思想について(デューイ、デュルケム等)		
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	1,4	復習	古典的な教育思想について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
12	講義内容	現代的な教育課題について① 学力について考える		
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	1,4	復習	近年の学力論の概要について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
13	講義内容	現代的な教育課題について② 子どもの様々な「問題行動」		
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	1,4	復習	近年の子どもの「問題行動」とされる問題について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
14	講義内容	現代的な教育課題について③ 日本の教育政策動向		
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	1,4	復習	近年の日本の教育政策動向について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
15	講義内容	現代的な教育課題について④ 諸外国の教育政策動向		
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	1,4	復習	近年の諸外国の教育政策動向について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	・状況によりオンラインで実施する場合は C-Learning で行う。 ・教員免許状取得のための必修科目。			

科目名	教育心理学(教職科目)						科目 ナンバリング	NRT233・A		
英文名	Educational Psychology						講義形態	講義		
担当教員	宮内 洋									
科目に関連した 実務経験	臨床発達心理士および公認心理師として教育現場への助言・支援活動(現在)									
学年・開講期	2 年 前期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする 資格	養護教諭第一種免許									
学位授与方針 との対応	4	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	5	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	0	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	③ ④ ⑤ ⑩ ⑯									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○		○	○		○			○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。 ・ 教育心理学に関する知識を生涯発達の各発達段階毎に理解し、人間の生涯発達を通じた視野を持ちながら理解できるようになる。 上記2つを講義目標とし、本科目は、初等中等教育段階の学校の教員を目指す上で理解しておくべき教育心理学に関する基本的な知識の理解・修得をめざす。 具体的には、教育心理学に関する知識を生涯発達の各発達段階毎に理解し、人間の生涯発達を通じた視野を持ちながら理解できるようにしていく。臨床発達心理士である講師としては、机上の空論や理想論ではなく、より現実的な内容に徹したい。 * 基本的には講師が直接講義をする形式です。講義内容を深めるため、実験等を映像やドキュメンタリーを講義内で見ることがあります。講師とのやりとりは、感想シートによっておこなわれます。									
到達目標	1. 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解する。 2. 幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身につけ、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。■									
使用教材	教科書は指定しない。必要に応じて、資料を配付する。また、より知りたい・学びたい人のために、参考文献や映画やマンガ等の種々の作品を、講義の中で適宜紹介する。									
参考文献	・J.A.L.シング『野生児の記録 1 狼に育てられた子』福村出版 ・A.ゲゼル『狼にそだてられた子』家政教育社 ・A.M.スレーター & P.C.クイン編『発達心理学・再入門』新曜社									
評価方法	全講義終了後に実施される定期試験(90%)と、講義期間中に課せられる課題と講義に臨む態度・参加する姿勢(10%)によって、総合的に判断する。									
課題・評価に対する フィードバック方法	講義終了時に可能な限り感想シートを配付し、そこで書かれた質問等には次回に回答するように努める。									
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。				メールアドレス (#→@)		連絡手段は初回授業時に提示する。			
1	講義内容	ガイダンス:発達とは何か■								
	該当到達目標	予習	なし						0 時間	
	1,2	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。						2 時間	
2	講義内容	生涯発達と「優生思想」■								
	該当到達目標	予習	人間の生涯発達について客観的に考察できるように準備しておくこと。						1.5 時間	

	1,2	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5 時間
3	講義内容	新生児期・乳児期における学び(1):「無能な赤ちゃん」というイメージ		
	該当到達目標	予習	自らの乳児期の体験を可能な限り聞き、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5 時間
4	講義内容	新生児期・乳児期における学び(2):「有能な赤ちゃん」と脳科学		
	該当到達目標	予習	脳科学について客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5 時間
5	講義内容	幼児期における学び(1):学びの基礎■		
	該当到達目標	予習	自らのこれまでの体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5 時間
6	講義内容	幼児期における学び(2):認知発達を中心に		
	該当到達目標	予習	自らのこれまでの体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5 時間
7	講義内容	幼児期における学び(3):nature vs. nurture■		
	該当到達目標	予習	自らのこれまでの体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5 時間
8	講義内容	児童期における学び(1):記憶研究を中心に		
	該当到達目標	予習	自らのこれまでの体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5 時間
9	講義内容	児童期における学び(2):学習		
	該当到達目標	予習	自らのこれまでの体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5 時間
10	講義内容	児童期における学び(3):動機付け		
	該当到達目標	予習	自らのこれまでの体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5 時間
11	講義内容	思春期・青年期における学び		
	該当到達目標	予習	自らのこれまでの体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5 時間
12	講義内容	成人期以降の学び(1):学びの効果的支援		
	該当到達目標	予習	自らのこれまでの学びに関する体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5 時間
13	講義内容	成人期以降の学び(2):学んだ成果の評価		
	該当到達目標	予習	自らのこれまでの学びに関する体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5 時間
14	講義内容	老年期における学び		
	該当到達目標	予習	なし	0 時間

	1,2	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	2 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	これまでの講義内容の理解を深めておく。	4 時間
	1,2	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	2 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	講義を妨害する者の受講を基本的に認めません。 ＊社会状況によって、対面授業が不可能となった場合には講義内容が若干変わる可能性がある。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	教育制度論(教職科目)						科目 ナンバリング	NRT322・A		
英文名	Theory of Educational systems						講義形態	講義		
担当教員	深見 匡									
科目に関連した 実務経験	養護教諭第一種免許									
学年・開講期	3 年 前期		選必・単位数	選択 2 単位						
履修を必須とする 資格	養護教諭一種免許状									
学位授与方針 との対応	2	人間理解と倫理観			0	国際理解				
	6	論理的思考力・問題解決力			1	生涯学習力				
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	4 10 16									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○					○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 現代の学校教育に関する社会的・制度的・経営的事項の基礎的知識や学校と地域の連携、学校安全に関わる基礎的知識について理解し説明ができる。そしてこれらの知識を実際の学校運営に生かす意欲が持てる。 ② 授業はテキストを中心に講義形式で行い、必要に応じて映像資料やグループワークを用いる予定。授業の詳細は学生の意見や状況に応じて適宜必要な修正を行う。									
到達目標	1. 教育に関する社会的事項(社会状況や学校教育の変化等)について説明できる。 2. 教育に関する制度的事項(教育法・制度とその意義・役割)について説明できる。 3. 教育に関する経営的事項(学校経営について)について説明できる。 4. 学校と地域の連携・協働について説明できる。 5. 学校安全への対応について説明できる。 総じて豊かな人間性、教職者に求められる資質・能力、適性の基礎を身に付ける。									
使用教材	毎回講義用のテキスト・資料を配布する。									
参考文献	必要なものは授業時に適宜指示する。									
評価方法	定期試験 70%、平常点 30%(レポート提出、授業態度など)で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。詳細は初回授業や授業時の試験解説で指示する。									
課題・評価に対する フィードバック方法	レポートは必要に応じてコメントを付して返却する。定期試験については試験後、関連講義において解説する。その他質疑には適宜対応する。									
オフィスアワー (研究室)	木曜 4 限、金曜 4 限 1 号館 307				メールアドレス (#→@)	fukami#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	ガイダンス								
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、講義目標・講義内容・評価方法など理解する。						1.5 時間	
	1,2,3,4,5	復習	講義内容について整理し、指示された課題に取り組む。						1.5 時間	
2	講義内容	近年の社会状況や子どもの変化と学校教育								
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。						1.5 時間	
	1	復習	社会状況や子どもの変化について整理し、指示された課題に取り組む。						1.5 時間	
3	講義内容	日本の教育政策動向								
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。						1.5 時間	
	1	復習	日本の近年の教育政策動向について整理し、指示された課題に取り組む。						1.5 時間	
4	講義内容	公教育に関わる法と制度① 公教育の理念								
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。						1.5 時間	
	2	復習	現代の公教育の組織化について整理し、指示された課題に取り組む。						1.5 時間	

5	講義内容	公教育に関わる法と制度② 学校教育法(学校の組織や機能)			
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5	時間
	2	復習	様々な学校について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5	時間
6	講義内容	公教育に関わる法と制度③ 学校教育法(教育内容)			
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5	時間
	2	復習	教育課程や教育内容に関する事項を整理し、指示された課題に取り組む。	1.5	時間
7	講義内容	公教育に関わる法と制度④ 地方教育行政法等(学校と社会)			
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5	時間
	2	復習	教育行政に関する事項について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5	時間
8	講義内容	公教育に関わる法と制度⑤ 教育公務員特例法等(教員の職務や義務)			
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5	時間
	2	復習	教員に関わる事項について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5	時間
9	講義内容	学校経営について① 学校の組織と経営			
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5	時間
	3	復習	学校の組織や運営・経営について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5	時間
10	講義内容	学校経営について② 学校評価			
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5	時間
	3	復習	学校評価について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5	時間
11	講義内容	学校経営について③ 学級経営			
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5	時間
	3	復習	学級経営について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5	時間
12	講義内容	学校と地域との連携・協働			
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5	時間
	4	復習	学校と地域の連携・協働について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5	時間
13	講義内容	学校安全について			
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5	時間
	5	復習	学校安全の目的・取り組みについて整理し、指示された課題に取り組む。	1.5	時間
14	講義内容	諸外国の教育政策動向① 英米圏			
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5	時間
	1	復習	諸外国(英米圏)の教育政策について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5	時間
15	講義内容	諸外国の教育政策動向② その他			
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5	時間
	1	復習	諸外国(その他)の教育政策について整理、指示された課題に取り組む。	1.5	時間
合計時間(予習・復習)					45 時間
備考	・状況によりオンラインで実施する場合は C-Learning で行う。 ・教員免許状取得のための必修科目。				

科目名	特別な教育的ニーズの理解とその支援(教職科目)						科目 ナンバリング	NRT224・A		
英文名	Understanding and supporting special educational needs						講義形態	講義		
担当教員	宮内 洋									
科目に関連した 実務経験	臨床発達心理士および公認心理師として教育現場への助言・支援活動(現在)									
学年・開講期	2 年 前期		選必・単位数	選択 1 単位						
履修を必須とする 資格	養護教諭一種免許状									
学位授与方針 との対応	4	豊かな人間性と職業倫理			0	多様な社会・背景を理解し対応する能力				
	4	専門的知識			1	コミュニケーション能力				
	1	問題発見・解決力								
SDGs との関連	① ③ ④ ⑤ ⑩ ⑬ ⑮ ⑯ ⑰									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○			○					○	
「その他」のアクティブ ラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	1) 「インクルーシブ教育システム」を含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組み、視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な「障害」のある児童及び生徒の学習または生活上の困難について基礎的な知識、「発達障害」等をはじめとする特別の支援を必要とする児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を学ぶ。 2) その上で、「発達障害」等をはじめとする特別の支援を必要とする児童及び生徒に対して、特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築しながら支援する方法を学ぶ。 3) 「障害」のみならず、母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある児童及び生徒の学習または生活上の困難についての基礎的な知識や組織的な支援の方法を学ぶ。 * 基本的には講師が直接講義をする形式です。講義内容を深めるために、ドキュメンタリー等の映像を講義内で見ることがあります。講師とのやりとりは、感想シートによっておこなわれます。									
到達目標	通常の学級にも在籍している「発達障害」等をはじめとする様々な「障害」等により特別の支援を必要とする児童及び生徒たちが、授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるように、児童及び生徒の学習または生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。 1. 特別の支援を必要とする児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。■ 2. 特別の支援を必要とする児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。■ 3. 「障害」はないが、特別の教育的ニーズのある児童及び生徒の学習または生活上の困難とその対応を理解する。■									
使用教材	教科書は指定しない。必要に応じて、資料を配付する。また、より知りたい・学びたい人のために、参考文献や映画やマンガ等の種々の作品を、講義の中で適宜紹介する。									
参考文献	柘植雅義・渡部匡隆・二宮信一・納富恵子編 2014『はじめての特別支援教育[改訂版]』有斐閣 柘植雅義『特別支援教育 多様なニーズへの挑戦』中央公論新社 好井裕明『他者を感じる社会学』筑摩書房									

評価方法		全講義終了後に実施される定期試験(90%)と、授業貢献度(10%)によって、総合的に判断する。		
課題・評価に対するフィードバック方法		講義終了時に可能な限り感想シートを配付し、そこで書かれた質問等には次回に回答するように努める。		
オフィスアワー (研究室)		質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。	メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する。
1	講義内容	ガイダンス■		
	該当到達目標	予習	なし。	0 時間
	1,2,3	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1 時間
2	講義内容	特別支援とは何か・特別支援の場とは何か		
	該当到達目標	予習	特別支援について調べておくこと。	1.5 時間
	1,2,3	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5 時間
3	講義内容	視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む種々の「障害」がある児童・生徒の理解とその支援		
	該当到達目標	予習	視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む種々の「障害」がある児童・生徒について調べておくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5 時間
4	講義内容	「発達障害」がある児童・生徒の理解■		
	該当到達目標	予習	「発達障害」について調べておくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5 時間
5	講義内容	「発達障害」がある児童・生徒の支援■		
	該当到達目標	予習	「発達障害」について調べておくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5 時間
6	講義内容	異文化の子どもの理解とその支援■		
	該当到達目標	予習	異文化について調べておくこと。	1.5 時間
	3	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5 時間
7	講義内容	「子どもの貧困」問題の理解とその支援■		
	該当到達目標	予習	「子どもの貧困」について調べておくこと。	1.5 時間
	3	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5 時間
8	講義内容	特別な支援とアクティブラーニング		
	該当到達目標	予習	これまでの講義内容の理解を深めておく。	3 時間
	1,2,3	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	2 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	講義を妨害する者の受講を基本的に認めません。 * 社会状況によって、対面授業が不可能となった場合には講義内容が若干変わる可能性がある。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	道徳教育・特別活動論(教職科目)						科目ナンバリング	NRT226・A		
英文名	Moral Education and Special Activities						講義形態	講義		
担当教員	石川 勉									
科目に関連した実務経験	公立中学校に教諭・教頭・校長として勤務(経験)									
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位							
履修を必須とする資格	養護教諭一種免許状									
学位授与方針との対応	3	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	5	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	① ③ ④ ⑤ ⑬ ⑭ ⑮									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○		○	○				○		
「その他」のアクティブラーニング実施方法	毎回の課題、小テスト、レポートにアドバイスやコメントを付けて返却する。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	道徳の本質を踏まえ、道徳教育の歴史や現代社会の課題について、学校での道徳教育を理解する。道徳教育の目標、道徳教育全体計画、内容について概略を把握し、その具現化にむけての技術や方法を理解する。特別活動では道徳教育との関り、意義や取り組み方法の実際、評価改善について、学習指導案に基づく内容理解を行う。 授業の予習復習からさらに理解を深めるために、小テスト前や返却後にしっかりと学習し把握すること。小テストは 2 回予定している。									
到達目標	道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。 1. 道徳の本質を説明できる。 2. 道徳教育の歴史や現代社会における道徳教育の課題(いじめ・情報モラル等)を理解している。■ 3. 子どもの心の成長と道徳性の発達について理解している。■ 4. 学習指導要領に示された道徳教育の主な内容を理解している。■ 特別活動の意義、目標、内容指導の在り方を理解する。 5. 学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。■ 6. 教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連を理解している。■ 7. 学級活動・ホームルーム活動の特質を理解している。■ 8. 児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質を理解している。■									
使用教材	小中学校学習指導要領、同解説道徳編、その他、講義用のテキストプリントを使用する。(毎回配布)									
参考文献										
評価方法	小テスト(30%)、レポート(30%)、定期試験(25%)、平常点(15%)、総合評価 60%以上を合格とする。詳細はガイダンス時に指示する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	レポート、小テストは必要に応じてコメントして返却する。定期試験の内容や質疑は個別に対応する。									
オフィスアワー (研究室)	質問等は授業中が望ましいのですが、授業前後や非常勤講師室にて対応します。				メールアドレス (#→@)	教務課を通しメールや電話にて対応いたします。				
1	講義内容	道徳の本質(道徳とは何か)、学校の教育活動全体で行う道徳教育とその要となる道徳科■								
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、講義目標、講義内容、評価方法を理解する。						1.5 時間	
	1	復習	講義内容について整理し、理解する。						1.5 時間	
2	講義内容	学習指導要領に示された道徳教育、道徳教育全体計画、道徳科の目標や内容■								
	該当到達目標	予習	テキスト、資料を読み、概要を理解する。						1.5 時間	

	1	復習	道徳教育、道徳科の内容を整理し、理解する。	1.5 時間
3	講義内容	道徳教育の歴史、現代社会の道徳教育の課題■		
	該当到達目標	予習	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	2	復習	道徳教育の歴史、現代の課題を整理し、理解する。	1.5 時間
4	講義内容	道徳性の発達の理論、特別支援を配慮した道徳教育、子どもの心の成長■		
	該当到達目標	予習	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	2,3	復習	道徳性の発達理論、心の理論を整理し、理解する。	1.5 時間
5	講義内容	道徳性、道徳的価値内容の補充・深化・統合、授業のねらい■		
	該当到達目標	予習	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	3,4	復習	道徳性、道徳的価値内容、授業指導法について整理し、理解する。	1.5 時間
6	講義内容	道徳教育年間計画、指導の重点、学級の道徳教育指導計画■		
	該当到達目標	予習	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	4	復習	道徳教育年間計画、指導の重点、学級の指導計画について整理し、理解する。	1.5 時間
7	講義内容	道徳科指導案、資料分析の手法、授業のねらいや指導過程の明確化■		
	該当到達目標	予習	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	4	復習	道徳科指導案、指導方法について整理し、理解する。	1.5 時間
8	講義内容	模擬授業と授業改善、道徳科の特性を踏まえた学習評価■		
	該当到達目標	予習	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	4	復習	模擬授業、学習評価について整理し、理解する。	1.5 時間
9	講義内容	道徳教育の多様な指導方法の理解■		
	該当到達目標	予習	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	道徳教育の多様な指導方法を整理し、理解する。	1.5 時間
10	講義内容	学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育と社会問題、非行問題の課題■		
	該当到達目標	予習	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	学校教育活動における道徳教育、課題について整理し、理解する。	1.5 時間
11	講義内容	学習指導要領における特別活動の目標と内容、特別活動の位置づけ■		
	該当到達目標	予習	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	5,6	復習	学習指導要領における特別活動の内容について整理し、理解する。	1.5 時間
12	講義内容	教育課程における特別活動の位置づけ、教科等との関連■		
	該当到達目標	予習	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	5,6	復習	教育課程における特別活動の位置づけについて整理し、理解する。	1.5 時間
13	講義内容	学級活動・ホームルーム活動の特質、児童生徒の話し合い活動、集団活動■		
	該当到達目標	予習	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	7,8	復習	学級活動、話し合い活動などについて整理し、理解する。	1.5 時間
14	講義内容	児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質と家庭、地域住民、関係機関との連携■		
	該当到達目標	予習	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	7,8	復習	児童会・生徒会活動、学校行事について整理し、理解する。	1.5 時間
15	講義内容	学校全体の教育活動で取組む「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」■		
	該当到達目標	予習	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	1,4,5,6,7,8	復習	学校全体で取り組む特別活動の意義について整理し、理解する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	オンラインで実施する場合は C-learning で行う。内容に変更のある場合は適宜 C-learning の授業で指示する。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	総合的な学習の時間論(教職科目)						科目ナンバリング	NRT227・B		
英文名	Theory of Period for Integrated Studies						講義形態	講義		
担当教員	石川 勉									
科目に関連した実務経験	公立中学校に教諭・教頭・校長として勤務(経験)									
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数	選択 1 単位							
履修を必須とする資格	養護教諭一種免許状									
学位授与方針との対応	3	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	5	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	①	③	④	⑤			⑬	⑭	⑮	
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○		○	○				○		○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	毎回の課題、小テスト、レポートにアドバイスやコメントを付けて返却する。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	小・中学校における総合的な学習の意義や目標を理解し、実践事例を通して、育成すべき資質・能力を考慮した指導計画・単元計画を作成する。さらに、効果的な総合的な学習の具現化には、カリキュラムマネジメントが不可欠であることを理解する。 授業の予習復習からさらに理解を深めるために、小テスト前や返却後にしっかりと学習し把握すること。小テストは 1 回予定している。また、レポートを 1 回実施する。									
到達目標	総合的な学習の時間の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解する。 総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付ける。 1. 総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割について、教科を越えて必要となる資質・能力の育成の視点から理解している。■ 2. 学習指導要領における総合的な学習の時間の目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点を理解している。■ 3. 各教科等との関連性を図りながら総合的な学習の時間の年間指導計画を作成することの重要性和、その具体的な事例を理解している。■ 4. 主体的・対話的で深い学びを実現するような、総合的な学習の時間の単元計画を作成することの重要性和とその具体的な事例を理解している。■									
使用教材	小中学校学習指導要領、同解説 総合的な学習の時間編、その他、講義用のテキストプリントを使用する。									
参考文献										
評価方法	小テスト(30%)、レポート(30%)、定期試験(25%)、平常点(15%)、総合評価 60%以上を合格とする。詳細はガイダンス時に指示する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	レポート、小テストは必要に応じてコメントして返却する。定期試験の内容や質疑は個別に対応する。									
オフィスアワー (研究室)	質問等は授業中が望ましいのですが、授業前後や非常勤講師室にて対応します。				メールアドレス (#→@)		教務課を通しメールや電話にて対応いたします。			
1	講義内容	学習指導要領における総合的な学習の時間の目標、意義と教育課程上の位置づけ■								
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、講義目標、講義内容、評価方法を理解する。						1.5 時間	
	1,2	復習	講義内容について整理し、理解する。						1.5 時間	
2	講義内容	中学校のキャリア教育「職業調べ」「職業体験」「上級学校調べ」事例研究、教科との関連■								

	該当到達目標 1,2,3	予習	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
		復習	中学校のキャリア教育内容について整理し、内容を理解する。	1.5 時間
3	講義内容	生徒が主体的・対話的で深い学びにするための事例研究■		
	該当到達目標	予習	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	3,4	復習	総合的学習の時間の事例研究を整理し、理解する。	1.5 時間
4	講義内容	教育課程における年間計画と単元計画、学習指導計画、各教科との関連■		
	該当到達目標	予習	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	1,3	復習	教育課程における年間計画、単元計画、学習計画などを整理し、理解する。	1.5 時間
5	講義内容	小学校の具体的な単元計画と学習実践、事例研究■		
	該当到達目標	予習	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	小学校の具体的な実践について整理し、理解する。	1.5 時間
6	講義内容	単元構想、学習指導計画作成を通しての総合的な学習の授業づくり■		
	該当到達目標	予習	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	2,3,4	復習	実際に単元を構想し、学習指導計画を作成する授業づくりについて整理し、理解する。	1.5 時間
7	講義内容	学習指導案検討会、教科を越えた横断的な思考の育成■		
	該当到達目標	予習	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	2,3,4	復習	各学習指導案について検討されたことを整理し、理解する。	1.5 時間
8	講義内容	総合的な学習の時間の模擬授業、学習状況評価、自己の生き方指導■		
	該当到達目標	予習	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	実際の授業やその評価について整理し、理解する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	オンラインで実施する場合は C-learning で行う。内容に変更のある場合は適宜 C-learning の授業で指示する。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	教育課程論(教職科目)						科目 ナンバリング	NRT225・A		
英文名	School Curriculum						講義形態	講義		
担当教員	栗原 幸正									
科目に関連した 実務経験	・公立小学校に、教諭・教頭・校長として勤務(経験) ・市町村教育委員会に、指導主事として勤務(経験)									
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	選択 1 単位							
履修を必須とする 資格	養護教諭一種免許状									
学位授与方針 との対応	3	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	5	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	341011									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○	○				○	○
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法	他学科との協働作業を組織することで、業務に関してのチームの概念を体験的に学び修得する。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	学校教育における教育課程の意義や編成の方法について、学習指導要領総則編の読解や教育課程(教育内容)の変遷を知ることを通して理解すると共に、養護教諭・栄養教諭が直面する現代的な教育的課題を知り、その克服に向けての具体的教育課程に係る取り組みを講義や協議・ワークショップ等を通して知る。 資料の配布や課題の提出には C-learning を用いる。授業感想の記述や小論文の作成を通して、教師となるためのさらなる資質向上が図れるよう進める。講義内容が理解できるように、指定された予習と復習の内容を必ず学修すること。レポート等の提出の際は、予習・復習の内容と講義の内容を十分に検討して作成すること。									
到達目標	1. 教育課程とは何かについて具体的に理解し、設問等に解答し、記述することができる。 2. 教育課程が不易な教育的内容の定着を図るためにあるのと同時に、社会からのニーズによって編成されていることを知り、変遷の過程を説明する事ができる。 3. 養護教諭・栄養教諭が直面する現代的な教育的課題を知り、その克服に向けての具体的教育課程に係る取り組みを構築する事ができる。■ 4. カリキュラム・マネジメントについての認識を深め、説明することができる。■									
使用教材	小学校学習指導要領解説総則編(平成 29 年 3 月告示 文部科学省)									
参考文献	講義に合わせて適宜配付する。									
評価方法	定期試験(60%) 授業後の小レポート(20%) 課題レポート(20%)									
課題・評価に対する フィードバック方法	授業感想・成果物等については評価規準を説明して評価内容を伝える。									
オフィスアワー (研究室)	8 号館 1 階 学部長室 水曜日 2 限・金曜日 2 限				メールアドレス (#→@)	kurihara-y#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	講義の概要と幼小中学校学習指導要領概略とカリキュラム・マネジメント								
	該当到達目標 1,2	予習	学習指導要領解説総則編(小)及び幼稚園教育要領に目を通し、講義目標をつかむ。						1.5 時間	
		復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法等を確認する。						1.5 時間	
2	講義内容	教育課程の意義とその変遷								
	該当到達目標 1,2	予習	学習指導要領の資料「学習指導要領の改訂の経過」に目を通す。						1 時間	
		復習	社会的ニーズと教育課程の関連について、自分の考えを説明できる。						2 時間	
3	講義内容	教育課程を支える関係法規								
	該当到達目標 3	予習	教育法規についてインターネット等を用いて調べておく。						1 時間	
		復習	教育課程を規定する関係法規について理解する。						2 時間	

4	講義内容	学校における教育課程 学校要覧Ⅰ(学校教育目標・学校経営案)■		
	該当到達目標	予習	配付資料「学校要覧」の上記関係箇所に通す。	1 時間
	3	復習	教育課程を具現化するために機能する学校体制を理解する。	2 時間
5	講義内容	学校における教育課程 学校要覧Ⅱ(日課表・教職員配置)■		
	該当到達目標	予習	配付資料「学校要覧」の上記関係箇所に通す。	1 時間
	3	復習	教育課程を具現化するために機能する学校組織を理解する。	2 時間
6	講義内容	学校における教育課程 学校要覧Ⅲ(校務分掌と年間指導計画)■		
	該当到達目標	予習	事前配資料に通しておく。	1 時間
	4	復習	教育課程を具現化するために機能する学校組織と年間指導計画を理解する。	2 時間
7	講義内容	学校実態に沿った現代的課題に向けての教育課程(養護・栄養の連携とアレルギー対応)		
	該当到達目標	予習	文部科学省ホームページのアレルギー等に係る項目に通す。	1.5 時間
	3,4	復習	現代的課題に対応する教育の意義について理解する。	1.5 時間
8	講義内容	教育課程論のまとめと期末試験		
	該当到達目標	予習	教科書、配付資料、講義スライドに通し、学修内容をまとめておく。	1.5 時間
	1,4	復習	記述試験内容を振り返りノートにまとめ、教育課程についての理解を深める。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	オンラインで実施する場合はオンデマンド型授業とする。資料の配布や課題の提出には C-learning を用いる。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	教育方法論(教職科目)						科目ナンバリング	NRT228・A		
英文名	Educational Methods						講義形態	講義		
担当教員	栗原 幸正									
科目に関連した実務経験	・公立小学校に、教諭・教頭・校長として勤務(経験) ・市町村教育委員会に、指導主事として勤務(経験)									
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	選択 1 単位							
履修を必須とする資格	養護教諭一種免許 選択必修科目									
学位授与方針との対応	3	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	5	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	4 5 10 11 16 17									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○				○	○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	他学科との協働作業を組織することで、業務に関してのチームの概念を体験的に学び修得する。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	次世代を作る児童・生徒の資質・能力を育成するために必要な教育観・教育方法・教育技術についての基礎的な知識・技能を、講義や協議・ワークショップ等を通して習得する。 資料の配布や課題の提出にはC-learningを用いる。授業感想の記述や小論文の作成を通して、教師となるためのさらなる資質向上が図れるよう進める。講義内容が理解できるように、指定された予習と復習の内容を必ず学修すること。レポート等の提出の際は、予習・復習の内容と講義の内容を十分に検討して作成すること。									
到達目標	1. 教育の質の向上に向けて、教育方法学的重要性を理解する事ができる。 2. 多様な教育観を理解し、資質・能力の育成に効果的な授業構成論を取得でする。 3. 学習指導要領の具現化に向けての教育技術を習得し、授業づくりをする方法論を理解する。■									
使用教材	教育の方法(佐藤学著 放送大学叢書 本体 1,524 円) 小学校学習指導要領解説 総則編									
参考文献	講義に沿って適宜資料を配付する。									
評価方法	定期試験(60%) 授業後の小レポート(20%)課題レポート(20%) を用いて総合的に判断する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	授業感想・成果物等については評価規準を説明して評価内容を伝える。									
オフィスアワー (研究室)	8 号館 1 階 学部長室 水曜日 2 限・金曜日 2 限				メールアドレス (#→@)		kurihara-y#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	学級崩壊と教育方法Ⅰ(学級崩壊とは)■								
	該当到達目標	予習	自分の小中学校時代の経験に即し、学級崩壊について想起する。							1 時間
	2	復習	学級崩壊の要因としての教員の教育方法について理解し、自分自身の教員の資質について考察する事ができる。							2 時間
2	講義内容	学級崩壊と教育方法Ⅱ(学級崩壊の事例研究)■								
	該当到達目標	予習	自分の小中学校時代の学級崩壊の内容を、ノートにまとめておく。							1.5 時間
3	講義内容	教育方法学の歴史 その1(文献調査)								
	該当到達目標	予習	教科書「教育方法学」の歴史の記述に目を通しておく。							1.5 時間
4	講義内容	教育方法学の歴史 その2(ギリシャ哲学から、ヘルバルト、デューイ、ビゴツキーへ)								
	該当到達目標	予習	教科書「教育方法学」の歴史の記述をまとめておく。							1.5 時間
5	講義内容	教科書と教育方法学Ⅰ(検定制・採択制度)■								
	3	復習	教育方法学の変遷を理解し、現代の教育における教育方法の多様性を理解する。							1.5 時間

	該当到達目標 3	予習	小・中・高において、教科書をどう活用してきたかを想起しておく。	1.5 時間
		復習	日本の教科書検定と採択のシステムを海外諸国の実情と比較しながら整理し、ノートにまとめておく。	1.5 時間
6	講義内容	教科書と教育方法学Ⅱ（発行・給与システム）■		
	該当到達目標	予習	教科書検定と採択のシステムをノートにまとめ、理解しておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	教科書の意義と活用方法について、課題作成を通して考えをまとめる。	1.5 時間
7	講義内容	教育方法学と授業研究■		
	該当到達目標	予習	授業研究について、小学校学習指導要領解説総則編の関連ある箇所について目を通しておく。	1.5 時間
	2,3	復習	教育方法学にとって授業研究は不可欠である事を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	実習の際の授業づくりに向けて・期末試験		
	該当到達目標	予習	教科書、配付資料、講義スライドに目を通し、学修内容をまとめておく。	1.5 時間
	1,3	復習	記述試験内容を振り返りノートにまとめ、教育方法学についての理解を深める。	1.5 時間
合計時間（予習・復習）				24 時間
備考	オンラインで実施する場合はオンデマンド型授業とする。資料の配布や課題の提出には C-learning を用いる。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	生徒指導論(教職科目)						科目ナンバリング	NRT229・A		
英文名	Student Guidance						講義形態	講義		
担当教員	北村 陽									
科目に関連した実務経験	教諭として中学校・高等学校に勤務(経験)									
学年・開講期	2 年 前期		選必・単位数		選択・2 単位					
履修を必須とする資格	養護教諭一種免許 選択必修科目									
学位授与方針との対応	3	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	5	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	3 4 16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○			○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①生徒指導は、学校教育において学習指導(教科指導)と並ぶ重要な領域として位置づけられる。本講義では教師による生徒指導について、理論と実践の両面から考察し、受講者一人一人が望ましい指導の在り方を見いだせるようになることを目標とする。 ②各回のテーマについて担当教員の解説(説明)から学ぶだけではなく、学んだことに対する受講者自身の考えや意見を毎回リアクションペーパー上で活字化し、まとめあげることを通じて理解の深化を図っていく。									
到達目標	1.生徒指導の理論について理解している。 2.生徒指導について実践的に思考することができる。■ 3.生徒指導に関わる事例や情報を、文献や資料、メディア等から幅広く収集し、課題に対して意欲的に取り組むことができる。									
使用教材	『生徒・進路指導の理論と方法』(工藤亘・藤平敦編著、玉川大学出版部、2019 年、2,400 円(税別))									
参考文献	『生徒指導提要(改訂版)』(令和 4 年 12 月 文部科学省)									
評価方法	レポート 50%、リアクションペーパー45%(3%×15 回)、科目に関係した作文 5%により、総合的に評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	課題における受講者の解答(回答)に対し、様々な見解を紹介しながらコメントをする。									
オフィスアワー (研究室)	月曜 2 限、木曜 2 限(9 号館 305 研究室)				メールアドレス (#→@)		kitamura#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	オリエンテーション、生徒指導とは何か？								
	該当到達目標	予習	シラバスを読み毎回の授業内容を確認し、生徒指導の必要性などを考えておく。						1.5	時間
	1,3	復習	資料を再読して授業の概要を確認し、生徒指導を学ぶ意味を理解する。						1.5	時間
2	講義内容	校則・生徒心得について■								
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。						1.5	時間
	1,2,3	復習	資料を再読して授業の概要を確認し、校則・生徒心得について理解する。						1.5	時間
3	講義内容	懲戒・体罰について■								
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。						1.5	時間
	1,2,3	復習	資料を再読して授業の概要を確認し、懲戒・体罰について理解する。						1.5	時間
4	講義内容	不登校・ひきこもりについて■								
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。						1.5	時間
	1,2,3	復習	資料を再読して授業の概要を確認し、不登校・ひきこもりについて理解する。						1.5	時間
5	講義内容	いじめについて■								
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。						1.5	時間

	1,2,3	復習	資料を再読して授業の概要を確認し、いじめについて理解する。	1.5 時間
6	講義内容	非行について■		
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	資料を再読して授業の概要を確認し、非行について理解する。	1.5 時間
7	講義内容	生徒指導における情報教育■		
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	資料を再読して概要を確認し、生徒指導における情報教育について理解する。	1.5 時間
8	講義内容	生徒指導と学習指導■		
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	資料を再読して概要を確認し、生徒指導と学習指導の関連性について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	生徒指導における家庭・地域・社会との連携■		
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	資料を再読して概要を確認し、生徒指導を巡る連携のあり方について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	キャリア教育の意義と理論		
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1,3	復習	資料を再読して概要を確認し、キャリア教育の意義と理論について理解する。	1.5 時間
11	講義内容	キャリア教育の進め方■		
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	資料を再読して概要を確認し、キャリア教育の進め方について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	小学校でのキャリア教育		
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1,3	復習	資料を再読して概要を確認し、小学校でのキャリア教育について理解する。	1.5 時間
13	講義内容	中学校でのキャリア教育■		
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	資料を再読して概要を確認し、中学校でのキャリア教育について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	高等学校でのキャリア教育■		
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	資料を再読して概要を確認し、高等学校でのキャリア教育について理解する。	1.5 時間
15	講義内容	生徒指導と教育相談■		
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	資料を再読して概要を確認し、生徒指導と教育相談の関連性について理解する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	・予習および復習については、使用教材である『生徒・進路指導の理論と方法』等を活用し、補完してください。 ・状況によりオンラインで実施する場合は C-Learning で行います。その際、内容に変更が生じる場合は適宜 C-Learning で指示します。 ■：実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	教育相談(教職科目)						科目 ナンバリング	NRT230・B		
英文名	Educational Counseling						講義形態	講義		
担当教員	宮内 洋									
科目に関連した 実務経験	臨床発達心理士および公認心理師として相談業務(現在)									
学年・開講期	2 年 後期		選必・単位数	選択 2 単位						
履修を必須とする 資格	養護教諭一種免許状 選択必修科目									
学位授与方針 との対応	3	人間理解と倫理観			0	国際理解				
	5	論理的思考力・問題解決力			1	生涯学習力				
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	3 5 16									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○		○	○	○	○			○	○
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法	ロールプレイングを中心におこなう。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。 本科目は、中等教育段階の学校の教員を目指す上で理解しておくべき、教育相談に関する基本的な知識と技能の理解・修得をめざす。生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識(カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む)を身に付ける。密室に閉じた相談活動ではなく、学校、さらには地域に開かれた支援を視野に入れる。臨床発達心理士である講師としては、机上の空論や理想論ではなく、より現実的な内容に徹したい。 * 基本的には講師が直接講義をする形式です。講義内容を深めるために、映像を講義内で見ることがあります。科目の性格上、グループワークを講義内に取り入れています。講師とのやりとりは、感想シートによっておこなわれます。									
到達目標	1. 学校における教育相談の意義と理論を理解する。 2. 教育相談を進める際に必要な基礎的知識(カウンセリングに関する基礎的事柄を含む)を理解する。 ■ 3. 教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を理解する。■									
使用教材	教科書は指定しない。必要に応じて、資料を配付する。また、より知りたい・学びたい人のために、参考文献や映画やマンガ等の種々の作品を、講義の中で適宜紹介する。									
参考文献	より知りたい・学びたい人のために、参考文献や映画やマンガ等の種々の作品を、講義の中で適宜紹介する。 ・ 宮内洋『体験と経験のフィールドワーク』北大路書房 ・ 宮内洋・好井裕明 編著『〈当事者〉をめぐる社会学―調査での出会いを通して』北大路書房 ・ 秋山千枝子・堀口寿広 監修『スクールカウンセリングマニュアル(第2版)』日本小児医事出版社									
評価方法	全講義終了後に実施される定期試験(85%)と、講義期間中に課せられる課題(10%)、講義に臨む態度・参加する姿勢(5%)によって、総合的に判断する。									
課題・評価に対する フィードバック方法	講義終了時に可能な限り感想シートを配付し、そこで書かれた質問等には次回に回答するように努める。									
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。				メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する。				
1	講義内容	オリエンテーション:受容と共感■								
	該当到達目標	予習	自らの中学・高校での教育相談に関する体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。						2 時間	

	1,3	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1 時間
2	講義内容	「教育相談」とは何か■		
	該当到達目標	予習	教育相談とは何かについて考察できるように準備しておくこと。	1 時間
	1,3	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	2 時間
3	講義内容	各自の枠組の相違の体験的理解		
	該当到達目標	予習	コミュニケーションの失敗に関する体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	2 時間
	1,3	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1 時間
4	講義内容	生徒に対する誤解への注意と気づき■		
	該当到達目標	予習	自らの気づきに関する体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5 時間
	1,3	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5 時間
5	講義内容	生徒の「性格」理解		
	該当到達目標	予習	自らの性格について理解を深めておくこと。	1 時間
	1,3	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	2 時間
6	講義内容	学校教育における「カウンセリングマインド」■		
	該当到達目標	予習	カウンセリングマインドについて理解を深めておくこと。	1 時間
	1,3	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	2 時間
7	講義内容	カウンセリングの基礎的理解と技法		
	該当到達目標	予習	カウンセリングについて調べておくこと。	1 時間
	1,3	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	2 時間
8	講義内容	スクールカウンセリングの基礎と実際■		
	該当到達目標	予習	自らの中学・高校での体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	2 時間
	1,2	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1 時間
9	講義内容	いじめに対する対応		
	該当到達目標	予習	自らの中学・高校での体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	2 時間
	1,2,3	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1 時間
10	講義内容	いじめとスクールカウンセリング: 中学校におけるいじめの実態		
	該当到達目標	予習	自らの中学・高校での体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	2 時間
	1,2,3	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1 時間
11	講義内容	校内暴力に対する生徒指導と教育相談■		
	該当到達目標	予習	自らの中学・高校での体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	2 時間
	1,2,3	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1 時間
12	講義内容	臨床発達心理学的視点からの教育相談■		
	該当到達目標	予習	自らの中学・高校での体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	2 時間
	1,2,3	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1 時間
13	講義内容	教育相談のロール・プレイング(1): ロール・プレイングの実践■		
	該当到達目標	予習	ロール・プレイングについて調べておくこと。	1 時間
	1,2,3	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	2 時間

14	講義内容	教育相談のロール・プレイング(2):ロール・プレイングの振り返り■		
	該当到達目標 1,2,3	予習	前回のロール・プレイングについて理解を深めておくこと。	2 時間
		復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1 時間
15	講義内容	緊急時・災害時・事後における教育相談		
	該当到達目標 1,2,3	予習	緊急時の教育相談について客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5 時間
		復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	講義を妨害する者の受講を基本的に認めません。 * 社会状況によって、対面授業が不可能となった場合には講義内容が若干変わる可能性がある。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	養護実習(教職科目)							科目ナンバリング	NRT421・A	
英文名	Teaching practice (yogo teacher)							講義形態	実習	
担当教員	北原恵美, 尾内雅子, 小原成美									
科目に関連した実務経験	養護教諭として小学校・中学校・特別支援学校に勤務(経験)									
学年・開講期	4 年 前期		選必・単位数	必修 5 単位						
履修を必須とする資格	養護教諭一種免許 選択必修科目									
学位授与方針との対応	3	人間理解と倫理観					0	国際理解		
	5	論理的思考力・問題解決力					1	生涯学習力		
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	3 16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○		○	○	○	○	○	○	○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①教育の現場において、児童生徒への理解を深め、養護教諭に必要な知識・技術・態度・実践力を養う ②15 回の事前事後指導ではグループでのディスカッションや演習を行ったり、個別の技術チェック等を実施したりします。また、1 週間の校内実習及び 3 週間の学校実習を実施します。									
到達目標	1. 学校の特性、組織、運営について理解することができる。 2. 学校保健全般について理解することができる。 3. 養護教諭の役割、保健室の機能を学び、技術を習得することができる。 ■ 4. 児童生徒の生活を理解し、発育発達段階に応じた保健教育、保健管理について理解することができる。									
使用教材	「養護実習ハンドブック」編著者 大谷尚子 中桐佐智子 東山書房									
参考文献	「新養護概説〈第12 版〉」采女智津江 少年写真新聞社 「児童生徒等の健康診断マニュアル 平成27年度改訂」 文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課 監修 日本学校保健会 「改訂版 学校環境衛生管理マニュアル 学校環境衛生基準の理論と実践」 日本学校保健会 令和 3 年～5 年度 養護実習報告書									
評価方法	事前・事後指導の学習参加内容(20%)、レポート(10%)、実習校における評価(50%)、実習報告会の成果(20%)(対面講義でもオンライン講義でも同様)									
課題に対するフィードバック	レポート及び実習記録にはコメントをつけて返却する 事前指導で作成した指導案および保健便りは冊子にして配布する 実習報告会に向けて作成した資料は報告書として配布する (対面講義でもオンライン講義でも同様)									
オフィスアワー (研究室)	授業前後で対応				メールアドレス (#→@)		m-onai@takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	オリエンテーション、学校教育の中の養護教諭の役割								
	該当到達目標 1, 3	予習	シラバスや実施要項の内容を読んで実習の目標などを理解する						1.5	時間
		復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。学習目的実習の意義、実習に臨む姿勢、実習校との事前打ち合わせの内容を確認する。						1.5	時間
2	講義内容	教育計画、学校保健計画、保健室経営計画と養護教諭の役割								
	該当到達目標	予習	教科書及び配布されたプリントに目を通す						1.5	時間

	2	復習	教育計画、学校保健計画、保健室経営計画作成の法的根拠と意義、作成手順及び留意事項、内容と評価について理解するとともに、実習校の内容を確認する。	1.5 時間
3	講義内容	チーム学校と保健組織活動 ■		
	該当到達目標	予習	教科書及び配布されたプリントに目を通す	1.5 時間
	2, 3	復習	校内の学校保健組織、学校保健委員会の実際と養護教諭の役割及び教職員との協働について理解するとともにレポートを作成する。	1.5 時間
4	講義内容	学校の日課と健康観察 ■		
	該当到達目標	予習	教科書及び配布されたプリントに目を通す	1.5 時間
	1, 4	復習	学校の一日の流れ、健康観察の目的、機会と内容を確認し、子どもが過ごす学校生活と環境を理解する	1.5 時間
5	講義内容	学校環境の安全・衛生のための活動		
	該当到達目標	予習	教科書及び配布されたプリントに目を通す	1.5 時間
	1, 3, 4	復習	学校環境衛生及び学校安全の目的、関係法令、日常点検と措置を理解する。し水質検査・照度検査・二酸化炭素測定ができるようにする	1.5 時間
6	講義内容	保健教育(1)法的根拠・内容・機会及び作成した保健だよりの発表		
	該当到達目標	予習	教科書及び配布されたプリントに目を通す。保健だよりの発表の準備をする。	1.5 時間
	1, 3, 4	復習	保健教育の法的根拠・内容・機会について理解するとともに、作成した保健だよりを修正する	1.5 時間
7	講義内容	保健教育(2)掲示物の構想と発表		
	該当到達目標	予習	作成する掲示物の構想をしてグループで協議できるように準備する。	1.5 時間
	1, 3, 4	復習	構想に基づいた掲示物が作成できるようにする	1.5 時間
8	講義内容	保健室の執務の実際(1)来室者の対応 ■		
	該当到達目標	予習	教科書及び配布されたプリントに目を通す	1.5 時間
	1, 3, 4	復習	保健室来室者の対応、けがの手当てができるようにする	1.5 時間
9	講義内容	保健室の執務の実際(2)危機管理 ■		
	該当到達目標	予習	教科書及び配布されたプリントに目を通す	1.5 時間
	1, 3, 4	復習	救急体制、学校安全、危機管理について理解するとともに、演習で行った応急手当及び心肺蘇生が実践できるようにする	1.5 時間
10	講義内容	感染症、食中毒発生時の対応		
	該当到達目標	予習	問題集及び配布されたプリントに目を通す	1.5 時間
	1, 3, 4	復習	学校感染症の種類と平時・発生時・事後の対応を理解するとともに、演習で行った吐物処理が実践できるようにする	1.5 時間
11	講義内容	健康診断(1)意義と目的、計画の立て方及び実施方法		
	該当到達目標	予習	教科書及び配布されたプリントに目を通す	1.5 時間
	1, 3, 4	復習	健康診断の意義と目的、計画の立て方及び実施方法を理解する	1.5 時間
12	講義内容	健康診断(2)実践と事後措置		
	該当到達目標	予習	教科書及び配布されたプリントに目を通す	1.5 時間
	1, 3, 4	復習	健康診断の各項目の検査方法及び事後措置について理解する	1.5 時間
	講義内容	4 週間の実習(学内実習 1 週間及び実習校での実習 3 週間)を受講することで、次の実習目標①～④を達成する ①学校の特性、組織運営について理解する。 ②学校保健全般について理解する。 ③養護教諭の役割と具体的活動を理解し、養護教諭の指導のもとで実践する。 ④児童・生徒の生活状況を理解し、発達・発育段階に応じた保健管理・保健教育を実施する。【学内実習】 事前学内実習において、保健室来室者対応及び環境検査等の演習を行う。保健指導、保健教育の指導案を作成し学内で模擬授業を実施する。保健便りや掲示物等の教材の作成を行う。		

		【学外実習】 実習は実習校の学校長の管理下、指導・監督のもとに行う。指導は学校長、教頭、教務主任、保健主事、養護教諭その他の関係職員に委嘱する。主たる指導者は実習校の養護教諭とし、実習校の計画のもとに実施する。		
	該当到達目標	予習	事前指導の中で学んだことを再確認し、整理をして実習の準備をする	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	実習先で学んだことを振り返り、レポートにまとめる	1.5 時間
13	講義内容	養護実習の報告(1)		
	該当到達目標	予習	養護実習の記録をもとに配布されたワークシートに必要事項を記入し持参する	1.5 時間
	1, 3, 4	復習	養護実習報告へ向け、資料を作成する	1.5 時間
14	講義内容	養護実習の報告(2)		
	該当到達目標	予習	養護実習の記録をもとに配布されたワークシートに必要事項を記入し持参する	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	養護実習報告へ向け、資料を作成する	1.5 時間
15	講義内容	養護実習報告会へ向け、発表の準備をする		
	該当到達目標	予習	養護実習報告へ向け、発表の準備をする	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	養護実習の学びを振り返る	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	1.単位修得に必要な時間数を満たしていない場合 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 2. 事前指導の授業の前半は教科書と教員の作成するプリントを使って、テーマの概要を説明し、後半は演習形式で進める。 3. 実習期間中、実習校を訪問して指導をする。 4. 事後指導は、学びの共有のためのグループワークや、実習報告会へ向けての個別指導を行う。 5. オンライン授業での出席の登録・確認 出席の登録方法については、C-learning の「協働版」で確認すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す			

科目名	教職実践演習(教職科目)						科目ナンバリング	NRT422・C		
英文名	Practical Seminar for Teaching Profession (yogo teacher)						講義形態	講義		
担当教員	北原恵美・尾内雅子・深見匡									
科目に関連した実務経験	養護教諭として小学校・中学校・特別支援学校に勤務(経験)(尾内)									
学年・開講期	4 年 通年	選必・単位数	必修 2 単位							
履修が必須となる資格	養護教諭一種免許 選択必修科目									
学位授与方針との対応	3	人間理解と倫理観				0	国際理解			
	5	論理的思考力・問題解決力				1	生涯学習力			
	1	チームの一員としての協調・協働								
SDGs との関連	316									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○		○	○	○	○		○	○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①これまでの教職課程における学びを振り返ることで、養護教諭になるために必要な能力を身につけ、学校組織の一員として自覚し、教師として豊かな感性や人間関係を高めようとする事ができる。 ②講義ごとに提示された課題に対し、グループで協議を行ったり、模擬授業や掲示物作成等の演習を行ったりする。									
到達目標	1. 養護教諭としての使命感や責任感をもつことができる 2. 児童生徒を理解し、保健室経営を行うことができる ■ 3. 社会性や対人関係能力等を備え、児童生徒と関わったり、教職員と協働したりすることができる									
使用教材	「新養護概説<第 12 版>」采女智津江 少年写真新聞社 講義のスライドやワークシートを随時プリントして配布する									
参考文献	「養護教諭のための学校保健<第 13 版>」 出井 美智子他 少年写真新聞社									
評価方法	授業(演習)への参加内容(40%)、提出物(指導案・保健便り・掲示物)(30%)、レポート(30%)(対面講義でもオンライン講義でも同様)									
課題に対するフィードバック	レポート及びワークシートにはコメントをつけて返却する(対面講義でもオンライン講義でも同様)									
オフィスアワー (研究室)	(尾内)授業前後で対応 (深見)月曜日の 4 限・水曜日の 5 限				メールアドレス (#→@)	(尾内)m-onai#takasaki-u.ac.jp (深見)fukami#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション、学校教育と養護教諭(尾内)								
	該当到達目標 1	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する						1.5 時間	
		復習	講義の意義、学校教育における様々な健康課題について考え、養護教諭に求められる資質について自己課題を発見する						1.5 時間	
2	講義内容	保健教育 (1. 授業構想) ■(尾内)								
	該当到達目標 2	予習	教科書及び配布されたプリントに目を通す						1.5 時間	
		復習	養護実習で実践した保健教育(保健学習・保健指導)の課題を基に、指導案の修正案を考える						1.5 時間	
3	講義内容	保健教育 (2. 模擬授業の実践)								
	該当到達目標 2	予習	修正・作成した指導案を基に、模擬授業の準備をする						1.5 時間	
		復習	模擬授業を行い、改善点を協議する						1.5 時間	
4	講義内容	保健教育 (3. 保健だより・掲示物の構想) ■(尾内)								

	該当到達目標	予習	養護実習で実践した保健教育(保健学習・保健指導)の課題を基に、保健だより・掲示物のアイデアスケッチをする	1.5 時間
	2	復習	グループでの協議を基に、保健だより、掲示物を作成する	1.5 時間
5	講義内容	保健教育 (4. 保健便り・掲示物の発表)(尾内)		
	該当到達目標	予習	作成した保健便り、掲示物の目的や工夫点についてまとめる	1.5 時間
	2	復習	グループでの協議を基に、保健だより、掲示物を作成する上での留意点を理解する	1.5 時間
6	講義内容	教育目標を達成するための学校保健計画の検討 ■(尾内)		
	該当到達目標	予習	配布されたプリントに目を通す	1.5 時間
	1, 2	復習	実習校の学校保健計画を参考に、学校保健計画を作成する際の手順、養護教諭の役割、留意点を理解する	1.5 時間
7	講義内容	子どもの抱える成長・心の問題(1. 学校事故)(尾内)		
	該当到達目標	予習	配布されたプリントに目を通す	1.5 時間
	2, 3	復習	学校事故に際しての、養護教諭の役割や関係者・関係機関との連携のありかたについて考察する	1.5 時間
8	講義内容	子どもの抱える成長・心の問題(2. 発達障害)(尾内)		
	該当到達目標	予習	配布されたプリントに目を通す	1.5 時間
	2, 3	復習	発達障害の児童生徒への対応における養護教諭の役割や関係者・関係機関との連携の在り方について考察する	1.5 時間
9	講義内容	子どもの抱える成長・心の問題(3. 不登校・保健室登校)(尾内)		
	該当到達目標	予習	配布されたプリントに目を通す	1.5 時間
	2, 3	復習	不登校・保健室登校の児童生徒への対応における養護教諭の役割や関係者・関係機関との連携の在り方について考察する	1.5 時間
10	講義内容	保健室経営計画の検討 ■(尾内)		
	該当到達目標	予習	配布されたプリントに目を通す	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	保健室経営計画を作成する際の手順及び留意点を理解する	1.5 時間
11	講義内容	学校保健における養護教諭の役割、校内教職員との連携 (深見)		
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	資料を読んで、講義内容を理解する。	1.5 時間
12	講義内容	保護者・地域との連携と養護教諭の社会性、人間性(深見)		
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間
	2	復習	資料を読んで、講義内容を理解する。	1.5 時間
13	講義内容	子供理解と子供に対する教育的愛(深見)		
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間
	2	復習	資料を読んで、講義内容を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	外国籍の子供についての理解 2(深見)		
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間
	2, 3	復習	資料を読んで、講義内容を理解する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ(尾内)		
	該当到達目標	予習	自分なりの考えをまとめて発表できるように準備をしておく	1.5 時間
	1,2, 3	復習	養護教諭として必要な資質・能力を理解し、自分と照らし合わせて、今後の課題を明確にする	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	1.単位修得に必要な時間数を満たしていない場合			

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

2. 授業は模擬授業・保健便り・掲示物等の作成やグループワークによる事例検討により進める。

3. 課題に対するレポート提出1回。

4. オンライン授業での出席の登録・確認

出席の登録方法については、C-learning の「協働版」で確認すること。

■: 実務経験に基づく内容を示す